沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第34集

首　里　城　跡

―御内原地区発掘調査報告書―

平成18（2006）年 3月

沖縄県立埋蔵文化財センター

序

本報告書は平成12（2000）年度に国営沖縄記念公園事務所から委託を受けて沖縄県立埋蔵文化財センターが実施した首里城跡「御内原」地区における埋蔵文化財発掘調査の成果をまとめたものです。

昭和61（1986）年度から首里城跡の復元整備事業が着手され、平成４（1992）年度に正殿、北殿、南殿、奉神門等が復元されてからも、城跡以外の周辺の整備も引き続いて行われており、現在、一帯は首里城公園として県民に広く親しまれております。

その整備事業の一環として、御内原地区の発掘調査が実施されました。調査対象区域は首里城跡の内郭の中央部、正殿の東側でかつて「御内原」と呼ばれていた部分で「世添殿」、「世誇殿」、「女官居室」等の建物、そして「後之御庭」と呼ばれる庭があった場所です。「世添殿」は御内原を管理しており、「世誇殿」は国王が亡くなった際に世子が即位の儀式を行い、「女官居室」は御内原に奉公する女官達が寝起きしていた建物で、「後之御庭」は聞得大君や上級神女が儀式を執り行った庭と、首里城内でもとりわけ重要な位置を占めていました。これらの構造物は近代以降の熊本鎮台沖縄分遣隊等による建物破壊や、沖縄戦に伴う空襲によって壊滅的な被害を受けました。そのため近世の絵図から当時の様子が窺えるのみであり、正確な位置や建物構造については未だ解っていません。

この調査では「世誇殿」の基壇が確認されたものの、それ以外は後世の破壊が予想以上に著しく、痕跡すら確認することができませんでした。その一方で、中世相当にまで遡る遺構を多く確認することができ、「御内原」の変遷をある程度まで知ることができました。また調査に伴って膨大な陶磁器類をはじめとする多種多様な出土品が得られました。

これらの成果をまとめた本報告書が、沖縄における王国時代の歴史や首里城の様相を知る上で貴重な資料として活用されるとともに、文化財保護への理解を深めることにもつながれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査や資料整理を行うにあたって御指導を賜った諸先生をはじめ、調査に御協力いただいた関係各位に厚く御礼申し上げます。

平成18（2006）年３月

沖縄県立埋蔵文化財センター
所長　田　場　清　志

調査区全景（東から）

調査区全景（北から）

巻首図版 1

SR01、階段遺構（南から）

最下層のピット群（西から）

B-3グリット　炭混じりオリーブ黒色粘土層

階段遺構（西から）

SA01全景（北東から）

SA05･06　瓦・塼出土状況（西から）

北側造成層（北から）

SR04･05（北東から）

巻首図版 2

出土遺物

巻首図版 3

中国産色絵、瑠璃釉

泉州窯系磁器、鉄絵陶器、中国産施釉陶器

巻首図版 4

ベトナム産染付、彩釉陶器、磁州窯系磁器（上：外面、下：内面）

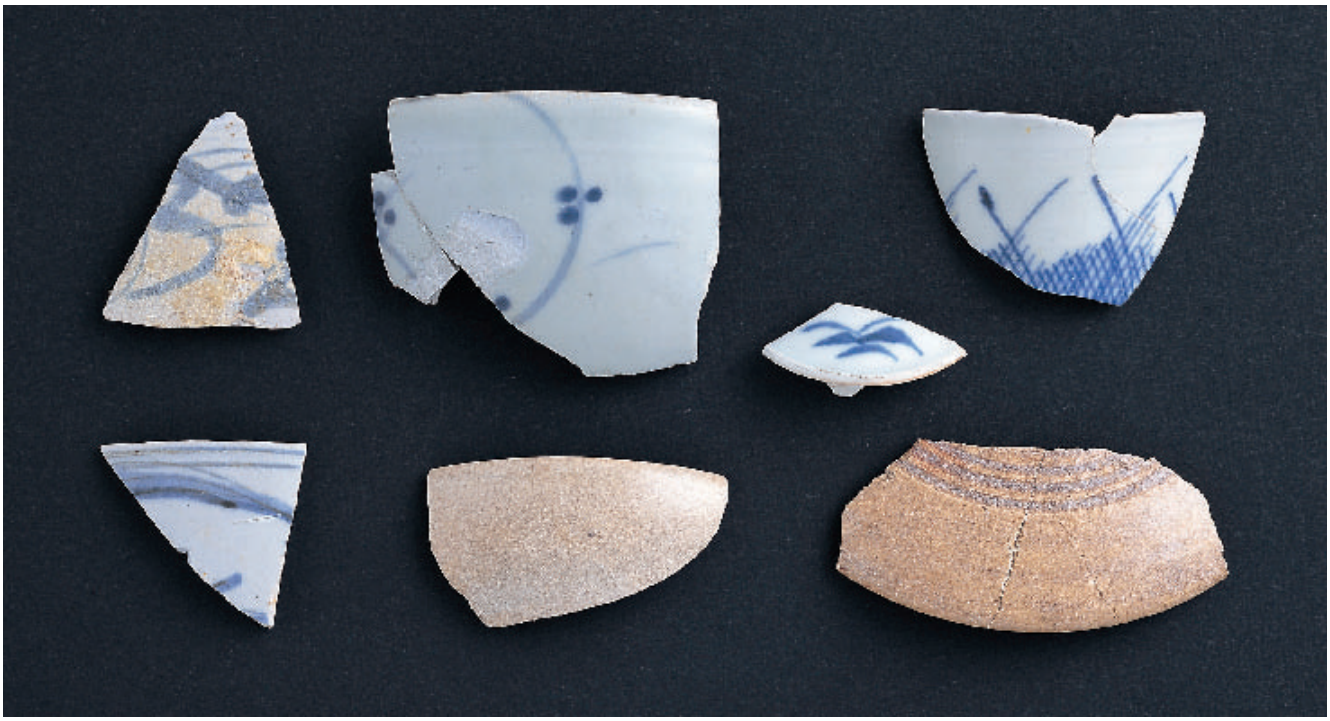
巻首図版 5

翡翠釉

元様式染付

褐釉磁器

巻首図版 6



本土産陶磁器

沖縄産施釉陶器

巻首図版 7

玉製品

銭貨

金属製品

巻首図版 8

例　言

1．本書は平成12（2000）年度に実施した、首里城跡「御内原」地区発掘調査の成果をまとめたものである。
2．発掘調査は沖縄総合事務局国営沖縄記念公園事務所より委託を受け、沖縄県立埋蔵文化財センターが実施した。
3．資料整理作業は、平成17（2005）年度に沖縄県立埋蔵文化財センターが実施した。
4．本書に使用した1/25000地形図は国土地理院発行の資料によった。
5．本書に表した高度値は海抜高である。
6．本書に掲載した遺構図の座標軸は国土座標軸（第XY座標形）を使用した。
7．本文中で使用した引用・参考文献は結語の後にまとめて掲載した。
8．資料整理にあたり、下記の方々には遺構解釈及び遺物の同定をお願いした。記して謝意を表したい。

（五十音順）

大橋康二（佐賀県立九州陶磁資料館）、金沢陽（出光美術館）、金子浩昌（東京国立博物館･客員研究員）亀井明徳（専修大学）、久保智康（京都国立博物館）、黒住耐二（千葉県立中央博物館）、中野雄二（波佐見町教育委員会）、野上建紀（有田町歴史民俗資料館）、平良啓（株式会社　国建）、宮城弘樹（今帰仁村教育委員会）、森毅（大阪市教育委員会）

9．本書の編集は伊集ゆきの、岸本竹美他の協力を得て山本正昭が行った。
10．各章の執筆は下記のように分担した。

山本　正昭	第1章、第2章、第3章、第4章第1～3・7・13・23節、第5章・付編
山田　浩久	第4章第4・8・14節
長濱　健起	第4章第5・12・16・21節
伊藤　　圭	第4章第6・11節
岸本　竹美	第4章第9・10・19節
宮平真由美	第4章第15・20節
喜多　亮輔	第4章第17・18・22・24・25節

11．本書に記載された写真は山本正昭、大島誠が、出土遺物は矢船章浩、光島香の撮影によるものである。
12．本書に掲載した御内原地区発掘調査に関する写真、実測図などの記録は全て沖縄県立埋蔵文化財センターにて保管してある。
13．発掘調査･資料整理などの調査体制については第1章の第2節で記した。

目　次

序
巻首図版
例言

第１章　調査の概要 …… 1
第１節　調査に至る経緯 …… 1
第２節　調査体制 …… 1
第３節　調査経過 …… 3
第４節　調査区の設定 …… 4

第２章　位置と環境 …… 8
第１節　地理的環境 …… 8
第２節　歴史的環境 …… 8

第３章　層序と遺構 …… 13
第１節　層序 …… 13
第２節　遺構 …… 16

第４章　出土遺物 …… 25
第１節　青磁 …… 25
第２節　白磁 …… 41
第３節　染付 …… 48
第４節　褐釉陶器 …… 63
第５節　半練土器 …… 70
第６節　黒釉陶器 …… 73
第７節　その他の輸入陶磁器 …… 74
第８節　本土産陶磁器 …… 81
第９節　沖縄産施釉陶器 …… 85
第10節　沖縄産無釉陶器 …… 98
第11節　土器 …… 106
第12節　土製品 …… 117
第13節　瓦 …… 118
第14節　塼 …… 120
第15節　金属製品 …… 122
第16節　銭貨 …… 126
第17節　貝製品 …… 129
第18節　骨製品 …… 131
第19節　玉製品 …… 131
第20節　煙管 …… 134
第21節　石製品 …… 136
第22節　円盤状製品 …… 140
第23節　木製品 …… 142
第24節　貝類遺存体 …… 143
第25節　動物遺存体 …… 144

第５章　結語 …… 153
付編 …… 163
参考文献 …… 173

報告書抄録

図 目 次

第１図　グリット設定図 …… 5
第２図　沖縄本島の位置 …… 6
第３図　首里城跡の位置及び周辺の遺跡 …… 7
第４図　調査区周辺の地質図 …… 8
第５図　首里城平面図 …… 9
第６図　旧琉球大学校舎配置図 …… 9
第７図　調査区位置図 …… 11
第８図　B-3グリットライン（東壁）…… 15
第９図　A-3①④グリッド（東壁）…… 15
第10図　A-3②③グリッド（西壁）…… 15
第11図　B-3③グリット東側（北壁）…… 15
第12図　SA04前（北壁）…… 15
第13図　A-3③④グリッド（南壁）…… 15
第14図　C-3①グリット（北壁）…… 15
第15図　SR01南側平面図（C-4グリット）…… 16
第16図　SR01立面図 …… 16
第17図　SR02立面図 …… 16
第18図　検出遺構位置図 …… 17
第19図　御内原地区各施設推定位置図 …… 17
第20図　SR04立面図 …… 18
第21図　SR05立面図及び断面図 …… 18
第22図　SR09平面図及び立面図 …… 18
第23図　SA05立面図 …… 19
第24図　SA06立面図 …… 20
第25図　SK06北壁立面図 …… 21
第26図　SK07南壁立面図 …… 21
第27図　階段遺構北側立面図 …… 21
第28図　階段遺構東側立面図 …… 21
第29図　御内原地区全体図 …… 23
第30図　青磁（１）…… 37
第31図　青磁（２）…… 38
第32図　青磁（３）…… 39
第33図　青磁（４）…… 40
第34図　青磁（５）…… 41
第35図　白磁（１）…… 46
第36図　白磁（２）…… 47
第37図　染付（１）…… 59
第38図　染付（２）…… 60
第39図　染付（３）…… 61
第40図　染付（４）…… 62
第41図　褐釉陶器（１）中国産 …… 67
第42図　褐釉陶器（２）中国産 …… 68
第43図　褐釉陶器（３）タイ産 …… 69
第44図　半練土器 …… 72
第45図　黒釉陶器 …… 74
第46図　その他の輸入陶磁器（１）…… 79
第47図　その他の輸入陶磁器（２）…… 80
第48図　その他の輸入陶磁器（３）…… 81
第49図　本土産陶磁器 …… 84
第50図　沖縄産施釉陶器（１）…… 93
第51図　沖縄産施釉陶器（２）…… 94
第52図　沖縄産施釉陶器（３）…… 95
第53図　沖縄産施釉陶器（４）…… 96
第54図　沖縄産施釉陶器（５）…… 97
第55図　沖縄産無釉陶器（１）…… 102
第56図　沖縄産無釉陶器（２）…… 103
第57図　沖縄産無釉陶器（３）…… 104
第58図　沖縄産無釉陶器（４）…… 105
第59図　土器（１）…… 111
第60図　土器（２）…… 113
第61図　土器（３）…… 115
第62図　土器（４）…… 117
第63図　土製品 …… 117
第64図　瓦・塼 …… 121
第65図　金属製品（１）…… 124
第66図　金属製品（２）…… 125
第67図　銭貨（１）…… 128
第68図　銭貨（２）…… 129
第69図　貝製品 …… 130
第70図　骨製品 …… 131
第71図　玉製品 …… 132
第72図　煙管 …… 135
第73図　石製品（１）…… 138
第74図　石製品（２）…… 139

第75図　円盤状製品 …… 141
第76図　首里古地図・首里城古絵図 …… 154
第77図　阪谷測量図 …… 154
第78図　御内原地区の遺構変遷 …… 156
第79図　遺構出土の主な遺物 …… 159
第80図　濃茶褐色土層、濃茶褐色混礫土層 …… 164
第81図　栗石内 …… 164
第82図　濃褐色土層① …… 165
第83図　濃褐色土層② …… 165
第84図　濃褐色土層③ …… 165
第85図　濃褐色土層④ …… 166
第86図　濃褐色土層⑤ …… 166
第87図　濃褐色土層⑥ …… 167
第88図　暗茶褐色土層 …… 167
第89図　橙褐色土層 …… 168
第90図　暗褐色土層、黒色土層（炭混） …… 168
第91図　東西トレンチ出土遺物一覧 …… 168

表　目　次

第１表　青磁出土状況 …… 28
第２表　青磁観察一覧 …… 29
第３表　白磁観察一覧 …… 43
第４表　白磁出土状況 …… 47
第５表　染付出土状況 …… 50
第６表　染付観察一覧 …… 51
第７表　褐釉陶器観察一覧（中国産） …… 63
第８表　褐釉陶器出土状況 …… 66
第９表　半練土器出土状況 …… 70
第10表　半練土器観察一覧 …… 71
第11表　黒釉陶器観察一覧 …… 73
第12表　その他の輸入陶磁器観察一覧 …… 77
第13表　その他の輸入陶磁器出土状況 …… 78
第14表　本土産陶磁器出土状況 …… 83
第15表　沖縄産施釉陶器出土状況 …… 88
第16表　沖縄産施釉陶器観察一覧 …… 89
第17表　沖縄産無釉陶器観察一覧 …… 99
第18表　沖縄産無釉陶器出土状況 …… 101
第19表　アカムヌー出土状況 …… 107
第20表　土器観察一覧 …… 110
第21表　瓦出土状況 …… 119
第22表　塼出土状況 …… 120
第23表　金属製品観察一覧 …… 122
第24表　銭貨観察一覧 …… 126
第25表　玉製品観察一覧 …… 132
第26表　玉製品出土状況 …… 133
第27表　玉製品計測表 …… 133
第28表　煙管観察一覧 …… 134
第29表　煙管出土状況 …… 135
第30表　円盤状製品観察一覧 …… 140
第31表　貝類出土状況（１）巻貝 …… 147
第32表　貝類出土状況（２）二枚貝 …… 148
第33表　魚類出土量 …… 149
第34表　ノコギリガサミ出土一覧 …… 150
第35表　ウミガメ出土一覧 …… 150
第36表　ハブ出土一覧 …… 150
第37表　トリ出土一覧 …… 150
第38表　ヒト出土一覧 …… 150
第39表　ネズミ出土一覧 …… 150
第40表　イヌ出土一覧 …… 150
第41表　ネコ出土一覧 …… 150
第42表　ジュゴン出土一覧 …… 150
第43表　ウマ出土一覧 …… 150
第44表　ブタ歯出土一覧 …… 150
第45表　ウシ歯出土一覧 …… 150
第46表　ウシ or ウマ出土一覧 …… 150
第47表　ヤギ出土一覧 …… 150
第48表　種不明出土一覧 …… 150
第49表　ニワトリ出土量 …… 151
第50表　ウシ出土量 …… 151
第51表　ブタ出土量 …… 152
第52表　首里城跡出土武具・
　　武器資料地区別分布 …… 156
第53表　東西トレンチ出土遺物一覧 …… 169

図　版　目　次

図版１　首里城空撮写真 …… 11
図版２　木製品 …… 142
図版３　調査区及び遺構検出状況（１）…… 177
図版４　遺構検出状況（２）…… 178
図版５　遺構検出状況（３）…… 179
図版６　遺構検出状況（４）…… 180
図版７　遺構検出状況（５）…… 181
図版８　遺構検出状況（６）…… 182
図版９　遺構検出状況（７）…… 183
図版10　遺構検出状況（８）…… 184
図版11　青磁（１）…… 185
図版12　青磁（２）…… 186
図版13　青磁（３）…… 187
図版14　青磁（４）…… 188
図版15　青磁（５）・白磁（２）…… 189
図版16　白磁（１）…… 190
図版17　染付（１）…… 191
図版18　染付（２）…… 192
図版19　染付（３）…… 193
図版20　染付（４）…… 194
図版21　褐釉陶器（１）中国産 …… 195
図版22　褐釉陶器（２）中国産 …… 196
図版23　褐釉陶器（３）タイ産 …… 197
図版24　半練土器 …… 198
図版25　黒釉陶器 …… 199
図版26　その他の輸入陶磁器（１）…… 200
図版27　その他の輸入陶磁器（２）…… 201
図版28　その他の輸入陶磁器（３）…… 202
図版29　本土産陶磁器 …… 203
図版30　沖縄産施釉陶器（１）…… 204
図版31　沖縄産施釉陶器（２）…… 205
図版32　沖縄産施釉陶器（３）…… 206
図版33　沖縄産施釉陶器（４）…… 207
図版34　沖縄産施釉陶器（５）…… 208
図版35　沖縄産無釉陶器（１）…… 209
図版36　沖縄産無釉陶器（２）…… 210
図版37　沖縄産無釉陶器（３）…… 211
図版38　沖縄産無釉陶器（４）…… 212
図版39　土器（１）…… 213
図版40　土器（２）…… 214
図版41　土器（３）…… 215
図版42　土器（４）…… 216
図版43　瓦・塼 …… 217
図版44　金属製品（１）…… 218
図版45　金属製品（２）…… 219
図版46　銭貨（１）…… 220
図版47　銭貨（２）・土製品 …… 221
図版48　貝製品 …… 222
図版49　骨製品・玉製品 …… 223
図版50　煙管 …… 224
図版51　石製品（１）…… 225
図版52　石製品（２）…… 226
図版53　円盤状製品 …… 227
図版54　貝（１）…… 228
図版55　貝（２）…… 229
図版56　貝（３）…… 230
図版57　貝（４）…… 231
図版58　骨（１）…… 232
図版59　骨（２）…… 233
図版60　骨（３）…… 234
図版61　骨（４）…… 235
図版62　骨（５）…… 236
図版63　骨（６）…… 237
図版64　骨（７）…… 238
図版65　骨（８）…… 239
図版66　骨（９）…… 240
図版67　骨（10）…… 241

第１章　調査の概要

第１節　調査に至る経緯

首里城跡は琉球王国歴代国王の居城として、そして政治、文化の中心として約550年間の長きに亘って機能してきた。明治以降も学校や博物館、神社として建造物や敷地は利用されてきたが昭和20（1945）年の沖縄戦による空襲で建造物は全壊し、戦後の琉球大学設置により石積み等の遺構も徹底的に破壊を受けた。昭和47（1972）年の沖縄本土復帰に伴って首里城復元の気運は高まっていくことになる。そして、昭和61（1986）年の閣議決定により、内郭4.2haが建設省所管の「ロ号国営公園」に指定され、国の都市公園整備事業（国営沖縄記念公園事務所首里城地区）で復元整備されることが決定するとともに、城郭外側の区域の約17.8haを県営公園として整備することが決定されるに至る。これを受けて、首里城公園の整備が都市計画決定し、都市公園としての首里城公園整備が具体化するとともに、年次的に現在も続く整備事業が進められていくこととなる。

今回報告する調査区は首里城跡正殿東側一帯で、かつて「御内原」と呼ばれていた地区である（第７図）。平成11（1999）年度までには調査区周辺に隣接する正殿、東のアザナ、二階殿地区等の発掘調査、史跡整備は完了しており、都市公園並びに管理施設として機能している。国営沖縄記念公園事務所は上記の整備計画に基づいて御内原地区の遺構確認調査を実施して欲しい旨を沖縄県教育委員会文化課に要望してきた。沖縄県教育委員会文化課は調査対象地区が国指定史跡の敷地内であることから文化庁への現状変更許可の手続きが必要であるとともに、埋蔵文化財の発掘調査が必要である旨の回答を出した。それを踏まえて平成12（2000）年度に国営沖縄記念公園事務所より沖縄県教育委員会文化課が予算の委託を受けて、遺構確認調査を目的とした発掘調査を沖縄県立埋蔵文化財センターが実施する運びとなった。

第２節　調査体制

現地調査（平成12年度）から資料整理及び報告書の刊行（平成17年度）まで、下記の体制で実施した。

ａ　平成12(2000)年度の調査体制

事業主体……沖縄県教育委員会

教育長		翁 長 良 盛
県教育庁文化課	課長	當 眞 嗣 一
〃	課長補佐	千木良芳範
〃	記念物係長	盛 本　勲

調査主体……沖縄県立埋蔵文化財センター

所長	知 念　勇

調査事務

副所長兼庶務課課長	知 念 廣 義
庶務課主任	上 原　浩

調査総括

調査課課長	島 袋　洋

調査員

調査課専門員	山 本 正 昭

調査補助員

文化財調査嘱託員	大島　誠、大城安志、冨山　勇、田場直樹

調査及び資料	長谷部楽爾（出光美術館理事）
整理指導	弓 場 紀 知（　〃　学芸課長）
	西 田 宏 子（根津美術館学芸部長）
	亀 井 明 徳（専修大学文学部教授）
	平 良　啓（株式会社　国健建築設計部）
	池 田 榮 史（琉球大学法文学部教授）
発掘調査作業員	新垣直美、中塚末子、与那嶺勢津子、呉我フジ子、宮国恵子、新垣キク、照屋タケ、照屋トミ、親川菊江、當間フミ、新城大達、嶺井政常、小波津ヨシ子、大城輝子、喜名初子、上江洲大樹、喜屋武盛陽、近藤隆夫、吉田逸郎、真栄城千枝子、玉城初美、金城さとみ、仲里広美、新垣広宣、安次嶺政寿、小波津夏子、呉屋ヨシ子、比嘉清徳、宮城澄子、浦崎直和、呉屋光子、島袋文子、安次富マサ子、津波古美津江、小橋川恵子、諸見里幸子、大宜見より子、永吉弘子、大嶺愛子、中村フサ子、玉城史子、比嘉剛、上間清美、金城一哲、喜舎場盛安、宮里竹識、佐藤元希、渡邉淑恵、佐藤光子
資料整理作業員	玉寄智恵子、瑞慶覧尚美、池原直美、玉城恵美利、比嘉登美子、新垣利津代、田中俊朗、金城恵子、上良早美、栄野元左季、仲村渠多恵子、上原はるみ、吉村綾子、宮崎典子、真栄田幸子、比嘉美和子、譜久村泰子、與古田愛、梅田倫代、幸地真弓、大城陽子、安座間充、吉田逸郎
調査協力者	屋比久益貞、大城宜英、屋嘉比朝勇、真栄平房敬、桂辰哉、上里隆史、西銘章、古屋聡洋、

b　平成17(2005)年度の調査体制

事業主体……沖縄県教育委員会

教育長	仲宗根用英
沖縄県教育庁文化課課長	千木良芳範
〃　課長補佐	島袋　洋、崎濱文秀
〃　主幹及び記念物係長	盛本　勲
〃　〃　専門員	新垣　力

調査主体……沖縄県立埋蔵文化財センター

所長	田 場 清 志

調査事務

副所長兼庶務課課長	赤嶺正幸
庶務課主査	比嘉美佐子
庶務課主事	城間奈津子

調査総括

調査課課長	岸本義彦

調査員

専門員	山本正昭、岸本竹美

調査補助員

文化財調査嘱託員	喜多亮輔

調査及び資料整理指導	金沢　陽（出光美術館学芸員） 大橋康二（佐賀県立九州陶磁文化館館長） 亀井明徳（専修大学人文学部教授） 久保智康（京都国立博物館） 野上建起（有田町立歴史民俗資料館学芸員） 中野裕二（波佐見町教育委員会学芸員） 森　毅（大阪市教育委員会） 平良　啓（株式会社国建建築設計部） 金子浩昌（東京国立博物館・客員研究員） 黒住耐二（千葉県立中央博物館）
資料整理作業員	赤嶺雅子、新垣利津代、石嶺敏子、上原園子、上原美穂子、大村由美子 荻堂さやか、喜屋武朋子、金城克子、国場のりえ、崎原美智子、城間いづみ、 城間千鶴子、平良貴子、玉城恵美利、照屋利子、比嘉孝子、比嘉登美子、 比嘉洋子、譜久村泰子、藤田奈穂美、外間瞳、又吉純子、宮里なつ子、 吉村綾子
資料整理作業協力者	池原直美、瑞慶覧尚美、高良三千代、玉寄智恵子、宮平真由美

第3節　調査経過

平成12（2000）年度の調査区は首里城正殿の西側、近世まで「御内原」と呼ばれ、昭和初年には「沖縄神社」の境内として使用されていた。調査面積は東西30m×南北25m、750㎡の範囲で、かつて近世の絵図等には世添殿、世誇殿、女官居室が所在した場所である。平成５・６（1993・1994）年度に実施された東のアザナ地区の発掘調査成果では琉球大学設置時の造成によって削平を広く受けていることから（沖縄県立埋蔵文化財センター2004）、その南側に隣接する当該地区も旧地形が大きく損なわれていることが予想された。

まず本調査に入る前に磁気探査を実施し、不発弾有無の確認を行った。不発弾は幸い確認されなかったため12月11日から重機によって戦後の表土・盛土の掘削に移り、近世の包含層検出に努めた。旧琉球大学解体時の際に土中に混入した大量のコンクリート片や岩塊が盛土内に混在しており、また掘削途中で旧琉球大学本館基礎が検

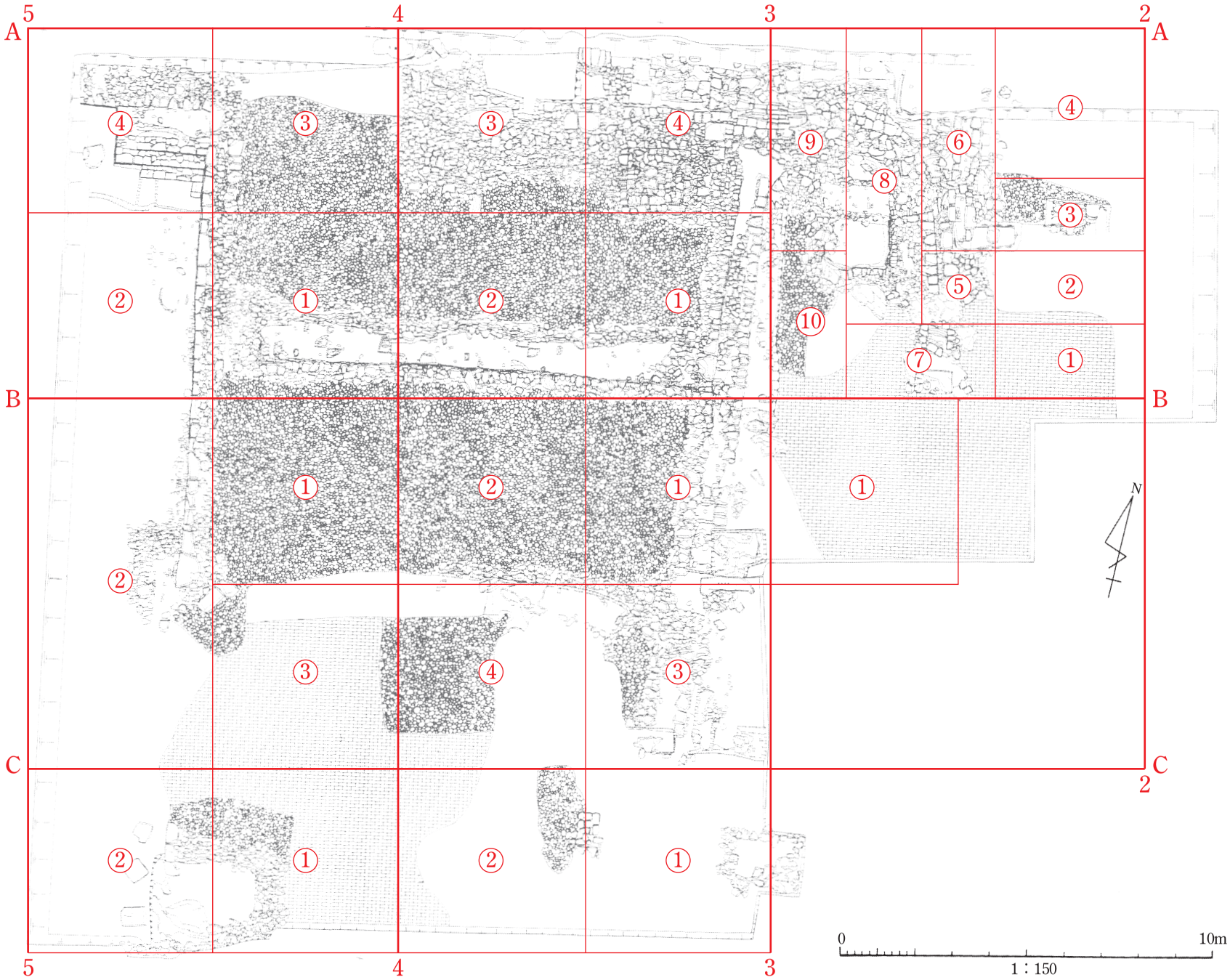
出された。東西方向に３本のコンクリート梁が基礎として埋め込まれており、撤去作業に当初の予定以上に時間を要した。そのため重機掘削の期間を約10日間、延長するに至り、開始予定からやや遅れて発掘作業に入ることとなった。旧琉球大学本館基礎撤去後、10mグリッドを設定し、同26日から作業員による掘削、遺構探査に入った。グリッドは南北方向にアルファベット、東西方向に算用数字を割り当てた。詳細は次節で触れる。

翌平成13（2001）年１月17日に世誇殿基壇と思われる石列SR01が調査区の南西側で確認され、それを手がかりにして、近世段階に首里城御内原一帯に所在した建物跡の確認を行った。しかし戦前、戦後の改変によって近世段階の建物遺構は破壊を受けていることが判明し、当初の予想通り一部、岩盤にまで琉球大学設置時の造成による削平が及んでいることも確認された。よって２月以降は近世以前の御内原に所在した建物施設の確認に努めた。その結果、石列、石積み、集石、石囲遺構、柱穴、土坑といった遺構が確認された。それらは複雑に切り合っており、出土遺物も大量に確認されたため検出作業は困難を極めた。しかし、近世段階にあった御内原の建物群以前にも多数の施設があったことが判明したのは大きな成果であった。更に３月１日から調査区内の最下層を確認するために調査区を横断する形で東西、南北方向に約１m幅トレンチをそれぞれ設定した。地山面に掘り込んだ柱穴と陶磁器、土器、石器等が多数確認された。 確認された遺構に関しては逐一、写真撮影並びに実測作業を行い、主要な遺構に関しては写真測量を委託した。また平行して戦前の首里城の様子について聞き取り調査を行い、多くの成果を得ることができた。３月26日には保護砂を遺構上に敷いて埋め戻し作業を行い、発掘調査を終了した。

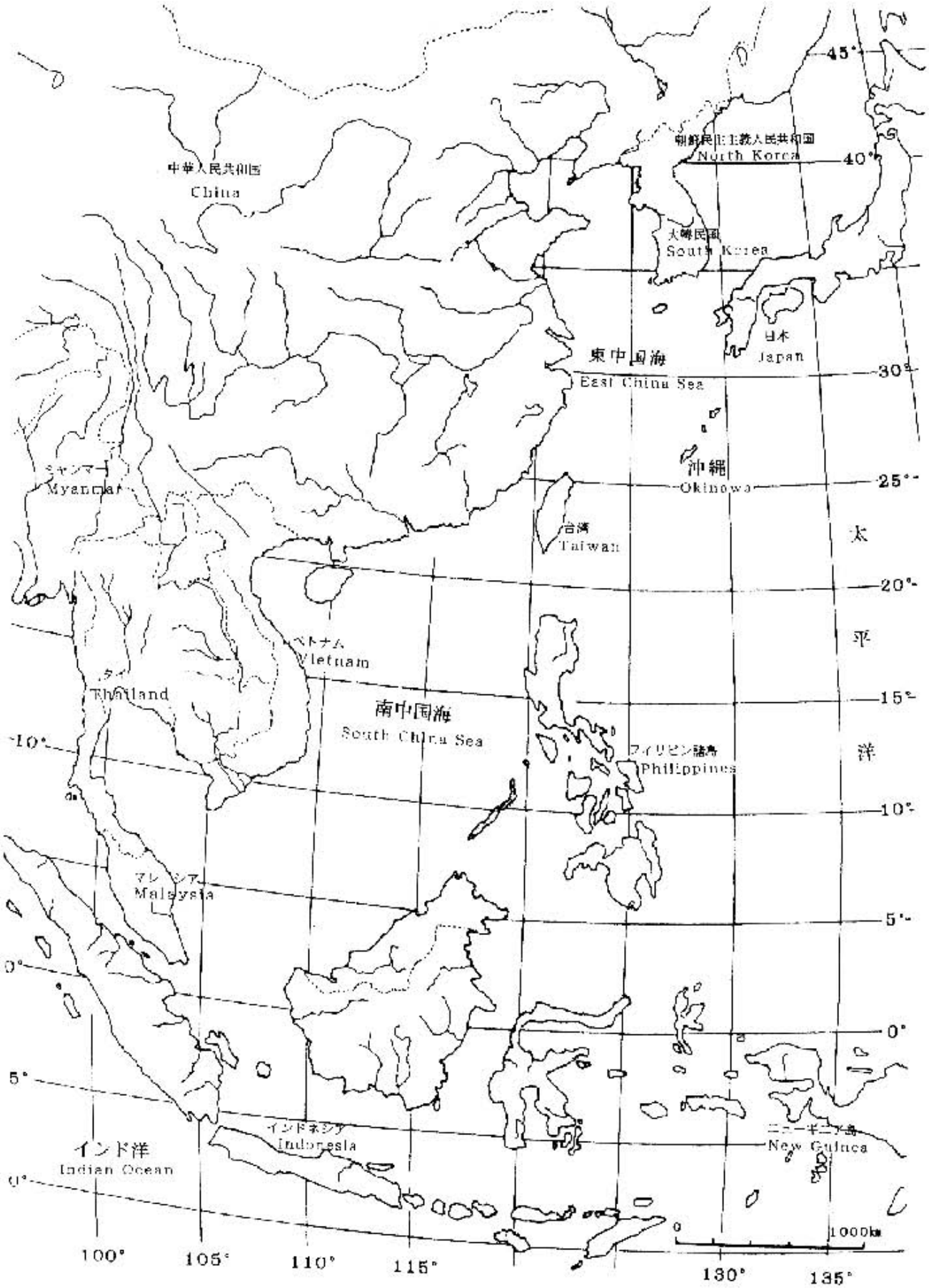
平成17（2005）年度には平成12（2000）年度の発掘調査で得られた遺物、遺構図面の整理作業を行った。出土遺物は遺物収納コンテナ400箱以上におよび、それらの洗浄、ナンバーリング、分類、集計から行った。遺物は多岐に亘ったため、各専門家からの所見を求めた上で分類作業を行い、遺物報告文を作成した。写真撮影および実測対象遺物については遺物が大量に確認されていたため、主要な遺物のみに止めた。遺物は沖縄県立埋蔵文化財センターの収蔵庫、図面、現場写真等は記録保存室に保管されている。

第４節　調査区の設定

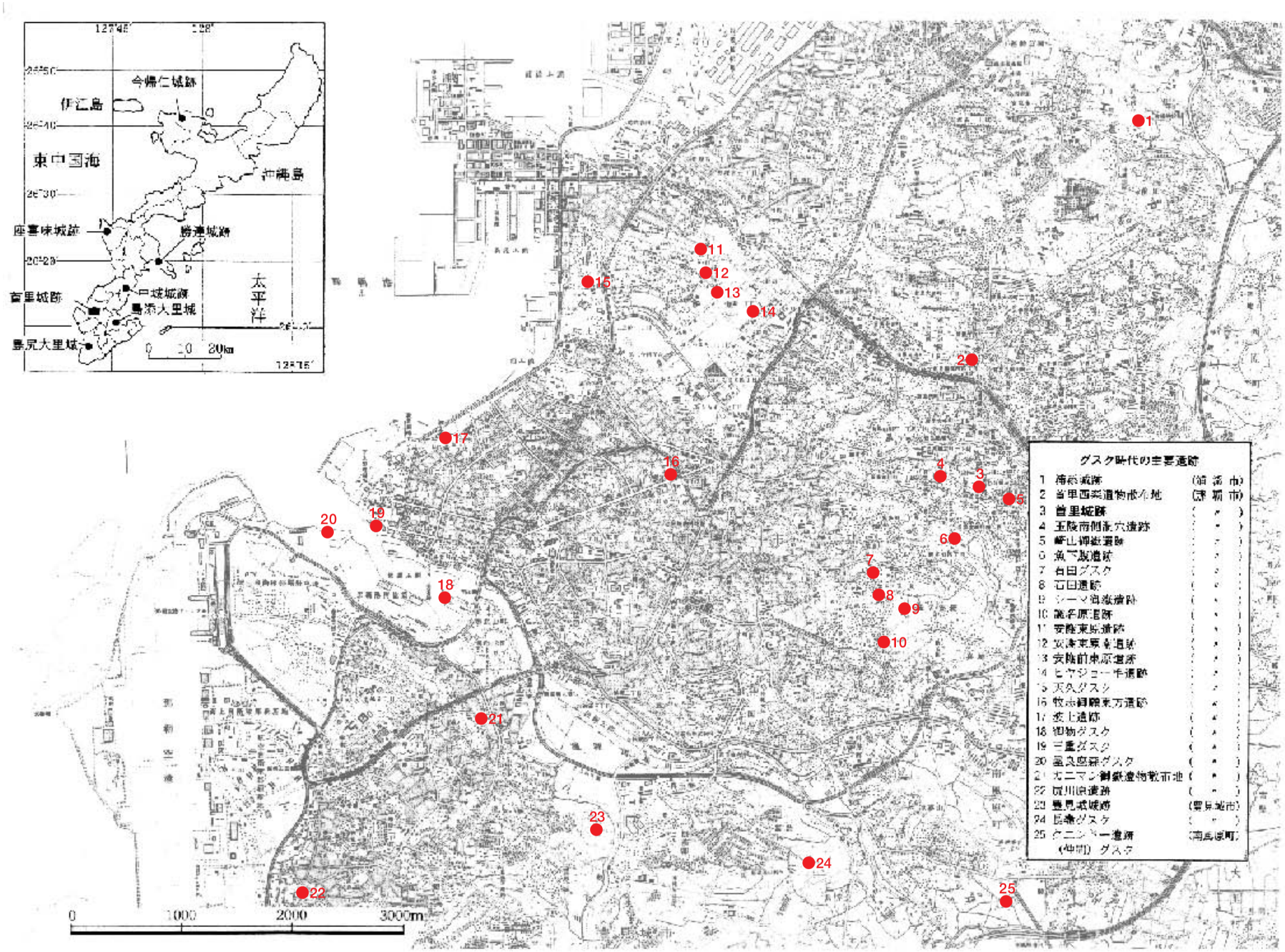
調査区は東西約30m、南北25mであることから、調査面積に合わせてまず10m×10mの大グリッドを対象地全域に設定した。北からＡ、Ｂ、Ｃとアルファベットを付けていき、東西ラインを設定した。同時に東から算用数字を付けていき、南北ラインを設定した。この東西、南北ラインは調査範囲に合わせた任意の方向である。実際には真南北より17°東に振れているが便宜上、本書では東に17°振る南北ラインを南北とし、南に17°振る東西ラインを東西とする。グリッド名称についてはアルファベットと算用数字を組み合わせて用い、各グリッドの示準は北東隅の交点で示した。更に調査の進行に伴って小グリットを設定した。遺構の検出状況や調査範囲に合わせて各小グリッドの形状は異なるが、概ね大グリッドを４分割し、５ｍ×５ｍグリッドとした。小グリッドの名称は丸数字を付け、その順序は発掘作業が行われた順序とし、大グリッドの名称の後に枝番号を付ける形にした。よって各大グリッド内における小グリッドの名称は場所によって一定していないので、第１図に小グリッドの位置を示す。なお、Ｂ-2グリッドは殆ど岩盤が露頭しているのが確認されたため、小グリッドは北西隅のみ設定した。Ｃ-2グリッドは廃土置き場のため、小グリッドの設定は行っていない。Ｂ-4グリッドは後之御庭に相当する範囲を小グリッドとして設定したため、10m×５ｍとなり、Ａ-2グリッドは埋甕遺構が検出されたため、各グリッドの面積が区々となっている。



第１図　グリット設定図


中華人民共和国
China
朝鮮民主主義人民共和国
North Korea
大韓民国
South Korea
日本
Japan
東中国海
East China Sea
沖縄
Okinawa
台湾
Taiwan
ミャンマー
Myanmar
タイ
Thailand
ベトナム
Vietnam
南中国海
South China Sea
フィリピン諸島
Philippines
マレーシア
Malaysia
インドネシア
Indonesia
インド洋
Indian Ocean
ニューギニア島
New Guinea
太
平
洋
45°
40°
30°
25°
20°
15°
10°
5°
0°
0
1000km
100°
105°
110°
115°
130°
135°

第２図　沖縄本島の位置



第３図　首里城跡の位置及び周辺の遺跡

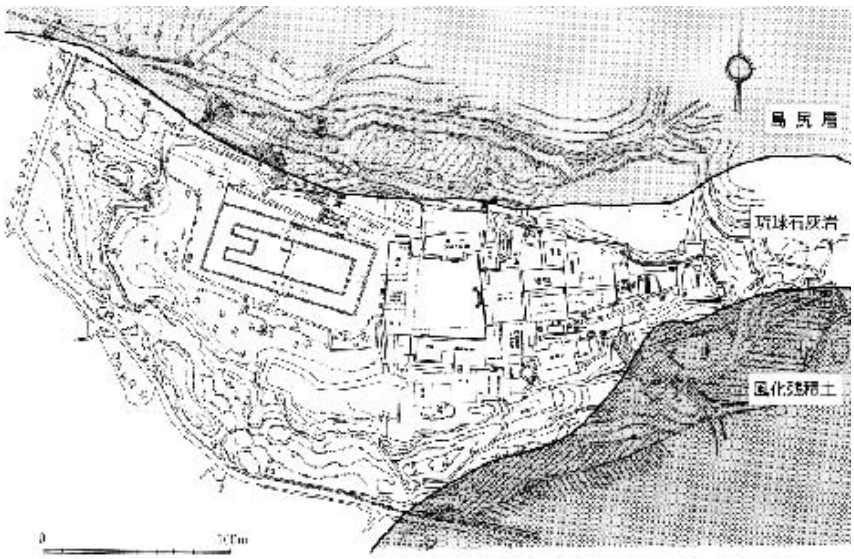
第２章　位置と環境

第１節　地理的環境

首里城跡は現在の那覇市首里当蔵３丁目１番、那覇市北東部、琉球石灰岩丘陵地（通称首里台地）の最高部（標高136m）に立地する。

首里台地の特徴としては、島尻層と呼ばれる新第三紀与那原層下部のシルト岩、泥岩や砂岩を基盤とし、その上を琉球石灰岩（第四紀層　琉球層群下部）が覆って複雑な谷が発達していることである（第４図）。また、龍樋や寒川（スンガー）など、島尻層と琉球石灰岩との不整合部分から湧き出す湧水が数多くみられる。

北方には末吉山、虎頭山から東方の弁ヶ嶽にいたる丘陵を頂き、弁ヶ嶽を起点にして台地北側には真嘉比川、南側には金城川が流れて安里川で合流、東側には南風原町との境界にナゲーラ川が流れており、他地域とは隔絶されている。これらのことから、首里城は水源に恵まれ、自然の障壁を利用することによって防御に優れた立地となっている。北側は緩斜面となり、首里当蔵町や汀良町、真和志町の街区が広がり、南側は急斜面地となり首里金城町や崎山町、寒川町の街区が広がる。



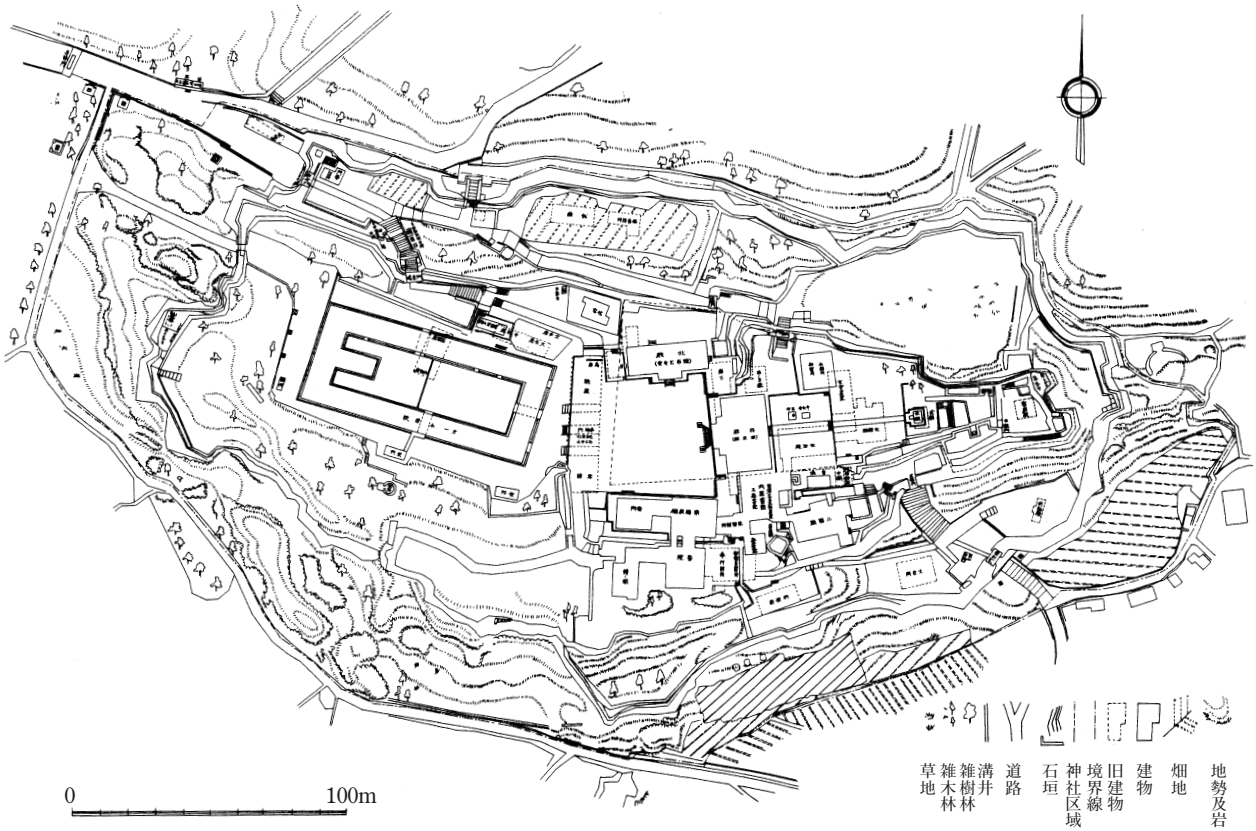
第４図　調査区周辺の地質図（沖縄県土木建築部　1988年）

歴史的背景からこの立地状況を見ると、首里城跡南西側には那覇市街及び貿易港であった那覇港を眺望することができる。貿易によって大きな利益を得ていた琉球王国にとって、良港の確保は必須条件であったことから考えても、首里城跡の立地は王城として相応しい機能を十分に備えていたことが窺える。加えて首里城跡東のアザナ、西のアザナ、京の内南側物見台からは、北は座喜味城跡、浦添城跡、東は久高島や大里城跡、糸数城跡、南側は多々名グスク、具志頭グスク、西側は渡名喜島、粟国島が一望することができる極めて眺望の利く場所であることから沖縄本島中南部の拠点としては好条件の場所といえる。

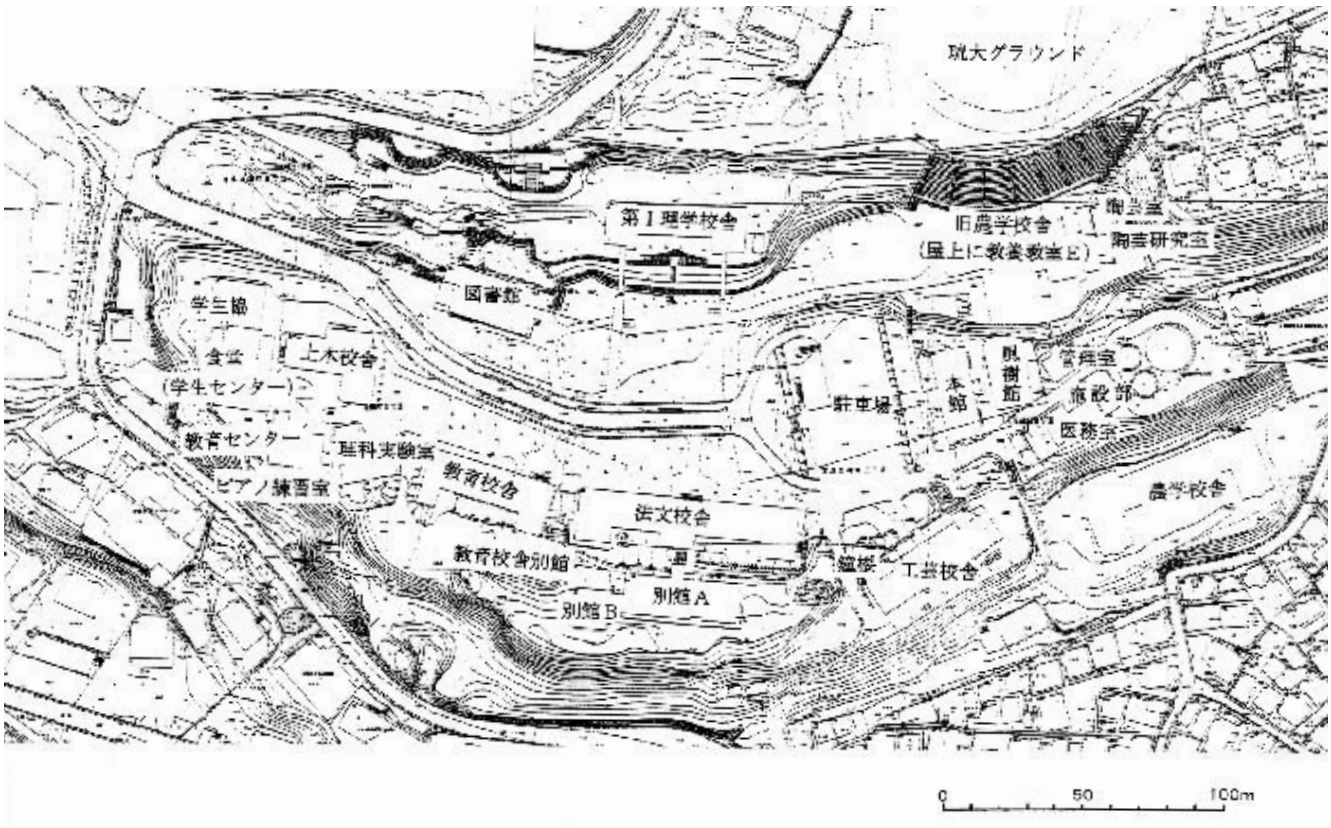
第２節　歴史的環境

首里城跡の築城年代はこれまでの発掘調査の成果からおよそ14世紀中頃と考えられるが、未だ不明な点も多い。しかし1427年に建立された「安国山樹花木記碑」（1427年建立）に、城外に龍潭と称する人工池を掘って安国山を築き、周辺の造園整備事業を行ったとの記録があることから、少なくとも15世紀前半の尚巴志王代には王宮としての機能をそなえていたことが窺える。その後、第二尚氏第３代尚真王代（在位1477年～1526年）から第４代尚清王代（在位1527年～1555年）にかけて外郭の拡張や歓会門、継世門、久慶門の造営などが行われ、現在に近い形に定まったと考えられる（第５図）。

今回の調査区である御内原（ウーチバル）は主に正殿裏側の区域を指す。王や王の家族が私生活を営む場所で、



第 5 図　首里城平面図（昭和 6 年頃、阪谷良之進原図、沖縄県立図書館蔵）



第 6 図　旧琉球大学校舎配置図

王以外の男子は立ち入りを禁止されていた。この区域内には金御殿、世誇御殿、世添御殿、寄満、門番詰所、二階御殿、女官居室、西当蔵火神、金御蔵、平ノ当蔵等の建物があった。京都大学所蔵の『琉球資料』「御城内并諸座御蔵万事寄」(18世紀)では御内原の門内すなわち境界内に許可無く立ち入った者は寺入り90日、御内原の建物内に立ち入った者は同100日、室内に入った者は一生流刑という取り決めがなされていた。門番に関しても侵入者を許した場合、同様の罰則が設けられていた。これら御内原にある建物とは別に正殿、世誇殿、世添殿に囲まれた空閑地を「後之御庭」と呼び、『女官御双紙』(1706年)では聞得大君による儀礼「御新下り」や、伊平屋や今帰仁、久米島、宮古、八重山の上級神女がこの場所で進物儀礼を行っていることが窺われる。(国営沖縄記念公園事務所2002)。このように首里城の中でも立ち入りが制限され、また儀礼を執り行う空間として極めて重要な場所であったと同時に、正殿西側つまり奉神門、南殿、北殿に囲まれた「御庭」に特徴付けられる諸氏百官が集まる場所とは対照的な空間であったと位置付けることができる。久手堅憲夫氏によると首里の方言では側を「クヌハラ」「アヌハラ」と言い、内の側を「ウチヌハラ」と言うことから御内原は「内の方」を意味するとしている(久手堅2000)。文献資料では『琉球国旧記』では「内院」と記載されており、絵画資料では『首里古地図』(1700年頃)『首里城古絵図』に後之御庭を画する石積み、世誇殿、黄金御殿、寄満、二階殿、世誇殿東側の石積み囲いが描かれる(第76図)。因みに世添殿の北側には「世の頂」と呼ばれる建物があったと『琉球国由来記』に記されているが、規模や詳細な位置、創建、廃棄の時期については全く解っていない。

発掘調査を行ったのは世誇御殿(ユブクイウドゥン)、女官居室(グシクンチュウシメージュ)の南半分及び世添殿(ユシーウドゥン)に相当する範囲である(第7図)。これらの建物は近世に入ってから文献資料で見られるようになり、中世相当期の様相については不明な点が多い。17世紀以降は1660年、1709年の正殿焼失があったことから御内原の建物も改修された可能性があり、17世紀後半から18世紀にかけて何度か御内原内における建物増築、改修の記載が見られる。建物がどのように改変されたのか詳細については解らないが、少なくとも世誇殿が1752年、世添殿が1752年、二階殿が1756年に創建されていることから、18世紀中頃に大幅な建物配置の改変がなされていることを想定することができる。

●世誇御殿(ユブクイウドゥン)

世誇御殿は国王崩御の際、世子が即位の儀を行った場所である。世子は継世門から入り美福門を経て、御内原へ続く脇門の中門(ナカジョウ)を通ってこの世誇殿に進み、即位の儀を行ったと『遺老説伝－球陽外巻』や『琉球国由来記』には記されている。

この殿舎は世添御殿の東側に位置して廊下で結ばれており、日常は王女たちの居室として使用されていたことから、王女(ウミナイビ)御殿とも呼ばれていた。創建年代は不明、構造形式は木造平屋建て寄棟瓦葺きと推定される。

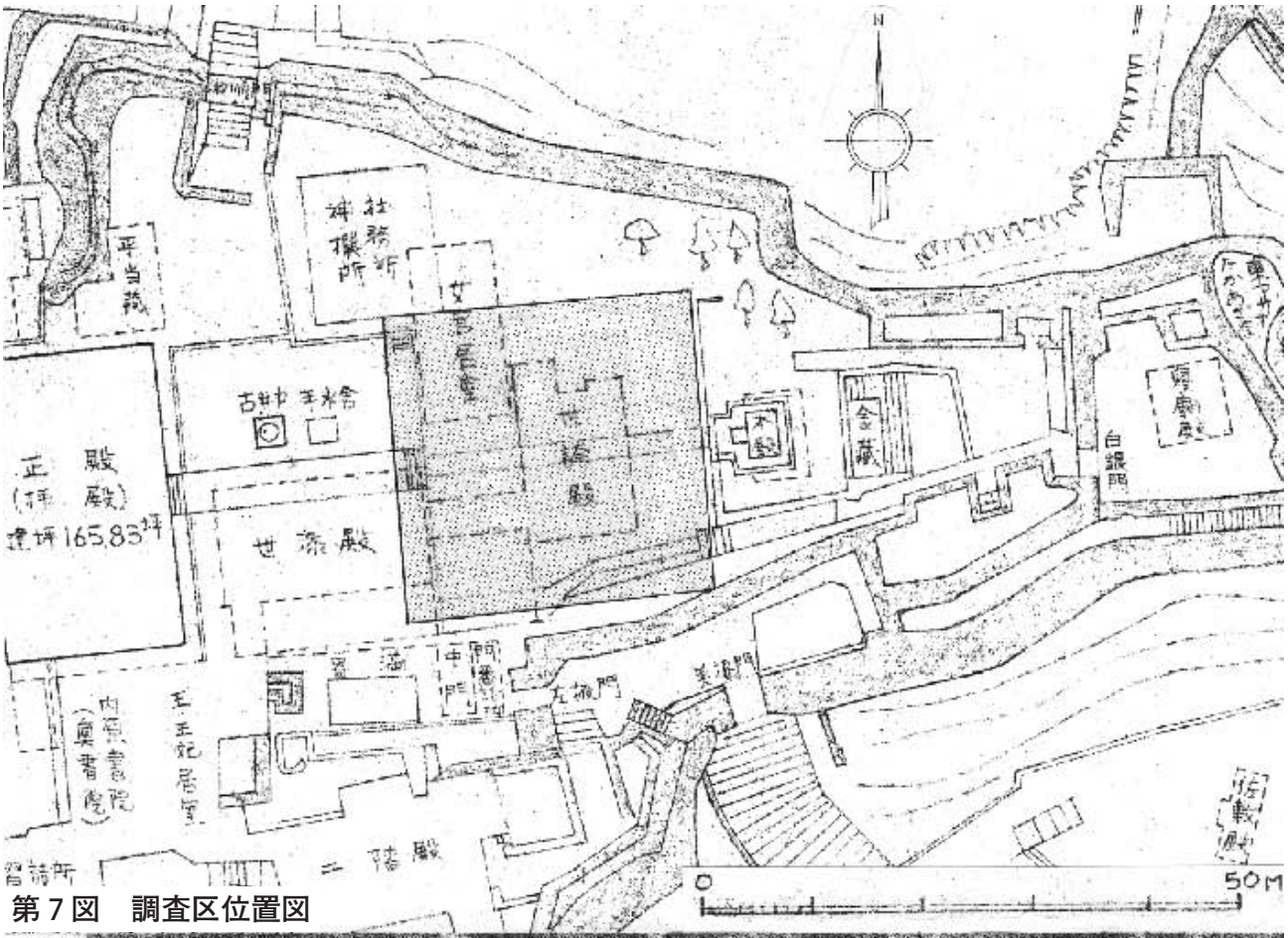
●女官居室(グシクンチュウシメージュ)

世誇御殿の北西側には女官居室があり、ここには御内原に奉公する城人(グシクンチュ)と呼ばれる女官達が居住していた。南北15.8メートル、東西7.5メートル、建物の床面積は113.5平方メートルであった。

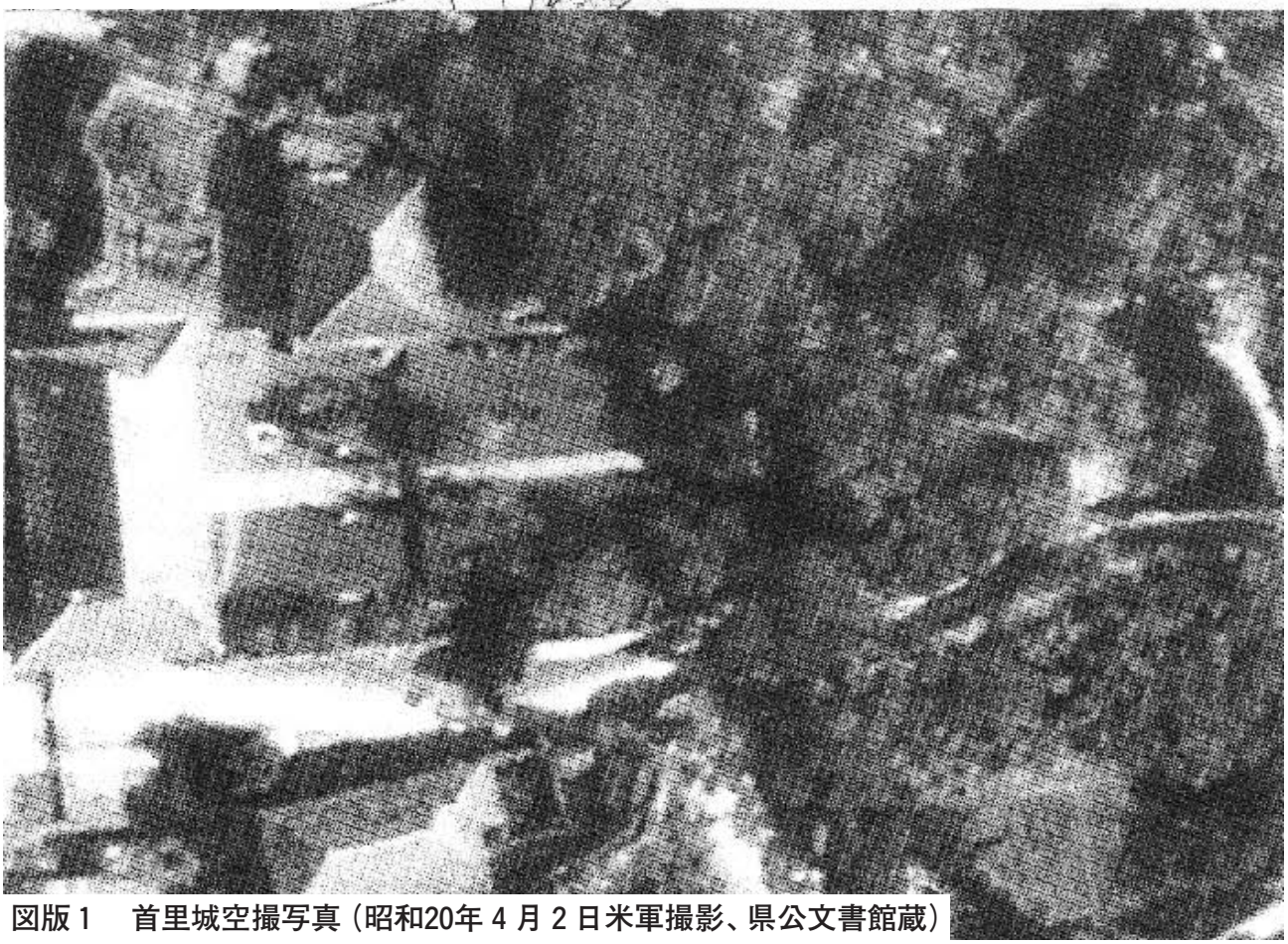
城人は最高官女の大勢頭部(ウフシィドゥイビ)3名以下、総勢36人が在ったと『女官御双紙』に記されている。創建年代は不明、構造形式は木造平屋建て寄棟瓦葺きと推定される。

●世添殿(ユシーウドゥン)

世誇殿の西側約10メートルの場所に、世添御殿という建物があった。寄満、黄金御殿とは廊下で連結しており、表の書院から鈴の下へ伝えられた御内原への用向きは、この世添殿で取り次がれて処理されたと云われている



第７図　調査区位置図



図版１　首里城空撮写真（昭和20年４月２日米軍撮影、県公文書館蔵）

（久手堅2000）。王妃の次位にある妻妾の私的空間として使用され、御内原を管理していた建物である。『球陽』によると創建年代は1752年とされている。

1879年の琉球処分後、首里城には明治12（1878）年から明治29（1896）年まで熊本鎮台沖縄分遣隊（以下、分遣隊）が駐留した。この分遣隊駐留時に御内原の建物はかなり荒れ果て、その様子が明治15（1882）年に首里城を訪問したイギリス人ギルマードの手記に記されている。以下、紹介すると「我々は部屋から部屋へとさまよった。回廊や接見の間や召使いの室や、全く迷子になりそうな建物などをぐるぐる歩いたが何れも言語に絶する荒廃の状態にあった。長い間、誰も住んでいなかったに違いない。あらゆる装飾品は取り除かれてあった。小壁に掲げられた絵は引き剥がされ、埃と星霜とで見分けが付かない。」とある（須藤1974）。また分遣隊によって床や壁板が剥ぎ取られ、薪等の燃料として使用されていた（真榮平1993）。

大正12（1923）年には首里市によって正殿の解体が決議されたが、伊藤忠太・鎌倉芳太郎らの尽力により沖縄神社の拝殿となって解体をまぬがれた。一方、御内原は明治41（1908）年に工芸学校が城内に移転し、二階殿、黄金御殿、寄満等の建物を校舎として利用している。建物内装の改築がなされたものの、工芸学校による維持管理がなされ、荒廃の進行は免れている。

大正13（1924）年には金御蔵のあった場所に沖縄神社の本殿が造営され、世誇殿は北側に移築されて神社の社務所となった。その当時における御内原の様子が阪谷良之進によって作成された測量図によって窺い知ることができる（第77図）。社務所として移築された世誇殿は間取りも記載されており、また世誇殿と後之御庭を画していた石積みの輪郭並びに取り付く石段がかなり詳細に記されている。なお、金御蔵は明治42（1909）年にすでに解体、売却されている。その後、正殿に関しては老朽化と台風被害によって荒廃が進んでいたのを、昭和６（1931）年から昭和８（1933）年にかけて阪谷良之進・柳田菊蔵らが修復、昭和８（1933）年には国宝に指定された。

1945年の沖縄戦においては首里城に日本陸軍の総司令部壕が置かれたことにより、首里一帯が集中砲火を浴びたため、城及び城下は壊滅的な被害を受けた。その後、1950年琉球大学が創設されたことにより、さらに遺構が破壊された。女官居室があった場所には本館、世誇御殿があった場所には風樹館、金御蔵があった場所には管理室が建てられた（第６図）。他方でこのような破壊、消失した文化財を復元しようとの世論が戦後、次第に高まり、琉球政府文化財保護委員会が中心となって守礼門、円覚寺総門、園比屋武御嶽石門、歓会門、久慶門、玉陵などの復元が行われた。

その後、昭和59（1984）年の琉球大学の移転にともない、沖縄県により「首里城公園基本計画」が策定された。昭和61（1986）年には沖縄復帰記念事業として「国営沖縄記念公園首里城地区」として整備復元することが閣議設定され、現在に至るまで調査と整備が進められている。

第３章　層序と遺構

第１節　層序

調査区全域にわたって琉球大学設置当時における造成（以下、琉大造成層）が成されており、阪谷良之進らによる測量図等に記載される建物遺構（第５図）は確認することができなかった。琉大造成層にはガラス、プラスチックといった現代遺物は勿論のこと、古い時期の遺物も出土している。聞き取り調査では首里城内各所の土を造成土として御内原へかなり大量に持ち込んだとの証言を得ており、その証言を裏付ける形で地区によっては約２m堆積していた場所も見られた。調査区内には琉球大学の本館と風樹館と呼ばれる建物があり（第６図)、表土除去後に本館の鉄筋コンクリートの建物基礎が検出されている。この基礎の下には礫が敷き詰められており、かなり念入りに基礎工事を行っていたことが窺えた。

この琉大造成層はSR01の上部約0.4mを削平していることが戦前の写真資料による同定作業で明らかになった。そのため、大正期まであった世誇殿、女官居室といった建物基壇下の、地拵えの際に込め入れた栗石層が上面の遺構としてB-3・4、A-3・4グリッドで確認された。参考までに世添殿、世誇殿、女官居室の推定地を第19図に示しておく。栗石層は拳大の石灰岩が主で稀に細粒砂岩片も見られる。また、A-4グリッドは北側調査区外へ続いていくことから、淑順門近くまで広がっている可能性がある。

調査区南側はC-3②で岩盤が露頭していることから、北から南にかけて岩盤が迫り上がっている状況を窺うことができた。岩盤直上は赤土層が一部、見られるが、全体的に赤土混じりの暗赤褐色粘質土層が堆積している。この層からは近世の遺物が出土せず、中世相当期に持ち込まれたと考えられる。C-3グリッドとC-4①グリッドで確認された赤土混じりの暗赤褐色粘質土層はSR09の根石が同層の上面に据えられており、また同層の上面に合わせるように露頭している石灰岩の上面がはつられている。おそらく御内原地区で最も古い時期に相当する地拵えの層であると思われる。B-3・4は栗石層が直上に載る。

C-4②、B-4②、A-4③グリッドからは後之御庭に伴う造成層が検出されている。琉大造成層が及んでいない区域に珊瑚混じりの粗砂質土層が広がっており、その下層からは黄褐色微砂層が確認された。前者はかなり細かく砕いた珊瑚が混入しており、B-4②グリッドから同層を掘り込んで水溜用の埋甕が設置されているのが確認されている。同様の事例が円覚寺跡仏殿から三門にかけての空閑地で見ることができる（沖縄県立埋蔵文化財センター 2002)。後者はかなり堅く締まっており、遺物も殆ど出土していない。このことから後之御庭の造成土として外部から造成のためだけに持ち込んだ土であることが想定される。今回の調査では上面までの検出に止めた。同層は西側調査区外まで広がる。因みにC-4グリッドにかつてあった世添殿周辺は琉大造成層によって建物規模はおろか基壇も検出することができなかった。

A-2、A-3グリッドは琉大造成層と琉球大学設置時に埋設した配管が岩盤直上まで見られた。琉大造成層が及んでいない部分はB-3・4、A-3・4グリッドと同様の栗石層が見られる。この栗石層の下部に炭、礫混じりの粘質黒褐色土層が確認されており、同層と栗石層の境から翡翠釉皿と塼が出土している。このことから栗石層は17世紀頃に比定することができる。

A-3③・④、A-4③グリッドではC-4②、B-4②、A-4③グリッドに見られる黄褐色微砂層が確認された。同層も堅く締まっており御内原北側を拡張する際に持ち込まれた土であると考えられる。持ち込まれた時期であるが出土遺物が皆無のため詳細については解らない。しかしこの層はB-3・4、A-3・4グリッドの栗石層が載らず、その比高差は殆ど無い点、SA03の面側を覆っている点、後之御庭の造成層と類似している点から近世前半頃と想定される。SA03の東端まで黄褐色微砂層は広がらず、面側は拳大の自然石が込め入れてSA03を埋め殺している。ま

た、黄褐色微砂層の下には礫混じりの浅黄色粘質粗砂層、そして明褐色粘質土層、礫混じり暗灰黄色粘質粗砂層、礫・炭混じりの暗灰黄色粘質粗砂層と続く。

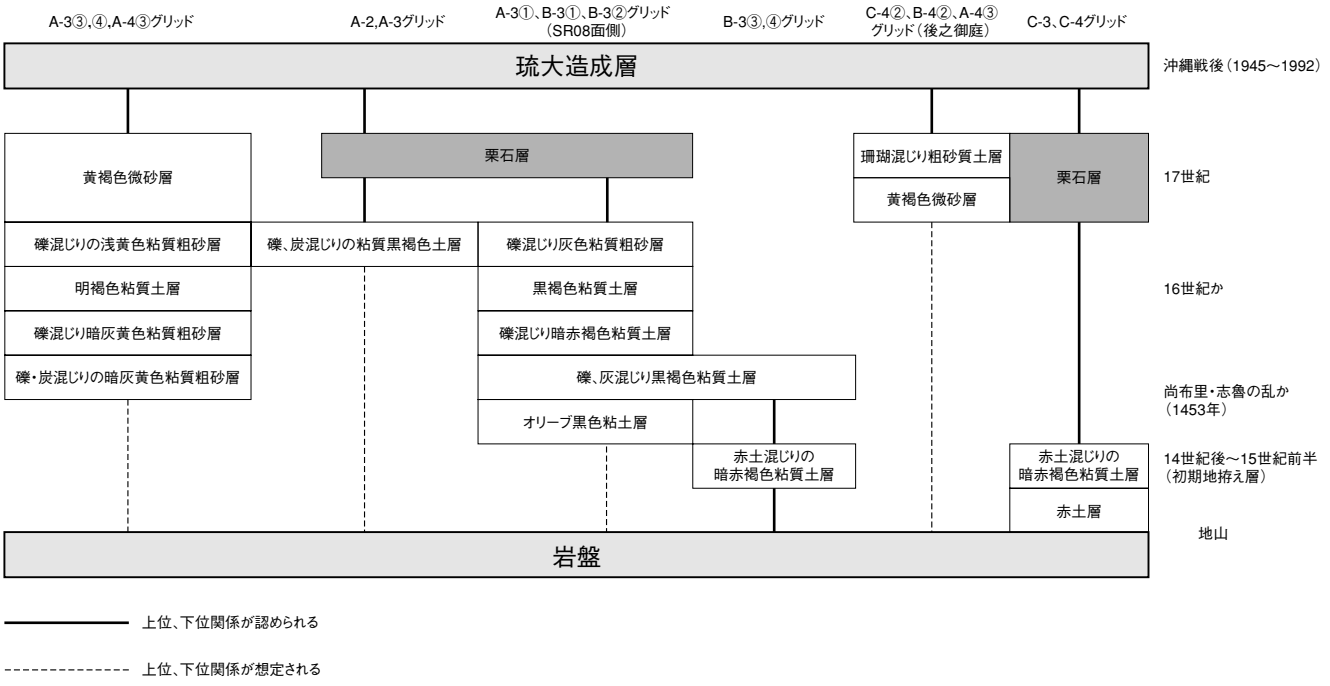
B-3・4、A-3・4グリッド、A-2、A-3グリッドで見られる栗石層についてはその下層に中世相当期の遺物包含層が確認された。まずはA-3①、B-3①、B-3②北東隅から炭混じりのオリーブ黒色粘土層が確認された。SR08の面側と一部上面を覆っているこの層の上面には礫、灰混じりの黒褐色粘質土層が見られ、その上面にSR04､05が配置されている。灰混じりの黒褐色粘質土層はSK05内にも堆積しているのが確認されている。

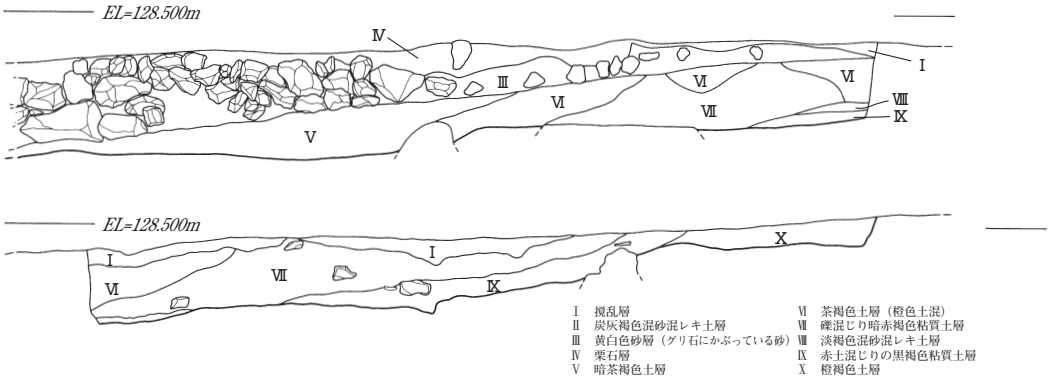
炭混じりのオリーブ黒色粘土層、上記の黒褐色粘質土層は近世の遺物並びに染付が出土しないことから15世紀代、炭が大量に混入していることから1453年の尚布里、志魯の乱との関わりが指摘される。このオリーブ黒色粘土層、礫、灰混じり黒褐色粘質土層の直上に礫混じり暗赤褐色粘質土層が見られ、更にその上面に黒褐色粘質土層、礫混じり灰色粘質粗砂層と続き、先の栗石層が載る。因みに暗赤褐色粘質土層はSR04､05を覆っており、B-3③・④グリッドで赤土混じりの黒褐色粘質土層に載っている。

最後にSK08の床面直上には暗オリーブ褐色粘質土層が堆積しており、その上面からは礫が大量に混じる黄灰色の粗砂層が瓦、塼と共に確認されている。この黄灰色の粗砂層の直上は琉大造成層が載っているため、他の包含層との相対関係を見出すことはできないが、出土遺物からおそらく栗石層の下位になるものと考えられ、世誇殿、女官居室といった建物構築の造成により廃棄されたものと考えることができる。

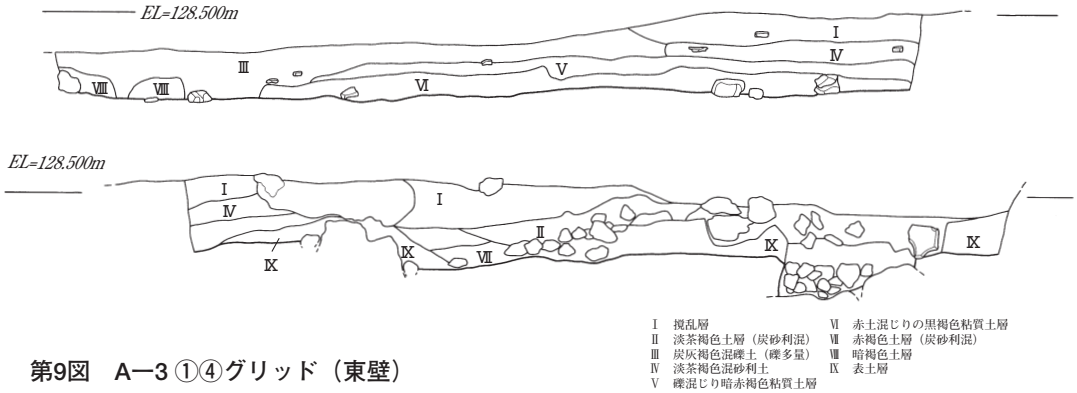
調査区の南側で炭混入の遺物包含層が各グリッドで確認されるが、おそらく15世紀中頃、尚布里、志魯の乱に関わる時期と近世の前半に２度、正殿が火災に遭っている時期に分けることができるものと考えられる。前者はA-3③・④、A-4③グリッドではC-4②、B-4②、A-4③グリッドに見られる黄褐色微砂層の下部から検出された礫・炭混じりの暗灰黄色粘質粗砂層、A-3①、B-3①、B-3②北東隅から炭混じりのオリーブ黒色粘土層、その上面の礫、灰混じりの黒褐色粘質土層が相当する。後者はA-2、A-3グリッドの栗石層下部の礫混じりの粘質黒褐色土層が相当するものと考えられる。また、初期の地拵え層に相当する赤土混じりの暗赤褐色粘質土層の広がりがどの範囲まで及んでいるのか、首里城の初期の姿を考察していく上では重要な遺物包含層になってくることが明らかとなった。

御内原地区層序模式図

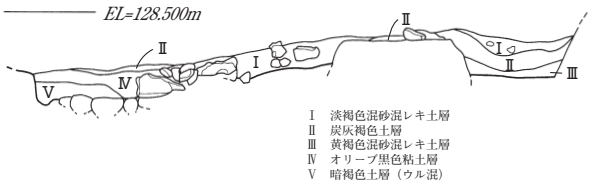




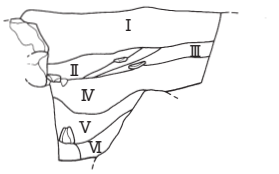
第8図　B−3 グリッドライン（東壁）



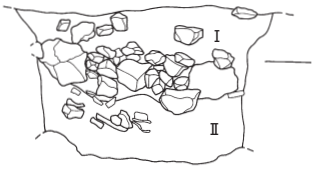
第9図　A−3 ①④グリッド（東壁）



第10図　A−3 ②③グリッド（西壁）

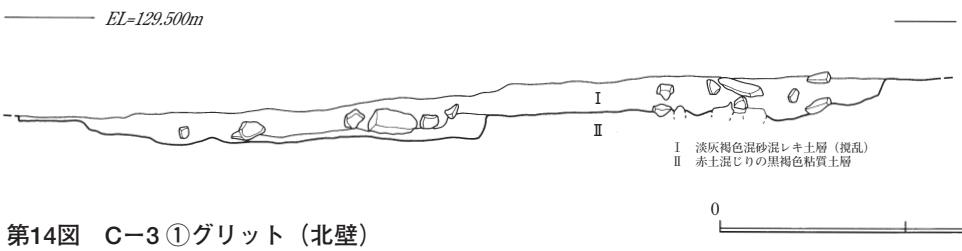


第11図　B−3 ③グリット東側（北壁）



第12図　SA04前（北壁）

第13図　A−3 ③④グリッド（南壁）



第14図　C−3 ①グリット（北壁）

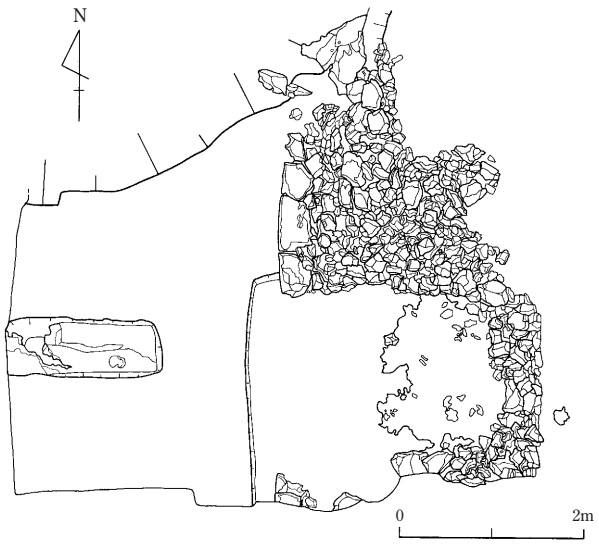
第２節　遺構

石列

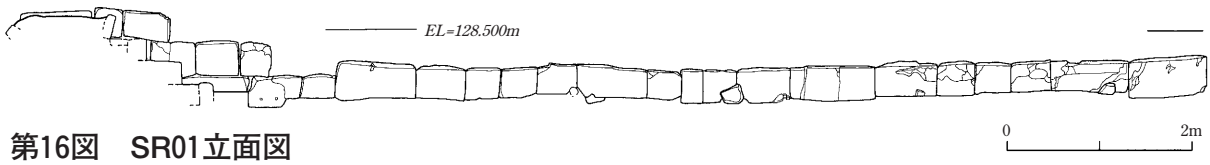
SR01

残存高約１ｍ、残存長8.5ｍ。南側は根石のみ残存し、南側の階段遺構付近では三段組となる。上部は完全に破壊されているため厳密な高さは不明。切石積みでかなり丁寧に加工した方形の石材を用いており、拳大の裏込石を面石控え部分に大量に入れ込む。根石は後之御庭造成層の直上に据えている。西に10°振るがほぼ南北方向に伸び調査区北側でSR02が取り付く。調査区南西部分でも同様の石列が確認され、当初SR03としていたが、延長方向並びに石材の加工度からSR01と同一遺構であることが判明した。周辺は琉大造成層によってほとんど原状は止めていない。当該遺構はかつての世誇殿の基壇で、沖縄戦時まで残存していたことが古写真等で窺える。

古写真では沖縄神社の参道に取り付く石段が見られるが、調査では確認できなかった。しかし、B-4グリットから小礫が密に詰まった集石が当該遺構に接して検出されている。



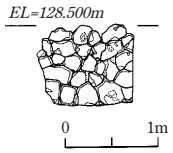
第15図　SR01南側平面図（C-4グリット）



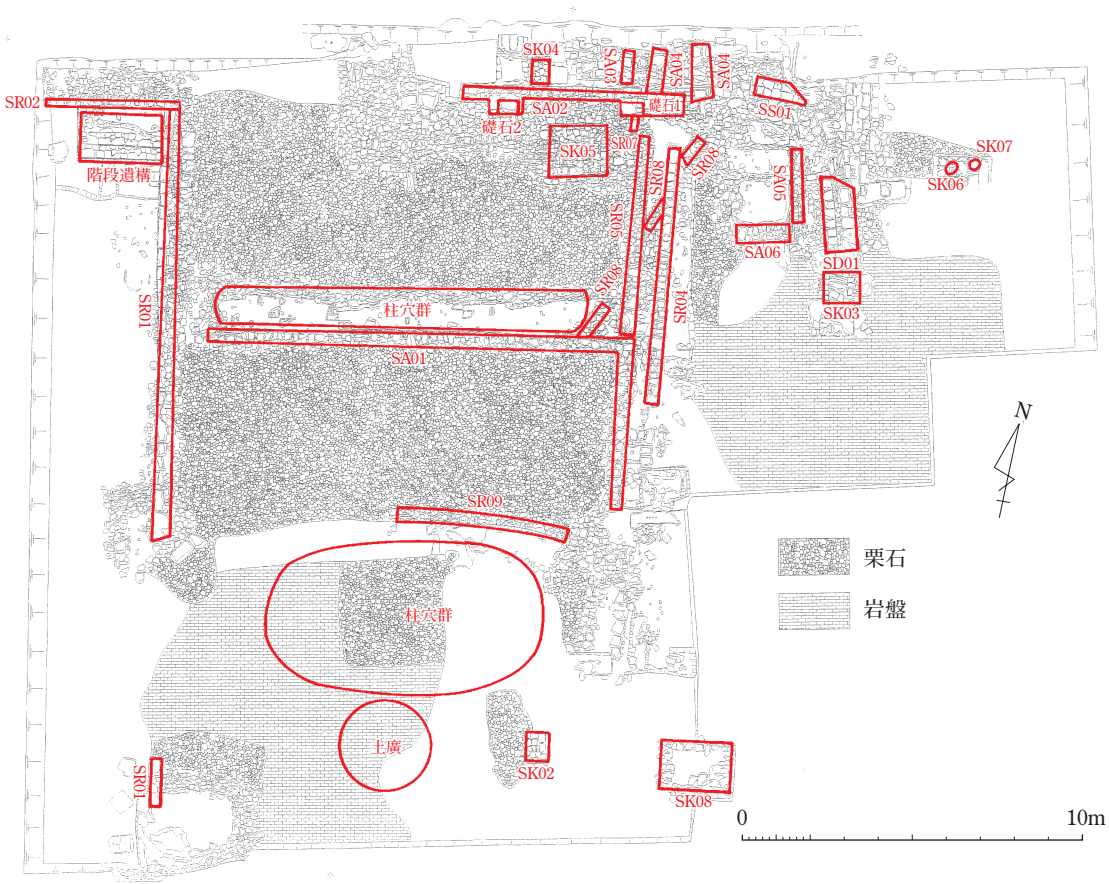
第16図　SR01立面図

SR02

残存高約0.9ｍ。確認された長さは１ｍ。東西方向で北に13°振り、西側は調査区外へ伸びる。あいかた積みで面石は上部が小さく、下部は大きい切石を用いている。面石は何れも丁寧な加工がなされている。東側はSR01に切られており、その接続部分には階段遺構が取り付く。拳大の裏込石を大量に入れ込む。根石はSR01と同様に後之御庭造成層の直上に据えている。世誇殿の基壇から東側に伸びる基壇状遺構で、近代以降は沖縄神社社務所の基壇として沖縄戦時まで残存していたことが古写真等で窺える。



第17図　SR02立面図

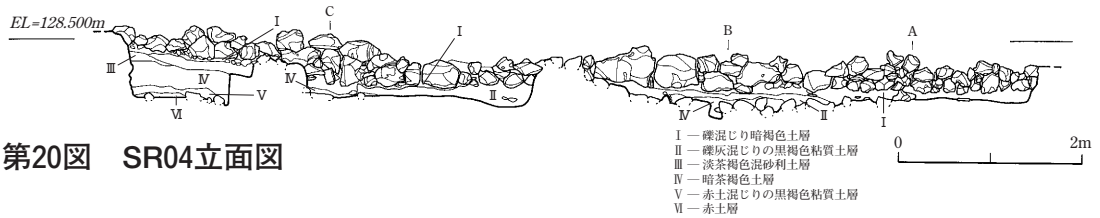


第18図　検出遺構位置図

第19図　御内原地区各施設推定位置図

SR04

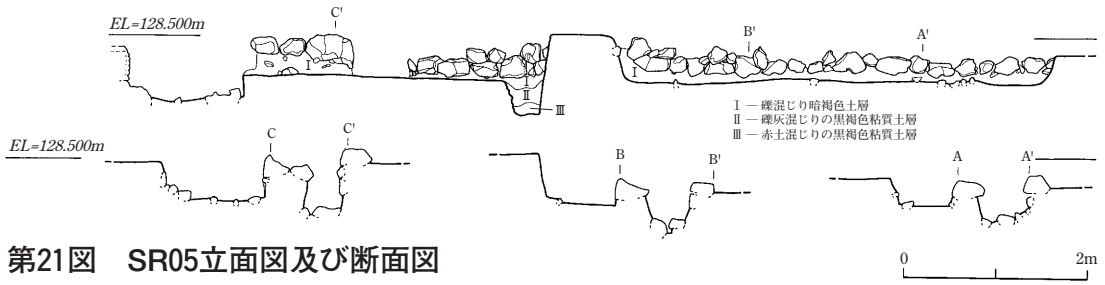
残存高は約0.3m。残存長10.1m。南北方向で西に10°振る。拳大の自然石を２段以上組み上げているが積み方は総じて雑である。裏込石は見られるものの大きさ等、面石との差はあまり見られない。根石は焼土層直上に一部据えていることから15世紀中頃以降に構築されたと考えられる。他の遺構との関係はSA01の北側に合わせて取り付き、SR08が当該遺構の根石によって切られている。北側はSA02によって切られている。



第20図　SR04立面図

SR05

残存高約１m、残存長10.2m。SR04と同方向に伸びる。一部２段以上積んでいる部分が見られる。拳大のやや加工した石材を面石に用い、面石よりやや小振りの自然石を裏込石とする。SR04は当該遺構の裏込石によって埋め殺されている。その他の遺構との関係は見られない。根石は焼土層直上に一部据えていることから15世紀中頃以降に構築されたと考えられる。



第21図　SR05立面図及び断面図

SR07

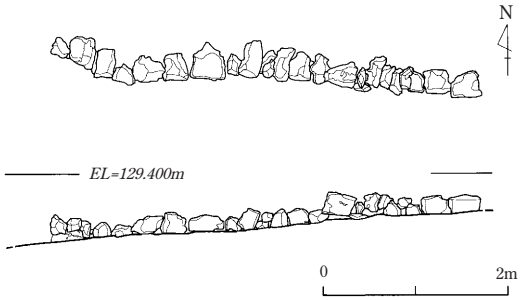
SA02に接する礎石から伸びる石列で残存長が0.5m。方形に加工された切石２個で構成される。南北方向で北に10°振る。全体的に琉大造成層が覆っていたため、詳細な時期については不明。礎石１の東側面に合わせて並べていることから礎石間を繋ぐ遺構と考えられる。

SR08

長さは検出された部分で6.7m、南北方向で東に20°振り、拳大の自然石を並べている。裏込石は見られないことから土留めとして機能が考えられる。炭混じりのオリーブ黒色粘土層が遺構の上面を覆っていることから廃棄年代は15世紀中頃と想定される。面石の一部が火を受けていることが確認された。他の遺構との関係で根石まで確認することはできなかった。SR04・05、SA01の根石に切られていることから、当該地区で最も古い遺構に相当するものと思われる。

SR09

東西端は何れも破壊を受けており残存長は4.8m。東西方向で北に10°振る。裏込石は見られるものの大きさ等、面石との差はあまり見られない。自然石を東西方向に並べるが蛇行気味に伸び、東端は南に振る。根石は赤土混じりの暗赤褐色粘質土層、一部岩盤直上に据えられている。検出時は完全に集石に



第22図　SR09平面図及び立面図

よって埋め殺されていた。他の遺構との切り合い関係は認められない。

石積み

SA01

北辺は残存高0.8～1.3m、残存長12.1m。東辺は残存高0.3m、残存長4.8m。平面形状はL字状となる。残存高上部は破壊されているため厳密な高さは不明。東西方向は北に10°振り、南北方向は東に10°振る。人頭大の自然石を組み上げ、焼土層の直上に根石が据えられている。裏込石は大量に見られ、面側にも大量の自然石が込め入れられ、埋め殺されている。東端はSR04、西端はSR01が東辺の面石に合わせて取り付く。また、SR08は当該遺構の根石によって切られている。

SA02

確認された高さは1.1m、長さは検出された部分で7.2m。かなり丁寧に加工した切石を組み上げており、一部凹状に加工した切り石も見られる。上部は破壊されているため厳密な高さは不明。面石の内側に面を合わせた石組みが一部、確認される。裏込め石も大量に見られる。東西方向で北に10°振り、東側は直に切られるように崩されており、西側延長部分は現在の正殿基壇北辺に合ってくる。調査区北側の造成層に一部、覆われていることから御内原を北側に拡張する以前の内郭城壁であった可能性が指摘され、17世紀頃に廃棄されたと考えられる。東側でSA03・04が取り付き、SR05が当該遺構の裏込め石によって切られている。

SA03

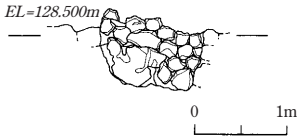
確認された高さは0.2m、長さは検出された部分で１m。大小の面側をやや加工した自然石を組み上げており、控え部分には小振りな自然石を裏込石として大量に入れ込む。SA02に取り付き、調査区外北側へ伸び、調査区北側の造成層によって完全に埋められている。

SA04

確認された高さは0.7m、長さは検出された部分で１m。東西に面を有した石牆で、両面とも面側をやや加工した自然石を組み上げている。内部には自然石を裏込石として大量に入れ込む。東側は旧琉球大学本館の基礎によって面石が元位置より西側に若干移動しているが真北に調査区外北側へ伸びる。SA02に取り付く。旧琉球大学の造成土によって全体が覆われており遺物もほとんど検出されなかったため、詳細な構築時期については不明である。

SA05

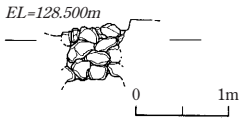
残存高は0.5m、残存長2.8m。拳大の切石を組み上げており控え部分には自然石を裏込石として大量に入れ込む。積み方はあいかた積みに近く、根石は岩盤に据えられている。南北方向で西に15°振る。面石の一部が火を受けており、西側の面石にはSA06が取り付く。上面は琉大造成層が覆っていたが、根石近くの面側には前述したが栗石層下部から翡翠釉皿、灰瓦、塼が出土している。



第23図　SA05立面図

SA06

残存高は１m、残存長1.8m。拳大の面を加工した自然石で組み上げており、控え部分には自然石を裏込石として入れ込んでいるが、あまり奥行きを取っていない。東西方向で南に10°振る。根石は岩盤に据えられており、岩盤も石積みの面に合わせて面を有する。東側はSA05の面石に取り付くように接続している。SA05と同様に根石近くの面側には大量の自然石に混じって灰瓦、塼が出土している。



第24図　SA06立面図

石敷き遺構

SS01

幅約0.5mで残存長1.8m、南東－北西方向で北に10°振る。南東から北東方向へ緩やかに傾斜する。南東端と北西端は南北に走る旧琉球大学本館の基礎によって破壊を受けている。個々の石は大きさに一貫性は無く、大小の石で構成される。石敷きの上面はやや粗いが平坦にはつっており、下方は岩盤に据えている、若しくは小礫を埋め込んでいる。

石囲い遺構

SK02

東西北を切石の石列で囲み、床面は上面を丁寧にはつった切石を据える。北西隅が一部、崩壊しているものの全形を良好に保持している。西側は集石が広がり、北、東側は赤土混じりの黒褐色粘質土層が広がる。石列の上面は天端が合わないことからある程度、立ち上げられていたものと思われる。敷石間には赤褐色砂質土が間詰として入れられており、隙間が殆ど見られない。

SK03

東西北を切石の石列で囲み、床面は石敷きと岩盤で、丁寧にはつった切石の上面に合わせて岩盤上面が加工される。岩盤は南北方向にフィッシャーが走っており、石列を直接、その上に据えている。石列は東側のみ裏込め石が見られる。石列の上面は天端が合わないことからある程度の高さまで立ち上げられていたものと思われる。

SK04

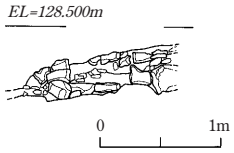
西南北を切石の石列で囲み、床面は丁寧にはつった切石を敷く。南北の石列は東へ更に延びるが攪乱によって完全に崩されている。また各石列の天端が合わないことからある程度の高さまで立ち上げられていたものと思われる。石列の控え部分には裏込め石は全く見られず、根石は暗褐色粘質土層に据えられている。この暗褐色粘質土は造成層上に堆積しているため、当該遺構は近世以降に構築されたと考えられる。

SK05

SK04から南東約２mに位置する。東西南北を切石の石列で囲み、床面は丁寧にはつった切石を敷く。各辺、約1.8mで平面形は正方形に近い。石列の控え部分には自然石を裏込石として入れ込んでいる。各石列の天端が合わないことからある程度の高さまで立ち上げられていたものと思われる。灰混じりの黒褐色粘質土層が敷石上面を覆い、その上部から牛の下顎骨が１点出土している。因みに当該遺構は今回の調査区における石囲い遺構の中で最大規模を有する。

SK06

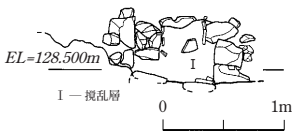
A-2グリッドには沖縄産無釉陶器鉢を切石の床面に据えた遺構が東西４基、検出された。当該遺構は西端に位置し、南北に丁寧に加工した切石の石列が見られる。石列の天端が合っているため高さは0.4m、東西は旧琉球大学造成時の攪乱によって完全に崩されている。鉢は南北石列間のほぼ中央に据えられており、その間は0.6m、床面から鉢の底面、胴下部までは暗褐色混礫土で埋められている。



第25図　SK06北壁立面図

SK07

沖縄産無釉陶器鉢を切石の床面に据えた遺構が東西に４基並ぶ中で東端に位置する。北側に丁寧に加工した切石の石列が見られ、西側に石列の一部と思われる面を有した自然石が１つ見られる。床面は切石を敷き詰めており、規模や造り、内部の様相はSK06に類似する。



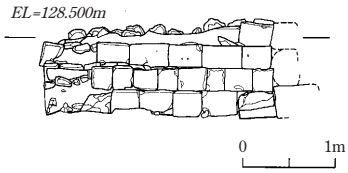
第26図　SK07南壁立面図

SK08

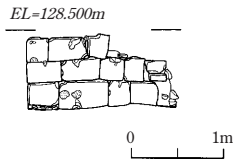
SK02から南東約３ｍに位置する。東、南を切石の石積み、西、北側は岩盤を削り出して壁を作り囲う。床面は岩盤をやや粗いが平坦にはつり、南側石積みの根石の一部は岩盤上に据えられている。東側石積みの根石は岩盤直上に堆積している赤土上に据えられている。積み方はあいかた積みに近く、控え部分には少量であるが自然石を裏込石として入れ込んでいる。各石列の天端が合わないことからある程度の高さまで立ち上げられていたものと思われる。西側は南西隅が開口しており、柱穴が検出されている。内部からは大量の瓦と塼が、礫が大量に混じる黄灰色の粗砂土層から出土している。

階段遺構

SR01、SR02が接続する部分に取り付く階段遺構。かなり丁寧に成形した切石で構成されている。蹴上げ３段が残存し、４段目以上は琉大造成層により失われている。残存高は0.5mで東西1.6m、南北2.6m、蹴上げの幅は34㎝、段差は24㎝、最下段の南西隅は欠損している。根石は後之御庭造成層の直上に据えており、階段の内部は黒褐色混礫土が入れられている。最下段の東端、SR01と接する部分に切石２枚で升状に仕切られた遺構が見られる。その性格については聞き取り調査で拝みの場所の可能性があるということであるが、詳細については不明である。戦前の古写真でかつての状況を窺い知ることができる。蹴上げは５段、高さは約１ｍあり、沖縄神社が御内原地区に設置された際には社務所へ上がる階段として利用されていた。因みに『首里城古絵図』（第76図）にも当該遺構は描かれている。



第27図　階段遺構北側立面図



第28図　階段遺構東側立面図

礎石

元位置を保っている礎石は２箇所確認された。まずはA-3グリッド東側の礎石１で石灰岩を方形に加工しておりSA03に隣接して配置されている。SA03の裏込め石で周辺は埋没し、北側造成土によって上面は覆われていた。このことから16世紀以前に建物が廃棄されたものと考えられる。南側にSR07が取り付いており、礎石間を繋ぐ石列の可能性が挙げられる。もう一つはA-3グリッド西側の礎石２でSK05に隣接する。石灰岩を方形に加工してお

り、周囲は小礫で埋まる。北側造成層が側面のみに見られることから、近世以降に配置されたものと考えられる。上面は琉大造成層に覆われていた。

溝

SD01

残存長2.2m、溝幅0.2m。南北方向に伸び、西に15°振る。北端は西に屈曲し、SS01のラインと合う。溝の床面は素掘りで側石は大小の切石を配している。これら切石は加工されているが、かなり粗い。溝内からは沖縄産陶器や赤瓦が出土している。南から北に傾斜し、北端では傾斜がやや急となる。北端、南端は崩されているため性格については不明である。

柱穴

SA01の東西面に添って根石確認のためのトレンチを入れ、その最下層から柱穴が多数検出された。柱穴は赤土混じりの暗赤褐色粘質土層に掘り込まれるものと地山面（赤土）に掘り込まれるものが見られた。これらの柱穴はSR01の根石が据えられる赤土混じりの黒褐色粘質土層に掘り込まれていることから、SR01と同時期或いはそれ以前であることが考えられる。柱径は大小様々でプランが揃うといった状況も見られない。深さも0.1m～0.3mと区々である。

またC-3グリッドからも赤土混じりの黒褐色粘質土層に掘り込む形で柱穴が多数、確認された。柱径は大小様々でプランが揃うといった状況も見られない。全体的に浅く、深さは0.1mより深いものは見られなかった。

土壙

C-3グリッドとB-4グリッドで確認されている。C-3グリッドでは2基の土壙が切り合って確認されている。何れも略円形で赤土混じりの暗赤褐色粘質土層に0.1m掘り込む。直径1.1mと0.6mを測る。直径1.1mの床面から小礫が出土している。B-4グリッドでは後之御庭の床面を掘り込んで楕円形状の土壙が切り合う形で２基確認されている。SR01から西１mに位置しており、何れも直径は0.5～0.6mで新しい土壙内からは塼が出土している。

その他の遺構

沖縄神社参道

B-3グリッド西側からコンクリート造りの床面が検出された。幅は3.8mで内部は細粒砂岩で上面は全面的にコンクリートで覆う。細粒砂岩の下部は小礫を薄く敷いている。正殿裏の出入り口へ方向が合ってくる点、また出入口の下方に取り付く石段と幅が一致することから、昭和８（1933）年建立の沖縄神社拝殿（首里城正殿）と本殿とを結ぶ参道に同定される。

第29図　御内原地区全体図

第４章　出土遺物

出土遺物は瓦、塼が全体量の７割以上を占め、次に沖縄産、中国産、本土産、タイ産、ベトナム産、韓半島産等の陶磁器が全体量の２割程度、あとは瓦質土器、陶質土器、在地土器等の土器類、そして金属製品、銭貨、石製品、貝製品、骨製品、玉製品、木製品、土製品、煙管、円盤状製品等と多種多様な遺物が得られている。

これらの遺物の中でも中国産の青磁、染付に関しては盤、蓋、壷、瓶、鉢といった大型製品や、そして翡翠釉の大型皿、韓半島産の瓶、法花と呼ばれる中国産陶器壷といった沖縄県内でも確認事例の少ない製品が出土している。このことは御内原地区が首里城跡の中でも重要な場所であったこと示唆している。その一方で青磁の碗、皿、染付の碗、皿の中で成形や施釉が雑な粗製品の一群も見ることができた。これらは小型製品に占められていることから雑器として使用されていた可能性があり、御内原でも日常生活用品がある程度存在していたことが解った。

出土遺物の時期であるが概ね13世紀後から近世、近代まで幅広く出土しており、遺構に伴って出土している遺物では15～17世紀頃が多く見られた。今回の報告では遺物包含層、遺構に伴う遺物を中心に記載し、近代以降、琉大造成層からの出土遺物に関しては特に注目される遺物のみを報告することとする。

第１節　青磁

ここでは102点を報告する。器種としては碗、皿、盤、壷、瓶、香炉、鉢、蓋、杯、把手がある。全形が窺える資料は碗、皿といった小型製品でそれ以外は破片資料となる。総じて碗、皿が全体のほとんどを占め、盤、壷、その他と続く。碗、皿に関しては焼成不良のもの、成形が雑で口縁部に歪みが見られるもの、釉が雑に施されているため、一部露胎となるものも多数確認された。一方で壷、瓶、鉢といった大型製品は焼成、成型、施釉が丁寧に成されており、精製品としての様相を強く有している。時期は元代から明代まで及ぶ。以下にその概要を述べ、個々についての詳細は観察表にまとめる。

碗（第30図１～５・７～22、第31図23～40・42・44～48、第32図49・50）

文様については、鎬蓮弁文、無鎬蓮弁文、線刻細蓮弁文、雷文帯、無文に大別することができる。これら文様と口縁部形態の関係について触れると線刻細蓮弁文、雷文帯は直口口縁に限定されるのに対して、無文は直口、外反、玉縁口縁とバリエーションが見られる。底部形態との関係では鎬蓮弁文では高台が低く、薄い。高台外面下部が斜めに面取りされるものが見られる。無鎬蓮弁文では高台は低く、若干、「ハ」の字状に開くものがあり、線刻細蓮弁文では高台は高いが内刳りが浅く、外面下部が斜めに面取りされるものが見られる。無文では線刻細蓮弁文で見られる高台は高いが内刳りが浅いもの、鎬蓮弁文の高台が低く、薄い、高台外面下部が斜めに面取りされるものに加え、高台が大きく「ハ」の字状に開くもの（第31図32）が加わる。また胴部の文様が不明であるが、高台が低く畳付が水平に切られ、幅を有するもの（第31図42）や畳付が尖り、外面高台下部が斜めに面取られるもの（第31図47）も見られる。内底面の文様は菊花文、字款、十字花文、花卉文等が見られる。文様、口縁部形態、底部形態に相関関係が見られるものを以下４類に分けて、その詳細を記す。

Ⅰ類（第30図9，11）

線刻細連弁文で直口口縁、高台は高いが内刳りが浅く、外面下部が斜めに面取りされる。また口縁端部が若干、肥厚する。

Ⅱ類（第30図13）

雷文帯を有し、直口口縁、畳付が尖り、外面高台下部が斜めに面取られる。また口縁端部が若干、肥厚する。

Ⅲ類（第31図32）

無文で口縁部が直口し、高台が大きく「ハ」の字状に開くもの。底部中央の器壁が厚くなる。

Ⅳ類

無文で口縁部が直口し、高台は高いが内刳りが浅く外面下部が斜めに面取りされるもの（Ⅳ-a）、高台が低く、薄い、高台外面下部が斜めに面取りされるもの（Ⅳ-b）。前者は第31図25、後者は第31図24に相当する。

これら以外の資料に関しては文様別に分類し、集計表においてまとめた。分類は以下に記す。

鏑蓮弁文

Ⅰ類：幅広の鏑蓮弁文

Ⅱ類：幅の狭い蓮弁文

線刻細蓮弁文

Ⅰ類：弁間と剣先とが対応する。

Ⅱ類：弁間と剣先とが対応しない。

Ⅲ類：剣先が見られない。

雷文帯

Ⅰ類：個々の雷文が単独で描かれ、単位として認められる。

Ⅱ類：個々の雷文が略化し、単位として認められない。

皿（第30図、第31図41・43、第32図50～71）

文様については蓮弁文、内面櫛描文、無文が見られ、蓮弁文は口折れ皿、内面櫛描文は腰折れ皿、無文には口折れ、腰折れ、そして直口口縁が見られる。細蓮弁文は直口口縁であるが小碗として範疇に入る可能性があるのでここでは参考までに掲げておく（第32図50）。底部形態では高台が「ハ」の字状に開き、外面下部が斜めに面取りされるもの、高台は低く畳付は尖り、外面下部が斜めに面取りされるもの、高台は低く、畳付は水平に切られているものが見られる。文様、口縁部形態、底部形態に相関関係が見られるものを以下３類に分けて、その詳細を記す。

Ⅰ類（第32図59）

蓮弁文で口折れ、底部形態では高台が「ハ」の字状に開き、外面下部が斜めに面取りされる。口縁部形態のみで言うと第32図51のように口折れの意識が高いものや、第32図52のように外反の意識が弱いものとバリエーションが見られる。

Ⅱ類（第32図60，62，65）

無文で腰折れ、底部形態が高台は低く畳付は尖り、外面下部が斜めに面取りされるものをⅡ-a（第32図62，65）、高台は低く、畳付は水平に切られているものをⅡ-b（第32図60）とする。

Ⅲ類（第32図66）

直口口縁で無文、高台は低く畳付は尖り、外底面中央が下方に膨らむ。

盤（第32図72～75、第33図76～88）

文様については櫛描き、丸彫りによる蓮弁文、篦描きによる草花文が見られる。前者は口縁端部を上方に摘み上げるものに、後者は稜花盤に見られる。上方に摘み上げるものはかなり幅広の蓮弁文を描くもの（第33図76）、

無文のもの（第33図78）とバリエーションが見られる。鍔縁のものは無文のみ見られた。鍔を持たない外反口縁のものは丸彫りによる蓮弁文と無文のものが見られる。また外面胴部は無文か圏線を施すものが見られたが第33図86のみ縦位の区画線を施すものが見られた。底部形態は畳付が丸みを帯び、外面高台下部は斜めに面取られ、外底面へ緩やかに立ち上がるもの（第33図86）と畳付はやや幅を有し外底面へ直に立ち上がるものが見られる（第33図88）。

香炉（第33図89～92）

4点図示した。筒形と、胴部が膨らみ口縁部が外反するものに大別することができる。筒形は内側に口縁部が肥厚するものが見られ、文様は胴部に圏線若しくは第33図91のような算木文が見られる。底部は第33図92に見られるような、脚が3足付属するものがある。

蓋（第34図93）

1点のみ図示した。詳細は観察表に譲る。

壷（第34図94・95）

2点図示した。口縁部が外反するものと直口するものに大別することができる。頸部は何れも短く、胴部に文様が描かれる。

鉢（第34図96）

1点のみ図示した。詳細は観察表に譲る。

瓶（第34図97～99）

3点図示した。頸部、胴上部、胴下部をそれぞれ1点ずつ取り上げた。文様は櫛描き並びに篦描きで、第34図99は京の内地区で出土した大瓶に類似する（沖縄県教育委員会　1998）。第34図98は釉調が淡く、青白磁に近い。

杯（第34図100・101）

2点図示した。何れも直口口縁で口唇部は丸みを帯びる。底部は第34図101に見られるように碁笥底となる。文様は特に見られない。

把手（第34図102）

1点のみ図示した。詳細は観察表に譲る。

第1表　青磁出土状況

分類・器種			出土地	SR							SA						SS	SD	SK							SR05+SR01	世誇殿				戦前遺物包含層	取り上げ番号	合計
				01	02	04	05	06	08	09	01	02	03	05	06	02.03.04	01	01	02	03	04	05	06	07	08		前庭埋土	珊瑚混粗砂質土層	黄褐色微砂層	基壇内ピット			
碗	鎬蓮弁文	Ⅰ類	胴部	1						2																							3
		Ⅱ類	口縁部																			1									1		2
			胴部																									1					1
			底部							1									1														2
	無鎬蓮弁文	口縁部										1						2						1									4
		胴　部					4			1								2						1									8
		底　部																						1									1
	線刻細蓮弁文	Ⅰ類	口縁部												1			4					1										6
		Ⅱ類									1		1					2															4
		Ⅲ類																1				1											2
		類不明																3															3
		胴　部											2			1	1	6									3		2	1			16
	無文	玉縁	口縁部	2	1													1										1	1	1			7
		外反	口～底																										1				1
			口縁部	6	1	5	14		1	5	1			7		1			4			4	2	1	1			3		1	3		60
		直口	口縁部		2													5		1		1					1						10
		胴　部		1									1	6					5					1									14
		底　部		3	1	1								2										1							3		11
	有文	玉縁																						1									1
		外反	口縁部										1				1		2			1							1				6
		直口		1			1						1										1										4
		胴部			1								5	1		1								2			1						11
		底部		1			4	2		1				2			1	1	1														13
	雷文帯	Ⅰ類	口縁部		1																											1		2
		Ⅱ類					1																	1										2
	胴　部					3	21	3		4								12					2	1									46
大碗	有文	胴部											1																				1
皿	外　反	口～底					1																										2	3
		口縁部				2		2						3	1			2	1		1	2	1	1			1	3		2	3		25
	口　折	口～底					4				1		1	1			2							1		1							11
		口縁部					1																										1
		底部	1																														1
	直　口		1			2									1			1								2							7
	稜　花	口縁部											4																				4
	玉　縁																																1
	胴　部				1	2	2				1			3	1					1									1				11
	底　部		2		1	2	1			2			1	1			1	1															12
碗or皿	口縁部				1						3	1	1	3													4				2		15
	胴　部		23		3						15			10	7	1	2		1			15	8	10	4		5	4	4		18		130
	底　部										1		2			1							1										5
盤	鍔縁	筺描連弁	口縁部																								1						1
		櫛描蓮弁				2	3	1					1																	1	1	1	10
		蓮弁不明																									2			1	1		4
		無文			1	1																							1	1			4
	外反	筺描連弁																															0
		櫛描蓮弁				2								1													1	1					5
		有文																				1									1		2
		無文					1				1												1					1					4
	稜　花	口縁部																2													1		3
	胴　部		5		2	2	1		1	1			2					1			1	2	2	2								22
	有　文	底部				2							1																	1		4
	無　文					2																1										3
	不　明					4																											4
香炉	口～底																	1															1
	口縁部					1								1										1									3
	胴　部					1																											1
	底　部					2																											2
蓋																								1									1
壷	口縁部				1	1																											2
酒会壷	口縁部		1																														1
	胴　部		4															1						2									7
	蓋			1		1								1	1																		4
鉢	口縁部																	2															2
	胴　部												1																					1
鉢or盤	胴　部												1																					1
瓶	胴　部									1								1													1		2		5
	底　部																							1									1
	脚						1																											1
杯	口～底						1																											1
	口縁部					1												1															2
器種不明	耳			1																													1
	胴　部		2			1		1											3			1							2				10
	底　部		1			1																							2		1		5
合　計			55	10	26	81	12	2	18	25	2	24	44	13	5	8	52	18	2	2	30	19	27	8	1	21	14	15	9	39	3	585	

注　「＋」：接合の意

第２表　青磁観察一覧（1）

単位：cm

挿図番号 図版番号		器種	部位	素　地	口径 器高 高台径	器形･成形･文様等の特徴	釉色･施釉状況･貫入等	出土地
第30図・図版11	1	碗	胴	胎土は密で大きい気泡が見られる。白色微粒子が混入する。	－ － －	幅の狭い鎬蓮弁文が外面胴部に見られる。内面には圏線が１条見られる。	淡緑色の透明釉。貫入は見られない。	SR09 埋土
	2		胴～底	胎土は密で大きい気泡が多く見られる。褐色粗砂が混入する。	－ － 3.8	胴部に幅の狭い蓮弁文が見られる。内底面には圏線が1条見られる。	明緑色のやや透明度を有する釉。	SK02 栗石内
	3		底	胎土は密で、気泡が多く見られる。	－ － 6.2	幅の狭い鎬連弁文が外面胴部に見られる。内底面には線彫りの文様が見られる。底部から胴部にかけて緩やかに立ち上がる。外面高台下部は斜めに面取りされる。	明緑色の失透釉。高台内面途中まで施釉される。高台外面は一部露胎となる。荒い貫入が内底面の一部に見られる。	SR09 埋土
	4		胴～底	胎土は密。白・黒色微粒子が混入する。	－ － 5.8	高台は低く、底部から胴部にかけては膨らみながら移行する。外面胴部に無鎬蓮弁文が見られる。内底面には花文が見られる。	青緑色の失透釉。外底面を蛇の目状に釉剥ぎする。内面に粗い貫入が見られる。	SK07 埋土暗茶褐色土
	5		底	胎土は密で気泡が見られる。	－ － 4.4	蓮弁文碗の底部。片切り彫りの蓮弁が胴部に、内底面には圏線が見られる。高台径は小さく、畳付は水平に切られる。	明緑色のやや透明度を有する釉。貫入は見られない。高台脇まで施釉され、畳付と外底面が露胎となる。	A－3 撹乱
	6	皿	底	胎土は密で黒色の粗粒子、白色の微粒子が混入する。	－ － 5.3	外面胴部に蓮弁文と内底面に印花文が見られる。外面高台には斜線が見られる。高台は低く、畳付は尖る。	淡緑色の透明釉。外底面のみ露胎となる。	SR04 根石
	7	碗	口～胴	胎土はやや粗い。白･褐色微粒子が混入する。	13.3 － －	雷文帯碗。略化された雷文で胴部にはラマ式蓮弁文が見られる。	明緑色の失透釉。口唇部のみ釉を薄く施す。貫入は見られない。	SK07 埋土
	8		口	胎土は密で気泡が見られる。	13.8 － －	線刻細蓮弁文碗。弁間と弁先が対応している。	オリーブ褐色のやや透明度を有する釉。口唇部の釉は薄くなる。内外面共に細かい貫入が見られる。	SA01 埋土
	9		口～底	胎土はやや粗い。白色細砂が混入する。	11.8 7.1～7.4 4.6	細蓮弁文碗。蓮弁は略化されているが蓮弁としての単位を成す。弁間は高台脇までは伸びず、胴下部で止まる。内底面に花文が見られる。	青緑色の失透釉。高台まで施釉。全釉後、外底面を円形に剥ぎ取る。貫入は見られない。	SD01 造成土
	10		口～胴	胎土は密で黒色微粒子が僅かに見られる。	－ － －	線刻細蓮弁文碗。弁間と弁先が概ね対応している。弁間は一定ではない。内面胴部には片切彫りの文様が見られる。	深緑色の透明釉。全体的に厚く施釉するが口唇部のみ薄くなる。貫入は見られない。	SA06 暗褐色混砂土
	11		口～底	胎土は密。気泡が僅かに見られる。褐色粗砂が混入する。	11.4 7.05 5.0	直口口縁碗で胴部に線刻細蓮弁文が見られる。口縁部が若干、肥厚する。蓮弁は弁間と弁先が対応していない。内底面には不鮮明であるが文様が見られる。	オリーブ色の失透釉。全釉後、外底面を蛇の目状に釉剥ぎする。高台内面も一部露胎となる。貫入は見られない。	SD01 造成土
	12		口	胎土は密。	20.6 － －	中心で逆回転させた雷文帯碗。内面にも文様は見られるが詳細は不明。	明緑色の透明釉。全体的に厚く施釉するが口唇部のみ薄くなる。貫入は見られない。	SR02 栗石内
	13		口～底	胎土は密で灰白色を呈する。気泡が見られる。白色粗砂が僅かに混入する。	16.0 8.5 6.4	中心で逆回転させた雷文帯碗。外面には不鮮明であるが刻花文が見られる。内底面には「福」字が印刻される。畳付は砂粒が溶着する。	明緑色の失透釉。全釉後、蛇の目状に釉剥ぎする。高台外面の一部は露胎となる。貫入は見られない。	SK07 埋土

注　「－」：測定不可

第２表　青磁観察一覧（2）

単位：cm

挿図番号 図版番号		器種	部位	素　地	口径 器高 高台径	器形・成形・文様等の特徴	釉色・施釉状況・貫入等	出土地
第30図・図版11	14	碗	口	胎土は密で灰色を呈する。黒色粗粒子が多く見られる。	18.6 － －	口縁部が若干、肥厚する外反碗。口縁部直下に２条の横線が見られる。	オリーブ色の失透釉。内外面共に細かい貫入が見られる。	A3・A4 黄褐色微砂層
	15			胎土は密で大きい気泡が僅かに見られる。白色のやや粗い粒子が混入する。	－ － －	外面口縁部直下に２条の横線が見られる。口縁部は直口する。	明緑色のやや透明度を有する釉。内外面共にやや細かい貫入が見られる。	SK06 埋土
	16		口～胴	胎土は密で灰色を呈する。白・黒色細砂粒が混入。気泡が見られる。	14.8 － －	外反碗で外面には回転篦削り痕が見られる。胴下部には砂粒が一部溶着する。文様は内面に圏線が１条見られる。	明緑色のやや透明度を有する釉。貫入は見られない。	SA05 淡灰褐混砂レキ土
	17			胎土は密で、白色細砂粒が混入する。	16.4 － －	口縁部が外反、口縁端部が玉縁状となる。内面口縁下部に幅広の圏線が１条見られる。	明緑色の透明釉。全体に粗い貫入が見られる。	世誇基壇内ピット
	18			胎土は密で灰色を呈する。気泡が僅かに見られる。白色粗粒子が混入する。	15.9 － －	無文外反碗。外面胴部に回転篦削り痕が見られる。	明緑色のやや透明度を有する釉。内外面共に一部粗い貫入が見られる。	SR05 埋土
	19		口	胎土はやや粗く、白・黒粒子が多く見られる。気泡も多く見られる。	18.0 － －	無文外反碗で口縁部が玉縁状となる。	深緑色の失透釉。内外面共に細かい貫入が見られる。	SR04 根石
	20			胎土はやや粗く、灰色を呈する。気泡が見られる。	16.8 － －	無文外反碗。外面胴部に回転篦削り痕が見られる。	明緑色の透明釉。口唇部のみ薄く施釉。内外面共に細かい貫入が見られる。	A-3 SK05
	21		口～胴	胎土はやや粗い。小さい気泡が多く見られる。白色微粒子が混入する。	14.6 － －	外反碗で外面口縁下部に２条の横帯文が見られる。外面は小孔が多く見られる。	明緑色の失透釉。外面胴部に細かい貫入が見られる。	A-3 SK05
	22			胎土はやや粗く、大、小の気泡が見られる。白・褐色微粒子が混入する。	13.5 － －	無文外反碗。外面胴部には回転篦削り痕が見られる。器表に砂粒が溶着する。	青緑色の透明釉。内外面共に薄く釉を施す。内面の一部に貫入が見られる。	A-3 SK05
第31図・図版12	23		口	胎土はやや粗く、小さい気泡が僅かに見られる。	13.8 － －	口縁部が若干、玉縁状となる。外反碗。	明緑色の透明釉。内外面共に細かい貫入が見られる。	SK08 内
	24		口～底	胎土は密で白色粗砂、気泡が見られる。	16.1 6.8 5.6	外反碗で内底面は若干盛り上がる。外面には回転篦削り痕が見られる。口唇部には砂粒が溶着しており、器表には小孔が多く見られる。文様は内外面共に圏線が１条見られる。	明緑色の失透釉。口縁部周辺に細かい貫入が見られる。高台外面まで施釉され、畳付、外底面は露胎となる。	SA05 淡灰褐混砂礫土
	25			胎土は密で大小の気泡が見られる。白・黒・褐色のやや粗い粒子が見られる。	15.3 7.5 5.4	口縁部が玉縁状となる無文外反碗。外面胴部には回転篦削り痕が明瞭に見られる。器表には小孔が多く見られる。	青緑色の失透釉。内底面は円形に釉剥ぎされ、外面は高台下部まで施釉。畳付から外底面にかけては露胎となる。	№427
	26		口～胴	胎土は密で灰色を呈する。黒・褐色微粒子が混入する。	19.6 － －	外反碗で口縁直下に圏線が１条見られる。胴部は膨らみを有して底部へ移行する。	明緑色のやや透明度を有する釉。外面胴下部に細かい貫入が見られる。	SR08 裏込

注　「－」：測定不可

第２表　青磁観察一覧（3）

単位：cm

挿図番号 図版番号		器種	部位	素　地	口径 器高 高台径	器形･成形･文様等の特徴	釉色･施釉状況･貫入等	出土地
第31図・図版12	27	碗	口～胴	胎土は密で大きい気泡が僅かに見られる。白・黒色粗砂が僅かに混入する。	14.2 － －	外反碗で内底面に圏線が１条見られる。外面胴上部にも圏線が１条見られる。	明緑色のやや透明度を有する釉。口唇部のみ釉は薄く施す。貫入は見られない。	SR09 埋土
	28		口	胎土は密で白色細砂が混入する。	14.3 － －	無文外反碗。胴部は膨らみを有する。	深緑色の失透釉。口唇部のみ釉が薄くなる。貫入は見られない。	SA02・04･03上 造成土
	29			胎土は密で大小の黒色粒子が混入する。	14.4 － －	口縁部が玉縁状となる外反碗。文様は見られないが器表に砂粒が溶着する。外面には回転篦削り痕が見られる。	明緑色の失透釉。貫入は外面に一部見られる。	黄褐色 微砂層
	30			胎土は密で灰白色を呈する。白・黒色の微粒子が混入する。	17.0 － －	無文の玉縁口縁碗。	明緑色の透明釉。全体的に均一に施釉されるが口唇部のみ薄い。内外面共に粗い貫入が見られる。	A-3･4 珊瑚混 粗砂質 土層
	31			胎土は密で灰白色を呈する。黒色粒子が僅かに、白色粒子が多く混入する。	－ － －	口縁部が玉縁状となる外反碗。	明緑色の透明釉。内外面共に細かい貫入が見られる。	A-3 珊瑚混 粗砂質 土層
	32		口～低	胎土は密で大小の気泡が多く見られる。白色のやや粗い粒子が多く混入する。	14.8 6.9 6.0	直口碗。 器表には小孔が多く見られる。高台内面下部には砂粒がまとまって溶着する。	明緑色の失透釉で外底面のみ露胎となる。釉の厚みは区々であるため、器表には凹凸が見られる。貫入は見られない。	A-4① SA01 埋石
	33		口	胎土が密で白色粗砂が混入する。	14.0 － －	直線状に口が大きく開く直口碗。外面口縁下部に２条の圏線。内面にも１条の圏線が見られる。	青緑色の透明釉。内外面共に薄く施釉する。内外面共に細かい貫入が見られる。	SK03 埋土暗 茶褐色 土
	34		口～胴	胎土はやや粗く､灰色を呈する。白､黒微粒子が大量に混入する。	15.8 － －	玉縁口縁の外反碗。胴部はやや膨らみを有する。	深緑色の透明釉。内外面に細かい貫入が見られる。	SK06 埋土
	35			胎土は密で大きい気泡が僅かに見られる。褐色微粒子が混入する。	16.4 － －	器壁は厚く大振りの直口碗。	青緑色の失透釉。口唇部のみ釉は薄く施される。貫入は見られない。	SR02 栗石内
	36		口	胎土は密で灰色を呈する。大きい気泡が僅かに見られる。	－ － －	外面胴部に片切り彫りの無鎬蓮弁文を配する外反碗。	深緑色のやや透明度を有する釉。内外面ともに厚く釉を施す。口唇部のみ釉は薄く施す。貫入は見られない。	SA02 埋土
	37			胎土は密で黒色微粒子が見られる。	－ － －	内面胴部に刻花文が見られる外反碗。外面口縁下部に圏線が１条見られる。	深緑色の失透釉。内外面共に厚く施釉。口唇部のみ釉は薄くなる。貫入は見られない。	SA03 栗石下 層
	38		口～胴	胎土はやや粗く、小さい気泡が見られる。	19.0 － －	無文外反碗。外面胴部に回転篦削り痕が見られる。	明黄褐色の透明釉。全体的に薄く釉を施す。内外面共に細かい貫入が見られる。	SR05 下層
	39			胎土は密で白色微粒子が混入する。	18.0 － －	大振りの外反碗。外面胴部に片切彫りの唐草文が見られる。	明緑色の失透釉。内外面共に粗い貫入が見られる。	SK02 栗石
	40		口	胎土は密で大きい気泡が僅かに見られる。	15.8 － －	外反碗。外面胴部にラマ式蓮弁文か。	青緑色の失透釉。内外面共に釉を厚く施す。貫入は見られない。	SS01 埋土

注 「－」：測定不可

第２表　青磁観察一覧（4）

単位：cm

挿図番号 図版番号		器種	部位	素　地	口径 器高 高台径	器形･成形･文様等の特徴	釉色･施釉状況･貫入等	出土地
第31図・図版12	41	皿	胴～底	胎土は密で大きい気泡が見られる。白色微粒子が混入する。	－ － 7.8	高台は低く、断面形が逆台形となる。畳付けは水平となる。内底面と外面胴部に文様が見られる。	明緑色の失透釉。外底面は円形に釉が掻き取られる。内外面共に細かい貫入が見られる。	A-3 トレンチ ①撹乱
	42	碗	底	胎土は密。気泡が見られる。白色粗粒子が混入する。	－ － 5.9	高台径が大きく、畳付が水平に切られる底部。畳付の幅は一定ではない。内底面には不鮮明であるが波状文が見られる。内外面共に砂粒がかなり溶着しているのが窺われる。	青緑色のやや透明度を有する釉。畳付と外底面が露胎、外面高台も一部、露胎となる。貫入は見られない。	SA05 埋土
	43	皿	底	胎土は密で白・黒色細砂粒が僅かに混入する。	－ － 6.8	内底面に草花文か。内面高台下部に圏線が１条見られる。畳付に砂粒が外底面中央に粘土塊が溶着する。	明緑色の透明釉。内外面共に粗い貫入が見られる。外底面は全釉後、蛇の目状に釉剥ぎされる。	SA05 淡灰褐 混砂礫 土
	44	碗	底	胎土は密で、気泡が見られる。白色細砂が混入する。	－ － 6.6	高台が低く、同径が大きい。内底面に十字花文が印刻される。畳付は水平に切られる。外底面には焼成時の亀裂が見られる。	暗オリーブ色の失透釉。外面高台下部から外底面にかけて露胎となる。内外面共に細かい貫入が見られる。	A-3 SR05 裏込
	45		胴～底	胎土は密で大小の気泡が見られる。白、褐色微粒子が僅かに混入する。	－ － 5.8	高台径の小さい碗の底部。内底面には菊花文と圏線が描かれる。	オリーブ色の失透釉で畳付と内底面の一部が露胎となる貫入は見られない。	SR01 裏込
	46		底	胎土はやや粗く､白･黒・黄色微粒子が混入する。	－ － 6.4	高台径からやや大振りの碗と考えられる。内底面に菊花文と圏線が１条見られる。	明緑色の失透釉。畳付まで施釉され、外底面は露胎となる。内外面共に細かい貫入が見られる。	SA05 埋土
	47			胎土はやや粗い。大きい気泡が見られる。白色微粒子が多く見られる。	－ － 4.8	高台は高く、内刳りは浅い。高台下部は斜めに面取りされる。胴部には回転篦削り痕が見られる。	淡緑色のやや透明度を有する釉。高台下部から外底面にかけて露胎となる。外面高台の一部も露胎となる。	SD01 下層
	48		胴～底	胎土は密で灰色を呈する｡小さい気泡が多く見られる｡白､黒色微粒子が混入する。	－ － 6.3	畳付けは水平で高台下部は斜めに面取りされる。器表には小孔が僅かに見られる。	淡緑色の透明釉。畳付から外底面にかけて露胎となる。内面には粗い貫入が見られる。	SA05 淡灰褐 混砂礫 土
第32図・図版13	49	碗	底	胎土はやや粗く、白色の粗細砂が混入する。	－ － 6.4	高台径は大きく、畳付は水平、外面高台下部は斜めに面取られる。内底面に印花文か。	深緑色のやや透明度を有する釉｡内底面は円形に釉剥ぎされるが雑である｡畳付から外底面にかけて露胎となる。	A－3 トレンチ ①撹乱
	50	皿	口～胴	胎土は密で一部、褐色を呈する。小さい気泡が見られる。灰色の粗粒子がわずかに混入する。	12.0 － －	直口皿。外面胴部に弁間と弁先が繋がらない細蓮弁文が見られる。内面胴部には不明瞭であるが圏線が見られる。	淡緑色の失透釉。内外面共に細かい貫入が見られる。	SA06 暗褐色 混砂土
	51			胎土は密で黒色細砂粒が混入する。細かい気泡が見られる。	12.0 － －	口折皿で外面胴部に片切彫りの鎬蓮弁文が見られる。蓮弁の幅は一定で、描き方は雑である。	明緑色の失透釉。貫入は見られない。	SR05 基部
	52			胎土は密。小さい気泡が見られる。	12.0 － －	口折皿。外面胴部に盛り上がりを有した蓮弁文が見られる。内面胴部に花唐草文か。口唇部には櫛描きの波状文が見られる。器表に小孔が僅かに見られる。	明緑色の失透釉。粗い貫入が見られる。	SK07 埋土

注　「－」：測定不可

第２表　青磁観察一覧（5）

単位：cm

挿図番号 図版番号		器種	部位	素　地	口径 器高 高台径	器形・成形・文様等の特徴	釉色・施釉状況・貫入等	出土地
第32図・図版13	53	皿	胴～底	胎土は密で小さい気泡が多く見られる。外底面の一部が褐色を呈する。白色微粒子が僅かに混入する。	－ － 5.5	高台はやや高く、畳付は丸みを帯びる。高台下部は斜めに面取りされる。外底面には小孔が多く見られる。	明緑色の透明釉を畳付を除いて施す。内外面共に粗い貫入が見られる。	SS01 埋土
	54		口～胴	胎土は密で気泡が見られる。黒色微粒子が僅かに混入する。	－ － －	口縁部近くで外反する、深めの皿。外面に鎬蓮弁文が見られる。	青緑色のやや透明度を有する釉。内外面共に細かい貫入が見られる。	A-3・4 珊瑚混粗砂質土層
	55		口	胎土は密で灰色を呈する。気泡が多く見られる。	－ － －	口折皿で外面胴部に蓮弁文が見られる。	明緑色のやや透明度を有する釉。内外面共に細かい貫入が見られる。	SA01 埋土
	56			胎土は密で黒色微粒子が見られる。	11.5 － －	胴部は直線状となる口折皿。外面胴部に片切彫りの蓮弁文が見られる。	明緑色のやや透明度を有する釉。貫入は見られない。	SA05 埋土
	57		口～胴	胎土は密。白色微粒子と黒色素粒子が僅かに混入する。	12.4 － －	口折れの外反皿。外面には胴部に無鎬で弁幅が区々の蓮弁文が描かれる。内面の口縁部直下には圏線が１条僅かに確認できる。	明緑色のやや透明度を有する釉。釉は口縁部近くは薄く、内底面近くは厚く施される。貫入は見られない。	A-3 トレンチ①撹乱
	58			胎土は密で大きい気泡が見られる。白色粗砂が多く混入する。	11.3 － －	口折皿。外面胴部に無鎬蓮弁文が見られる。蓮弁の形は区々で、描き方も雑である。	明緑色のやや透明度を有する釉。貫入は見られない。	SS01 埋土
	59		口～低	胎土は密で底部は陶胎となる。大小の気泡が多く見られる。	11.6 4.0 5.9	口折れ皿で高台は低く、成形はかなり雑。畳付けは尖り、内底面中央は盛り上がる。外面胴部には鎬蓮弁文が描かれる。	明緑色のやや透明度を有する釉で畳付付近まで施釉される。内外面共に細かい貫入が見られる。	B-3 SR05 裏込、SR01 根石
	60		口～低	胎土は密で灰色を呈する。大きい気泡が見られる。白色微粒子が混入する。	12.8 3.3 6.5	口縁部が玉縁状となる外反碗。外面口縁部直下に２条の圏線が見られる。	薄い明緑色の透明釉。畳付から外底面まで露胎となる。貫入は見られない。	SR05 埋土
	61		口～胴	胎土は密。白色微粒子が多く混入する。	12.4 － －	外反皿で口唇部は尖る。外面には回転篦削り痕が僅かに見られる。	深緑色のやや透明度を有する釉。貫入は見られない。	SA05 淡灰褐混砂礫土
	62		口～低	胎土は密で大小の気泡が多く見られる。白色粗砂が混入する。	13.0 3.4 6.8	無文外反皿。外面胴部に回転篦削り痕が明瞭に見られる。外面高台下部は斜めに面取りされ、畳付は尖る。内底面には圏線が1条見られる。器表には小孔が僅かに見られる。	淡緑色の失透釉。貫入は見られない。外面高台下部まで施釉され、畳付から内底面まで露胎となる。	No.22
	63		口～胴	胎土は密で白・褐色細砂粒が混入する。	11.2 － －	外面下部に２条の圏線が見られる腰折皿。口唇部は僅かに段をつくる。	淡緑色の失透釉。内面に不鮮明であるが細かい貫入が見られる。	A-3 SK05
	64			胎土は密で気泡が見られる。黒色微粒子が僅かに混入する。	13.0 － －	腰折れの外反皿。	青緑色のやや透明度を有する釉。口縁部近くの釉は薄く施される。貫入は見られない。	SA06 裏込
	65		口～低	胎土は粗く、底部の一部が陶胎となる。大小の白、褐色砂粒が混入する。	12.2 3.2 7.8	口縁部は玉縁状に肥厚し、腰部は膨らみを有する。高台は低く、畳付けは尖る。高台下部は斜めに面取られる。内底面に圏線が１条見られる。	暗オリーブ色のやや透明度を有する釉。外底面中央辺りは露胎となる。内底面は円形に釉剥ぎされる。内外面共に細かい貫入が見られる。	No.271

注　「－」：測定不可

第２表　青磁観察一覧（6）

単位：cm

挿図番号 図版番号		器種	部位	素　地	口径 器高 高台径	器形・成形・文様等の特徴	釉色・施釉状況・貫入等	出土地
第32図・図版13	66	皿	口～底	胎土は密で灰色を呈する。大小の気泡が多く見られる。白、褐、黒色微粒子が多く混入する。	12.4 3.6 6.4	直口皿で高台は低く畳付は水平となる。内底面中央はやや盛り上がり、外面胴部には回転轆轤成形痕が明瞭に見られる。内底面には圏線１条と不明瞭であるが花文が描かれる。内外面共に細砂粒が溶着する。	深緑色のやや透明度を有する釉で高台途中まで施される。一部、外面胴部も露胎となる。貫入は見られない。	SR05 基部
	67		底	胎土は密。白色微粒子が多く混入する。	－ － 7.4	高台は低く、外面下部は斜めに面取りされる。	明緑色の透明釉。施釉の厚さには斑がある。貫入は見られない。	SA03 栗石上層
	68			胎土は密で大小の気泡が多く見られる。白色微粒子が混入する。	－ － 6.0	器壁は薄く、胴部へは緩やかに立ち上がりを見せる。	明緑色のやや透明度を有する釉を全体的にやや厚く施す。貫入は見られない。	SR09 埋土
	69		口	胎土は密で気泡が見られる。白色粗砂が混入する。	12.4 － －	稜花皿で内面胴部に２条１組の波状文とその下部に唐草文か。外面にも唐草文と思われる文様が見られる。	明緑色のやや透明度を有する釉。内外面共に粗い貫入が見られる。	SA03 栗石上層
	70		口～胴	胎土はやや粗く、大きい気泡が僅かに見られる。白色細砂粒が多く混入する。	11.8 － －	腰折れの外反稜花皿で内面は口縁を縁取るように２本１組の櫛描文が描かれる。	青緑色の透明釉。胴下部は薄く胴上部から口唇部近くにかけては厚く釉を施す。外面のみ粗い貫入が見られる。	SA03 栗石上層
	71		底	胎土は密で褐色粗粒子が僅かに、黒色微粒子が混入する。	－ － 6.0	口折皿の底部。外面胴部には蓮弁文、内底面にも圏線と文様が見られるが全体構成は不明。	明緑色の失透釉。高台部の施釉は雑で、厚みに斑が見られる。外底面は露胎となる。貫入は見られない。	SR01 裏込
	72	盤	口～胴	胎土は密で大小の気泡が多く見られる。白色粗砂が多く混入する。	26.6 － －	鍔縁盤。端部を上方に折り上げる。内面胴部に丸彫りの蓮弁文が見られる。	青緑色のやや透明度を有する釉。内外面共に厚く施釉するが口唇部のみ薄くなる。釉外面の一部に貫入が見られる。	№37
	73			胎土はやや粗く、小さい気泡が見られる。胴部の一部が陶胎となる。白色微粒子が僅かに混入する。	24.0 － －	口縁端部を上方へつまみ上げる盤。内面胴部には3本単位の、櫛描きの細蓮弁文が描かれるがかなり不明瞭。器表には砂粒が溶着する。	明緑色の失透釉。内外面共に細かい貫入が見られる。	SA03 栗石下層
	74			胎土は密で褐色を呈する。大小の気泡が多く見られる。白色細砂が僅かに混入する。	23.6 － －	口縁端部を上方へつまみ上げる盤。内面胴部には5本単位の、櫛描きの細蓮弁文が描かれる。	明緑色の失透釉で施釉は雑。一部、露胎の部分も見られるため、器表には細かい凹凸が多く見られる。貫入は見られない。	SR05 埋土
	75		口	胎土は密で白色微粒子、砂粒が混入する。	26.0 － －	端部を上方へ折り上げる鍔縁口縁の盤。胴部内面に蓮弁文が見られる。	明緑色のやや透明度を有する釉。粗い貫入が外面に見られる。	SA06 裏込
第33図・図版14	76		口	白・黒色細砂粒が混入。胎土は密。	－ － －	鍔縁口縁の盤。幅広の蓮弁文が内面胴部に見られる。	深緑色の失透釉。粗い貫入が全体的見られる。	A-4・B-4世誇殿前庭埋土
	77		口～胴	胎土は密で大小の気泡が多く見られる。白色微粒子が多く混入する。	－ － －	口縁端部を上方へつまみ上げる盤。内面胴部には丸彫りの細蓮弁文が描かれる。外面胴部には圏線が１条描かれる。	深緑色の透明釉で口唇部は薄く施す。貫入は見られない。	SR04 根石

注　「－」：測定不可

第２表　青磁観察一覧（7）

単位：cm

挿図番号 図版番号		器種	部位	素　地	口径 器高 高台径	器形･成形･文様等の特徴	釉色･施釉状況･貫入等	出土地
第33図・図版14	78	盤	口～胴	胎土は密で大きい気泡が見られる。褐､白色微粒子が混入する。	17.2 － －	口縁部を上方へつまみ上げる盤。 内底面近くに圏線が１条見られる。	淡緑色の透明釉。外面が一部露胎となる。内外面共に細かい貫入が見られる。	世誇殿基壇内ピット
	79			胎土は密で灰色を呈する。白、黒色微粒子が多く混入する。	28.2 － －	口縁端部を上方へつまみ上げる盤。内面胴部には3本単位の､櫛描きの細蓮弁文が、また胴下部には線描きによる草花文が描かれるがかなり不明瞭である。	明緑色のやや透明度を有する釉。釉の厚みは区々であるため、器表には凹凸が見られる。内外面共に粗い貫入が見られる。	世誇殿基壇内ピット
	80		口	胎土は密で細かい気泡が多く見られる。	30.0 － －	鍔縁口縁の盤。文様は見られない。	灰オリーブ色の失透釉を内外面ともに薄く施釉。貫入は見られない。	黄褐色微砂層
	81		口～胴	胎土は密で白・黒色細砂粒が混入する。	26.3 － －	鍔縁は折り上げず平坦となる。胴部はやや膨らみを有する。高台は低くて薄い。	深緑色のやや透明度を有する釉。内外面共に粗い貫入が見られる。	SR04 根石
	82			胎土は密。白・褐色のやや粗い粒子が混入する。	33.0 － －	稜花盤。外面胴部には丸彫りの幅広蓮弁文が、下部には圏線が見られる。内面胴部には幅広の蓮弁文とその上面に片切り彫りの草花文が描かれる。鍔上面には４条の波状文が見られる。	明緑色のやや透明度を有する釉。貫入は見られない。	SD01 造成土
	83			胎土は密で灰色を呈する。小さい気泡が僅かに見られる。	26.3 － －	口縁部が玉縁状となる盤。内面胴部には丸彫りで細蓮弁文が描かれる。器表には小孔が多く見られる。	深緑色のやや透明度を有する釉。内外面共に細かい貫入が見られる。	SA05 埋土
	84		口	胎土が密。	24.4 － －	口縁部が玉縁状となる盤。胴部は緩やかに立ち上がり、器表には凹凸が見られる。	明緑色の失透釉。貫入は見られない。	A-3 SA01 埋土
	85		口～胴	胎土は密で気泡が見られる。白色細砂が混入する。	24.3 － －	口縁部が玉縁状となる盤。内面口縁部直下に圏線が3条､内底面近くに圏線が１条見られる。	暗オリーブ色のやや透明度を有する釉。貫入は見られない。	A-3･4 珊瑚混粗砂質土層
	86		口～底	胎土は密で、大きい気泡が僅かに見られる。	22.8 5.2 9.0	稜花盤｡鍔部にはラマ式連弁文の弁先様の櫛描き文が見られる｡内面胴部は唐草文が､外面胴部には蓮弁の弁間が指ナデで底部から口縁部に向けて表されている。	灰オリーブ色の透明釉。全体的に施釉される。外面胴下部に細かい貫入が見られる。	表採
	87		底	胎土は密で大小の気泡が多く見られる。黒色微粒子が混入する。	－ － －	大型の盤で器壁は厚い。内底面には圏線とその中に片切彫りで牡丹唐草文が描かれる。	淡緑色の透明釉で外底面は輪状に釉が掻き取られる。内外面共に粗い貫入が見られる。	SR05 根石
	88			胎土は密で白・黒色細砂粒が混入する。	－ － 11.6	内面には丸彫りの蓮弁文が、また内外面共に圏線が１条見られる。	明緑色の失透釉。外底面は露胎となる。細かい貫入が内外面共に見られる。	SA05 淡灰褐混砂礫土
	89	香炉	口	胎土は密で気泡が見られる。	9.6 － －	口縁部が内側に肥厚する香炉。外面口縁部直下に2条の対文が見られる。	淡緑色の透明釉。貫入は見られない。	SA06 暗褐色混砂土
	90			胎土は密で気泡が多く見られる。	13.2 － －	三足香炉の口縁部。口唇部は水平で大きく開く。	明緑色の失透釉。内外面共に粗い貫入が見られる。	SK08 埋土

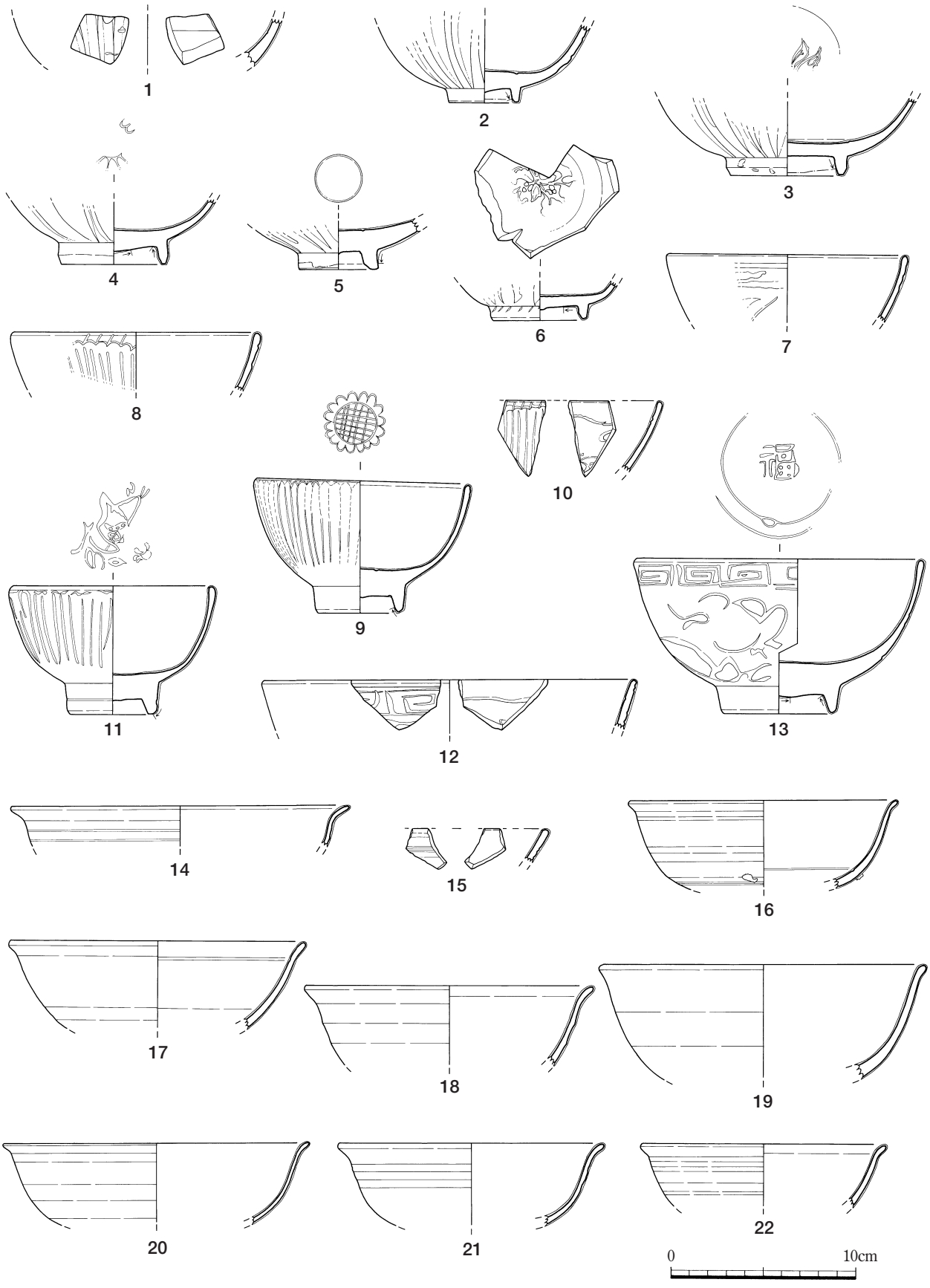
注　「－」：測定不可

第２表　青磁観察一覧（8）

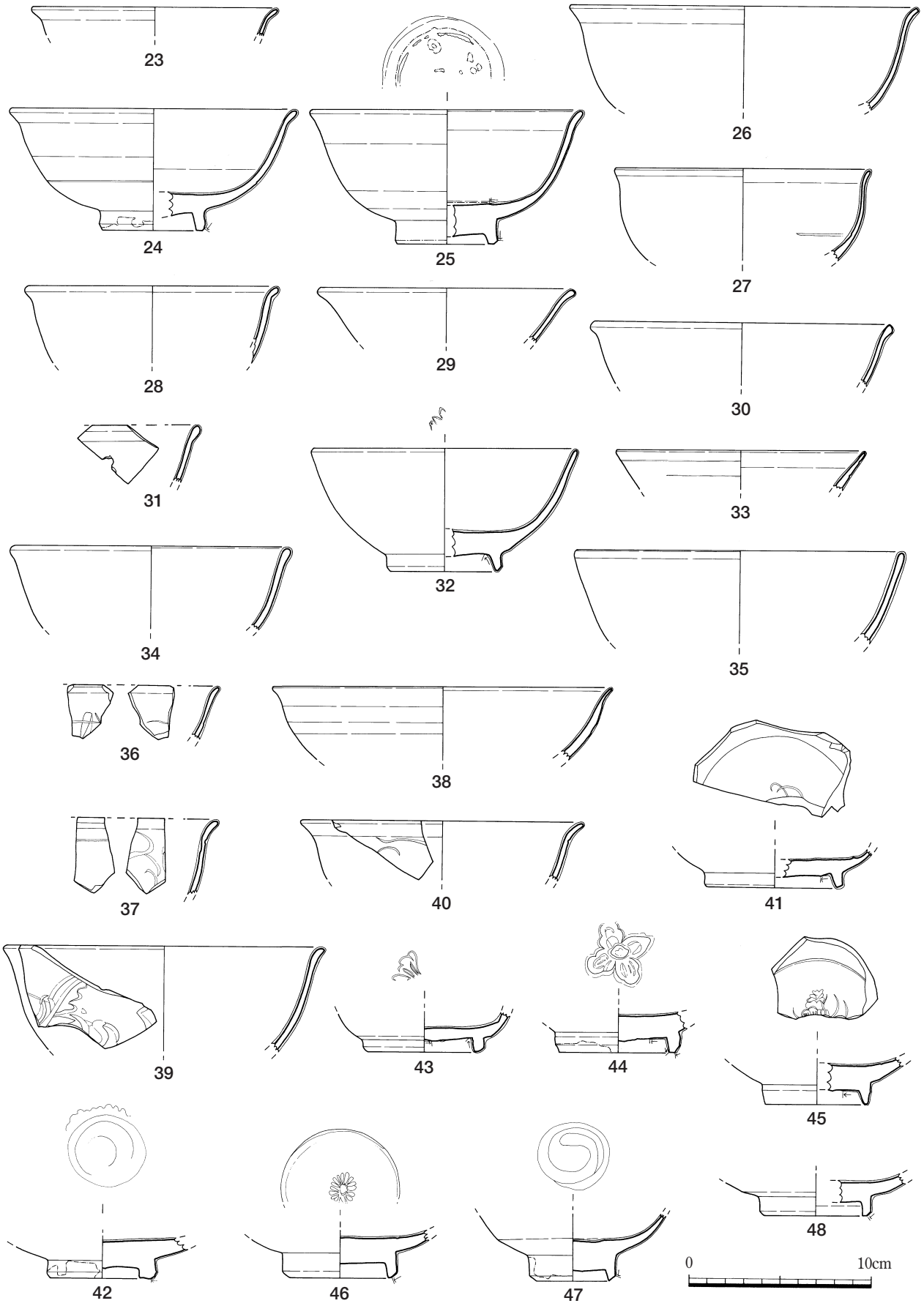
単位：cm

挿図番号 図版番号		器種	部位	素　地	口径 器高 高台径	器形・成形・文様等の特徴	釉色・施釉状況・貫入等	出土地
第33図・図版14	91	香炉	口～胴	胎土は密で、黒色粒子が僅かに混入する。	13.6 － －	胴部が直に立ち上がり、口縁部が肥厚する。３足香炉か。外面胴部には圏線と八卦文か。	明緑色のやや透明度を有する。粗い貫入が全体に見られる。	SR05
	92		口～底	胎土は密で大きい気泡が僅かに見られる。褐色微粒子が僅かに混入する。	6.2 5.8 3.4	小型の香炉で口縁部は直口し、高台脇に３足の脚が付属する。外面胴部には２条の圏線が描かれる以外に文様は見られない。	明緑色のやや透明度を有する釉。内面胴上部から内底面にかけては薄く施釉し、高台途中から畳付、外底面にかけては露胎となる。	東側トレ③撹乱 SD01 造成土
第34図・図版15	93	蓋	縁	胎土は密で褐色を呈する。細かい気泡が多く見られる。	24.4 － －	外面には花文と思われる箆彫りの文様が見られる。	明緑色の失透釉。細かい貫入が見られる。	SK07 混土淡褐土
	94	壷	口	胎土は密で気泡が見られる。白色粗砂が混入する。	19.0 － －	口縁部が直口し、口唇部は尖り気味となる。胴部には櫛描文と草文か。	明緑色の透明釉。胴部は特に厚く施釉する。内外面共に粗い貫入が見られる。	SR04 根石
	95		口～胴	胎土は密で小さい気泡が多く見られる。黒色粒子が僅かに見られる。	26.0 － －	酒会壷の口縁部。胴部には蓮弁様の区画内の「美」字の一部が見られる。内面に回転箆削り痕が見られる。	外面は明緑色、内面は淡緑色のやや透明度を有する釉。口唇部は露胎となる。外面胴部に粗い貫入が見られる。	表採
	96	鉢	口	胎土は密で気泡が見られる。白色粗砂が混入する。	－ － －	直口口縁の鉢で口縁部直下に圏線と波状櫛描き文、胴部には草花文か。内面にも同様の文様が見られる。	明緑色の失透釉。貫入は見られない。	SD01 造成土
	97	瓶	頸	胎土は密で黒色粗砂が混入。	－ － －	長頸瓶の頸部で芭蕉文が外面に見られる。	明緑色の失透釉。貫入は見られない。	B-4 戦前遺物包含層
	98		胴	胎土は密で小さい気泡が見られる。白・黒色微粒子が見られる。	－ － －	短頸壷の胴部か。外面に箆描きの蓮花文が見られる。内面には継ぎ目の成形痕が見られる。	淡緑色の透明釉を施す。内面にはかなり薄く釉を施す。外面の一部に貫入が見られる。	表採
	99			胎土は密で小さい気泡が見られる。黒色微粒子が見られる。	－ － －	長頸瓶の胴部で下部に片切彫りの蓮弁文、上部に唐草文が描かれる。内面には回転轆轤成形痕が明瞭に見られる。	明緑色のやや透明度を有する釉で内外面共に厚く施す。内外面共に貫入は見られない。	黄褐色微砂層
	100	杯	口～胴	胎土はやや粗く、小さい気泡が見られる。褐色粗砂が僅かに混入する。	11.6 － －	直口杯。内面口縁部直下に圏線が１条見られる。口縁部近くに粘土塊が溶着する。器表には小孔が見られる。	明緑色のやや透明度を有する釉。一部焼成不良のため褐色に変色している。内外面共に細かい貫入が見られる。	SD01 造成土
	101		口～底	胎土は密で陶器質。口縁部は灰白色となる。気泡が僅かに見られる。	6.3 3.45 3.8	口縁部は内傾する無文の小杯。底部は碁笥底で、内面胴下部の器表には僅かに凹凸が見られる。	淡緑色の失透釉。畳付から外底面にかけて露胎となる。口縁部周辺のみ貫入が見られる。	SR05 裏込
	102	把手	—	胎土は密で小さい気泡が見られる。白色粒子が見られる。	－ － －	水注に付く把手か。断面形状が略三角形状となる。上面は区画線内に牡丹唐草文が描かれる。	明緑色のやや透明度を有する釉。中央及び両端部の釉は薄くなる。貫入は見られない。	表採、C-4①撹乱

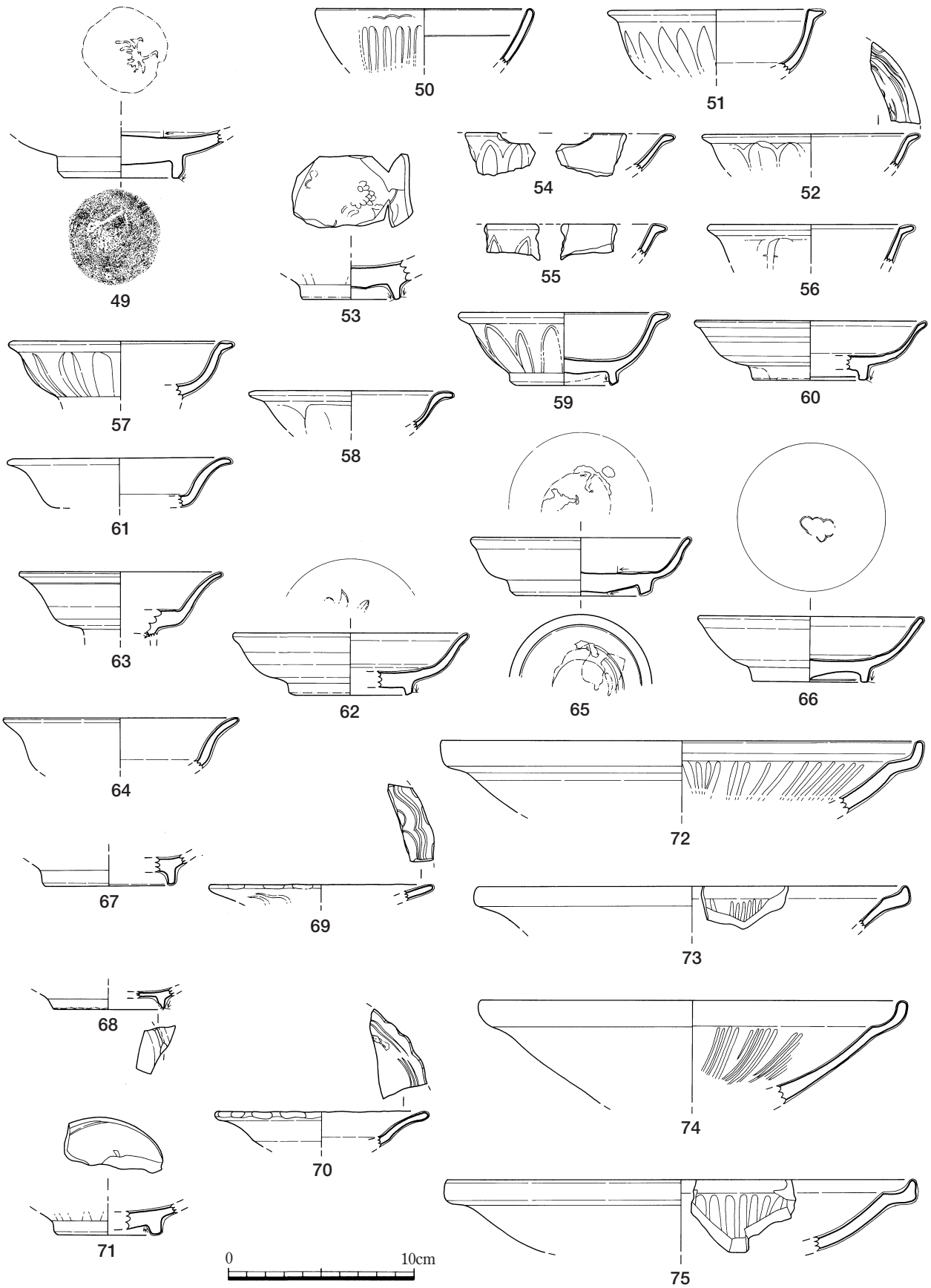
注　「－」：測定不可



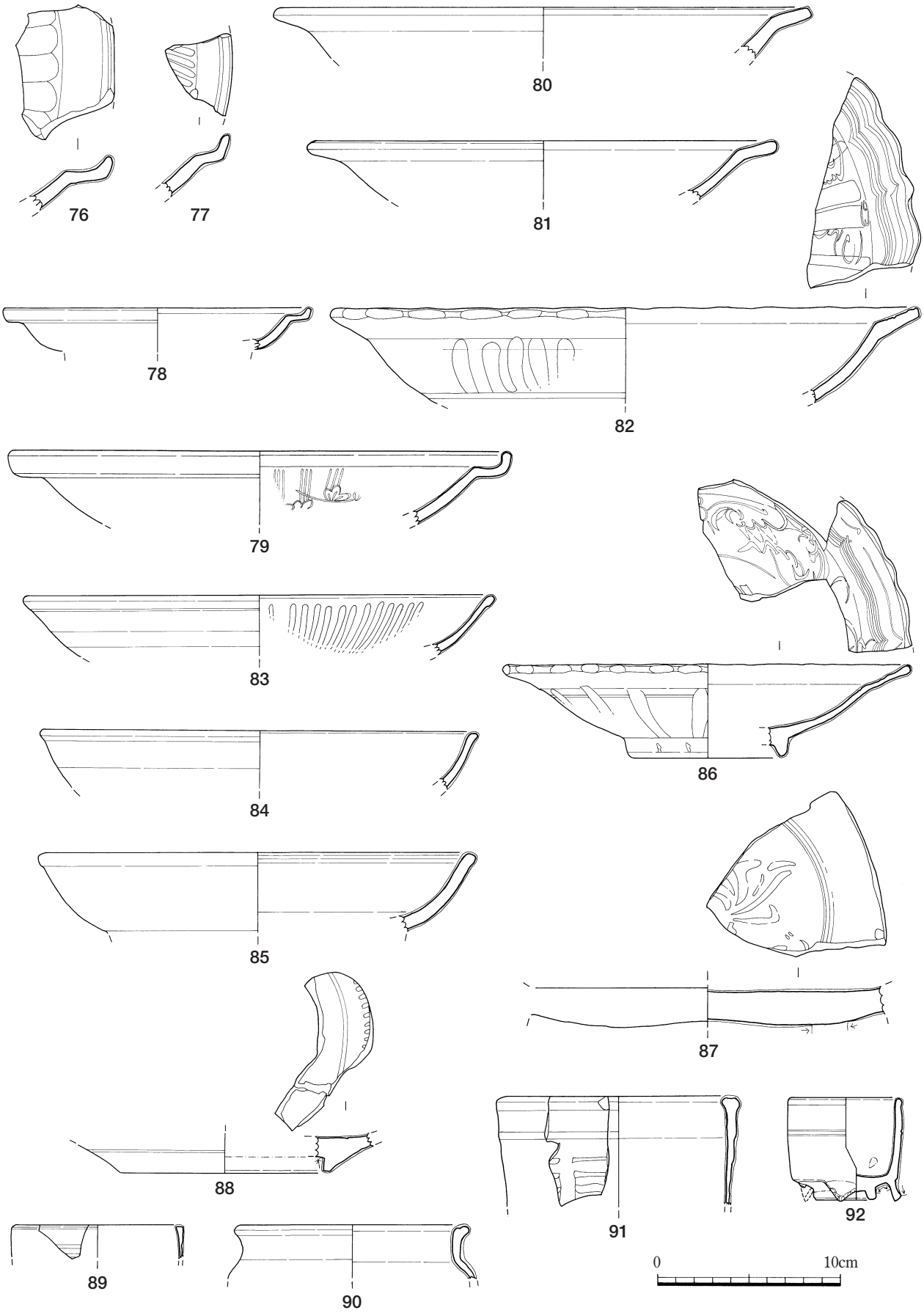
第30図　青磁（１）


23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
38
37
40
41
39
43
44
45
42
46
47
48
0
10cm

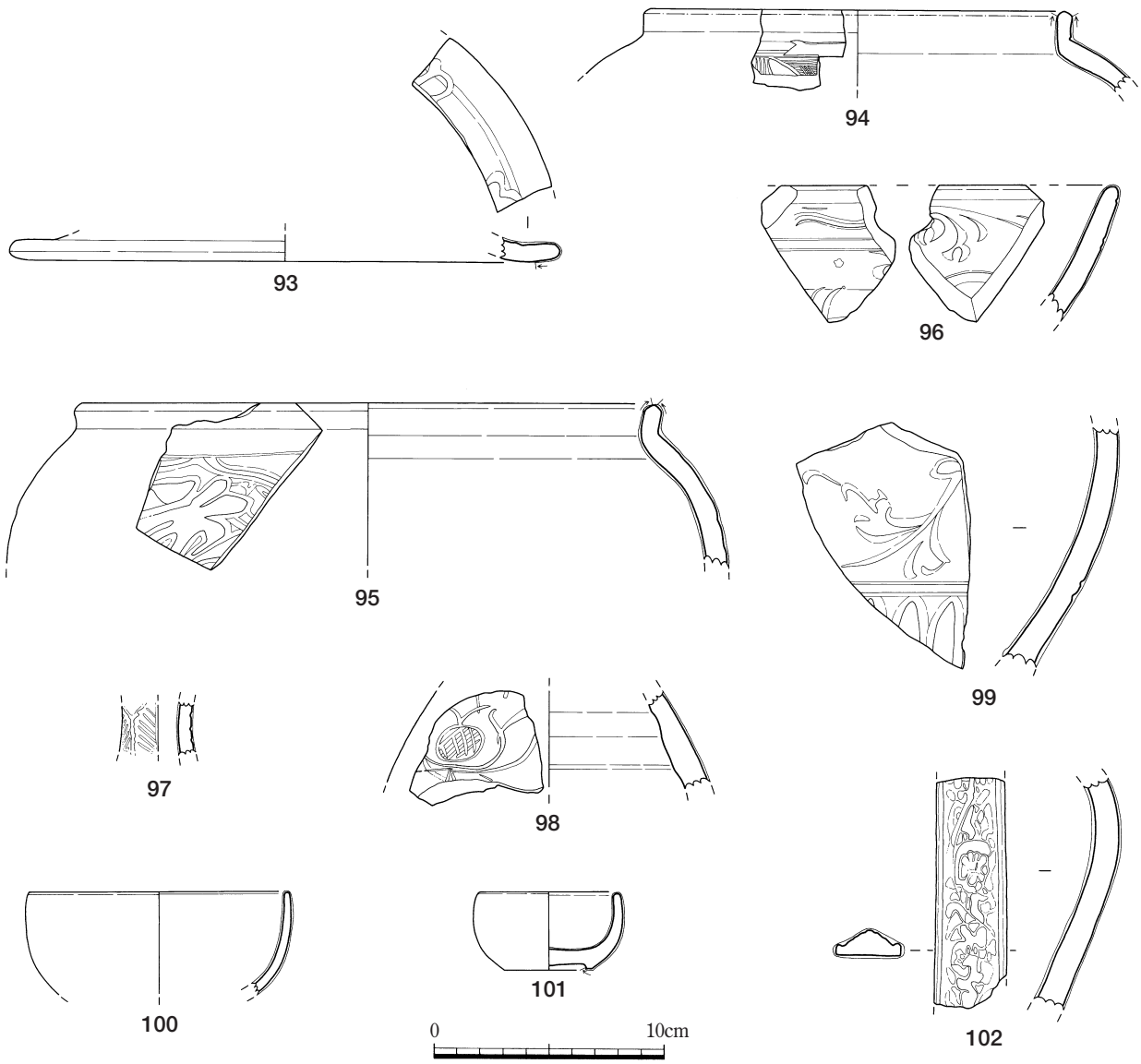
第31図　青磁（２）


49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
74
75
0
10cm

第32図　青磁（３）



第33図　青磁（４）



第34図　青磁（５）

第２節　白磁

ここでは38点を報告する。器種としては碗、皿、杯、香炉、蓮華、壷、瓶がある。文様は碗の外面胴部に圏線、そして皿は菊花形や内底面に花弁文が見られる程度で殆どが無文である。碗は口縁部形態と底部形態、施釉方法にバリエーションが見られる。皿も碗と同様である。皿と杯は型作りで徳化窯系と考えられる資料が多く見られる。以下にその概要を述べ、個々についての詳細は観察表にまとめる。

碗

15点図示した。全形を窺うことができるものが確認されなかったため、口縁部形態と底部形態、施釉方法について触れていく。口縁部は外反、玉縁、直口が見られ、外反口縁は口縁部直下に指による横ナデで外反させるものが多く見られた（第35図３、４、５）。直口口縁は口唇部が尖り気味になるもの（第35図６、７、８）と、平

坦面を有するもの（第35図９）に細分することができた。また直口口縁から胴部にかけては殆ど膨らみを有さず、直線状に胴下部へ移行するものが大半を占めた。底部形態は全体的に高台が低く、畳付が水平に切られているものと内刳りが極端に浅く、畳付は丸みを帯びるものに大別することができる。前者は外面高台下部を斜めに面取りするもの（第35図10、11）と内面高台下部を斜めに面取りするもの（第35図12）、畳付の幅が広く、高台断面形が台形状となるもの（第35図13）に細分することができる。後者は京の内地区で類例資料が見られる（第35図14）。また施釉方法に関しては、外面高台下部を斜めに面取りするもの、内面高台下部を斜めに面取りするもの、内刳りが極端に浅く、畳付は丸みを帯びるものについては胴下部と内底面が露胎となり、高台断面形が台形状となるものは胴下部のみ露胎となる。

皿

15点図示した。全形を窺えるものは１点のみ得られた。薄手の外反皿で畳付のみ露胎となることから時期は16世紀頃になるものと考えられる（小野1982）。他は小片のため、口縁部形態と底部形態、施釉方法についてそれぞれ触れていく。口縁部は外反、直口、内傾と細分することができる。外反するものは厚手のものも見られる（第35図17、18、20）が、大半は薄手のものとなる。直口するものは菊花形皿（第35図25）や口縁部が僅かに肥厚するもの（第35図20、23）、口唇部が尖るもの（第35図22）とバリエーションが見られる。底部は内傾するもの、「ハ」の字状に開くもの、抉り高台のものに細分される。底部が内傾するものは底径が大きいもの（第35図27）も見られることから、第35図15のような薄手の外反皿になるものと思われる。また、第35図26のように内底面に菊花文を描くものも見られた。施釉方法に関しては、畳付のみ露胎となるものが大半を占めた。

杯

４点図示した。高台は低く「ハ」の字状に開き、畳付のみ露胎となるものにほぼ限定される。口縁部は直口するもの（第36図30）と外反気味になるもの（第36図31）が見られる。胴部については第36図30のように全体的に緩やかに立ち上がるものと、第36図32のように腰部で急にたちあがるものが見られる。全て型作りで徳化窯系と考えられる。

蓮華

１点のみ図示した。詳細は観察表に譲る。

壷

１点のみ図示した。詳細は観察表に譲る。

瓶

１点のみ図示した。詳細は観察表に譲る。

香炉

１点のみ図示した。詳細は観察表に譲る。

第３表　白磁観察一覧（1）

単位：cm

挿図番号 図版番号		器種	部位	素　地	口径 器高 高台径	器形・成形・文様等の特徴	釉色・施釉状況・貫入等	出土地
第35図・図版16	1	碗	口	胎土は密で小さい気泡が多く見られる。黒色微粒子が混入する。	－ － －	口縁部が肥厚する外反碗。口縁端部を折り返して玉縁状の肥厚をつくる。外面口縁下部に２条の圏線が見られる。	透明釉で内外面共にかなり薄く施釉する。貫入は見られない。	A-4 トレンチ ③撹乱
	2	皿	口～胴	胎土は密で陶胎となる。	11.8 － －	外反皿。胴部は直線状に移行する。口唇部は舌状となり内側は面取りされる。外面口縁下部に陽圏線が見られる。内外面共に回転轆轤成形痕が明瞭に見られる。器表には小孔が多く見られる。	透明釉で淡黄色を呈し、内外面共にかなり薄く施釉する。貫入は見られない。	SA06 暗褐色 混砂土
	3	碗	口～胴	胎土は密で大小の気泡が多く見られる。白、褐色微粒子が混入する。	15.3 － －	外反碗。口縁部直下に回転轆轤成形痕が見られる。器表に大きい孔が見られる。	やや透明度を有する釉で灰白色を呈する。口唇部は薄く施釉される。貫入は見られない。	C-3 トレンチ ①撹乱
	4			胎土は密で陶胎となる。大小の気泡が多く見られる。黒色微粒子が混入する。	16.9 － －	外反碗で胴部は膨らみを有する。器表には小孔が多く見られる。	失透釉で外面胴上部から内面にかけて施釉する。内外面共に細かい貫入が見られる。	A-3 トレンチ ①撹乱
	5			胎土は密。褐、黒色粗粒子が混入する。	14.4 － －	外反碗で若干、玉縁状に肥厚する。内面胴下部に圏線が見られる以外には文様は見られない。内外面共に回転轆轤成形痕が明瞭に見られる。	透明釉で内外面共に薄く施釉する。貫入は見られない。	SA06 裏込
	6			胎土は密。黒色微粒子が混入する。	12.4 － －	直口碗。胴部は僅かに膨らみを有する。	透明釉。内外面共にかなり薄く施釉する。貫入は見られない。	C-4② 撹乱
	7			胎土は密。黒色粗粒子が混入する。	13.9 － －	直口碗。口唇部は舌状となり、胴部は直線状となる。内面口縁下部に白色細砂が溶着する。	透明釉で内外面共にかなり薄く施釉する。内外面共に細かい貫入が見られる。	SA06
	8		口	胎土は密。白、褐、黒色微粒子が多く混入する。	14.4 － －	外反碗。外面には回転轆轤成形痕が明瞭に見られる。口縁部直下には圏線が1条描かれる。	透明釉で淡い青白色を呈する。口唇部のみ釉が薄くなる。貫入は見られない。	B-4 撹乱
	9			胎土はやや粗く、陶胎となる。小さい気泡が見られる。黒色粗粒子が混入する。	12.6 － －	口縁部は直口し、端部は丸みを帯びる。器表には小孔が多く見られる。	透明釉で淡黄色を呈する。内外面共に細かい貫入が見られる。	SA01 埋石
	10		胴～底	胎土はやや粗く陶胎となる。大小の気泡が多く見られる。黒色微粒子が混入する。	－ － 5.2	高台は低いが内刳りがやや深い。畳付は水平で高台下部は斜めに面取る。胴部は緩やかな膨らみを有し、器壁は薄くなる。内底面には段を有した幅広の圏線が１条見られる。	透明釉で淡黄色を呈し、胴上部のみ施釉される。外面には細かい貫入が見られる。	SA06 暗褐色 砂土
	11			胎土は密で大小の気泡が多く見られる。黒色微粒子が混入する。	－ － 5.4	高台は低いが内刳りがやや深い。畳付は水平で高台下部は斜めに面取る。胴部は緩やかな膨らみを有し、器壁は薄くなる。外面に回転轆轤成形痕が明瞭に見られる。内底面中央はやや上面に膨らみを有する。器表には白・黒色粗砂粒が多く見られる。	透明釉で淡黄色を呈し、胴上部のみ施釉される。内外面共に細かい貫入が見られる。	A-3 ④グリ 石埋土
	12			胎土は密で気泡が見られる。黒色微粒子が多く混入する。	－ － 7.6	高台は低く、内刳りは浅い。断面形は台形状となる。高台と胴部の境には段が見られる。器表には小孔が多く見られる。	透明度を有する釉薬で灰白色を呈する。外面は胴下部から高台下部にかけて露胎となる。内底面が輪状に釉が掻き取られる。	SK08 内

注　「－」：計測不可

第3表　白磁観察一覧（2）

単位：cm

挿図番号 図版番号		器種	部位	素　地	口径 器高 高台径	器形·成形·文様等の特徴	釉色·施釉状況·貫入等	出土地
第35図·図版16	13	碗	底	胎土は密。黒色粗砂が僅かに、白·黒色微粒子が多く見られる。	－ － 5.2	高台は低く内刳りは浅い。畳付は水平となる。内底面は若干、窪む。内面には白色粗砂が溶着する。	やや透明度を有する釉で外面は露胎となる。細かい貫入が見られる。	世誇殿前庭埋土
	14			胎土はやや粗い。大小の気泡が多く見られる。	－ － 6.4	底面が僅かに中空になる平底で内底面は窪む。器表には白色粗砂が溶着する。	失透釉で灰白色を呈する。外面は露胎となる。細かい貫入が内面に見られる。	SR08 裏込
	15	皿	口～底	胎土は密。白色微粒子が僅かに混入する。大きい気泡が見られる。	16.8 3.4 8.6	外反皿。口縁部は大きく外反し、端部が僅かに肥厚する。やや大振りの皿で器壁は全体的に薄い。高台は低く、内傾する。畳付には白色粗砂が溶着しており、器表には小孔が多く見られる。	失透釉で畳付のみ露胎となる。貫入は見られない。	SD01 造成土
	16		口	胎土は密で小さい気泡が僅かに見られる。白色粗砂粒が混入する。	－ － －	口縁部は外反し、胴下部は膨らみを有する。器壁は全体的に薄い。	透明釉で口縁端部の釉が僅かに厚くなる。貫入は見られない。	SA06
	17		口～胴	胎土は密で小さい気泡が僅かに見られる。褐色微粒子が僅かに混入する。	11.2 － －	外反皿。口縁部は玉縁状になる。外面には回転轆轤成形痕が明瞭に見られる。器表には小孔が多く見られる。	透明釉で灰白色を呈する。内外面共に細かい貫入が見られる。	C-3 グリ石
	18			胎土は密。白色粗粒子が僅かに混入する。	10.7 － －	外反皿。口縁部は僅かに玉縁状となる。器表には白色粗砂が溶着し、小孔が多く見られる。	失透釉。貫入は見られない。	SA06 暗褐色混砂土
	19		口～底	胎土は密。褐色微粒子が混入する。	8.8 1.8 3.8	腰折れの外反皿。器壁は薄く、内底面には花弁様の文様が描かれる。器表には白色粗砂が溶着、小孔も見られる。	やや透明度を有する釉で高台下部から畳付にかけて露胎となる。貫入は見られない。	A-3 ④グリ石埋土
	20			胎土は密で小さい気泡が多く見られる。黒色微粒子が僅かに混入する。	8.2 2.1 4.2	口縁部が直口するベタ底の皿。口唇部は丸味を帯びる。内外面共に回転轆轤成形痕が明瞭に見られる。器表には白色粗砂が溶着する。	透明釉で灰白色を呈する。内面胴上部から外面一帯は露胎となる。貫入は見られない。	A-2 撹乱
	21		口～胴	胎土は密。黒色粗砂粒が混入する。	14.4 － －	外反皿。口唇部は丸く収め、口縁部は波状を呈する。	やや透明度を有する釉で全体的に厚く施釉する。内外面共に粗い貫入が見られる。	SA03 グリ石下層
	22		口～胴	胎土はやや粗く、小さい気泡が多く見られる。白色粗粒子が混入する。	－ － －	直口皿。口唇部は平坦となり、胴部は直線状となる。畳付は尖る。器表には小孔が見られる。	透明釉で淡黄色を呈する。畳付のみ露胎となる。内外面共に細かい貫入が見られる。	東側トレンチ ①撹乱
	23			胎土はやや粗く、陶胎となる。大小の気泡が多く見られる。褐、黒色粗粒子が僅かに混入する。	13.1 － －	直口皿。器壁は薄く、胴部は直線状に移行する。器表には小孔が多く見られる。外面に回転轆轤成形痕が見られる。	透明釉。内外面共に細かい貫入が見られる。	SA06 暗褐色混砂土
	24			胎土は密で小さい気泡が見られる。	12.9 － －	直口皿。外面口縁下部に圏線が1条見られる。	透明釉。貫入は見られない。	SR09 埋土
	25		口～底	胎土は密。黒色微粒子が混入する。	8.4 1.9 5.0	型造りの菊花皿。高台は薄く、低い。畳付は尖る。器表には小孔が見られる。	失透釉で高台下部から畳付にかけて露胎となる。貫入は見られない。	撹乱

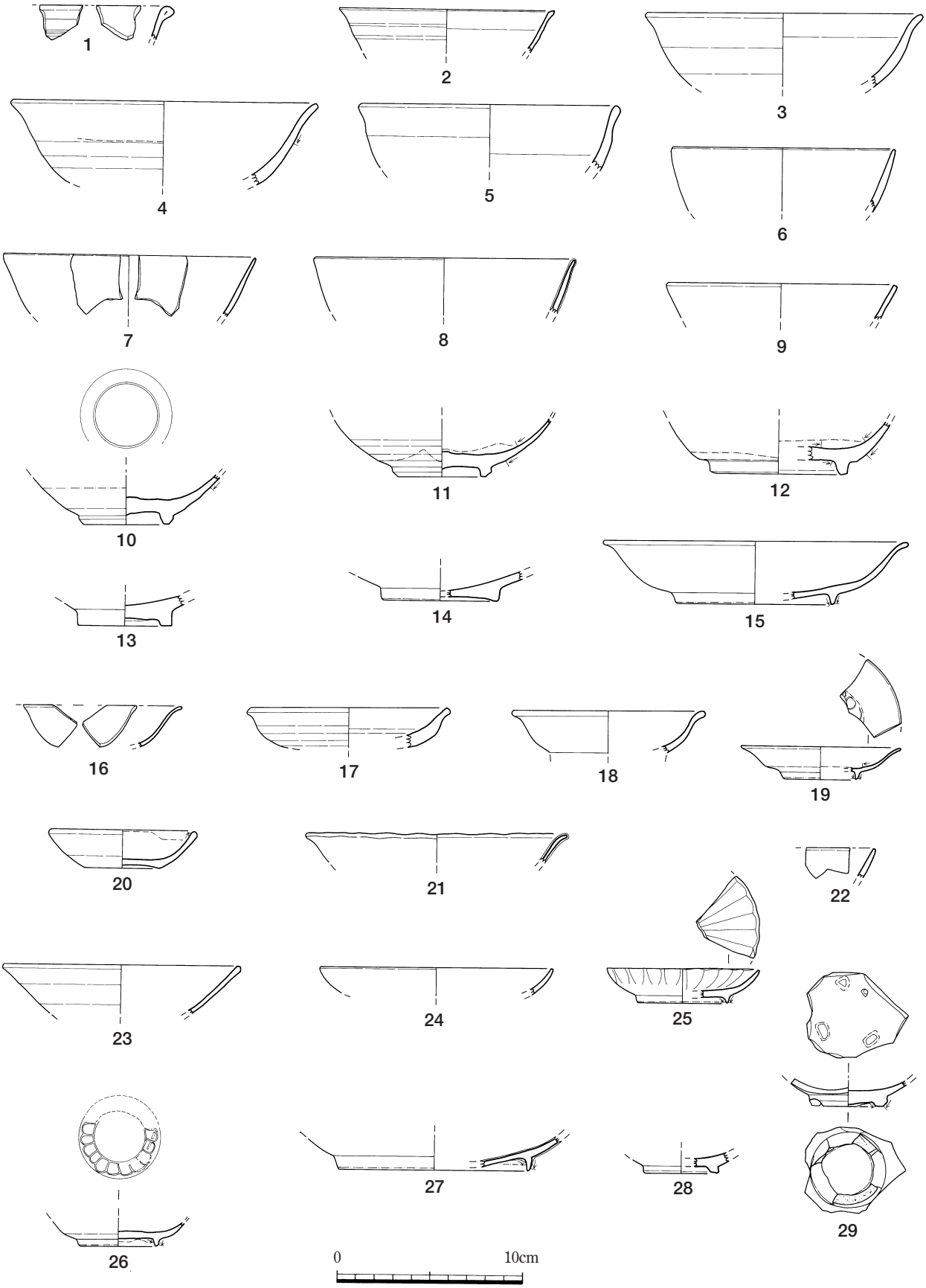
注　「－」：計測不可

第3表　白磁観察一覧（3）

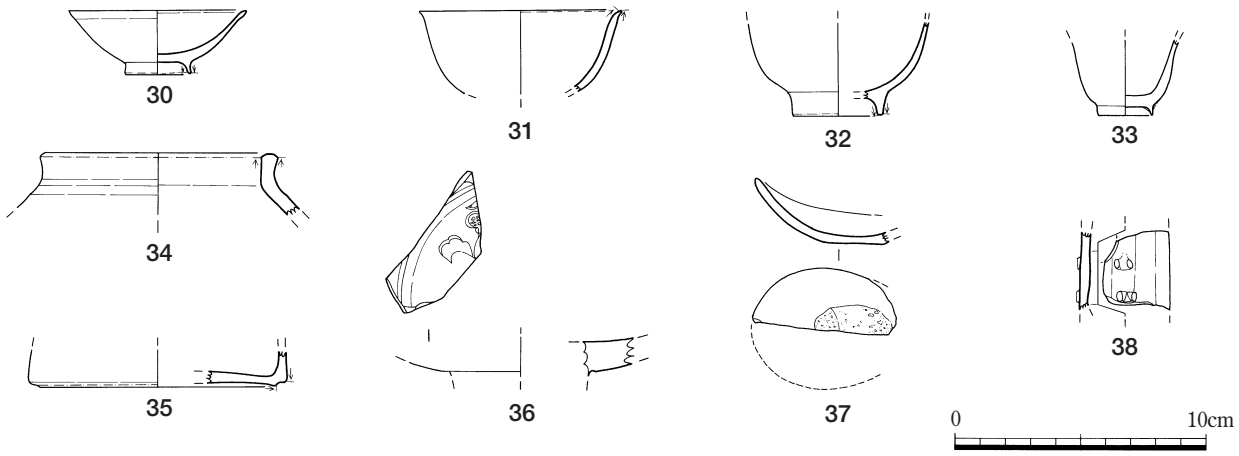
単位：cm

挿図番号 図版番号		器種	部位	素　地	口径 器高 高台径	器形・成形・文様等の特徴	釉色・施釉状況・貫入等	出土地
第35図・図版16	26	皿	胴～底	胎土は密で気泡が僅かに見られる。	－ － 4.2	腰折皿。高台は薄く低い。畳付の幅は一定ではない。器表には小孔が見られる。	失透釉で畳付と外底面の一部が露胎となる。貫入は見られない。	SD01 造成土
	27			胎土は密。白色粗砂粒、黒色微粒子が混入する。	－ － 10.4	高台は内傾し、低い。高台内外面に砂粒が溶着する。	失透釉で高台下部のみ露胎となる。外底面の一部が露胎となる。貫入は見られない。	撹乱
	28		底	胎土は密で大小の気泡が多く見られる。黒色微粒子が混入する。	－ － 4.1	畳付が尖り、高台下部は面取られる。高台は低く、内刳りも浅い。	透明釉で外面は露胎となる。細かい貫入が見られる。	SK05 内
	29		胴～底	胎土は密で陶胎となる。大きい気泡が僅かに見られる。	－ － 4.2	抉り高台皿で高台つくりは雑。器表も凹凸が多く見られる。内底面は重ね焼きの際の目跡が3ヶ所確認できる。	透明釉で淡黄色を呈する。外底面の一部が露胎となる。貫入は見られない。	表採
第36図・図版15	30	杯	口～底	胎土は密。白色微粒子が混入する。	7.2 2.6 2.7	口縁部は直口する。口縁端部は僅かに肥厚する。高台はやや高く、薄い。ハの字状に開く。型造り。	やや透明度を有する釉で灰白色を呈する。ほぼ全釉され、畳付のみ露胎となる。貫入は見られない。	B-4 ②撹乱
	31		口～胴	胎土はやや粗い。白色粗粒子が僅かに混入する。	8.3 － －	口縁部は外反する。やや底の深い杯で型造りである。胴下部で急に折れる。	やや透明度を有する釉で全体的に薄く施す。貫入は見られない。	A-4 トレンチ ③撹乱
	32		胴～底	胎土はやや粗い。白色粗粒子が僅かに混入する。	－ － 3.7	やや底の深い杯で型造りである。高台の断面形は逆三角形状を呈する。畳付は丸みを帯び、砂粒が溶着する。	やや透明度を有する釉で艶があり、畳付を除いて全釉される。貫入は見られない。	世誇殿 埋土
	33			胎土はやや粗い。黒色粗粒子が混入する。	－ － 2.3	底径は小さく底の深い杯で型造りである。高台は低く薄い。畳付は尖り気味となる。	やや透明度を有する釉で畳付を除いて全釉される。貫入は見られない。	B-4 撹乱
	34	壷	口～頸	胎土はやや粗く、陶胎となる。小さい気泡が多く見られる。	9.7 － －	頸の短い小型の壷で、口縁部は外反する。口唇部は平坦となる。頸部の下には圏線が描かれる。器表には小孔が多く見られる。	やや透明度を有する釉で灰白色を呈する。内外面共に細かい貫入が見られる。	世誇殿 前庭埋土
	35	香炉	胴～底	胎土は密。褐、黒色の微粒子が混入する。	－ － 9.6	筒形の香炉か。高台は薄く且つ低いため一見、ベタ底に見える。高台脇は段が見られる。器表には小孔が僅かに見られる。	透明釉で高台脇のみ露胎となる。外面のみ細かい貫入が見られる。	SR02 グリ内
	36	碗	胴	胎土は密で小さい気泡が多く見られる。白色粗粒子が混入する。	－ － －	胴下部で内底面には草花文が片切彫りで描かれる。高台と胴部との接続部には段が見られる。	透明釉でやや青味を帯びる。内面に施され、外面は露胎となる。貫入は見られない。	SA05 褐色混 砂土
	37	蓮華	端	胎土は密。白色のやや粗い砂粒が混入する。	－ － －	端部は平坦面を有し、底部は面が見られる。内外面共に底部には砂粒が溶着している。	やや透明度を有する釉で全釉される。貫入は見られない。	SK05 西側埋 土
	38	瓶	頸	胎土は密で黒色粗粒子が混入する。	－ － －	瓶の頸部か。外面に孔が上下に通る突起物が付属する。一部、面取りされているのが確認される。	やや透明度を有する釉で内外面共に施釉される。外面の一部が露胎となる。内外面共に粗い貫入が僅かに見られる。	A-3 北側 トレンチ ③撹乱

注　「－」：計測不可


1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
0
10cm

第35図　白磁（１）



第36図　白磁（２）

第４表　白磁出土状況

器種・分類 ＼ 出土地			SR					SA				SD	SK						世誇殿		戦前遺物包含層	合計
			01	02	05	08	09	01	03	05	06	01	02	03	05	06	07	08	前庭埋土	黄褐色微砂層		
碗	外反	口縁部									3											3
	直口	口縁部						1			1	1										3
	胴　部				2		1			2	3							1	4	1	3	17
	底　部					1					1		1					1	1			5
皿	外反	口縁部	1						1		3	1										6
	直口	口縁部					1				1											2
	胴　部						1										1					2
	底　部											1			1							2
小皿	直口	口縁部		1																		1
碗or皿	胴　部			4								1		1		1					1	8
杯	口縁部														1				1			2
	胴　部										2		1		1				1			5
	底　部															1			1		1	3
蓮華	端														1							1
壷	口縁部																		1			1
小壷	胴　部													1								1
瓶	胴　部										1				1							2
香炉	底　部			1																		1
器種不明	口縁部			1																		1
	胴　部							1														1
	底　部																		1			1
合　計			1	7	2	1	3	2	1	2	15	4	2	2	5	2	1	2	10	1	5	68

第３節　染付

ここでは85点を報告する。器種としては碗、皿、杯、盤、蓋、壷、把手、瓶がある。景徳鎮、徳化窯系、漳州窯系、福建・広東碗系がそれぞれ認められ、中には元様式の染付も確認された。全体的に碗が最も多く、次に皿、杯が続く。盤、蓋、壷といった大型製品は全体量からすると極めて少ない。成形、施釉方法が雑で呉須の発色が鈍い、といった粗製品も小型製品に多く見られる。時期は元から清代まで長期にわたる。以下にその概要を述べ、個々についての詳細は観察表にまとめる。

碗

48点図示した。器形は外反碗と直口碗に大別することができるが、前者が全体量では多く出土している。外反碗の中では緩やかに外反するもの、口折れとなるものとに、直口碗の中では口唇部が丸みを帯びるものと尖るものとに細分することができる。文様は唐草文が最も多く、他に寿字文、八宝文、菊花文、草花文、蓮弁文、梵字文、波濤文、雷文、花卉文、四方襷文、コンニャク印判等見られる。底部資料は高台が厚いものと薄いものに細分することができ、前者については、高台は高くハの字状に開くもの、高台は低く、断面形状が逆台形となるものに、後者はハの字状に開くもの、高台が畳付まで真っ直ぐ伸びるもの、高台が内傾するものに細分することができる。

全形を窺うことのできる資料に関しては僅少であるため、全体様相として口縁部、底部、文様の相関関係を見ることは難しい。僅かながら口縁部は外反し、高台は低く、断面形状が逆台形、文様はコンニャク印判、唐草文、雲文という構成の、所謂福建･広東碗系（第38図23、41）、直口碗で高台は低く断面形状が逆台形となるもの、文様は梵字文という構成の、所謂蓮子碗（第38図26）、そして口縁部が外反し、高台は低く断面形状が逆台形、文様は唐草文という構成の所謂漳州窯系（第38図25）が認められる。福建・広東碗系、漳州窯系は文様が簡化しており、呉須の発色は鈍く、濃緑色を呈している。

他に型作りの徳化窯系と考えられる碗も確認される（第37図５、10、17、18、19、21、第38図35～37、44、45、第39図47）。口縁部が緩やかに外反するもの、底部が高くハの字状に開くものに多く見られる。釉の透明度は高く、胎土はかなり密である。

皿

22点図示した。器形は口縁部が外反、直口口縁に大別することができる。外反口縁は口径が12㎝、底径が６㎝以上のもの（第39図49、50、52～54）と口径が10㎝、底径が５㎝以下のもの（第39図55～57）に細分することができる。直口口縁は口唇部が丸みを帯びるものと尖るものに大別することができる。前者は型作りの所謂、徳花窯系（第39図62）が見られ、後者は器壁が薄く、やや大振りのものが見られる。

底部を見ると内傾するもの（第39図49、51、66～68）、断面形状が逆台形となるもの（第39図50、54、55、57）、断面形状が逆台形となるが畳付は丸みを有するもの（第39図52、53、56）碁笥底状になるもの（第40図69、70）に大別することができる。文様は唐草文が最も多く、他に玉取獅子文、十字花文、雲龍文、芭蕉文、蓼文、波濤文、花卉文が見られる。文様、口縁部形態、底部形態に相関関係が見られるものを以下３類に分けて、その詳細を記す。

Ⅰ類（第39図49、50、52～54）

外反口縁で口径が12㎝、底径が６㎝以上のもの。底部形態は内傾するもの、断面形状が逆台形となるもの、断面形状が逆台形となるが畳付は丸みを有するものとバリエーションが見られる。文様は、外面は唐草文、内面は

玉取獅子文に限られる。釉薬は畳付のみ露胎となり、高台下部には微砂粒が溶着しているのが窺われる。

Ⅱ類（第39図55～57）

外反口縁で口径が10㎝、底径が５㎝以下のもの。底部形態は断面形状が逆台形となるものと、断面形状が逆台形となるが畳付は丸みを有するものとが見られる。文様は外面に簡化された唐草文、内面に十字花文に限られる。

Ⅲ類（第39図51）

直口口縁皿。底部形態は内傾する。文様は外面に簡化された唐草文、内面に捻子花文が見られる。畳付と高台内面は露胎となる。

※稿了後、第39図52と54は同一個体であることが判明したので付記しておく。

杯

８点図示した。底径が3.5㎝以上と３㎝以下のものに大別することができる。前者は高台が「ハ」の字状に開くもの、内傾するもの、高台は低く内刳りが浅いものに細分することができる。後者は高台が低く、畳付は尖り、型作りで徳化窯系と考えられる。文様は芭蕉文、雷文、草花文、銘款等が見られる。

盤

１点のみ図示した。詳細は観察表に譲る。

蓋

２点図示した。１点は酒会壷の蓋で、元様式の染付である（第40図84）。器壁は厚く、内面には轆轤成形痕を見ることができ、全体的に造りが丁寧である。類例品は数多く伝世品で見ることができ、日本では出光美術館蔵の「騎馬人物壷」がある（汪 2000）。もう１点は箱物の蓋と想定される（第40図80）。釉の発色も良好で精製品であると考えられる。

壷

２点図示した。何れも元様式の染付である。５片が１個体となる可能性があり（第40図85）、頸部は波濤文、胴上部は唐草文、胴中央部から下部にかけては魚藻文という文様構成であると考えられる。呉須の発色は良好、器壁は厚く、内面には轆轤成形痕を見ることができる。胴上部の資料のみ２次的に火を受けている部分が見られる。第40図84とセット関係になるものと考えられる。伝世品であるが類例資料として大阪市立東洋陶磁美術館蔵「魚藻文壷」がある（汪 2000）。

把手

１点のみ図示した。詳細は観察表に譲る。

瓶

１点のみ図示した。詳細は観察表に譲る。

第5表　染付出土状況

器種・分類 ＼ 出土地			SR				SA				SS	SD	SK								世誇殿		戦前遺物包含層	A−			B−			C−			表採	攪乱	合計
			01	02	04	05	02・03・04	03	05	06	01	01	02	03	04	05	06	07	08		前庭埋土	黄褐色微砂層		2	3	4	2	3	4	3	4	4・3			
碗	外反	口～底																						1	1	1			1	1				1	6
		口縁部	1	1	1	1				1	2	1		1	1	3		1					1	9	19	5	1	5	7	2	1		5	32	101
	直口	口～底															1							1											2
		口縁部								3	1	1	1	1		4		2						21	6	7		6	3	2	6		4	28	96
	胴　部		8	3						1			4	1		17	1	6	3	4			8	18	20	11		8	7	1			10	1	132
	底　部		1										1							1			1	4	6	5		8	5		1		3	18	54
大碗	胴　部																							1											1
小碗	外反	口縁部												1		1	1			1	1			6	2	6		7						14	40
	直口																							3	1	3									7
	胴　部		1																					8											9
	底　部																			1						3								5	9
皿	外反	口～底										8												2										1	11
		口縁部		1				1	2	2		4						2		1			1	2	3	5		2							26
	直口	口縁部					1	1		5		2													1				1					2	13
	胴　部							2	1			1											1			2									7
	底　部			1								5				1		1					1	3	2	4		1			1	1	1	3	25
小皿	口縁部									1																							1	2
	底　部																									1									1
碗or皿	口縁部																																7	7
	胴　部									10														17						4			32	63
杯	口縁部			3																							1						1	5
	底　部		1					1				1					1		1						1					1			1	8
小杯	口縁部									1																								1
	胴　部																															1		1
	底　部																												1					1
盤	底　部																								1									2
蓋																							1	1									1	3
壷	口　縁											1																	1					2
	胴　部																												1		1		1	3
酒会壷	胴　部																								1				3		1			1	6
把　手																								1											1
瓶	胴　部																1							1	1								1	1	5
	底　部																							2											2
鉢	胴　部													1																					1
袋物	胴　部																												1				1	2
その他	口縁部									1															1			4						6
	胴　部																		1	1	1		1		12	15	3	15	10		2		1	61	122
合　計			12	9	1	1	1	5	3	25	3	24	6	5	1	26	5	12	5	9	1		15	101	78	68	5	56	39	9	17	2	26	213	783

第６表　染付観察一覧（1）

単位：cm

挿図番号 図版番号		器種	部位	素　地	口径 器高 高台径	器形・成形・文様等の特徴	釉色・施釉状況・貫入等	出土地
第37図・図版17	1	碗	口～胴	胎土は密で小さい気泡が見られる。白色粗砂粒が混入する。	－ － －	外反碗で器壁は全体的に薄い。外面は口縁部直下に圏線と胴部に牡丹唐草文か。内面にも唐草文が描かれる。	やや透明度を有する釉。呉須の発色は鈍く、全体的に薄い。内外面共にかなり粗い貫入が見られる。	B-4 撹乱
	2			胎土は密で気泡が僅かに見られる。黒色微粒子が僅かに混入する。	19.6 － －	大振りの外反碗。外面には口縁部直下に２条１組の圏線と胴部に蓮唐草文が描かれる。内面は圏線のみ描かれる。	やや透明度を有した釉で呉須の発色は鈍く、斑が見られる。貫入は見られない。	表採、 撹乱
	3			胎土は密。黒色粗粒子が僅かに混入する。	23.2 － －	大振りの外反碗。外面には口縁部直下に渦文、胴部に細線で縁取りをした唐草文、胴下部に蓮弁文が描かれる。内面には口縁部直下に四方襷文、内底面に圏線が描かれる。	透明釉で呉須の発色は良好。胴部と高台部の境が一部、露胎となる。貫入は見られない。	A-4 トレンチ ②撹乱
	4			胎土は密でかなり小さい気泡が僅かに見られる。	20.0 － －	外面には口縁部直下に２条１組の圏線と胴部に八方唐草文が描かれる。内面には圏線のみ描かれる。	透明釉で口唇部はかなり薄く施釉される。呉須の発色は鈍く、かなり薄い部分も見られる。貫入は見られない。	SS01 埋土
	5			胎土は密で白、黒色微粒子が混入する。	22.8 － －	口縁部が大きく開く碗。外面は口縁部直下に亀甲文。その中に六曜文が描かれる。胴部には草花文か。内面には口縁部直下に文様帯が見られるがかなり不鮮明。器表には小孔が多く見られる。	透明釉で口唇部のみ薄くなる。呉須の発色は鈍く全体的に薄い。貫入は見られない。	SA06 暗褐混砂土
	6			胎土は密で気泡が多く見られる。白色微粒子が混入する。	16.0 － －	外反碗。外面には口縁部直下に渦文、胴部に細線で縁取りをした牡丹唐草文が描かれる。内面には口縁部直下に四方襷文、胴部にも文様が見られる。	透明釉で呉須の発色は良好。口唇部の釉はかなり薄く施す。全体的に粗い貫入が見られる。	A-3 トレンチ ②撹乱
	7			胎土は密。黒色微粒子が僅かに混入する。	14.2 － －	外反碗。外面には口縁部直下に菊文と２条１組の圏線が見られる。内面には口縁部直下に圏線と雷文帯が描かれる。	やや透明度を有する釉。呉須の発色は鈍く、特に内面は薄い。貫入は見られない。	B-4 撹乱
	8			胎土は密で小さい気泡が見られる。黒色微粒子が僅かに混入する。	14.6 － －	外反碗。口縁部直下に荔枝文、内面には圏線と雷文帯が描かれる。器表には小孔が見られる。	やや透明度を有する釉。呉須の発色は良好で濃い藍色を呈する。貫入は見られない。	A-3 トレンチ ②撹乱
	9			胎土は密。黒色粗粒子が僅かに見られる。	－ － －	外反碗。外面には圏線と風景画が、内面には四方襷文と唐草文が描かれる。	やや透明度を有する釉。呉須の発色は鈍く、斑が見られる。貫入は見られない。	撹乱
	10			胎土は密で大きい気泡が見られる。白色粗砂粒を僅かに混入する。	12.5 － －	口縁部が大きく開く外反碗。外面胴部には蓮華唐草文、内面は口縁部直下に花唐草文帯を描き、圏線で画する。	透明釉で呉須の発色は良好で濃い藍色を呈する。貫入は見られない。	表採
	11			胎土は密で大小の気泡が多く見られる。黒色細粒子が混入する。	14.6 － －	外反碗。口唇部は尖る。外面には圏線と横位のジグザグ文を重ねた文様帯が描かれる。内面は口縁部直下に文様帯が描かれるが詳細は不明。	透明釉で口唇部は薄く施釉する。呉須の発色は鈍く、全体的に滲む。貫入は見られない。	SS01 埋土
	12			胎土は密で陶胎となる。黒色微粒子が僅かに混入する。	－ － －	外反碗で外面は花文か。内面は口縁部直下に文様帯が見られるが、詳細は不明。	透明釉。呉須の発色は鈍く全体的に滲む。内外面共に細かい貫入が見られる。	SK04 下層淡灰褐土

注　「－」：計測不可

第6表　染付観察一覧（2）

単位：cm

挿図番号 図版番号		器種	部位	素　地	口径 器高 高台径	器形·成形·文様等の特徴	釉色·施釉状況·貫入等	出土地
第37図·図版17	13	碗	口～胴	胎土は密。陶胎で黄褐色を呈する。小さい気泡が多く見られ、白色粗砂が混入する。	13.4 － －	外反碗。外面にはコンニャク印判の文様と圏線が見られる。	やや透明度を有する釉。呉須の発色は鈍く全体的に滲む。内外面にやや粗い貫入が見られる。	SK07 ②埋土
	14			胎土は密で大小の気泡が多く見られる。白色細砂が多く混入する。	13.4 － －	外反碗。外面口縁部直下に圏線が１条見られる。外面に回転轆轤成形痕が明瞭に確認できる。	やや透明度を有する釉。口唇部のみ褐色の釉が施される。貫入は見られない。	SK03 埋土暗茶褐土
	15			胎土は密で大小の気泡が多く見られる。白色粗粒子が多く混入する。	14.6 － －	外反碗。口唇部は丸味を帯びる。外面胴部に烏文か、筆描きの文様が見られる。内面は口縁部直下と胴下部に圏線が1条見られる。器表には小孔が僅かに見られる。口唇部に砂粒が溶着。	透明釉でやや青味を帯びる。呉須の発色は良好で濃い藍色を呈する。貫入は見られない。	撹乱
	16			胎土はやや粗く、灰白色を呈する。白、褐、黒色粗粒子が多く混入する。	13.0 － －	玉縁口縁碗で胴部は直線状に立ち上がる。外面胴部には雲文が描かれる。器表には小孔が多く見られる。	透明釉で胴下部から底部にかけては露胎となる。灰釉で全体的に灰白色を呈する。呉須の発色は鈍く、全体的に滲む。貫入は見られない。	A-4 撹乱
	17			胎土は密。黒色粗粒子が多く混入する。	12.4 － －	外反碗。口縁部が僅かに折れる。内外面共に口縁部直下と胴下部に圏線が描かれる。外面胴部には草花文が描かれる。外面胴下部には小孔が見られる。	透明釉で呉須の発色は鈍く、色斑が著しい。貫入は見られない。	撹乱
	18			胎土は密。白・黒粗粒子が多く混入する。	16.4 － －	口縁下部で折れる外反碗。外面胴部に寿字文、下部には略化された蓮弁文が描かれる。内面には圏線が３条描かれる。内面器表に大小の白色砂粒が溶着する。	透明釉でやや青味を帯びる。呉須の発色は鈍く、全体的に薄い。貫入は見られない。	A-3 ④撹乱
	19		口～胴	胎土は密。混入物は殆ど見られない。	9.6 － －	外反碗。口縁部が僅かに折れる。内外面の口縁部直下に２条１組の圏線と外面胴部にはかなり雑に梵字文が描かれる。	透明釉で呉須の発色は鈍く、貫入は見られない。	撹乱
	20		口	胎土は密で小さい気泡が僅かに見られる。	13.4 － －	外反碗で器壁は薄い。外面は蓮華唐草文か。内面は口縁部直下に圏線と唐草文帯が見られる。	やや透明度を有する釉。畳付のみ露胎となる。呉須の発色は鈍く、全体的に斑が見られる。貫入は見られない。	SR05 黒色土層
	21		口～胴	胎土は密。黒色微粒子が僅かに混入する。	11.0 － －	口縁部は外反し、器壁は全体的に薄い。外面は口縁部直下に渦巻文帯、胴部には樹木が描かれる。内面は口縁部直下に雷文帯が描かれる。	透明釉で口唇部は薄く施釉する。呉須の発色は良好で濃い藍色を呈する。貫入は見られない。	撹乱
	22		口～胴	胎土は密。白色細砂が僅かに混入する。	13.0 － －	外反碗。外面は花唐草文と圏線が、内面は唐草文帯が描かれる。	透明釉。呉須の発色は良好で内面は濃い藍色を呈する。貫入は見られない。	SK05 内
第38図·図版18	23		口～底	胎土はやや粗く、大きい気泡が多く見られる。	13.4 6.1 7.3	口縁部は若干、外反する。外面は胴部に筆書きの唐草文と口縁部直下に雲文か。	失透釉で青味を帯びる。内底面は釉が輪状に掻き取られる。呉須の発色は鈍く、全体的に滲む。内底面共に細かい貫入が見られる。	A-2 ④撹乱

注　「－」：計測不可

第6表　染付観察一覧（3）

単位：cm

挿図番号 図版番号		器種	部位	素　地	口径 器高 高台径	器形・成形・文様等の特徴	釉色・施釉状況・貫入等	出土地
第38図・図版18	24	碗	口～胴	胎土は密。白色粗砂粒が混入する。	－ － －	口縁部は玉縁状となる碗。胴部は直線状に立ち上がる。内外面共に口縁部直下に圏線が1条描かれる。	透明釉。呉須の発色は鈍く、全体的に薄い。内外面共に細かい貫入が見られる。	SR02 栗石内
	25		口～底	胎土は密で大小の気泡が多く見られる。白、褐色微粒子が混入する。	14.5 5.8 8.2	外反碗で高台は厚く、低い。内刳りは浅く、畳付は尖る。外面は胴部に草花文、高台には圏線が描かれる。内面は無文。器表には小孔が多く見られ、砂粒が溶着する。	やや透明度を有する釉で内面は胴下部まで外面は畳付近くまで施釉する。呉須の発色は鈍く、全体的に滲む。内外面共に粗い貫入が見られる。	B-4 撹乱
	26			胎土は密で気泡が見られる。白、黒色微粒子が混入する。	14.2 6.6 6.3	直口碗で内底面が窪む。外面胴部に略化された梵字文を横位に4列並べ､口縁部と高台に圏線を描く。内面は底面に圏線とその中に梵字文を描く。器表には砂粒が溶着する。	やや透明度を有する釉で高台下部から畳付にかけて露胎となる。胴部は一部露胎になる部分が見られる。呉須の発色は良好であるが全体的にやや薄い。貫入は見られない。	A-2 撹乱
	27		口	胎土は密で大小の気泡が見られる。白、黒色粗砂が多く混入する。	14.2 － －	直口碗。口唇部は平坦に仕上げている。外面は口縁部直下に波濤文帯が、胴部にアラベスク文が、内面は圏線のみ描かれる。器表には小孔が僅かに見られる。	やや透明度を有する釉で呉須の発色は鈍く、全体的に滲む。貫入は見られない。	A-2 撹乱
	28		口～胴	胎土は密で小さい気泡が見られる。黒色粗粒子が僅かに混入する。	13.6 － －	口縁部は釉の厚みにより僅かに肥厚する。外面は口縁部直下に波濤文帯、胴部にアラベスク文が、内面は圏線のみ描かれる。内面には一部釉垂れが見られる。	透明釉で呉須の発色はやや良好。粗い貫入が内外面共に見られる。	SD01 下層
	29			胎土は密。白・黒色粗粒子が僅かに混入する。	15.5 － －	直口碗。所謂、蓮子碗の口縁部資料。内外面の口縁部直下に2条1組の圏線と外面胴部には梵字文が描かれる。	透明釉で呉須の発色は圏線が薄く､梵字文が濃い。貫入は見られない。	表採
	30			胎土は密で大小の気泡が見られる。褐色の粗粒子が多く混入する。	12.6 － －	直口碗。口唇部は丸くおさめる。口縁部直下に波濤文と如意頭文が胴部はアラベスク文、内面には圏線のみ描かれる。器表には砂粒が溶着、小孔が多く見られる。	透明釉で呉須の発色は鈍く全体的に滲む。内外面に粗い貫入が見られる。	A-2 撹乱
	31		口	胎土はやや粗く、大きい気泡が見られる。白色細砂粒が見られる。	13.6 － －	直口碗。外面は口縁部直下に波濤文と圏線が描かれる。内面は圏線が1条見られる。器表には小孔が見られる。	透明釉で呉須の発色は鈍く、斑が見られる。貫入は見られない。	A-2 撹乱
	32			胎土は密。大きい気泡が見られる。	11.5 － －	直口碗。内面口縁部直下に圏線、外面同直下に波濤文帯が描かれる。	透明釉で呉須の発色は鈍く、滲む。貫入は見られない。	SA06 暗褐混砂土
	33		口～胴	胎土は密で陶胎となる。一部、褐色を呈する。大小の気泡が多く見られる。	12.0 － －	直口碗。胴部は直線状に立ち上がる。外面は口縁部直下に列点文と圏線、胴部には白抜きの花弁様の文様が見られる。内面は圏線が1条見られる。器表には小孔が多く見られる。	やや透明度を有する釉。呉須の発色は鈍く、全体的に薄い。内外面共に粗い貫入が見られる。	A-2 撹乱
	34			胎土は密。白・褐色粗粒子が僅かに混入する。	12.6 － －	直口碗。外面口縁部直下に波濤文帯､胴部にはアラベスク文の一部が描かれる。内面には圏線が1条描かれる。	透明釉で呉須の発色は鈍く、色斑が著しい。貫入は見られない。	SA06 暗褐混砂土

注　「－」：計測不可

第6表　染付観察一覧（4）

単位：cm

挿図番号 図版番号		器種	部位	素　地	口径 器高 高台径	器形・成形・文様等の特徴	釉色・施釉状況・貫入等	出土地
第38図・図版18	35	碗	口～胴	胎土は密。黒色微粒子が僅かに混入する。	－ － －	直口碗。外面は圏線と花卉文、内面は2条1組の圏線が描かれる。器表には小孔が見られる。	やや透明度を有する釉。呉須の発色は鈍く、全体的に滲む。貫入は見られない。	SK05 内
	36			胎土は密。気泡が多く見られる。	12.4 － －	直口碗。やや内傾気味となる。内外面口縁部直下に2条1組の圏線と外面胴部にかなり略化された草花文が描かれる。	透明釉で呉須の発色は鈍く、貫入は見られない。	A-2 トレンチ ⑥
	37			胎土は密で大きい気泡が僅かに見られる。混入物は見られない。	14.6 － －	直口碗。口唇部は丸みを帯びる。内面は無文で外面には丸文草花文が描かれる。	透明釉でやや青味を帯びる。呉須の発色は鈍く全体的に薄い。貫入は見られない。	C-4 ①撹乱
	38			胎土はやや粗く大小の気泡が多く見られる。白色微粒子が僅かに混入する。	12.6 － －	直口碗。外面は口縁部直下に圏線、胴部にコンニャク印判文様が描かれる。器表には大小の孔が見られる。	透明釉で外面は胴下部まで施釉される。呉須の発色は鈍く、全体的に滲む。内外面共に細かい貫入が見られる。	SK03 埋土茶褐色土層
	39			胎土は密。陶胎に近く灰白色を呈する。気泡が僅かに見られる。黒色粗粒子が混入する。	15.2 － －	直口碗。外面胴部はコンニャク印判の文様。内面は口縁部直下と胴下部に圏線が各1条見られる。	透明釉で呉須の発色は鈍く、全体的に滲み、深緑色を呈する。貫入は見られない。	A-2 トレンチ ⑥撹乱
	40		口～底	胎土は密で大きい気泡が多数見られる。白、黒色粗粒子が多く混入する。	14.0 5.7 7.4	口縁部が玉縁状となる外反碗。高台は低く、内面下部は斜めに面取りされる。外面に筆描きの唐草文か。器表には小孔が多く見られる。	透明の灰釉で内外面共に胴下部まで施釉される。内底面は輪状に釉が掻き取られる。呉須の発色は鈍く、全体的に薄い。貫入は見られない。	A-4 ④撹乱
	41			胎土は密で大きい気泡が見られる。黒色微粒子が多く混入する。	14.8 5.8 7.6	口縁部は若干、外反する。外面胴部にコンニャク印判の文様が見られる。外面胴部には回転轆轤成形痕が見られる。	失透釉。胴下部から外底面にかけて露胎となる。内底面は輪状に掻き取られる。貫入が僅かに見られる。	C-3 ①撹乱
	42		底	胎土はやや粗い。黒色の粗粒子が混入する。	－ － 5.6	高台はやや内傾する。内底面はやや窪む。内底面には圏線と全体構成不明の文様が、外面胴部に圏線と唐草文が見られる。	透明釉で呉須の発色は鈍い。釉は高台下部から畳付以外に施される。内外面ともに粗い貫入が見られる。	B－4 ②黒褐土層
	43			胎土は密で黒色の粗粒子が多く混入する。	－ － 7.6	高台は厚く、高い。畳付は尖り気味となり、内底面は焼成時のひび割れが縦横に走る。内底面には2条の圏線と文様、外面は高台に2条の圏線と胴部にも全体構成不明の文様が描かれる。	やや透明度を有した釉で高台下部から畳付にかけて露胎となる。呉須の発色は鈍く、斑が見られる。貫入は見られない。	SR01
	44			胎土は密で小さい気泡が僅かに見られる。黒色微粒子が僅かに混入する。	－ － 7.4	高台は高く、薄い。内刳りはやや深い。外面は胴下部に渦巻文、高台には圏線が2条描かれる。器表には白色微砂粒が溶着する。	透明釉で畳付のみ露胎となる。呉須の発色は良好で文様は明瞭。貫入は見られない。	A-2 ④撹乱
	45			胎土は密。黒色微粒子が多く混入する。	－ － 8.4	高台は高く、やや内傾する。外面には圏線、内底面にも文様が見られるが全体構成は不明。器表には小孔が多く見られる。	やや透明度を有する釉で高台下部から畳付にかけて露胎となる。呉須の発色は良好で濃い藍色を呈する。貫入は見られない。	B-4 ②黒褐土

注　「－」：計測不可

第6表　染付観察一覧（5）

単位：cm

挿図番号 図版番号		器種	部位	素　地	口径 器高 高台径	器形･成形･文様等の特徴	釉色･施釉状況･貫入等	出土地
第39図・図版19	46	碗	胴～底	胎土は密で灰白色を呈する。大小の気泡が多く見られる。	－ － 8.9	高台は低く、下部は斜めに面取りがなされている。外面には水蓮池文と圏線が描かれる。畳付には砂粒が溶着する。器表には小孔が見られる。	やや透明度を有する釉で胴下部は露胎となる。呉須の発色は鈍く、濃い藍色を呈する。貫入は見られない。	表採
	47			胎土は密。白･黒微粒子が混入する。	－ － 4.4	高台は薄く内刳りがやや深い。内面は無文で外面は胴部に花唐草文、高台には圏線、底面には銘款が描かれる。	透明釉でやや青味を帯びる。畳付のみ露胎となる。呉須の発色は良好であるが一部滲む。貫入は見られない。	A-3 撹乱
	48			胎土は密、大きい気泡が見られる。黒・褐色細砂が混入する。	－ － 7.4	高台は高く、内面内刳りは浅い。外面は胴下部に略化された蓮弁文と胴部には半梅花文が描かれている。外面高台には2条の圏線､内底面にも2条の圏線が見られる。	やや透明度を有する釉で高台下部から畳付にかけてのみ露胎となる。貫入は見られない。	A-4 撹乱
	49	皿	口～底	胎土は密で大小の気泡が見られる。黒色細砂粒が多く混入する。	12.0 2.6 6.4	外反皿で全体的に器壁は薄い。外面は胴部に宝相華唐草文、内面は底面に玉取獅子文が見られる。器表には小孔が多く見られる。畳付から高台内面にかけて白色粗砂が大量に溶着する。	やや透明度を有する釉で高台下部から畳付にかけては露胎となる。呉須の発色は鈍く、全体的に薄く滲む。貫入は見られない。	SD01 A-2
	50			胎土は密。黒色微粒子が僅かに混入する。	12.2 2.6 7.0	外反皿で全体的に器壁は薄い。底面は高台畳付より下方に窪む。外面は胴部に宝相華唐草文、内面は底面に玉取獅子文が見られる。高台下部から畳付にかけて白色粗砂が溶着する。	透明釉で外面高台下部から外底面にかけて露胎となる。釉内には無数の気泡が見られる。呉須の発色は鈍く､全体的に滲む。内外面共に粗い貫入が見られる。	SD01 下層・造成土
	51			胎土は密。白色微粒子が僅かに混入する。	9.3 2.4 4.8	口縁部は僅かに外反する。高台は低く、内傾する。畳付は丸みを帯びる。外面は胴部に圏線と唐草文、内面は圏線と捻花文が描かれる。	やや透明度を有する釉で畳付から高台内面下部にかけてのみ露胎となる。全体的にやや厚く施釉され、口唇部のみかなり薄くなる。呉須の発色は鈍く、全体的に滲む。貫入は見られない。	撹乱
	52			胎土は密。黒色微粒子が混入する。	12.4 2.5 6.9	外反皿で全体的に器壁はやや厚めとなる。畳付は平坦になる。外面は胴部に宝相華唐草文、内面は底面に玉取獅子文が見られる。器表には小孔が見られ、白色粗砂が溶着する。	やや透明度を有する釉で高台下部から畳付にかけては露胎となる｡また外底面は一部､施釉されない部分が見られる｡呉須の発色は鈍く､全体的に斑が見られる｡貫入は見られない。	SD01 下層
	53			胎土は密で小さい気泡が見られる。黒色微粒子が僅かに混入する	12.5 2.7 6.5	外反皿で全体的に器壁は薄い。外面は胴部に宝相華唐草文、内面は底面に玉取獅子文が見られる。高台に白色粗砂粒が溶着する。	透明釉で外面高台下部から外底面にかけては露胎となる。呉須の発色は鈍く、全体的に滲む。貫入は見られない。	SD01 下層
	54			胎土は密で気泡が多く見られる。褐色微粒子が僅かに混入する。	12.2 2.5 6.9	外反皿。高台は低く断面形が逆三角形状となる。内底面には圏線の中に玉取獅子文、外面胴部には蓮華唐草文が見られる。器表には小孔が多く見られる。	やや透明度を有する釉で、高台下部から畳付にかけて露胎となる。呉須の発色は鈍く全体的に滲む。貫入は見られない。	SD01 造成土

注　「－」：計測不可

第6表　染付観察一覧（6）

単位：cm

挿図番号 図版番号		器種	部位	素　地	口径 器高 高台径	器形・成形・文様等の特徴	釉色・施釉状況・貫入等	出土地
第39図・図版19	55	皿	口～底	胎土は密で大きい気泡が見られる。白色粗粒子が僅かに混入する。	9.0 2.0 5.0	口縁部が外反する小振りな皿。高台は低く、畳付は僅かに平坦となる。高台下部には砂粒が溶着する。外面にはかなり略化された蓮華唐草文が、内底面には十字花文が描かれる。また内底面には焼成時のひびが見られる。	失透釉。外面高台下部から外底面にかけては露胎となる。呉須は全体的に薄く、施釉も雑である。貫入は見られない。	A-2 表採
	56			胎土は密で気泡が多く見られる。黒色微粒子が混入する。	9.4 2.1 5.0	外反皿。外面には略化した唐草文、内底面には十字花文が細線で描かれている。畳付には砂粒が溶着し、器表には小孔が多く見られる。	失透釉。畳付のみ露胎となる。呉須の発色は鈍く、斑が見られる。外面胴下部に粗い貫入が見られる。	SD01 造成土
	57			胎土は密で気泡が多く見られる。白・黒粗粒子が混入する。	9.0 2.1 4.6	外反皿で高台は低く内傾する。外面は胴部に雑な唐草文、内面には圏線と底面に十字花文が見られる。器表には小孔が見られる。	やや透明度を有した釉。高台下部から畳付にかけて露胎となる。呉須の発色は鈍く、全体的に薄い。貫入は見られない。	SD01 下層
	58		口	胎土は密。白・黒色粗粒子が僅かに混入する。	10.2 — —	外反皿。外面胴部は蓮唐草文、内面は圏線が１条見られる。	やや透明度を有する釉。口唇部近くのみ薄く施釉される。呉須の発色は鈍く、全体的に滲む。貫入は見られない。	SD01 下層
	59			胎土は密で気泡が僅かに見られる。黒色微粒子が僅かに混入する。	— — —	やや深めの外反皿。外面には２条１組の圏線と草花文、内面には圏線のみ描かれる。器表には小孔が僅かに見られる。	やや透明度を有する釉。口唇部近くのみ薄く施釉される。呉須の発色は鈍く、全体的に滲む。貫入は見られない。	SR02
	60		口～胴	胎土は密。褐色粗砂粒が僅かに混入する。	8.3 — —	外反皿で胴部は膨らみを有する。外面胴部に唐草文、内面には口縁部直下と胴下部に圏線が１条見られる。	やや透明度を有する釉。呉須の発色は鈍く、全体的に薄い。貫入は見られない。	SD01 造成土
	61		口～胴	胎土は密。白色粒子が僅かに混入する。	— — —	外反皿。外面は口縁部直下に２条１組の圏線、内面は白抜きの文様が見られるが、全体構成は不明。	透明度を有する釉で呉須の発色は良好、濃い藍色を呈する。貫入は見られない。	SK07 黒土暗茶褐色土層
	62		口～胴	胎土は密で一部陶胎となる。小さい気泡が見られる。	8.2 — —	直口皿。外面は胴部に唐草文、内面は口縁部直下に圏線、内底面に花文が描かれる。器表には小孔が僅かに見られる。	失透釉に近い。呉須の発色は鈍く、濃い藍色を呈するが全体的に滲む。内外面共に細かい貫入が見られる。	SA03 グリ石上層
	63		口～胴	胎土は密。混入物は見られない。	13.7 — —	口縁部は若干外反する。口唇部は尖り、器壁は全体的に薄い。内面口縁部は2条1組の圏線、外面胴部には牡丹文が、背景は呉須でダミる。	透明釉で呉須は斑が見られる。貫入は見られない。	SD01 下層
	64		口～胴	胎土は密。黒色微粒子が多く混入する。	9.6 — —	外反皿。内外面共に口縁部直下に圏線が見られる。	透明釉。呉須の発色は鈍く、全体的に薄い。内外面共に一部、貫入が見られる。	世誇殿前庭埋土
	65		口～胴	胎土は密で大小の気泡が多く見られる。褐色微粒子が混入する。	16.6 — —	直口皿で胴部は膨らみを有する。口縁部はにかけて器壁は薄くなり、口唇部は丸くおさめる。外面胴部には唐草文、内面は無文となる。	やや透明度を有する釉で胴部は一部露胎となる部分が見られる。貫入は見られない。	A-3 ④グリ石埋土

注　「—」：計測不可

第６表　染付観察一覧（7）

単位：cm

挿図番号 図版番号		器種	部位	素　地	口径 器高 高台径	器形･成形･文様等の特徴	釉色･施釉状況･貫入等	出土地
第39図・図版19	66	皿	底	胎土は密で混入物は見られない。	― ― 10.0	高台は低く、全体的に器壁はかなり薄い。外面は圏線のみ、内面は細線で竜文及び雲文が描かれ、背景は呉須でダミる。	透明釉で呉須の発色は良好。高台下部から畳付にかけて露胎となる。貫入は見られない。	A-2 ④撹乱
	67		胴～底	胎土は密で気泡が僅かに見られる。黒色微粒子が僅かに混入する。	― ― 14.7	高台は低く､やや内傾気味になる。胴下部は膨らみを有する。内面は圏線、外面には圏線と唐草文が描かれる。	やや透明度を有した釉。高台下部から畳付にかけて露胎となる。呉須の発色は鈍く、圏線は特に薄くなる。内外面共にかなり粗い貫入が見られる。	A-3 撹乱
	68			胎土は密で小さい気泡が多く見られる。	― ― 10.6	高台は低く、内傾する。胴部は緩やかに立ち上がる。外面には唐草文と圏線、内底面には波濤文帯と雲文が描かれる。器表には小孔が多く見られる。	やや透明度を有する釉。呉須の発色は良好で濃い藍色を呈する。内外面共に粗い貫入が見られる。	表採
第40図・図版20	69			胎土はやや粗く大きく、やや褐色を呈する。気泡も多く見られる。	― ― 6.6	外反皿の底部資料。高台は低く、畳付は尖る。外面には胴部に唐草文が内面には圏線とその内側に玉取獅子文が描かれる。器表には小孔が多く見られる。	やや透明度を有する釉。外面高台下部から外底面にかけて露胎となる。呉須の発色は鈍く全体的に薄い。内外面共に粗い貫入が見られる。	SD01 造成土
	70			胎土は密で大小の気泡が多く見られる。黒色の微粒子が僅かに混入する。	― ― 2.5	直口皿の底部資料。底部は碁笥底で畳付近くに砂粒が溶着する。外面には芭蕉葉文と圏線、内面には圏線とその中に蓼文が描かれる。	やや透明度を有する釉で畳付とその周辺は露胎となる。施釉は均一ではなく一部、厚みを有する部分が見られる。貫入は見られない。	A-2 撹乱
	71	杯	口～胴	胎土は密。褐・黒色微粒子が混入する。	6.9 ― ―	外反口縁。器壁は全体的に薄い。内外面口縁部直下に２条１組の圏線、外面胴部に松葉文、内面には雷文帯が描かれる。	透明釉で呉須の発色は良好。貫入は見られない。	撹乱
	72		胴～底	胎土は密で気泡が僅かに見られる。白・黒粗粒子が混入する。	― ― 3.5	高台は低いが内刳りが深い。胴部の立ち上がりは緩やかな小杯。外面は無文で内底面は白抜きの花文が描かれる。	透明釉で畳付のみ露胎となる。呉須の発色は良好で濃い藍色を呈する。貫入は見られない。	SR01 裏込
	73		胴～底	胎土は密で大小の気泡が見られる。黒色微粒子が僅かに混入する。	― ― 4.2	高台はやや高く､内傾する｡外面胴部には圏線と唐草文、外底面には｢精製｣の銘款が内底面には圏線と略化された草花文が描かれる。	透明釉でやや青味を帯びる。呉須の発色は良好。貫入は見られない。	撹乱
	74		底	胎土は密でやや褐色を呈する。気泡が僅かに見られる。	― ― ―	高台は高く、内面内刳りは浅い。外面は胴下部に略化された蓮弁文と胴部には半梅花文が描かれている。外面高台には２条の圏線、内底面にも２条の圏線が見られる。	やや透明度を有する釉で高台下部から畳付にかけてのみ露胎となる。貫入は見られない。	SA03 グリ石下層
	75		胴～底	胎土は密で大小の気泡が見られる。白色粗粒子が混入する。	― ― 5.0	高台断面が逆三角形状となり畳付は丸みを帯びる底部資料。内面は圏線、外面は胴下部に芭蕉葉文が描かれる｡畳付は砂粒が溶着する。	透明釉でやや青味を帯びる。呉須の発色は鈍く、全体的に滲む。貫入は見られない。	A-3 ④撹乱

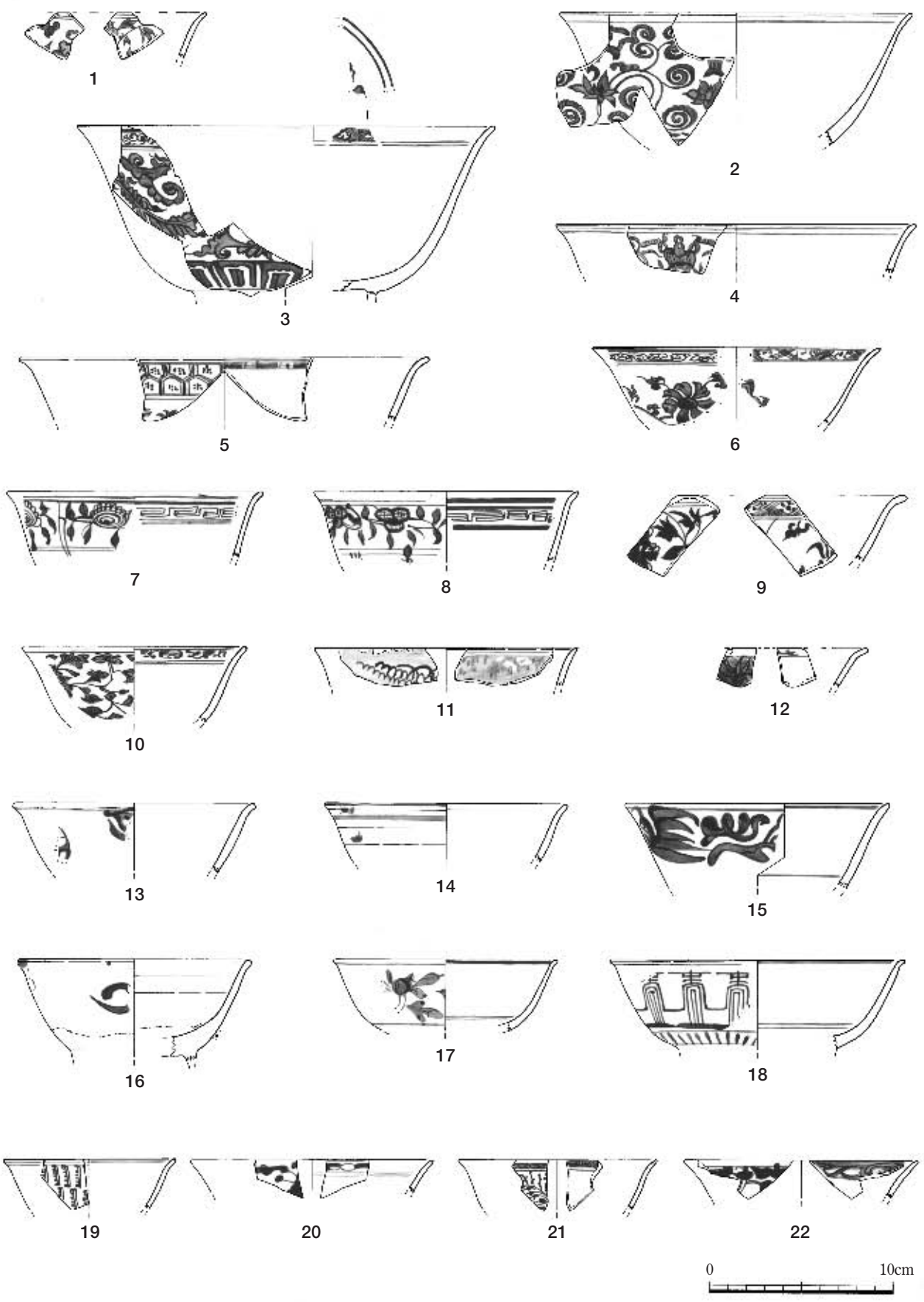
注　「－」：計測不可

第6表　染付観察一覧（8）

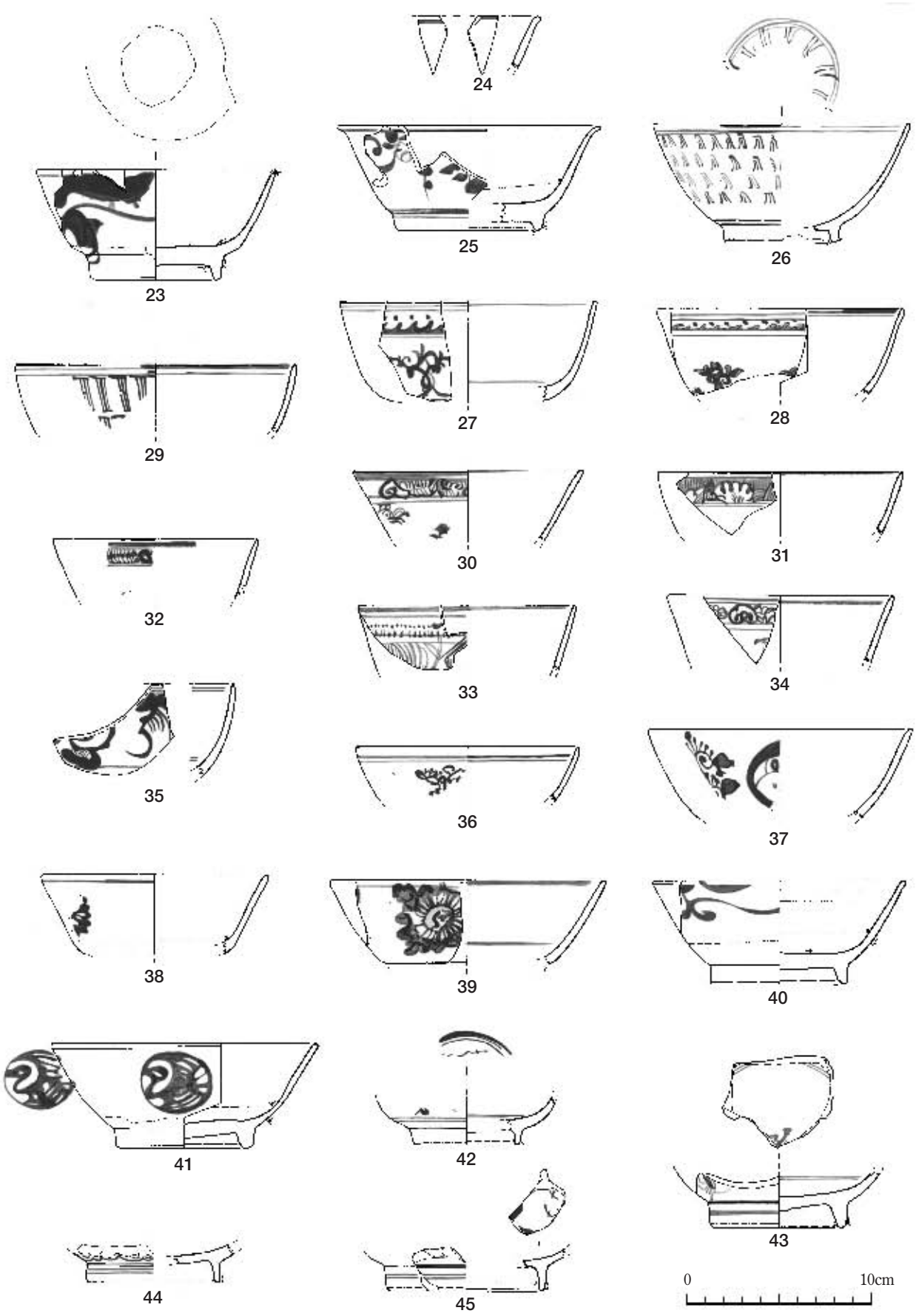
単位：cm

挿図番号 図版番号		器種	部位	素　地	口径 器高 高台径	器形・成形・文様等の特徴	釉色・施釉状況・貫入等	出土地
第40図・図版20	76	杯	底	胎土は密で小さい気泡が見られる。黒色粗粒子が僅かに混入する。	－ － －	高台は低く、薄い。外面は圏線と唐草文か、内底面にも文様は見られるが全体構成は不明。	やや透明度を有する釉。高台下部から畳付のみ露胎となる。内面の呉須の発色は良好だが外面は薄い。貫入は見られない。	SD01
	77		胴～底	胎土は密。黒微粒子が多く混入する。	－ － 2.8	高台は低く胴部の立ち上がりは急な小杯。内面は無文で外面には高台に圏線、胴下部に蓮弁文か。器表に小孔が僅かに見られる。	透明釉で畳付のみ露胎となる。呉須の発色は鈍く全体的に薄い。貫入は見られない。	C-4 ①撹乱
	78		胴～底	胎土はやや粗く、大小の気泡が見られる。褐色粗砂粒が僅かに混入する。	－ － 2.5	高台は低く、畳付は尖る。内底面は窪み、文様は圏線とその内側に花文か。外面にも文様が見られるが全体構成は不明。	透明釉を高台下部から畳付を除いて施す。呉須の発色は良好。細かい貫入が内外面共に見られる。	SK06 埋土撹乱
	79	盤	胴～底	胎土は密。白色粗砂粒が混入する。	－ － 14.8	碁笥底の盤。内外面共、胴部には全体構成不明の文様が見られる。内面は葉文と丸文で構成される文様が描かれる。	透明釉で高台下部から畳付にかけて露胎となる。呉須の発色は比較的良好。粗い貫入が内外面共に見られる。	B-4 ②黒褐土
	80	蓋	端～甲	胎土は密で大小の気泡が多く見られる。黒色粗粒子が僅かに混入する。	16.4 － －	合子の蓋か。外面は端部に左回りの雷文帯が、甲部には七宝繋文が見られる。内面は無文。器表には白色粗砂粒が溶着する。	透明釉で外面は全釉されるが内面は端部から露胎となる。呉須の発色は良好で文様は明瞭。貫入は見られない。	A-2 トレンチ ⑧撹乱
	81	壷	頸	胎土は密で大小の気泡が見られる。黒色粗粒子が僅かに混入する。	－ － －	頸部は直に立ち上がり、胴部の膨らみは余り有さない。外面は頸部に波濤文、胴部には雲文か。内面は粘土塊が溶着する。	透明釉を内外面共に薄く施す。内面胴部は露胎となる。呉須の発色は良好で濃い藍色を呈する。細かい貫入が内外面共に見られる。	C-4 ①撹乱
	82	把手	－	胎土は密で小さい気泡が見られる。黒色微粒子が僅かに混入する。	－ － －	壷又は大型瓶に付く把手。外面に孔が開けられた取っ掛かりが付属する。またその下部に魚文が描かれる。	やや透明度を有する釉で青味を帯び、全釉される。呉須の発色は鈍く、全体的に滲む。貫入は見られない。	A-2 トレンチ ⑥
	83	瓶	頸～底	胎土は密。黒色微粒子が僅かに混入する。	－ － 5.2	長頸瓶。胴上部と胴下部に継ぎ目が見られる。器表には焼成の際の割れが確認できる。内面には轆轤成形痕が明瞭に見られる。頸部には芭蕉葉文、胴上部には雲文、胴部には蓮華唐草文、胴下部には火焔状の文様を横位に並べる。各文様間は圏線で画される。	やや透明度を有する釉。外面高台下部から外底面にかけて露胎となる。胴部も一部、露胎となる部分が見られる。呉須の発色は良好で濃い藍色を呈する。内外面共にかなり粗い貫入が見られる。	A-2 撹乱
	84	壷	蓋	胎土は密。大小の気泡が見られる。黒色微粒子が混入する。	－ － 18.3	酒会壷の蓋。鍔付きで懸かりの端部は丸みを帯びる。甲部には雷状の茎が密に描かれる。内面には回転轆轤成形痕が見られる。	透明釉で甲部のみ施釉される。呉須の発色は良好で濃い藍色を呈するが斑も見られる。粗い貫入が見られる。	撹乱
	85		口～胴	胎土は密で黒色微粒子が多く混入する。小さい気泡が多く混入する。	20.0 － －	酒会壷。頸部１点、胴部４片で前者は波濤文、後者は胴上部が唐草文、胴中央部から下部にかけて魚藻文が描かれる。全体的に器壁は厚く、内面には回転轆轤成形痕が見られる。僅かであるが外面の器表には小孔が見られる。	透明釉で内外面共に施す。内面は非常に薄く施される。呉須の発色は良好で、濃淡も明瞭。外面のみ細かい貫入が見られる。	B-3、 C-3、 C-4

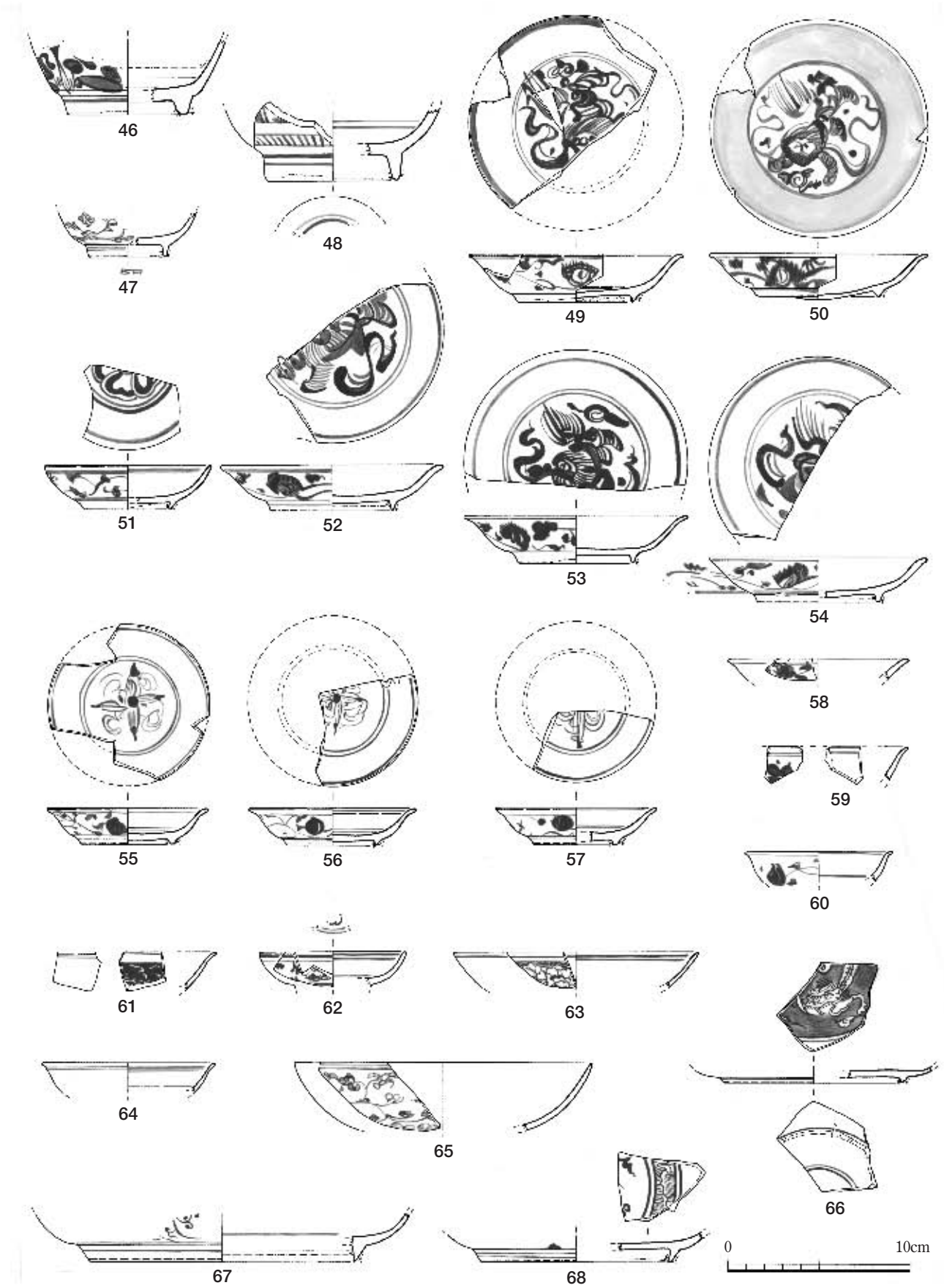
注　「－」：計測不可



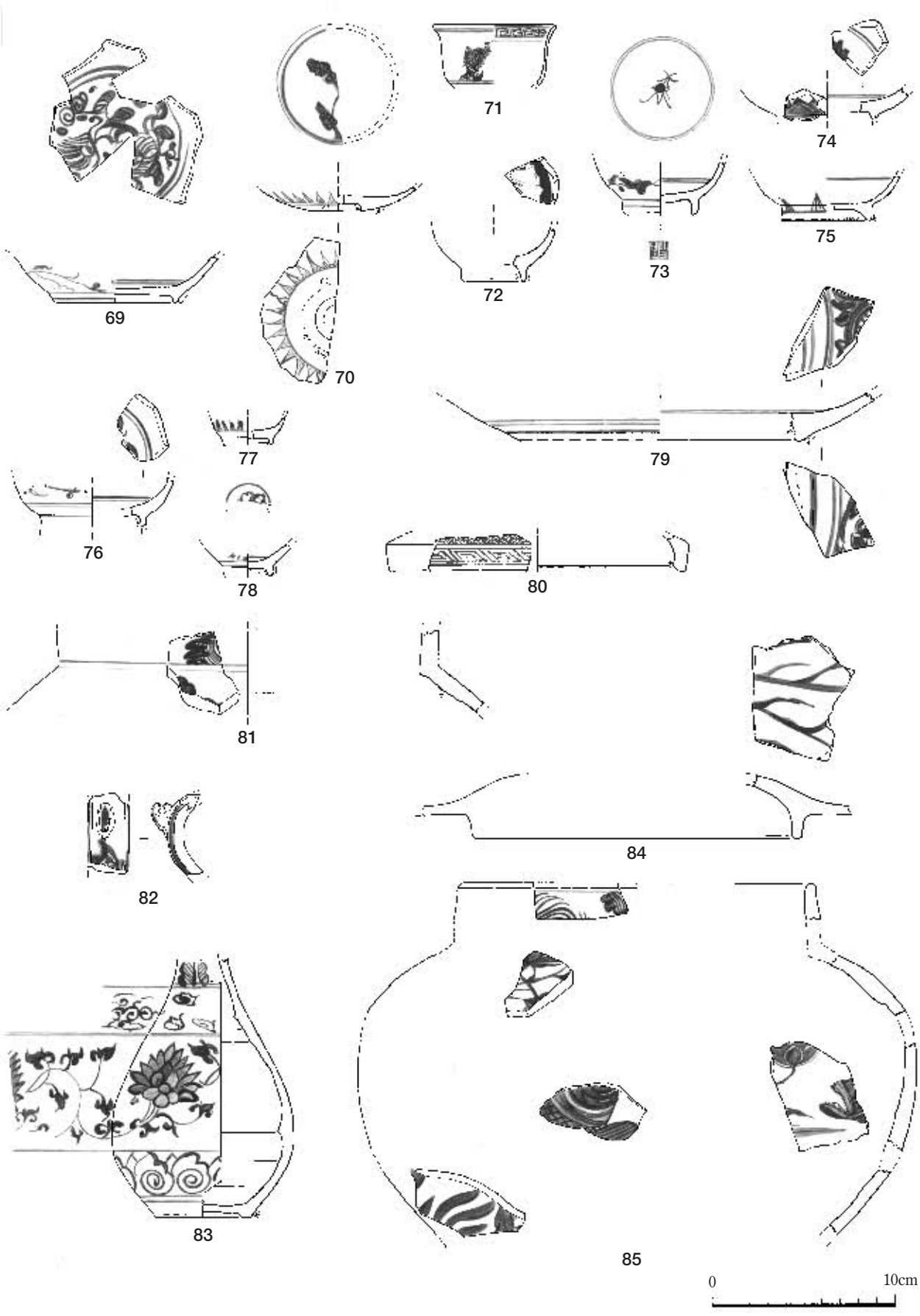
第37図　染付（１）


24
23
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
0
10cm

第38図　染付（２）


46
48
47
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
0
10cm

第39図　染付（３）



第40図　染付（４）

第４節　褐釉陶器

今回出土した褐釉陶器の器種の大半は壺であった。産地は中国産とタイ産に分けることができる。

中国産褐釉陶器

中国産褐釉陶器は総数5963点出土している。多くの壺をはじめ、わずかに鉢が出土している。壺以外は小破片が多く、全体を窺える資料が少ない。今回残りの良い25点を図示した。

１．壺（第41図・42図６～14、17～24）

中国産褐釉陶器の壺は、口縁部を基に分類を行い、底部は底部のみでタイプ別に分けた。

Ⅰ類－口縁部の形状が方形状のもの（１～７）。

Ⅱ類－口縁部が微弱に肥厚するもの（８～10）。

Ⅲ類－口縁部が逆Ｌ字状のもの（11、12）。

Ⅳ類－口縁部が玉縁状のもの（13、14）。

底部－上げ底（17～20）。高台造り（21～23）。平坦（24）。

２．鉢（第42図15・16・25）

中国産褐釉陶器の鉢は、口縁部２点、底部１点の資料を図示した。口縁部を逆Ｌ字状に成形し、底部に向かって窄まるもの（15）、口縁部を内側に肥厚させるもの（16）、底部が平坦なもの（25）。

第７表　褐釉陶器観察一覧（中国産）（１）

単位：㎝

挿図番号 図版番号		器種・分類	部位	口径 器高 底径	器形・成形・文様等の特徴	素　　地	釉色・施釉状況・貫入等	出土地
第41図・図版21	1	壺／Ⅰ	口～胴	18.2 ― ―	外面胴上部に積跡と思われる跡がある。	橙色で、少量の白色粒子を含む。	外面に黄褐色の釉を施釉。	SA06 埋土
	2			16.6 ― ―	外面胴上部に積跡と思われる跡がある。	灰白色で、微量の白色粒子を含む。	両面に黒褐色の釉を施釉。	A-2 撹乱層
	3			22.5 ― ―	両面に調整痕と思われる圧痕が見られる。口唇部上面に溝状の凹みが見られる。	赤褐色で、少量の白色粒子を含む。	両面に灰褐色の釉を施釉。	SS01 埋土
	4		口	25.1 ― ―	両面が熱もしくは火受けして、釉が溶けている。	暗褐色で、微量の白色粒子を含む。	両面に灰褐色の釉を施釉。	A-2 トレンチ ⑥撹乱層
	5			18.8 ― ―	口唇部上面に溝状の凹みが見られる。	灰色で、微量の白色粒子を含む。	両面に黒褐色の釉を施釉。口唇部は一部釉剥ぎ。	A-2 トレンチ ⑥撹乱層
第42図・図版22	6			19.2 ― ―	細かい貫入が入る。	灰白色で、少量の白色粒子を含む。	両面に黒褐色の釉を施釉。	A-2 撹乱層
	7			19.5 ― ―	口縁部が丸味を帯びた方形状。	灰色で、微量の白色粒子を含む。	両面に黒褐色の釉を施釉。	A-4 ④撹乱層
	8	壺／Ⅱ	口	15.8 ― ―	口縁部を鉤状に肥厚させたもの。	黒色土が明褐色土に挟まる。多量の白色粒子を含む。	両面に褐色の釉を施釉。	C-3 表採

注　「＋」：接合の意

第７表　褐釉陶器観察一覧（中国産）（２）

単位：cm

挿図番号 図版番号		器種・分類	部位	口径 器高 底径	器形・成形・文様等の特徴	素　地	釉色・施釉状況・貫入等	出土地
第42図・図版22	9	壺／Ⅱ	口～胴	15.6 — —	小ぶりの耳が着いている。四耳壺か？	暗褐色で、多量の白色粒子を含む。	外面は釉が落ちてる。	SS01 埋土
	10		口	10.8 — —	小壺と思われる。僅かではあるが、内面に轆轤痕が見られる。	橙白色で、少量の白色粒子を含む。	両面に黄褐色の釉を薄く施釉。	A-4 トレンチ ②撹乱層
	11	壺／Ⅳ		18.0 — —	口縁部の形態は逆Ｌ字状に入れてあるが、隅丸方形状に近い。外面頚部に一条の沈線が入る。	橙色で、少量の白色粒子を含む。	外面に黄褐色の釉を施釉。口唇部は釉剥ぎされていて、内面は露胎。	SA05 褐色混砂土
	12			17.4 — —	両面に轆轤痕が見られる。外面頚部に二条の沈線が入る。	橙色で、少量の白色粒子を含む。	両面に黄褐色の釉を施釉。口唇部付近は釉剥ぎがなされている。	A-3 トレンチ ②撹乱層
	13	壺／Ⅳ	口	11.2 — —	小壺と思われる。内面に轆轤痕が見られる。	橙色で、微量の白色粒子を含む。	外面と内面口縁部の一部に黒褐色の釉を施釉。口唇部は釉剥ぎ。内面は露胎。	SK02 埋土
	14			10.4 — —	小壺と思われる。	明赤褐色で、少量の白色粒子を含む。	外面に赤褐色の釉を施釉。	B-3 撹乱層
	15	鉢	口	19.6 — —	口縁部が逆Ｌ字状を呈する。	褐色で、微量の白色粒子を含む。	両面に黒褐色の釉を施釉。	A-3 撹乱層
	16			12.6 — —	小鉢と思われる。口縁部が方形状で、内側に突出している。	灰色で、少量の白色粒子を含む。	口唇部の一部と内面に黒褐色の釉を施釉。その他は釉剥ぎがなされている。	C-3 グリ石下層
	17	壺／上げ底	底	— — 17.0	内面に轆轤痕が見られる。	灰黄褐色で、微量の白色粒子を含む。	黒褐色の釉がかかるが、外底部が一部露胎。	SA06 暗褐色混砂土
	18			— — 15.4	内面に僅かではあるが、轆轤痕が見られる。	灰赤色で、微量の白色粒子を含む。	外面に灰白色の釉を施釉。外面は焼成を受け、釉が剥がれている。内面は露胎。	SA03 グリ石下層
	19			— — 15.8	内面に轆轤痕が見られる。	灰褐色で、微量の白色粒子を含む。	外面の一部に褐色の釉が掛かる。内面は露胎。	A-2 ④撹乱層
	20			— — 15.2	内面に僅かではあるが、轆轤痕が見られる。	灰黄褐色で、微量の白色粒子を含む。	外面から畳付けまで淡黄色の釉を施釉。それ以外は露胎。	SD01 溝内
	21	壺／高台		— — 14.6	両面に轆轤痕が見られる。	灰褐色で、微量の白色粒子を含む。	内底から外面高台脇まで黒褐色の釉を施釉。	SA03・04 間埋土
	22			— — 17.2	両面に僅かに轆轤痕が見られる。	橙色で、微量の白色粒子を含む。	外面に暗褐色の釉が垂れ掛かる。その他は露胎。	B-4 ①撹乱層
	23			— — 12.6	内面に轆轤痕が見られる。	灰褐色で、微量の白色粒子を含む。	両面に黒褐色の釉を施釉。畳付けから内底は露胎。	A-3 撹乱層
	24	壺／平坦		— — 11.0	内面に轆轤痕が見られる。	褐灰色で、微量の白色粒子を含む。	外面から畳付けまで黒褐色の釉を施釉。それ以外は露胎。	A-3 ④撹乱層
	25	鉢／平坦		— — 8.2	小鉢と思われる。	灰褐色で、微量の白色粒子を含む。	内面に黒褐色の釉を施釉。外面は露胎。	SK02 グリ石

注　「＋」：接合の意

タイ産褐釉陶器

タイ産褐釉陶器は総数1403点出土している。そのほとんどが壺であり、それ以外は小破片のため全形を窺える資料が少ない。その中で残りの良い壺の口縁部10点、胴部１点、底部２点の計13点を図示した（第43図）。

Ⅰ類－口縁部を肥厚させ、口唇部を摘み上げたもの（１）。

ところどころで釉が落ちているが、全体に黒褐色の釉が掛かっていたと思われる。口径20.8㎝。出土地区A-4①SA01埋土。

Ⅱ類－口縁部が微弱に肥厚するもの（２、３）。

２は黒褐色の釉が掛かるが、外面の一部が露胎している。口径19㎝。出土地区A-3トレンチ②撹乱層。３は口縁部に蓋受け部が見られる。外面口縁部の一部が釉剥ぎされている。口径20.2㎝。出土地区A-4トレンチ撹乱層。

Ⅲ類－口縁部をラッパ状に成形し、口唇部を上下両方に摘んだもの（４、５）。

４は黄褐色の釉が掛かるが、外面の口縁部付近から頚部にかけて露胎している。口径22㎝。出土地区SA03グリ石上層。５は外面口縁部の一部と外面頚部が露胎している。口径19.5㎝。出土地区B-4②黒褐色土層。

Ⅳ類－口縁部が外反し、口唇部を下方に微弱に伸ばしたもの（６）。

黒褐色の釉が掛かるが、外面頚部の一部が釉剥ぎされている。口縁部に僅かだが蓋受け部が見られる。口径19㎝。出土地区A-4④撹乱層。

Ⅴ類－口縁部を玉縁状に成形したもの（７～10）。

７は全体に黒褐色の釉が掛かる。口縁部に僅かに蓋受け部が見られる。口径18.8㎝。出土地区A-4トレンチ撹乱層。B-4撹乱層。８は褐色の釉が掛かるが、口縁部の内面が一部露胎。外面は一部釉剥ぎされている。口径19㎝。出土地区A-3②グリ石上層。９は黄褐色の釉が掛かるが、口唇部の一部から内面にかけて露胎している。口径17.6㎝。出土地区SS01埋土。10は口縁部に僅かに蓋受け部が見られる。黄褐色の釉が掛かるが、外面の口唇部から頚部にかけて露胎している。口径17㎝。出土地区A-3④撹乱層。

胴部－外面に四つの耳が付くもの（11）。

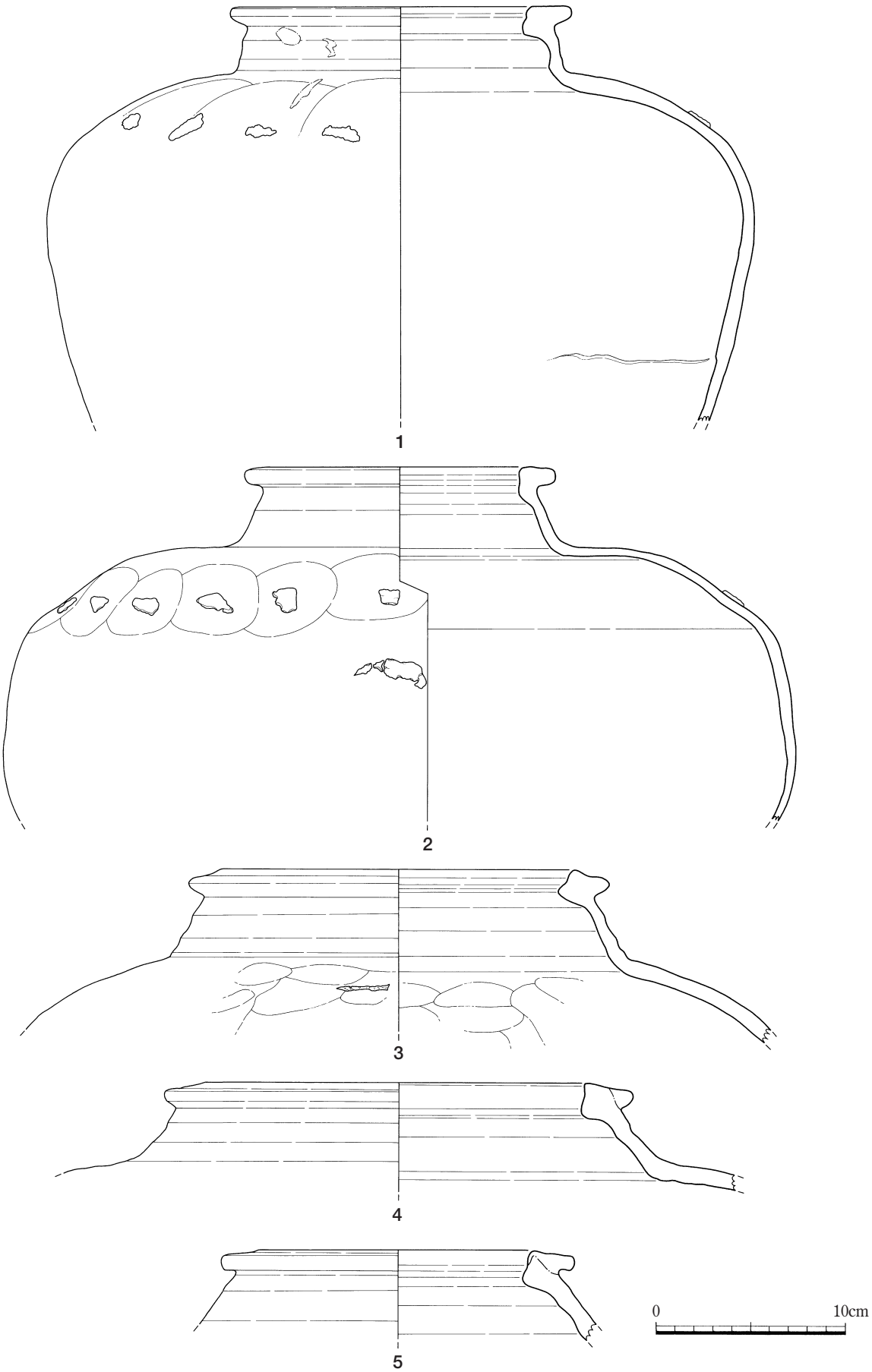
外面のみ黄褐色の釉が掛かる。出土地区A-2撹乱層。

底部－底部を平坦に成形するもの（12、13）。

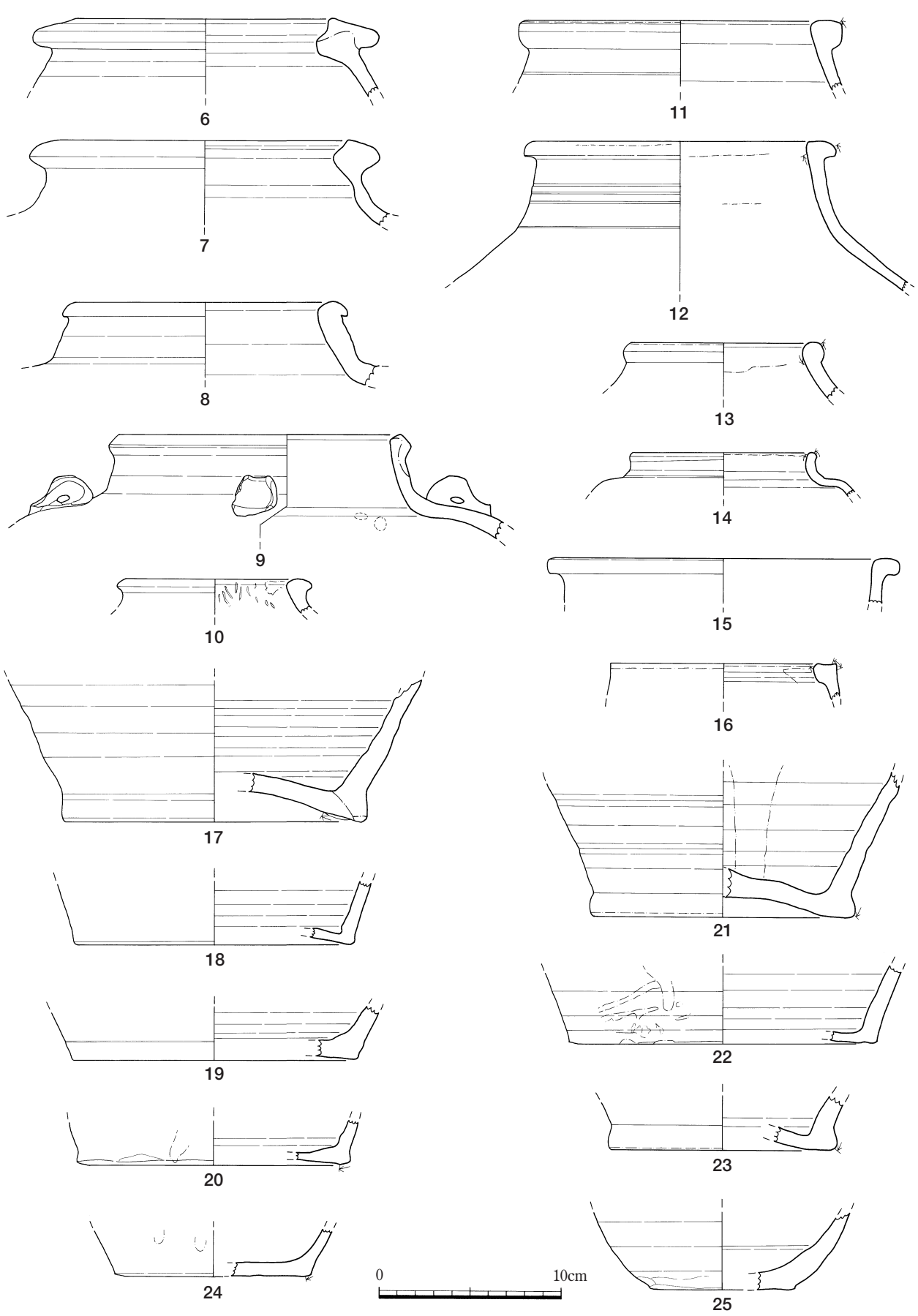
12は釉が掛かっていない部位。両面に轆轤痕が見られる。底径25.4㎝。出土地区A-2撹乱層。13も釉が掛かっていない部位。外面に轆轤痕が見られる。底径27.8㎝。出土地区SA06暗褐色混砂層。

第8表　褐釉陶器出土状況

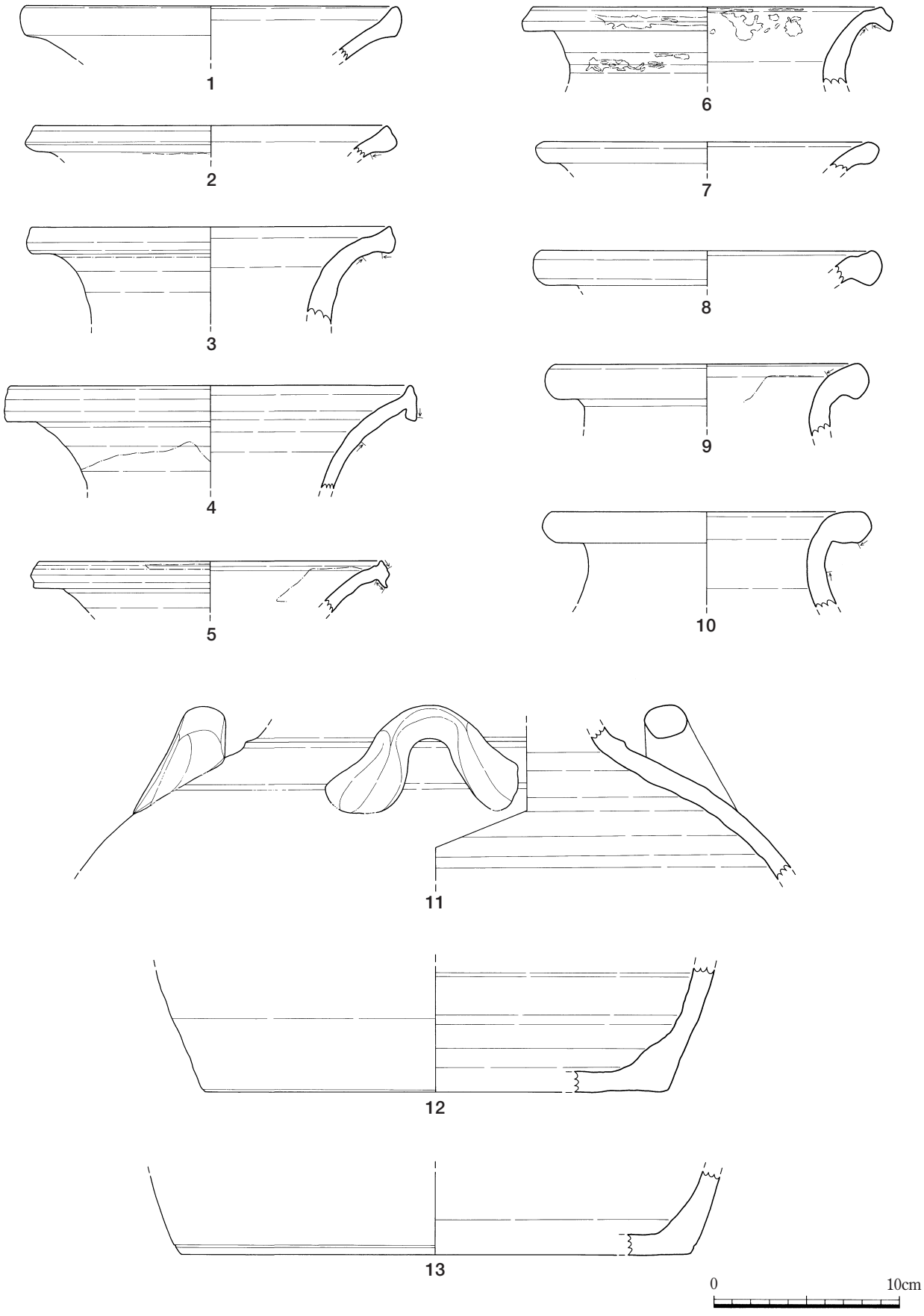
器種・分類 ＼ 出土地				SR					SA						SS	SD	SK							世誇殿		戦前遺物包含層	A－				B－			C－			表採	撹乱	合計
				01	02	04	05	09	01	02	03	05	06	02·03·04	01	01	02	03	04	05	06	07	08	前庭埋土	黄褐色微砂層		2	3	4	2.3	2	3	4	3	4	3.4			
中国産	壷	Ⅰ類	口縁部	1						1	1		1		2					1	1			1		3	10	23	15		1	2	7				3	17	90
		Ⅱ類													1													1				1		1			1	2	7
		Ⅲ類										1																1	1									1	4
		Ⅳ類					1					1					1			1				1			1				1	1					1	9
		不明			1		1								2							1		1					3		1					1	1	12
		耳			1										1							1	1					1					1	1				7
		頚　部			3					2	3		1	3	2	4						1			1	2	9	34	10		1	2	6	1	2		3	26	116
		把　手																										1									1		2
		胴　部		23	66	21	29	4	31	12	110	12	125	52	107	243	18	8	5	31	109	124	26	33	53	143	455	1,040	507	12	11	213	539	52	94	3	223	1,095	5,629
		上げ底	底　部								2		1			3										1	2		1			2			3		1	4	20
		高台状											2	1													2	2	3				2	1			1	3	17
		平　坦															1										1	2	1			2		1				1	9
		不　明																		1	1					1	3	6	3			2	2		1		2	9	31
	鉢	逆Ｌ字状	口縁部																									2											2
		微弱に肥厚																										1						1			3	5
		平　坦	底　部		1																		1																2
	器種不明	底　部																													1								1
	小　計			24	72	21	31	4	31	15	116	14	130	56	115	250	20	8	5	34	111	127	28	36	54	150	483	1,114	544	12	14	226	557	58	101	3	236	1,163	5,963
タイ産	壷	口縁部			2				1		1		1		2	1					1		1			2	2	8	9			3	5		1		1	13	54
		頚　部					1				2		3		2	1					1					2	4	12	5			5	5	2			4	2	51
		耳													1	1					1	1					4	2	5			1	1					4	21
		胴　部		10	9	4	10		11	1	17	2	21	1	13		2	2	2	4	13	22	10		17	25	103	227	204	6	8	45	86	26	34		52	253	1,240
		底　部											2								1					2	4	5	4		1	1	5		3		1	6	35
	器種不明	口縁部																										2										2
	小　計			10	11	4	11	0	12	1	20	2	27	1	18	3	2	2	2	4	17	23	11	0	17	31	117	254	229	6	9	55	102	28	38	0	58	278	1,403
合　計				34	83	25	42	4	43	16	136	16	157	57	133	253	22	10	7	38	128	150	39	36	71	181	600	1,368	773	18	23	281	659	86	139	3	294	1,441	7,366



第41図　褐釉陶器（１）中国産



第42図　褐釉陶器（２）中国産



第43図　褐釉陶器（３）タイ産

第５節　半練土器

今回の調査において出土した資料は小破片も含めて66点で、その多くが落し蓋の破片であり、１点のみ叩き目を有する身の胴部片が得られた。

落し蓋片に関しては、摘みと端部突起の成形手法から、いくつかのパターンに分類し、前者は「饅頭形」「宝珠形」を確認した。後者の端部突起も以下のような仕上げ方が認められた。

①端部の突起を摘み上げるもの。

②端部の突起に角をもたせて三角状に仕上げるもの。

③端部の突起を丸く仕上げるもの。

④端部の突起を内側に折り曲げ、鉤型に仕上げるもの。

なお、今回も蓋に比べて身の資料が極めて少なく、また復元資料も限られていることから、全体像を把握するには至らなかった。

第９表　半練土器出土状況

分類＼出土地		SR			SA		SK		SD	取り上げ番号	A－			B－			表採	撹乱	合計
		01	05	09	03	02.04.03	01	07	01		2	3	4	2	3	4			
摘み	饅頭形											1							1
	宝珠形						1											1	2
端部	摘み上げ			1	1			1			1	8			1			1	14
	三角							1		1	3	7	3		1	3		4	23
	丸		1									1	1	1	1	1	1	2	9
	鉤型	1																	1
	破損(不明)				1														1
身胴部																		1	1
その他						1			1			7	1		1			3	14
合計		1	1	1	2	1	1	2	1	1	4	24	5	1	4	4	1	12	66

第10表　半練土器観察一覧（１）

単位：cm

挿図番号 図版番号		部　位	分　類	径	備　　考	出土地
第44図・図版24	1	蓋摘み・端部	宝珠形・三角	8.6	端部突起の上面に２条の沈線が囲繞する。また、全体的にナデ調整されており、下面のみ削りによる調整もされる。胎土には白色、黒色、赤色の粒子が確認できる。器色は乳白色で、素地が灰色となっている。高さは約3.3cmである。	SS01埋土
	2	蓋摘み	宝珠形	—	摘み上面や底面などはナデ調整がなされている。胎土には白色や黒色粒子が混入され、色調は灰白色で、素地が灰色を呈す。高さは約3.8cmである。	東側トレ② 撹乱層
	3	蓋摘み	饅頭形	—	器面は滑らかにナデの調整をしているが、底面は削りの調整も見られる。胎土混入物は白色、黒色、赤色粒子が確認でき、色調は橙褐色、素地が灰色である。高さ3.3cm。	A-3撹乱層
	4	蓋端部	丸型	9.0	端部突起の上面は１条の沈線がめぐり、突起下部は面取りがされる。器面はナデ調整されている。胎土の混入物に白色、黒色、赤色の物質がある。器色は橙褐色で、素地が淡灰色を呈している。	SR05茶褐色土層
	5	蓋端部	丸型	13.0	端部突起上面は平たく、突起直下は抉りが囲繞する。器面は全面的にナデ調整され、底面はナデ以外に削りによって調整されているため、ほぼ平坦になる。胎土には白色、黒色、赤色粒子、石英などの混入物が見られる。色調は橙褐色で、素地は橙褐色となっている。	東側グリット②撹乱層
	6	蓋端部	丸型	14.8	端部突起の上面はほぼ平坦につくり、突起下部も面を設ける。器面調整はナデによって調整されている。胎土は白色、黒色粒子、が主に混入される。器色は乳白色、素地は黄灰色である。	B-2 グリ石内
	7	蓋端部	摘み上げ	13.9	端部突起上面を平たくつくる。器面はナデ調整される。胎土に黒色、赤色粒子が混入する。資料の色調は黄白色で、素地が灰褐色を呈する。	SK07埋土 褐色土層
	8	蓋端部	摘み上げ	11.2	端部突起上面はほぼ平らな面をもち、全体的にナデによって器面調整する。胎土には白色粒子が確認できる。器色は暗灰色で、素地が灰褐色となっている。また下面に煤が付着する。	SR09埋土
	9	蓋端部	摘み上げ	12.3	端部突起の上面に沈線を１条めぐらせる。器面はナデ調整が認められる。胎土混入物に白色、黒色、赤色の粒子が見られる。色調に関しては、上面が黄白色、下面が橙褐色、素地は灰白色となる。	A-3グリ石
	10	蓋端部	摘み上げ	12.2	端部突起上面をナデによって平坦に仕上げ、器面も同じくナデ調整がなされる。胎土に黒色、赤色粒子が含まれる。器色は橙褐色で、素地が灰色である。	SA03 グリ石上層
	11	蓋端部	三角	12.2	全面的にナデの調整が見られる。胎土には、白色、黒色、赤色粒子が包含される。色調については、黄白色で、素地が黄灰色を呈す。	B-4② 黒褐色土層
	12	蓋端部	三角	13.4	ナデ調整が器面全体になされる。胎土には白色、黒色の粒子が混入される。器色は黄白色を呈し、素地が黄褐色となる。ほぼ全体に煤が付着する。	B-4② 黒褐色土層
	13	蓋端部	三角	14.6	端部突起が若干丸みをおびる。器面調整はナデによってなされる。胎土混入物に白色、黒色、赤色粒子が確認できる。資料の色調は橙褐色で、素地は灰白色となっている。	B-3撹乱層
	14	蓋端部	三角	10.6	端部突起が上位に位置し、鉤型にも近い。突起上面に僅かな窪みをもたせて三角形態を呈する。器面はナデによる調整がなされている。胎土の混入物に白色、赤色の粒子が見られる。器色は赤褐色を呈しており、素地が灰色である。	SK07埋土
	15	蓋端部	三角	11.0	端部突起上面に１条の沈線を囲繞する。器面調整はナデの調整が認められる。胎土に混入するものに黒色、赤色粒子が確認できる。色調は黄白色で、素地が灰白色を呈する。	A-2トレ②

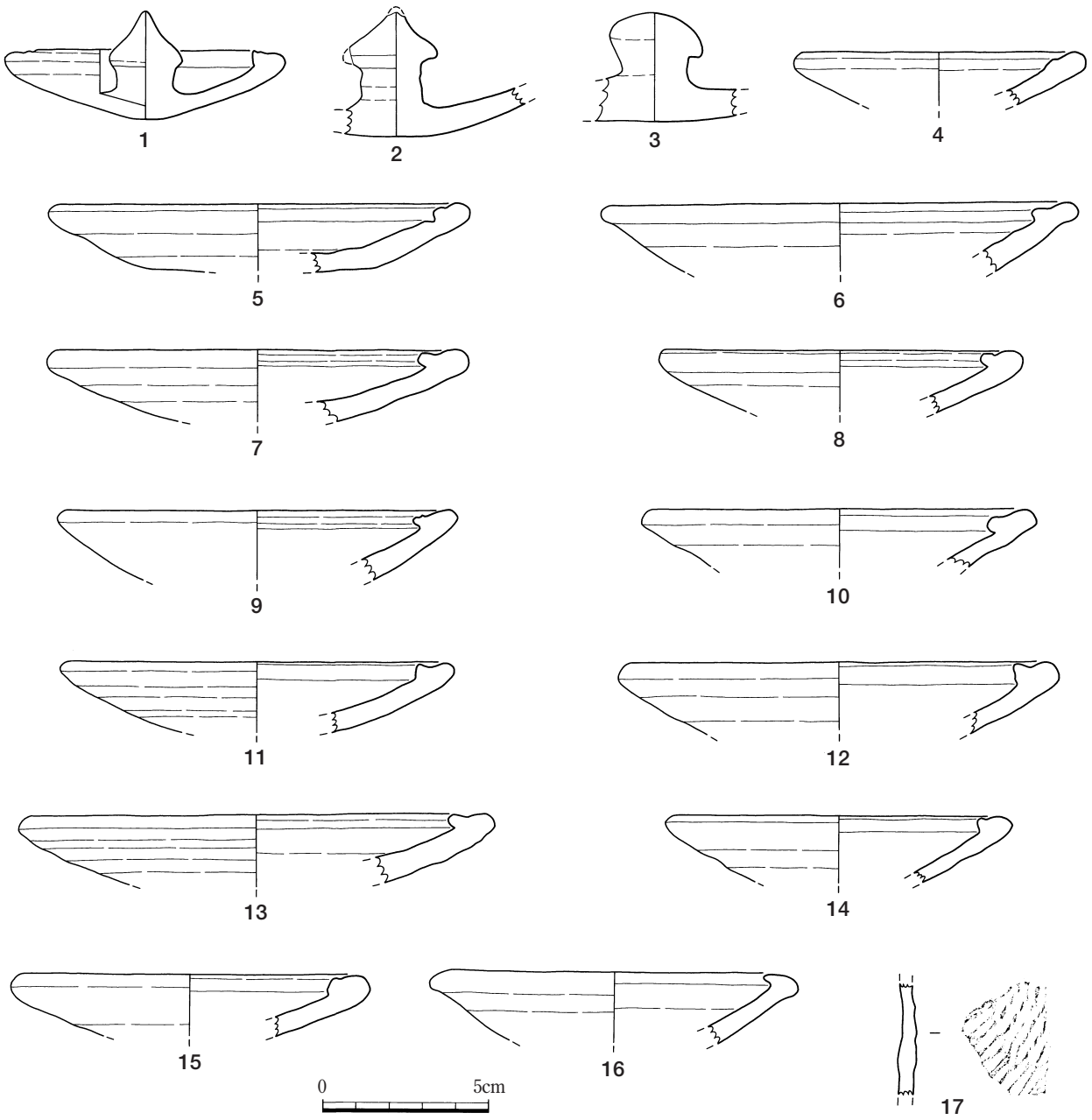
注　「－」：計測不可

第10表　半練土器観察一覧（２）

単位：cm

挿図番号 図版番号		部　位	分　類	径	備　　考	出土地
第44図・図版24	16	蓋端部	鉤型	11.4	器面はナデによって調整される。胎土には白色、黒色、赤色粒子が含まれる。色調は、赤褐色を呈し、素地が灰褐色となる。	SR01根石
	17	身胴部	—	—	外面に平行の叩き目を有し、内面には指圧痕やナデ調整と思われる痕が確認できる。胎土混入物には白色、赤色の粒子がある。色調は外面が灰色、内面は乳白色を呈しており、内面に関しては一部に煤が付着する。器厚は0.3～0.6cmを測る。	撹乱層

注　「－」：計測不可



第44図　半練土器

第６節　黒釉陶器

今回の調査で得られた黒釉陶器は145点である。このうち12・17を除く資料は全て天目茶碗である。概ね素地は細かいが、中には粗く、焼成が比較的甘いものも得られた。

１～11は口縁部片である。１～８は、頸部で角度を変えて立ち上がり、僅かに外反する資料である。１～５・８は、口縁外縁部を僅かに内湾させ、口縁の外反が強調されている。また、口縁の外反･口縁外縁部の内湾によって、内面には緩やかな段が形成されている。６・７は、口縁外縁部の内湾が見られず、口縁内面に段が形成されないものである。８は、他の資料に比べて器壁が厚く、ぼってりした印象を持つ。１～８は底部を欠く資料であり、器形に僅かな違いが認められるものの、全て新垣分類（新垣 2004）Ⅰ類の範疇に収まるものと思われる。

９～11･16は、本土産の可能性のある資料である。同様の資料は、他に14点出土しており、黒釉陶器全体の12%にあたる。９～11の器形は、１～８と近似する。特に10は、口縁外縁部の内湾や内面の段が明瞭である。

12は全形を復元できる資料である。底部から緩やかに開き、口縁はやや内湾する。器高は2.8㎝、口縁は10.6㎝を測り、やや扁平気味の器形を呈する。器高が低いものの高台は高く、内刳りも深い。高台際・畳付けは水平に削られる。造りは丁寧である。釉薬は内面全体に塗布されているが、外面は口縁部にのみ塗布されている。同様の器形を呈すると思われる資料は、首里城跡城の下地区でも出土している（羽方 2004）。

13～17は底部片である。13・14は、高台がやや高く、厚みのある資料である。ともに、高台・露胎部は丁寧に造られている。高台内刳りは浅く、高台際は水平に、畳付けは斜位に削られる。ただし、14の畳付けの削りは浅く、明瞭ではない。両資料ともロクロの回転は時計回りと思われる。底部内面に段はみられない。

15～17は、高台の低い資料である。15は、高台・露胎部が丁寧に造られている。16の高台には糸切り痕が残る。15・16は、高台際は水平に、畳付けは斜位に浅く削られる。

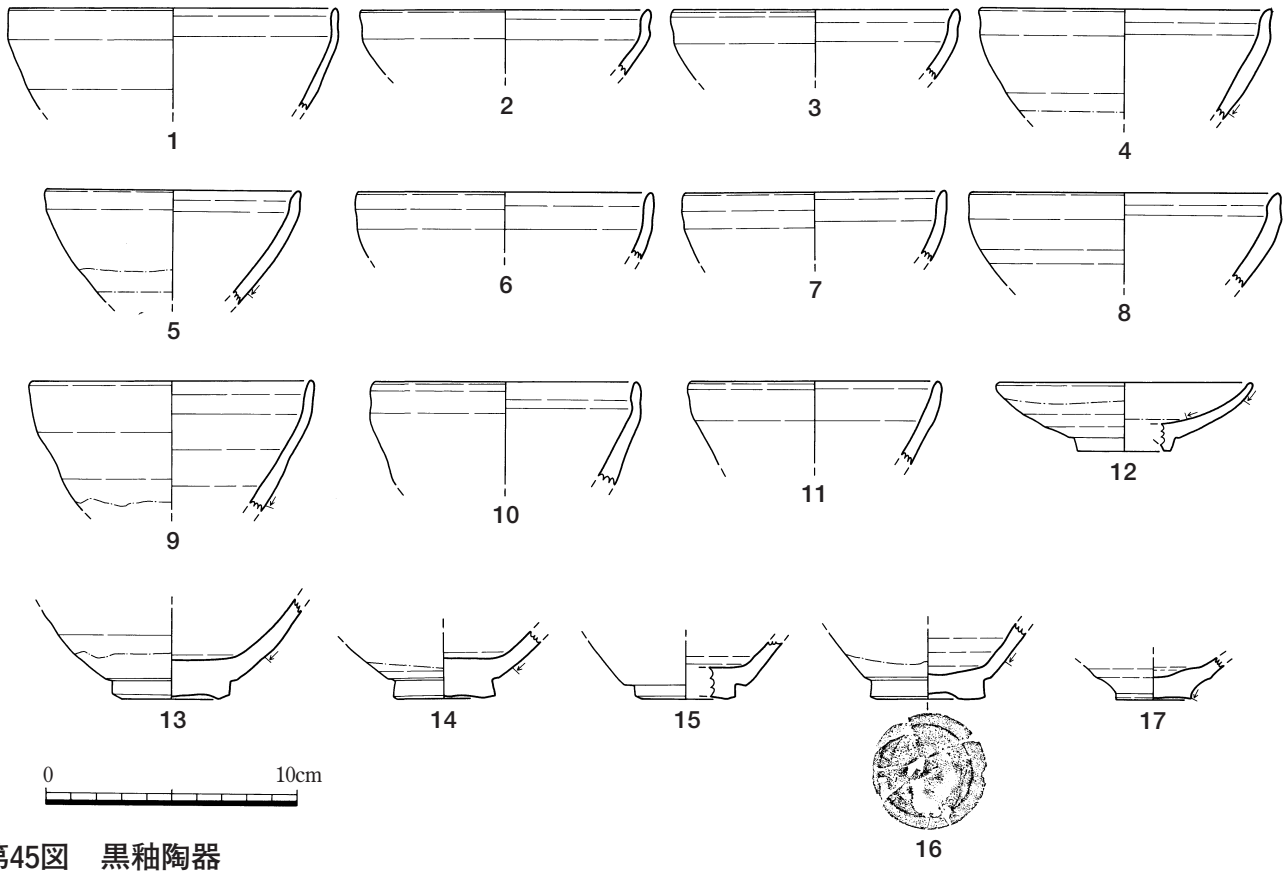
17は、露胎部・高台の造りがやや雑な底部片である。他の底部片資料と比べて立ち上がりが緩やかなため、12のように口縁が開く可能性がある。高台は小振りで、内刳りは非常に浅い。底部内面には緩やかな段が形成される。また、高台際に削りのためと思われる工具痕が深く残る。釉薬は高台まで垂れる。

第11表　黒釉陶器観察一覧

単位：㎝

遺物番号		法　量	釉	素　地			形　状	備　考	出土地点	
図	番号		色調		密度	混入物			地区	層位／遺構
第45図・図版25	1	口径　13.4	黒・暗褐	黄灰	細	①②	口唇尖状	禾目	A-3	SR03 栗石上層
	2	口径　11.7	黒・暗褐	黄灰	細	①②③	口唇尖状		B-4	（攪乱）
	3	口径　11.8	黒・暗褐	黄灰	細	①②	口唇舌状		（不明）	（表採）
	4	口径　11.9	黒	黄灰	やや粗	①②③	口唇尖状	火を受けたと思われる痕跡あり	A-3	SA03 栗石上層
	5	口径　10.4	黒・暗褐	灰黄	細	①②	口唇尖状	釉に光沢あり		世誇殿前庭埋土
	6	口径　12.1	黒	黄灰	細	①②	口唇舌状	釉に光沢あり	（不明）	（不明）
	7	口径　10.8	黒	灰黄	やや粗	①②③	口唇舌状		A-2	SA05（埋土）
	8	口径　12.6	黒・暗褐	浅黄	細	①②	口唇尖状		A-2	（不明）
	9	口径　11.6	黒・暗褐	黄橙	細	②③	口唇舌状	本土産？	B-3	（攪乱）
	10	口径　10.6	黒・暗褐	黄橙	細	②③	口唇尖状	本土産？	A-2	SK07（埋土）
	11	口径　10.4	黒・暗褐	黄橙	細	②③	口唇舌状	本土産？	B-3	SR09（埋土）
	12	口径　10.6 底径　3.8 器高　2.8	黒・暗褐	灰黄	細	①②	口唇舌状 高台高い		A-3	SK05（埋土）
	13	底径　4.8	黒・暗褐	灰黄	やや粗	①②③	高台高い	釉に光沢あり	A-3	（攪乱）
	14	底径　4.1	黒・暗褐	浅黄	やや粗	①②③	高台高い	釉に光沢あり	（不明）	（攪乱）
	15	底径　4.1	黒・暗褐	黄灰	やや粗	①②③	高台低い		B-3	（攪乱）
	16	底径　4.7	黒・暗褐	黄橙	細	②③	高台低い	本土産？	B-4	戦前遺物包含層
	17	底径　3.1	黒	黄灰	やや粗	①②③	高台低い	黒色粒子が大きい	A/B-3	SR04 根石

混入物：①黒色粒子　②白色粒子　③砂粒



第45図　黒釉陶器

第７節　その他の輸入陶磁器

中国産色絵（第46図１～９）

９点図示した。器種は碗、皿、香炉、急須、水滴が見られた。碗は口縁部が外反するものと直口するものに大別することができる。後者は胴部に膨らみを有しながら口縁部へ移行するもの（第46図２）と腰部から急に立ち上がり直線上に口縁部へ移行するもの（第46図４）に細分することができる。また型作りのものも見られる（第46図１）。皿は薄手の皿で高台が低いものが確認されている。急須、香炉は陶胎に近く胎土は粗い。水滴は２点共に箱形で、内面には型押しの際の指圧痕が見られる。文様は草花文、唐草文、花文、格子目文、四方襷文が見られるが、剥落が著しく、全体の文様構成は不明瞭である。個々の詳細については観察表に譲る。

韓半島産陶磁器（第46図10～16）

７点図示した。器種は碗、瓶が見られた。碗は口縁部が直口するものと外反するものに大別することができる。前者は浅碗で後者は器高の高い小振りな碗となっている。底部は高台が低く、畳付が水平で白色砂粒が大量に溶着しているものと、畳付が丸みを帯びて白色砂粒が僅かに溶着するものが見られる。瓶は底部で白色砂粒が畳付から外底面にかけて大量に溶着している。全体的に象嵌は明瞭で蓮弁文、宝珠文、鋸歯文、波状文、唐草文、丸文、印花文が描かれる。個々の詳細については観察表に譲る。

瑠璃釉陶磁器（第46図18～20）

３点図示した。何れも色斑が見られ、内面は失透釉となる。第46図18は口縁部が肥厚する壺。胎土は密で小さい気泡が見られる。黒色微粒子が僅かに混入する。瑠璃釉は外面から内面口縁部直下にかけて施される。SR02栗石内より出土。第46図19は口縁部が外反する型作りの小碗。胎土は密で大小の気泡が見られる。瑠璃釉は外面のみに施され、口唇部から内面にかけては失透釉が施される。口径7.9㎝。SS05内より出土。第46図20は口縁部が直口し、高台は低い型作りの杯。胎土は密で黒色微粒子が僅かに見られる。瑠璃釉は外面のみに施され、内面は失透釉となる。口径4.0㎝、器高2.1㎝、底径2.0㎝。A-4撹乱より出土。

類須恵器（第46図17）

今回の調査においては１点のみ出土している。第46図17は厚手の壷胴部で、徳之島カムィヤキ窯の須恵器と考えられる。頸部を有し、やや肩が張る。外面には格子目文が見られ、内面は当て具痕の上からナデ調整を加える。還元焼成で内外面共に青灰色を呈する。断面は内外面器表近くが赤褐色を呈する。東側トレンチ③撹乱より出土。

ベトナム産染付（第47図22～27）

６点図示した。器種は壷、碗、盤が見られた。中でも壷（第47図25）は沖縄県内では木曳門地区のみ類例資料が窺える（沖縄県立埋蔵文化財センター 2001）瓜形壷で、ベトナム産陶磁器の中でも好まれた形態であるとされている（町田市立美術館2001）。他に沖縄県内で管見の限り、類例資料が見られない方形皿も出土している（第47図24）。県外では福岡県の大宰府で類例資料を見ることができ、14世紀後半とされている（町田市立美術館2001）。口縁部を波状に成形しており、端部を僅かに立ち上げている。碗は県内でよく見られるベトナム産染付の資料であるが第47図23は高台内に鉄釉が施されないため、産地はベトナム以外の可能性が挙げられる。参考までに直口口縁の皿が確認されている（第47図26）が、ベトナム産であるかは不明。個々の詳細については観察表に譲る。

翡翠釉磁器（第47図21）

大型の外反皿でほぼ全形を窺うことのできる資料が１点出土している。第47図21は全体的に器壁は薄く、丁寧な造りとなっている。口縁部は大きく外反し、口唇部は僅かに面取られている。高台は低く内傾し、畳付は丸みを帯びる。胎土は密で気泡が僅かに見られる。文様は内底面に圏線と牡丹文が線彫りで描かれる。内外面共に色斑のある翡翠釉が施され、内底面に描かれた牡丹の花弁は黄釉、圏線と葉は紫釉が施釉されるが、文様の輪郭線からのはみ出しが多く見られる。また底部周辺は二次的に火を受けた痕跡が見られ、翡翠釉が一部、黄色に変色しているのが窺われる。当該資料は、管見の限りでは伝世品を含めて類例資料は見られない。口径32㎝、器高6.2㎝、底径19.8㎝。SA06暗褐色混砂土より出土。

彩釉陶器（第47図28～30）

３点図示した。第47図28は魚形の水注で顔の部分と思われる。型作りで内面には指押さえの痕が見られる。釉は光沢を有した黄釉と緑釉が施される。B-4トレンチ①撹乱より出土。第47図29は器種不明。溝状の切り込みが見られ、その中に紫釉が施される。ナデの方向も一定ではなく、胎土はやや粗く、白色粗砂粒が多く混入している。褐色微粒子も僅かに混入する。A-4トレンチ③より出土。第47図30は所謂「法花」と呼ばれる大型壷の底部である。胴部には青釉と紫釉が交互に配され、内底面は緑釉、外底面は紫釉が施される。全体的に釉の剥落は著しい。胎土はやや粗く、大小の気泡が多く見られる。底径17.6㎝。A-3撹乱より出土。

泉州窯系磁器（第48図31、32）

今回の調査においては２点出土している。第48図31・32共に深めの皿で、直口口縁で高台は低く、内刳りは浅い。釉は緑灰色を呈する。前者は胴下部から外底面にかけて露胎となり、胎土は粗く、灰色を呈している。胎土内に白、褐色の粗砂粒が多く混入している。口径12.6㎝、器高4.1㎝、底径4.5㎝。A-2トレンチ⑧撹乱より出土。後者は高台から外底面にかけて露胎となり、内底面は円形に釉が掻き取られる。胎土は粗く、大小の気泡が多く見られる。胎土内に白色微粒子が多く混入する。口径10.2㎝、器高3.5㎝、底径3.4㎝。表採。

鉄絵陶器（第48図33、34）

２点図示する。何れもタイ、シーサチャナライ窯産の鉄絵陶器で器種は蓋になるものと思われる。第48図33は圏線、格子目文と筆描きの文様が見られ、文様空白部は灰白色を呈する。内面は露胎となり、回転轆轤成形痕を明瞭に見ることができる。また、黒色微粒子が混入した灰白色の胎土が確認できる。中世大友府内町跡から同様の資料が確認されており（吉田2004）、当該資料もおそらく頂部に宝珠状の摘みが付属する物と思われる。A-2撹乱より出土。第48図34は筆描きによる縦位線と斜行線、そして草花文が描かれる。釉はやや不透明となり、全体的に文様は白く霞む。内面は露胎となり、黒色微粒子が混入した灰白色の胎土が確認できる。胴径10.6㎝。SA06暗褐混砂土より出土。

中国産施釉陶器（第48図35、36）

２点図示する。第48図35は壷の底部か。内外面共に泥釉が施され、外底面には糸切り痕が確認できる。ベタ底で器壁は全体的に厚い。胎土は粗く、灰色を呈する。小さい気泡が僅かに見られ、灰色粗粒子が多く混入している。底径4.8㎝。B-4栗石より出土。第48図36は所謂、宜興窯系と呼ばれる陶器の蓋である。端部は懸かりのための段が見られ、頂部には陽刻で唐草文が描かれる。型作りで全体的に茶褐色を呈する。胎土は密で白、褐色微粒子が僅かに混入している。表採。

褐釉磁器（第48図39）

今回の調査においては１点のみ出土している。第48図39は小型の四耳壷で肩部から底部にかけての資料。全体的に器壁は厚く、内面には回転轆轤成形痕を明瞭に確認することができる。外底面には僅かであるが白色粗砂が溶着しているのが窺われる。胎土は密で黒色微粒子が僅かに混入しており、気泡が僅かに見られる。内外面共に薄く施釉される。外面は肩部から胴下部にかけては色斑が著しい褐釉が施され、一部に釉垂れが見られる。胴下部から底部にかけては細かい貫入の入った透明釉が施される。内面にも透明釉がかなり薄く施され、内底面には自然釉が見られる。外面底部近くには二次的に火を受けた痕跡が見られ、釉が一部変色しているのが窺われる。底径9.5㎝。C-4①撹乱より出土。

ベトナム産白磁（第48図37）

１点図示する。第48図37は膨らみを有する胴部で内面に青海波文が見られる。やや透明度を有する釉を内外面共に薄く施す。胎土は密で白、黒色粗粒子が僅かに混入する。撹乱より出土。

磁州窯系磁器（第48図38）

今回の調査においては１点のみ出土している。第48図38は器台の一部と考えられる。黒褐色の鉄絵で斜行線を描く。釉は外面のみ施され、釉下に象牙の色に近い白色の化粧土が見られる。胎土は密で灰色を呈し、黒色粗粒子が多く混入している。内面には指押さえの痕が見られる。類似品として山口県の大内氏館出土の燭台片があり、16世紀に相当するとされる（郭2005）。B-3④撹乱より出土。

第12表　その他の輸入陶磁器観察一覧（1）

単位：cm

挿図番号 図版番号		種類	器種	部位	素地	口径 器高 高台径	器形・成形・文様等の特徴	釉色・施釉状況・貫入等	出土地
第46図・図版26	1	中国産色絵	碗	口～胴	胎土は密で磁胎となる。白色微粒子が僅かに混入する。	8.2 — —	口縁部が僅かに外反する小振りな碗。全体的に器壁は薄い。文様は見られるが全体構成は不明。器表には小孔が多く見られる。	透明釉を全体的に薄く施す。上絵は朱色が施されているが、剥落が著しく全体の文様構成は不明である。貫入は見られない。	世誇殿前庭埋土
	2				胎土は密で磁胎となる。黒色微粒子が混入する。	9.6 — —	小振りな直口碗で器壁は薄い。外面に圏線と草花文が描かれる。	透明釉。上絵は、草花文には緑、黄、青色が施される。上絵の剥落が著しい。貫入は見られない。	A-3 ④撹乱
	3				胎土は密で陶胎となる。小さい気泡が僅かに見られる。	— — —	口縁部が僅かに外反する碗。外面には口縁部直下に4条の圏線と胴部にも文様が見られる。内面には口縁部直下に4条の圏線と草花文が描かれる。	透明釉を全体的に薄く施す。上絵は圏線、草花文が朱色、外面胴部は緑色が施される。貫入は見られない。	SD01 造成土
	4				胎土は密で磁胎となる。黒色微粒子が僅かに混入する。	8.6 — —	口縁部が直口する小振りな碗。外面には牡丹文や唐草文、亀甲形内に花文が、内面には口縁部直下に菱形文を並べた文様帯が見られる。	透明釉を全体的に薄く施す。上絵は花文、唐草文が朱色、亀甲形の枠は藍色が施される。貫入は見られない。	SK05
	5		水滴	頂～底	胎土は密で磁胎となる。黒色微粒子が混入する。	— — —	箱形の水滴で内面には指押さえの凹凸が見られる。文様は上面のみで蓮華文と草文が描かれる。	透明釉を全体的に薄く施す。上絵は朱、青が、縁取りの線は濃褐色が施される。剥落が著しい。貫入は見られない。	C-3 撹乱表採
	6				胎土は密で磁胎となる。小さい気泡が僅かに見られる。白色微粒子が混入する。	— — —	箱形の水滴で内面には指押さえの凹凸が見られる。上面には花文と縁に雷文帯が描かれる。側面には蛇行する細線が描かれる。内面底部には布目痕が見られる。	透明釉を全体的に薄く施す。上絵は花弁が青色、花芯と文様空白部分が黄色、枠の縁が朱色が施される。貫入は見られない。	C-3 撹乱
	7		香炉	口～胴	胎土は密で陶胎となる。白色微粒子が僅かに混入する。	11.5 — —	口縁部は直口し、口唇部は平坦となる。外面胴部には半花文、花文を中心にして放射状の帯文が描かれる。	透明釉が口唇部を除いて施される。上絵は黒色で文様を緑取りし、花文はその内部を朱色で埋める。貫入は見られない。	SR01 裏込
	8		皿	胴～底	胎土は密で磁胎となる。大きい気泡が見られ、黒色微粒子が混入する。	— — 11.0	高台は低く、内刳りは浅い。全体的に器壁は薄い。両面共に二次的な焼成で文様は不明瞭となる。	透明釉を全体的に薄く施す。二次的な焼成のため上絵の色は不明。貫入は見られない。	SA06 暗褐色混り土
	9		急須	注口	胎土は密で陶胎となる。気泡がわずかに見られる。褐色微粒子が混入する。	— — —	注口は8面、面取りされる。胴部には草文が描かれる。胴部は膨らみを有しており、器壁は薄い。	透明釉を全体的に薄く施す。上絵は緑色が施されるが剥落が著しく、全体の文様構成は不明である。内外面共に細かい観入が見られる。	A-3 ④撹乱
	10	韓半島産陶磁器	碗	口～胴	胎土は密。白色微砂粒が僅かに混入する。	21.2 — —	直口碗で口唇部は丸みを帯びる。外面は圏線と花弁様の文様が描かれる。内面は斜行文と波状文が圏線で画された中に描かれる。	やや透明度を有する釉。全体的に薄く施される。貫入は見られない。	A-2 撹乱
	11				胎土は密で小さい気泡が見られる。白色微粒子が僅かに混入する。	19.4 — —	器高の低い直口碗で口唇部は丸みを帯びる。外面は圏線で画された中に花弁様の文様が、内面も圏線の間に略化された唐草文、鋸歯文、印花文が描かれる。	やや透明度を有する釉で全体的に薄く施される。内外面共にかなり細かい貫入が見られる。	SS01 造成層
	12				胎土は密で小さい気泡が見られる。白色粗砂粒が多く混入する。	13.4 — —	外反碗で口唇部はやや尖り気味になる。外面は圏線とその中に花弁様の文様が、内面には圏線と波状文とその下部に印花文が横位に2列配置される。	透明度を有する釉で全体的に薄く施される。内外面共にかなり細かい貫入が見られる。	SA06 裏込
	13				胎土は密で小さい気泡が見られる。白色微粒子が僅かに混入する。	— — —	直口碗で口唇部は丸みを帯びる。内面には圏線と斜行文、その下部に雲文か。器表には凹凸が見られる。	透明度を有する釉。かなり細かい貫入が内外面共に見られる。	SA06 裏込
	14		碗	底	胎土は密で灰色を呈する。小さい気泡が多く見られる。白色微粒子が僅かに混入する。	— — —	高台が低く、つくりは雑である。内底面は圏線と丸文が数珠繋ぎ状に並ぶ。	失透釉で畳付の一部を除いて全釉される。貫入は見られない。	№374
	15		瓶	胴～底	胎土は密で小さい気泡が見られる。白色粗粒子が混入する。	— — 7.0	高台の畳付は水平となる。外面胴部には縦位の貼り付け隆帯文が見られ、その左右に蓮弁文が描かれる。畳付から外底面にかけて白色粗砂粒が溶着する。	やや透明度を有する釉で畳付の一部を除いて全釉される。内面に粗い貫入が見られる。内面は暗オリーブ色、外面は灰オリーブ色で内底面は露胎となる。	東側トレンチ ①撹乱
	16		碗		胎土は密で小さい気泡が多く見られる。白色微粒子が混入する。	— — 6.0	高台は低く畳付は水平、内刳りは浅い。外面は4条の圏線、内面は圏線と宝珠文を横位に並べる。畳付には大量の白色粗砂粒が溶着する。外底面には格子状の刻みが見られる。	透明釉で全釉される。内外面共に細かい貫入が見られる。	東側トレンチ ⑦撹乱

注　「—」：計測不可

第12表　その他の輸入陶磁器観察一覧（2）

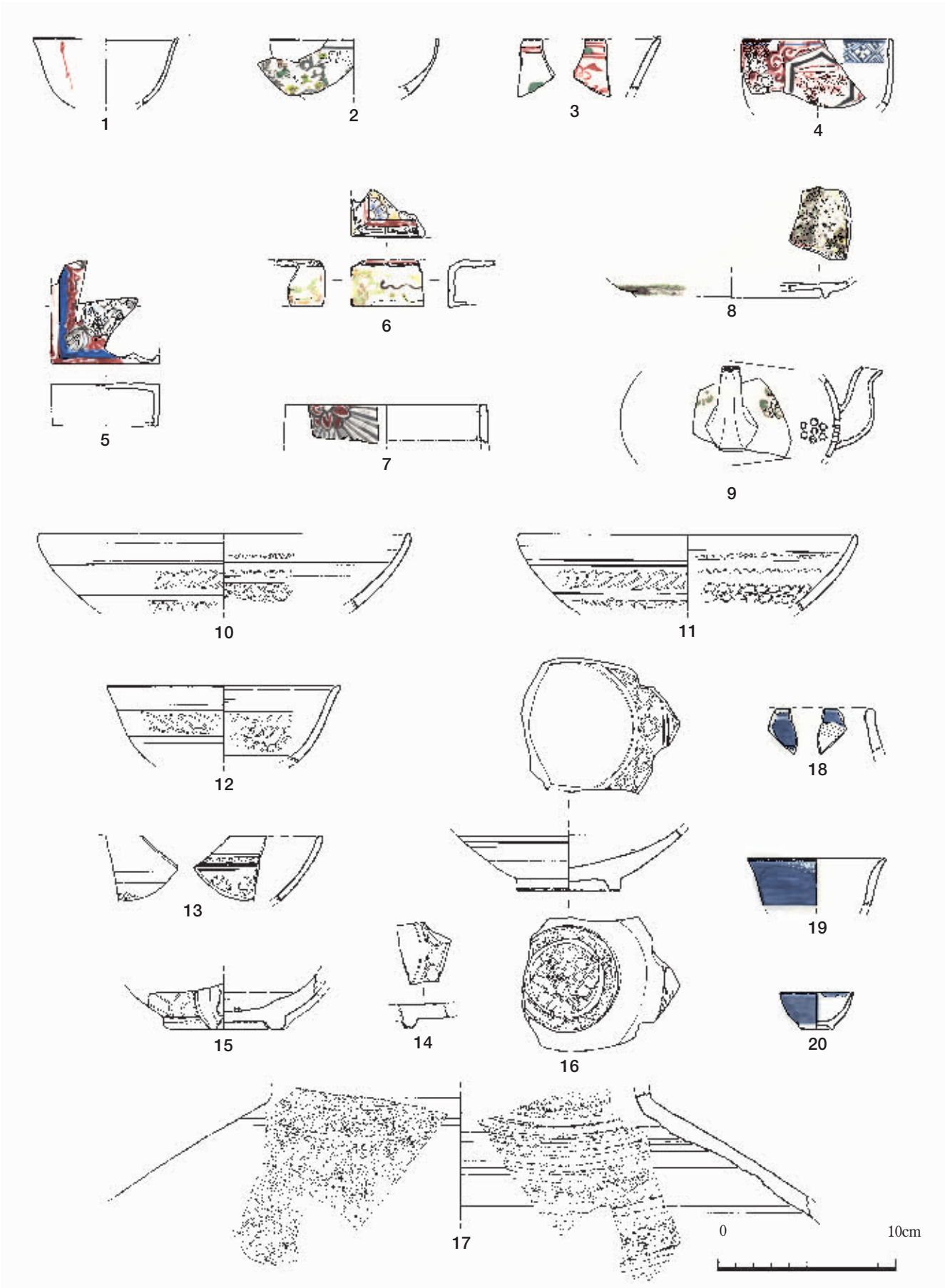
単位：cm

挿図番号 図版番号		種類	器種	部位	素地	口径 器高 高台径	器形・成形・文様等の特徴	釉色・施釉状況・貫入等	出土地
第47図・図版27	22	ベトナム産染付	碗	口～胴	胎土はやや粗い。白色微粒子、褐、黒色粗粒子が混入する。	－ － －	外反碗で口唇部が丸みを帯び、腰部は膨らみを有する。外面胴部に蓮華唐草文と圏線、内面には口縁部直下に四方襷文が描かれる。	やや透明度を有する釉。呉須の発色は鈍く、全体的に滲む。貫入は見られない。	A-2、A-3 撹乱
	23			胴～底	胎土はやや粗く、大きい気泡が僅かに見られる。黒色微粒子が多く混入する。	－ － 4.8	胴部は膨らみを有して口縁部へ移行し、底部は低く、畳付は丸みを有し、高台下部には砂粒が溶着している。外面は胴部に唐草文と圏線が、高台には2条1組の圏線が描かれる。	失透釉で高台下部から畳付にかけて露胎となり、内底面は蛇の目状に釉剥ぎされる。内面の一部が二次的に火を受けている。貫入は見られない。	撹乱
	24		皿	口	胎土はやや粗く、小さい気泡が見られる。褐色微粒子が多く混入する。	－ － －	方形皿。口縁部を波状に成形しており、端部を僅かに立ち上げている。内底面には宝相華唐草文が描かれる。	やや透明度を有する釉を全釉する。呉須の発色は良好で濃い藍色を呈する。内外面共に粗い貫入が見られる。	SD01 造成土
	25		壺	口～胴	胎土はやや粗く、大小の気泡が多く見られる。白、黒色微粒子が混入する。	8.4 － －	頸部は短く、肩が張った小型の壺。口縁部は外反する。胴部に縦位の溝が走ることから瓜形壺になるものと思われる。胴上部に蓮弁文が描かれる。	透明釉を内外面とも薄く施し、口唇部のみ露胎となる。内面頸部直下には釉垂れが見られる。呉須の発色は良好でやや薄い藍色となる。貫入は外面が粗く、内面は細かい。	SD01 下層
	26		皿	口～底	胎土は密。黒色微粒子が僅かに、そして白色粗粒子が混入する。	8.6 － －	直口口縁の皿で高台はやや高く、「ハ」の字状に開く。器表には粗砂が溶着する。外面には菊花文が描かれるが全体的に白い筋が入り擦れる。内面には口縁部直下に雷文帯が見られる。内底面にも文様が描かれる。	やや青みがかった失透釉で、全釉される。呉須の発色は鈍く全体的に滲む。貫入は見られない。	SK05 埋土
	27		碗	胴～底	胎土は密で小さい気泡が多く見られる。	－ － －	胴下部が膨らみを有する碗。内底面にかなり簡略化された華唐草文と圏線が描かれる。	透明釉を内外面とも薄く施す。外底面には鉄釉が施される。呉須の発色は良好で濃い藍色を呈する。内外面共に細かい貫入が見られる。	撹乱

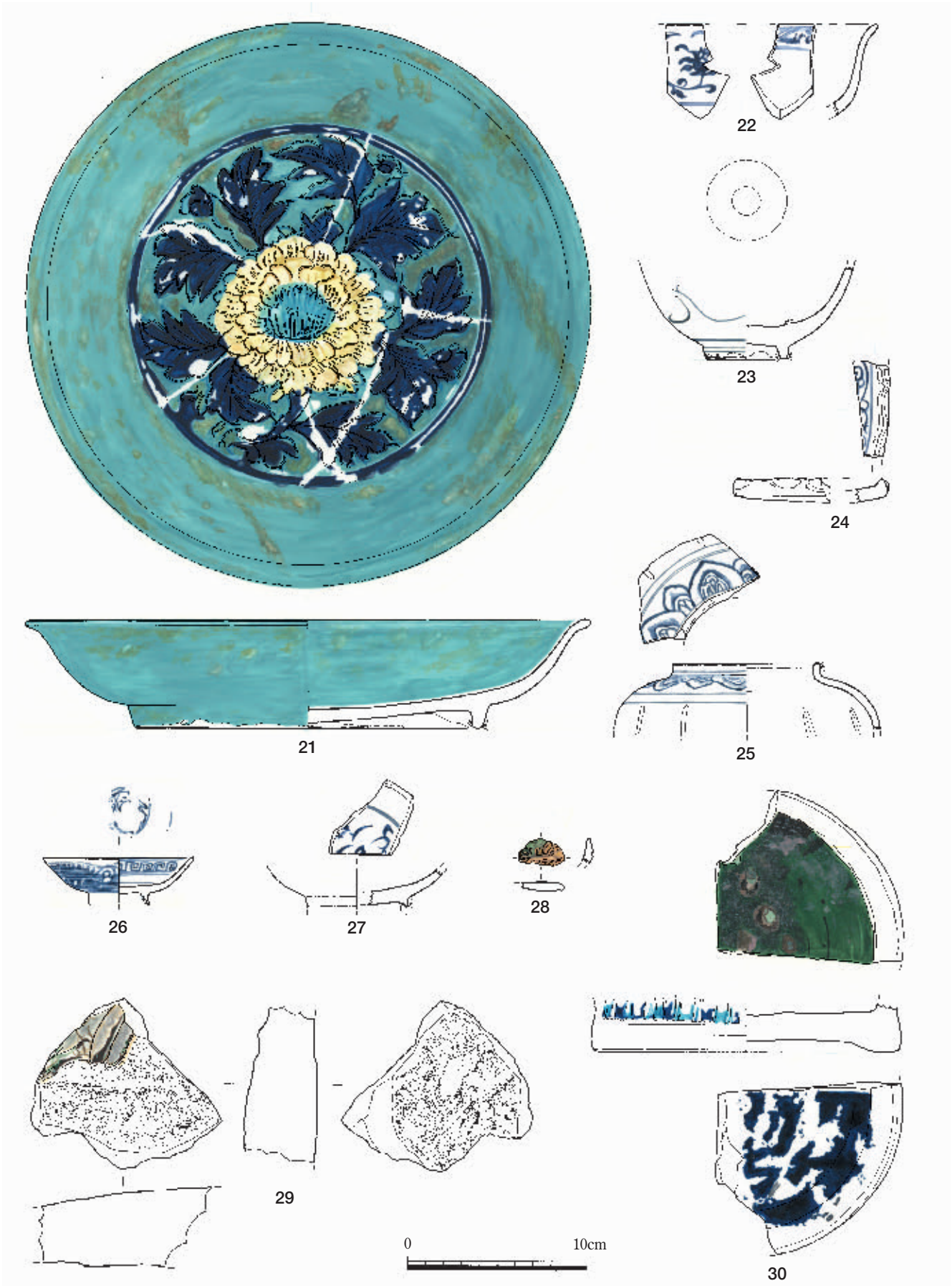
注　「－」：計測不可

第13表　その他の輸入陶磁器出土状況

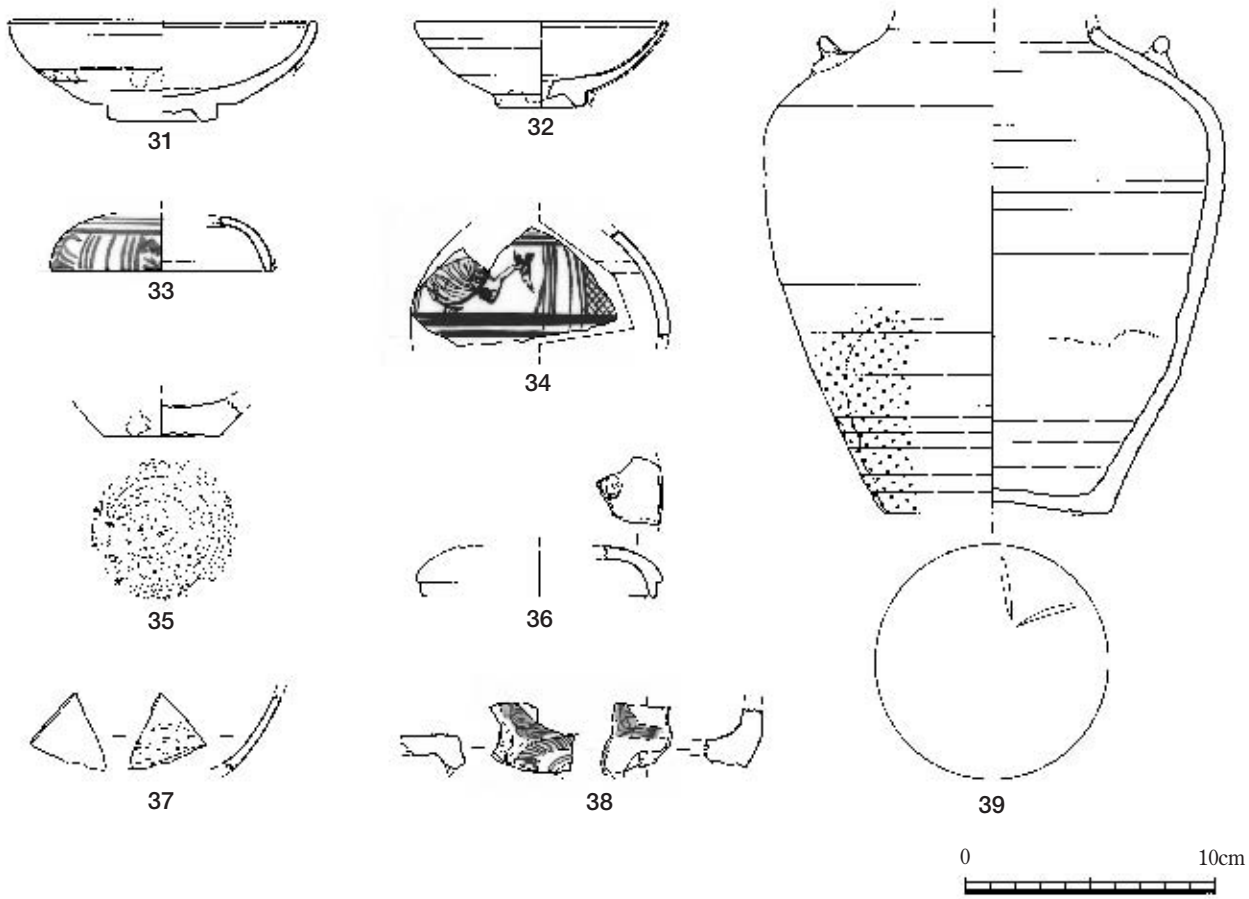
器種・分類 ＼ 出土地			SR			SA			SS	SD	SK			A-			B-		C-	世誇殿前庭埋土	戦前遺物包含層	取り上げ番号	表彩	撹乱	合計
			01	02	05	03	05	06	01	01	03	05	07	2	3	4	3	4	3						
中国産色絵	碗	口縁部								1		1			1					1					4
		底部																							0
	皿	口縁部			1																				1
		底部						1																	1
	小碗	口縁部						1																	1
	急須	注口													1										1
	香炉	口縁部	1																						1
	水滴	底部																	2						2
	器種不明	胴部			1																				1
		底部				1															1				2
	合計		1	0	2	1	0	2	0	1	0	1	0	0	2	0	0	0	2	1	1	0	0	0	14
韓半島産陶磁器	碗	口縁部					2		1					1											4
		底部																				1		1	2
	瓶	底部																						1	1
	合計		0	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	7
瑠璃釉	碗	口縁部		1																					1
	小碗	口縁部										1													1
		胴部										1													1
	皿	胴部								1															1
	杯	口～底														1									1
		胴部									1														1
	合計		0	1	0	0	0	0	0	1	1	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6
ベトナム産染付	碗	口縁部												1										1	2
		底部																						2	2
	皿	口～底										1													1
		口縁部								1															1
	壺	口縁部								1															1
	瓶	胴部															1								1
	蓋													1					1						2
	器種不明	口縁部														1									1
		胴部																1							1
	合計		0	0	0	0	0	0	0	2	0	1	0	2	0	1	1	1	1	0	0	0	0	3	12
翡翠釉磁器	大皿	口～底						1																	1
彩釉陶器	水注	胴部																1							1
	大型壺	底部													1										1
	器種不明	胴部											1												1
		不明														1									1
	合計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	4
泉州窯系磁器	皿	口～底												1									1		2
中国産施釉陶器	壺	底部															1								1
	蓋																						1		1
褐釉磁器	壺	底部																	1						1
ベトナム白磁	器種不明	胴部																						1	1
磁州窯系磁器	器台															1									1



第46図　その他の輸入陶磁器（１）



第47図　その他の輸入陶磁器（２）



第48図　その他の輸入陶磁器（３）

第８節　本土産陶磁器

今回の調査で得られた本土産磁器は総数222点で、本土産陶器は総数53点である。磁器は染付、色絵、青磁鉄絵、統制陶磁、型紙摺り、銅版摺りなどが出土しており（色絵、統制陶磁、型紙摺り、銅版摺りは集計表のみ）、器種は碗、皿、蓋、香炉、段重、急須、猪口などである。陶器は薩摩焼を中心に、関西系、九州系などが出土しており、器種は碗、壺、鉢、蓋などである。

本土産磁器

１．染付（第49図１～12）

染付は、全体を窺うことのできるものを図示し、瀬戸・美濃産と思われる染付は集計表のみで表した。碗は７点、小碗は１点、皿は２点、猪口は１点、蓋は１点である。

①　碗（１～７）

外面に簡略化された龍と宝珠が描かれており、見込みには簡略化された荒磯文が描かれている。波佐見焼のくらわんか碗と思われる。素地は橙色の粗粒子。底径6.0cm。出土地区C-3 SS08（１）。外面に簡略化された龍と宝珠が描かれていると思われる。素地は灰白色の細粒子。出土地区A-3トレンチ②撹乱層（２）。波佐見焼のくらわんか碗で、外面に草花文が描かれている。素地は灰白色の細粒子。口径12.3cm。出土地区A-4、B-4（３）。波佐見焼のくらわんか碗で、外面に草花文が描かれている。見込みは蛇の目に釉剥ぎ。素地は灰白色の微粒子。口径

12.0cm、底径4.5cm、高さ5.3cm。出土地区はA-2④撹乱層（４）。外面に文様が描かれているが、判然としない。素地は灰白色の微粒子。口径14.8cm。出土地区SK08埋土（５）。口縁部資料で、外面に文様が描かれているが、判然としない。素地は橙色の細粒子。口径12.2cm。出土地区SK05埋土（６）。外面に文様が描かれているが、判然としない。素地は灰色の細粒子。底径4.1cm。出土地区SK08（７）。

② 小碗（８）

外面腰部に一本の圏線が入る。素地は灰色の細粒子。底径3.9cm。出土地区SK07埋土。

③ 皿（９、10）

口縁部を稜花形に成形しており、口唇部には錆釉が掛かる。内面に文様が描かれているが、判然としない。素地は灰白色の細粒子。口径15.0cm。出土地区SK05（９）。口縁部を稜花形に成形しており、口唇部には錆釉が掛かる。内面に文様が描かれているが、判然としない。素地は白色の微粒子。口径15.0cm。出土地区SK05（10）。

④ 猪口（11）

蕎麦猪口で、外面に草花文が描かれている。素地は白色の微粒子。口径7．6cm。出土地区SK05。

⑤ 蓋（12）

蓋甲部に草花文が描かれている。素地は白色の微粒子。口径5．6cm。出土地区B-3③撹乱層。

２．その他の磁器（第49図13、14）

碗の口縁部資料で、口唇部に錆釉が掛かる。明灰色の釉が掛かり、素地は橙白色の細粒子。口径13.0cm。出土地区SK02埋土（13）。青磁鉄絵の鉢と思われる資料で、緑色の釉が掛かり、鉄絵で外面に文様が描かれているが判然としない。素地は灰色の微粒子。口径23.8cm。出土地区A-4表採（14）。

本土産陶器

１．関西系（第49図15、20）

小鉢で、全体に透明の釉が掛けられており、内面には緑釉が一部掛かっている。素地は浅橙色土。口径12.8cm。出土地区A-3トレンチ②撹乱層（15）。蓋で、上面に三本の溝が入る。全体に透明の釉が掛かる。素地は浅黄橙色土。口径13.2cm。出土地区SR02グリ石内（20）。

２．唐津焼？（第49図16）

碗で、見込みから高台脇まで灰色の釉が掛かるが、熱を受けているため、少し溶けている。両面に粗い貫入が入る。素地は橙白色土。口径13.0cm、底径4.8cm、高さ7.65cm。出土地区SK08。

３．九州系（第49図17）

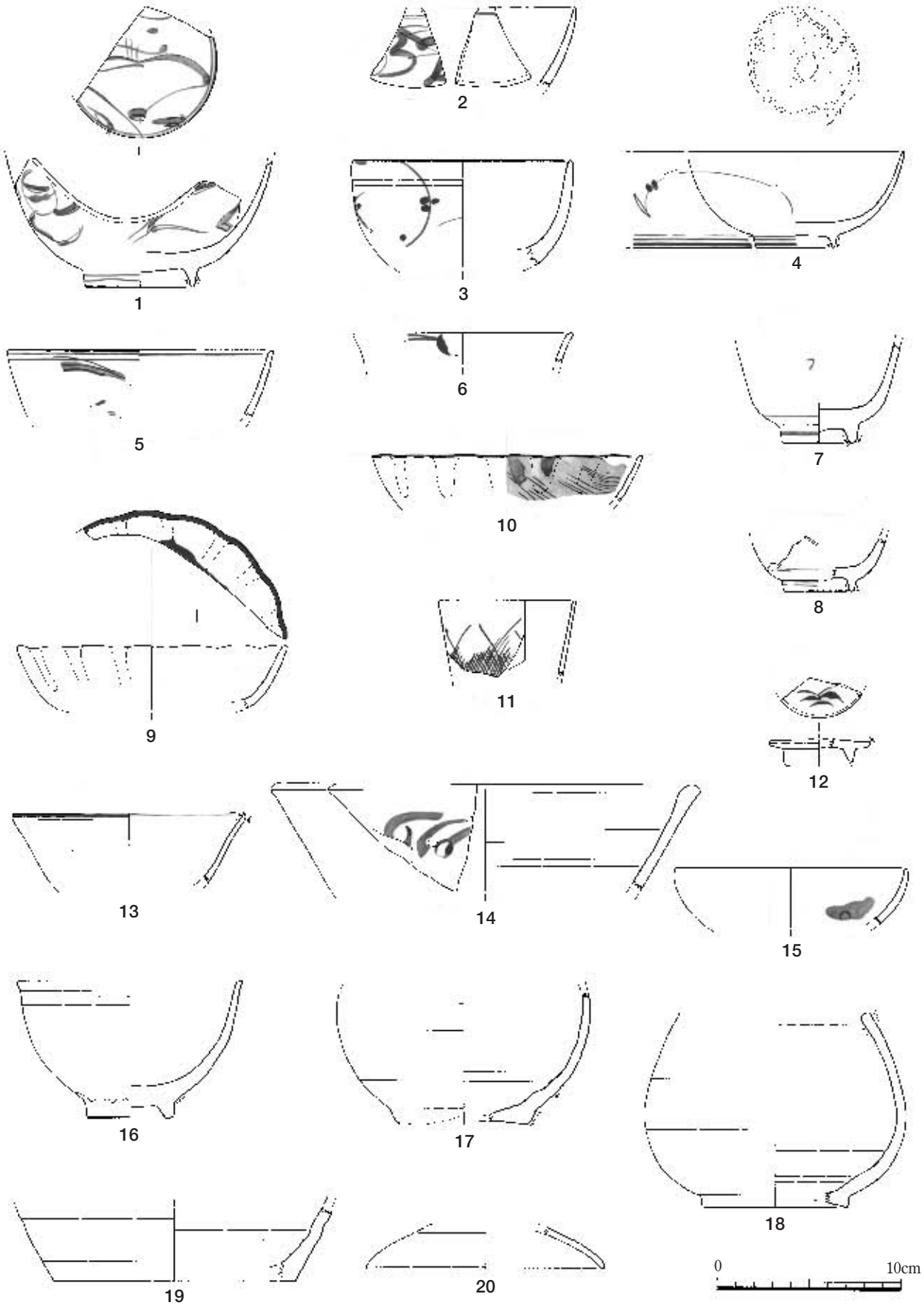
口縁部を欠いた壺の資料で、外面は高台脇を除き、暗灰黄色の釉が掛かる。高台脇のみ透明釉が掛かる。素地は灰褐色土。底径7.0cm。出土地区A-4表採。

４．薩摩焼（第49図18、19）

褐釉陶器の壺で、全体に褐色の釉が掛かるが、口唇部は釉剥ぎされている。薩摩焼と思われる。素地は赤褐色土。口径10.6cm、底径8.0cm、高さ10.75cm。出土地区A-3撹乱層（18）。褐釉陶器の壺で、底部資料。両面に褐色の釉が掛かる。薩摩焼と思われる。素地は白色粒子を含む明赤褐色土。底径13.4cm。出土地区東側トレンチ⑦撹乱層（19）。

第14表　本土産陶磁器出土状況

器種・分類				出土地	SR		SA			SS	SD	SK							世誇殿前庭埋土	戦前遺物包含層	A-			B-			C-		表採	撹乱	合計
					02	05	02	03	05	01	01	02	03	04	05	06	07	08			2	3	4	2	3	4	3	4			
本土産磁器	肥前系	色絵	碗	口縁部																										2	2
			皿？	底部						1																					1
		染付	碗	口～底																	1	1									2
				口縁部					1		1				4			1			5	3			3	1				6	25
				胴部		1																1			1					1	4
				底部														2			1	1	1		1						6
			小碗	口縁部												1														1	2
				底部													1														1
			皿	口縁部											2									1			1			1	5
				底部	1													1								1					3
			小皿	口縁部																							1				1
			鉢	胴部								1																			1
			瓶？	胴部				1																							1
			香炉	底部																	1										1
			猪口	口縁部											1																1
			蓋																						1					1	2
			器種不明	口縁部																										3	3
				胴部	2	1										1		1	2			6	3		4	1	1			8	30
				底部																					1						1
	瀬戸・美濃産	染付	碗	口～底									1																		1
			小碗	口～底																					1					1	2
				口縁部																										3	3
				底部																										1	1
			猪口	底部																1											1
			段重の蓋																					1						1
			器種不明	口縁部			1								3					1		2			8		1	1	1	2	20
				胴部											1								1		1					3	6
				底部																	1		1						1	3	6
		型紙（吹き付け）	碗	口縁部																					1						1
				胴部																		1									1
				底部																									1		1
			急須？	口縁部																					1						1
			蓋																		1	2			1					2	6
		銅版	小杯	底部										1																	1
			瓶	底部																		1									1
			急須	把手																	1										1
			急須？	胴部																										1	1
			器種不明	胴部																			3								3
	砥部産	型紙	碗	口縁部																			1		1						2
				底部																			1								1
			皿	口縁部																					1						1
			段重	口～底																	2		1								3
			蓋																	1		1								2
			猪口	胴部																					1						1
	兵庫県高山市	統制陶磁	皿	底部							1																				1
	産地不明	色絵	小杯	口縁部																		1									1
			器種不明	口縁部																							1				1
		染付	碗	口縁部									1								2				1	1			1	3	9
				胴部																		1	1							2	4
				底部																		1								1	2
			香炉	底部																					1					1	2
			段重	口縁部																			1								1
			蓋																					1	1					1	3
		型紙	碗	口縁部																		1	2		3	1				1	8
				胴部															2				1		3				1		7
			皿	口縁部																	1				4			1		2	8
				胴部																					1						1
			段重	底部																			1								1
			器種不明	胴部																			3			1	1			2	7
		銅版	碗	口縁部																		1									1
				胴部																								1			1
				底部																						1				1	2
		その他	碗	口縁部								1																			1
			鉢	口縁部																			1								1
	合　計				3	2	1	1	1	1	2	2	2	1	11	2	1	5	4	3	16	24	22	1	43	7	4	5	5	53	222
本土産陶器	関西系		小鉢	口縁部																		1									1
			蓋		1																									1	2
	薩摩	褐釉陶器	壷	口～底																		1									1
				底部																										1	1
			壷？	胴部		1							4								2	1	2		1	3			2	7	23
		鮫肌	器種不明	胴部	1																										1
	九州系		皿？	底部																		1									1
			壷	底部																			1								1
	唐津?		碗	口～底														1													1
			器種不明	胴部	1																									1	2
	産地不明		小碗	口縁部									1																		1
			鉢	胴部																									1		1
			擂鉢	口縁部																		1									1
				胴部						1																					1
			壷？	胴部													1														1
			器種不明	胴部							1				1						1	1			3	1				1	9
	合　計				3	1	0	0	0	1	1	0	5	0	1	0	1	1	0	0	3	7	4	0	6	4	0	0	4	11	53
総　合　計					6	3	1	1	1	2	3	2	7	1	12	2	2	6	4	3	19	31	26	1	49	11	4	5	9	64	275



第49図　本土産陶磁器

第９節　沖縄産施釉陶器

器の表面に釉薬を施釉する焼物で、沖縄では「上焼（ジョウヤチ）」と呼ばれる。釉薬には灰釉、鉄釉、飴釉、黒釉、白釉などがあり、これらの釉薬を単掛けもしくは内外面で掛け分けて用いる。

本遺跡では碗、小碗、筒碗、皿、小皿、灯明皿、鉢、鍋、蓋、急須、酒器、火炉、火取、香炉、瓶、壷、小壷、アンビン、油壷、灯明具が出土している。ここでは各器種ごとの分類概念を記し、個々の詳細については観察表に記す。

１．碗

Ⅰ類：高台から斜上方に立ちあがり、直口口縁を呈するもの。灰釉単掛けで胴部半ばまでつけ掛けで施釉。有文のものと無文のものがある。（第50図１、２）

Ⅱ類：鉄釉単掛けで腰部に丸みを持ち、つけ掛けで施釉。内底には鉄絵で丸文を施す。

ａ－直口口縁（第50図３）

ｂ－外反口縁（第50図４、５）

Ⅲ類：白釉単掛けで腰部に丸みを持ちながら立ち上がり、外反口縁を呈するもの。内底に蛇の目釉剥ぎを施す。また畳付けに窯詰めの際の耐火粘土（メーガニク）が残る。（第50図６～８）

Ⅳ類：外反口縁で鉄釉と白釉を掛け分ける（口縁資料のみ）。（第50図９）

Ⅴ類：白釉単掛け、もしくは白釉と鉄釉の掛け分けで、直口口縁を呈する。（第50図10）

Ⅵ類：鉄釉単掛け、もしくは白釉と鉄釉の掛け分けで、内底を蛇の目釉剥ぎするものとしないものとがある（底部資料のみ）。（第50図11～13）

２．小碗

Ⅰ類：直口口縁を呈するもの。

ａ－灰釉単掛け。（第50図14）

ｂ－白釉単掛け。有文のものと無文のものがある。（第50図15）

ｃ－掛け分け。（第50図16）

Ⅱ類：白釉単掛けで外反口縁を呈す。（第50図17）

Ⅲ類：白釉単掛けで外反口縁を呈し、外面に六角形の面取りを施す。（第50図18）

３．筒碗

白釉単掛けで外面に呉須で文様を施す。（第50図19）

４．皿

Ⅰ類：外反口縁を呈し、白釉単掛けで腰部に丸みを持つ。内底に蛇の目釉はぎを施す。（第51図20，21）

Ⅱ類：輪花状口縁を呈し、白釉単掛けもしくは鉄釉と白釉を掛け分ける。（第51図22）

Ⅲ類：口縁がゆるやかな「く」の字状に外反する。白釉単掛け。（第51図23）

Ⅳ類:鉄釉もしくは灰釉をつけ掛けによって施釉。また、内底に鉄釉で丸文を施すものがある。（第51図24，25）

Ⅴ類：外反口縁を呈し、白釉単掛けで口唇を額縁状に立ち上げる。有文。（第51図26）

Ⅵ類：直口口縁を呈し、灰釉もしくは灰釉と鉄釉を掛け分ける。（第51図27，28）

Ⅶ類：大型の皿になると思われる底部。（第51図29）

5．小皿

白釉単掛けで外面に赤絵で文様を描く。（第51図30）

6．灯明皿

直口口縁で鉄釉単掛け。（第51図31）

7．鉢

Ⅰ類：口縁部が逆「L」字状に外反する。（第51図32，33）

Ⅱ類：内湾口縁を呈する。（第51図34、第52図35）

Ⅲ類：直口で口唇部がやや肥厚する。鉄釉単掛けのものと掛け分けのものがある。（第52図36）

Ⅳ類：口縁部が「く」の字状に外反し、胴部からストレートに立ち上がる。（第52図37）

Ⅴ類：輪花状の口縁を呈する。（第52図38）

8．深鉢

口縁部が「L」字状を呈し、鉄釉と白釉をかけわけている。（第52図43）

9．鍋

Ⅰ類：口縁部の内側を窪ませ、底部から胴部にかけてゆるやかな丸みを持つ。（第52図40，41）

Ⅱ類：口縁部を外反させ、やや直線的に立ち上がる。（第52図42）

10. 蓋

Ⅰ類：鍋の蓋と思われるもの。（第52図44）

Ⅱ類：急須の蓋と思われるもの。（第52図45）

Ⅲ類：壷の蓋と思われるもの。（第52図46）

11. 急須

丸型の器形で肩部に把手をかける板状の耳を貼付。底部に円錐状の突起を貼り付ける。白釉単掛けで有文のものや（第53図47）、灰釉単掛けのもの（第53図48）、黄灰色の釉を一部に施釉するもの（第53図49）などがある。

12. 酒器

Ⅰ類：丸型の器形を呈するもの。（第53図50）

Ⅱ類：胴中部及び下部が屈曲し、算盤型を呈するもの。（第53図51、52）

13. 火炉

Ⅰ類：内湾口縁を呈するもの。（第53図53，54）

Ⅱ類：直口口縁を呈するもの。（第53図55）

14. 火取

Ⅰ類：直口口縁を呈するもの。（第53図56）

Ⅱ類：内湾口縁を呈するもの。（第53図57）

15. 香炉

丸型の器形を呈し、茶灰色の釉を施釉するものと（第54図58)、筒形の器形を呈する白釉単掛けのものがある。（第54図59）

16. 瓶

口縁部を外反させ、外面に呉須を塗布するものや（第54図60)、口縁部を玉縁状に肥厚させるものがある。（第54図61）

17. 壷

直口口縁で蓋受部をもち、丸型の器形を呈するもの（第54図65)、高台が碁笥底を呈するもの（第54図63)、いわゆるアンダガーミと呼ばれる四耳壷（第54図66）などがある。

18. 小壷

広口壷で、口縁が三角状に肥厚して頸部が締まる器形。（第54図67）

19. アンビン

鉄釉を施釉した上に黒釉を腰部まで施釉。（第54図68）

20. 油壺

器形は算盤状を呈する。黒釉単掛け。（第54図69）

21. 灯明具

脚付き灯明具の上部と思われる。（第54図70）

22. 器種不明

胴部と底部があり、底部は外底に紐状の凸帯がめぐらされていることから皿である可能性が考えられる（第54図72)。胴部には「 」の印が彫られている（第54図71)。

第15表　沖縄産施釉陶器出土状況

器種・分類 ＼ 出土地			SR					SA				SS	SD	SK							SA02+	世誇殿	戦前遺物	A-			B-			C-		表採	撹乱	合計
			01	02	04	05	09	01	02	05	06	01	01	02	03	04	05	06	07	08	SK05	前庭埋土	黄褐色微砂層	包含層	2	3	4	2	3	4	3	4			
碗	Ⅰ類	口～底																																	2
		口縁部	2	2										1	3		9	2	2			1		2	1	13	17		13	5		3	1	38	115
		底部		1																		1			1	2	3		2	3			1	7	21
	Ⅱ類	a 口縁部		1				1					4		1		2							3	1	4	2	2	8	3		1	3	16	52
		b 口～底															1									1									2
		口縁部							1								15					2			1	5	5		11	2		1	1	9	53
		底部															2						1		1	2	1		6		1		3	6	23
	Ⅲ類	口～底															5				1														6
		口縁部							2				1	2		1	50	2				1		3		8	7	1	49	4	5	3	1	30	170
		底部												1								1			1		1		3	4	1			12	24
	Ⅳ類	口縁部															3					1	1		2	9	7		1	4		1	1	18	48
		底部																									3					1	5		9
	Ⅴ類	口～底															1																		1
		口縁部						1									2			1					2	2	2		1	5	2				18
	Ⅵ類	底部																		1					1	1			2				1	1	7
	Ⅲor Ⅴ	底部																									1								1
	胴部													1											2										3
	底部																									1	2				1		1	1	6
小碗	Ⅰ類	A 口縁部												1					1						1	2								1	6
		底部																		1															1
		B 口～底															1								1		1						1		4
		口縁部				1											1									1	1				1			3	8
		底部																								1									1
		C 口～底																								1									1
		口縁部		1																															1
		底部																																1	1
	Ⅱ類	口～底							1								5												1						7
		口縁部															2										2							1	5
	Ⅲ類	口～底															1												1					1	3
		口縁部							2								3									3	1		3					5	17
		底部															1		1								3		3					1	9
	底部												1				2												3	1				4	11
筒碗？	口縁部																							1							1			1	3
皿	Ⅰ類	口～底																									1	1	5		1				8
		口縁部		1					1						1		5			1						6		2	1					4	22
	Ⅱ類	口縁部	1														5									1	1				4				12
	Ⅲ類	口縁部																							1		1				1				3
		胴部																									1								1
	Ⅳ類	底部																				2			2	2	8		17	2				1	34
	Ⅴ類	口～底																								1									1
	Ⅵ類	口～底															1																		1
		口縁部																																1	1
大型皿	底部																									1									1
小皿	口～底																1											1						2
碗or皿	口縁部																1									2	3			1			1	8
	胴部		7	4		4							3	7			57	4	3	3		17	3	9											121
灯明皿	口縁部																					1					1				2				4
鉢	Ⅰ類	口～底																								1									1
		口縁部		1													4									3	1		4	3			2	12	30
	Ⅱ類	口～底																										1							1
		口縁部	1						1																1	2	3	1	3		2		1	7	22
	Ⅲ類	口縁部															2										1						1	2	6
	Ⅳ類	口縁部															1																		1
	Ⅴ類	口縁部																													1				1
	胴部										1							1																	2
	底部			1					1																										2
深鉢	口～底																										1								1
鍋	Ⅰ類	口～底																														1			1
		口縁部	1										1		1		6		1	1		3		1		5	2		7	3			1	5	38
	Ⅱ類	口縁部																				1				2	2			2				6	13
	耳																																	1	1
	胴部			1				1					4	3			1																		10
	底部											1	1		1							1			5	16	11		4	2		1	7	18	68
蓋	Ⅰ類																					1		1		8	3		4	1			1	6	25
	Ⅱ類								1								2					1					1		8	3		2		10	28
	Ⅲ類																										1						1	1	3
	摘み																3																		3
	蓋														1		1									1	1				2		2		8
急須	口～底																																	1	1
	口縁部								1								1									1	1		5	1		1		7	18
	耳											1																						1	2
	注口																1										1			2			1	1	6
	胴部		1													1	1													1					4
	底部																4					1			3	3	4		6		2		14	37
酒器	頸部																														1				1
	胴部																												1	2					3
	底部																												1	1					2
火炉	Ⅰ類	口縁部		1					2								2										3		1					3	12
		底部																							1										1
	Ⅱ類	口縁部															3										1			3					7
火取	Ⅰ類	口縁部																								1	1		2					3	7
		底部																																1	1
	Ⅱ類	口縁部																								1									1
香炉	口縁部																1																		1
	底部																1																		1
瓶	口縁部												1				1									2			3					2	9
	頸部													1															2		1				4
	胴部																								1				1					1	3
	底部																1												4		1			1	7
壷	口縁部						1										1	1					1	1	1	4	4		1	2			3	1	21
	耳																																	1	1
	胴部			1	1						1						6																		9
	底部												1				1												3					6	11
小壷	口縁部																1												1						2
アンビン	口～底																1																		1
	注口																1												1						2
	把手																2								1	1			1	2		1	1	2	11
	胴部																2																		2
	底部																1																		1
油壷	口～底																1																		1
灯明具	口縁部																														1	1			2
	胴部													1																					1
袋物	胴部						1										3																		4
器種不明	口縁部										1									1					1	1	1			1				4	10
	把手																													1					1
	注口										1															1									2
	胴部	2	3		3			5	6	3		1	8	1	4		23			5		11	4			4							1		84
	底部							1									2									4	1			2					10
合計		15	18	1	8	2	9	19	3	4	3	25	19	12	2	257	10	8	14	1	46	10	21	32	130	119	7	192	71	18	28	43	280	1,427

注　「+」：接合の意

第16表　沖縄産施釉陶器観察一覧（1）

単位：cm

挿図番号 図版番号		器種	分類	部位	口径 器高 高台径	観察所見	出土地
第50図・図版30	1	碗	Ⅰ	口縁部～底部	14.0 6.2 6.8	高台と内底に微量の砂粒が付着。	A-4　トレンチ③撹乱
	2			口縁部	－ － －	外面に鉄絵で草花文？を描く。	A-3　②④ 栗石最下層
	3		Ⅱa		11.5 － －	外面に鉄絵で圏線を施す。	A-2　撹乱
	4		Ⅱb	口縁部～底部	13.0 6.3 6.8	口縁部の外反が弱く、内底に鉄釉で丸文を施す。全体に煤が付着しており、火を受けたと思われる。	SK05内
	5				13.5 6.2 6.4	口縁部の外反が強く、内面に圏線を２条施す。内底には灰釉で丸文を施す。	A-3　④　撹乱
	6		Ⅲ	口縁部～底部	13.6 6.6 6.4	畳付けに耐火粘土（メーガニク）を塗布、内底には目跡が付着。	SK05内
	7				13.2 6.3 6.3	畳付けに耐火粘土（メーガニク）を塗布、外面に線彫りと呉須を組み合わせて文様を施す。	SK05内
	8				13.5 5.9 6.4	６，７と比較して口縁部の外反が強く､高台が低い。外面には赤絵で草花文を描く。畳付けに耐火粘土（メーガニク）を塗布し、蛇の目釉剥ぎにそって赤絵で圏線を施している。	SA02埋土 SS05内
	9		Ⅳ	口縁部	12.5 － －	口縁部より５㎜ほど下に稜を施す。	表採
	10		Ⅴ	口縁部～底部	13.5 6.4 7.0	内底を蛇の目釉はぎし、畳付けに耐火粘土（メーガニク）を塗布。また畳付けには火を受けたと思われる跡がみられる。	SK05内
	11		Ⅵ	底部	－ － 6.8	鉄釉と白釉の掛け分けで、蛇の目釉剥ぎした内底には目跡が付着。また畳付けを釉はぎしたあと耐火粘土（メーガニク）を塗布。	B-3　①　撹乱
	12				－ － 4.6	内面及び外面高台際まで鉄釉を施釉。	A-3　④　撹乱
	13				－ － 7.0	つけ掛けを施し、外底にも施釉。	SK08埋土
	14	小碗	Ⅰa	口縁部	9.4 － －	器面に細かな貫入が入る。	A-3　撹乱
	15		Ⅰb	口縁部～底部	9.6 4.6 3.8	畳付けに耐火粘土（メーガニク）を塗布。外面に線彫りと呉須を組み合わせて巴文を描く。	A-2　撹乱
	16		Ⅰc		9.1 5.3 3.9	鉄釉と白釉の掛け分けで、内底を蛇の目釉剥ぎ、また畳付けも釉はぎしている。	A-3　トレンチ②撹乱
	17		Ⅱ	口縁部～底部	8.7 5.4 3.7	口唇部に鉄釉を施し、畳付けを釉剥ぎする。外面には線彫りと呉須で、内底には呉須で花文を描く。	SA02埋土
	18		Ⅲ	口縁部～底部	8.4 4.5 3.6	内底を蛇の目釉剥ぎし、畳付けに耐火粘土（メーガニク）を塗布。	撹乱
	19	筒碗	－	口縁部	8.9 － －	白釉単掛けで外面に呉須で横縞文を描き、口唇部を釉剥ぎする。	B-4　戦前遺物包含層

注　「－」：計測不可

第16表　沖縄産施釉陶器観察一覧（2）

単位：cm

挿図番号 図版番号		器種	分類	部位	口径 器高 高台径	観察所見	出土地
第51図・図版31	20	皿	Ⅰ	口縁部～底部	13.1 3.8 6.3	21と比較して口縁の外反が強い。畳付けを釉剥ぎし、内底を蛇の目釉剥ぎする。また、内底には目跡が付着。	B-2　撹乱
	21			口縁部	14.0 － －	内面に呉須で文様を描く。	B-3　②　撹乱
	22		Ⅱ	口縁部	－ － －	口唇部のみ灰釉を塗布。	SK05内
	23		Ⅲ	胴部	－ － －	茶色の釉を施釉。	A-4　撹乱
	24		Ⅳ	底部	－ － 4.6	鉄釉のつけ掛けで内底にも鉄釉を塗布。	A-4　④　撹乱
	25				－ － 8.6	大型の皿。灰釉のつけ掛けで外面に鉄釉で文様を施す。	世誇殿前庭埋土
	26		Ⅴ	口縁部～底部	17.4 6.2 6.6	内面に線彫りと呉須を組み合わせて格子文を描き、その中に鉄釉で花文を、見込みには呉須で丸文を描く。内底は蛇の目釉はぎし、目跡が付着。畳付けには耐火粘土（メーガニク）を塗布。	A-3　④　撹乱
	27		Ⅳ	口縁部～底部	10.2 3.3 4.2	口唇部が立ち上がり、腰部に丸みを持つ器形。白釉単掛けで内底は蛇の目釉はぎし、目跡が付着する。畳付けには耐火粘土（メーガニク）を塗布。	SS05西側
	28			口縁部	－ － －	灰釉単掛けで、内面に鉄絵で文様を施す。	西トレンチ④ 撹乱
	29		Ⅶ	底部	－ － 12.0	大型の皿である。外面には鉄釉を腰部まで施釉、内底には白釉を施釉。高台は碁笥底を呈する。	A-3　④　撹乱
	30	小皿	－	口縁部～底部	8.7 2.4 2.9	外面に赤絵で巴文？を描く。内底は蛇の目釉はぎし、目跡が付着。高台は畳付けのみ釉はぎする。	SK05内
	31	灯明皿	－	口縁部	12.0 － －	直口口縁で鉄釉単掛け。	C-4　②　撹乱
	32	鉢	Ⅰ	口縁部	22.8 － －	鉄釉単掛け。	SK05内
	33			口縁部～底部	32.8 13.8 12.2	外面鉄釉、内面白釉の掛け分けで外面は高台半ばまで施釉、内面は鉄絵で草花文を描く。内底は蛇の目釉はぎする。高台脇に穴をひとつ穿つが、用途は不明。	A-3　④　撹乱
	34		Ⅱ	口縁部	27.6 － －	黒釉単掛け。	表採
第52図・図版32	35			口縁部～底部	22.4 10.4 11.8	外面鉄釉、内面白釉の掛け分けで、内底を蛇の目釉はぎし、目跡が付着。外底にも鉄釉を塗りつけており、畳付けのみ無釉。	B-3　③　撹乱
	36		Ⅲ	口縁部	28.0 － －	外面鉄釉、内面白釉の掛け分け。口縁部を等間隔で軽く押し曲げている。	SK05内
	37		Ⅳ	口縁部	17.2 － －	白釉単掛け。	SK05内
	38		Ⅴ	口縁部	－ － －	外面鉄釉、内面白釉の掛け分けで外面に波状凸帯を貼付する。	C-3　①　撹乱

注　「－」：計測不可

第16表　沖縄産施釉陶器観察一覧（3）

単位：cm

挿図番号 図版番号		器種	分類	部位	口径 器高 高台径	観察所見	出土地
第52図・図版32	39	鉢	－	底部	－ － 9.0	外面に鉄釉をつけ掛けし、内底にも鉄釉を塗布。また目跡が付着する。高台には耐火粘土（メーガニク）を塗布。	SA02埋土
	40	鍋	Ⅰ	口縁部～底部	17.4 10.0 12.6	鉄釉単掛けで外底は無釉。底部に円筒状の脚を貼付する。	表採
	41			口縁部	16.0 － －	鉄釉単掛けで蓋受けのみ釉はぎする。口唇部に紐状の取っ手を貼付。	SK05内
	42		Ⅱ	口縁部	17.5 － －	灰釉単掛けで口唇部のみ釉はぎ、内面に一部鉄釉を施す。	世誇殿前庭埋土
	43	深鉢	－	口縁部～底部	40.6 33.0 18.2	鉄釉と白釉の掛け分けで、外面に緑釉を流し掛けているが、表面が剥落して青・白・緑の斑になっている。畳付けのみ無釉。口縁部が「L」字状に外反し、胴部の張りは弱い器形。胴上部に圏線を2条めぐらせ、その下に丸文を貼付する。	B-3　撹乱
	44	蓋	Ⅰ	摘み～甲蓋部	12.8 4.7 4.8	鉄釉単掛けで、摘み～甲蓋下部まで施釉。	撹乱
	45		Ⅱ	完形	5.8 3.3 4.1	白釉単掛けで摘み～甲蓋部まで施釉。甲蓋に線彫りと呉須、鉄釉を組み合わせて文様を描く。摘み基部には4㎜の孔を1個穿つ。	SK05内
	46		Ⅲ	甲蓋部	10.8 － 7.0	甲蓋端部～摘み基部に鉄釉を施釉。甲蓋端部に丸彫りで圏線を施す。脚に一部白土が掛かる。	表採
第53図・図版33	47	急須	－	胴部～底部	－ － 8.4	大型の急須。白釉単掛けで内面及び外底は無釉。外面に呉須で山水文を描く。底部に円錐状の脚を3箇所貼付。	SK05内
	48				－ － 6.1	大型の急須。灰釉単掛けで内面総釉、外面は胴部半ばまで施釉。全体的に火を受けて黒ずんでいる。底部に球状の脚を3箇所貼付。	A-2　④　撹乱 A-3　撹乱
	49			口縁部～底部	4.4 8.75 4.0	黄灰色の釉を、外面及び内面の一部に施釉。肩部に板状の耳を貼付、注口には2つの孔が穿たれている。	撹乱
	50	酒器	Ⅰ	頚部～底部	－ － 7.2	丸型の器形を呈し、灰釉単掛けで線彫りと呉須、鉄釉を組み合わせて文様を描く。底部は無釉で耐火粘土（メーガニク）が溶着。	B-3　③　撹乱
	51		Ⅱ	底部	－ － 7.5	胴下部が屈曲する器形。白釉単掛けで内面は無釉、外底に白土が付着する。外面に線彫りと呉須を組み合わせて圏線を施す。	B-4　②　撹乱
	52			頚部～胴部	－ － －	胴中部が屈曲する器形。白釉単掛けで内面は無釉、轆轤痕が明瞭に残る。外面には線彫りと呉須、鉄釉を組み合わせて圏線や文様を施す。	B-4　②　撹乱
	53	火炉	Ⅰ	口縁部	22.2 － －	口唇が舌状を呈し､口縁部に半円状の火窓をもうける。黒釉単掛けで内面は胴上部まで施釉。	SA02埋土
	54			胴部～底部	－ － 13.4	外面胴下部～内面胴上部まで黒釉を施釉し、黒釉と白釉を流しかけて内底の一部に黒釉を塗布している。胴上部に透かし彫りで花文を施す。内面は轆轤痕が明瞭に残り、底部には三角錐の脚を貼付。	A-2　④　撹乱

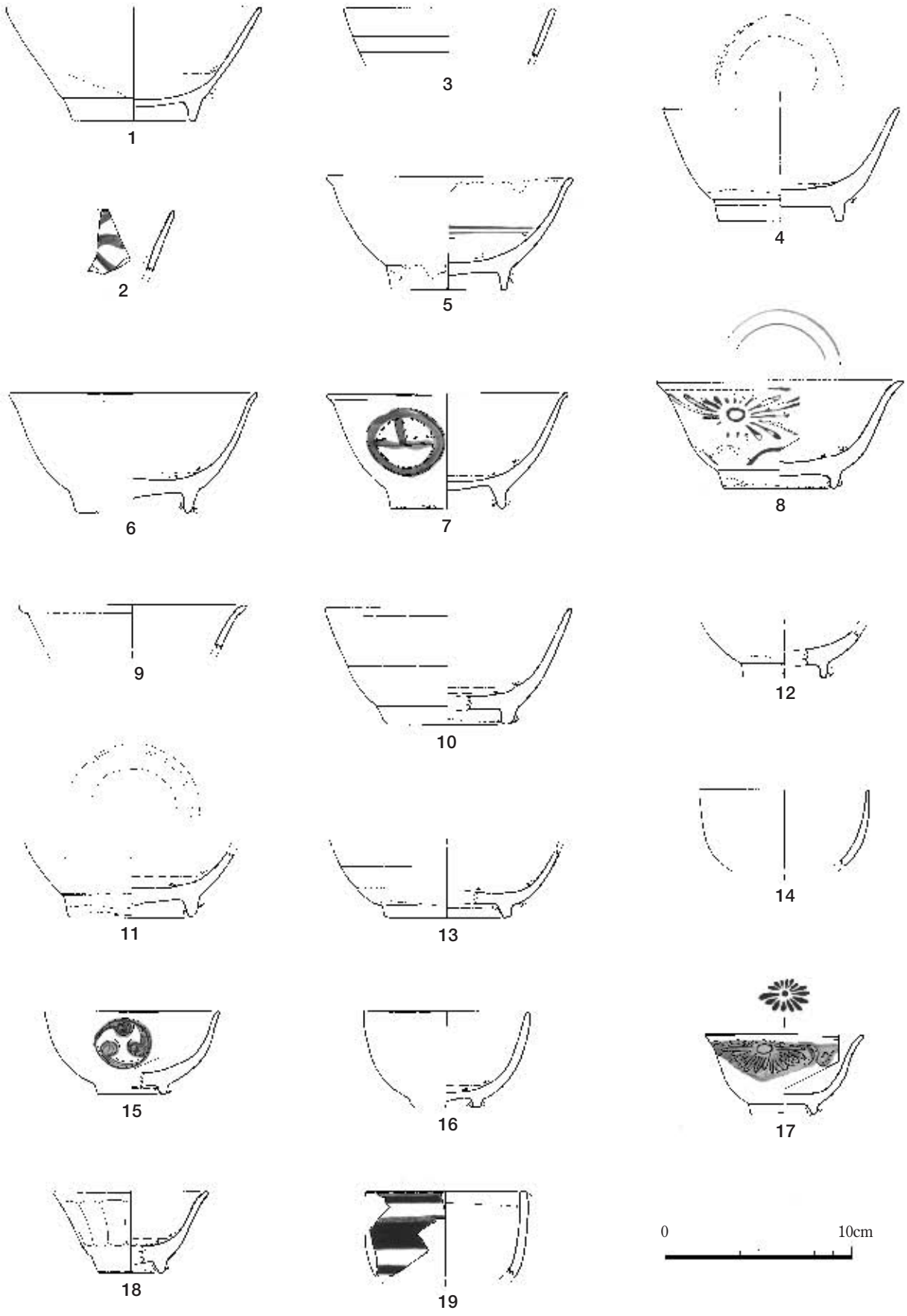
注　「－」：計測不可

第16表　沖縄産施釉陶器観察一覧（4）

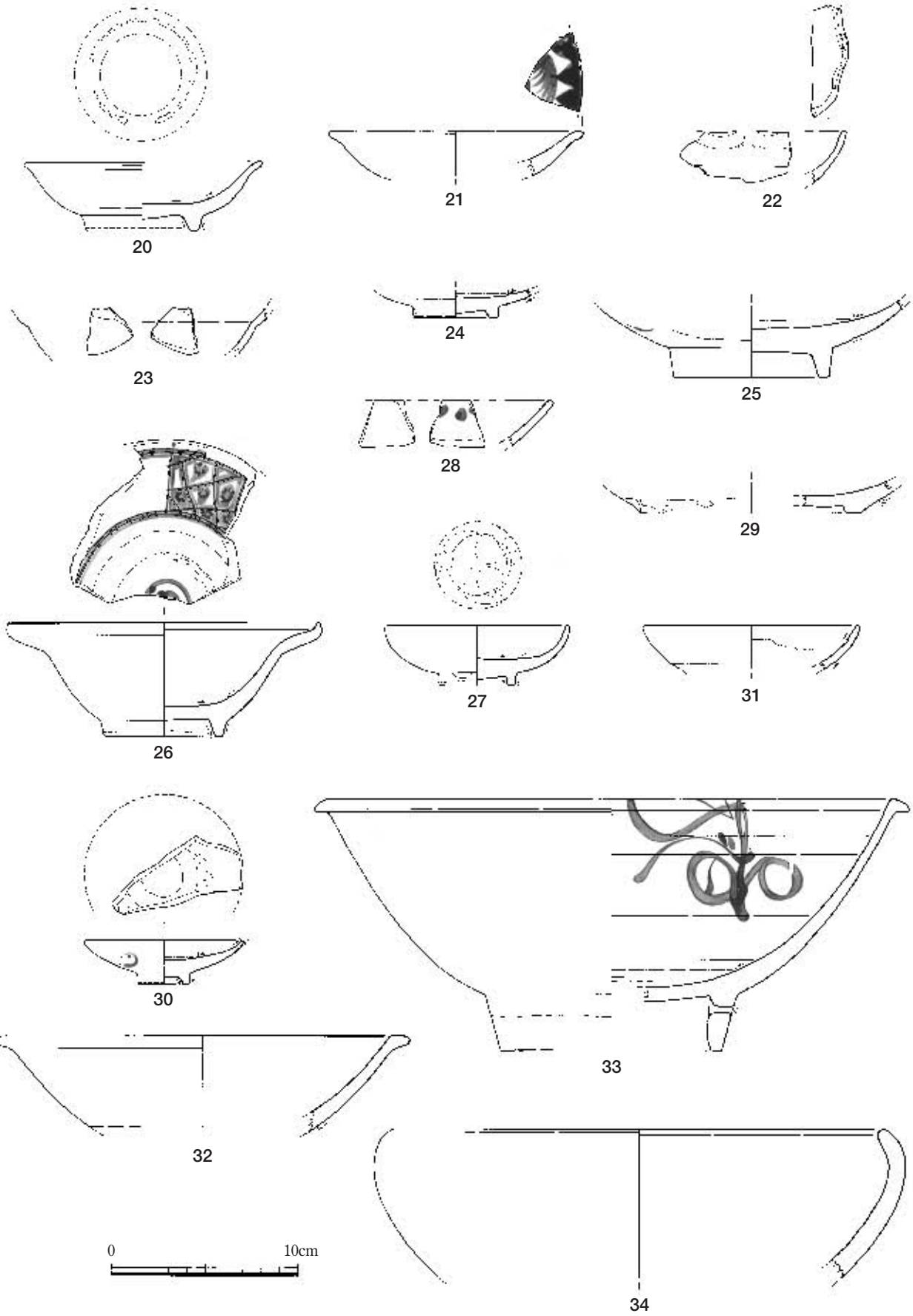
単位：cm

挿図番号 図版番号		器種	分類	部位	口径 器高 高台径	観察所見	出土地
第53図・図版33	55	火炉	Ⅱ	口縁部	12.6 — —	両面に鉄釉を施釉、口唇に白土を塗布。内面に器物受けの跡が残る。	B-4　② 黒褐色土層
	56	火取	Ⅰ	口縁部	9.8 — —	外面と内面胴上部に白釉を施釉、また内面の一部に鉄釉を施釉。	B-3　③　撹乱
	57		Ⅱ	口縁部	28.4 — —	黒釉単掛け。	A-3　撹乱
第54図・図版34	58	香炉	—	口縁部～胴部	9.6 — —	茶灰色の釉を全面に施釉。口唇部のみ釉剥ぎする。直口口縁で頚部が短く、器形は丸形を呈する。	SK05 西側埋土
	59		—	底部	— — 9.2	白釉単掛けで外底のみ無釉。内底に呉須で文様を描く。筒型の器形で腰部に脚を貼付していた跡がみられる。	SK05内
	60	瓶	—	口縁部	4.4 — —	口縁部を外反させ、口唇を立ち上げる短頚の瓶。白釉単掛けで口縁部及び胴部に呉須を塗布する。	B-3　③　撹乱
	61		—		2.6 — —	口唇部を玉縁状に肥厚させ、外面及び内面上部に鉄釉を施釉。	B-3　③　撹乱
	62		—	底部	— — 5.4	白釉単掛けで外面に呉須で文様を描く。畳付けに耐火粘土（メーガニク）を塗布。	B-3　③　撹乱
	63	壷	—	底部	— — 13.0	外面、内面は鉄釉で外底のみ白釉を塗布。高台は碁笥底を呈し、内面は轆轤痕が明瞭に残る。	撹乱
	64		—		— — 10.4	内面黒釉、外面は鉄釉を施釉したのち黒釉を流し掛ける。外底に黒釉、畳付けには耐火粘土（メーガニク）を塗布。	撹乱
	65		—	口縁部～胴部	11.2 — —	外面に鉄釉を施釉、内面には一部に鉄釉が流れ掛かっている。丸型の器形で蓋受部を持つ。器壁は薄く、内面に轆轤痕が明瞭に残る。	表採
	66		—		8.5 — —	いわゆるアンダガーミと呼ばれる四耳壷。鉄釉単掛けで口唇部のみ白土を塗布。口縁部を方形に肥厚させ、胴部の張りは弱い。	SK05埋土
	67	小壷	—	口縁部～胴部	8.8 — —	外面は白釉、内面胴上部から灰釉の掛け分けで、口縁部に白土を塗布する。広口壷で、口縁部が三角状に肥厚して頸部がしまる器形。	B-3　③　撹乱
	68	アンビン	—	口縁部～底部	10.5 15.5 10.9	外面は鉄釉を施釉した上に黒釉を腰部まで施釉。内面は鉄釉のみ。外底には黒釉を塗布。口唇部には白土を塗布し、畳付けは無釉。内面には轆轤痕が明瞭に残る。	SK05内
	69	油壷	—	ほぼ完形（底部の一部を欠損）	2.4 5.0 4.0	黒釉単掛けで外面は腰下部まで施釉、外底にも黒釉を塗布。底部には砂土が溶着、窯詰めの際のものと思われる。器形は算盤状を呈する。	SK05内
	70	灯明具	—	胴部	— — —	脚つき灯明具の上部と思われる。黒釉単掛け。	SK02
	71	器種不明	—	胴部	— — —	鉄釉単掛けで「 」の印が彫られる。	表採
	72		—	底部	— — 7.3	外底に紐状の凸帯がめぐらされていることから、皿になる可能性が考えられる。外面は無釉、内面に鉄釉が施される。	表採

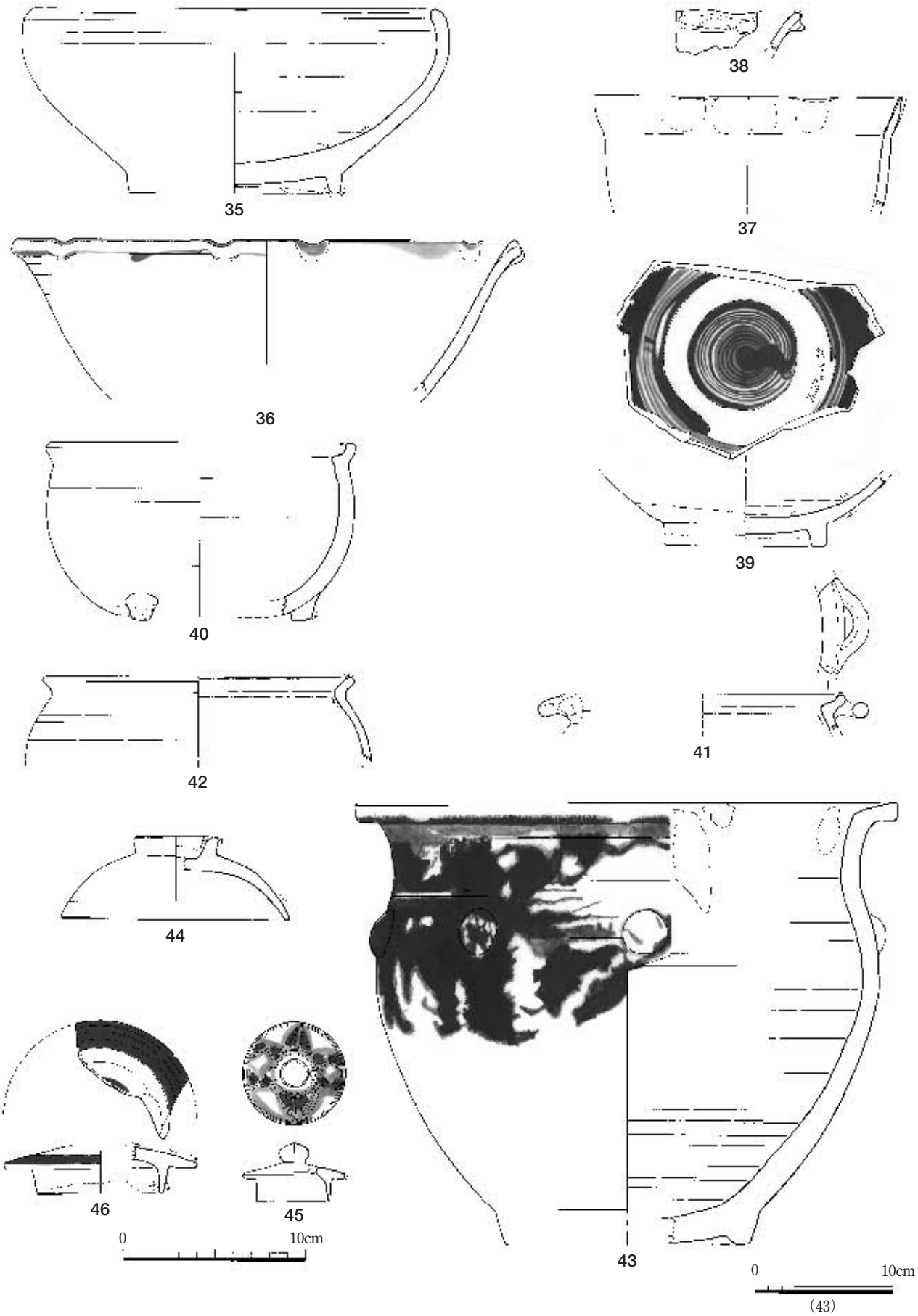
注　「—」：計測不可



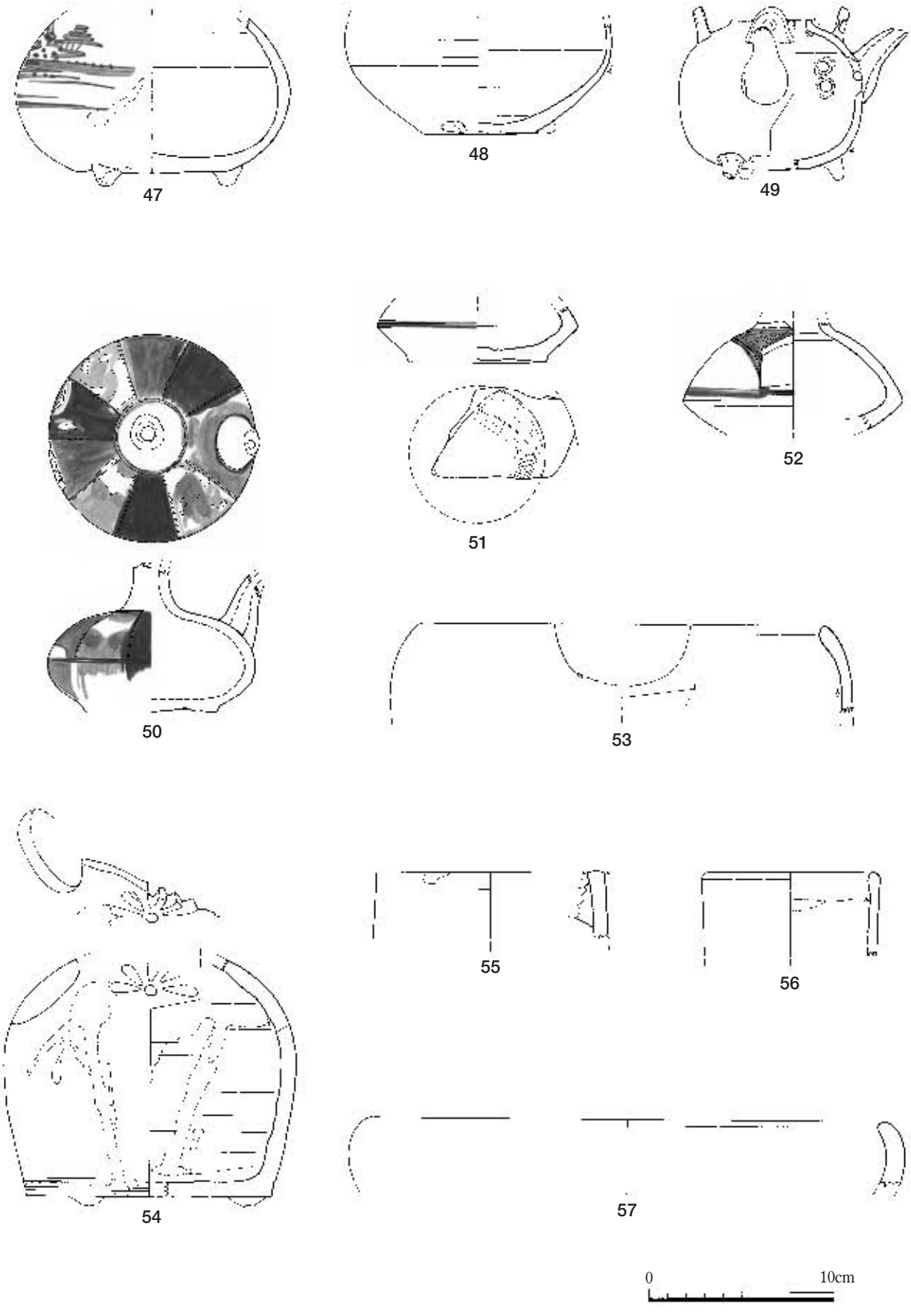
第50図　沖縄産施釉陶器（１）



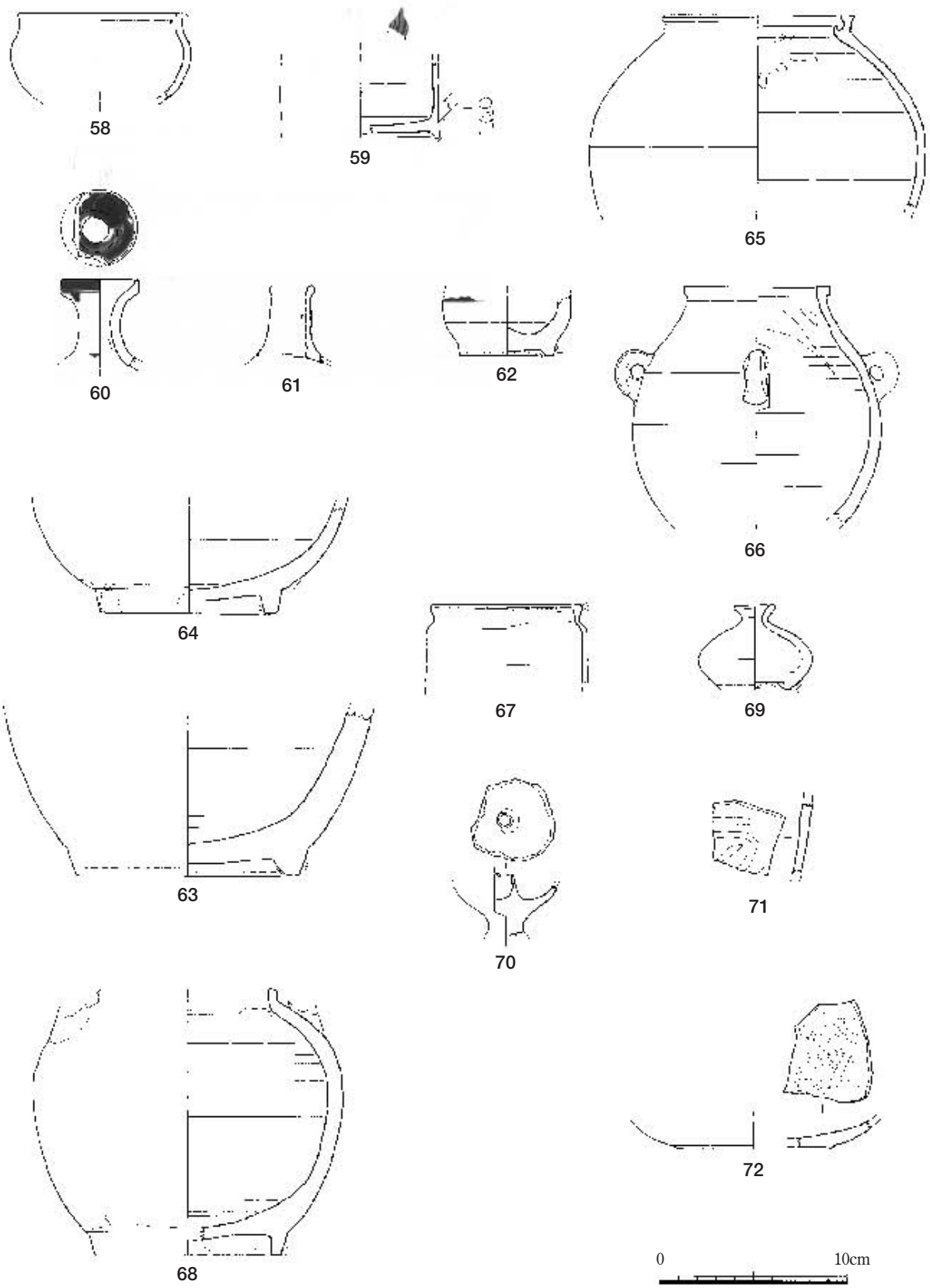
第51図　沖縄産施釉陶器（２）



第52図　沖縄産施釉陶器（３）



第53図　沖縄産施釉陶器（４）



第54図　沖縄産施釉陶器（５）

第10節　沖縄産無釉陶器

「荒焼(アラヤチ)」と称される高温焼成の焼き締め陶器である。基本的に無釉だが、泥釉やマンガン釉を施す場合もある。沖縄産施釉陶器に比べて壷や水甕など大型の製品が多い。本遺跡では碗、擂鉢、水鉢、小鉢、灯明皿、火炉、瓶、壷、蓋、水甕が出土した。ここでは各器種の分類概念について述べ、個々の観察所見は第17表に記す。

1．碗（第55図１、２）

喜納、知花焼の碗だと思われる。腰部がやや張り、胴部から口縁部にかけて斜方へストレートに立ち上がるものと（１)、前者に比較して口縁がやや外に開くものがある（２)。

2．擂鉢（第55図３～６）

Ⅰａ類：口縁部が「く」の字状に強く屈曲するもの（３、４)。

Ⅰｂ類：Ⅰａと比較して屈曲が微弱なもの（５)。

Ⅱ類：口縁が逆「L」字状を呈し、口唇が幅広のもの（６)。

3．水鉢（第55図７～10、第56図11～14）

Ⅰａ類：口縁部を内湾させたあと、口縁部を三角状に肥厚させるもの（７、８)。

Ⅰｂ類：口縁部が内湾し、口唇が舌状を呈するもの（９、10)。

Ⅱａ類：口縁部が逆「L」字状を呈し、口唇が幅広のもの（11)。

Ⅱｂ類：口縁部の幅がⅡａ類よりせまいもの（12、13)。

4．小鉢（第56図15、16）

Ⅰａ類：水鉢Ⅰａと同様（15)。

Ⅰｂ類：水鉢Ⅰｂと同様（16)。

5．灯明皿（第56図17、18）

口唇のつくりが薄手のものと（17)、前者よりやや大型の器形とがある（18)。

6．火炉（第56図19～21）

19は肩部が「く」の字状に屈曲する器形で、20は胴部に方形の耳を貼付する。21は底部で円錐状の脚を貼付する。

7．瓶（第56図22、23）

肩部に圏線をめぐらせるものと（22)、口唇をやや肥厚させるものとがある（23)。

8．壷（第57図24～28）

喜納・知花焼と思われるもの（24、28)、口縁部が方形に肥厚するもの（25)、外反口縁で口唇部が玉縁状に肥厚するもの（26、27）などがある。

9．蓋（第57図29～31）

落とし蓋型と（29、31)、被せ蓋型（30）とがある。

10. 水甕（第57図32、33、第58図34～36）

Ⅰａ類：口縁部を逆「L」字状に屈曲させる。(32)

Ⅰｂ類：口縁部を逆「L」字状に屈曲させ、口縁下端が鉤状を呈する。(33)

Ⅱ類：口縁部が方形状を呈し、頸部で軽く締まっているもの。(34)

Ⅲ類：口縁部がやや内傾し、いびつな方形を呈するもの。(35)

器種不明（第58図37）

香炉の脚である可能性が考えられる。彫りと粘土の貼り付け模様で人面を描いている。

第17表　沖縄産無釉陶器観察一覧（1）

単位：cm

挿図番号 図版番号		器種	分類	部位	口径 器高 高台径	観察所見	出土地
第55図・図版35	1	碗	—	口縁部～底部	14.2 6.8 5.4	喜名・知花焼の碗だと思われる。素地は鈍赤褐色。腰部がやや張り、胴部～口縁部にかけては斜方へストレートに立ち上がる器形。器面は暗赤褐色を呈し、外面一部に黄色釉がかかる。高台は低い。	SA06暗褐色土層
	2		—		13.6 5.9 5.6	喜名・知花焼の碗だと思われる。素地は鈍赤褐色。１と比較して口縁がやや外に開く器形で口縁が厚く、高台は低い。作りが粗雑。	撹乱
	3	擂鉢	Ⅰａ	口縁部～胴部	34.0 — —	素地・器色ともに鈍赤褐色。口縁が被熱により黒ずんでいる。内面全体に櫛目を施す。	A-3　撹乱
	4			口縁部～底部	30.0 13.1 9.4	素地・器色ともに赤褐色を呈する。外面に圏線を明瞭なもので７条めぐらし、内面は７条単位で間隔を開けて櫛目を施す。	SK04、A-3　④　撹乱
	5		Ⅰｂ	口縁部～胴部	27.8 — —	素地は赤褐色、器面は茶褐色を呈し、内面全体に櫛目を施す。	A-2　②　撹乱
	6		Ⅱ		30.2 — —	素地は明赤褐色で、外面に黄灰色の釉を施す。口縁部上面に圏線を１条めぐらせ、内面全体に櫛目を施す。	SK05内
	7	水鉢	Ⅰａ	口縁部～胴部	20.5 — —	素地は暗茶褐色、外面は自然釉がかかり黒褐色を呈する。焼成は堅緻。肩部に３本櫛で波状文を施す。	B-3　撹乱
	8			口縁部～底部	16.0 7.5 9.5	素地･外面ともに赤褐色だが内面及び外面の一部が被熱のために黒ずんでいる。７に比べて肩部の張りが強い。また肩部に６本櫛で波状文を施す。	A-3　撹乱
	9		Ⅰｂ	口縁部～胴部	21.8 — —	素地が暗赤褐色、器面は明赤褐色を呈するが、外面上部が被熱のため黒ずんでいる。胴上部に圏線を２条めぐらせ、その下に６本櫛で波状文を施す。内外面に轆轤痕が明瞭に残る。	A-3　④　撹乱
	10			口縁部～底部	22.0 11.7 10.4	素地・器面ともに明赤褐色を呈する。胴部に圏線を１条めぐらせ、その下に４本櫛で波状文を施す。	世誇殿前庭埋土
第56図・図版36	11		Ⅱａ	口縁部～底部	37.0 16.1 13.8	素地・器面ともに明赤褐色を呈する。口縁上部に圏線を１条めぐらせる。	SK05内
	12		Ⅱｂ	口縁部～胴部	22.2 — —	素地・器面ともに暗茶褐色を呈する。外面の一部が被熱のため黒ずんでいる。口縁上部に圏線を１条施す。	A-4　④　撹乱
	13				17.8 — —	素地・器面ともに赤褐色を呈し、内面に漆喰が付着している。口唇部に波状文を施し、外面に線彫りで草花文？及び貼り付け文様を施す。	撹乱
	14		—	底部	— — 8.5	素地・器面ともに明赤褐色を呈する。	SK06　埋土 撹乱
	15	小鉢	Ⅰａ	口縁部～胴部	9.2 — —	素地は暗灰色、外面は茶褐色、内面は暗茶褐色を呈するが、一部が被熱のため黒ずんでいる。	A-2　トレンチ10　撹乱
	16		Ⅰｂ	口縁部～胴部	11.0 — —	喜納・知花焼の可能性がある。素地は赤褐色、外面は暗茶褐色を呈し、外面に６本櫛で波状文を施す。	SK05内

注　「—」：計測不可

第17表　沖縄産無釉陶器観察一覧（2）

単位：cm

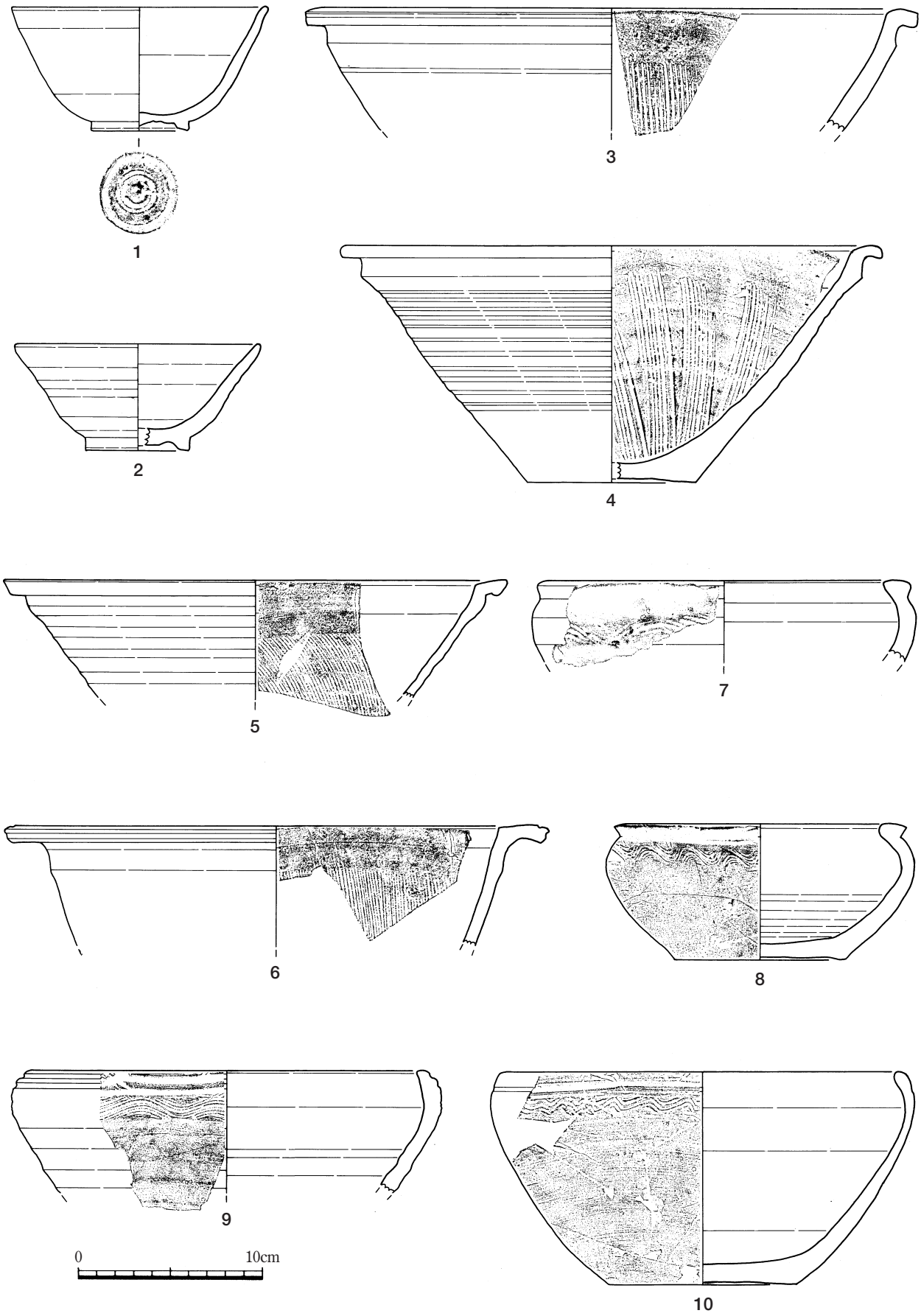
挿図番号 図版番号		器種	分類	部位	口径 器高 高台径	観察所見	出土地
第56図・図版36	17	灯明皿	—	口縁部～底部	11.1 3.1 4.9	素地・器面ともに赤褐色を呈す。口縁部や底部に煤が付着している。口唇のつくりは薄く、轆轤痕が明瞭に残る。	A-3　撹乱
	18		—	口縁部～胴部	13.6 — —	喜納・知花焼の可能性がある。素地・器面ともに暗赤褐色を呈す。17より大型の器形で厚みがあり、轆轤痕が明瞭に残る。	B-4　撹乱
	19	火炉	—	口縁部～胴部	14.9 — —	素地･器面ともに暗茶褐色を呈する。肩部から「く」の字状に屈曲する器形で､口縁部と肩部に圏線を１条廻らす。	SD01溝内
	20		—		11.4 — —	口縁部がやや内湾し､口唇より５㎜下に圏線を２条廻らす。胴部に方形の耳を貼付する。	B-3　トレンチ１
	21		—	底部	— — 12.0	素地は赤褐色、器面は暗茶褐色を呈す。腰部に削りが入り、底部に円錘形の脚を貼付する。	A-4　トレンチ３ 撹乱
	22	瓶	—	頸部～胴部	— — —	素地は褐色、器面は茶褐色を呈する。肩部に圏線を３条廻らせる。	西側トレンチ ④撹乱
	23		—	口縁部～頸部	5.9 — —	素地・器形ともに赤褐色を呈する。口唇部をやや肥厚させる。	B-3　③　撹乱 SK05内
第57図・図版37	24	壷	—	口縁部～底部	7.8 10.2 7.7	喜名･知花焼の壷だと思われる。小型の壷。素地は暗灰色と赤褐色、内面は暗灰色で外面は底部から胴下部にかけて赤褐色、胴上部から口縁部にかけては被熱のためか暗褐色を呈す。丸形の器形で口縁部は玉縁状に肥厚する。胴中部に丸彫りで圏線を１条廻らせ、肩部には破損のため不明瞭だが「 」の印が刻まれている。	C-3　①　撹乱
	25		—	口縁部	15.7 — —	素地は赤褐色で外面は茶褐色を呈し、自然釉のために光沢がある。口縁部は方形に肥厚する。	A-3　④　撹乱
	26		—		14.2 — —	素地は暗赤褐色で器面は暗褐色を呈す｡外反口縁で口唇部が玉縁状に肥厚する。	SR01　埋土
	27		—		12.2 — —	素地は赤褐色、外面は茶褐色を呈す。口縁部が玉縁状に肥厚し、胴部に圏線を施す。	表採
	28		—	底部	— — 8.6	喜名･知花焼の可能性がある。素地は赤褐色と暗灰色、器面は暗灰色を呈する。外面に泥釉を施す。	SK08　埋土
	29	蓋	—	摘み～甲蓋部	9.3 2.05 —	素地は暗灰色、外面は暗赤褐色を呈する。落とし蓋型で摘みは宝珠状を呈する。	SK08内
	30		—	甲蓋部	11.6 — 9.0	素地・器面ともに赤褐色を呈する。被せ蓋型で甲蓋に丸みがあり、外縁に鍔を持つ。	撹乱
	31		—		8.6 — —	素地は暗褐色、器面は暗灰色を呈する。落し蓋型の蓋だと思われる。外面に草文を貼付する。	撹乱
第58図・図版38	32	水甕	Ⅰａ	口縁部～胴部	88.6 — —	素地・外面は赤褐色、内面は灰褐色を呈す。口縁下端に圏線を２条廻らせる。胴部は丸文と圏線を施す。	表採
	33		Ⅰｂ	口縁部	44.4 — —	素地・外面は赤褐色、内面は被熱のためか灰褐色を呈す。口縁部に圏線を２条廻らす。	B-4　撹乱
	34		Ⅱ	口縁部	36.8 — —	素地・内面は赤褐色、外面は灰褐色を呈す。口縁下部に圏線を２条廻らす。	SK05
	35		Ⅲ	口縁部～胴部	30.0 — —	素地･内面は赤褐色、外面は泥釉がかけられ暗褐色を呈す。胴部の張りは弱く、胴上部に圏線を１条と縄目文を１条廻らす。	B-4 戦前遺物包含層
	36		—	底部	20.0 — —	埋甕２にあたる。素地・外面は赤褐色、内面は漆喰が付着している。胴部の張りは弱く胴下部に穴が開けられているが用途は不明。	甕②内
	37	器種不明	—	脚	— — —	素地は暗赤褐色、器面は暗灰色を呈する。彫りと粘土の貼り付けで人面を描いている。香炉の脚である可能性も考えられる。	撹乱

注　「—」：計測不可

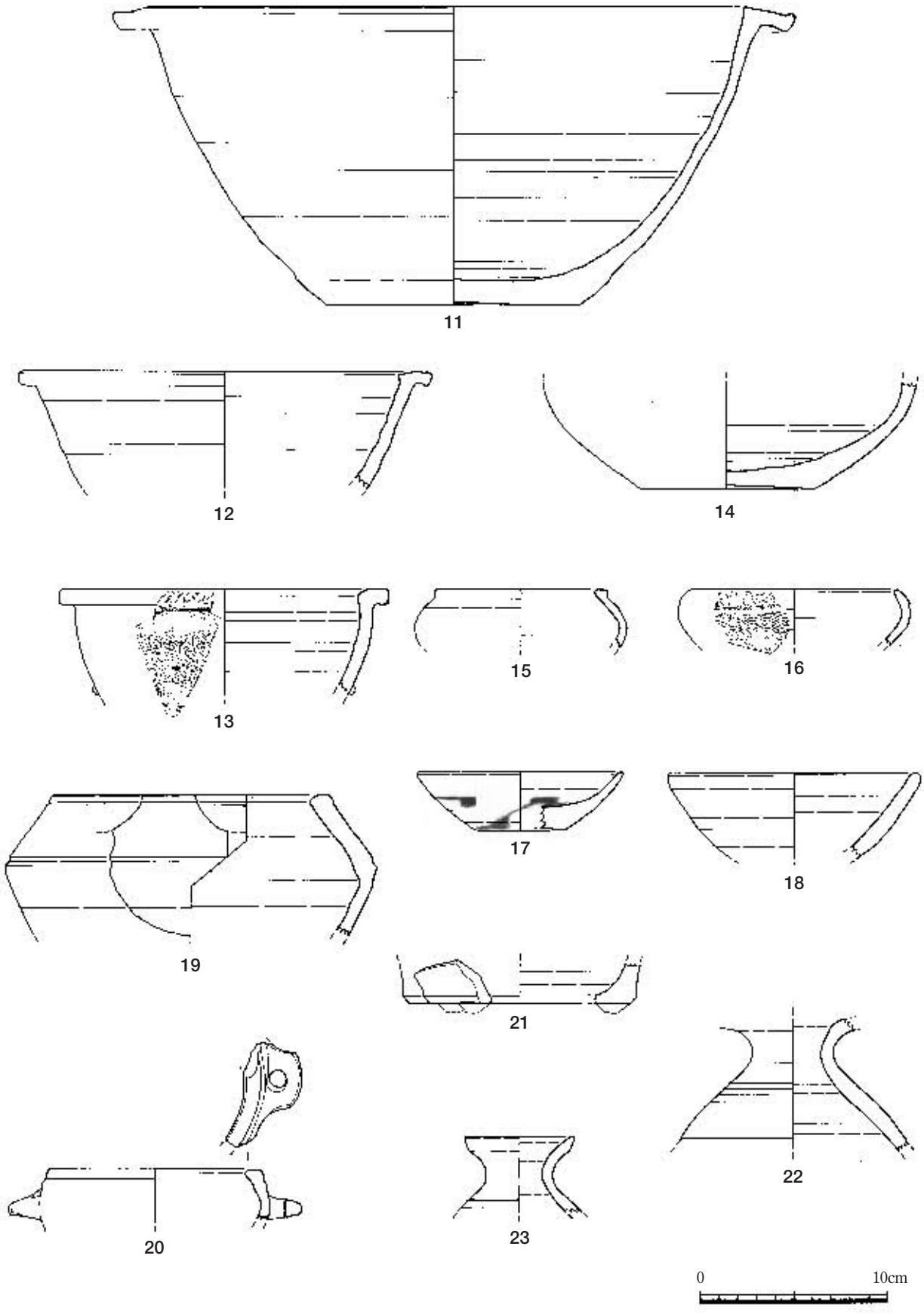
第18表　沖縄産無釉陶器出土状況

器種・分類 ＼ 出土地				SR				SA				SS	SD	SK								SS01+SA02	世誇殿			戦前遺物包含層	A-			B-		C-					表採	撹乱	合計
				01	02	04	05	01	02	05	06	01	01	02	03	04	05	06	07	08			前庭埋土	黄褐色微砂層	基壇内ピット		2	3	4	3	4	3	4	3・4				
碗	口～底										1																									1	2
	口縁部													1									1				3						5					10
	胴　部																				1																	1
	底　部																										1	1	1								4	7
皿	口～底																																				1	1
	口縁部																											2	1				1					4
	底　部																													2								2
鉢	Ⅰ類	a	口縁部										1													2												3
		b																										1									1
	Ⅱ類	a															3						1			2	1	1		1						3	12
		b																										3		1						2	6
	胴　部				1								2				5	1		1				1													11
	底　部								1														2					1		1							8	13
擂鉢	Ⅰ類	a	口～底													1																						1
			口縁部																								1	1									2	4
		b	口～底																									1										1
			口縁部																								1	1	2			3						7
	Ⅱ類		口縁部														4										1	1	1	3					2	3	15
	胴　部			1	2			1						1			7	1		1			2	1				1										18
	底　部																1						1						1			2					5	10
水鉢	Ⅰ類	a	口～底																									1										1
			口縁部												1			2									2	4	1	3	1	1				10	25
		b	口～底																				1														1
			口縁部				1		2								2										2	5		2		2				7	23
	Ⅱ類	a	口～底														1																				1
			口縁部																									1				1				4	6
		b	口縁部																										1		1					1	3
	底　部																	1																			1
小鉢	Ⅰ類	a	口縁部																								1						1				2
		b															1																				1
鍋	底　部																		1																		1
灯明皿	口～底																											1									1
	口縁部											2			1		2						1						1		2						9
	底　部																											1	1								2
火炉	口縁部												1		1		1										2	2	3	2	2					11	25
	耳																											1									1
	胴　部																1																				1
	底　部																												1	1							2
瓶	口縁部								1								4											1					1				2	9
	胴　部																																				1	1
	底　部																																1				2	3
壷	口～底																														1							1
	口縁部	2	1																2							3	3	2	2	1				1	12	29
	頸　部																1																				1
	胴　部	8	1	1										1	2		14	5		13			8														53
	底　部	1											1	1						1								2		3	2					3	14
小壷	口縁部																										2	1				2					5
蓋																				1						1	1	2				1				5	11
水甕	Ⅰ類	a	口縁部					1																							1			1		3	6
		b																											1		1						2
	Ⅱ類																1														1						2
	Ⅲ類																	2					1			1	4										8
	胴　部		2														1	1		1			2		1												8
	底　部																		1	1							1				1						4
急須	注　口																																				1	1
	把　手																														1						1
水注	注　口																										1	1									2
器種不明	口縁部	1					1													1						1	1		1	1	1					2	10
	把　手																		1																			1
	胴　部		7		2	2	1	1	2		8	9						6					2			18											58
	脚																																				1	1
	底　部				1							1															2		1	1						1	7
合　計		13	14	1	4	4	5	2	3	3	13	12	6	1	49	13	9	22	1	22	2	1	26	30	41	17	24	17	7	11	1	4	95	473

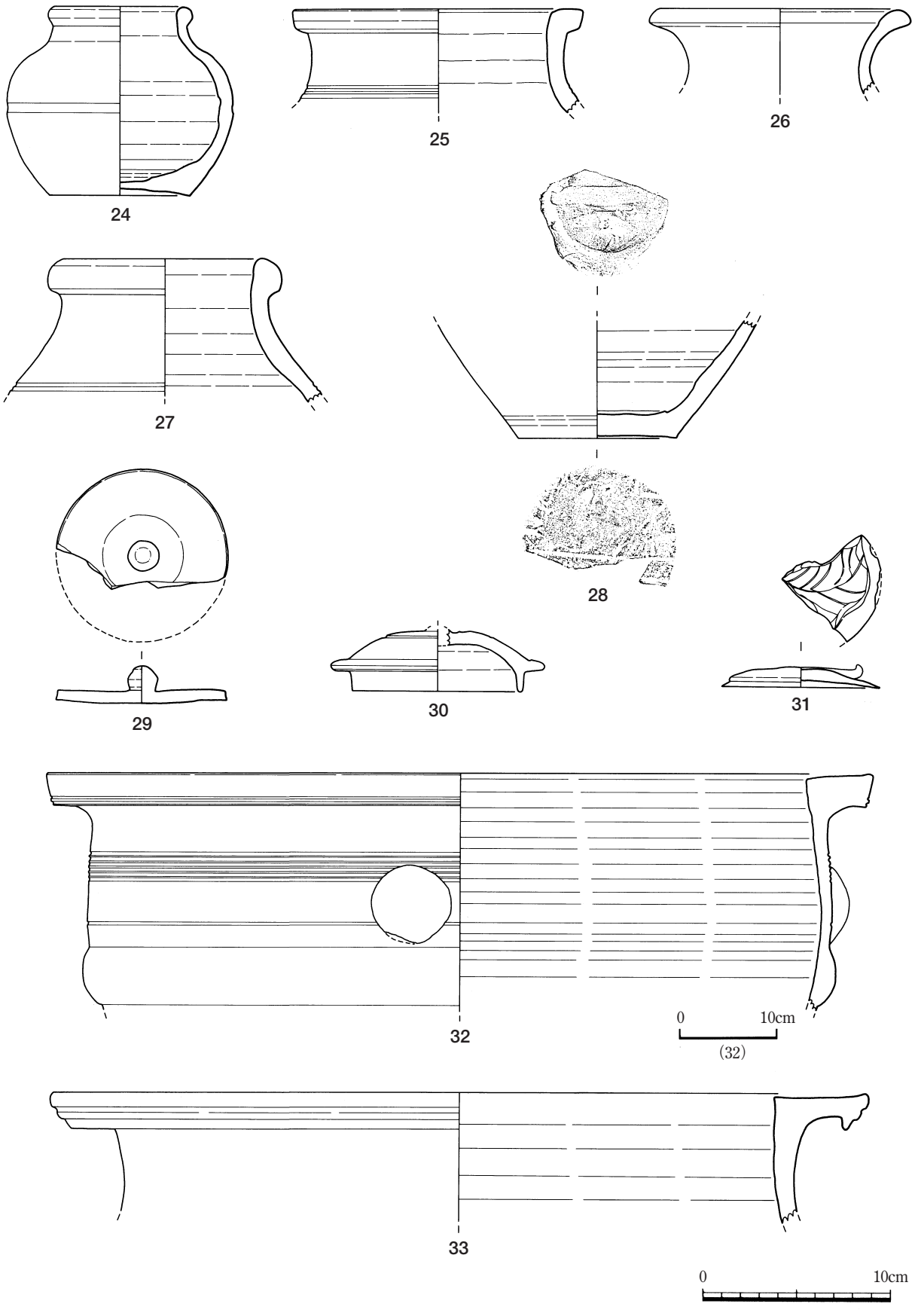
注　「＋」：接合の意



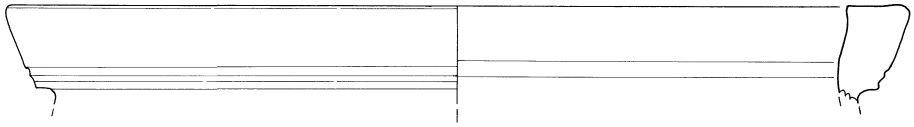
第55図　沖縄産無釉陶器（１）



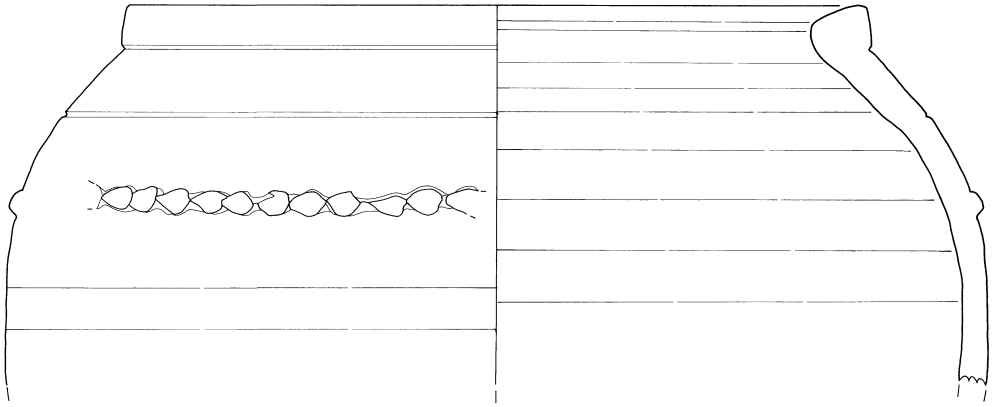
第56図　沖縄産無釉陶器（２）



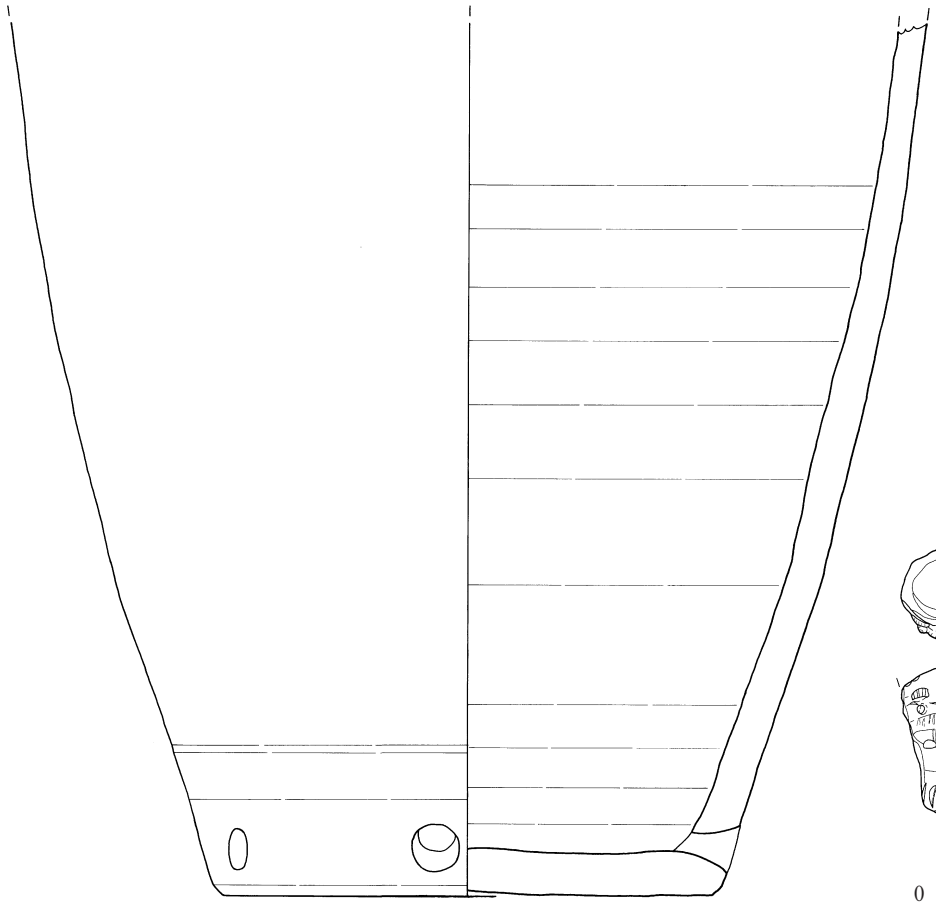
第57図　沖縄産無釉陶器（３）



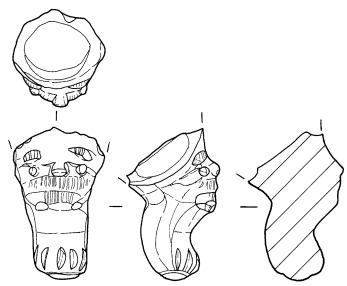
34



35



36



37

0 10cm

第58図　沖縄産無釉陶器（４）

第11節　土器

本節では中世～近世に相当すると思われる、沖縄及び本土産の土器を報告する。

１．中世の土器

ここで扱う資料は、いわゆるグスク土器である。今回の調査では21点の資料が得られているが、大半は小片のため、特徴的な２点を図化した。

第59図１・２は、両資料とも紐造りによって成形されている。１は、壷形土器の頸部片である。口縁部は破損しているが、口縁の立ち上がりは短く、軽く外反するものと思われる。肩部は張り、丸味を帯びる器形が想定される。外面調整は、頸部に木口を当てて縦位のハケを施した後、肩部をハケで横位に成形している。内面調整は、肩部から頸部へ工具を引くようにして、斜位のハケを施している。また、口縁立ち上がり部は調整痕が不明瞭だが、木口の角度から横位のハケを施していると思われる。内面における２方向の調整痕には切り合い関係は認められない。ハケの幅は約1.0㎝ で、右利きの人物によって成形されたと思われる。また、内外面ともハケを施した後、ナデ調整を行っていると思われる。

２は、立ち上がり部が明確で、しっかりとした底部片である。内底面の調整は不明瞭だが、僅かに残る木口の痕跡から、円を描くように成形しているものと思われる。その後、立ち上がりの接合部に沿ってハケによる調整を施し、全面をナデによって仕上げていると思われる。立ち上がり部のハケメから、工具の幅は約1.0㎝ と考えられる。外面は、立ち上がり部をナデによって調整している。また、外底面は工具痕が著しい。この工具痕がどのような性格のものなのかは不明である。この土器も、右利きの人物によるものと思われる。

２．　近世の土器

ｉ）瓦質土器（第59図３～14）

ここでは、焼成が良い上に胎土が瓦に近似するものを瓦質土器として挙げた。今回の調査で得られた瓦質土器は35点である。器種不明の資料が大半だが、器種のわかる資料では鉢形の土器が最も多く、全体の31％を占める。

鉢（第59図３～９）

３・４は、深鉢形を呈すもので、「植木鉢」と呼称される資料である。３は、比較的大型の口縁部片で、やや外傾するものである。器形は、底部から開き気味に口縁へ移行する。口縁の形状は、内面を肥厚させて口唇を広く成形している。口唇直下には２条の波状突帯文が廻り、以下に約4.0㎝ 幅の空白帯を挟んで同様の波状突帯文が施されている。さらに、破片下部には草花文の浮文も確認できる。

４は、内傾する口縁部片である。文様やその構成は３と同様だが、胴部がやや張る器形が想定される。５～９は４に似た形状の口縁を持つ浅鉢で、火鉢として用いられたと思われるものである。器面には菊花文が施されている。

５は、口唇を強調させた口縁部片で、菊花文を挟んで２条の突帯が廻る。６も同様の資料と思われる。７～９も５・６と同様の資料だが、突帯の代わりに圏線が彫り廻らされている。また、７～９の菊花文の印刻は、５・６に比べて造りが雑である。このように、この２種には造りに違いがあるものの、混入物に差異は認められない。

その他の器種（第59図10～14）

10は、風炉と思われる口縁部片である。同様の資料は、県内では首里城木曳門跡で出土している（田里　2001）。

11は、香炉の底部と思われる資料である。瓦質土器の中では、時期が比較的新しくなると思われる。

12は、火炉の底部と思われる資料である。香炉の可能性もある。比較的大型になると思われるもので、脚には段が造られている。内外面は、約2.0㎝ 幅のハケによって調整された後、布でナデられていると思われる。

13・14は形状のよく似た底部片である。外底面は明確な稜を持って立ち上がるが、内面には段を持たず、緩やかに立ち上がる。14は造りが比較的雑である。

ⅱ）アカムヌー（第59図15～20、第60・61図、第62図70・71）

アカムヌーは、小型の登り窯で造られるため焼成温度は低く、土師質のものも見られる。しかし、土師質土器とは異なり、陶器のように堅く焼き締まるものも多い。そのため、しばしば瓦質土器との区別が困難な場合がある。そこで、ここでは焼成状態の如何に因らず、胎土が瓦質土器から外れるものをアカムヌーとして挙げた。

今回得られたアカムヌーは本節土器の88％を占めており、総計は2900点余りに上る。そこで、主体を成す器種や出土の多い地区を明確にするため、集計結果を第19表にまとめた。以下、遺構ごとに報告する。

第19表　アカムヌー出土状況

単位：（　）内kg

器種 / 出土地	鍋		急須		火炉	鉢（主に水鉢）	焙烙	火焙	碗	不明蓋	不明	遺構別累計
	蓋	身	蓋	身								
SS01・SK02・03・06～08		4 (0.089)	2 (0.054)								117 (0.218)	123 (0.361)
SK05	2 (0.130)	29 (0.536)	1 (0.004)	13 (0.182)	38 (2.380)	11 (0.281)	1 (0.039)				483 (2.540)	578 (6.092)
SA01・03・06					2 (0.045)						13 (0.092)	15 (0.137)
SA02			2 (0.018)	2 (0.020)	11 (0.285)	3 (0.029)				2 (0.030)	73 (0.648)	93 (1.030)
SR01・02・05		1 (0.002)			1 (0.021)						26 (0.107)	28 (0.13)
SD01		1 (0.006)								1 (0.016)	13 (0.040)	15 (0.062)
戦前遺物包含層											8 (0.063)	8 (0.063)
世誇殿前庭		1 (0.008)			1 (0.028)						28 (0.105)	30 (0.141)
攪乱・表採	8 (0.111)	82 (1.112)	20 (0.206)	51 (1.144)	60 (2.306)	25 (0.323)	1 (0.008)	2 (0.059)	2 (0.103)		1,781 (10.286)	2,032 (15.658)
器種別累計	10 (0.241)	118 (1.753)	25 (0.282)	66 (1.346)	113 (5.065)	39 (0.633)	2 (0.047)	2 (0.059)	2 (0.103)	3 (0.046)	2,542 (14.099)	2,922 (23.674)

a．SA02出土資料（第59図15～17）

15・16は火炉である。15は丸味を帯びた器形を呈し、口縁は内傾する。口唇直下には少なくとも４条の白色化粧土が施されている。胴部下には圏線が廻り、その直下にも白色化粧土が施されている。16は、口縁がやや外傾した筒状の器形を呈する資料である。口唇は粘土帯の貼付によって広く成形されている。また、この資料にも白色化粧土が施されていたと思われる。

17は、庇部が扁平の蓋である。首里城跡管理用道路地区で出土している資料を参考にすると（新垣 2001）、撮はなく、端部が伸びて蓋物の口縁に収まる器形を呈すると思われる。

b．SK02出土資料（第59図18・19）

18・19は鍋である。19は小型で、比較的胴部の張りが強く、底部からの立ち上がりが緩やかになると思われる。

c．SK03出土資料（第59図20）

20は急須の蓋と思われる資料で、紐状の撮を貼付したものである。庇頂部は扁平で、丸味を帯びて端部に至る。同様の資料は、首里城跡東のアザナ地区でも出土している（比嘉 2004）。

ｄ．SK05出土資料（第60図）

鍋（第60図21～29）

21・22は蓋である。25・27は、やや直線的な胴部を持つもので、胴部の張りは微弱である。28・29は鍋の底部片である。両資料とも、外底面に２次焼成によると思われるススが付着している。

火炉（第60図30～37）

30～32は胴部の張りが微弱な筒状の器形を呈すると思われる資料である。この３点は、口縁が内傾する点で第59図16と異なる。また、30は粘土帯を口縁外面に貼付する点で、31・32と異なる。33・34は丸味を帯びるタイプである。30～33は、白色化粧土が確認できる。31は、５条の白色化粧土直下に波状の白色化粧土が施されている。35・36は、33・34のような器形を口縁に持つと思われる底部片である。

32・35～37は、造りが雑な印象を受ける。特に37は、紐造りで成形していると思われ、他の資料とは様相が異なる。

急須（第60図38～41）

38･39は、注口及び把手の下で胴部が屈曲する資料である。39は短頸タイプ、40は長頸タイプの資料である。41は、脚の破片である。

鉢（第60図42～44）

42･43は、「水鉢」と呼称される資料である。42は、圏線の下に波状文を廻らしている。44は、逆“Ｌ”字状の口縁を呈し、花鉢状の器形になると思われるものである。

焙烙（第60図45）

45は、底部から緩やかに開いて頸部に至り、直口気味に口縁が立ち上がる資料で、口唇を平坦に成形している。この器形から焙烙と思われるが、把手が出土していないため浅鉢の可能性もある。

ｅ．遺構外出土資料（第61図、第62図70・71）

火炉（第61図46～48）

46は、筒状の器形を呈すると思われる資料である。口縁には、雷文や鳥文を挟んで２条１組の圏線が上下に廻り、その下に獅子の把手が貼付されている。獅子の把手が貼付されるアカムヌーは、我謝遺跡でも出土している（大城ほか 1983）。焼成は良好で、丁寧に造られており、瓦質土器の範疇にも入ると思われるが、胎土は粗く瓦とは異なり、混入物がアカムヌーと近似するため、瓦質土器から外した。しかし、一般的に焼成温度が低く、小型･軽量の資料が多いアカムヌーとも性格が異なるため、両者の中間的な性格を有する資料と言える。

47・48は、器形が丸味を帯びる資料である。両資料とも白色化粧土が施されていたと思われる。

鍋（第61図49～53）

49・50は、蓋である。51は、全形が窺える資料である。器形は第59図18・第60図26に近似すると思われる。53は、比較的大型の鍋である。

急須（第61図54～60）

54・55は、蓋である。54は、撮が饅頭形を呈する。56は、第60図38・39のような器形に付随する把手である。57は全形を窺うことのできる資料で、頸部の短い直口の口縁を持つタイプである。底部は軽い上げ底状を呈する。58～60は、蓋受部を持つ資料である。

その他の器種（第61図61～69、第62図70・71）

61は、水鉢である。口縁には圏線と波状文が施されている。62は、碗と思われる資料である。口縁は舌状を呈し、底部はやや厚くなると思われる。胎土は粗く焼成も甘いが、比較的丁寧に成形されている。63は、器種不明の資料である。胴部は張り、口縁は頸部で直口状に立ち上がる。64は、手焙りと思われる資料である。大小２つの孔が確認できる。また、朱が塗られていた可能性がある。

65～71は底部片である。65は、香炉の底部と思われる資料、66～71は器種不明の資料である。65・67・68は、器面が滑らかに成形されているため、粘土が乾き始めてから磨いた可能性が考えられる。66は、朱が塗られていた可能性のあるものである。67は、上げ底状を呈する資料で、器壁が薄く他の資料と様相が異なる。本土産の可能性も考えられる。68は、朱の塗布が確認できる。69は、底面に直径13.9㎝の孔が造られている。70は、深鉢の底部の可能性がある。器面はいわゆるアバタ状を呈する。

集計所見

最も多くの資料が出土した遺構はSK05で、全体の26％を占める。次いで出土量の多いSA02は、全体の４％にとどまることから、SK05の出土量の多さが窺える。

出土点数の多い器種は鍋（身）と火炉だが、重量を比較すると鍋（身）は概ね小片であることがわかる。また、鍋（身）の出土量は急須（身）と殆ど変わらない。火炉は鍋や急須に比べて、個体の重量が重いため、集計結果から直ちにこの地区では火炉が最も多く使用されていたとは言えないが、この３つの器種の需要は他の器種に比べて高かったと思われる。

ⅲ）その他の土器（第62図72～82）

72は、口縁下に外耳を持つ資料である。紐造りによって成形されており、焼成・胎土から土器と考えられるが、釉薬が施されている。口縁はやや内傾し、胴部は張らずに丸味を帯びて底部に至る。外耳は幅1.0㎝、高さ0.5㎝の上面が平坦な断面三角状を呈す。胴部の調整は、ハケを左上がりに施した後、横位に施している。また、外耳直下に木口を当て、下に向かって縦位のハケを施し、接合部を調整している。ハケの幅は約0.8㎝ である。胎土は、石灰質砂粒を多く含む点で八重山の土器と似ている。このような胎土の土器は、沖縄本島では湧田古窯跡でも出土しており（金城　1993)、沖縄産の可能性も考えられる。

73・74は急須である。胎土が洗練されており、薄く丁寧に成形されている。特に74の把手部は、瓦器碗にみられるような棒状工具によるミガキが施されており、身との接合部はヘラ削りによって器面を整えている。このことから、本土産の可能性が高い。

75・76は、鍋と思われる資料である。焼成は不良で浅い黄橙色を呈すが、アカムヌーとは様相が異なり、胎土はグスク土器に近似する。時計回り・反時計回りに砂粒が動いていることから、回転台の使用が想定される。外面調整は、ヘラ削りの後にナデており、非常に丁寧に造られている。焼成は良好である。同様の器形を呈する資料は糸数グスクでも出土しており（金城 1991)、グスク土器の可能性も考えられるが、第59図１・２とは様相が異なる。当調査では、他に口縁部片１点を含む小片３点が得られている。

77・78は底部片である。両資料ともアカムヌーに似ているが、陶器に近い。77は破片上部に白色化粧土が施されている。

79～81は、扁平の蓋である。およそ200点もの資料が得られているが、撮は確認できない。また、胎土の細かい資料も散見できたが、概ね焼成は不良のため瓦質土器から外した。79・80は円形、81は方形になると思われる。80・81には滑り止めが造り出されている。また、胎土は３点とも泥質である。同様の資料は、首里城跡城の下地区・城郭南側下地区などでも出土している（羽方 2004、新垣 2004)。

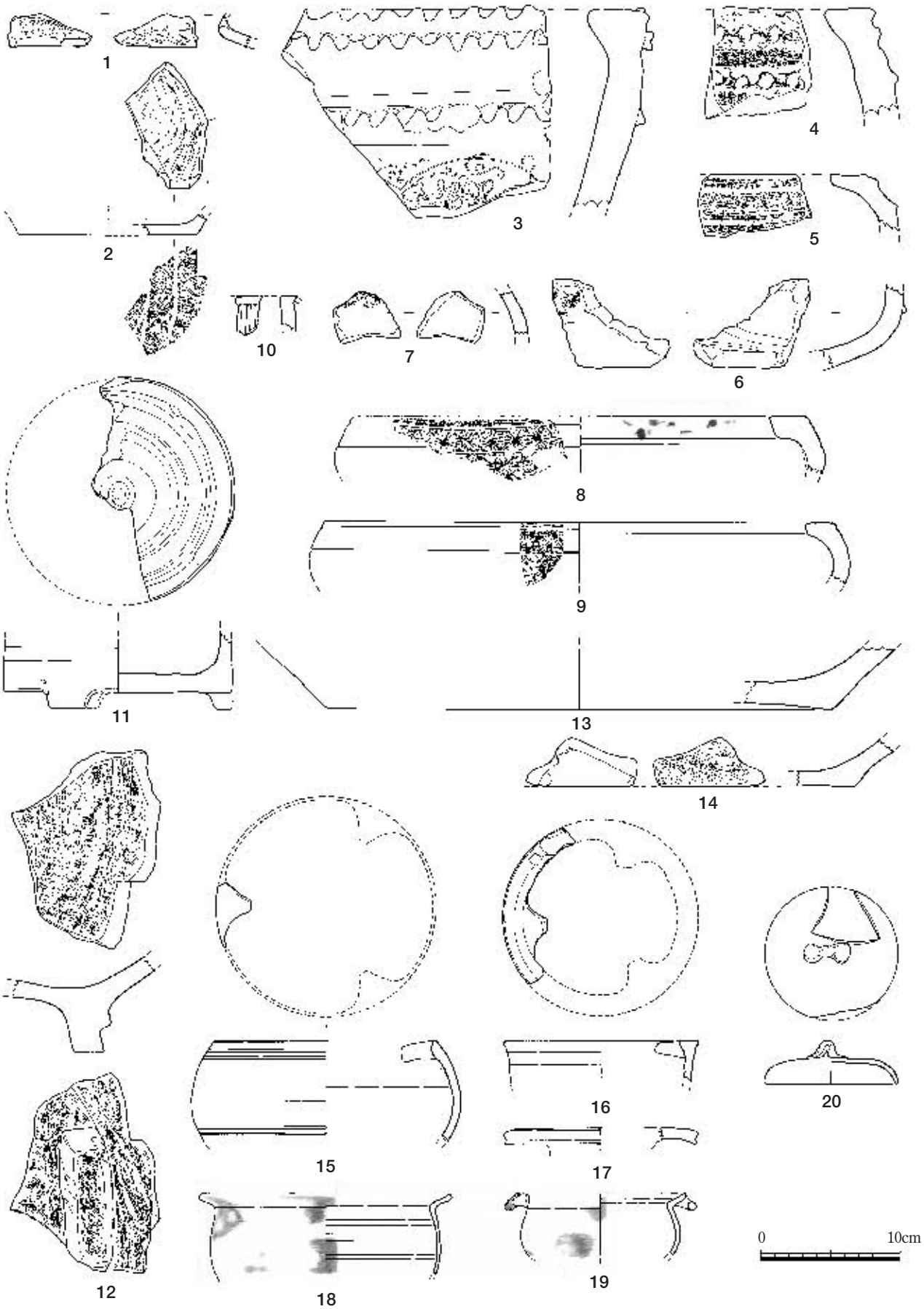
82は器種不明の土器である。仏具の可能性があるが、用途は不明である。瓦質土器に似ているが、胎土に石灰質砂粒を多く含む。

第20表　土器観察一覧（1）

単位：cm

遺物番号		土器名称	器種	色　調	胎　土		備　考	出土地点	
図	番号				密度	混入物		地区	層位／遺構
第59図・図版39	1	グスク土器	壷	内外：橙色	粗	①②③④		A-2	（攪乱）
	2	グスク土器	不明	外：灰黄色 内：橙色	粗	①②③④	底径13.4	（不明）	（攪乱）
	3	瓦質土器	鉢	内外：黄灰色	細	①②③		B-3	（攪乱）
	4	瓦質土器	鉢	内外：黄灰色	やや粗	①②③	外面やや磨耗	A-2	（攪乱）
	5	瓦質土器	火鉢	内外：黄灰色	細	①②		C-3	SK02 グリ石内
	6	瓦質土器	火鉢	外：にぶい黄色 内：黄灰色	細	①②		B-3	暗褐土層
	7	瓦質土器	火鉢	内外：灰黄色	細	①		A-3	（攪乱）
	8	瓦質土器	火鉢	内外：黄灰色	細	①②	口径33.8 口唇スス付着	A-3	SR05（埋土）
	9	瓦質土器	火鉢	内外：灰黄色	細	①②	口径38.1 口唇スス付着	A-2	（攪乱）
	10	瓦質土器	風炉	内外：黄灰色	細	①②		B-3	（攪乱）
	11	瓦質土器	香炉？	内外：橙色	細	①②	底形17.0	A-2	（攪乱） 瓦溜まり
	12	瓦質土器	火炉？	内外：灰色	細	①②	内底面スス付着	（不明）	（攪乱）
	13	瓦質土器	不明	内外：灰色	細	①②	底径37.6	（不明）	（攪乱）
	14	瓦質土器	不明	内外：黄灰色	細	①		A-3	SR05（埋土）
	15	アカムヌー	火炉	内外：橙色	やや粗	①②④	口径16.4 最大胴径20.0	A-3	SA02（埋土）
	16	アカムヌー	火炉	内外：にぶい黄橙	細	①②	口径14.6	A-3	SA02（埋土）
	17	アカムヌー	蓋	内外：橙色	細	①②④	撮径14.4	A-3	SA02
	18	アカムヌー	鍋	内外：にぶい黄橙	細	①②③	口径18.4 最大胴径17.0	C-3	SK02
	19	アカムヌー	鍋	内外：にぶい黄橙	細	①②③	口径12.6 最大胴径11.8	C-3	SK02
	20	アカムヌー	急須 蓋	内外：明黄褐色	細	①②③	端径9.9 器高3.2	A-2	SK03

混入物：①雲母　②白色粒　③黒色粒　④赤色粒　⑤貝片



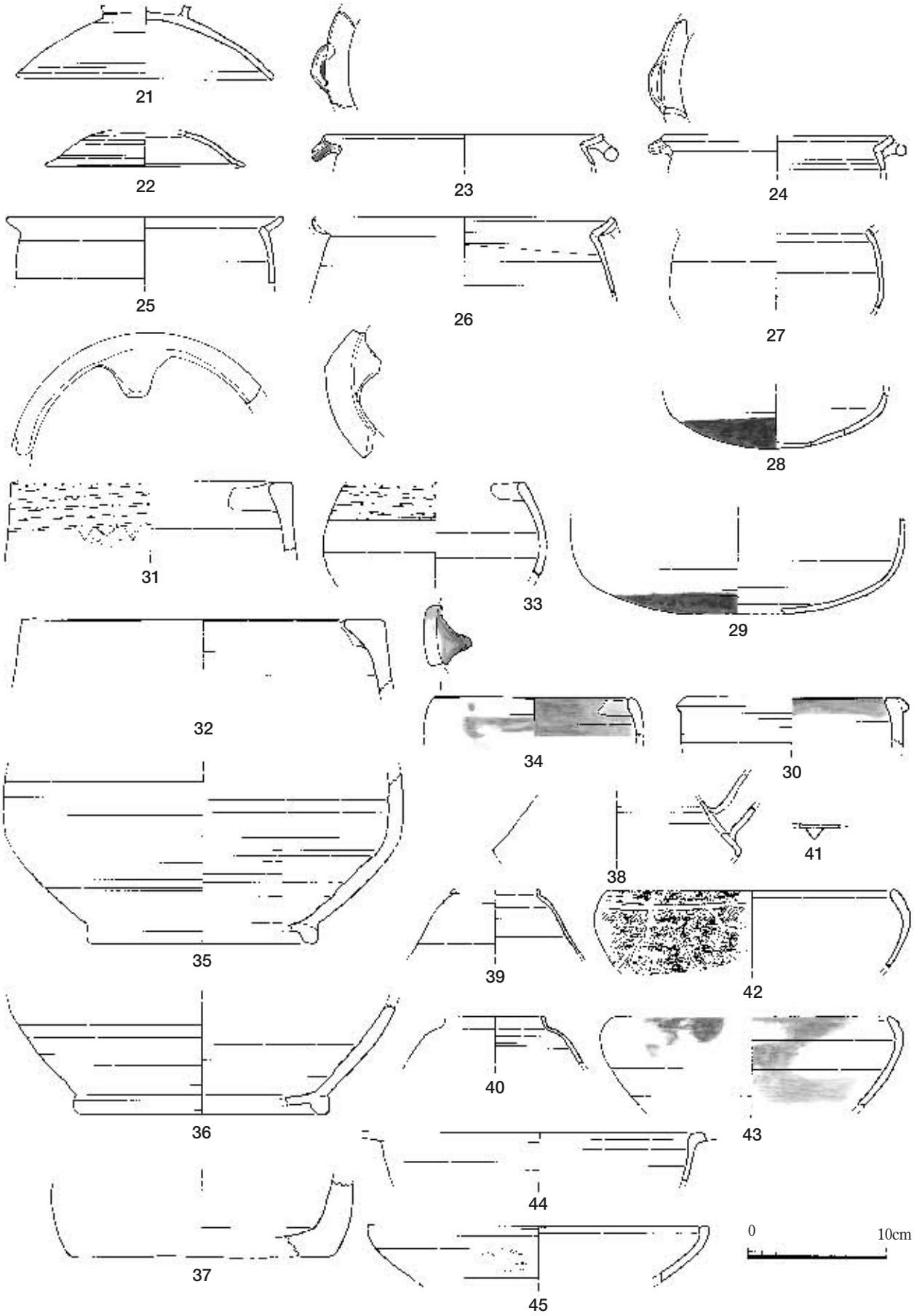
第59図　土器（１）

第20表　土器観察一覧（2）

単位：cm

遺物番号		土器名称	器種	色　調	胎　土		備　考	出土地点	
図	番号				密度	混入物		地区	層位／遺構
第60図・図版40	21	アカムヌー	鍋 蓋	内外：にぶい黄橙	細	①②③④	撮径6.7 端径19.2	A-3	SK05
	22	アカムヌー	鍋 蓋	内外：橙色	細	①②③④	端径13.0 庇径14.8	A-3	SK05
	23	アカムヌー	鍋	内外：橙色	細	①②③	口径20.6	A-3	SK05
	24	アカムヌー	鍋	内外：橙色	細	①②③④	口径16.8 外面スス付着	A-3	SK05
	25	アカムヌー	鍋	内外：橙色	細	①②③	口径20.2	A-3	SK05　（埋土）
	26	アカムヌー	鍋	内外：橙色	細	①②③	口径22.0	A-3	SK05　SA02 （埋土）
	27	アカムヌー	鍋	内外：にぶい黄橙	細	①②	最大胴径16.0	A-3	SK05
	28	アカムヌー	鍋	内外：橙色	細	①②③④	外底面スス付着	A-3	SK05
	29	アカムヌー	鍋	内外：橙色	細	①②③④	外底面スス付着	A-3	SK05
	30	アカムヌー	火炉	内外：橙色	細	①②③④	口径17.0 内面スス付着	A-3	SK05
	31	アカムヌー	火炉	内外：橙色	細	①②	口径21.0	A-3	SK05
	32	アカムヌー	火炉	内外：橙色	やや粗	①②③④	口径27.2	A-3	SK05
	33	アカムヌー	火炉	内外：橙色	細	①②③④	口径13.0 最大胴径16.6	A-3	SK05
	34	アカムヌー	火炉	内外：橙色	細	①②	口径14.6 内外面スス付着	A-3	SK05　（埋土）
	35	アカムヌー	火炉	内外：橙色	粗	①②③④	高台外径16.6	A-3	SK05
	36	アカムヌー	火炉	内外：橙色	粗	①②③④	高台外径18.4	A-3	SK05
	37	アカムヌー	火炉？	内外：橙色	粗	①②③④	底径20.0 内外面スス付着	A-3	SK05
	38	アカムヌー	急須	内外：橙色	細	①②	最大胴径18.5 注口内径1.5	A-3	SK05
	39	アカムヌー	急須	内外：橙色	細	①②③	口径6.6	A-3	SK05
	40	アカムヌー	急須	内外：橙色	細	①②③	口径7.4	A-3	SK05
	41	アカムヌー	急須	外：橙色 内：にぶい黄橙	細	①②	外底面スス付着	A-3	SK05
	42	アカムヌー	水鉢	内外：橙色	細	①②③④	口径21.2 最大胴径23.6	A-3	SK05
	43	アカムヌー	水鉢	内外：橙色	細	①②③	口径20.4 最大胴径22.6 内外面スス付着	A-3	SK05　（埋土）
	44	アカムヌー	鉢	内外：橙色	細	①②③④⑤		A-3	SK05
	45	アカムヌー	焙烙？	内外：橙色	細	①②③	口径25.2 内外面スス付着	A-3	SK05

混入物：①雲母　②白色粒　③黒色粒　④赤色粒　⑤貝片


21
22
23
24
25
26
27
28
31
33
29
32
34
30
41
38
35
39
42
40
43
36
44
37
45
0
10cm

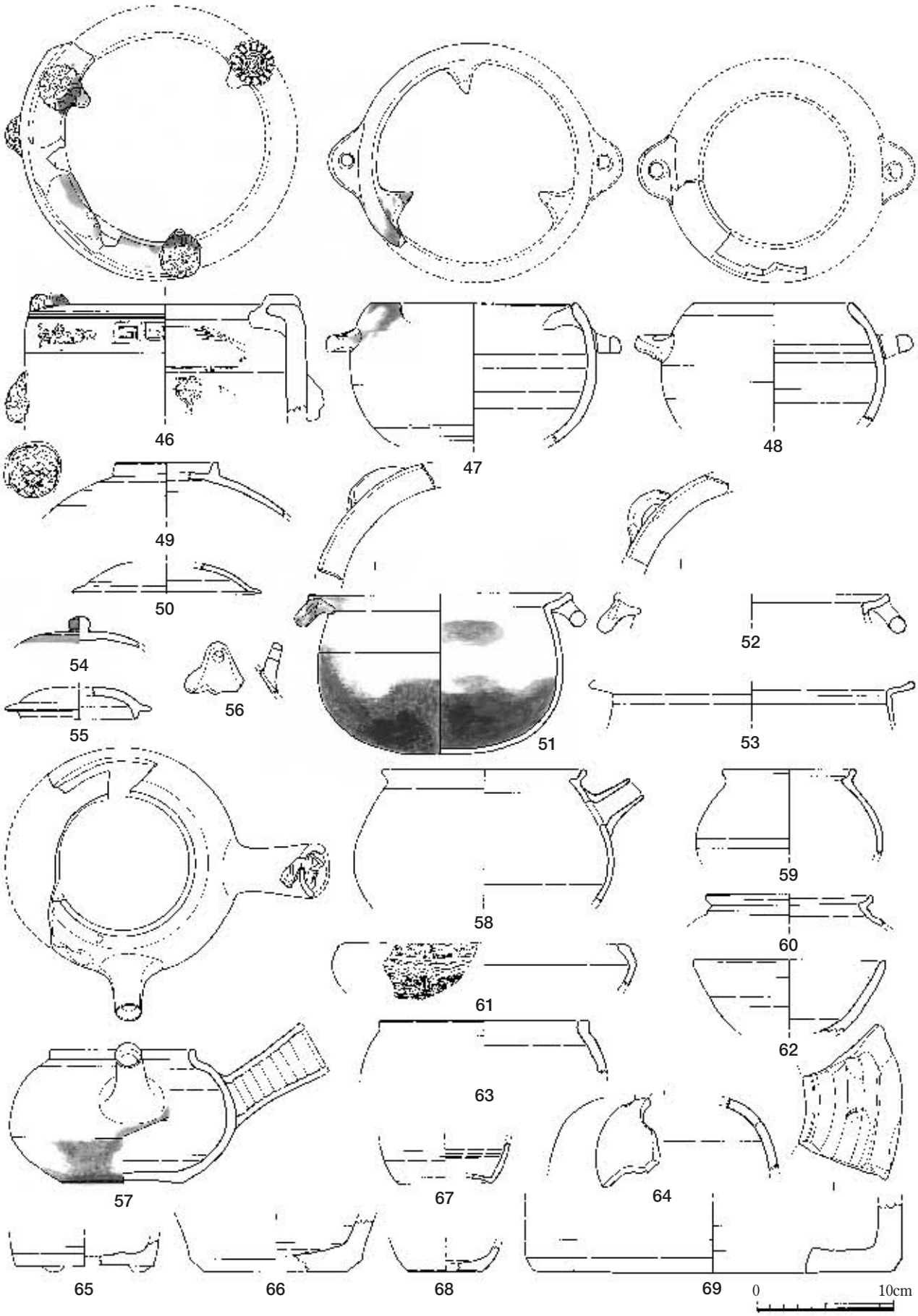
第60図　土器（２）

第20表　土器観察一覧（3）

単位：cm

遺物番号		土器名称	器種	色　調	胎　土		備　考	出土地点	
図	番号				密度	混入物		地区	層位／遺構
第61図・図版41	46	アカムヌー	火炉	内外：橙色	粗	①②③④	口径20.0 内面ス ス付着	B-3	（攪乱）
	47	アカムヌー	火炉	内外：橙色	細	①②③④	口径15.4 最大胴径18.8 口唇ス ス付着	A-3	（攪乱）
	48	アカムヌー	火炉	内外：橙色	細	①②③	口径11.8 最大胴径16.8 外面ス ス付着	A-3	（攪乱）
	49	アカムヌー	鍋 蓋	内外：橙色	細	①②③④	撮径7.6	A-3	（攪乱）
	50	アカムヌー	鍋 蓋	内外：橙色	細	①②③④	端径12.6 庇径14.2	A-3	（攪乱）
	51	アカムヌー	鍋	内外：橙色	細	①②③④	口径19.4 最大胴径18.4 器高12.1 内外面ス ス付着	A-4	（攪乱）
	52	アカムヌー	鍋	内外：橙色	細	①②③	口径20.2 外面ス ス付着	B-3	（攪乱）
	53	アカムヌー	鍋	内外：橙色	細	①②③	口径23.8	C-3	（攪乱）
	54	アカムヌー	急須蓋	内外：橙色	やや粗い	①②③	撮径1.6 外面ス ス付着	A-2	（攪乱）
	55	アカムヌー	急須蓋	内外：橙色	粗	①②③	端径8.4 庇径11.0	A-3	（攪乱）
	56	アカムヌー	急須	内外：橙色	細	①②③		B-3	（攪乱）
	57	アカムヌー	急須	内外：橙色	細	①②③	口径11.0 底径8.8 最大胴径16.9 注口内径1.8 把手外径約3.8 器高10.0 内外面ス ス付着	A-3	（攪乱）
	58	アカムヌー	急須	内外：橙色	細	①②③④	外口径15.0 内口径12.8 注口内径1.4	A-3	（攪乱）
	59	アカムヌー	急須	内外：橙色	細	①②③④	外口径9.6 内口径7.9	A-3	（攪乱）
	60	アカムヌー	急須	内外：橙色	細	①②③④	外口径12.4 内口径10.4	（不明）	（表採）
	61	アカムヌー	水鉢	内外：にぶい橙黄	細	①②③	口径20.0 最大胴径22.8	A-2	（攪乱）
	62	アカムヌー	碗	内外：橙色	粗	①②③④	口径14.4 外面ス ス付着	A-3	（攪乱）
	63	アカムヌー	不明	内外：橙色	粗	①②③④	口径15.8 外面ス ス付着	A-3	（攪乱）
	64	アカムヌー	手焙り？	内外：橙色	細	①②③④		A-4	（攪乱）
	65	アカムヌー	香炉？	内外：橙色	細	①②③	底径10.4	B-4	（攪乱）
	66	アカムヌー	不明	内外：橙色	やや粗い	①②③	底径10.6	（不明）	（攪乱）
	67	アカムヌー	不明	内外：橙色	細	②③	底径7.0	B-4	（攪乱）
	68	アカムヌー	不明	内外：橙色	細	①②③	底径5.4	C-4	（攪乱）
	69	アカムヌー	不明	内外：橙色	やや粗い	①②③④	底径27.0 底面孔径13.9	C-4	（攪乱）

混入物：①雲母　②白色粒　③黒色粒　④赤色粒　⑤貝片


46
47
48
49
50
51
52
53
54
55
56
57
58
59
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
0
10cm

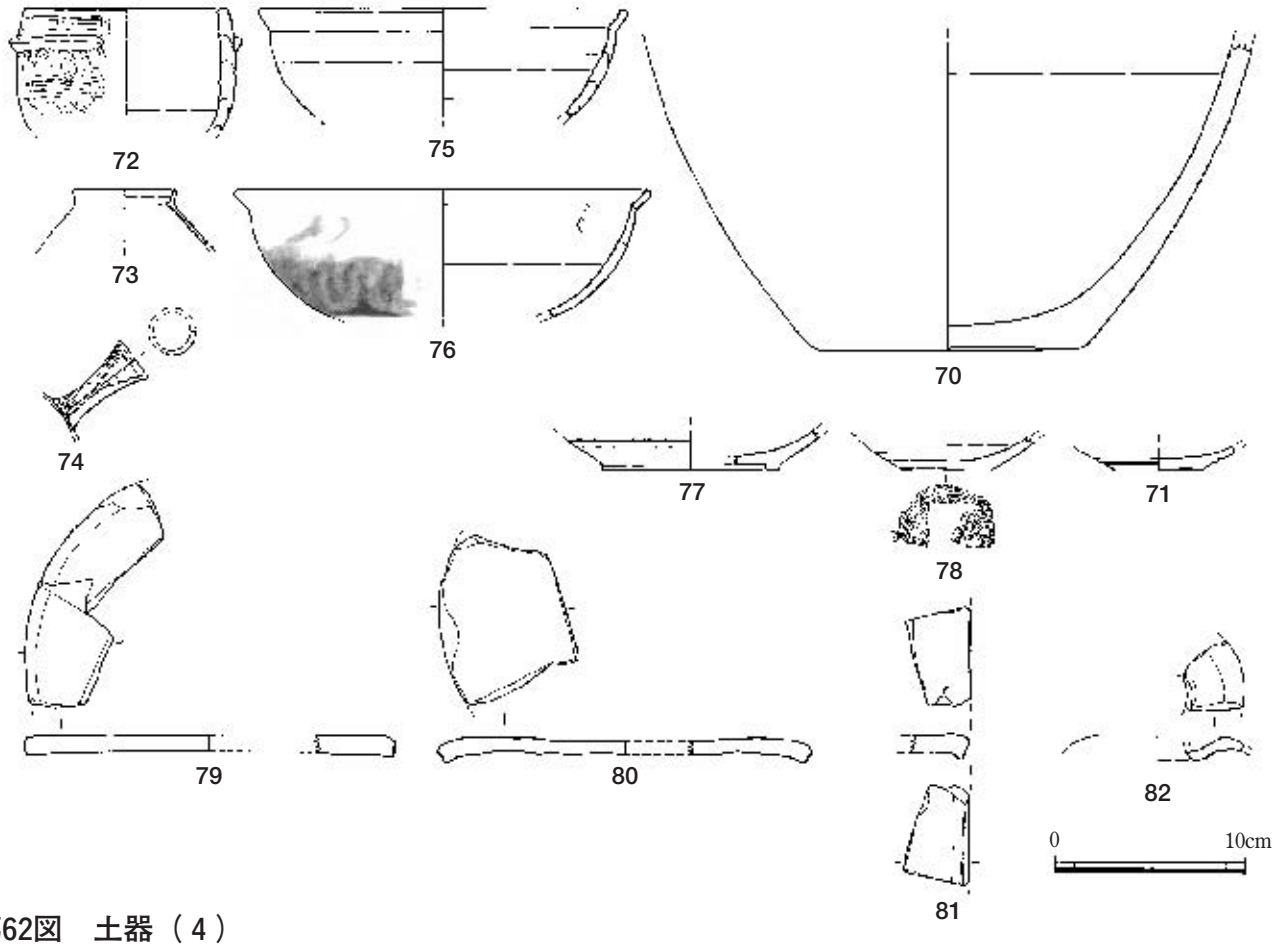
第61図　土器（３）

第20表　土器観察一覧（4）

単位：cm

遺物番号		土器名称	器種	色　調	胎　土		備　考	出土地点	
図	番号				密度	混入物		地区	層位／遺構
第62図・図版42	70	アカムヌー	鉢？	内外：橙色	粗	①②③④	底径14.6	A-3	（攪乱）
	71	アカムヌー	不明	内外：橙色	細	①②③	底径4.6	（不明）	（攪乱）
	72	不明	不明	素地：褐色	粗	②	口径10.8 施釉	A-3	（攪乱）
	73	不明	急須	外：黄橙色 内：浅黄橙	細	③	外口径5.6 内口径4.4	（不明）	（攪乱）
	74	不明	急須	外：橙色 内：黄橙色	細	③	把手外口径 1.2～2.5	A-3	（攪乱）
	75	不明	鍋？	内外：浅黄橙	粗	①②③④	口径19.4	A-4	（攪乱）
	76	不明	鍋？	内外：浅黄橙	粗	①②③④	口径22.0 外面スス付着	A-4	（攪乱）
	77	不明	不明	内外：にぶい橙	細	①②③⑤	高台外径9.6	A-3	SA02　（埋土）
	78	不明	不明	内外：にぶい橙	細	①②③	底径4.8	（不明）	（攪乱）
	79	不明	蓋	内外：橙色	粗	①②③④	端径19.8	A-3	（攪乱）
	80	不明	蓋	内外：橙色	やや粗	①②③④	端径19.3	A-3	SA03　グリ下層
	81	不明	蓋	内外：にぶい橙	細	①②		（不明）	（攪乱）
	82	不明	不明	内外：黄灰色	粗	①②③	孔径3.0	A-3	（攪乱）

混入物：①雲母　②白色粒　③黒色粒　④赤色粒　⑤貝片



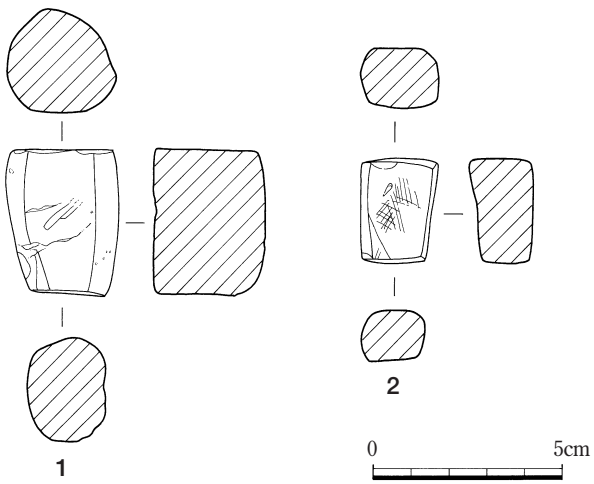
第62図　土器（４）

第12節　土製品

今回出土した土製品は２点のみである。本資料は瓦質土器あるいは瓦の二次加工品と思われる資料で、三角柱または四角柱に近い形態をしており、いずれも両端は平坦に仕上げられている。色調は灰褐色を呈する。また、類似する出土遺物が今帰仁城跡（今帰仁村教育委員会1991）から得られており、雁首の未製品の可能性を示唆している。以下、製品の特徴を述べる。

第63図１は三角柱に近い形をしており、混入物に白色、黒色、赤色の物質が認められる。高さ４cm、幅３cm、厚さ約2.8cm、重量44ｇを量る。A-2撹乱層より出土。

同図２は四角柱の形態をなし、白色、黒色物質が混入する。高さ約2.9cm、幅約2.1cm、厚さ約1.5cm、重量13ｇを量る。SA06暗褐色混砂土層からの出土である。



第63図　土製品

第13節　瓦

今回の調査で出土した遺物の７割強を占めており、全てのグリッドで確認されている。それらの殆どが琉大造成層からの出土で、残念ながら時期を判別することのできる状況で確認することはできなかった。但し、SA05根石近くの面側から翡翠釉皿、塼と共伴している事例やSK08内からまとまって塼と共伴している事例が見られた。これらについては後章で考察していく。

全体的に見るとグスク時代から近代までのものが出土している。最も古い時期では韓半島に系譜を有する所謂、高麗系瓦、日本本土中世における造瓦技術で作成された大和系瓦といった還元焼成の灰色瓦が見られる。これら全形を窺われる資料は無く、全て平瓦の細片資料である。近世以降では近世後半に登場する燻し瓦の大和系瓦、そして中国大陸に系譜を持つ明代の造瓦技術で作成された所謂、明朝系瓦がある。近世以降の大和系瓦は還元焼成の灰色瓦、明朝系瓦には還元焼成の灰色瓦と酸化焼成の赤色瓦の２種類が見られる。瓦の種類としては軒平瓦、平瓦、軒丸瓦、丸瓦、役瓦の５種類が確認された。全ての種類が見られたのは明朝系瓦のみで、大和系、高麗系については平瓦のみ確認されている。琉大造成層から出土している明朝系瓦は沖縄戦焼失前の正殿、南殿、北殿、世誇殿に葺かれていた瓦も多数、存在しているものと考えられる。以下は軒丸瓦については文様部の約半分が残存しているもの、軒平瓦については出土地が明確なもの、平瓦と丸瓦については全体の約８割以上が残存しているものについて報告する。

軒丸瓦

第64図１　浅黄色の明朝系瓦。文様は花文で牡丹をモチーフにしている。花弁、花芯の各部が明確であるが、葉と茎は簡略化されている。花弁は上側に広がっているため赤花（ハイビスカス）を想起させる花文である。また外周縁の成形は雑で、幅も一定しない。上原静氏の編年では第Ⅸ文様に比定でき、18世紀に相当する（上原1994）。裏面中央は凹凸が見られ、端部近くは方向が一定していない横ナデが見られる。側面は面取りの意識は見られるものの、かなり雑に仕上げており、面取りの幅は一定していない。SK02より出土。

第64図２　橙色の明朝系瓦。文様は花文で牡丹と思われる。花の向きは一見、真上に見えるが、花芯部の形状から横側の要素も加味した折衷タイプに見える。珠文は大きく、相互の間隔も広い。上原静氏の編年では第Ⅲ文様に比定でき、18世紀以降に相当する（上原1994）。裏面は横位の成形痕が見られるがかなり雑に仕上げている。瓦当部と丸瓦部との角度は90°にはならず、若干、上方に開く。また瓦当部と丸瓦部との接続部では外縁に添って横ナデが見られる。A-2④より出土。

軒平瓦

第64図３　大和系瓦。灰色で軒平瓦の左隅破片で唐草の巻き鬚が見られる。唐草の茎は細く、端部では二股に分かれる。縁に添って圏線が見られ、外周縁は大きく前方に張り出している。大川分類の宇瓦崎山Ⅰ類と類似する（大川1978）。裏面の成形は丁寧に仕上げており、全体的にナデ成形が見られる。混和材に白色微砂粒と灰色の大粒砂粒が確認できる。側面は斜めに面取りがなされ、上端は下端とは逆の面取りがなされている。また器面上には白砂が多量に付着しているのが確認できる。取り上げNo650。

平瓦

第64図４　大和系瓦。灰色で全体的に薄造り、側面、狭端面、広端面は直に面取りがなされる。器面上には白砂が多量に付着しており、筒部端面取りの部分に白砂は付着しない。凹凸面共に糸切り痕が見られる。前長25.5㎝、

狭端長17.5㎝。胎土中央はサンドイッチ状となり黒灰色を呈する。混和材に黒、褐色粗砂が確認できる。取り上げNo646。

第64図５　高麗系瓦。オリーブ黒色を呈し、広端面は面取りが見られるが凹凸が著しく、かなり雑に仕上げている。凸面には魚骨様の叩きが端部を除いてほぼ全面に見ることができ、凹面は桶巻き痕と布目痕が確認できる。筒部端面取り部分は丁寧に成形が成されている。胎土中央はサンドイッチ状となり黒灰色を呈する。取り上げNo390。

丸瓦

第64図６　褐色の明朝系瓦。凸面は縦位に、工具による成形痕が見られ、玉縁近くは横位の成形が施され、やや上方に反る。玉縁には縦位の筋が１本見ることができる。凹面はほぼ全面に布目痕が確認でき、筒部端面取り部分は横位の成形が見られる。広幅面は面取りの意識は見られるものの凹凸がかなり見られる。また側面も割取ったままの状態を確認できることから側面はかなり雑に仕上げていることが解る。混和材は褐色細砂粒が僅かに見られ、気泡も多く確認できる。SK08より出土。

第64図７　黄橙色の明朝系瓦。凸面は縦位に工具による成形痕が見られ、玉縁近くは横位の丁寧な成形が施される。凹面はほぼ全面に布目痕と布の皺痕が確認でき、中央辺りは糸切り痕が僅かに見られる。筒部端面取り部分は横位の成形が見られる。側面は割取ったままの状態を確認でき、玉縁の側面は丁寧に面取りが成される。玉縁近くは漆喰が大量に付着し、端部、幅広面にも漆喰が付着している。混和材は褐色粗粒子が多く見られる。A-2④瓦溜まりより出土。

第64図８　浅黄色の明朝系瓦。凸面は縦位に、工具による成形痕が見られ、玉縁近くは漆喰が大量に付着している。端部にも漆喰が付着していることから瓦相互の接続部に漆喰が埋められていたことが解る。玉縁は横位の成形が見られる。凹面は全体的に布目痕と布の皺の痕跡が確認できる。また玉縁近くには布を横位で縫った糸目痕が見られる。ほぼ中央辺りに直径1.8㎝ の孔が凸面から凹面に向けて開けられている。おそらく、釘等で固定するための孔であると思われる。混和材は灰、褐色粗粒子が多く見られる。SK02緑色土層より出土。

第21表　瓦出土状況

種類＼出土地		SK02	SK03	SK08	A-2④瓦溜まり	階段北壇溜まり	取り上げ番号	合計
軒平	灰色			2			1	3
軒丸	褐色	3			1			4
	灰色				1			1
丸瓦	灰色	12	6	10	15		2	45
	褐色	32		11	1		7	51
平瓦	灰色	30	10	8	9		98	155
	褐色	17		9	6	1	62	95
合計		94	16	40	33	1	170	354

第14節　塼

塼は総数99点出土した。遺構に伴って出土している例はSK08の床面直上に暗オリーブ褐色粘質土層が堆積しており、その上面には礫が大量に混じる黄灰色の粗砂層が確認されている。この黄灰色粗砂層に塼が瓦と共に大量に出土した。また、SA05根石近くの面側栗石層下部から塼がまとまって出土している。全て細片で完形品は見られなかったが翡翠釉皿と共に出土している点で注目される。階段遺構の北側からも塼がまとまって出土している。ここからは完形品に近いものが確認されており、戦前まで残存していた世誇殿または、大正期まで残存していた女官居室に関係する資料であると想定される。以下は出土した資料の中で、残りの良い資料４点を図示した（第64図９～12）。

９は平面形が正四角形を呈するものと思われ、上面に二つの三角形の先端を向かい合わせた様な文様が彫られている。片方の三角形の中に「コ」の字の様な文様が彫られている。正確にはＬ字形の文様の下先端に「◁」の文様を繋げたものである。上面は丁寧に調整されており、側面は水平に削りの調整が見られ、側面は上面に対し垂直ではなく、下面に向かって内側に傾斜するように造られている。施工の際にはめ込みを容易にするためのものであると考えられる（上原2004）。色調は灰色。厚さ約4.5㎝。出土地区は階段北塼溜り。

10は平面形が正四角形を呈するものと思われ、側面と下面に水平に削りの調整が見られる。上面にも僅かではあるが同様の調整が見られる。９の資料と同様に、下面に向かって内側に傾斜するように造られている。直径約１～４㎜の混入物が多量に入る。色調は灰色。厚さ約4.7㎝。出土地区はSK02埋土褐色土層。

11は平面形が正四角形を呈するもので、上面は丁寧に調整されており、側面と下面は雑ではあるが、水平に削りの調整が見られる。９の資料と同様に、下面に向かって内側に傾斜するように造られている。色調は明黄褐色。一辺の長さは約23.5㎝。厚さ約4.2㎝。出土地区は階段北塼溜り。

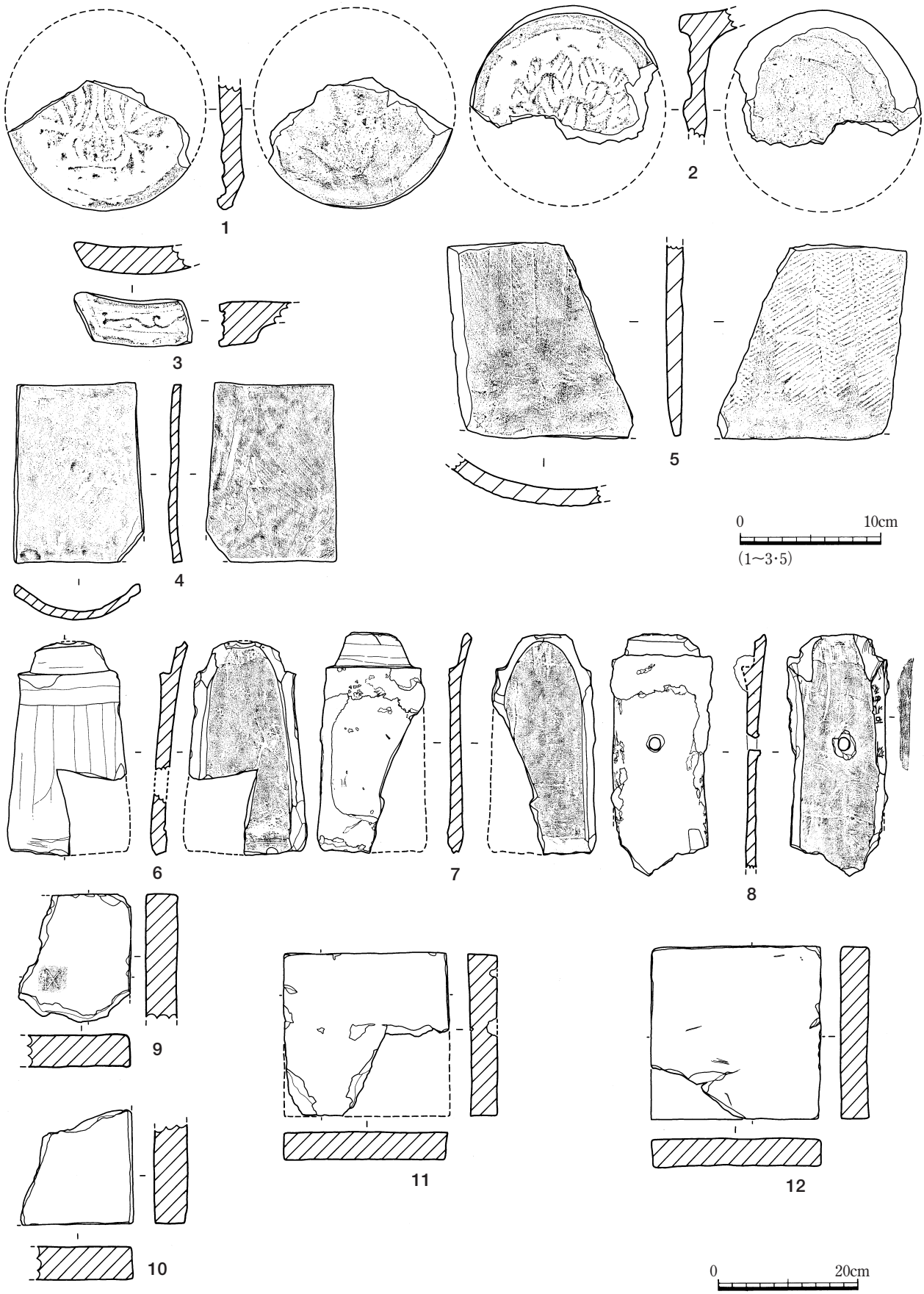
12は平面形がやや正四角形を呈するもので、上面は丁寧に調整されており、側面は水平に削りの調整が、下面は雑ではあるがナデ調整されている。この資料も同図９の資料と同様に下面に向かって内側に傾斜するように造られている。色調は灰黄色。一辺の長さは約25㎝。厚さ約3.8㎝。出土地区は階段北塼溜り。

引用文献

上原　静「第15節　塼」『首里城跡－東のアザナ地区発掘調査報告書－』沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書第20集
沖縄県立埋蔵文化財センター　2004

第22表　塼出土状況

出土地／色	SK02	SK08	A-2 ④ 瓦溜まり	階段北塼溜まり	合　計
褐　色	1	2	3	46	52
灰　色	6	6		35	47
合　計	7	8	3	81	99



第64図　瓦・塼

第15節　金属製品

金属は多く出土しているが、不明な資料が多い。製品としては主に、釘、小札、八双金物、鍔、切羽、把手、包丁、飾り金具、指輪、簪、火箸などがあり、28点を第65・66図に図化した。八双金物は透かしになっており、類似資料が同じ首里城跡南殿・北殿（沖縄県教育委員会1998）からも出土している。簪は予想外に少なく、図化資料以外には１点の出土であった。出土した製品の中で群を抜いて多いのは鉄釘であった。鉄製品は錆による腐食が進んでおり、ひびや剥離が進行している資料が大半を占めていた。鉄製品は総量約32.75kg、銅製品は約6.2kgの出土があった。

また、１点のみ坩堝と思われる資料も得られたので、この節で掲載する。

第23表　金属製品観察一覧（1）

挿図番号 図版番号		器種･部位	材質	残存長（縦）	残存幅（横）	残存厚	残存重量	観　察　所　見	出 土 地
第65図・図版44	1	釘	鉄	15.2	1.1	1.2	85	角釘。下部で折れ曲がる。頭部は方形。	B-4戦前遺物包含層
	2			6.7	0.8	0.6	10.3	角釘。断面は長方形、頭部は方形。	SA03 栗石下層
	3		銅	4.4	0.55	0.6	14.0	身の断面は四角だが、角が取られている感がある。	B-3攪乱層
	4			2.6	3.0	3.0	1.0	身は四角柱で、頭はつぶれ、元の形がよくわからない。下半部でゆがむ。	SK05内
	5	釘状製品		4.5	3.8	3.8	3.1	頭部は欠損。	SK05内
	6			8.9	1.05	0.9	48.5	断面は四角。上部に溝が入る。	攪乱層
	7	板状製品		7.2	1.4	0.5	29.7	上部・下部共に欠けるが、保存状態は良い。用途不明。	攪乱層
	8	鏃	鉄	8.1	1.4	0.5	15.1	錆ぶくれが著しく、原型輪郭がはっきりしない。	A-3 ④攪乱層
	9	小札		3.5	2.2	0.3	5.7	上部が欠損する。	攪乱層
	10			6.6	4.1	0.7	24.2	ほぼ完形。二枚が重なった状態で錆により癒着する。孔が錆で塞がれ、位置がはっきりとは確認できない。	A-3トレンチ② 攪乱層
	11	八双	銅	2.0	4.7	0.1	5.8	鍍金が施される。唐草文が描かれ、透かし彫りになる。	B-3攪乱層
	12	切羽		2.1	2.6	0.2	4.7	破片であるため、全形が窺えない。錆が入り砂などが付着する。	SA05埋土

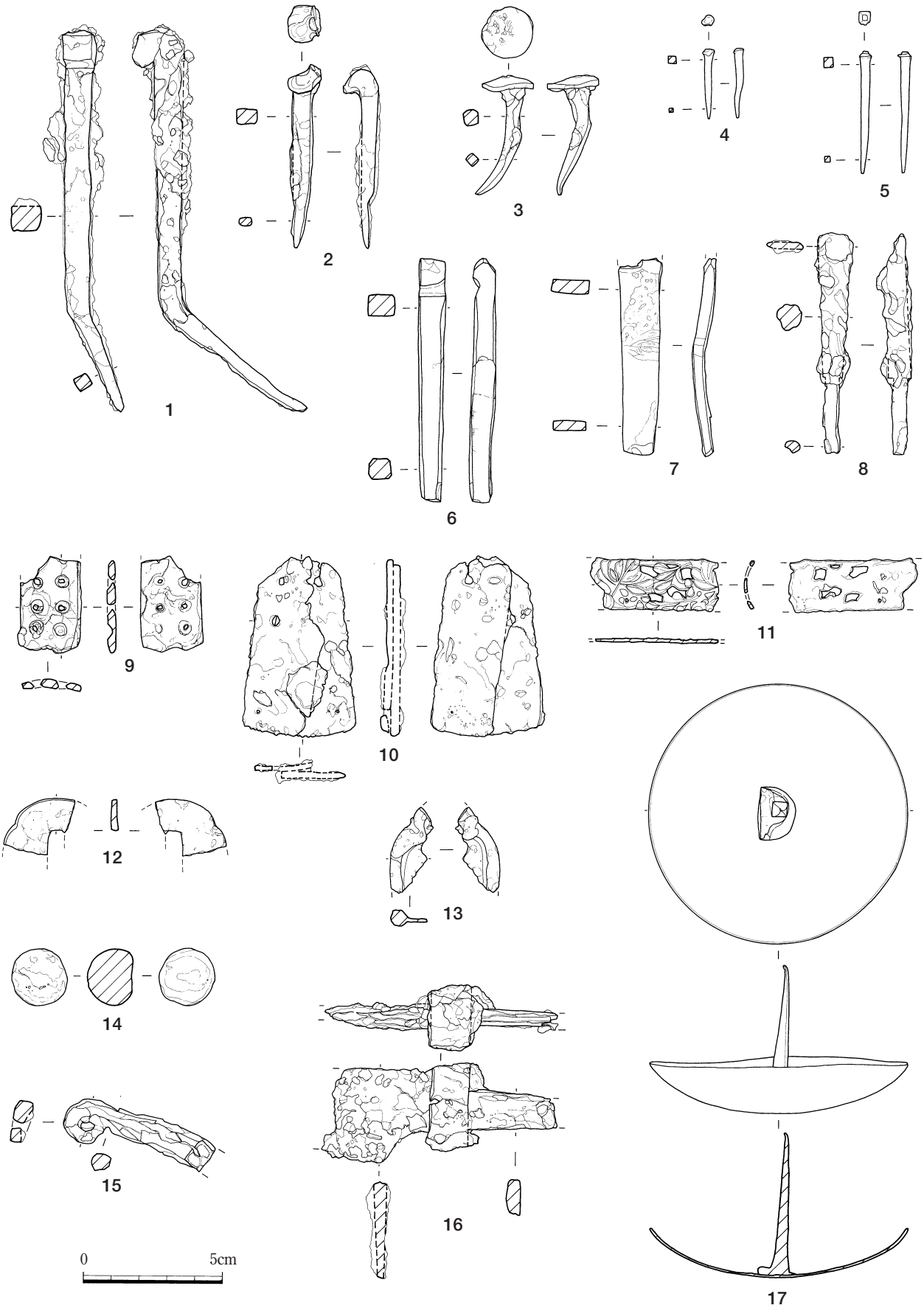
注　「－」：測定不可

第23表　金属製品観察一覧（2）

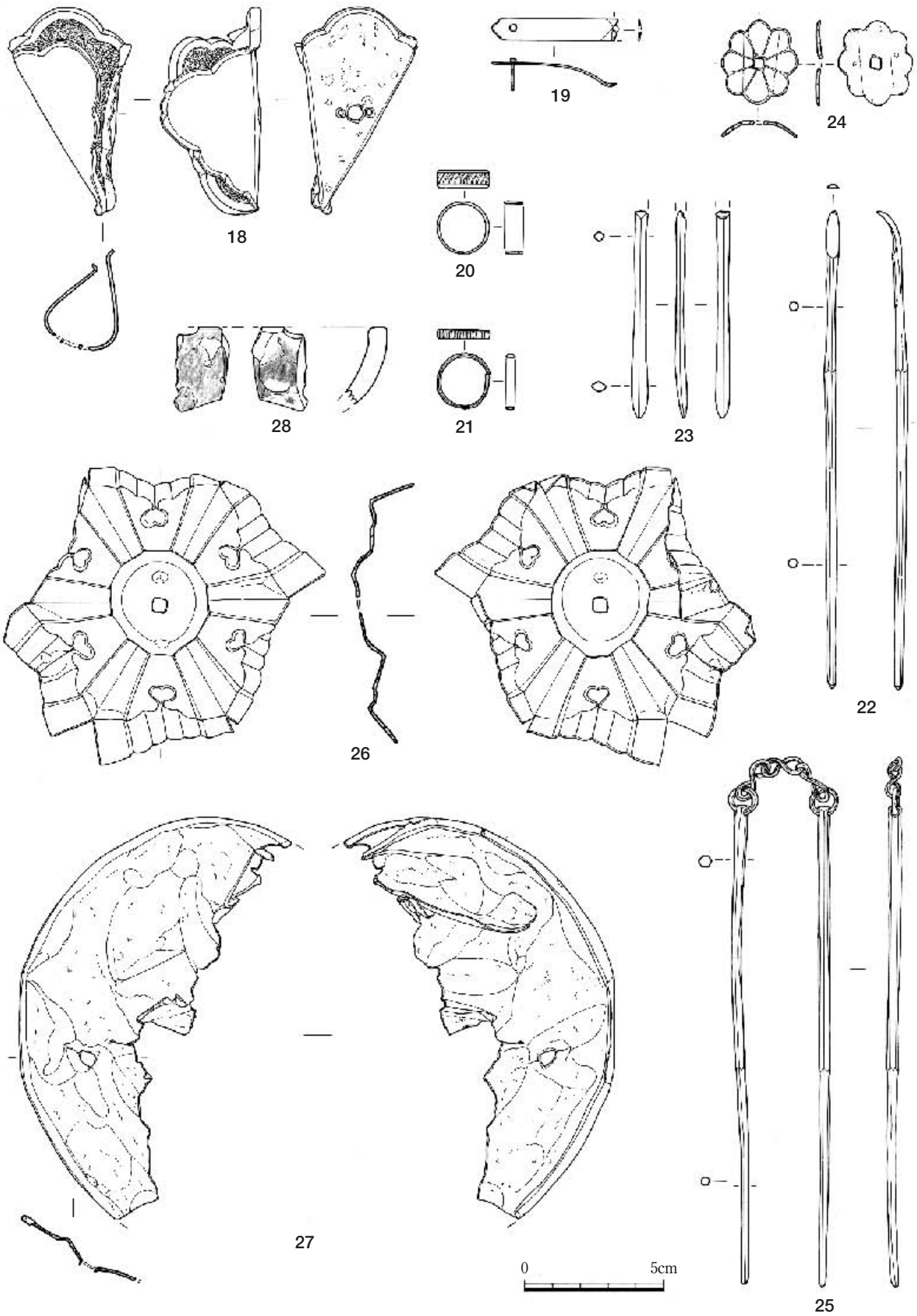
単位：cm/g

挿図番号 図版番号		器種·部位	材質	残存長 （縦）	残存幅 （横）	残存厚	残存 重量	観　察　所　見	出 土 地
第65図・図版44	13	鍔	銅	3.1	1.3	0.1	8.0	破片であるため、全形が窺えない。縁は丸く厚みを持つ。錆が入り砂などが付着する。	B-4攪乱層
	14	弾	銅	2.1	2.1	1.7	33.8	着弾によるものか、一部平面を持つ。	B-4② 黒褐色土層
	15	取手	鉄	5.6	－	0.7	11.9	約1/3のみ残存。錆による腐食が著しく、縦方向にいくつものひび割れが走る。状態は悪い。	A-3トレンチ② 攪乱層
	16	包丁		8.6	3.5	0.5	35.7	錆による腐食が著しくひびが走る。状態は非常に悪い。	B-3③攪乱層
	17	灯明具？	銅？	9.5	9.5	0.08	63.1	用途は不明だが、灯明具とも考えられる。状態は良く、中心に四角柱が取り付けられる。	戦前遺物包含層
第66図・図版45	18	飾り金具	銅	7.7	4.5	0.1	49.9	鍍金が施される。表面には魚々子が入るが、半分は錆に覆われ、見えない。中央に6㎜と2㎜の孔が一列に並ぶ。	A-3④攪乱層
	19			4.6	8.2	0.08	1.8	表面には鍍金が施され文様は見られない。裏面には僅かに錆が入る。	攪乱層
	20	指輪		直径1.9	0.7	0.08	2.0	横に二本の沈線が入り、その間にS字が伸びたような文様が刻まれる。鍍金が施されているが、錆で覆われる。	西側トレンチ⑤ 攪乱層
	21			直径1.9 ×2.05	0.3	0.15	1.5	縦方向に細かく溝が刻まれる。多少圧迫され楕円形になる。表面は鍍金が施されているが、錆で覆われる。	D-4トレンチ① 攪乱層
	22	簪		17.6	直径 0.3	－	9.9	耳掻き状。竿断面はカブ側が円柱、先端側は六角柱になる。先端は摩滅しているが六角錐。	SD01溝内
	23	簪？		7.6	0.5	0.4	5.7	上部が欠け、よくわからないが、簪かと思われる。竿は菱形の断面を持ち、先端側は鉾の形状に似る。	世誇殿 黄褐色微砂層
	24			3.1	2.8	0.1	4.6	簪の一部とも思われるが、八画に区切られるため、飾り金具とも考えられる。	SK05内
	25	火箸		17.6	上部直径 4.8 下部直径 2.5	－	27	上部は六角柱、下部では円柱になる。先端は丸い。二本が鎖で繋がれ、セットになる。錆が多少入るが、状態は良い。	SK05内
	26	不明	アルミ？	9.0	9.5	0.1	52.5	梁などに取り付けられる校章とも考えられるが、はっきりしない。	攪乱層
	27			直径 （16.0）	－	0.08	42.4	蓋とも考えられる。全体的にゆがみ、原形を留めない。孔は意図的なものかどうかは不明。	SR01埋土
	28	坩堝		3.1	2.0	0.7	3.1	坩堝の破片と思われる。焼けているためか、軽い。	攪乱層

注　「－」：測定不可　「（　）」：推定



第65図　金属製品（１）



第66図　金属製品（２）

第16節　銭貨

今回の調査で得られた銭貨は判読不明の資料を含めた有文銭と無文銭があり、総数が254点であった。判読可能な有文銭は中国銭と日本銭があり、後者は17世紀以降の寛永通寶のみであるが、前者は開元通寶を最古の銭種とし、明代の永樂通寶まで約20種が出土している。この中国銭を王朝ごとに見ると、唐朝銭２種、北宋銭15種、明朝銭２種となる。

無文銭に関しては、雁首銭や孔のサイズが明らかに異なる資料などが確認され、また中には加工をした銭貨も認められた。

なお、銭貨の判読はＸ線透過撮影により行った。

第24表　銭貨観察一覧（1）

単位：㎜/ｇ

挿図番号 図版番号		銭 文	書 体	初鋳年	外径	内径	孔径（縦）	孔径（横）	銭 厚	残存重量	出土地	備考
第67図・図版46	1	開元○寶	楷書体	621年	24.07	19.75	6.18	—	1.42	2.79	A-4トレンチ①攪乱	背の輪が不鮮明。開元通寶。
	2	○元重○	楷書体	758年	—	—	—	—	1.47	1.85	攪乱	乾元重寶。
	3	淳化元寶	草書体	990年	25.58	17.46	5.40	5.52	1.45	3.71	C-3表採	面が濶縁で、背の輪は不明瞭。
	4	至道元寶	楷書体	995年	25.08	18.70	5.47	5.73	1.29	3.57	A-3トレンチ②攪乱	面が濶縁で、背の輪は不明瞭。
	5	咸平○○	楷書体	998年	—	—	—	—	1.17	1.72	A-4トレンチ⑦攪乱	濶縁。咸平元寶。
	6	祥符元寶	楷書体	1008年	26.16	19.23	5.59	5.46	1.53	3.65	№806	銭文は摩滅する。錆は少ない。
	7	景祐○寶	楷書体	1034年	—	—	6.15	6.35	1.13	2.41	A-3トレンチ②攪乱	背が濶縁。景祐元寶。
	8	皇宋通寶	楷書体	1037年	25.03	19.08	6.64	6.97	1.27	3.96	B-②黒褐色土層	背の輪幅が不統一。
	9	○和元寶	篆書体	1054年	—	—	6.40	7.27	1.38	2.28	黄褐色微砂層	至和通寶。
	10	嘉祐元寶	篆書体	1056年	24.99	19.93	7.02	7.15	1.18	2.70	B-3④攪乱	背の輪が不明瞭。
	11	治平元寶	篆書体	1064年	25.28	19.81	6.51	6.30	1.53	3.12	B-3④攪乱	孔の「寶」側を１ヵ所だけ抉る。
	12	熙寧元寶	篆書体	1068年	24.96	19.93	7.25	6.84	1.27	3.13	攪乱	背の輪が不鮮明。
	13	熙寧元寶	篆書体	1068年	24.75	19.27	5.58	5.48	1.48	3.78	攪乱	背の輪が不明瞭。孔に抉りを入れる。
	14	元豊通寶	行書体	1078年	24.66	18.78	6.51	6.44	1.33	3.89	B-3④攪乱	背の輪が不鮮明。
	15	元豊通寶	篆書体	1078年	24.28	18.63	5.38	5.29	1.32	3.93	A-3トレンチ②攪乱	背の輪幅が不統一。

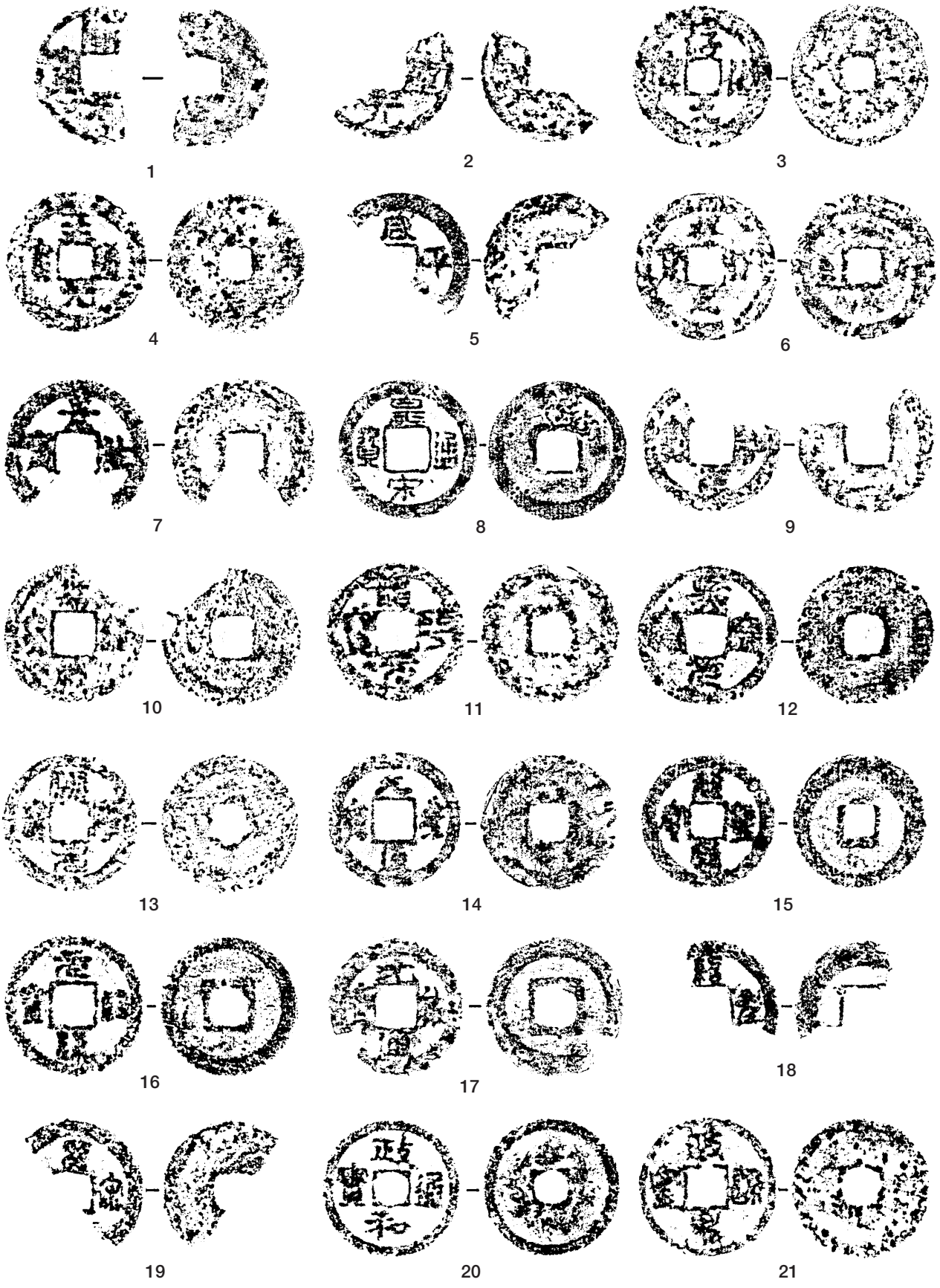
注　○：欠損

第24表　銭貨観察一覧（2）

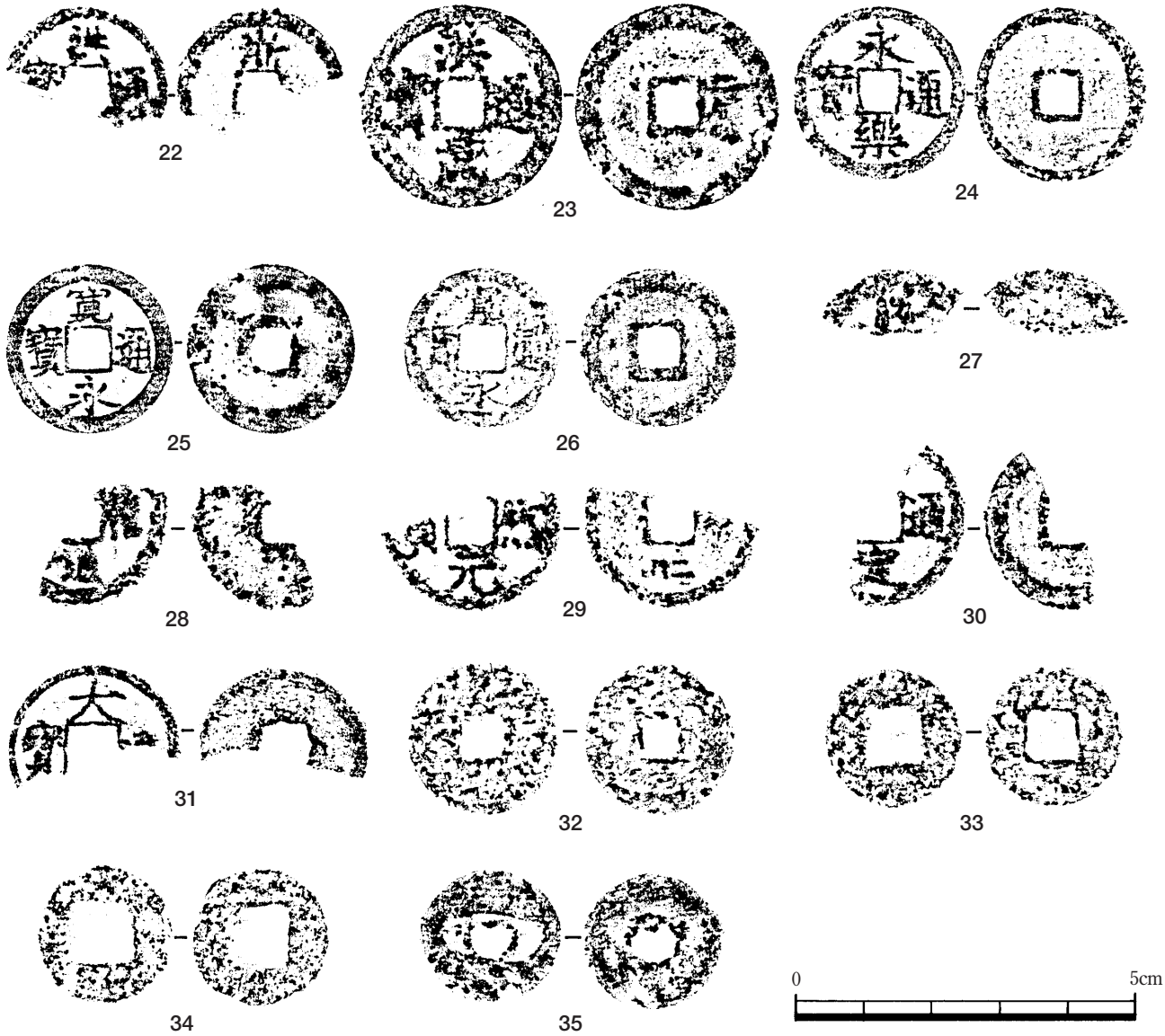
単位：mm/g

挿図番号 図版番号		銭 文	書 体	初鋳年	外径	内径	孔径 （縦）	孔径 （横）	銭 厚	残存 重量	出土地	備考
第67図・図版46	16	元祐通寶	篆書体	1086年	25.26	20.50	6.37	6.35	1.76	4.34	C-3栗石	背の輪幅が不統一。
	17	元祐通寶	行書体	1086年	24.70	18.08	7.04	6.86	1.18	3.12	SS01埋土	背が濶縁。
	18	紹聖○○	篆書体	1094年	—	—	—	—	1.18	1.45	SK07埋土 淡褐色土	背が濶縁。紹聖元寶。
	19	聖宋○○	篆書体	1101年	—	—	—	—	1.17	1.92	B-3④攪乱	背の輪が不明瞭。聖宋元寶。
	20	政和通寶	分楷書	1111年	24.62	20.26	5.65	5.75	1.60	3.54	B-3④攪乱	孔が円形になる。
	21	政和通寶	篆書体	1111年	24.97	21.52	5.94	5.98	1.52	3.77	C-4①攪乱	孔に抉りを入れる。
第68図・図版47	22	洪○通寶	楷書体	1368年	—	—	5.91	5.56	1.49	1.55	攪乱	背上に「浙」の文字。洪武通寶。
	23	洪武通寶	楷書体	1368年	30.34	23.18	5.64	5.62	1.65	7.41	西トレンチ 攪乱	大銭。背右に「二銭」の文字。
	24	永樂通寶	楷書体	1408年	25.54	20.89	5.35	5.11	1.51	3.60	B-3④攪乱	銭文が明瞭。錆の付着が少ない。
	25	寛永通寶	楷書体	1636年	24.94	19.46	5.73	5.77	1.19	3.86	B-3②攪乱	Ⅰ期寛永。背が濶縁。
	26	寛永通寶	楷書体	1697年	23.63	18.76	6.02	6.14	1.37	3.33	SK05内	Ⅲ期寛永。背が濶縁。
	27	紹○○○	篆書体	—	—	—	—	—	1.37	1.15	B-3④攪乱	面の輪が濶縁。紹聖元寶か紹興元寶か？
	28	○禧通○	楷書体	—	—	—	4.93	—	1.47	1.65	B-3① 栗石上層	背の輪が不明瞭。天禧通寶か開禧通寶か？
	29	○熙元寶	楷書体	—	—	—	6.08	5.81	2.17	2.28	B-3④攪乱	背下に「二」の文字。淳熙元寶か紹熙元寶か？
	30	○定通○	楷書体	—	—	—	—	—	1.58	1.94	B-3④攪乱	背が濶縁。
	31	大○○寶	楷書体	—	—	—	—	6.61	1.31	1.81	B-3④攪乱	孔に抉りを入れる。
	32	無文銭	—	—	22.63	—	5.19	5.49	1.18	2.54	A-4攪乱	不明瞭な輪が見られる。銭文が摩滅したか、踏み返しで不明瞭になったか?
	33	無文銭	—	—	20.88	—	6.94	6.99	1.12	1.77	攪乱	孔に工具痕あり。
	34	無文銭	—	—	18.77	—	7.78	8.73	0.96	1.32	A-4攪乱	肉薄で、一部に亀裂が確認できる。
	35	雁首銭	—	—	19.59	—	4.10	5.91	1.39	2.08	攪乱	火皿の内底面から穿孔される。

注　○：欠損



第67図　銭貨（１）



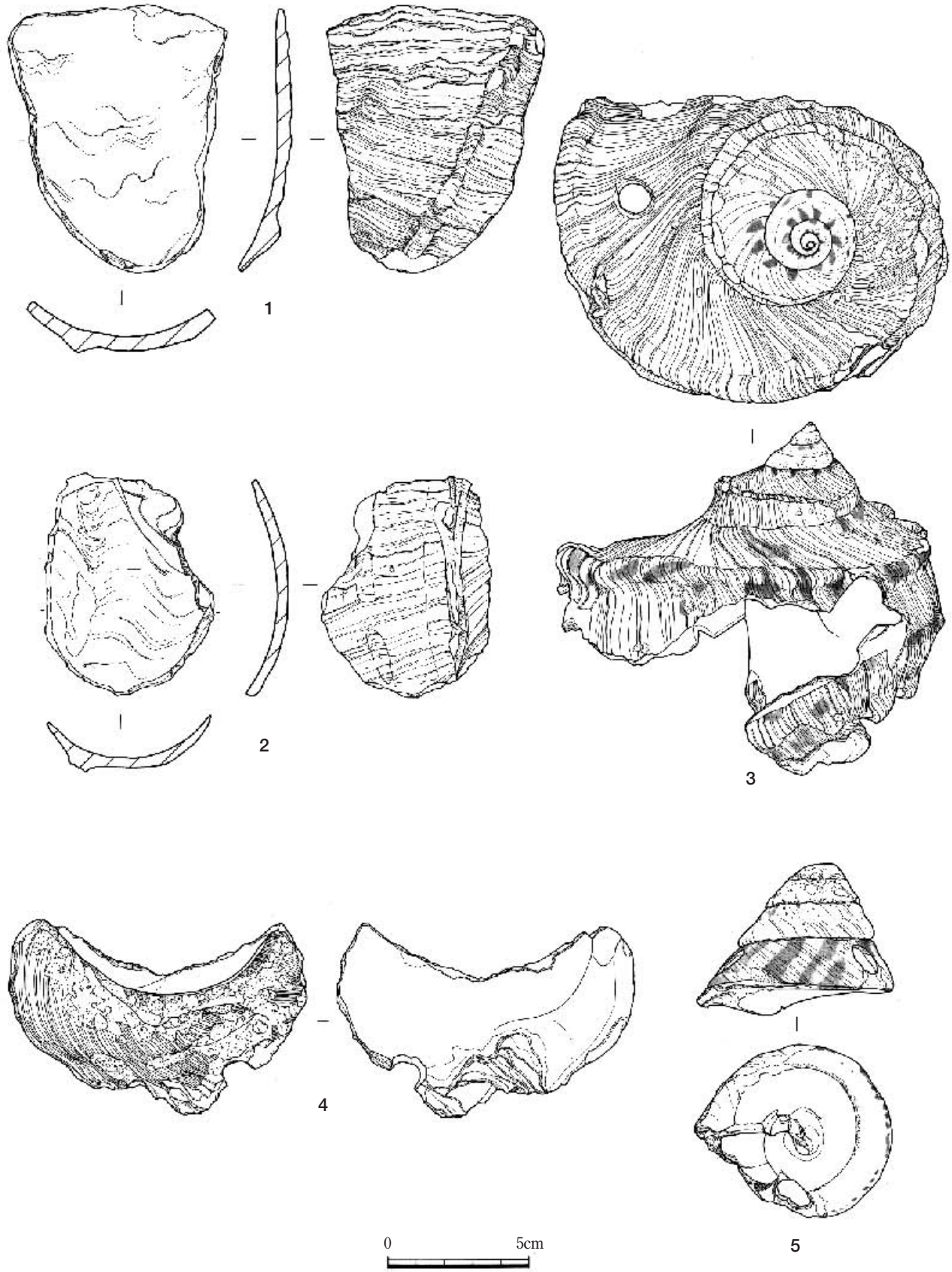
第68図　銭貨（２）

第17節　貝製品

今回の調査では15点の資料が得られ、９割以上がヤコウガイで、そのほとんどが加工若しくは製品加工の残欠資料である。第69図１、２はヤコウガイ製杓子状製品の未製品である。沖縄の中・近世では一般的には魚の尾鰭状を呈しており、器表は研磨が施されているとしている（盛本 2004）。１は長さ9.5㎝、幅7.8㎝、重さ69ｇ。SD01造成土から出土。２は長さ7.8㎝、幅６㎝、重さ37ｇ。B-4撹乱から出土。

３は製品の材料として体層を剥離したと思われる痕跡と上面に孔が見られるので図化した。特にヤコウガイの体層部は柄杓などに加工され儀式の際に用いられたとされる（木下 1981）。長さ14㎝、幅11㎝、重さ420ｇ、撹乱から出土。

４もヤコウガイの臍孔部に半円形の孔が見られ、５はニシキウズの体層に３ヶ所の孔を穿っているが何れとも用途は不明である。４は長さ5.3㎝、幅10.7㎝、重さ163ｇ。撹乱から出土。５は長さ5.5㎝、幅は7.1㎝、重さ95ｇ。B-4撹乱から出土。



第69図　貝製品

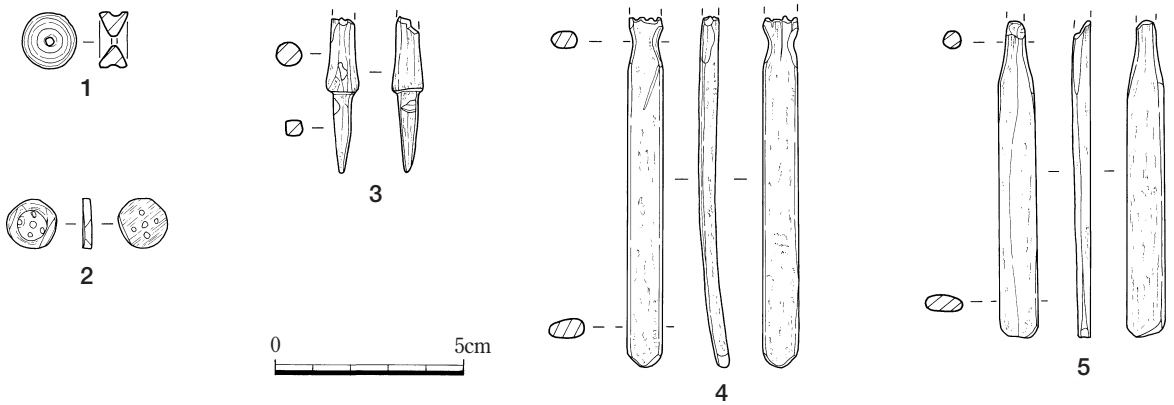
第18節　骨製品

今回の調査では12点の資料が得られ、その内５点を図化した。第70図４、５はハブラシの柄で４は色が白くやや曲がり気味である事からジュゴンの肋骨を加工したものと思われる。上部に３列の植毛孔が見られ、裏側には穴の位置に線刻が見られる。断面は楕円形で長さ9.4cm、幅１cm、重さ5.6ｇ。B-3③撹乱から出土。５はブラシ部分が欠損しており、くびれ部分と柄が残る。断面は三角形に近い形状を呈している。長さ8.6cm、幅１ cm、重さ4.2ｇ。B-3③撹乱から出土。

１はエイの椎体の中心に穴を穿ったもので、用途については断言できないが何らかの装飾に使用されたと思われる。長さ1.5cm、幅1.45cm、重さ0.9ｇ。A-4④から出土。２は洋服のボタンで糸通しの為の孔が５個穿っている。長さ1.3cm、幅1.4cm、重さ0.5g。B-3③撹乱から出土。

３は骨鏃で茎の部分と矢に装着する為の尖端部が見られる。茎、尖端部ともに削り取られた後、研磨が施されており、断面は茎が円形なのに対し尖端部は方形を成す。東のアザナ地区では鏃身の尖端部と茎が出土しており類例資料として挙げられる。長さ4.2cm、幅0.9cm、重さ1.7ｇ。SR09埋土から出土。

その他図化しなかった資料の中にはヘラ状や針状に加工された骨やジュゴンの骨の未製品も見られる。



第70図　骨製品

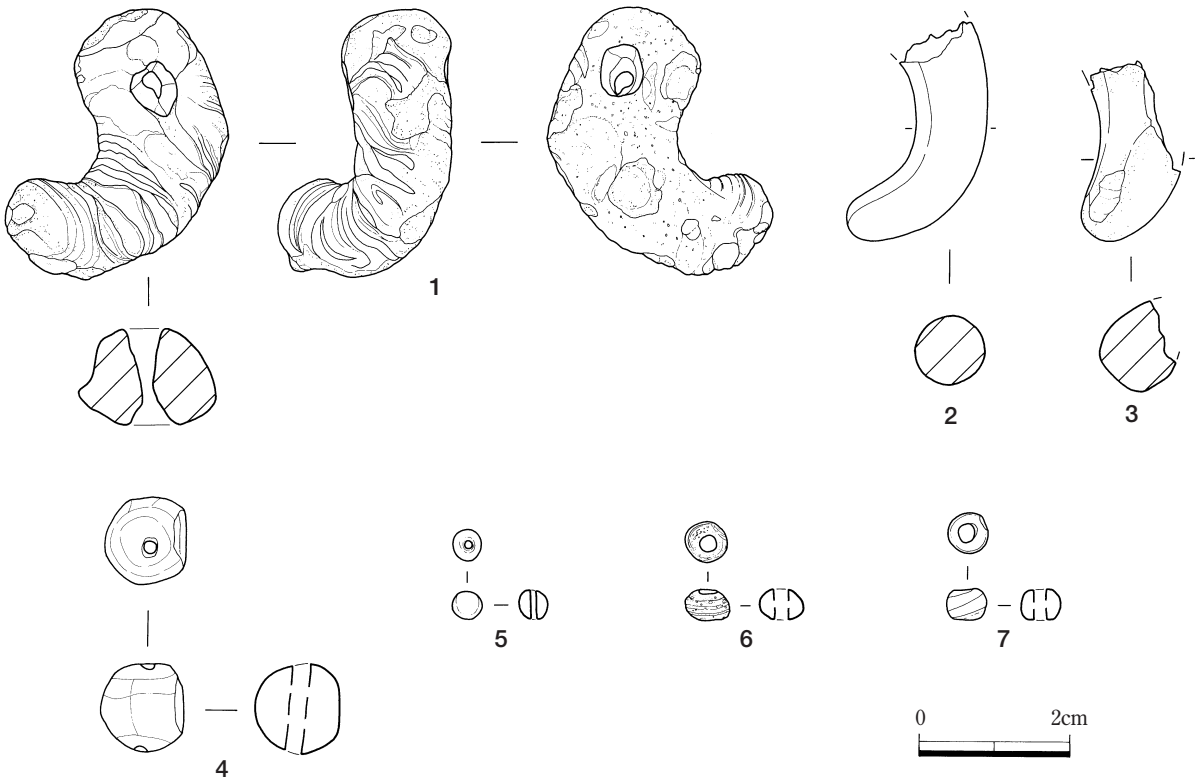
第19節　玉製品

当遺跡において、玉製品は勾玉３点、丸玉１点、小玉28点の総数32点が出土、内７点を図化した。材質別にみると、勾玉は石製が２点、土製品１点、丸玉・小玉はすべてガラス製である。小玉は21点が最大径５㎜未満、７点が最大径５㎜以上で、最大径５㎜未満のものがほとんどであった。色調は赤１点、緑１点、水色26点と水色が圧倒的に多い。個々についての詳細は第25表に記した。

第25表　玉製品観察一覧

単位：mm/g

挿図番号 図版番号		種類	材質	色調	高さ （最大長）	最大径 （最大幅）	孔形	重量	観察所見	出土地
第71図・図版49	1	勾玉	石製	灰白色	36	－	4	13.6538	完形品。造りはいびつで、頸部に筋状の加工痕が顕著に残っている。	A-2トレンチ④～⑥撹乱
	2		石製	緑色	29	17	－	6.5102	尾部のみの欠損品。濃い緑に黒の斑点が斑に入っている。丁寧に研磨されており、なめらかな表面である。	A-3トレンチ②撹乱
	3		土製	赤褐色	25	－	－	2.9838	尾部のみの欠損品。	No.549
	4	丸玉	ガラス製	水色	12	11.1	2	2.8152	完形品。形はややいびつで表面に螺旋状の筋が見られる。	C-3トレンチ1
	5	小玉		赤色	4	4	1	0.0888	完形品。表面はなめらかで光沢がある。	A-2撹乱
	6			水色	4.1	6	2	0.173	完形品。表面にアバタと螺旋状の筋が明瞭にみられる。	A-3④　SA03西側　コーラル～橙色土間層
	7				4.1	5.8	2	0.1825	完形品。表面にアバタと螺旋状の筋が明瞭にみられる。	A-3④　SA03西側　コーラル～橙色土間層



第71図　玉製品

第26表　玉製品出土状況

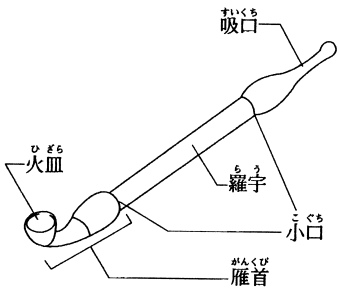
出土地 / 分類	SR	SA	A-		B-	C-		№264	№549	№857	撹乱	表採	合計
	09	03	2	3	4	3	4						
勾　玉			1	1					1				3
丸　玉						1							1
小　玉	1	2	1	12	3	1	2	1		1	3	1	28
合　計	1	2	2	13	3	2	2	1	1	1	3	1	32

第27表　玉製品計測表（実測外の小玉）

遺物番号	法　量（㎜／g）				残存状態	色　調	出　土　地
	高　さ	最大径	孔　径	重　量			
1	2	2.5	1	0.0167	完	水色	表採
2	3.9	4.6	1.8	0.1144	完	水色	B-4②黒褐色土層
3	2.2	2.9	0.02	0.0263	完	水色	B-4②黒褐色土層
4	3.1	1.9	1.9	0.0131	破	水色	B-4②黒褐色土層
5	6.7	7	1.7	0.3024	破	水色	西側トレンチ⑦カク
6	2.9	5.5	1.4	0.1638	完	緑色	SR09埋土
7	1.8	3.1	1.1	0.0315	完	水色	№857
8	2.3	2.8	0.6	0.0377	完	水色	C-4②カク
9	2.1	3.1	1.3	0.0307	完	水色	C-3①カク
10	5	6	1.6	0.3013	完	水色	C-4①グリ石埋土
11	2	2.54	1.1	0.0188	完	水色	№264
12	2.3	3.8	1.9	0.0475	完	水色	西側トレンチ⑤カク
13	4.6	6.2	2	0.2649	完	水色	A-3④カク
14	4	4.9	2.2	0.167	完	水色	A-3④カク
15	4.4	4.3	1.8	0.105	完	水色	A-3④カク
16	3.5	4.5	2	0.0927	破	水色	A-3④カク
17	4	4.8	2	0.1267	完	水色	A-3④カク
18	3.8	4.7	2.2	0.1043	完	水色	A-3④カク
19	4.1	4.4	2.4	0.0817	破	水色	A-3④カク
20	3.2	4.5	2	0.0903	破	水色	A-3④カク
21	1.4	4.3	2.6	0.0251	破	水色	A-3④カク
22	2	3.1	0.9	0.0085	破	水色	A-3④カク
23	3.7	5	1.8	0.1274	破	水色	A-3④カク
24	3.4	4.3	2.2	0.0627	完	水色	A-3④カク
25	2.1	2.5	0.8	0.0281	完	水色	南東部トレカク

第20節　煙管

煙管は46点出土している。内訳は羅宇煙管45点、延煙管１点で、そのうち12点を第72図に図化した。資料のほとんどが陶器で、金属製はここに取り上げた３点のみであった。施釉陶器の出土数は雁首(12点)と吸口（13点）の割合がほとんど同じであった。無釉陶器（18点）は雁首のみの出土で、面取りされているものより、細かく器面調整している資料が多くみられた。また、面取りされている資料には自然釉が掛かる傾向がみられる。金属製の羅宇煙管(２点)には胴に羅宇(竹？)が残存する。各々の観察所見は第28表に記す。なお、土製の雁首未製品と思われる資料が得られているが、今回は土製品として扱った。



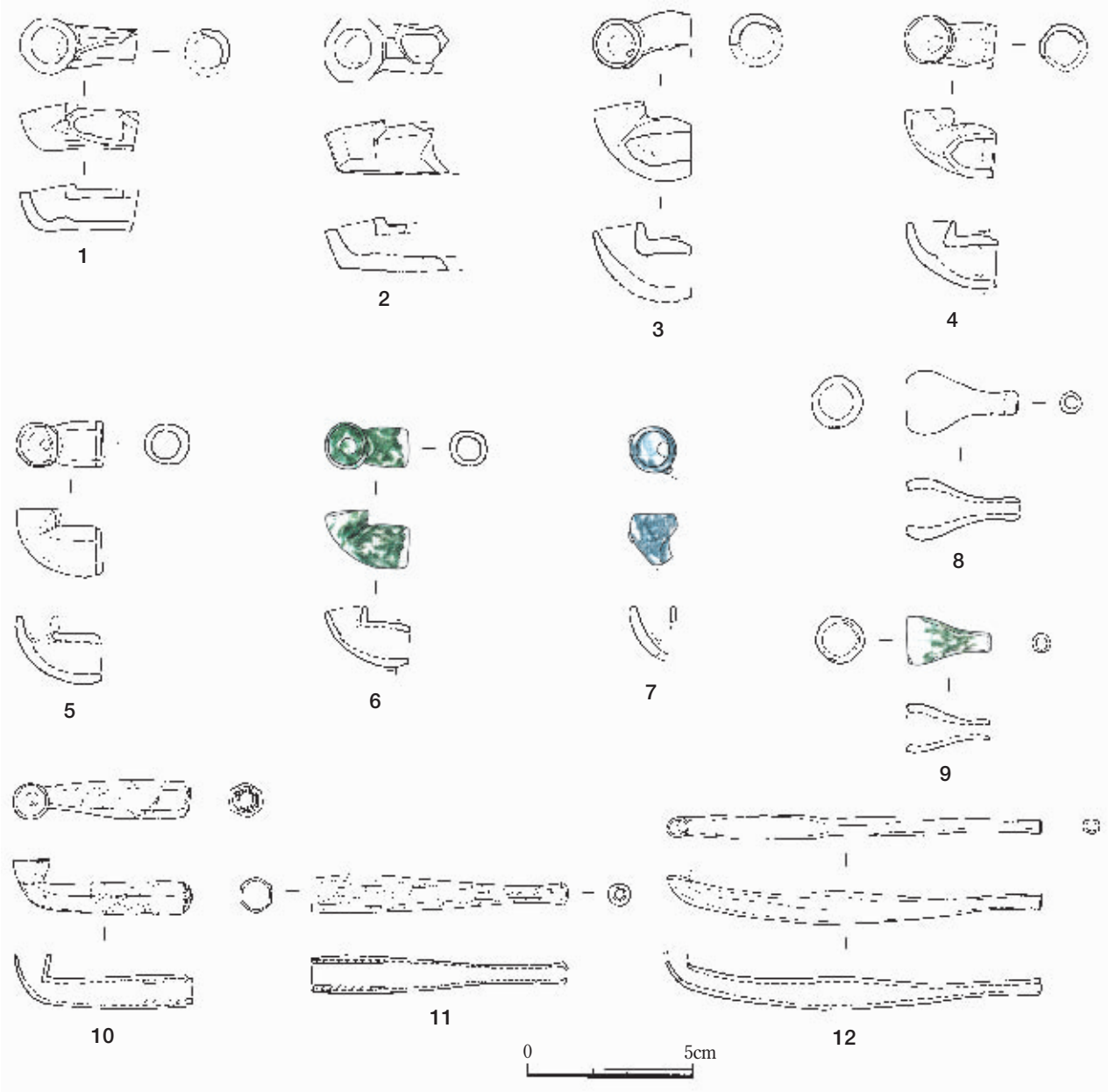
＜キセルの名称＞
『キセル』たばこと塩の博物館 1988年

第28表　煙管観察一覧

単位：cm

挿図番号 図版番号		分類 形態	分類 材質	部位	火皿 外径	火皿 内径	小口 外径	小口 内径	吸口 外径	吸口 内径	高さ	長さ	観察所見	出土地
第72図・図版50	1	羅宇煙管	無釉陶器	雁首／破	1.80	1.12	1.36	0.88	－	－	1.34	3.61	全体的に細かく面取り調整される。赤褐色を呈す。	SK05内
	2				1.91	1.23	－	－	－	－	1.63	－	八角形に面取りされる。全面に自然釉が掛かる。特に火皿半分と小口付近下部は黒褐色を呈す。火皿内面に調製痕が見られる。	東側トレンチ②攪乱層
	3		施釉陶器	雁首／破	1.53	1.23	1.61	1.04	－	－	2.55	3.02	火皿内面から小口付近まで灰釉がかかる。釣り鐘状に膨らんだ形状になる。	SA01埋土
	4				1.36	1.09	1.48	1.06	－	－	2.17	2.79	内外面共に、小口付近まで灰釉がかかる。全体的に雑な作り。	SK05内
	5				1.35	1.49	1.37	0.92	－	－	2.18	2.58	火皿内面から小口付近まで釉が掛かる。中国産か？	SK05内
	6			雁首／完	1.41	1.08	1.13	0.74	－	－	1.92	2.61	火皿内面から小口付近まで緑釉を施すが剥落が激しい。全体的に雑な作り。	表採
	7			雁首／破	1.40	0.97	－	－	－	－	－	－	火皿内外面共に瑠璃釉を施すが、ところどころ剥げる。胎土は橙色を呈す。	A-3トレンチ②攪乱層
	8			吸口／完	－	－	1.58	1.07	0.65	0.35	1.97	2.49	全面に透明釉が掛かる。	SA02埋土
	9				－	－	1.47	1.05	0.59	0.35	1.48	2.6	外面に緑釉を施すが、剥落が著しい。全体的に雑な作り。	SK05内
	10		金属	雁首／完	1.12	0.84	0.95	0.77	－	－	1.80	5.27	火皿付け根から小口にかけて八角形を呈す。胴に羅宇（竹？）が残る。全面に錆が見られる。11と対になるのか？真鍮製か。	B-3③撹乱層
	11			吸口／完	－	－	1.00	0.97	0.71	0.26	1.14	7.78	全体的に八角形に面取りされるが、吸口は丸みを帯びる。胴に羅宇（竹？）が残る。全面に錆が見られる。10と対になるのか？真鍮製か。	西側トレンチ④撹乱
	12	延煙管		破	－	－	－	－	長径0.52 短径0.5	長径0.31 短径0.28	－	11.5	火皿は欠損する。火皿手前の胴上部に見られるへこみは火種を捨てる際の敲打痕と思われる。吸口は楕円形になる。全面に錆が見られる。銅製。	B-3表採

注　「－」：測定不可



第72図　煙管

第29表　煙管出土状況

分類 ＼ 出土地		SA		SD	SK		世誇殿	A－			B－	C－	表採	撹乱	合計
		01	02	01	05	08	黄褐色微砂層	2	3	4	3	4			
無釉陶器	雁首				1	1	1	1	4	3	1	1	1	4	18
施釉陶器	吸口		2	1	4						3		1	2	13
	雁首	1			2		1		2	1			1	4	12
金属製品	吸口										1				1
	雁首													1	1
	延煙管										1				1
合　計		1	2	1	7	1	2	1	6	4	6	1	3	11	46

第21節　石製品

本調査において出土した製品は、石球３点、円盤状石製品１点、札状砥石２点、石筆２点、硯11点、用途不明製品１点である。なお、漆喰製凸状製品１点についても本節で報告する。

石球

石球は大型１点、小型が２点得られている。第73図１は大型石球で、全体的に叩き痕が目立つものの、２ヵ所に凹みも見られる。長軸は12.5㎝で、短軸が11.1㎝となっており、重量は1920ｇである。SA06暗褐色混砂土層から得られている。

同図２は小型の石球である。一部に面が確認できるものの、全体的に滑らかに研かれている。長軸1.7㎝、短軸1.7㎝で、重量は6.2ｇとなっている。出土地はB-4戦前遺物包含層である。

同図３も小型石球である。形態はほぼ球状をなしているが、いびつであり、全体的に傷も目立つ。長軸は1.9㎝、短軸は2.3㎝で、重量は9.7ｇを測る。A-2撹乱層の出土である。

円盤状石製品

第73図４は全体に研磨を施し、半球状に仕上げている。計測値は長径、短径ともに約1.3㎝、厚さは約0.7㎝で、重量は1.5ｇである。なお、本資料は円盤状製品の範疇であると考えられるが、材質を考慮して本節に含めた。

漆喰製凸状製品

第73図６は漆喰製品で、形態は逆「凸」字状をしている。上面は平坦に整形されており、下面についてもほぼ平らに仕上げている。また上面の径は約13㎝、下面の径は約6.8㎝、高さ約7.2㎝で、重量は860ｇとなっている。なお、本資料は何らかの蓋としての機能を有していたと思われる。出土地点はSK08内である。

札状砥石

砥石は２点出土しており、第73図７・８に図示した。７はほぼ完形の砥石である。全面が丁寧に研磨されており、上部は表と裏の２面から穿孔される。長軸8.3㎝で、短軸が2.1㎝、厚さは1.2㎝を測り、残存重量は41.9ｇとなっている。出土地はB-3暗褐色土層である。

同図８は砥石の破損品である。丁寧に磨かれているが、使用痕も認められる。また、上部には表裏２面から孔を穿っている。破損品のため長軸は不明だが、短軸は約1.9㎝で、厚さが約0.7㎝となっており、残存重量は9.4ｇである。SK06埋土撹乱層からの出土である。

石筆

２点とも断面形態が円形の石筆と思われる製品である。第73図９は下端を二段階に分けて細かく削り、先に鋭さをもたせる。一方、上端は粗く削ることで、下端に比べてやや丸みをもっている。長軸は3.9㎝、短軸0.8㎝、重量が3.6ｇとなっている。出土地はB-3③攪乱層である。

同図10は一端が欠損した資料である。本資料も端部を削ることで先端を尖らせているものの、使用のためか、わずかに丸みをもっている。欠損品のため本来の長さは不明だが、短軸は0.7㎝、残存重量は1.4ｇである。A-4・B-4世誇殿前庭埋土において出土した。

硯

硯は総数11点が出土した。そのうち５点を図示し、以下に詳細を述べる。なお、各部位の名称は『首里城跡－下之御庭ほか－』に倣った。

第74図11は墨堂が楕円状に磨り減る資料である。硯背は平坦に仕上げており、「津波」の文字が確認できる。欠損品のため長軸は不明であるが、短軸は約6.5㎝で厚さが1.3㎝、残存重量は91ｇである。本資料は表採品である。

同図12は墨堂から硯池にいたる資料である。墨堂は全体的に細かい傷が見られ、硯縁にもライン状の傷が確認できる。硯背は平たく仕上げ、「念次良」という文字が見受けられる。長軸は破損し不明であるが、短軸約４㎝、厚さ約0.8㎝を測り、残存重量26.6ｇとなっている。撹乱層よりの出土である。

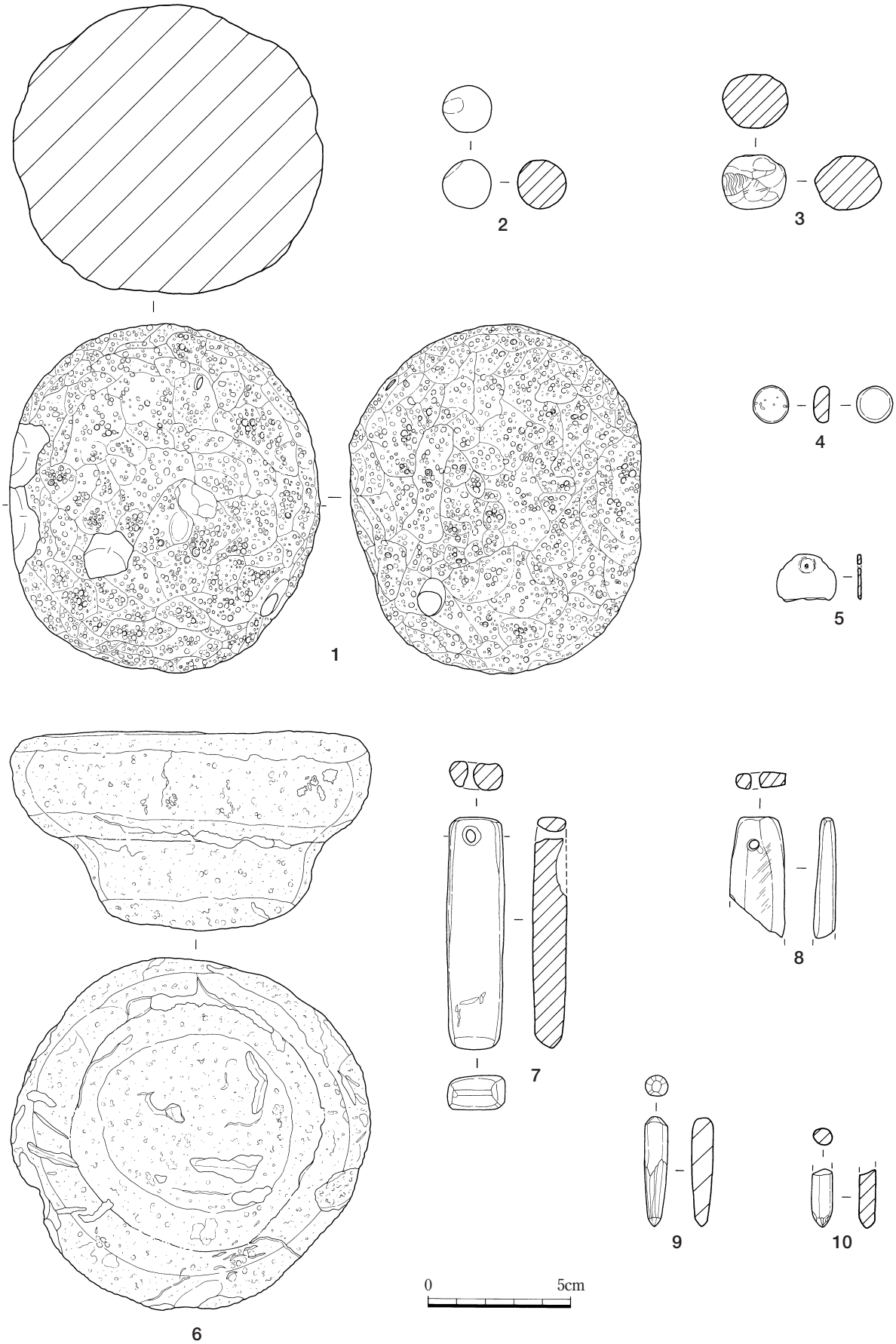
同図13は墨池が欠損する資料である。墨堂の一部に磨耗が認められ、その部分に細かな傷が集中する。また、硯背は隅丸方形にくぼませている。長軸は不明であり、短軸が約7.8㎝、厚さが約1.7㎝、残存重量が374.6ｇを量る。出土場所はB-3③撹乱層である。

同図14は墨堂のみの資料で、残存する墨堂全面に細かい傷が見られる。欠損が著しいため、硯背の状況や長軸および短軸については把握できない。厚さ約1.3㎝で、残存重量54.1ｇである。A-3撹乱層から得られた。

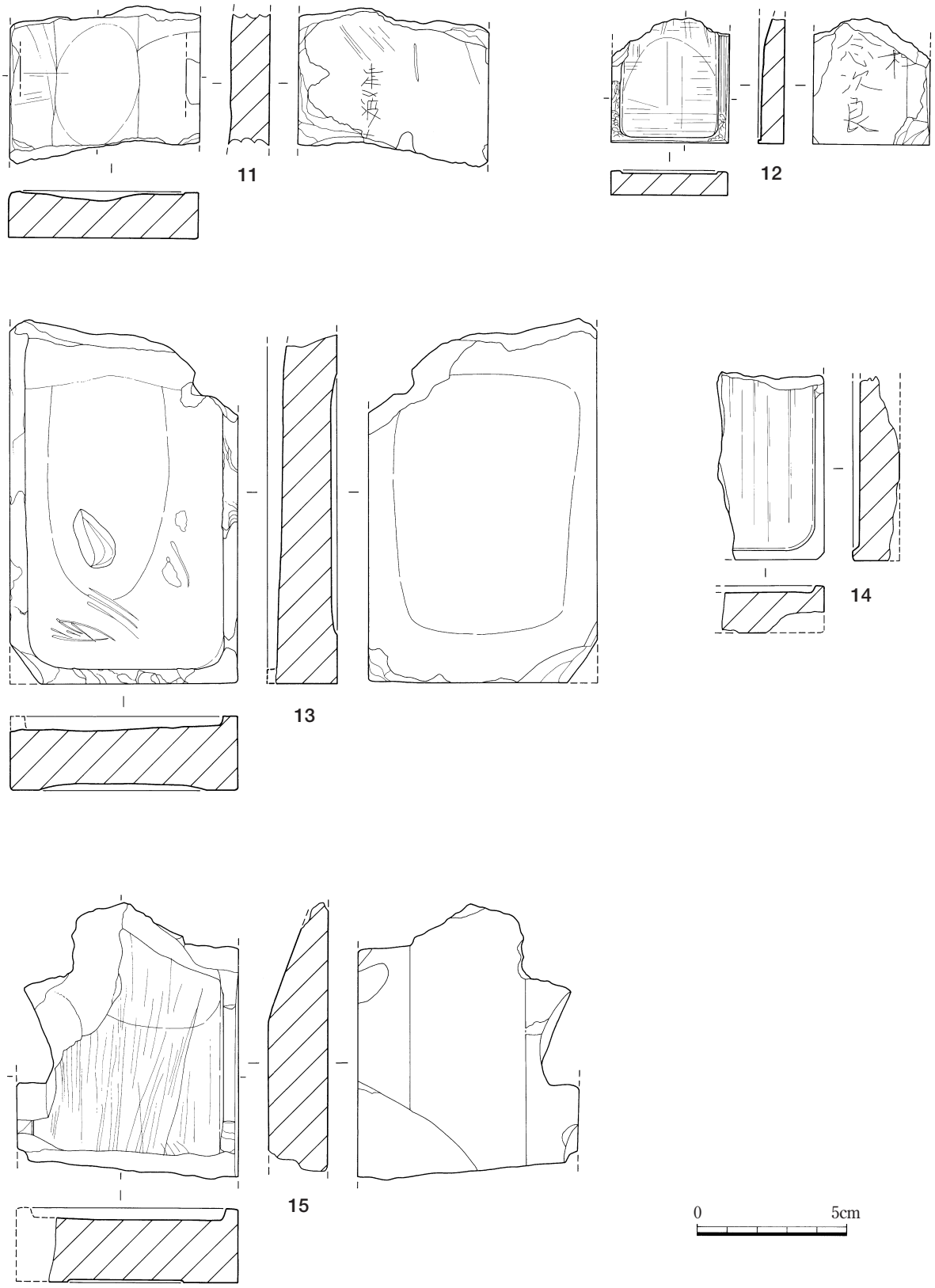
同図15は墨堂から墨池にいたる資料である。墨堂には細かな傷が目立つものの、墨池部分は比較的少ない。硯背は長軸に沿って直線的なくぼみを有する。欠損品のため長軸は不明であるが、短軸は7.6㎝、厚さ約２㎝、残存重量227.8ｇとなっている。本資料はB-3③撹乱層からの出土である。

用途不明製品

第73図５は用途不明の製品である。上部に0.1㎝の孔を穿ち、上端２ヵ所に抉りを入れる。長軸は不明であるが、短軸は2.1㎝で、残存重量が0.3ｇとなっている。本資料は撹乱層より得られた。



第73図　石製品（１）



第74図　石製品（２）

第22節　円盤状製品

今回の調査では全部で56点の資料が得られた。撹乱層からの出土が多いものの遺構からは中国産褐釉陶器、タイ産褐釉陶器、青磁、中国産染付などの輸入陶磁器を加工した製品が見られた。

製品別に見ると中国産褐釉陶器を加工した製品が多く見られ、瓦、沖縄産無釉陶器、タイ産褐釉陶器と続く。その他にも天目、薩摩産の褐釉陶器、肥前系の染付といった本土産の陶磁器を加工した製品も見られた。全体的に加工が丁寧で円形もしくは円形に近い形のものが多く、中には打割調整後に研磨し角を落とした製品も見られた。一方で円形もしくは円形に近い形ではなく方形や五角形に加工されたと思われる製品も見られる。円形に加工する途上であったとも考えられるが、他の調査で円形以外の形に加工しようとしたのではないかと思われる資料を得た例もあるので方形や五角形に加工された製品である事も否定できない。大きさでは３㎝～４㎝の製品が最も多く、次いで２㎝～３㎝、４㎝～５㎝の順番となっており、２㎝～５㎝程度の製品の割合が多くを占める。

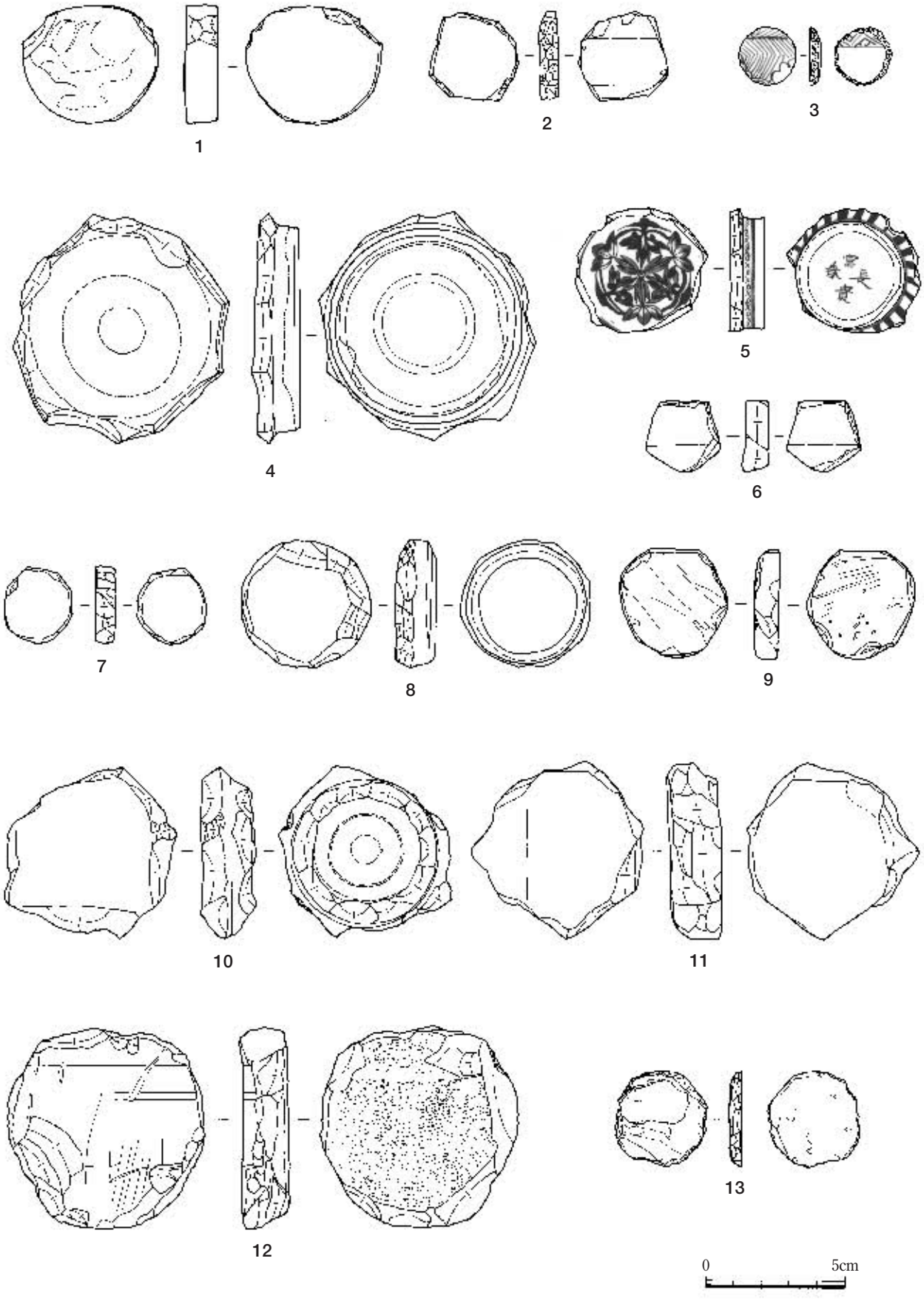
他の遺跡と比較してみると製品の大きさよりも種類に差異が見られる。ナカンダカリヤマ古墓群では瓦と沖縄産無釉陶器、壷屋古窯跡では沖縄産無釉陶器、陶質土器が多くを占めるのに対し、御内原では輸入陶磁器の割合が多く、更に他の遺跡ではあまり見られないタイ産の褐釉陶器を加工した製品がある事も特筆すべき点であろう。また首里城内での他の地区でも輸入陶磁器を転用した製品が多く見られる。

この事からも当時、首里城跡には中国、日本を始めタイなどアジア各国の陶磁器が集まっていた事が窺える。

第30表　円盤状製品観察一覧

単位：cm/g

挿図番号 図版番号		状態	法量				素材	備考	出土地
			長径	短径	厚さ	重量			
第75図・図版53	1	完	4.97	4.29	1.33	43.2	青磁	打割調整がかなり丁寧でほぼ円形。側面も角が削られている。表面に紋様が見られるが判読できず。	SR05
	2	完	3.33	3.18	0.71	10	本土産陶磁器	薩摩産の褐釉を加工。丁寧に打割調整されており、方形に近い形を呈する。	SA06 暗褐色砂土
	3	完	2.13	2.11	0.31	2.1	本土産染付	肥前系。表面に羽状紋、裏面に四方襷紋が見られる事から碗の口縁部を加工した物と思われる。丁寧に打割調整されており、形状は円形。	撹乱
	4	完	8.36	7.99	1.64	101.6	白磁	表面が蛇の目状に施釉されている事から瓶の底部を加工したものと思われる。形状は円形を意識しているが打割調整が粗く、表面からの打割に偏っている。	B-3　撹乱
	5	完	4.69	4.60	1.26	22.6	中国産染付	表面には圏線と蓮華の絵、裏面は高台から延びる放射状の線がそれぞれ呉須で描かれている。また外底には「富、長、貴、春」の文字が見られる。円形を意識しているが打割調整が粗い。	SK02
	6	完	2.74	2.55	0.87	8.9	中国産褐釉	五角形に加工されている。表面が一部外反している事から壷又は甕の頚部付近を加工したものと思われる。	№561
	7	完	2.85	2.61	0.72	7.4	タイ産褐釉	打割調整が丁寧でほぼ円形に加工されており、側面も角が削られている。	SA03　グリ石上層
	8	完	4.82	4.62	1.43	37.8	本土産陶器	天目の碗の底部を加工したものと思われる。円形で高台の形状に合わせて打割調整をしている。	A-3 トレンチ②撹乱
	9	完	4.01	3.99	0.93	15.2	沖縄産無釉陶器	形状はほぼ円形。側面がかなり磨耗しており角がない。	B-4　撹乱
	10	完	6.27	6.21	2.03	82.8	沖縄産施釉陶器	打割調整が粗く方形に近い形状を呈している。高台も打割調整により削られている。	A-4 トレンチ⑦撹乱
	11	完	6.46	6.22	1.89	74.1	瓦質土器	打割調整が粗く六角形の形状を呈している。表面に変色が見られる。	A-3 トレンチ①
	12	完	7.41	7.16	1.73	94.4	瓦	赤瓦を加工しており打割調整が粗いものの磨耗しているため円形。裏面に縄目痕が見られる。	SK02　埋土
	13	完	3.47	3.28	0.52	9.8	石	頁石を加工。円形で打割調整が細かい。	B-4 トレンチ①撹乱

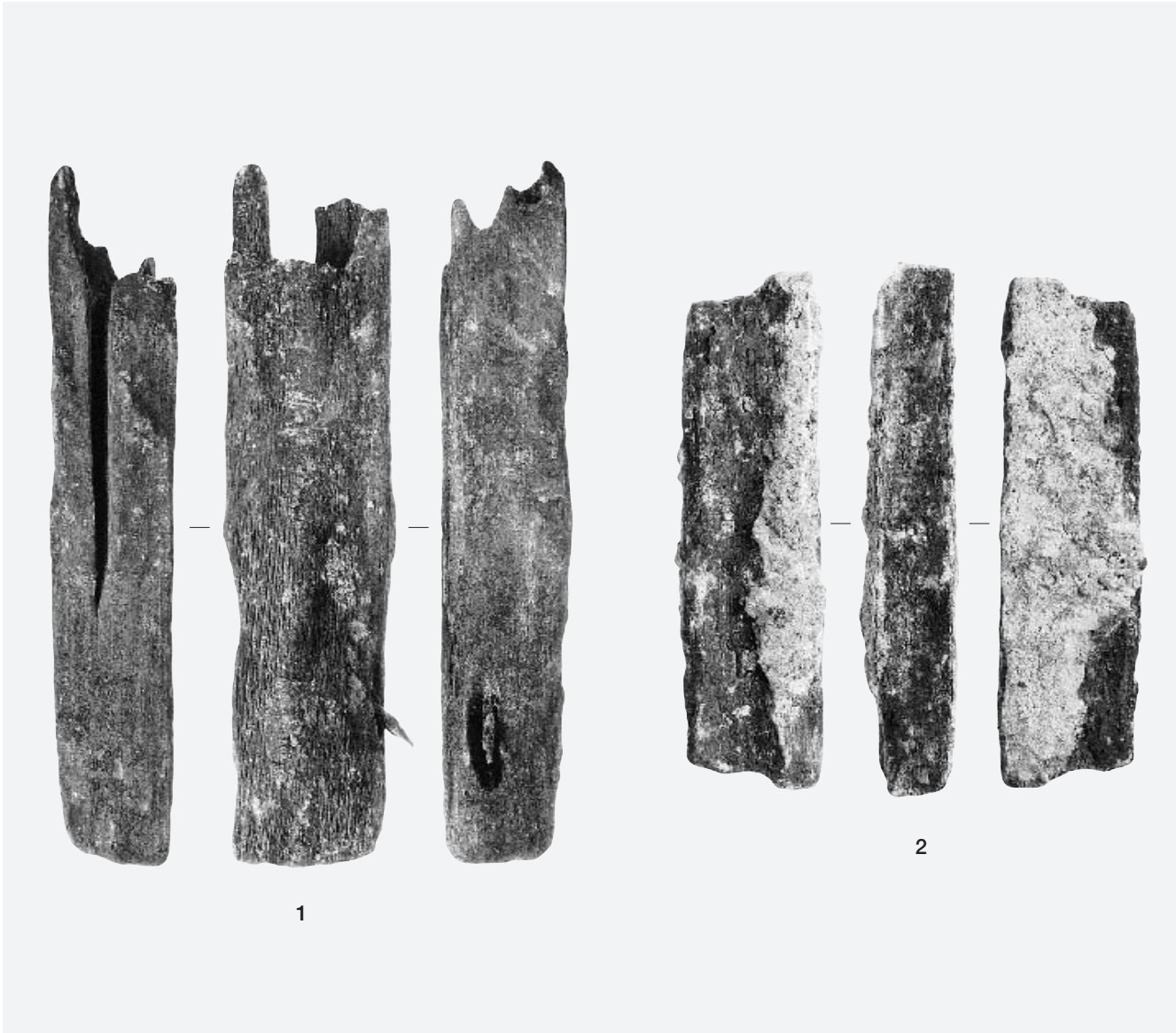


第75図　円盤状製品

第23節　木製品

今回の調査では僅かではあるが木製品も出土している。これまで首里城跡から木製品を報告している事例は極めて限られているため、以下に２点のみであるが報告する。

何れも腐食が著しく、旧態が窺えるものは見られないが、３面面取りされ、縦に直線状の溝が見られる木柱製品が１点確認されている。また鉄釘が打たれていることから、御内原地区にかつてあった建造物の部材であると考えられる。しかし攪乱層からの出土であるため、詳細については不明である（図版２－１）。また漆喰が付着した同様の製品も確認されている（図版２－２）。これら以外に棒状製品も確認されたがこれらも腐食が著しく攪乱層からの出土であるため、詳細については不明である。



図版２　木製品

第24節　貝類遺存体

今回の調査では第31表に一覧したように、腹足綱（巻貝）22科58種以上、二枚貝綱15科38種以上、掘足亜綱１科１種、ウニ綱１科１種を同定している。

腹足綱ではマガキガイ、ウミニナカニモリ、カンギクが多く見られ二枚貝綱ではアラスジケマンガイ、ハマグリ、ウラキツキガイが最も多く見られるが、中でもアラスジケマンガイは突出して多く、全ての貝類の中で多数を占める。

生息域では腹足綱、二枚貝綱では外洋・サンゴ礁域、内湾・転石地域、河口・マングローブ域が大多数を占める。海岸地形区分では腹足綱では亜潮間帯上縁部（イノーが含まれる）が多く、二枚貝綱では亜潮間帯上縁部と潮間帯下部が多い。

特徴的なのは同じサザエ科のチョウセンサザエやカンギクは蓋よりも殻の数の方が多いのに対し、ヤコウガイにおいては殻よりも蓋の方が多い事である。ヤコウガイの身は現在でも珍味として食されているので当時でも食べていた可能性は高く、また殻は螺鈿細工や杓子状製品の材料として利用されている。

つまり調理したヤコウガイの殻は加工の材料とする為に首里城外に持ち出された可能性があるという事も考えられる。

貝類生息地の分類

外洋～内湾		水　深		底　質	
Ⅰ	外洋・サンゴ礁	0	潮間帯上部（１ではノッチ、Ⅲではマングローブ）	a	岩板
		1	潮間帯中・下部	b	軽石
Ⅱ	内湾・軽石地域	2	亜潮間帯上部（１ではイノー）	c	岩礁底、砂泥底、砂底
		3	干瀬（１にのみ適用）	d	マングローブ植物上
Ⅲ	河口干潟・マングローブ域	4	礁斜面およびその下部	e	淡水の流入する礫底
Ⅳ	淡水域	5	止水		
		6	流水		
Ⅴ	陸域	7	林内		
		8	林内・林縁部		
		9	林縁部		
		10	海浜域		
Ⅵ	その他	11	打ち上げ物		
		12	化石		

『古我知原貝塚』沖縄県文化財調査報告書　第84集　1987.2

第25節　動物遺存体

検出された動物遺体種名表

節足動物門　Phylum ARTHROPODA
　軟甲亜綱　Subclass Malacostraca
　　十脚目　Order Decapoda
　　ワタリガニ科　Family　Portunidae
　　ノコギリガサミ　*Scylla serrata*
脊椎動物門　Phylum VERTEBRATA
　軟骨魚綱　Class　Chondrichthyes
　　ネズミザメ目　Order Lamniformes
　　ネズミザメ科　Family Lamnidae
　　ホホジロザメ　*Carcharodon carcharias*
　　ネズミザメ　*Lamna ditroois*
　　メジロザメ目　Order Carcharhiniformes
　　メジロザメ科　Family Carcharhinidae
　　メジロザメ　*Carcharhinus plumbeus*
　　エイ目　Order Rajiformes
　　アカエイ科　Family Dasyatidae
　　属・種不明　Gen.et sp.indet.
　硬骨魚綱　Class Osteichthyes
　　ボラ目　Order Mugiliformes
　　ボラ科　Famiry Mugilidae
　　属・種不明　Gen.et sp.indet.
　　ダツ目　Order Beloniformes
　　ダツ科　Famiry Belonidae
　　属・種不明　Gen.et sp.indet.
　　スズキ目　Order Perciformes
　　ハタ科　Family Serranidae
　　属・種不明　Gen.et sp.indet.
　　アジ科　Family Carangidae
　　ブリ　*Seriola quinqueradiata*
　　フエダイ科　Family Lutjanidae
　　属・種不明　Gen.et sp.indet.
　　タイ科　Family Sparidae
　　ヘダイ　*Sparus sarba*
　　クロダイ　*Acanthopagrus schlegeli*
　　タイワンダイ　*Argyrops bleekeri*
　　属・種不明　Gen.et sp.indet.
　　フエフキダイ科　Family Lethrinidae
　　ヨコシマクロダイ　*Monotaxis grandoculis*
　　ハマフエフキ　*Lethrinus nebulosus*
　　属・種不明　Gen.et sp.indet.
　　ベラ科　Family Labrdae
　　コブダイ　*Semicossyphus reticulatus*
　　タキベラ　*Bodianus perditio*
　　カンムリベラ　*Coris aygula*
　　属・種不明　Gen.et sp.indet.
　　ブダイ科　Family Scaridae
　　イロブダイ　*Bolbometopon bicolor*
　　ナンヨウブダイ　*Scarus gibbus*
　　ナガブダイ　*Scarus rubroviolaceus*
　　属・種不明　Gen.et sp.indet.
　　ニザダイ科　Family Acanthuridae
　　属・種不明　Gen.et sp.indet.
　　フグ目　Order Tetraodontiformes
　　モンガラカワハギ科　Family Balistidae
　　属・種不明　Gen.et sp.indet.
爬虫綱　Class Reptilia
　カメ目　Order Testudines
　　ウミガメ科　Family Chelonidac
　　属・種不明　Gen.et sp.indet.
　有鱗目　Order Squamata
　　クサリヘビ科　Family Viperidae
　　ハブ　*Trimeresurus flavoviridis*
鳥綱　Class Aves
　カモ目　Anseriformes
　　属・種不明　Gen.et sp.indet.
　キジ目　Order Galliformes
　　キジ科　Family Phasianidae
　　ニワトリ　*Gallus gallus var. domesticus*
　スズメ目　Passeriformes
　　カラス科　Family Corvidae
　　属・種不明　Gen.et sp.indet.
哺乳綱　Class Mammalia
　霊長目　Order Primates
　　ヒト科　Family Hominidae
　　ヒト　*Homo sapieus*
　齧歯目　Order Rodentia
　　ネズミ科　Family Murida
　　属・種不明　Gen.et sp.indet.

食肉目　Order Carnivora
イヌ科　Family Canidae
イヌ　*Canis familiaris*
ネコ科　Family Felidae
ネコ　*Felis catus*
海牛目　Order Sirennia
ジュゴン科　Family Dugongidae
ジュゴン　*Dugong dugong*
寄蹄目　Order　Perissoda ctyla
ウマ科　Family Equidae
ウマ　*Equus caballus*
偶蹄目　Order Artiodactyla
イノシシ科　Family Suidae
ブタ　*Sus scrofa var. domesticus*
ウシ科　Family Bovidae
ウシ　*Bos taurus*
ヤギ　*Capura hirucus*

節足動物門

１．軟甲亜綱

ノコギリガサミの可動指２点が出土した。

脊椎動物門

２．軟骨魚綱

軟骨魚綱はネズミザメ、メジロザメの椎骨、ホホジロザメの歯、アカエイ科の尾骨が出土している。

３．硬骨魚綱

硬骨魚綱は確認できた個体数で最も多いのはハマフエフキで次いでブダイ科、ハタ科である。またコブダイやクロダイも見られ、個体数は少ないがボラ科、ダツ科、ブリ、フエダイ科、ヘダイ、タイワンダイ、ヨコシマクロダイ、タキベラ、カンムリベラ、ニザダイ科、スズキ目、モンガラカワハギ科が出土している。

殆どが沖縄本島近海に生息している魚である事から琉球列島内の漁村で水揚げされた魚が首里城内に持ち込まれていたと思われる。

４．鳥綱

鳥綱はニワトリが多くを占めるが肉が取り易い四肢骨が多く出土しており、それ以外では烏口骨が10点、寛骨が１点のみ見られる。傷が見られる骨は少なく、大腿骨の遠位端に刃物による切り口を持つ１点だけである。

ニワトリ以外の鳥類では多くは同定が不可能であったが、一部でカモ類やカラスが見られた。カモ類では烏口骨、尺骨、中手骨、大腿骨、脛骨、カラスは尺骨、中手骨、中足骨が見られたが、両方とも加工痕は確認できなかった。

５．爬虫綱

ハブは石積の栗石内から歯が出土している事から栗石の中で自然死した物と思われる。

ウミガメは骨格の殆どが甲羅という事もあり腹甲板、肋骨板、縁骨板、剣状突起と言った甲羅を形成する骨が多いが中には頭頂骨、上腕骨、橈骨、尺骨、大腿骨、指骨も出土している。中でも尺骨には刃物によると思われる傷がみられる。

6．哺乳綱

ブタ、ウシ、ニワトリが多くを占める。他にウマ、イヌ、ヤギ、ネコ、ジュゴンが出土した。

ブタ

今回の調査で最も出土数が多い資料である。撹乱層以外ではSK05が最も出土しており、種類も頭骨から基節骨までほぼ全身の骨が揃っている。SK05は栗石内に切石を枡形に組み中に石を敷いた遺構で、内部の埋土は黒褐色でブタを始め鳥類、イヌ、ウシの骨なども出土している。今の所SK05の性格は明らかではないが、ブタなどを調理した後に骨を廃棄していたとも考えられるが、ブタの骨が突出して多い事については理由が定かではない。

部位別に見ると肋骨が最も多く、次いで四肢骨、頭骨や椎骨の順であるが、傷が見られる資料も肋骨に多く見られる。また成獣の個体ごとの大きさの違いが顕著に現れる事から若い個体が食されていた事が窺える。

ウシ

部位別に見ると肋骨が最も多く四肢骨、椎骨と続く。前肢（上腕骨、橈骨、尺骨、手根骨、中手骨）と後肢（大腿骨、脛骨、踵骨）の割合は同じ程度であるが、傷がついた骨は肩甲骨、上腕骨、橈骨、肋骨といった部分に多く、寛骨にも傷がついた骨を見る事ができる。寛骨の場合では臼部付近に刃物でつけられた傷が多く、後足を外す際についたと思われる。中手骨、中足骨は骨体や破片が多く中には金属製の刃物で縦に割いたと思われる物もある事から骨製品の素材を取っていた可能性も考えられる。

その他

その他の哺乳綱としてはウマ、イヌ、ネコ、ヤギ、ネズミ、ジュゴンが挙げられる。

ウマは上顎骨の歯から基節骨までほぼ全身の骨が見られるが、撹乱層からの出土もあるので同一個体ではない。腰椎、寛骨、大腿骨、脛骨に傷が見られる。

イヌは基節骨などの末端部の骨が見られないものの頭蓋骨、椎骨、四肢骨とほぼ全身の骨が見られる。撹乱層や表採が多く後の時代の物が殆どと思われるが、中にはSK05などの遺構に伴う物もある。

ネコは出土数が少なく橈骨、大腿骨、脛骨が各１本ずつであるがSK02、SK08の埋土から出土している事から当時の物であると思われる。このことから御内原で愛玩動物として飼われていた可能性も否定できない。

ヤギは上顎骨の歯、寛骨、四肢骨が出土しているが多くが撹乱層からの出土であるためイヌと同様に後の時代の物と思われる。しかし橈骨や尺骨が１点ずつSK05から出土している。

ネズミは上腕骨、尺骨、寛骨、大腿骨、脛骨が出土し、大腿骨が多くを占める。殆どが完形若しくは完形に近い状態で出土している事から元々生息していた個体が自然死した、若しくは骨が石積の裏込めの土に紛れ込んでいた事が考えられる。

ジュゴンは腰椎、肩甲骨、肋骨と言った部分の骨がみられるが、加工痕などは見られない。

これら以外にヒトの頭蓋骨の破片が２点見られるが、両方とも撹乱層からの出土なので後の時代の物である。

第31表　貝類出土状況（1）　巻貝

番号	綱名	科名	貝種名	生息地	SR01			SR02			SR05			SR08			SR09			SA01			SA02			SA03			SA05			SA06		
					完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片
1	腹足綱	ユキノカサガイ科	リュウキュウウノアシ																															
2		ニシキウズガイ科	ニシキウズ	Ⅰ-2-a									3																					
3			ムラサキウズ	Ⅰ-3-a																										1				
4			ギンタカハマ	Ⅰ-4-a																														
5			サラサバテイ	Ⅰ-4-a																								1		1				
6		サザエ科	ヤコウガイ	Ⅰ-4-a			1			5		1	4			1						1						8					1	1
7			ヤコウガイの蓋	Ⅰ-4-a			1													1		2				2	2	2		1		6	3	
8			チョウセンサザエ	Ⅰ-3-a					1													1		1									1	
9			チョウセンサザエの蓋	Ⅰ-3-a				1		2	2						1									1				1		2		
10			カンギク	Ⅱ-1-b		1					1	2					1									5	5		3			1		
11			カンギクの蓋	Ⅱ-1-b							1																							
12		アマオブネガイ科	マングローブアマガイ	Ⅲ-1-b							1	1	1													2								
13			マルアマオブネ	Ⅱ-1-b																														
14			アマオブネガイ	Ⅰ-1-b																														
15		オニノツノガイ科	オニノツノガイ	Ⅰ-2-c			1				1	2			1											1	1						1	
16			コゲツノブエ																															
17			ウミニナカニモリ			3						1						2		1	1					8	16						1	
18			クワノミカニモリ	Ⅰ-1-a													1										5							
19		ウミニナ科	リュウキュウウミニナ																								8							
20		トウガタカワニナ科	スグカワニナ	Ⅳ-5								1																						
21		フトヘナタリ科	カワアイ	Ⅲ-1-c																														
22			マドモチウミニナ	Ⅲ-0-c																						1								
23			センニンガイ	Ⅲ-1-d																														
24		ソデボラ科	オハグロガイ	Ⅱ-2-c								2															1							
25			ネジマガキ	Ⅰ-2-c																														
26			マガキガイ	Ⅰ-2-c		1				1		2						1			3						2							
27			イボソデガイ	Ⅰ-2-c																														
28			クモガイ	Ⅰ-2-c																										1				
29			スイジガイ	Ⅰ-2-c																														
30		スズメガイ科	アツキクスズメ																															
31		タカラガイ科	ヤクシマダカラ	Ⅰ-2-a																									1					
32			ホシダカラ	Ⅰ-2-c																														
33			ホシキヌタ	Ⅰ-2-a													1																	
34			コモンダカラ	Ⅰ-2-a																														
35			ハナビラダカラ	Ⅰ-1-a																														
36			キイロダカラ	Ⅰ-1-a																														
37			ハナマルユキ	Ⅰ-3-a													1			1													1	
38		タマガイ科	トミガイ	Ⅰ-2-c																														
39			リスガイ	Ⅰ-2-c																														
40		オキニシ科	オキニシ	Ⅰ-3-a																														
41		フジツガイ科	ホラガイ	Ⅰ-4-a																														
42		アッキガイ科	ヒロウネレイシダマシ	Ⅰ-1-b																							1							
43			ツノレイシ	Ⅰ-3-a							1																							
44			シラクモガイ	Ⅰ-3-a																														
45			アッキガイ科不明																									1						
46		オニコブシガイ科	オニコブシガイ	Ⅰ-3-a																														
47			コオニコブシ	Ⅰ-3-a																1														
48		エゾバイ科	シマベッコウバイ	Ⅱ-1-c																						1								
49		イトマキボラ科	イトマキボラ	Ⅰ-2-a																														
50		フデガイ科	チョウセンフデ	Ⅰ-2-c																														
51			オオシマヤタテの一種																															
52		イモガイ科	クロミナシ	Ⅰ-2-c																														
53			アンボンクロザメ	Ⅰ-2-c																														
54			マダライモ	Ⅰ-1-a							1																							
55			サヤガタイモ	Ⅰ-1-a																														
56			アカシマミナシ	Ⅰ-2-c																														
57			ヤキイモ	Ⅰ-2-c																														
58			カバミナシ	Ⅰ-2-c																														
59			ヤナギシボリイモ	Ⅰ-2-a																												1	1	
60			ヤセイモ	Ⅰ-2-a																														
61			キヌカツギイモ	Ⅰ-2-a																														
62			イボシマイモ	Ⅰ-2-a																														
63			イモガイ科不明(小形)																							1								
64			イモガイ科不明(中形)																															
65			イモガイ科不明										1						1															
66		キセルガイ科	ツヤギセル	Ⅴ-8																														
67		ヤマタニシ科	オキナワヤマタニシ	Ⅴ-8		1																												
68	鞘形亜綱	コウイカ科	コブシメ																															
69	ウニ綱	ナガウニ科	パイプウニ																															
70			巻貝不明																															
			合計		0	6	3	1	1	8	8	12	9	0	1	1	5	3	1	4	4	4	0	1	0	22	41	12	4	5	0	10	9	1

番号	貝種名	SA02.3.4			SS01			SD01			SK02			SK03			SK04			SK05			SK06			SK07			SK08			世誇殿前庭埋土			世誇殿黄褐色微砂層			世誇殿基壇内ピット			戦前遺物包含層		
		完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片
1	リュウキュウウノアシ																																										
2	ニシキウズ							1				1																													1		
3	ムラサキウズ																																										
4	ギンタカハマ											1															1																
5	サラサバテイ									3			1																2					1		1	2						
6	ヤコウガイ						4			5												3		1				1			1		1	4			15						1
7	ヤコウガイの蓋	1		1		1		2	2	2						2					1						1	1		2					3	1	5				4	2	
8	チョウセンサザエ							1	1												2					1			5	2		1	1				1					1	
9	チョウセンサザエの蓋							1												1															4						4		
10	カンギク				1			3			2						1	2	6							4	2								3	1					6	1	
11	カンギクの蓋							1																																			
12	マングローブアマガイ																																										
13	マルアマオブネ																1																										
14	アマオブネガイ																1									1																	
15	オニノツノガイ								1															1												1						1	
16	コゲツノブエ																																										
17	ウミニナカニモリ										1	1						6	3				1			3				1					2	3		1				3	
18	クワノミカニモリ											1														1										3						1	
19	リュウキュウウミニナ																		1																								
20	スグカワニナ																																										
21	カワアイ																																			1							
22	マドモチウミニナ																																									1	
23	センニンガイ																																										
24	オハグロガイ										1							1							1										1								
25	ネジマガキ								1									1																									
26	マガキガイ		1		1	1		5	1			2								1	2		1	4		1	2		1							2					1	3	
27	イボソデガイ																																										
28	クモガイ																																										
29	スイジガイ																																										
30	アツキクスズメ																																										
31	ヤクシマダカラ																																										
32	ホシダカラ																																										
33	ホシキヌタ																																										
34	コモンダカラ																																										
35	ハナビラダカラ																																								1	1	
36	キイロダカラ																																										
37	ハナマルユキ																						1												1	3	3		1		3		
38	トミガイ																																										
39	リスガイ																																										
40	オキニシ								1																																		
41	ホラガイ																																										
42	ヒロウネレイシダマシ																																										
43	ツノレイシ																																										
44	シラクモガイ																																										
45	アッキガイ科不明																																										
46	オニコブシガイ																																										
47	コオニコブシ																																										
48	シマベッコウバイ																																		1						2		
49	イトマキボラ																											1	1														
50	チョウセンフデ																																										
51	オオシマヤタテの一種																																										
52	クロミナシ																																										
53	アンボンクロザメ																																										
54	マダライモ																1																										
55	サヤガタイモ																			1																							
56	アカシマミナシ																																										
57	ヤキイモ																																										
58	カバミナシ																																										
59	ヤナギシボリイモ																																		1	1							
60	ヤセイモ																																										
61	キヌカツギイモ																																										
62	イボシマイモ																																										
63	イモガイ科不明(小形)																																										
64	イモガイ科不明(中形)																																										
65	イモガイ科不明																								1																		
66	ツヤギセル																																										
67	オキナワヤマタニシ																1																										
68	コブシメ																					20																					
69	パイプウニ																																										
70	巻貝不明																																										
	合計	1	1	1	2	2	4	14	7	10	4	6	1	0	0	2	5	10	10	3	5	23	3	6	2	11	6	3	9	5	1	1	2	5	16	17	26	1	1	0	22	14	1

番号	貝種名	取り上げ番号			A-2			A-3			A-4			A-2・3			B-2			B-3			B-4			C-3			C-4			表採			撹乱			合計			個体数
		完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	完形	殻頂	破片	
1	リュウキュウウノアシ												1																									0	0	1	1
2	ニシキウズ				1			1		1												1												1				4	1	6	5
3	ムラサキウズ																				1																	0	2	0	2
4	ギンタカハマ											1													1													0	3	1	3
5	サラサバテイ			1		2		1	8	11		3	9						1		3	6		2	13											4	6	3	24	55	27
6	ヤコウガイ			1		3	26		7	72		5	84			1					1	30		4	42			4			7		2	23		6	56	0	32	401	32
7	ヤコウガイの蓋				8	8	6	11	14	9	15	14	11							2	2	3	8	15	8		1			2		3	2	2	9	9	12	75	83	67	158
8	チョウセンサザエ				5	6	1	1	10	7	2	6	3							1	1	2		3	7	2	2						4	12	5	10	7	24	52	41	76
9	チョウセンサザエの蓋				1			5			1									14			4									1			7			50	1	2	51
10	カンギク		1		8	5	1	3	4				1							1	9			2			1		1	1	1	3	2		1			48	39	9	87
11	カンギクの蓋																																					2	0	0	2
12	マングローブアマガイ																																					3	1	1	4
13	マルアマオブネ																																					1	0	0	1
14	アマオブネガイ																																					2	0	0	2
15	オニノツノガイ							2	1												3		1							1						2		5	16	1	21
16	コゲツノブエ																									1												1	0	0	1
17	ウミニナカニモリ		1		1	1			4												13			4			1					4	4			1		22	67	3	89
18	クワノミカニモリ								1												1														1	1		3	13	0	16
19	リュウキュウウミニナ											1																										0	9	1	9
20	スグカワニナ																																					0	1	0	1
21	カワアイ											2												1														0	4	0	4
22	マドモチウミニナ											1																										1	2	0	3
23	センニンガイ																										1									1		0	2	0	2
24	オハグロガイ				1	1		2	4		1															1	3								8	3		15	15	1	30
25	ネジマガキ																											1										0	2	1	2
26	マガキガイ		1		4	8		2	14		4	5								1	7		2	3			3					1			6	9	1	31	77	2	108
27	イボソデガイ																															1						1	0	0	1
28	クモガイ						1		1	1																	1	1										0	3	3	3
29	スイジガイ																																			1		0	1	0	1
30	アツキクスズメ										1																											1	0	0	1
31	ヤクシマダカラ																					1																1	0	1	1
32	ホシダカラ																														1							0	0	1	1
33	ホシキヌタ							1												1				1			1											3	2	0	5
34	コモンダカラ						1													1	1																	1	1	1	2
35	ハナビラダカラ							1	2		1										1		2	2			1								1			6	7	0	13
36	キイロダカラ																						1															1	0	0	1
37	ハナマルユキ							1			1		1							2	3		1		1		1								1	1	2	13	10	7	23
38	トミガイ																				1																	0	1	0	1
39	リスガイ																										1											0	1	0	1
40	オキニシ																																					0	1	0	1
41	ホラガイ																					2																0	0	2	1
42	ヒロウネレイシダマシ																			1																		1	1	0	2
43	ツノレイシ																			1																		2	0	0	2
44	シラクモガイ							1																													1	1	0	1	1
45	アッキガイ科不明												1																									0	0	2	1
46	オニコブシガイ							1																			1											1	1	0	2
47	コオニコブシ				1			2			1																											5	0	0	5
48	シマベッコウバイ					1		1													1		1									1						7	2	0	9
49	イトマキボラ										1										1						1								1			3	2	1	5
50	チョウセンフデ								1																													0	1	0	1
51	オオシマヤタテの一種																										1											0	1	0	1
52	クロミナシ							1														1																1	0	1	1
53	アンボンクロザメ																																			1		0	1	0	1
54	マダライモ	1			1			3			1									1																		9	0	0	9
55	サヤガタイモ																																					1	0	0	1
56	アカシマミナシ																				1																	0	1	0	1
57	ヤキイモ							1																														1	0	0	1
58	カバミナシ																		1																			0	0	1	1
59	ヤナギシボリイモ										1																1											3	3	0	6
60	ヤセイモ																																		1			1	0	0	1
61	キヌカツギイモ										1																											1	0	0	1
62	イボシマイモ																			2																		2	0	0	2
63	イモガイ科不明(小形)																																					1	0	0	1
64	イモガイ科不明(中形)																				1																	0	1	0	1
65	イモガイ科不明																					1																0	0	4	1
66	ツヤギセル							1												1																		2	0	0	2
67	オキナワヤマタニシ							1												3	2	2																5	3	2	8
68	コブシメ																																					0	0	20	1
69	パイプウニ																																				1	0	0	1	1
70	巻貝不明																				1									1								0	2	0	2
	合計	1	3	2	31	35	36	43	71	101	31	38	111	0	0	1	0	0	2	32	54	49	20	37	72	4	21	6	1	5	9	14	14	38	41	49	86	364	492	641	864

注　完形と殻頂の数を足した合計を個体数とした。（破片でのみ出土した貝種については、最小個体数「１」と数えた）

第32表　貝類出土状況（2）　二枚貝

番号	綱名	科名	貝種名	生息地	SR01 完形L	SR01 完形R	SR01 殻頂L	SR01 殻頂R	SR01 破片	SR02 完形L	SR02 完形R	SR02 殻頂L	SR02 殻頂R	SR02 破片	SR04 完形L	SR04 完形R	SR04 殻頂L	SR04 殻頂R	SR04 破片	SR05 完形L	SR05 完形R	SR05 殻頂L	SR05 殻頂R	SR05 破片	SR08 完形L	SR08 完形R	SR08 殻頂L	SR08 殻頂R	SR08 破片	SR09 完形L	SR09 完形R	SR09 殻頂L	SR09 殻頂R	SR09 破片	SA01 完形L	SA01 完形R	SA01 殻頂L	SA01 殻頂R	SA01 破片	SA02 完形L	SA02 完形R	SA02 殻頂L	SA02 殻頂R	SA02 破片
1	二枚貝綱	フネガイ科	エガイ	Ⅰ-1-a																	1			1																				
2			リュウキュウサルボウ	Ⅱ-2-c																																								
3		タマキガイ科	ソメワケグリ	Ⅱ-2-c																																								
4		イタヤガイ科	ヒナキンチャク																																									
5			化石																																									
6		ウミギク科	メンガイ	Ⅰ-2-a																																		1						
7			メンガイの一種																																									
8		ナミマガシワ科	マドガイ																																									
9		イタボガキ科	ニセマガキ？	Ⅱ-1-a																																								
10		ツキガイ科	ウラキツキガイ	Ⅱ-2-c			1								1					2	2	1																						
11		キクザルガイ科	カネツケザル	Ⅰ-1-a																																								
12			キクザルガイ科不明																																									
13		ザルガイ科	リュウキュウザルガイ	Ⅱ-2-c																																								
14			カワラガイ	Ⅱ-2-c																																								
15		シャコガイ科	シャゴウガイ	Ⅰ-2-c																																								
16			ヒメシャコガイ	Ⅰ-2-a																																								
17			ヒレシャコガイ	Ⅰ-2-c																																								
18			シラナミガイ	Ⅰ-2-a	1																																							
19			シャコガイ科不明																																									
20		チドリマスオ科	イソハマグリ	Ⅰ-1-c																											2													
21		ニッコウガイ科	サメザラ	Ⅰ-2-c																																								
22			リュウキュウシラトリ	Ⅱ-1-c																				1																				
23			モチツキザラ？	Ⅰ-2-c																																								
24		シオサザナミ科	マスオガイ	Ⅱ-1-c																																								
25			リュウキュウマスオ	Ⅱ-1-c				1																																				
26		シジミ科	シレナシジミ	Ⅲ-0-c																																								
27		マルスダレガイ科	アラヌノメガイ	Ⅰ-2-c																																								
28			ヌノメガイ	Ⅱ-1-c																	2														1	1								
29			アラスジケマンガイ	Ⅲ-1-c	4	3				1	2				2	4	1			21	27	6	1		1			1		5	3	2	2	1		1		1						
30			ホソスジイナミガイ	Ⅱ-1-c		1														8	6	1	1																					
31			ユウカゲハマグリ	Ⅱ-1-c																		1																						
32			イオウハマグリ	Ⅱ-1-c																																								
33			マルオミナエシ	Ⅰ-2-a																																								
34			リュウキュウアサリ																					1																				
35			スダレハマグリ	Ⅱ-1-c												1			1																									
36			チョウセンハマグリ	Ⅰ-1-c									1									1																						
37			オキシジミ	Ⅰ-c															1		1	2																1						
38			ハマグリの一種									1																															1	
39		二枚貝不明																																										
合計					5	4	1	1	0	1	2	1	1	0	3	5	1	0	2	31	39	12	2	3	1	0	0	1	0	5	5	2	2	1	1	2	0	3	0	0	0	0	1	0

番号	貝種名	SA03 完形L	SA03 完形R	SA03 殻頂L	SA03 殻頂R	SA03 破片	SA05 完形L	SA05 完形R	SA05 殻頂L	SA05 殻頂R	SA05 破片	SA06 完形L	SA06 完形R	SA06 殻頂L	SA06 殻頂R	SA06 破片	SA02・03・04 完形L	SA02・03・04 完形R	SA02・03・04 殻頂L	SA02・03・04 殻頂R	SA02・03・04 破片	SS01 完形L	SS01 完形R	SS01 殻頂L	SS01 殻頂R	SS01 破片	SD01 完形L	SD01 完形R	SD01 殻頂L	SD01 殻頂R	SD01 破片	SK02 完形L	SK02 完形R	SK02 殻頂L	SK02 殻頂R	SK02 破片	SK03 完形L	SK03 完形R	SK03 殻頂L	SK03 殻頂R	SK03 破片	SK04 完形L	SK04 完形R	SK04 殻頂L	SK04 殻頂R	SK04 破片	SK05 完形L	SK05 完形R	SK05 殻頂L	SK05 殻頂R	SK05 破片
1	エガイ																																															1			
2	リュウキュウサルボウ																																																		
3	ソメワケグリ																																																	1	
4	ヒナキンチャク																																																		
5	化石																									1																									
6	メンガイ																																																		
7	メンガイの一種																																																		
8	マドガイ																																								1										
9	ニセマガキ？																																																		
10	ウラキツキガイ	16	13																											1		1	1					1				1					2				1
11	カネツケザル		1																																																
12	キクザルガイ科不明																																																		
13	リュウキュウザルガイ																																														1	1			
14	カワラガイ																																																		
15	シャゴウガイ																								1																										
16	ヒメシャコガイ																																																		
17	ヒレシャコガイ					1																			1						1																				
18	シラナミガイ																																																		
19	シャコガイ科不明																																																		
20	イソハマグリ	1	1	1																												2												1							
21	サメザラ																																																		
22	リュウキュウシラトリ																																																		
23	モチツキザラ？																																																		
24	マスオガイ																																																		
25	リュウキュウマスオ																																																		
26	シレナシジミ									1													1		1	1	10	12	2	3	3															1					
27	アラヌノメガイ																																																		
28	ヌノメガイ																						1																												
29	アラスジケマンガイ	109	102	10	12	4	1	4				2	3			1	1			1		10	9	1	1		7	3		1		17	11	1	2	2						3	3	1	1		7	2		1	
30	ホソスジイナミガイ	2	2																																																
31	ユウカゲハマグリ			1																																															
32	イオウハマグリ	1											1																																						
33	マルオミナエシ																																																		
34	リュウキュウアサリ																																																		
35	スダレハマグリ	8	7	1	2	1																																													
36	チョウセンハマグリ	1	1		1																	2				2																									
37	オキシジミ						1																																												
38	ハマグリの一種	1		2		1								1			1	1				2	3		3	1	1	3	2	3																	3	2	9	3	3
39	二枚貝不明																																																		
合計		139	127	15	15	7	2	4	0	1	0	2	4	1	0	1	2	1	0	1	0	14	14	1	7	5	18	18	4	8	4	20	12	1	2	2	0	1	0	0	1	4	3	2	1	1	13	6	9	5	4

番号	綱名	科名	貝種名	生息地	SK06 完形L	SK06 完形R	SK06 殻頂L	SK06 殻頂R	SK06 破片	SK07 完形L	SK07 完形R	SK07 殻頂L	SK07 殻頂R	SK07 破片	SK08 完形L	SK08 完形R	SK08 殻頂L	SK08 殻頂R	SK08 破片	世誇殿 前庭埋土 完形L	世誇殿 前庭埋土 完形R	世誇殿 前庭埋土 殻頂L	世誇殿 前庭埋土 殻頂R	世誇殿 前庭埋土 破片	世誇殿 黄褐色微砂層 完形L	世誇殿 黄褐色微砂層 完形R	世誇殿 黄褐色微砂層 殻頂L	世誇殿 黄褐色微砂層 殻頂R	世誇殿 黄褐色微砂層 破片	世誇殿 基壇内ピット 完形L	世誇殿 基壇内ピット 完形R	世誇殿 基壇内ピット 殻頂L	世誇殿 基壇内ピット 殻頂R	世誇殿 基壇内ピット 破片	戦前遺物包含層 完形L	戦前遺物包含層 完形R	戦前遺物包含層 殻頂L	戦前遺物包含層 殻頂R	戦前遺物包含層 破片	取り上げ番号 完形L	取り上げ番号 完形R	取り上げ番号 殻頂L	取り上げ番号 殻頂R	取り上げ番号 破片
1	二枚貝綱	フネガイ科	エガイ	Ⅰ-1-a																																								
2			リュウキュウサルボウ	Ⅱ-2-c																																						1		
3		タマキガイ科	ソメワケグリ	Ⅱ-2-c																																								
4		イタヤガイ科	ヒナキンチャク						1																																			
5			化石																																									
6		ウミギク科	メンガイ	Ⅰ-2-a																															1									
7			メンガイの一種											1																														
8		ナミマガシワ科	マドガイ																																									
9		イタボガキ科	ニセマガキ？	Ⅱ-1-a																																								
10		ツキガイ科	ウラキツキガイ	Ⅱ-2-c								1					1																											
11		キクザルガイ科	カネツケザル	Ⅰ-1-a																																								
12			キクザルガイ科不明																																									
13		ザルガイ科	リュウキュウザルガイ	Ⅱ-2-c																																								
14			カワラガイ	Ⅱ-2-c	1																																							
15		シャコガイ科	シャゴウガイ	Ⅰ-2-c					1																																			
16			ヒメシャコガイ	Ⅰ-2-a																																								
17			ヒレシャコガイ	Ⅰ-2-c																																								
18			シラナミガイ	Ⅰ-2-a																																								
19			シャコガイ科不明																										1															
20		チドリマスオ科	イソハマグリ	Ⅰ-1-c		1				1		1														1									7	2								
21		ニッコウガイ科	サメザラ	Ⅰ-2-c																																								
22			リュウキュウシラトリ	Ⅱ-1-c																																								
23			モチツキザラ？	Ⅰ-2-c																																								
24		シオサザナミ科	マスオガイ	Ⅱ-1-c																																								
25			リュウキュウマスオ	Ⅱ-1-c																																								
26		シジミ科	シレナシジミ	Ⅲ-0-c						1				1															1															
27		マルスダレガイ科	アラヌノメガイ	Ⅰ-2-c																																								
28			ヌノメガイ	Ⅱ-1-c																					1																	1		
29			アラスジケマンガイ	Ⅲ-1-c	2	3	2	3		26	25	3	4	4	10	8	1	2	1	2	2				24	17	3		1		1		1		40	49		5	1	2	2		1	
30			ホソスジイナミガイ	Ⅱ-1-c						3	2		1					1													1				2	1								
31			ユウカゲハマグリ	Ⅱ-1-c																																								
32			イオウハマグリ	Ⅱ-1-c																						1															1			
33			マルオミナエシ	Ⅰ-2-a																																								
34			リュウキュウアサリ																																									
35			スダレハマグリ	Ⅱ-1-c									2																															
36			チョウセンハマグリ	Ⅰ-1-c							1																																	
37			オキシジミ	Ⅰ-c											1							1																		2				
38			ハマグリの一種											2			1																									1		1
39		二枚貝不明																																										
合計					3	4	2	3	2	31	28	5	7	8	11	8	3	3	1	2	2	1	0	0	25	19	3	0	3	0	2	0	1	0	50	52	0	5	1	4	3	3	1	1

番号	貝種名	A-2 完形L	A-2 完形R	A-2 殻頂L	A-2 殻頂R	A-2 破片	A-3 完形L	A-3 完形R	A-3 殻頂L	A-3 殻頂R	A-3 破片	A-4 完形L	A-4 完形R	A-4 殻頂L	A-4 殻頂R	A-4 破片	B-2 完形L	B-2 完形R	B-2 殻頂L	B-2 殻頂R	B-2 破片	B-3 完形L	B-3 完形R	B-3 殻頂L	B-3 殻頂R	B-3 破片	B-4 完形L	B-4 完形R	B-4 殻頂L	B-4 殻頂R	B-4 破片	C-3 完形L	C-3 完形R	C-3 殻頂L	C-3 殻頂R	C-3 破片	C-4 完形L	C-4 完形R	C-4 殻頂L	C-4 殻頂R	C-4 破片	表採 完形L	表採 完形R	表採 殻頂L	表採 殻頂R	表採 破片	撹乱 完形L	撹乱 完形R	撹乱 殻頂L	撹乱 殻頂R	撹乱 破片	合計 完形L	合計 完形R	合計 殻頂L	合計 殻頂R	合計 破片	個体数
1	エガイ							2															1																													0	5	0	0	1	5
2	リュウキュウサルボウ								1																											1																0	0	2	0	1	2
3	ソメワケグリ																																																			0	0	0	1	0	1
4	ヒナキンチャク																																																			0	0	0	0	1	1
5	化石																																																			0	0	0	0	1	1
6	メンガイ	1																										1																								2	1	0	1	0	2
7	メンガイの一種																																																			0	0	0	0	1	1
8	マドガイ																									1																										0	0	0	0	2	1
9	ニセマガキ？		1																							1																										0	1	0	0	1	1
10	ウラキツキガイ	3	1	1			2	3			1		2									1			2	1		1		1	1							1				1						2			1	30	27	5	4	5	35
11	カネツケザル																						1																													0	2	0	0	0	2
12	キクザルガイ科不明																																																1			0	0	1	0	0	1
13	リュウキュウザルガイ																																																			1	1	0	0	0	1
14	カワラガイ	3	1	1			1	1	2								1																															1				6	3	3	0	0	9
15	シャゴウガイ					1																																														0	0	0	1	2	1
16	ヒメシャコガイ														1								1			1																										0	1	0	1	1	2
17	ヒレシャコガイ			1		5		1		1	6					4									1						2														1	2					2	0	1	1	4	23	5
18	シラナミガイ							1																		1																						1			1	1	2	0	0	2	2
19	シャコガイ科不明					1																		1																												0	0	1	0	2	1
20	イソハマグリ	1	1				1					1	1									1	3	1																		1										16	12	4	0	0	20
21	サメザラ																					1																														1	0	0	0	0	1
22	リュウキュウシラトリ																																															1				0	1	0	0	1	1
23	モチツキザラ？										1																																									0	0	0	0	1	1
24	マスオガイ																																															1				0	1	0	0	0	1
25	リュウキュウマスオ																									1																						1				0	1	0	1	1	2
26	シレナシジミ	5	4	2	3	3			1	1	2				1										2					2	2					1					1					1	1	1			4	17	18	5	14	21	32
27	アラヌノメガイ										1																			1																						0	0	0	1	1	1
28	ヌノメガイ	1			1	2							1	1		1		1								2																						2			4	3	8	2	1	9	9
29	アラスジケマンガイ	33	34	4	6	1	29	42	6	6	1	13	20	1		1	2			1		39	39	16	8	3	19	17	3	4	2	6	5		2	1	3	1	2			6	2	1	3		25	35	3	9	2	472	479	67	79	26	558
30	ホソスジイナミガイ	2					3	2														2	1										1																			22	17	1	3	0	23
31	ユウカゲハマグリ																																																			0	0	2	0	0	2
32	イオウハマグリ																						1																													1	4	0	0	0	4
33	マルオミナエシ						1																																													1	0	0	0	0	1
34	リュウキュウアサリ																																																			0	0	0	0	1	1
35	スダレハマグリ	1			1									1										1							1																					9	8	3	5	3	13
36	チョウセンハマグリ							1		1	1											2				2		1								1															1	5	4	1	3	7	7
37	オキシジミ				1			1	2																		1		1												1						1		1			6	2	7	2	2	13
38	ハマグリの一種			1	1	1	3	2	2	2	2			1		5						1	3	2	1	4		1	1	1				1		2					1						4	3	2	2	4	16	18	27	17	27	43
39	二枚貝不明			1							2															1																										0	0	1	0	3	1
合計		50	42	11	13	14	40	56	14	11	17	14	24	4	2	11	3	1	0	1	0	47	50	21	14	18	20	21	5	9	8	6	6	1	2	6	3	2	2	0	3	8	2	1	4	3	31	48	7	11	19	609	617	133	138	146	808

注　完形と殻頂の右同士・左同士を足して、多い方を個体数とした。（破片でのみ出土した貝種については、最少個体数「１」と数えた）

第33表　魚類出土量

目・科・種名・部位 ＼ 出土地					SR01	SR04	SR05	SR08	SA01	SA03	SA05	SA06	SS01	SD01	SK02	SK03	SK05	SK06	SK07	世誇殿珊瑚混粗砂質土層	世誇殿黄褐色微砂層	世誇殿基壇内ピット	戦争遺物包含層	取り上げ番号	A-2	A-2.3	A-3	A-4	B-3	B-4	B-4.A-1	C-3	表採	撹乱	合計	個体数
ネズミザメ目	ネズミザメ科	ホホジロザメ	歯																															1	1
		ネズミザメ	脊椎骨			1	1																											2	1
メジロザメ目	メジロザメ科	メジロザメ	脊椎骨																					1	1				1		1			4	1
エイ目	アカエイ科	アカエイ科の一種	尾																										1					1	1
ボラ目	ボラ科	ボラ類	主鰓蓋骨	R L			1																											0 1	1
ダツ目	ダツ科	ダツ科の一種	歯骨	R L																								1						0 1	1
スズキ目	ハタ科	A	前上顎骨	R L										1 1														2	1				1	1 5	16
			歯骨	R L					1		1			1							1 1			1	1			2		2		1	4	9 7	
		B	前上顎骨	R L						1														1										1 1	
			歯骨	R L										1											1									1	2 1	
		ハタ類	主上顎骨	R L					1			1		2 2			1				3 1						2 2	3 1						2 3	13 11	
			角骨	R L		1 1								2 3										1			2 1						1 1	7 6	
			方骨	R L										1 3			1												1		1 1			4 5	
			舌顎	R L				1		1				2 1	1			1						1					1		1			1 7	5	
			a 前鰓蓋骨	R L																						1								1 0	
			b 前鰓蓋骨	R L										3 1																				3 2	
			擬鎖骨	R L				1		1		1		3 3			1				1				2		2 3	1 1	2 1	2 1				2	16 12	
			鋤骨																														1	1	
	アジ科	ブリ	前上顎骨	R L											1														1					2 0	2
	フエダイ科	A	前上顎骨	R L	1																			1									①	1 2	3
			歯骨	R L										1										1				1						1 2	
		B	歯骨	R L										1 1																				1 1	
		C	前上顎骨	R L										2																			1	3 0	
			歯骨	R L										1																1			1	1 2	
		フエダイ類	a 舌顎	R L						1											1													2 0	
			b 舌顎	R L																													1	1 0	
			c 舌顎	R L																	1													1 0	
	タイ科	ヘダイ	歯骨	R L																				1										0 1	1
		クロダイ	前上顎骨	R L						1				1					1							1 1		1 1	1 2		1		1	1 1	4 9	9
			歯骨	R L								1																1		1				2 2	
			主上顎骨	R L										1						1						1			1			2		4 3	
		タイワンダイ	前鰓蓋骨	R L																									1					0 1	1
		タイ科の一種	角骨	R L		1																								1			1	2 1	1
	フエフキダイ科	ヨコシマクロダイ	前上顎骨	R L									1				1													1				0 3	3
			歯骨	R L										1																				0 1	
		ハマフエフキ	前上顎骨	R L		1	1							4 7		1	1				1 3				2		2 3	1	4 1	1 3		1	5 3	19 26	26
			歯骨	R L			2 1			1				1 3	1	1	1		1		3				1 1	1		1 1	1	2	2			1 4	17 13	
			主上顎骨	R L								2		3			1				1						1	①	1	1	1			2	12 0	
			口蓋	R L					1		1 1	1		4 3			2							2 2	1	1 3	2	1	1 1	1			2 1	16 14	
			角骨	R L									1	1			1			1				1		2 1	1	1	1				2	6 7	
			方骨	R L										1 1	1		1				1 3					1			2				1 1	6 7	
			舌顎	R L						1				3											2			1	1				1 1	5 6	
			前鰓蓋骨	R L			1		1		1			2 3			1		1 1		1 1			1	1	1 1	2 3	2 2					1	13 14	
			主鰓蓋骨	R L						1																	2 1							1 3	
			副楔骨											2											1		2		2		1			1 9	
		フエフキダイ科の一種	前上顎骨	R L			1																											1 0	1
	ベラ科	コブダイ	前上顎骨	R L						2				4 4					2					1	1		1		2	1 1				1 7	13	13
			歯骨	R L								2		3 1										2			2 1	2 1					2 1	11 6	
			下咽頭骨								1								1					2			1	3	3			1	2	14	
		タキベラ	上咽頭骨	R L																								1						1 0	1
		カンムリベラ	前上顎骨	R L			1							2											1				1		1			1 4	4
		A	下咽頭骨				1																											1	1
		B	下咽頭骨											1																				1	1
		ベラ類	角骨	R L																								1						1 1	1
	ブダイ科	イロブダイ	歯骨	R L										1											1				1					2 1	2
			下咽頭骨																														1	1	
		ナンヨウブダイ	上咽頭骨	R L														1										1						1 1	1
		ナガブダイ	下咽頭骨									1		1																				2	2
		ブダイ科の一種	前上顎骨	R L			1			2 1				7 3				2			1 2			1 2		1 3	1	1					3	13 16	16
			歯骨	R L						1		1		4 2					1		1 1			1	1 2	1	2	1 1	1			1 2	12 12	
			歯																																
			a 主上顎骨	R L						1														1		1			2				2	2 5	
			b 主上顎骨	R L				1																										0 1	
			口蓋	R L						1								2						2 1			1 1							6 2	
			角骨	R L				1										1															1	2 1	
			方骨	R L					1								1																1	1 1	
			主鰓蓋骨	R L										3 2												1							1	5 2	5
			前鰓蓋骨	R L																					1									0 1	
	ニザダイ科	ニザダイ科の一種	尾部鱗																															1	
	スズキ目の一種		前鰓蓋骨	R L										2 1											1				1					2 3	3
	スズキ目	B	前鰓蓋骨	R L										2																				0 2	2
		C	前鰓蓋骨	R L																					1									1 0	1
フグ目	モンガラカワハギ科	モンガラカワハギ科の一種	前上顎骨	R L										1																				0 1	1
			舌顎	R L																													1	0 1	
科・種不明			a 歯骨	R L																													1	0 1	7
			b 歯骨	R L										1																				0 1	
			a 主上顎骨	R L										1																				1 1	
			b 主上顎骨	R L									1																						0 1	
			c 主上顎骨	R L																													1	0 1	
			角骨	R L						1																								0 1	
			方骨	R L																													1	2 1	
			舌顎	R L		1	1		1						1		1				1			1			2			1			1 2	6 7	
			前鰓蓋骨	R L			1				1			1 5											1		2		1					5 7	
			主鰓蓋骨	R L										2 2												1								3 2	
			擬鎖骨	R L																								1						0 1	
			鋤骨										1				1							1										3	
			副楔骨		1																													2	
			背鰭棘			2	1	3	11	1	5			11	2				1		21			8	2		12	6	4	2		1		10	103	
			臀鰭血管間棘			1					1			5	1		2				4				1		5	2	1					6	29	
			第2臀鰭棘						1				1	2											2		2		2	2				7	19	
			脊椎骨			3	7		3	8	13	4	3	14	2		12	1	2		25	1	2	23	10	1	51	16	15	9	1			54	280	
			尾椎							2				1					1		3			1			1	1	1	6	1			5	23	
			鱗																					2										2	
合　計					2	10	25	3	11	41	19	21	8	166	10	2	30	2	15	2	81	1	2	62	41	4	133	62	70	47	4	7	2	161	1044	131

注　○：キズあり

第34表　ノコギリガサミ出土一覧

部位	右／左	出土地	個数
可動指	右	SA03グリ石上層	1
		撹乱	1

第35表　ウミガメ出土一覧

部位	右/左	出土地	個数
頭頂骨	右	A－3撹乱	1
上腕骨	右	S R05	1
橈　骨		A－3東西トレンチ	1
尺　骨		A－3東西トレンチ	①
大腿骨	左	A－3東西トレンチ	1
指　骨		A－2撹乱	1
		A－2トレンチ⑧撹乱	1
		A－3撹乱	1
		A－4撹乱	1
		SR05黒色土層	1
		撹乱	1
腹甲板		A－4トレンチ⑦撹乱	1
		B－3暗褐色土	1
		B－4撹乱	1
		B－4．A－1撹乱	1
		C－3土坑	1
		SR08裏込め	1
		撹乱	1
肋骨板		A－3撹乱	4
		A-3北側トレンチ③撹乱	1
		A－3④撹乱	1
		A－3トレンチ②撹乱	1
		A－4トレンチ撹乱	1
		A－4トレンチ⑦撹乱	3
		B－3撹乱	1
		B－3①表採	1
		B－3④撹乱	2
		B－4②黒褐色土層	3
		SR06裏込め	1
		SD01造成土	1
		世誇殿前庭造成土	1
		表　採	1
		東側トレンチ①撹乱	2
		西側トレンチ⑦撹乱	1
縁骨板		B－3③撹乱	1
		SK05裏込め	1
		A－3東西トレンチ	1
剣状突起	右	B－3暗褐色土	1
破　片		A－3トレンチ②撹乱	1
		A－4撹乱	1
		A－4トレンチ⑦撹乱	1
		B－4．A－1撹乱	1
		B－3暗褐色土	1①
		SK05内	3
		SA05淡灰褐混砂礫土	1
		SR05	1
		A－3①SR05裏込め	1
		A－3東西トレンチ	1
		A－3①東西トレンチ	1
		A－3東西トレンチ	1
		西側トレンチ⑦撹乱	3
		撹　乱	1

注　○：キズあり

第36表　ハブ出土一覧

部位	出土地	個数
歯	SR02グリ石内	1

第37表　トリ出土一覧

種類	部位	右/左	残存部位	出 土 地	個数
カモ類	烏口骨	右	近位端	SK05内	1
	尺骨	右	近位端	SK05内	1
			遠位部	SK05内	1
	中手骨	左	近位端～遠位端	SK05内	1
			骨体	SA03グリ石下層	1
	大腿骨	右	近位端	SK05	1
	脛骨	右	近位端	SK05	1
		左	骨体	B－3 ③撹乱	1
カラス	尺骨	右	近位部～遠位端	B－3 ③撹乱	1
	中手骨	右	完存	撹乱畦	1
	中足骨	左	遠位端	SK05	1
トリ	上腕骨	右	近位部	SR05	1
	橈骨	右	骨体	B－3 暗褐色土	1
		不明	骨体	SK05内	1
				SA03グリ下層	2
	尺骨	右	遠位端	SA03グリ下層	1
		左	遠位端	B－3 暗褐色土	1
			近位部～骨体	東側トレンチ⑦撹乱	1
		不明	骨体	A-3②東西トレンチ	1
	中手骨	不明	遠位部	SK05	1
	大腿骨	不明	骨体	B－3③撹乱	1
	脛骨	右	骨体	SK05	1
			近位部	トレンチ3撹乱	1
		左	近位部	C－3撹乱	1
		右	骨体～遠位部	SA03グリ下層	1
	中足骨	右	遠位部	SA05褐色混砂土	1

第38表　ヒト出土一覧

部　位		出土地	個数
頭蓋骨	破片	A－２撹乱	1
		表採	1

第39表　ネズミ出土一覧

部位	右/左	出土地	個数
上腕骨	右	B－3暗褐色土	1
	左	撹乱	1
尺骨	右	B－3暗褐色土	1
寛骨	右	B－3暗褐色土	1
大腿骨	右	A-4トレンチ⑦撹乱	1
		B－3暗褐色土	1
		SR05裏込め	1
		SA06暗褐礫砂土	1
		世誇殿前庭造成土	1
		A－3②東西トレンチ	1
		トレンチ②撹乱	1
	左	A-3トレンチ③撹乱	1
		B－3暗褐色土	1
		B－4撹乱	1
		C－3土坑	1
		SR04根石撹乱	1
		SA05褐色混砂土	1
		A-4①東西トレンチ	1
脛骨	右	C－3土坑	1
		SA05褐色混砂土	1
			1
		A-4①東西トレンチ	1

第40表　イヌ出土一覧

部位	右/左	残存部位	出土地	個数
頭蓋骨	左右	後頭顆	東側トレンチ②撹乱	1
犬歯			SK02埋土	1
下顎骨	右	$P_{3,4}$ $M_{1,2,3}$	東側トレンチ②撹乱	1
腰椎			SK05	1
棘突起			A－4トレンチ⑦撹乱	1
肋骨	右		東側トレンチ③④撹乱	1
			表採	1
	不明		東側トレンチ⑦撹乱	2
			SA02埋土	1
			東側トレンチ②撹乱	3
上腕骨	右	近位端	SK05	1
		遠位端		1
	左	遠位部		1
尺骨	右	近位端～骨体	東側トレンチ③④撹乱	1
寛骨	右	腸骨部	SK05内	1
		臼部～坐骨		1
大腿骨	不明	骨体	B－3③	1

第41表　ネコ出土一覧

部位	右／左	残存部位	出土地	個数
橈骨	左	近位端	SK08埋土	1
大腿骨	右	近位端～骨体	SK02埋土	1
脛骨	左	近位端～骨体	SK08埋土	1

第42表　ジュゴン出土一覧

部位	右／左	出土地	個数
腰　椎		SA05淡灰褐混砂礫土	1
肩甲骨		SK05	1
肋骨	右	B－2 ①撹乱	1
	不明	A－3撹乱	1
		C－3トレンチ撹乱	1
破　片		B－3 ③撹乱	2

第43表　ウマ出土一覧

部位	右/左	残存部位	出土地	個数
上顎骨	右	歯	A－3④撹乱	1
下顎骨	左	下顎骨	SA06裏込め	1
椎体		腰椎	C－3土坑	1
			C－3地山直上	①
		仙骨	C－3土坑	1
肋骨	右		A-3トレンチ③撹乱	1
	不明		A－3撹乱	3
			A-3トレンチ③撹乱	1
			B－4②黒褐土	4
			SA03栗石上層	1
上腕骨	左	遠位端	A－2表採	1
橈骨	右	近位端	B－4③撹乱	1
		近位部	SR05埋土	1
	左	遠位部	B－3③撹乱	1
尺骨	右	遠位部	B－4③撹乱	1
寛骨	右	腸骨部	撹乱	1
		腸骨部～臼部	C－3土坑	①
大腿骨	左	遠位部	B－3③撹乱	①
膝蓋骨	左		A-3①東西トレンチ	1
脛骨	右	骨体～遠位部	A－2表採	①
	左	近位端	表採	1
基節骨			A-4トレンチ⑦撹乱	1
			A-3① SR05裏込め	1
種子骨			SA06裏込め	1

注　○：キズあり

第44表　ブタ歯出土一覧

部位	右/左	残存部位	出土地	個数
上顎骨	右	I^1	C－3土坑	1
		犬歯	B－3	♀1
		$P^{3,4}$ M^1	B－4、A－1	1
		$dm^{2,4}P^{<3>}M^1$	B－3	1
		M^3	SK05最下層	1
	左	I^1	撹乱	2
		dm^4	A-3①東西トレンチ	1
		M^2	SK05最下層	1
			撹乱	1
		M^3	SK05最下層	1
下顎骨	右	I_1	SS05	1
			A－3	1
		dm_4	SK05裏込め	1
		$P_{<2>}$	B－3	♂1
	左	i_2	SR05裏込め	1
			表採	1
			A－4	1
		M_2	A－3	1
		$M_{2,3}$	B－3① SR05裏込め	1

第45表　ウシ歯出土一覧

部位	右/左	残存部位	出土地	個数
上顎骨	右	dm^4	東側トレンチ③④撹乱	1
		P^3	B－3①撹乱	1
		M^1	A－3撹乱	1
		M^3	SA06裏込め	1
	左	M^1	撹乱	1
		M^3	SR05埋土	1
			B－3　3撹乱	1
下顎骨	右	切歯骨	SK05石積裏込め	1
			A－3東西トレンチ	1
		M_1	西側トレンチ⑦撹乱	1
		M_3	SK05石積裏込め	1
			C－3撹乱	1
	左	切歯骨	SR05埋土	1
		dm_4	B－3暗褐色土	1
		M_1	A－3東西トレンチ	1
			A－4トレンチ③撹乱	1
		M_2	B－2トレンチ①撹乱	1
歯		破片	A－3④撹乱	1
			C－4撹乱	1
			SA05埋土	1
			A－3　SR05裏込め	1
			SR01根石	1
			撹乱	2

第46表　ウシorウマ出土一覧

部位	右／左	出土地	個数
側頭骨	左	撹乱	1
	左	B－3 ③撹乱	①

注　○：キズあり

第47表　ヤギ出土一覧

部位	右/左	残 存 部 位	出　土　地	個数
上顎骨	左	M^3	A－3トレンチ①撹乱	1
上腕骨	右	近位部～遠位端	東側トレンチ②撹乱	1
	左	両端はずれ	A－2④撹乱	1
橈骨	左	近位端	SK05	1
		近位骨端はずれ	A－3トレンチ①撹乱	1
尺骨	右	近位骨端はずれ～骨体	B－3①撹乱	1
	左	骨体	SK05	1
中手骨	右	近位端	B－3トレンチ②撹乱	1
	左	近位端～遠位骨端はずれ	東側トレンチ③④撹乱	1
寛骨	右	腸骨部～臼部	東側トレンチ③④撹乱	1
	左	坐骨	B－3①撹乱	1
大腿骨	左	骨体	東側トレンチ⑦撹乱	1
中足骨	右	近位端	東側トレンチ③④撹乱	1
基節骨	左		撹乱トレンチ③	1

第48表　種不明出土一覧

部位	右/左	残存部位	出土地	個数
頸　椎			SA05淡灰褐混砂礫土	1
棘突起			SR05下層	1
肋骨	右		A－3東西トレンチ	1
	不明		A－3撹乱	1
			東側トレンチ②撹乱	2
			撹乱	2
寛骨	右	恥骨部	SA05淡灰褐混砂礫土	1
尾　骨			西側トレンチ⑦撹乱	1

第49表　ニワトリ出土量

部位		SR04			SR05			SA01			SA03			SA05			SA06			SS01			SD01			SK03			SK05			SK07			SR05+SS05			世誇殿黄褐色微砂層			取り上げ番号			A-2			A-3			A-4			B-3			B-4			C-3			表採			撹乱			合計		
		右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明
烏口骨	完存																															1															1																					2	0	0
	近位端																	1									1			1																	1							1														1	4	0
	近位部～遠位端																																												1																							0	1	0
	骨体											1																																																								0	1	0
	遠位端																																									1						1																		1		0	3	0
鎖骨																																											1																									0	0	1
椎体	頸椎																											1																																							1	0	0	2
	胸椎															1																																							1													0	0	2
	胸骨																																													1																						0	0	1
	椎骨																																																						1													0	0	1
肩甲骨	近位端																																												1								1													2		1	3	0
	骨体																																																																	1		0	1	0
上腕骨	近位端																																																																	1		0	1	0
	近位部																				1																										2						1							1								3	2	0
	近位部～遠位骨端はずれ																																																																1			1	0	0
	近位部～遠位端																													1																		1																				0	2	0
	骨体													1																	1							1				1						1					1	1		1									1	3		5	6	1
	遠位部																																																				1				1											1	1	0
	遠位骨端はずれ																													1																																				1		0	2	0
	遠位端								1						1															1																		1			1															2		0	7	0
橈骨	近位端														1																																																					0	1	0
	骨体		1																																								1				1								1													1	1	2
	遠位部																																								1																											1	0	0
	遠位骨端はずれ																																																				1															1	0	0
	遠位端																												1													1																							1			2	1	0
尺骨	完存																				1																																															0	1	0
	両端はずれ																																																																	1		0	1	0
	近位端																			1									1																																				1	1		3	1	0
	近位部																																																																	2		0	2	0
	近位部～遠位部																																																				1	1												1		1	2	0
	近位部～遠位端																																														1			1			1													1		3	1	0
	骨体					1		1																			1			1																				1	1		1	1												3		3	8	0
	骨体～遠位部																																																					1														0	1	0
	遠位部																																																							1									1	1		2	1	0
	遠位端																																								1						1																					2	0	0
中手骨																														1																																						0	1	0
寛骨																																																															1					0	1	0
大腿骨	完存											1																																																								0	1	0
	骨頭のみ																																									1																										0	1	0
	近位端		1								1												3						2	2																	3	1		1				1														10	5	0
	近位端～骨体																																																																1			1	0	0
	近位端～遠位部																																																					1														0	1	0
	近位端～遠位端																																																				1															1	0	0
	近位部																																											1			1																			1		2	1	0
	近位部～遠位部														1																																																					0	1	0
	骨体				1							1																	1																			2						1	1					2					2		1	4	6	2
	骨体～遠位部																																																																1			1	0	0
	遠位部											1																																									1															1	1	0
	遠位骨端はずれ																						1																																													1	0	0
	遠位端																																																								1								4	①		4	2	0
脛骨	近位端																													1																		1																	2	1		2	3	0
	近位端～骨体																																		1																																	1	0	0
	近位端～遠位部																													1																																						0	1	0
	近位部											1					1																																																			1	1	0
	近位部～骨体																																														1																					1	0	0
	近位部～遠位部																																																					1														0	1	0
	骨体					1																							2	1												3						2		1			3	1						1					3	2		9	11	0
	骨体～遠位端																												1																																							1	0	0
	遠位部											1																	2										1														2												1			5	2	0
	遠位骨端はずれ																																														1																					1	0	0
	遠位端											1									1			1						1											1												1	2											1	2		3	8	0
中足骨	完存																																														♂1							♂1														1	1	0
	近位端																																														2				1			1												2		2	4	0
	近位端～遠位部																																								1																											1	0	0
	近位骨端はずれ										1																																																									1	0	0
	近位部								1																																												2													1		2	2	0
	近位部～遠位部																																																										♀1									1	0	0
	骨体							♀1																						♂1			♀1								♀2	♂1					♀1	♀1		♀1			♀2♂1	♀1											♀2♂1			11	5	0
	遠位部											♀1																	1																								1	♀1												♀1		2	3	0
	遠位端																													♀1																							♀1															1	1	0
合計		0	2	0	1	2	0	2	2	0	2	8	0	1	3	1	1	1	0	1	3	0	4	1	0	0	2	1	11	14	1	1	1	0	1	0	0	1	1	0	6	8	2	1	2	1	17	11	0	5	3	0	23	16	4	2	2	0	1	4	0	0	1	0	23	32	2	104	119	12

注　○：キズあり、「＋」：接合の意

第50表　ウシ出土量

部位		SR01			SR04			SR05			SR08			SA03			SA05			SA06			SS01			SD01			SK02			SK05			SK06			SK07			SK08			世誇殿前庭埋土			世誇殿黄褐色微砂層			取り上げ番号			A-2			A-3			A-2･3			A-4			B-3			B-4			C-2			C-3			表採			撹乱			合計		
		右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明
頭骨	角																																																																		2															1	0	0	3
	側頭骨																												1	1																							2																														3	1	0
	側頭骨頬骨突起																																																																				1														0	1	0
	舌骨																		1																																																																0	0	1
	破片																																																																											1							0	0	1
下顎骨	下顎骨																																																					1																													1			1	1	0
椎体	頸椎																																																			2															1																0	0	3
	胸椎																		1			2												1																		①						1						1												2							0	0	9
	腰椎																																																			1																															0	0	1
	棘突起			1			1															①																																				2									1									4						3	0	0	13
	椎体片									1									1															2																		1			1												1			1												1	0	0	9
肋骨	近位～							1		3						1			9			4									3		1	1					2	1										3	3①	10		2	6	①	2	4						5	3①	3	19①		1	4						5				2		9	11	15	85
	軟骨																																																									1																									0	0	1
	破片																																						1																																												0	1	0
肩甲骨	骨体											1																																							1														1																1		1	3	0
	骨体～遠位部																																																		1																																0	1	0
	遠位部																				1																																				1																	1									1	2	0
	遠位端								①																																										①																																0	2	0
	破片			1						1										1																																																															1	0	2
上腕骨	近位骨端のみ																																																														1																		1		0	2	0
	近位端																				1																																																														0	1	0
	近位部																										1																																							①																	0	2	0
	遠位部																													1																																				1															1		0	3	0
	遠位骨端はずれ																1																																																																		1	0	0
	遠位骨端のみ																																																								1								1																		1	1	0
	破片																																																		1		1												1	1																	2	2	0
橈骨	近位端																				(1)														①																		①																														2	1	0
	近位部																																																																	2														1			1	2	0
	遠位部																																																				①																														1	0	0
	破片																																																																1															1		1	2	0	1
尺骨	近位部～骨体																																						1																																												0	1	0
	骨体																																																				1			1									2				1												2		4	3	0
	遠位部																																																																1																		1	0	0
手根骨	橈側																																																													1																		1			2	0	0
	中間																																																	1																																	1	0	0
	尺側																																																																																1		0	1	0
中手骨	近位部～遠位部																																																																1																		1	0	0
	骨体																																																									1									1			1													0	0	3
	破片																																																																		1																0	0	1
寛骨	腸骨部								1												①																													1	①		1																								①						3	3	0
	腸骨部～臼部																																																		①																																0	1	0
	臼部								①																																									①																									1								1	2	0
	坐骨																			①				1									1																																																		1	2	0
	破片																																																	1																																	1	0	0
大腿骨	骨頭のみ																	1										1																																				1																			0	1	2
	近位部																	1																(1)																																								1		1							1	1	2
	遠位部																																																																1	1																	1	1	0
	遠位端																																																							1			①																								2	0	0
	破片																																																			1														1																	0	1	1
脛骨	近位部																																																																1																		1	0	0
	骨体																				1								1																																																						1	1	0
	遠位部																1																																																																		1	0	0
	遠位端																																																	1																														1			2	0	0
	破片																																															1		1																								1									2	1	0
果骨																																																																										1									1	0	0
踵骨																																																		1																					1												2	0	0
距骨									①																																																									1																	0	2	0
足根骨	第4																																								1																																										1	0	0
中手・中足骨																			2																																																1																0	0	3
中足骨	近位端																			1													1								1																																										2	1	0
	骨体																																																							1											1																1	0	1
	遠位部																																																																																1		0	1	0
	遠位端																																													1																																					0	0	1
	破片																																																																		1															1	0	0	2
種子骨										1																																																												1													0	0	2
基節骨																																	1																		1					1	1								1	2		1						2	1					2			7	6	0
中節骨		1																																																1	1						2																	1						1	1		4	4	0
末節骨																																																		1						1																		1	1								3	1	0
合計		1	0	2	0	0	1	1	4	6	0	1	0	0	0	1	2	2	14	3	5	7	0	1	0	0	1	1	2	2	3	0	4	5	1	0	0	0	4	1	2	0	0	0	0	1	0	1	0	12	12	16	7	3	7	6	7	9	1	0	0	1	1	7	15	13	30	1	3	7	1	0	0	8	3	13	1	0	0	10	8	16	75	75	147

注　（　）：破片、○：キズあり

第51表　ブタ出土量

部位＼出土地		SR01			SR04			SR05			SR06			SA01			SA02			SA03			SA05			SA06			SS01			SD01			SK02			SK03			SK05			SK06			SK07			SK08			世誇殿前庭埋土			世誇殿珊瑚混粗砂質土層			世誇殿黄褐色微砂層			世誇殿基壇内ピット			戦前遺物包含層			取り上げ番号			A-2			A-2·3			A-3			A-4			B-2			B-3			B-4			C-3			C-4			表採			撹乱			合計		
		右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明	右	左	不明
頭骨	頭頂骨																																																																1																																				1	0	0
	頭頂骨～前頭骨																																					3	1																																																																	3	1	0
	前頭骨																																					1																																							(1)	1																										2	1	0
	側頭骨																																																																			1																																	1	0	0
	頬骨																																1											1													1																											1																	1	3	0
	側頭骨頬骨突起																																																							①																																																1	0	0
	側頭骨窩																																																																																						1														0	1	0
	後頭骨頚静脈突起																													1																																																																							0	1	0
	項稜																																																																												1																								1	0	0
	後頭顆																																						1																																																														0	1	0
	岩様部骨胞																																					1																																																																		1	0	0
	破片									1																																																																																													1	0	0	2
下顎骨	下顎骨											1																														1																	1																												1														1	1		2	4	0
	角骨																																																																																					1																		1	0	0
	筋突起																																																																													1																										0	1	0
	破片																																																																																													1										0	0	1
椎体	環椎																																																1																																																							0	0	1
	軸椎																																													1																																																										0	0	1
	胸椎						1			1															1																																																			1																												0	0	4
	腰椎																					1															1																																				1																															0	0	3
	椎体																																										2																		1																					1						2																0	0	6
	仙骨																																																																																				1																0	0	1
	尾骨																																																																		1																																					0	0	1
	棘突起									1			1									1															1						2																											1			1															1						1									1	0	0	11
肋骨	近位～	1		1			1		1	7					1				1	2	1	3	2		6			1			1		2	12			2	1	1	12	4	2	13						3	1		1		1							7								1	6	2	1	6			1	4	6	10①	4		16				7		14②	1		8		1	4			1			1	7	4	34①	36	22	176
	第1																																																		1																													1	1																										1	2	0
	軟骨									1																																																																					1																									0	0	2
肩甲骨	骨体																																					2																																							1																1											3	1	0
	骨体～遠位部																																																																																												1											0	1	0
	遠位部								2			1														1												①																						1												1															1			1														2	7	0
	遠位端																																					2																																																																		2	0	0
	破片																																																																																1																				1			1	1	0
上腕骨	近位骨端のみ																						1																																																																														1	0	0
	近位骨端はずれ～遠位端																																															1																																				1																	0	2	0
	近位部																																																																																		1																		1	0	0
	近位部～遠位部																																																																												{1}									1																		2	0	0
	近位部～遠位骨端はずれ																																																																																												1											0	1	0
	骨体																																						1																					1														1																			1								1	3	0
	骨体～遠位部	1																																																																		1																																				2	0	0
	遠位骨端はずれ																																						1																																															1															1	1	0
	遠位端																																																																	1																		1																	0	2	0
	遠位骨端のみ																																					1																																																								1				1			2	0	1
	破片																																																																																					1												1			2	0	0
橈骨	近位端																																																																													1																							0	1	0
	近位端～骨体																																																							1																			1									1																	1	2	0
	近位端～遠位部																																																																	1											1										1														1	2	0
	近位端～遠位骨端はずれ																																																																	1																																			0	1	0
	近位骨端はずれ																						1																																																																														1	0	0
	近位部																																																											(1)																																									0	1	0
	近位部～遠位部																																																																																																	1			1	0	0
	骨体																																																																	1																																1			1	1	0
	遠位部																																																																																						1														0	1	0
	遠位骨端のみ																																																																	1																																			0	1	0
尺骨	近位骨端のみ																																						1																																																														0	1	0
	近位骨端はずれ																																																																																			1																	0	1	0
	近位部																																																																																																		1		0	1	0
	近位部～遠位部																																																																												1																											1	0	0
	骨体																																																																																									1			1		1	1						1		1	4	0
	遠位部																																																																												1																											1	0	0
	遠位骨端のみ																																					1																																																															1	0	0
中手骨	Ⅱ								1																													1	1																																			1	1																							1	1		3	4	0
	Ⅲ								1																													1																											1																					2															1	3		5	4	0
	Ⅳ					1																																	1																																													1															1		0	4	0
	Ⅴ																																						2						1																																						1	1														1			2	4	0
寛骨	腸骨部								1																																																					①			1																																				2	1	0
	腸骨部～臼部																																																																												1									1																		2	0	0
	腸骨部～坐骨																						1																																																																																	1	0	0
	臼部																																																																																																					1		0	1	0
	坐骨																																																																1																		1							1																	2	1	0
大腿骨	骨頭のみ																						1																			2																													1																																	2	2	0
	近位骨端はずれ																																					1																																																															1	0	0
	近位部																																																																																		1																		1	0	0
	近位部～遠位部																																																																				1																																0	1	0
	骨体							1									①																																																									1				2		1						1	2						1											5	5	0
	遠位部																																						1									1																																			1													1					1	3	0
	遠位端																																																																				1																																0	1	0
	遠位骨端のみ																						1																																																																														1	0	0
	破片							1										1																																																											1																											2	1	0
膝蓋骨																																																																																	1																							0	1	0
脛骨	近位骨端のみ																																																																																																		1		0	1	0
	近位端								1																																																																																												0	1	0
	近位部																																																																													1																										0	1	0
	近位部～遠位部					1																																																																																													2		0	3	0
	近位部～遠位骨端はずれ																																																																																																		1		0	1	0
	骨体																															1									1																																				1															1									1	1		5	1	0
	骨体～遠位部							1																																																																																													1	0	0
	遠位骨端はずれ																																																																													1																							0	1	0
	遠位端																1																																							①																																																2	0	0
	破片								1																																																											1																																				1	1	0
腓骨	近位部							1																															1																																																														1	1	0
	近位部～骨体																																																																														1																						0	0	1
	骨体									1						1																		1						1									1									1												1			1																					2									1	0	0	11
	遠位部																																																																													1																										0	1	0
	破片																																																																					1																																		0	0	1
踵骨																																						1	1																											1		1							3								1①	1														1			5	6	0
距骨																																							①																																							1																								1		0	3	0
足根骨	中心								1																													1																																																															1	1	0
	第4																																																																			1																		1																		2	0	0
中手・中足骨										1																								2			1						2																		5												1						2①																								2	0	0	17
中足骨	Ⅱ																																					2	1																																							1											1															3	2	0
	Ⅲ																																						2																																						1			2	1					1	1		1												1			6	4	0
	Ⅳ																																					1																																							1	1		1						1																		4	1	0
	Ⅴ														1																							1	1																																							1		1				1			1			1											2			4	6	0
基節骨								1																														3	4																																			1						1												1	1											1	1		8	6	0
中節骨																																																																														1																										0	1	0
末節骨					1																																																1																								1																									1		3	1	0
合計		2	0	1	1	2	2	5	9	13	0	2	1	0	2	1	2	1	1	2	1	5	7	0	7	1	0	1	0	0	1	1	3	15	0	1	5	2	1	13	28	26	19	0	0	1	1	1	5	1	3	1	0	1	0	1	0	1	4	2	13	0	2	0	2	0	0	4	7	9	8	4	11	1	0	2	19	23	15	12	5	18	0	1	0	22	15	20	6	7	8	1	6	8	1	2	2	0	1	1	22	21	40	156	149	240

注　（　）：破片、○：キズあり、｛　｝：幼

第５章　結語

前章まで調査成果の詳細について触れてきたが、本章ではそれらの成果をまとめ、これまでの文献資料等と突き合わせながら整理し、結語としたい。

１．絵図、古写真資料から照合できる遺構について

結論から述べると、沖縄戦による破壊や戦後における琉球大学設置時の造成等により、絵図資料や阪谷良之進作成の測量図に見られる建物、施設はほとんど残存していないことが確認され、それらの史料に見られる建物、施設以前に構築された石積みや石列、石畳といった遺構が多く確認された。また平成５・６（1993･1994）年度の東のアザナ地区の調査成果によって調査前から旧地形が損なわれていることは想定され、予想通り調査区の東側は大きく削平を受けていた（沖縄県立埋蔵文化財センター 2004）。このことからも今回確認された遺構の多くが近世に描かれた絵図資料とは照合することができず、また下層から検出された遺構の性格について殆どその詳細を把握することはできなかった。それでもA-4、B-4、C-4②グリッドで確認されたSR01・02と階段遺構がかつて後之御庭の西側と北側を区切っていた基壇状の石積みであり、そしてその東側に位置する女官居室や世誇殿へ至る階段であることが想定された（第77図）。調査後に昭和初め頃の古写真に見られる切石積みの石積みやその北側に取り付く階段は位置、規模、そして石の積み方等からSR01･02や階段遺構に相当することがほぼ間違いないと判断された。上記の遺構は全体的に上部約0.3～0.7ｍを琉大造成層により破壊を受けているため、世添殿、世誇殿や女官居室の基壇や礎石等、関連する遺構は全く確認することができなかった。加えて古写真や絵図では確認できない状況も見られた。それは後之御庭に相当する場所はかつて、珊瑚石を細かく砕いたウル敷きであったということ、そして階段遺構南側に埋甕が設置されていたことである。

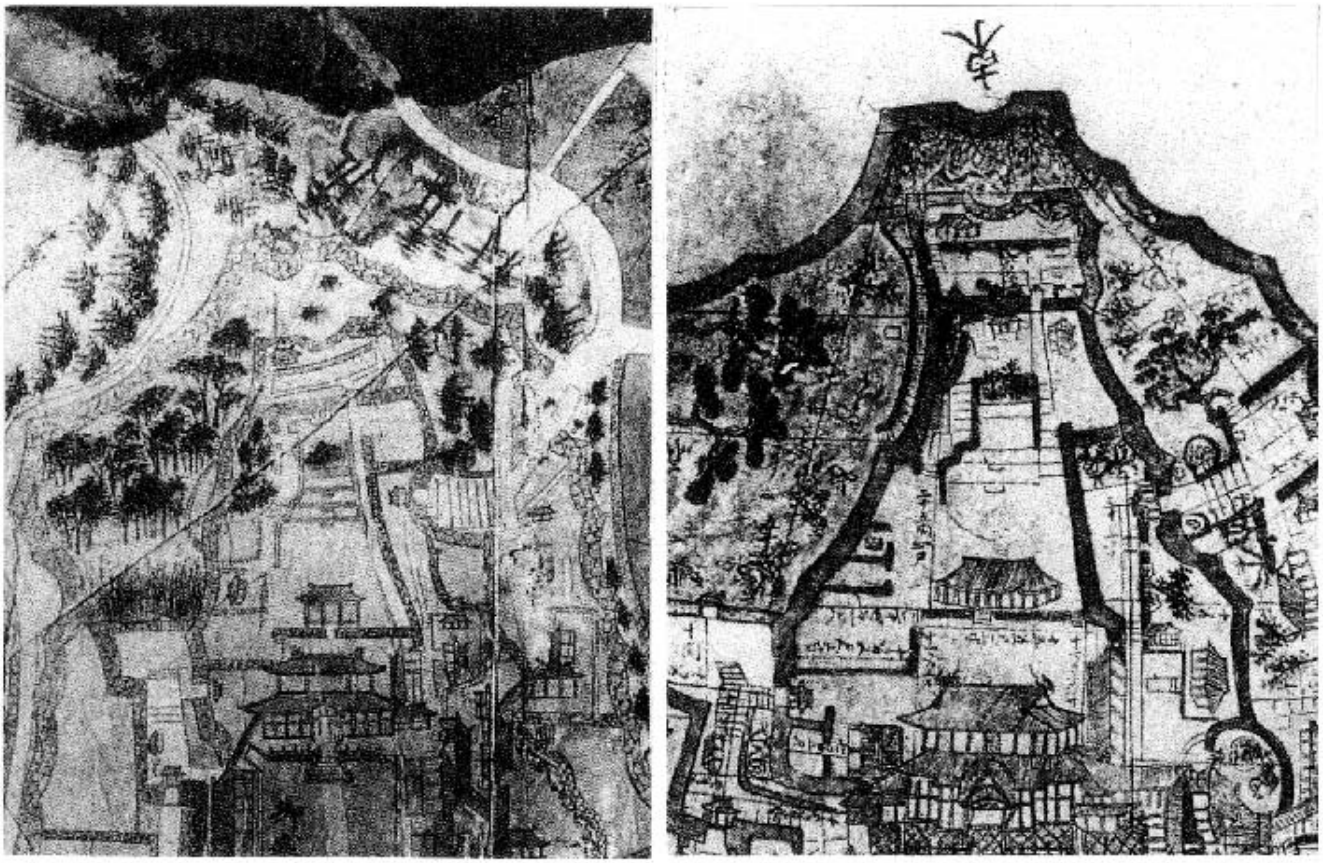
近代の遺構としては、昭和８（1933）年に創建された沖縄神社に関係する遺構が確認された。しかし、残存状況は極めて悪くSR01より西側の参道以外は確認されなかった。参道そのものは沖縄戦の際の爆撃痕が一部に見られたことから、沖縄戦時の爆撃並びに琉球大学設置時の造成で相当、近世以降の遺構は破壊を受けていることが判明した。

２．遺構の変遷について

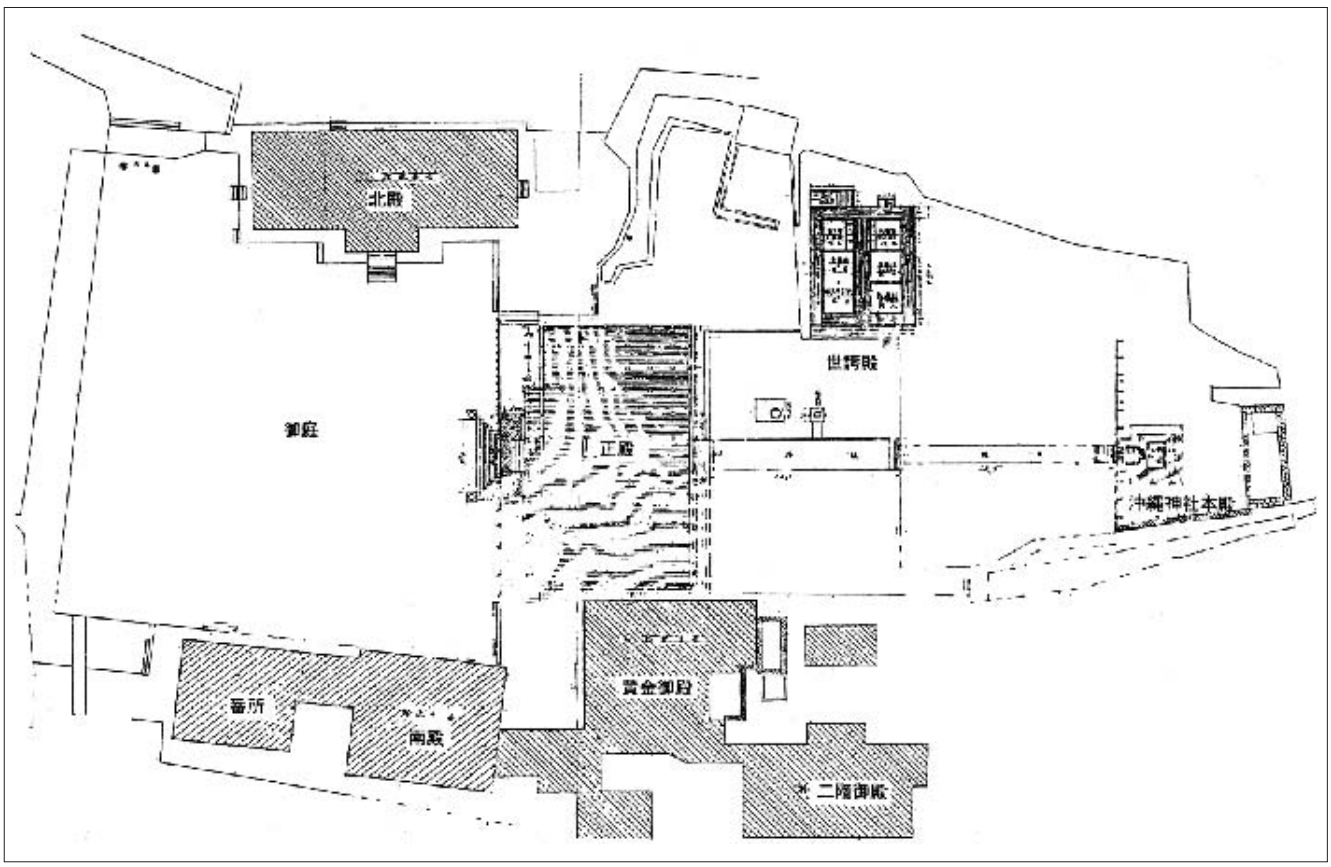
昭和20（1945）年まで残存していたSR01･02や階段遺構より古い時期に遡る石積み、石列、石敷き遺構、石囲い遺構がかなり切り合いを有しながら確認された。それら個々の遺構について全て時期を押さえることはできなかったが、推定も含めておおよそ４時期の変遷があることが解った。

まず最も古い時期に相当する遺構はSR08、SK05並びにSA01の東西面に添って設定した東西トレンチ（A-4①、A-3①・②グリッド）最下層から検出された柱穴群、C-3グリッドの柱穴群、C-3、B-4の土壙群である。ここでは第１期とする（第78図１）。柱穴の径は大小様々で、建物プランを把握することができなかった。調査区範囲の問題と言えばそれまでであるが、検出状況から見るとプランの揃った大規模な建物を想定するには困難であり、簡易な掘立柱建物が幾棟か建っていたと推測される。また土壙群も柱穴と対応した形状、配置を成していないことから、柱穴と直接的に関わる遺構とは判断され難い。柱穴、土壙内から出土した遺物を見ると14世紀末から15世紀中頃と考えることができる。今後において首里城跡から検出されるこれら柱穴、土壙を検討していく必要があることは言を俟たない。SR08は尚布里･志魯の乱の時期に比定される炭混じりオリーブ黒色粘土層が全体を覆っていたことと裏込め内からの出土遺物から、15世紀中頃以前には既に存在していたものと考えられる。

次にSA01・05、SR04・05・09、SD01、SS01といった遺構が構築される。時期は尚布里・志魯の乱に関係する



第76図　左：首里古地図 右：首里城古絵図（沖縄開発庁沖縄総合事務局国営沖縄記念公園事務所1995）



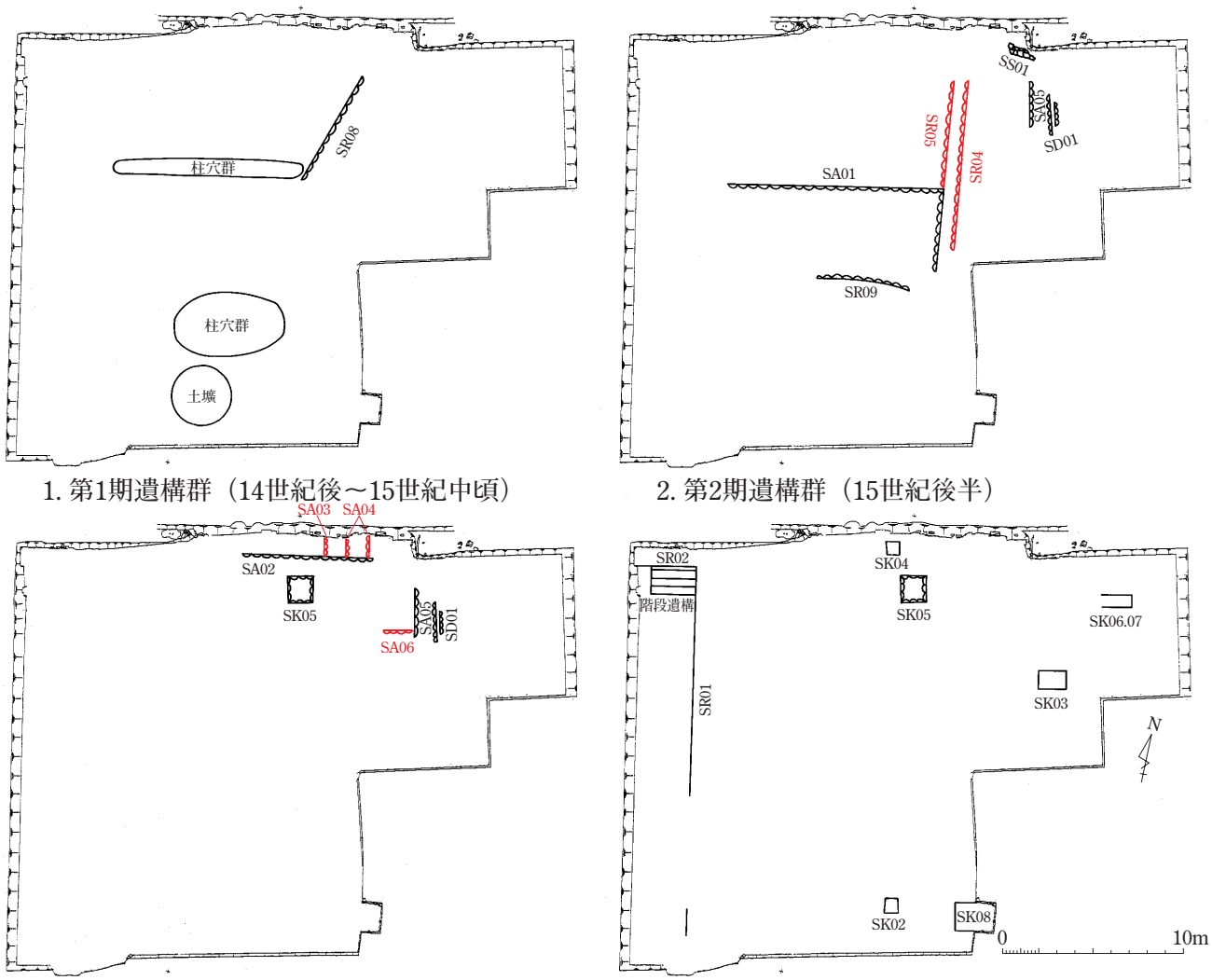
第77図　「阪谷測量図」A１サイズ青焼き（一部加筆）　野々村孝男氏所蔵

と思われる炭混じりのオリーブ黒色粘土層の直上に遺構が構築されていることから15世紀後半頃とし、ここでは第２期としておく。SA01、SR04・05はSR08と切り合い関係にあり、またSR04・05に関しては炭混じりのオリーブ黒色粘土層の直上に根石が据えられている。但しSR05はSA01の北東隅に取り付き、一部面側を埋め殺していることからSA01構築にやや遅れて取り付けられたものと考えられる。更に考察するとSA01の北面を埋め殺すためにSR05を構築したと想定される。またSR04はSR05の裏込石によって埋め殺されていることからSR05の機能が停止した後に構築されたと考えられる。出土遺物や根石を据えている炭混じりのオリーブ黒色粘土層との関係を見る限りではSA01、SR04・05における時期差は余り見られない。SA01は基壇状の遺構であったと考えられ、SR09がその南辺であったとも想定される。しかし、今回の調査で直接的な関係性を有することまで確認することはできなかった。SR09は暗赤褐色粘質土層上に据えられていることから、さらに古い時期に遡ることが想定されるが、遺構の方向が先述したSA01、SR04・05と合うことから、この時期に当てはめた。SA05は裏込め内からの出土遺物からこの時期に構築された遺構で近世初めまで継続すると考えられる。SS01については北西端が下方へ伸び、SA02･03といった遺構に切られる様相を呈している。残念ながら旧琉球大学本館の基礎によってSS01の北西端は破壊を受けているため明確な遺構同士の切り合い関係を把握することはできないが、ここではSA02･03に先行する当該時期に当てはめておく。出土遺物から18世紀初めまで機能していたと思われる。SA01はSS01に取り付くような配置を見せていることからSS01とほぼ同時期と考えた。

栗石層に覆われている遺構で、先の遺構に後続するのがSA02・03・04・05・06、SK05の遺構群である。ここでは第３期とする（第78図３）。1709年の正殿、南殿、北殿の火災後に御内原の建物が18世紀前半から中頃にかけて新築ないしは増築するといった御内原一帯が大幅な改変が成されている（首里城研究グループ1997）。このことから栗石層は18世紀前半から中頃に搬入された造成層であると考えられ、上記の遺構は18世紀には機能が停止していたと考えられる。よって第３期の時期は16世紀から17世紀とする。この時期における石積みの中でも最も大規模であるSR02は調査区の関係で根石まで確認することができなかったが、おそらく淑順門から御内原の北側へ続く旧内郭城壁でかつては正殿北辺から直線状に東へ延び、東のアザナまで続いていたと思われる。SR02の東側、つまり面側には栗石と黄褐色微砂層により埋め殺されていることから、おそらく御内原が北側に拡張された際に旧城壁をそのまま造成土を入れて改めて北側約５～10m位置に城壁を構築したと考えられる。このSR02の北側に取り付くSA03とSA04は城壁下の平場空間を仕切る石牆であると考えられる。SA03とSA04の関係についてはまず前者が構築された後、後者が前者の西側を拡張する形で新たに構築されたと考えられる。第２期から続くSA05に面側と、SA06は根石近くから翡翠釉皿、灰色瓦、塼がまとまって出土していることから16世紀頃に廃棄されたと考えられる。SA05の面側にSA06が取り付いていることから後にSA06が構築されていることが解る。SK05は出土遺物から近世初めの遺構と考えられ、全体が栗石層に覆われていたことから18世紀には廃棄されたものと考えられる。沖縄戦による火災の時期に比定される炭混じりのオリーブ黒色粘土層が内部堆積していたことから、近代以降も機能していたものと考えられる。

最後は前節で述べた近世期の遺構にSK02・03・04・06・07・08を加えた遺構群である。基本的に琉大造成層を埋土としており、近代まで続く遺構である。遅くても昭和20（1945）年の沖縄戦時の爆撃による破壊まで機能していたと考えられる。ここでは第４期とする（第78図４）。SK02・03・08の内部からは近世の遺物が出土しており、SK04はA-3グリッド北側に広がる黄褐色微砂層の上面に構築されている。これら石囲い遺構の性格については解っておらず、絵図資料や古写真による検証も行ったが、やはり詳細を把握することができなかった。同じ石囲い遺構としてSK06･07は大型の沖縄産無釉壷が据えられたままの状態で出土していることから水溜めや貯蔵のための施設であることが判明している。各石囲い遺構の形状や規模が区々なため、一概に機能を判断することができないことから今後の事例増加が俟たれるところである。

今回は遺構が密に検出されていること、調査区面積の関係等で全ての遺構を完全に把握することはできなかっ



1. 第1期遺構群（14世紀後～15世紀中頃）　2. 第2期遺構群（15世紀後半）

3. 第3期遺構群（16世紀～17世紀）　4. 第4期遺構群（18世紀～近代）

第78図　御内原地区の遺構変遷

第52表　首里城跡出土武具・武器資料地区別分布

出土地点	御庭・奉神門地区	南殿地区	北殿地区	右掖門地区	継世門地区	久慶門・歓会門地区	城郭南側下地区	書院・鎖之間地区	廣福門地区	木曳門地区	用物座地区	下之御庭地区	漏刻門地区	御内原地区	総計
八双金物		7	6			1		3	5	23	5	1		1	52
小　札		1					2	4	6	24	11	12		2	62
茱萸金具			1							2		3			6
笠　鞐	1	3	1			1		2		5	1	3			17
責　鞐			1	1					1	2	1		1		7
鎖			1					2			1	1			5
座金具			1			1			1	5		2			10
鍔		2	5				1			2	1	1		1	13
切　羽			3					2		2		1		1	9
前立て台座		1	3					1	2	1	2				10
切子頭									1	1					2
銅　弾	1	4	5		1					9	7	2		1	30
鏃　形		2	1								1	1			5
環　座		1						1	1			1			4
鯉　口			1												1
兜の一部			2												2
総　計	2	21	31	1	1	3	3	15	17	76	30	28	1	6	235

た。史跡整備に伴う遺構確認調査という性格上、上面遺構の下層にある遺構の殆どは全容を把握することができず、断片的に窺える部分のみをもって各時期に当てはめた。よって更なる検証を行っていく必要があることを付言しておく。

3．出土遺物について

出土遺物に関しては多種多様なものが確認された。中でも舶載品に関しては本土産、中国産をはじめとしてタイ、ベトナム、韓半島産といった、かつて交易が盛んに行われていたことを示す遺物が大量に出土している。稀少品に類する青磁の大型瓶、酒会壷、元様式染付の酒会壷、翡翠釉皿、法花、中国産色絵の水滴、磁州窯系磁器の器台、韓半島産の青磁瓶、褐釉磁器小型壷が確認されており、改めて王城としての首里城を再認識するに至った。残念ながらこれらの遺物の多くは琉大造成層からの出土で、実際に御内原で使用されたものであるかは判然としない。しかし、SA05とSA06は根石近くから翡翠釉皿が灰色瓦、塼の破片資料と共伴していることから、御内原の東側でまとめて遺棄したものと思われる。翡翠釉皿は完形に近いことから偶然に紛れ込んだのか、僅かな欠損でも廃棄したのか、祭祀的な意味合いが含まれているのか何れかが考えられる。これまでにも京の内地区（沖縄県教育委員会1998）や二階殿地区（沖縄県立埋蔵文化財センター2005）をはじめとする一括遺棄をした事例が首里城跡内でいくつか見られることから、今後の首里城跡の発掘調査においても注目していく必要がある。このような一括遺棄している箇所はSK08でも見ることができた。出土遺物は明朝系の灰・褐色瓦、塼であり、これらもSK08を廃棄する際の埋土と共に遺棄されたものと考えられる。他にSR02の北側でも明朝系の灰･褐色瓦、塼がまとまって出土しているのが確認されている。

上記の遺物以外には金属製品で鍍金が成された飾り金具が２点、透かしの入った八双金物１点出土しているのが注目される。特に魚々子が打たれた大型の飾り金具は建物や調度品に付属する金具と想定され、魚々子が大粒でまばらに打たれていることから沖縄で作成されたものと考えられる（京都国立博物館2003）。八双金物は沖縄県内で出土するものは殆どが鋤彫り、毛彫り、蹴彫りであるが今回確認されたのは透かし彫りの八双金物である。首里城跡では南北殿地区から１点ずつ確認されているのみである。また武具・武器資料については小札２点、八双金物１点、切羽１点、鍔１点と首里城跡の他の地区から見ても出土数はかなり限られている。参考までに他の地区での種類別・地区別出土数を下に掲げておく（第52表）。東側に隣接する東のアザナ地区では全く武具・武器資料が確認されておらず、更に東に隣接する上の毛地区からも確認されていない。また北側に隣接する右掖門地区、南側の継世門地区からは各１点ずつしか確認されていない。このことは東のアザナ及び当該地区は国王、国王妃の私的空間と国王崩御時の遺体安置施設であり、武器、武具を保管する区域ではなかったということで取り敢えずは説明が付く。少なくとも正殿を境にして東側と西側で出土数の偏りが見られることはとても興味深いと言える。

銭貨では洪武通宝の大銭が出土しており、県内でも管見の限りでは今帰仁グスク以外に類例が見られない（今帰仁村教育委員会1991）。因みに裏面には「二銭」の銘を確認することができる。また有文銭の形状に似せている無文銭が１点出土しているのが注目される。孔も小さく、表面には外縁が不鮮明ながら確認することができ、他の無文銭とは一線を画していると言える。

玉製品では勾玉が３点出土しており、材質は石及びガラスであることが確認されている。首里城跡から勾玉の出土例は少なく二階殿地区から２点確認されているだけで（沖縄県立埋蔵文化財センター2005）、当該地区で２例目となる。当該地区は儀礼空間としての意味合いも含まれていることがこれら勾玉の出土から窺い知ることができる。しかし、勝連グスクから19点、今帰仁グスクから７点出土（岸本2003）していることを考慮すると少ない印象がある。これまで確認された首里城跡出土の勾玉は何れも欠損していることから廃棄された勾玉であるものと想定される。

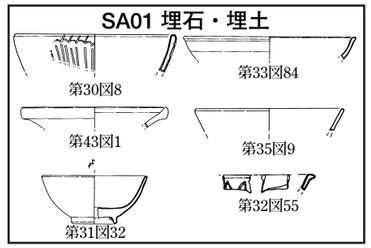
また大量の煙管が出土していることも触れておきたい。御内原は国王、国王妃、そしてそれに仕える女官のみが入れる限られた空間であった。国王、国王妃のみならず王府に奉仕する多くの女官達も嗜好品として煙草を吸っていたと考えられる。中には高位な人物が愛用していたと思われる緑釉を施した雁首が見られる一方で沖縄産の無釉陶器の雁首も見られることから御内原に関係する女官達の間で高位、下位に関係無く広く喫煙が行われていたと考えられる。王府に仕える女性達にとって御内原での奉仕はストレスが溜まる仕事であったことはこれらの遺物から想像するに余りある。

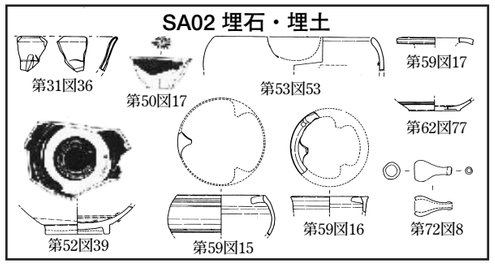
４．今後の課題

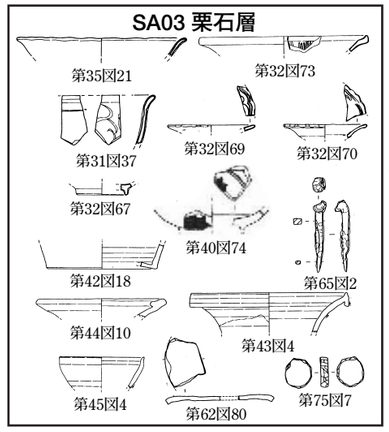
従来、この御内原地区は首里城の中でも極めて出入りが制限された区域であった。仔細については第２章で触れているので参照していただきたいが、近世の絵図資料において御内原を詳しく描いているものは先の事情によるところから極めて少ないと言える。具体的に見ていくと首里那覇之図、首里城図では正殿の裏手に当たるため僅かに建物１～２棟描かれている程度で、首里古地図や首里城古絵図（第76図）においても区画している石牆や世誇殿と思われる寄棟造り平屋の建物や寄満に相当する長屋風の建物、二階殿とその附属建物が描かれる程度である。阪谷良之進作成の測量図では世誇殿、世添殿、女官居室、寄満、二階殿、西之当蔵そして各建物を繋ぐ回廊が明記されており、『横内家文書』に見られる首里城平面図では更に多くの文献資料でも窺えない建物が描かれている。聞き取り調査においては昭和初めには既に沖縄神社として改変されていたため、やはり詳細については解らなかった。これらのことからも当該地区について各建物の構造はおろか建物配置でさえ不明であり、かつての様相を見出していくには困難な課題が未だに山積していると言える。今回の調査においてある程度、当時の状況を見出した部分もあったが、やはり建物に係る遺構が当初の予想以上に残存していなかったことは残念でならない。将来において新たな文献資料や絵図資料の発見に期待する他は無いと言える。

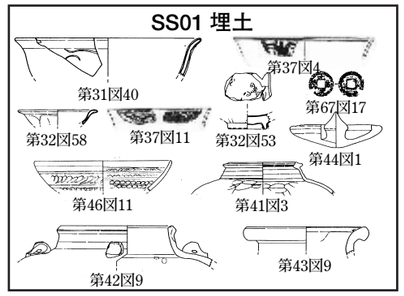
出土遺物からは稀少品としての多種多様な陶磁器が確認されたこと、勾玉が３点確認されたこと、大量の煙管が確認されたことで首里城の中でも極めて限られた人のみ入ることができた空間、神女達が祭祀と執り行った空間として、そして国王や国王妃、それに仕える女官達が居る空間という要素を抽出することができる。今回は紙幅の都合で叶わなかったが既に調査が完了した他地区と出土遺物の比較、検討を行うことによって、より明確な御内原地区の性格が浮き彫りにできるものと思われる。

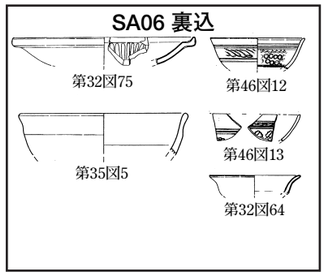
残された課題点をなるべく絞って触れてきたが細かい点を挙げると枚挙に暇がない程、多くの課題が残されていると言える。それはこれまでのも不明であった点に加えて今回の発掘調査で新たなる課題が提示されたと言える。更なる御内原の検証をこれからも行っていく必要があると最後に述べて総括を締めておく。

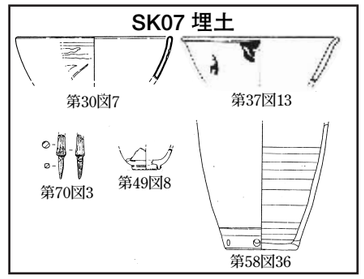


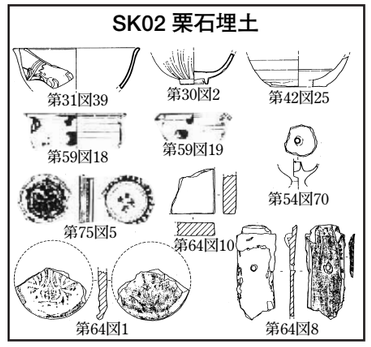


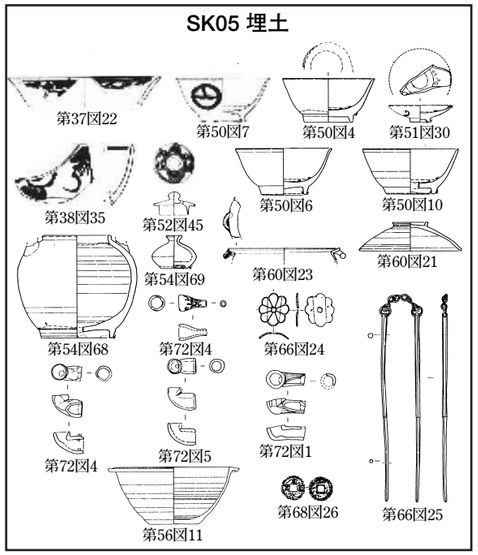


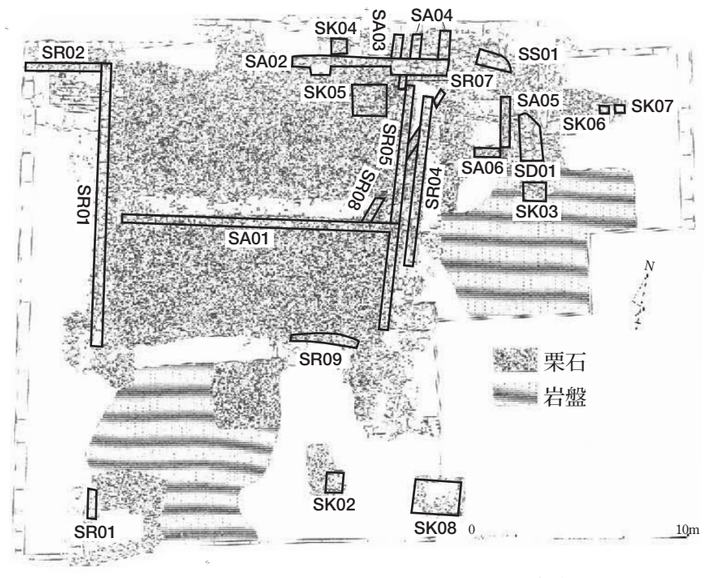


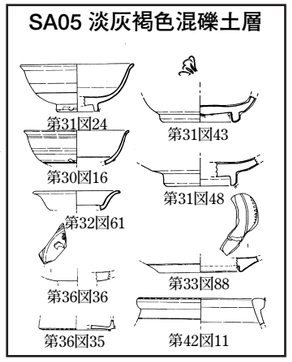


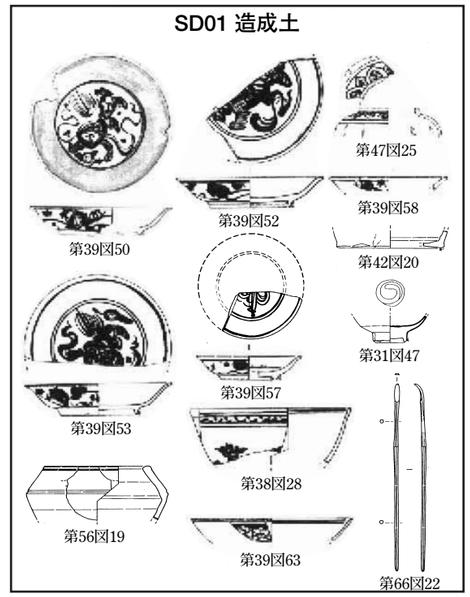


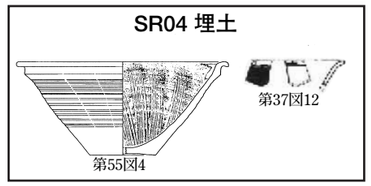


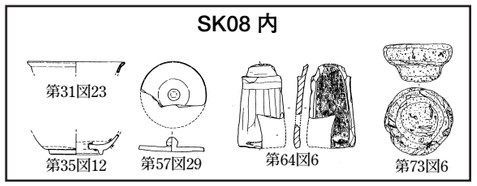


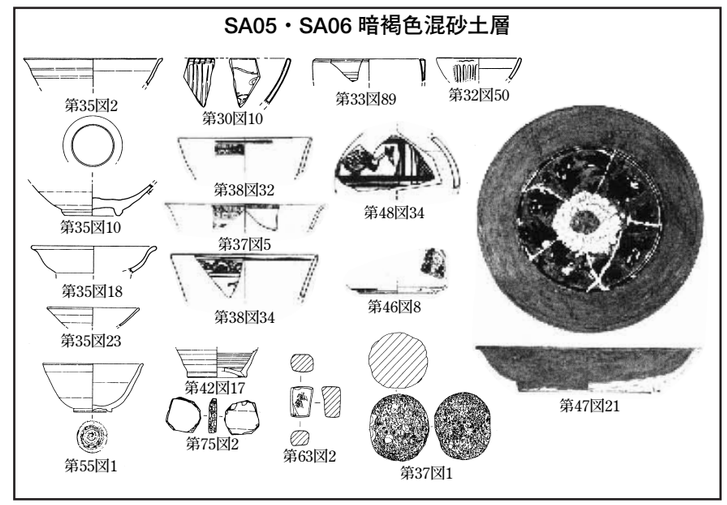


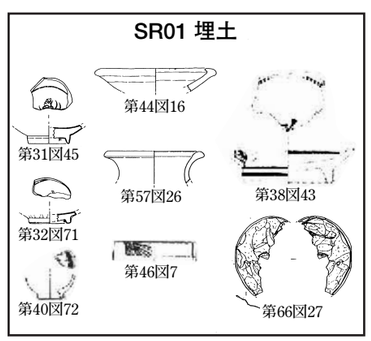


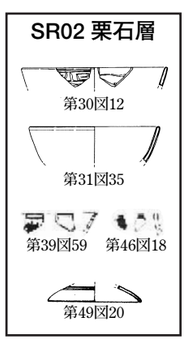


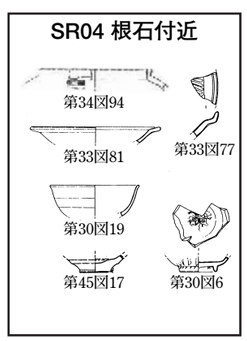


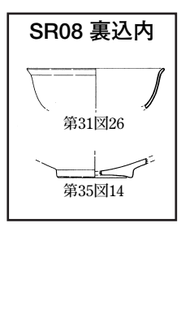


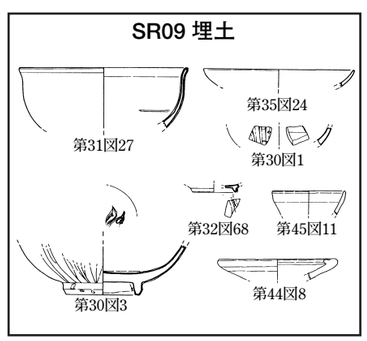












第79図　遺構出土の主な遺物

付　　編

東西トレンチ出土遺物について

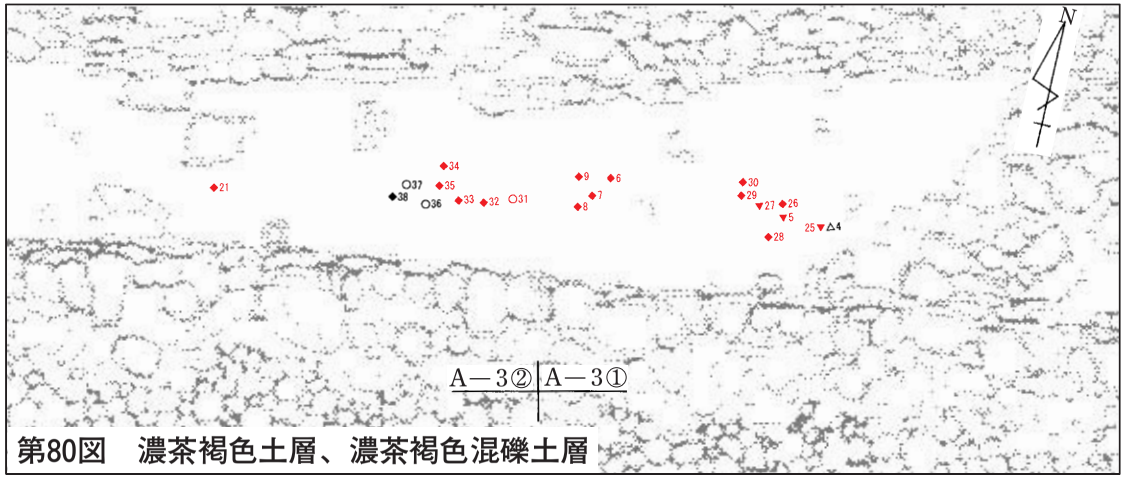
今回の発掘調査において首里城跡の最下層付近から出土する遺物の様相を把握するために、SA01に沿う形で東西方向のトレンチ（以下、東西トレンチ）を設定した。グリットで言うとA-3①、②グリット、A-4①グリットの南側に位置し、幅80㎝、長さ11.4m、面積は9.14㎡を測る。SA01の面側を埋めている栗石層を除去した後に濃茶褐色土層、濃茶褐色混礫土層が確認された。これらの遺物包含層とSA01根石との関連性を確認することと、SA01の構築時期が判明する遺物を得られることが想定されたため、出土遺物の単点取り上げを行った。出土遺物は青磁、白磁、染付、中国産・タイ産褐釉陶器、半練土器、黒釉陶器、韓半島産磁器、類須恵器、沖縄産施釉陶器、在地土器、瓦、金属製品、銭貨、骨製品、玉製品、石製品、円盤状製品、焼土が出土している。また自然遺物も多数出土している。遺物の総数は857点である。

栗石層以下は濃茶褐色土層、濃茶褐色混礫土層、濃褐色土層、暗茶褐色土層、橙褐色土層、暗褐色土層と何れも遺物を包含する粘質土層が6層確認された。このうち全面的な広がりが見られたのは濃褐色土層、暗茶褐色土層のみで他は部分的な広がりであった。このうち濃茶褐色土層、濃茶褐色混礫土層は層の広がりや遺物の様相から見てほとんど同一層であることが確認されたため、出土遺物は第80図のようにまとめた。濃褐色土層は最も厚く堆積しており、且つ出土遺物も大量に出土したためレベル高毎に第82～87図のようにまとめた。そして東西トレンチから出土した遺物で本書に掲載した遺物は第91図にまとめた。

遺物の様相としては全体的に骨、青磁、瓦がほとんどの包含層で主体となっている。各層の遺物出土状況としては最上層に当たる栗石層や濃褐色土層の上層では褐釉陶器が大量に出土している一方で、最下層となる暗褐色土層では極めて限られた数量しか確認されなかった。また濃褐色土層では下層において土器が少量ながらもまとまって確認されている。瓦は大和系と高麗系共に出土しているが特に出土位置の偏り等は見られなかった。鉄釘を主体とする金属製品は栗石層でまとまって確認されたものの、濃茶褐色土層以下では10点未満に止まった。

遺構についてはSA01の根石は東側で暗褐色土層、西側で橙褐色土層上に据えられていた。暗褐色土層は第3章第1節で触れたオリーブ黒色粘質土に比定され、その時期は15世紀前半とされることから、SA01の構築時期は15世紀後半と想定される。また、最下層である橙褐色土層と赤土を掘り込んだ柱穴も多数検出され、これらの覆土は暗褐色土層であることから、15世紀前半以前に掘り込んだものと想定される。

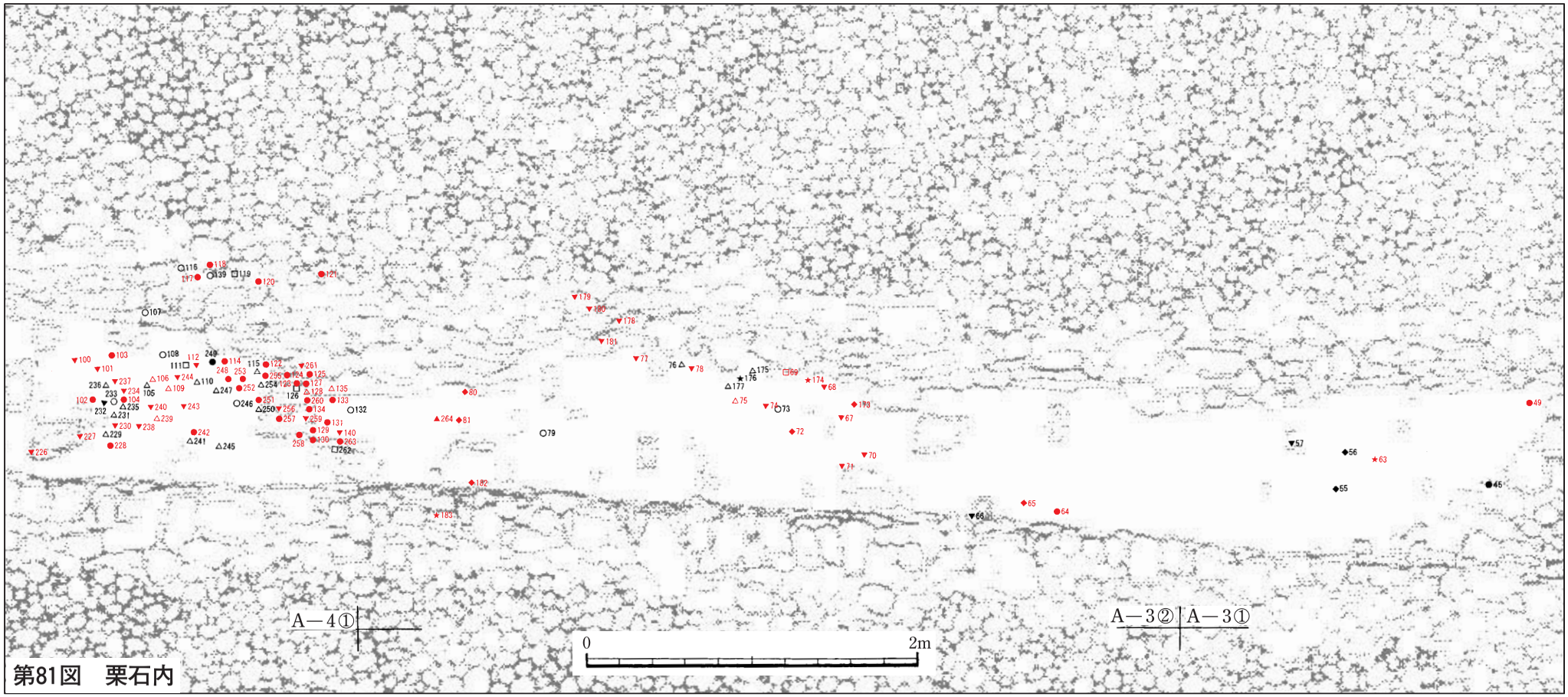
まとめると15世紀前半には高麗系、大和系といった灰瓦、青磁、褐釉陶器、そして在地土器が首里城内で受容されており、15世紀後半以降において土器は徐々に減少、褐釉陶器が増加していく。また鉄釘といった金属製品も増加していくことから、御内原地区において15世紀後半から16世紀にかけて多数の建物が存在していたものと考えられる。これらから横内家文書や阪谷良之進作成の測量図に見られる御内原の建物群の原型がこの時期に形成されつつあったものと思われる。また、橙褐色土層と赤土を掘り込んだ柱穴群が多数確認され、時期が15世紀前半以前ということから首里城跡でも最も古い遺構群であることはほぼ間違いなく、今後の発掘調査においてそれらの広がりを確認していく必要がある。



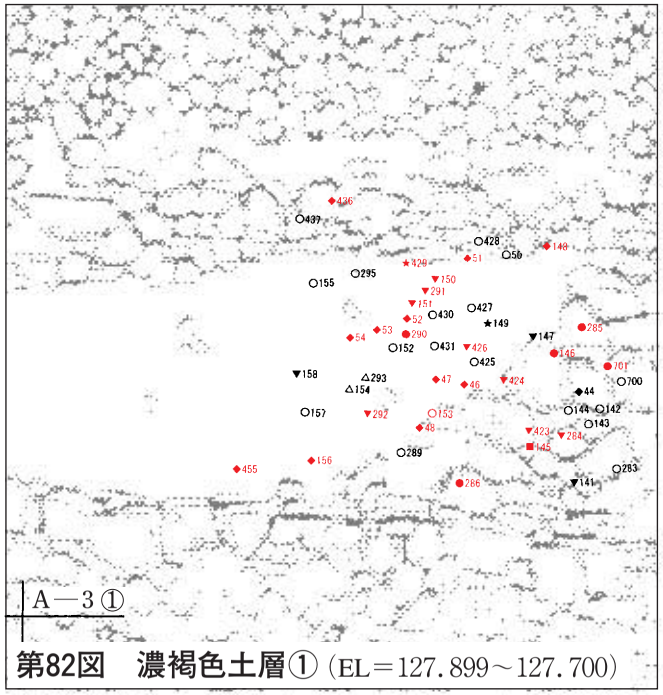
第80図　濃茶褐色土層、濃茶褐色混礫土層

凡　例

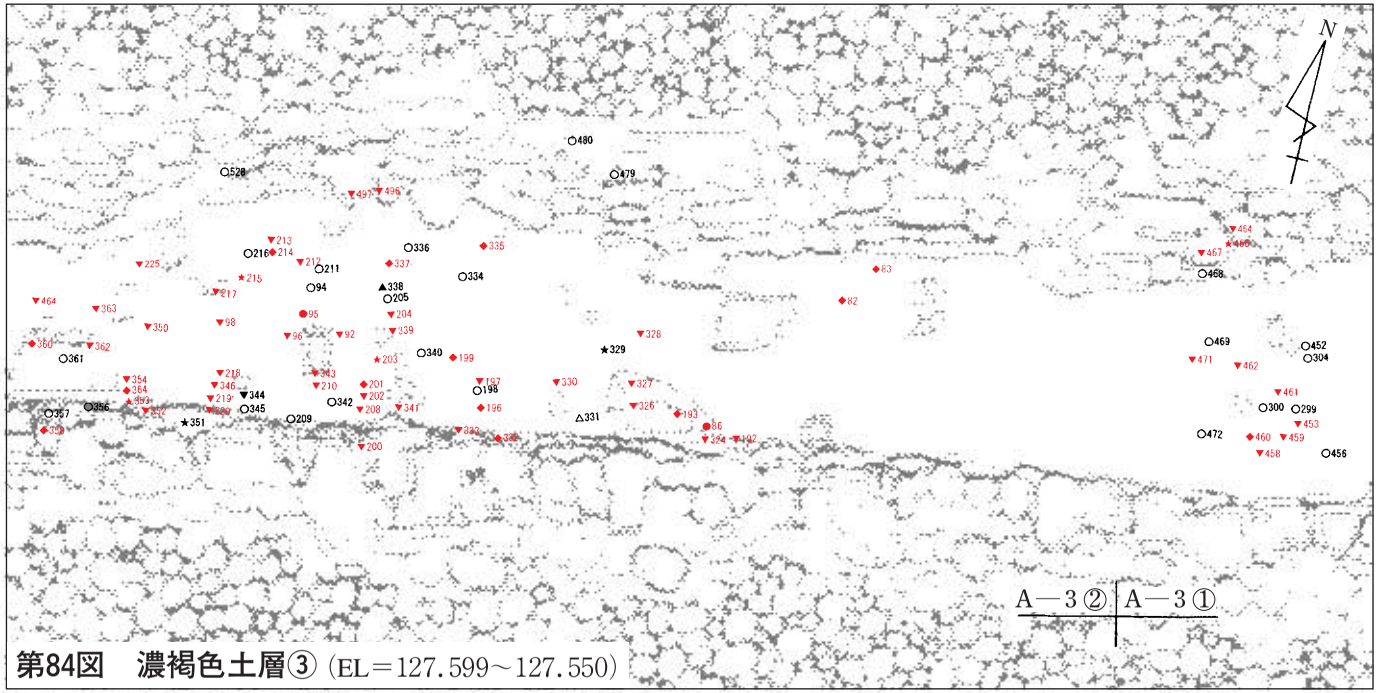
青　磁	○	黒釉陶器	■	金属製品	△	貝	▼
白　磁	○	韓半島産磁器	■	銭　貨	△	骨	▼
染　付	●	類須恵器	◇	骨製品	▲	焼土等	★
中国産褐釉陶器	●	沖縄産施釉陶器	◇	玉製品	▲	不　明	★
タイ産褐釉陶器	□	土　器	◆	石製品	▽		
半練土器	□	瓦	◆	円盤状製品	▽		



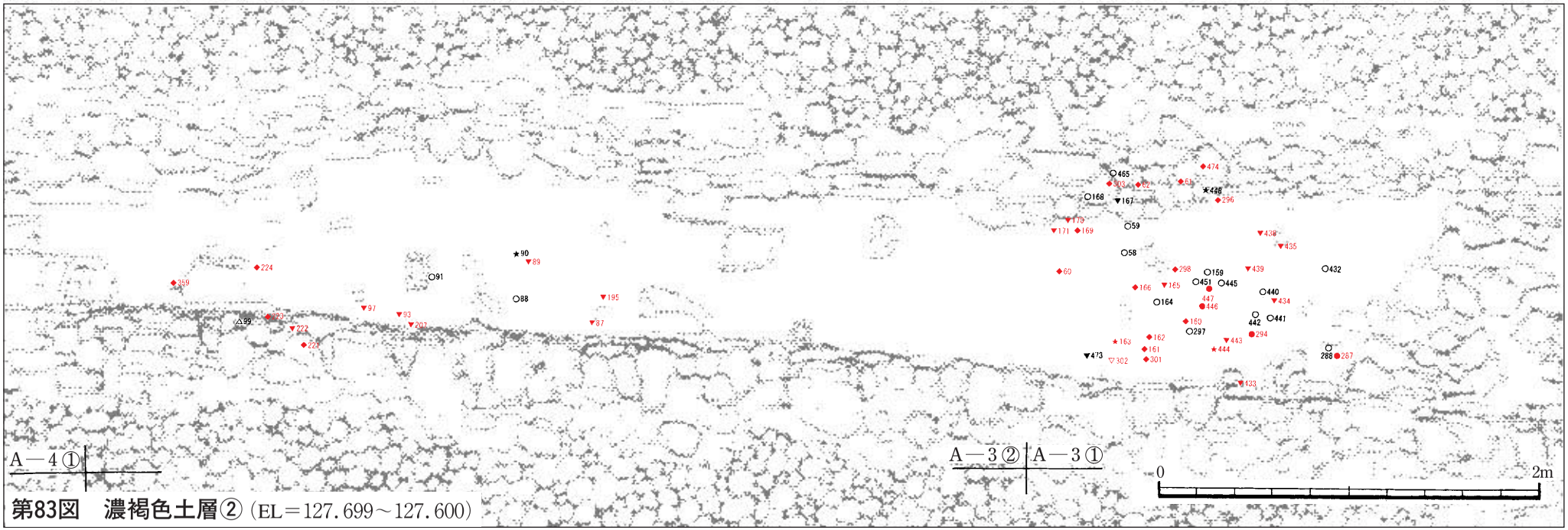
第81図　栗石内



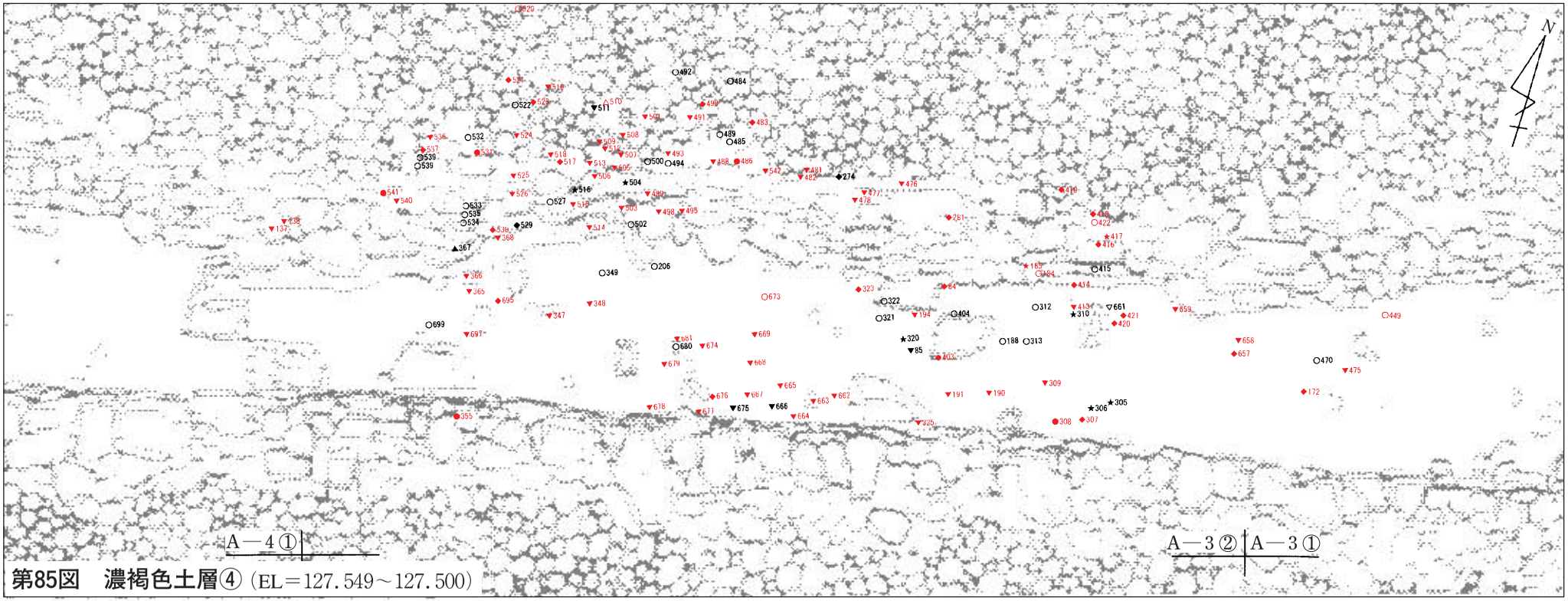
第82図　濃褐色土層①（EL＝127.899～127.700）



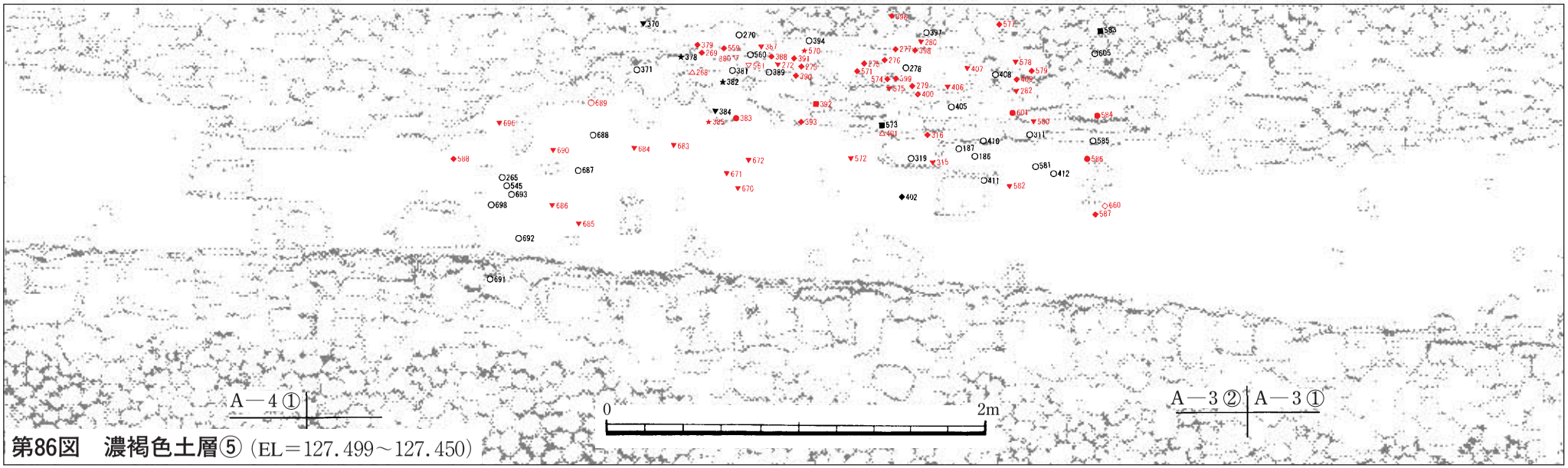
第84図　濃褐色土層③（EL＝127.599～127.550）



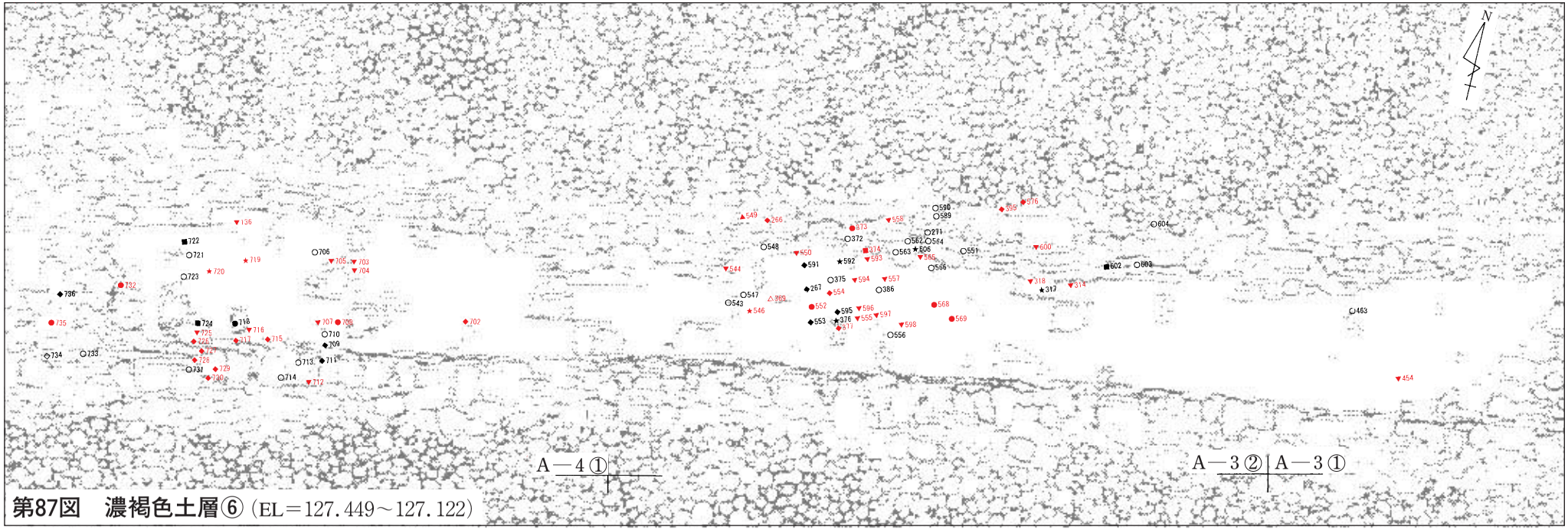
第83図　濃褐色土層②（EL＝127.699～127.600）



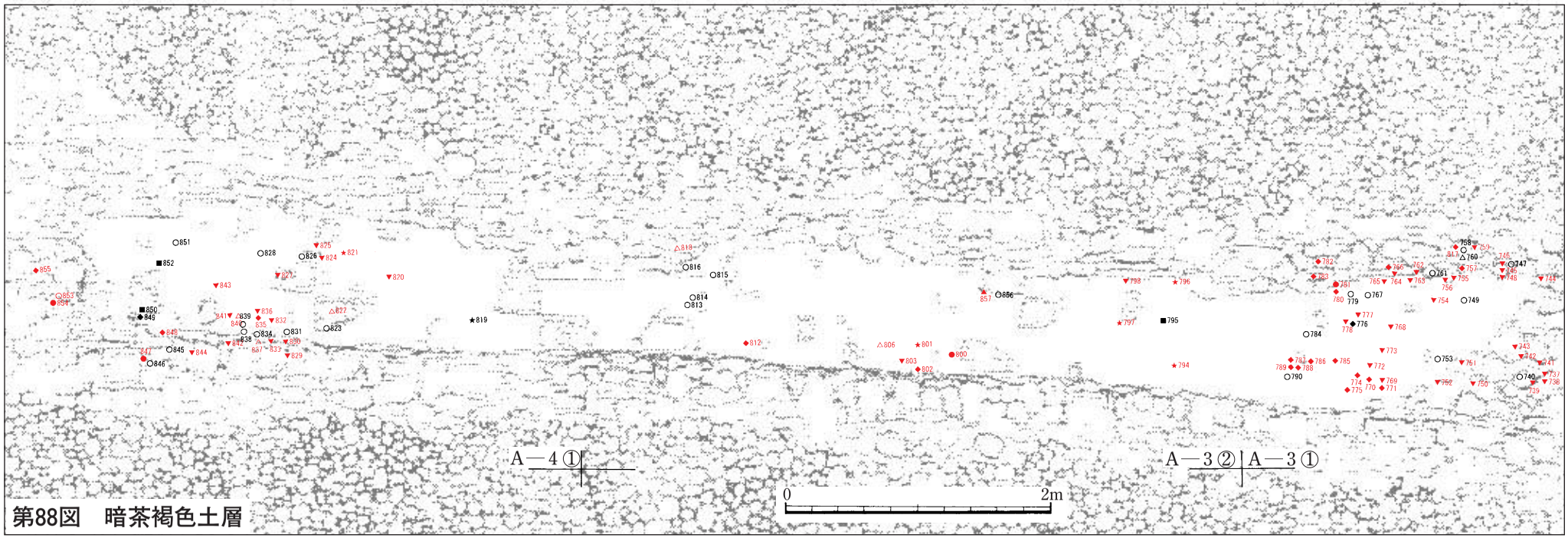
第85図　濃褐色土層④（EL＝127.549～127.500）



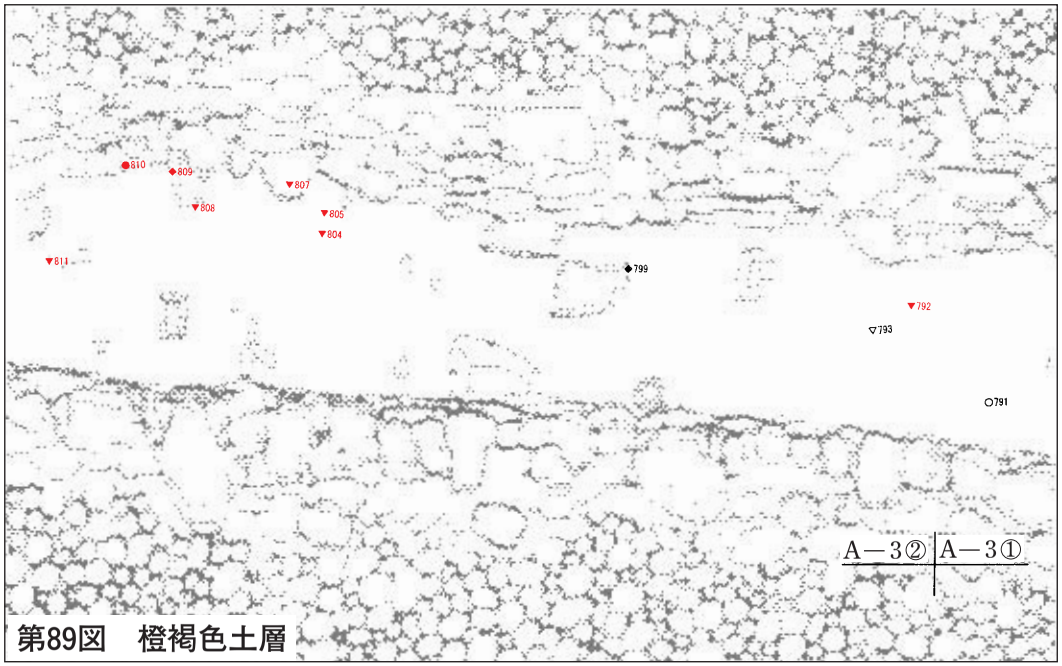
第86図　濃褐色土層⑤（EL＝127.499～127.450）



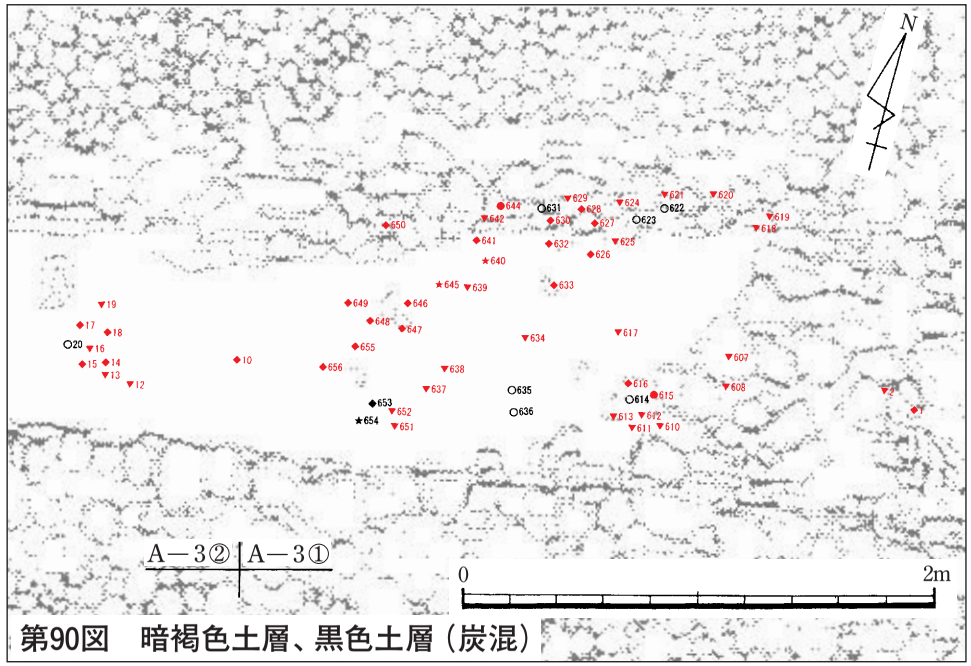
第87図　濃褐色土層⑥（EL＝127.449～127.122）



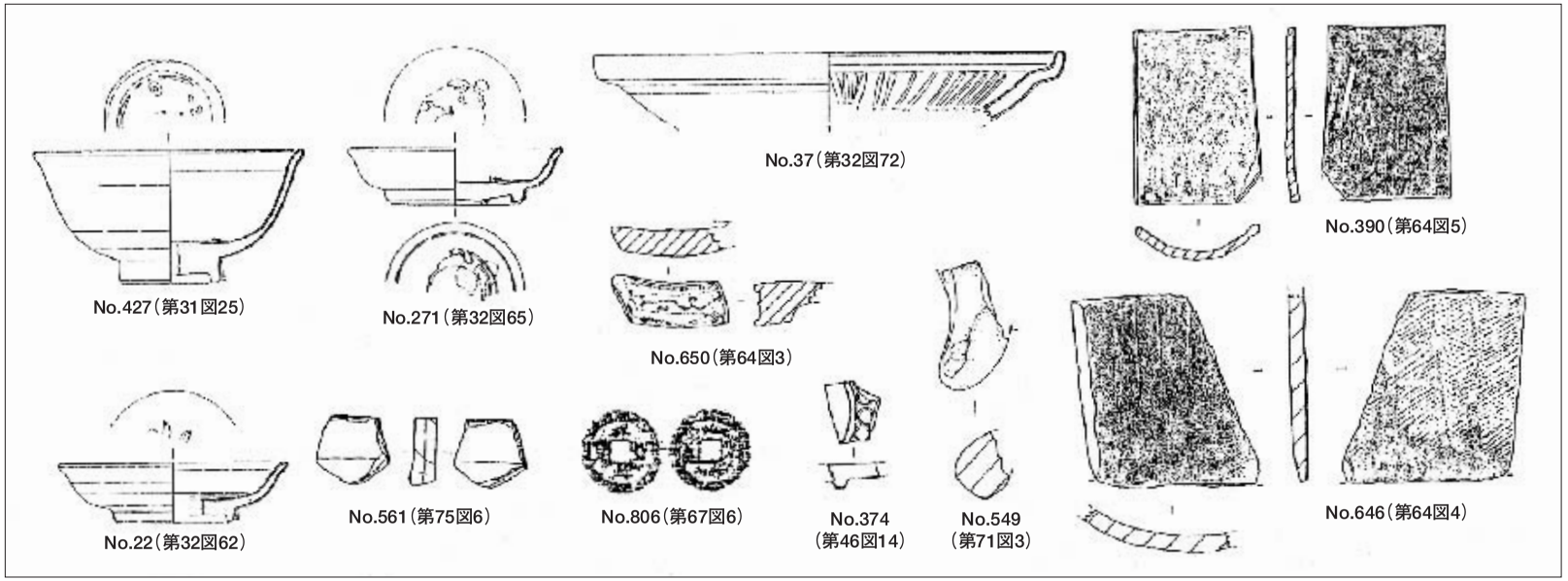
第88図　暗茶褐色土層



第89図　橙褐色土層



第90図　暗褐色土層、黒色土層（炭混）



第91図　東西トレンチ出土遺物一覧

第53表　東西トレンチ出土遺物一覧（1）

単位：m

番号	遺　物	ＥＬ
1	瓦	127.989
2	骨	127.970
4	金属	128.047
5	骨	128.057
6	瓦	128.027
7	瓦	128.037
8	瓦	128.044
9	瓦	128.038
10	瓦	128.050
12	骨	128.138
13	骨	128.098
14	瓦	128.101
15	瓦	128.108
16	骨	128.100
17	瓦	128.100
18	瓦	128.116
19	骨	128.131
20	青磁	128.090
21	瓦	128.262
25	骨	127.928
26	瓦	127.960
27	骨	127.917
28	瓦	127.920
29	瓦	127.942
30	瓦	127.928
31	白磁	127.935
32	瓦	127.936
33	瓦	127.934
34	瓦	127.922
35	瓦、骨	127.923
36	青磁	127.916
37	青磁	127.913
38	土器	127.925
44	土器	127.872
45	染付	127.867
46	瓦	127.819
47	瓦	127.813
48	瓦	127.821
49	中褐釉	127.963
50	青磁	127.872
51	瓦	127.827
52	瓦	127.808
53	瓦（2コ）	127.774
54	瓦	127.765
55	土器	127.854
56	土器	127.775
57	貝	127.768
58	青磁	127.659
59	青磁	127.657
60	瓦	127.649
61	瓦	127.671
62	瓦	127.662
63	不明	127.902
64	中褐釉	128.161
65	瓦	128.057
66	貝	128.164
67	骨	128.037
68	骨	128.037
69	半練	128.145
70	骨	127.758
71	骨	127.936
72	瓦	127.868
73	青磁	127.985
74	骨	127.978
75	銭貨	127.994
76	金属	127.930
77	骨	128.020
78	骨	127.729
79	青磁	127.779
80	瓦	127.669
81	瓦	127.800
82	瓦	127.570
83	瓦	127.555
84	瓦	127.505
85	貝	127.543
86	中褐釉	127.576
87	骨	127.640
88	青磁	127.605
89	骨	127.615
90	焼土等	127.626
91	青磁	127.601
92	骨	127.598
93	骨	127.627
94	青磁	127.558
95	中褐釉	127.567
96	骨	127.590
97	骨	127.626
98	骨	127.577
99	金属	127.662
100	骨	127.644
101	骨	127.708
102	中褐釉	127.900
103	中褐釉	127.647
104	中褐釉	127.814
105	金属	127.767
106	銭貨	127.822
107	青磁	127.594
108	青磁	127.576
109	銭貨	127.913
110	金属	127.927
111	タイ褐釉	127.755
112	骨	127.736
114	中褐釉	127.770
115	金属	127.910
116	青磁	128.014
117	中褐釉	128.080
118	中褐釉	128.125
119	タイ褐釉	127.956
120	中褐釉	127.697
121	中褐釉	128.214
122	中褐釉	127.911
123	中褐釉	127.863
124	中褐釉	127.829
125	中褐釉	127.791
126	タイ褐釉	127.852
127	中褐釉	127.852
128	銭貨	127.791
129	中褐釉	127.899
130	中褐釉	127.922
131	中褐釉	128.033
132	青磁	127.886
133	中褐釉	127.846
134	中褐釉	127.844
135	銭貨	127.821
136	骨	127.443
137	骨	127.509
138	骨	127.515
139	青磁	128.110
140	骨	128.118
141	貝	127.871
142	青磁	127.868
143	青磁	127.840
144	青磁	127.851
145	高麗青磁	127.841
146	中褐釉	127.848
147	貝	127.850
148	瓦	127.899
149	焼土等	127.840
150	骨	127.796
151	骨	127.776
152	青磁	127.748
153	白磁	127.751
154	金属	127.746
155	青磁	127.724
156	瓦	127.742
157	青磁	127.712
158	貝	127.714
159	青磁	127.669
160	瓦	127.697
161	瓦	127.692
162	瓦	127.684
163	不明	127.662
164	青磁	127.635
165	骨	127.649
166	瓦	127.615
167	貝	127.639
168	青磁	127.630
169	瓦	127.633
170	骨	127.618
171	骨	127.615
172	瓦	127.532
173	瓦	127.843
174	不明	127.952
175	金属	128.102
176	焼土等	127.934
177	金属	127.874
178	骨	128.124
179	骨	128.168
180	骨	127.968
181	骨	127.629
182	瓦	127.712
183	不明	127.910
184	白磁	127.532
185	不明	127.535
186	青磁	127.484
187	青磁	127.487
188	青磁	127.512
190	骨（2コ）	127.542
191	骨	127.545
192	骨	127.560
193	瓦	127.565
194	骨	127.520
195	骨	127.609
196	瓦	127.592
197	骨	127.576
198	青磁	127.595
199	瓦	127.590
200	骨	127.598
201	瓦	127.596
202	骨	127.597
203	不明	127.594
204	骨	127.586
205	青磁	127.577
206	青磁	127.545
207	骨	127.620
208	骨	127.588
209	青磁	127.594
210	骨	127.584
211	青磁	127.561
212	骨	127.566
213	骨	127.553
214	瓦	127.562
215	不明	127.578
216	青磁	127.562
217	骨	127.570
218	骨	127.585
219	骨	127.592
220	骨	127.595
221	瓦	127.678
222	骨	127.661
223	瓦	127.611
224	瓦	127.604

第53表　東西トレンチ出土遺物一覧（2）

単位：m

番号	遺　物	ＥＬ
225	骨	127.570
226	骨	128.005
227	骨	127.925
228	中褐釉	127.950
229	金属	127.948
230	骨	127.929
231	金属	127.828
232	貝	127.854
233	青磁	127.860
234	骨	127.850
235	金属	127.863
236	金属	127.768
237	骨	127.772
238	骨	127.875
239	銭貨	127.836
240	骨	127.837
241	金属	127.882
242	中褐釉	127.888
243	骨	127.885
244	骨、貝	127.847
245	金属	127.902
246	青磁	127.920
247	金属	127.887
248	中褐釉	127.845
249	染付	127.575
250	金属	127.912
251	中褐釉	127.915
252	中褐釉	127.905
253	中褐釉	127.876
254	金属	127.905
255	中褐釉	127.905
256	骨	127.893
257	中褐釉	127.892
258	中褐釉	127.870
259	骨	127.899
260	中褐釉	127.757
261	骨	127.606
262	タイ褐釉	128.006
263	中褐釉	128.040
264	玉製品	128.110
265	青磁	127.486
266	瓦	127.437
267	土器	127.438
268	銭貨	127.473
269	瓦	127.498
270	青磁	127.480
271	青磁	127.438
272	骨	127.475
273	瓦	127.482
274	土器	127.500
275	瓦	127.489
276	瓦	127.476
277	瓦	127.487
278	青磁	127.473
279	瓦	127.490
280	骨	127.480
281	瓦	127.522
282	骨	127.497
283	青磁	127.845
284	骨	127.787
285	中褐釉	127.856
286	中褐釉	127.727
287	中褐釉	127.693
288	青磁	127.695
289	青磁	127.700
290	中褐釉	127.747
291	骨	127.762
292	骨	127.700
293	金属	127.704
294	中褐釉	127.681
295	青磁	127.705
296	瓦	127.692
297	青磁	127.655
298	瓦	127.613
299	青磁	127.597
300	青磁	127.580
301	瓦	127.675
302	円盤状製品	127.652
303	瓦	127.648
304	青磁	127.595
305	焼土等	127.544
306	焼土等	127.517
307	瓦	127.526
308	中褐釉	127.515
309	骨	127.524
310	焼土等	127.515
311	青磁	127.471
312	青磁	127.520
313	青磁	127.529
314	骨	127.402
315	骨	127.458
316	瓦	127.465
317	焼土等	127.411
318	骨	127.420
319	青磁	127.475
320	焼土等	127.525
321	青磁	127.535
322	青磁	127.513
323	瓦	127.523
324	骨	127.552
325	骨	127.545
326	骨	127.566
327	骨	127.567
328	骨	127.553
329	焼土等	127.576
330	骨	127.562
331	金属	127.597
332	瓦	127.590
333	骨	127.566
334	青磁	127.573
335	瓦	127.555
336	青磁	127.560
337	瓦	127.560
338	骨製品	127.562
339	骨	127.562
340	青磁	127.580
341	骨	127.581
342	骨、青磁	127.579
343	骨	127.567
344	貝	127.577
345	青磁	127.580
346	骨	127.558
347	骨	127.530
348	骨	127.548
349	青磁	127.540
350	骨	127.566
351	焼土等	127.561
352	骨	127.562
353	不明	127.552
354	骨	127.554
355	中褐釉	127.549
356	青磁	127.557
357	青磁	127.568
358	瓦	127.567
359	瓦	127.603
360	瓦	127.578
361	青磁	127.555
362	骨	127.554
363	骨	127.559
364	瓦	127.562
365	骨	127.543
366	骨	127.540
367	骨製品	127.523
368	骨	127.546
369	銭貨	127.430
370	貝	127.482
371	青磁	127.450
372	青磁	127.440
373	中褐釉	127.441
374	高麗青磁	127.432
375	青磁	127.433
376	焼土等	127.435
377	瓦	127.427
378	焼土等	127.465
379	瓦	127.479
380	円盤状製品	127.462
381	青磁	127.466
382	焼土等	127.459
383	中褐釉	127.453
384	貝	127.458
385	不明	127.458
386	青磁	127.435
387	骨	127.462
388	瓦	127.466
389	青磁	127.464
390	瓦	127.475
391	瓦	127.456
392	高麗青磁	127.458
393	瓦	127.467
394	青磁	127.477
395	瓦	127.445
396	瓦	127.488
397	青磁	127.472
398	瓦	127.475
399	瓦	127.475
400	瓦	127.478
401	銭貨	127.482
402	土器	127.479
403	瓦	127.500
404	青磁	127.518
405	青磁	127.490
406	骨	127.478
407	骨	127.477
408	青磁	127.486
409	瓦	127.478
410	青磁	127.496
411	青磁	127.499
412	青磁	127.498
413	骨	127.500
414	瓦	127.520
415	青磁	127.507
416	瓦	127.510
417	不明	127.506
418	瓦	127.506
419	瓦	127.502
420	瓦	127.518
421	瓦	127.514
422	白磁	127.506
423	骨	127.749
424	骨	127.756
425	青磁	127.745
426	骨	127.720
427	青磁	127.741
428	青磁	127.768
429	不明	127.746
430	青磁	127.713
431	青磁	127.732
432	青磁	127.675
433	骨	127.667
434	骨	127.666

第53表　東西トレンチ出土遺物一覧（3）

単位：m

番号	遺　物	ＥＬ
435	骨	127.672
436	瓦	127.747
437	青磁	127.720
438	骨	127.643
439	骨	127.647
440	青磁	127.673
441	青磁	127.679
442	青磁	127.653
443	骨	127.653
444	不明	127.680
445	青磁	127.628
446	中褐釉	127.610
447	中褐釉	127.625
448	焼土等	127.618
449	白磁	127.506
451	青磁	127.612
452	青磁	127.573
453	骨	127.587
454	骨	127.122
455	瓦	127.710
456	青磁	127.592
458	骨	127.562
459	骨	127.560
460	瓦	127.562
461	骨	127.571
462	骨	127.558
463	青磁	127.334
464	骨	127.582
465	青磁	127.600
466	不明	127.574
467	骨	127.568
468	青磁	127.572
469	青磁	127.581
470	青磁	127.544
471	骨	127.567
472	青磁	127.572
473	貝	127.600
474	瓦	127.683
475	骨	127.540
476	骨	127.514
477	骨	127.532
478	骨	127.530
479	青磁	127.557
480	青磁	127.550
481	骨	127.524
482	骨	127.525
483	瓦	127.524
484	青磁	127.522
485	青磁	127.528
486	中褐釉	127.535
488	骨	127.531
489	青磁	127.525
490	瓦	127.516
491	骨	127.534
492	青磁	127.530
493	骨	127.530
494	青磁	127.538
495	骨	127.534
496	骨	127.575
497	骨	127.571
498	骨	127.526
499	骨	127.525
500	青磁	127.528
501	骨	127.508
502	褐釉、青磁	127.545
503	骨	127.515
504	焼土等	127.521
505	骨	127.504
506	骨	127.500
507	骨	127.513
508	骨	127.513
509	骨	127.504
510	銭貨	127.505
511	貝	127.508
512	骨	127.504
513	骨	127.501
514	骨	127.545
515	骨	127.506
516	焼土等	127.510
517	瓦	127.513
518	骨	127.508
519	骨	127.508
520	白磁、瓦	127.506
521	瓦	127.500
522	青磁	127.502
523	瓦	127.501
524	骨	127.520
525	骨	127.513
526	骨	127.505
527	青磁	127.508
528	青磁	127.570
529	土器	127.526
530	瓦	127.541
531	中褐釉	127.516
532	青磁	127.519
533	青磁	127.501
534	青磁	127.517
535	骨、青磁	127.530
536	骨	127.521
537	瓦	127.518
538	青磁	127.525
539	青磁	127.545
540	骨	127.538
541	中褐釉	127.540
542	骨	127.546
543	青磁	127.361
544	骨	127.358
545	青磁	127.467
546	不明	127.372
547	青磁	127.380
548	青磁	127.369
549	玉製品（勾玉）	127.370
550	骨	127.389
551	青磁	127.421
552	中褐釉	127.407
553	土器	127.396
554	瓦	127.414
555	骨	127.393
556	青磁	127.406
557	骨	127.426
558	骨	127.428
559	瓦	127.454
560	青磁	127.459
561	円盤状製品	127.458
562	青磁	127.424
563	青磁	127.434
564	青磁	127.431
565	骨	127.420
566	青磁	127.423
568	中褐釉	127.436
569	中褐釉	127.432
570	不明	127.452
571	瓦	127.451
572	骨	127.462
573	天目	127.468
574	瓦	127.457
575	骨	127.464
576	瓦（2コ）	127.429
577	瓦	127.463
578	骨	127.467
579	瓦	127.476
580	骨	127.461
581	青磁	127.470
582	骨	127.481
583	天目	127.492
584	中褐釉	127.479
585	青磁	127.478
586	中褐釉	127.455
587	瓦	127.495
588	瓦（2コ）	127.457
589	青磁	127.444
590	青磁	127.436
591	土器	127.388
592	焼土等	127.402
593	骨	127.408
594	骨	127.390
595	土器	127.385
596	骨	127.382
597	骨	127.388
598	骨	127.390
600	骨	127.443
601	中褐釉	127.454
602	天目	127.439
603	青磁	127.447
604	青磁	127.447
605	青磁	127.464
606	焼土等	127.395
607	骨	127.684
608	骨	127.737
610	骨	127.645
611	骨	127.640
612	骨	127.636
613	骨	127.635
614	骨、青磁	127.683
615	中褐釉	127.678
616	瓦	127.634
617	骨	127.591
618	骨	127.723
619	骨	127.760
620	骨	127.774
621	骨	127.742
622	青磁	127.752
623	青磁	127.736
624	骨	127.734
625	骨	127.690
626	瓦	127.656
627	瓦	127.654
628	瓦	127.634
629	骨	127.615
630	瓦	127.659
631	青磁	127.650
632	瓦	127.649
633	瓦	127.574
634	骨	127.556
635	青磁	127.556
636	青磁	127.602
637	骨（3コ）	127.543
638	骨	127.550
639	骨	127.593
640	不明	127.546
641	瓦	127.542
642	骨	127.630
644	中褐釉	127.652
645	不明	127.524
646	瓦、円盤状製品	127.536
647	瓦	127.536
648	瓦	127.531
649	瓦	127.538

第53表　東西トレンチ出土遺物一覧（4）

単位：m

番号	遺　物	ＥＬ
650	瓦	127.521
651	骨	127.505
652	骨	127.527
653	土器	127.528
654	焼土等	127.519
655	瓦	127.500
656	瓦	127.517
657	瓦	127.537
658	骨	127.509
659	骨	127.528
660	沖施	127.496
661	石製品（硯）	127.508
662	骨	127.516
663	骨	127.508
664	骨	127.506
665	骨	127.528
666	貝	127.508
667	骨	127.506
668	骨	127.505
669	骨	127.504
670	骨	127.499
671	骨	127.499
672	骨	127.499
673	白磁	127.501
674	骨	127.516
675	貝	127.524
676	瓦	127.532
677	骨	127.510
678	骨	127.516
679	骨（2コ）	127.505
680	青磁	127.509
681	骨	127.507
683	骨	127.495
684	骨	127.493
685	骨	127.492
686	骨	127.490
687	青磁	127.490
688	青磁	127.494
689	白磁	127.465
690	骨	127.486
691	青磁	127.477
692	青磁	127.493
693	青磁	127.491
695	瓦	127.503
696	骨	127.492
697	骨	127.515
698	青磁	127.497
699	青磁	127.506
700	青磁	127.861
701	中褐釉	127.855
702	瓦	127.356
703	骨（2コ）	127.365
704	骨	127.367
705	骨	127.379
706	青磁	127.395
707	骨	127.388
708	中褐釉	127.382
709	土器	127.391
710	青磁	127.393
711	土器	127.397
712	骨	127.415
713	青磁	127.391
714	青磁	127.420
715	瓦	127.395
716	骨	127.379
717	瓦	127.395
718	染付	127.408
719	不明	127.389
720	不明	127.386
721	青磁	127.402
722	天目	127.400
723	青磁	127.401
724	天目	127.401
725	骨	127.371
726	瓦	127.370
727	瓦	127.375
728	瓦	127.367
729	瓦	127.380
730	瓦	127.396
731	青磁	127.383
732	中褐釉	127.421
733	青磁	127.409
734	須恵器	127.435
735	中褐釉	127.428
736	土器	127.427
737	骨	127.578
738	骨	127.560
739	骨	127.576
740	青磁	127.540
741	骨	127.527
742	骨	127.523
743	骨	127.548
744	骨	127.579
745	骨	127.611
746	骨	127.585
747	青磁	127.568
748	骨	127.570
749	青磁	127.517
750	骨	127.541
751	骨	127.550
752	骨	127.470
753	青磁	127.561
754	骨	127.490
755	骨	127.560
756	骨（2コ）	127.616
757	瓦	127.587
758	青磁	127.667
759	骨	127.545
760	金属	127.540
761	青磁	127.579
762	骨	127.518
763	骨	127.506
764	骨	127.525
765	骨	127.510
766	瓦	127.507
767	青磁	127.512
768	骨	127.479
769	骨	127.540
770	瓦	127.548
771	瓦	127.482
772	骨	127.450
773	骨	127.491
774	瓦	127.521
775	瓦	127.590
776	土器	127.490
777	骨	127.494
778	骨	127.464
779	青磁	127.504
780	瓦	127.495
781	中褐釉	127.479
782	瓦	127.507
783	瓦	127.506
784	青磁	127.440
785	瓦	127.457
786	瓦	127.468
787	瓦	127.494
788	瓦	127.460
789	瓦	127.496
790	青磁	127.454
791	青磁	127.456
792	骨	127.510
793	石製品	127.497
794	不明	127.491
795	天目	127.482
796	不明	127.462
797	不明	127.487
798	骨	127.458
799	土器	127.462
800	中褐釉	127.479
801	不明	127.467
802	瓦	127.496
803	骨	127.472
804	骨	127.476
805	骨	127.470
806	銭貨	127.469
807	骨	127.471
808	骨	127.466
809	瓦	127.451
810	中褐釉	127.425
811	骨	127.429
812	瓦	127.420
813	青磁	127.481
814	青磁	127.458
815	青磁	127.464
816	青磁	127.447
817	瓦	127.650
818	銭貨	127.420
819	焼土等	127.284
820	骨	127.316
821	不明	127.332
822	銭貨	127.362
823	青磁	127.364
824	骨	127.338
825	骨	127.322
826	青磁	127.322
827	骨	127.355
828	青磁	127.330
829	骨	127.340
830	骨	127.346
831	青磁	127.360
832	骨	127.362
833	骨	127.366
834	青磁	127.360
835	瓦	127.366
836	骨	127.343
837	銭貨	127.338
838	青磁	127.332
839	青磁	127.330
840	銭貨	127.334
841	骨	127.318
842	骨（2コ）	127.325
843	骨	127.326
844	骨	127.315
845	青磁	127.336
846	青磁	127.348
847	中褐釉	127.342
848	瓦	127.350
849	土器	127.366
850	天目	127.368
851	青磁	127.338
852	天目	127.330
853	白磁	127.385
854	中褐釉	127.400
855	瓦	127.344
856	青磁	127.436
857	玉製品	127.442

参 考 文 献

（五十音順）

上 田 秀 夫　1982「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』№２　日本貿易陶磁研究会

上 原　　静　1994「首里城跡西のアザナ地区出土の明朝系瓦とその推移」『南島考古』№14　沖縄考古学会

汪 慶 正 編　2000『中國美術分類全集　中國陶瓷器全集』11　全國新華書店

大 川　　清　1974『琉球古瓦調査抄報』　沖縄県文化財調査報告書

小 野 正 敏　1982「15～16世紀の染付碗、皿の分類と年代」『貿易陶磁研究』№２　日本貿易陶磁研究会

郭　学　雷　2005『明代磁州窯瓷器』　文物出版社

加藤嘉太郎　1989『家畜比較解剖図説』　養賢堂

川 上 親 孝　1994『学研生物図鑑　貝Ⅰ』　学習研究社

川 上 親 孝　1994『学研生物図鑑　貝Ⅱ』　学習研究社

岸 本 竹 美　2003「グスク時代及び近世出土の玉製品に関する考察」『沖縄埋文研究』第１号　沖縄県立埋蔵文化財センター

木 下 尚 子　1981「貝製容器小考」『南島考古　№７』　南島考古学会

金 武 正 紀　2004「沖縄から出土したタイ・ベトナム陶磁」『シンポジウム　陶磁器が語る交流―九州・沖縄から出土した東南アジア産陶磁器―』　東南アジア考古学会他

久手堅憲夫　2000『首里の地名』　第一書房

須 藤 利 一　『異国船来琉記』　法政大学出版

曽　　凡　2000『福建陶瓷考古概論』　福建省地図出版社

照 屋 善 義　2000『沖縄の陶器　技術と科学』

富 永 樹 之　1998「出土品に見る景徳鎮青花の底裏銘」『青山考古』第19号　青山考古学会

野々村孝男　1999『首里城を救った男』　ニライ社

真栄平房敬　1997『首里城物語』　ひるぎ社

又 吉 真 三　1993「首里城の建築」『甦る首里城』　首里城復元期成会

松 井　　章　2005『環境考古学への招待　－発掘からわかる食・トイレ・戦争－』　岩波新書

三杉隆敏・榊原昭二　1998『陶磁器染付文様辞典』　柏書房

森 田　　勉　1982「14～16世紀の白磁の分類と編年」『貿易陶磁研究』№２　日本貿易陶磁研究会

吉 田　　寛　2004「大分・府内から出土した東南アジア産陶磁」『シンポジウム　陶磁器が語る交流―九州・沖縄から出土した東南アジア産陶磁器』

参考報告書・図録等

(五十音順)

出光美術館　2005『中国・磁州窯』

沖縄県教育委員会　1986『松田遺跡－一般国道329号線改良工事に伴う緊急調査－』
沖縄県文化財調査報告書　第76集

沖縄県教育委員会　1983『ぐすく－グスク分布調査報告書(Ⅰ) 沖縄本島及び周辺離島－』
沖縄県文化財調査報告書　第53集

沖縄県教育委員会　1998『首里城跡－京の内跡発掘調査報告書(Ⅰ)－』
沖縄県文化財調査報告書　第132集

沖縄県教育委員会　1998『首里城跡－御庭跡・奉神門跡の遺跡調査報告書－』
沖縄県文化財調査報告書　第133集

沖縄県立埋蔵文化財センター　2001『首里城跡－管理用道路地区発掘調査報告書－』
沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第１集

沖縄県立埋蔵文化財センター　2001『首里城跡－下之御庭跡・用物座跡・瑞泉門跡・漏刻門跡、廣福門跡・木曳門跡発掘調査報告書－』 沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第３集

沖縄県立埋蔵文化財センター　2004『首里城跡－東のアザナ地区発掘調査報告書－』
沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第20集

沖縄県立埋蔵文化財センター　2004『後兼久原遺跡』 沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第22集

沖縄県立埋蔵文化財センター　2005『ナカンダカリヤマの古墓群』
沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第26集

沖縄県立埋蔵文化財センター　2005『首里城跡－上の毛及び周辺地区発掘調査報告書－』
沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第27集

沖縄県立埋蔵文化財センター　2005『首里城跡－二階殿地区発掘調査報告書－』
沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第29集

沖縄県土木建築部(編)　1988『首里城公園基本設計』 沖縄県土木建築部

(株)国建　1995『国営沖縄記念公園首里城地区計画・設計の記録』
沖縄開発庁沖縄総合事務局国営沖縄記念公園事務所

京都国立博物館　2003『特別展覧会　金色の飾り－金属工芸にみる日本美－』 イメージファクトリー

佐賀県九州陶磁文化館　1998『沖縄のやきもの－南海からの香り－』 佐賀県九州陶磁文化館

首里城研究グループ　1997『首里城入門』 ひるぎ社

たばこと塩の博物館　1988『キセル』

国営沖縄記念公園事務所　2002『国営沖縄記念公園首里城地区整備計画』 内閣府沖縄総合事務局

今帰仁村教育委員会　1991『今帰仁城跡発掘調査報告Ⅱ』 今帰仁村文化財調査報告　第14集

那覇市教育委員会　1992『壺屋古窯跡』 那覇市文化財調査報告書　第23集

那覇出版社　1984『写真集　沖縄』

平凡社　2000『増補　やきもの事典』

町田市立美術館　2001「ベトナム青花」『町田市立美術館図録』 第122集

琉球政府文化財保護委員会　1966『勝連城跡第二次発掘調査概報』 琉球政府文化財報告書

図　　版

調査前（西から）

SA01全景（北から）

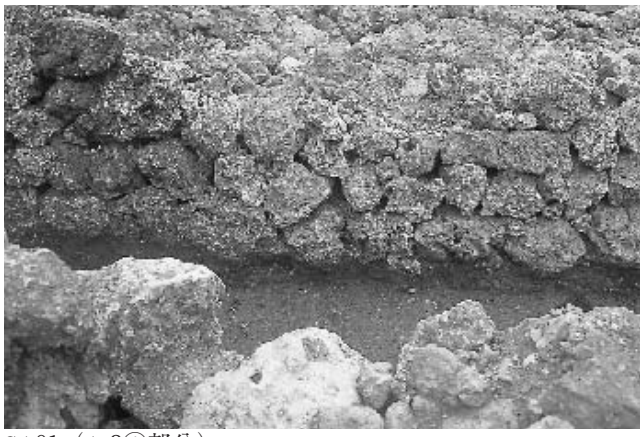
図版３　調査区及び遺構検出状況（１）

SA02、SK05（北東から）

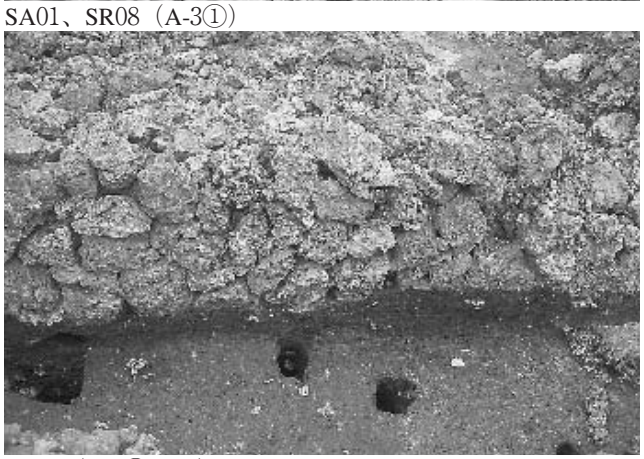
SS01（西から）

図版 4　遺構検出状況（ 2 ）

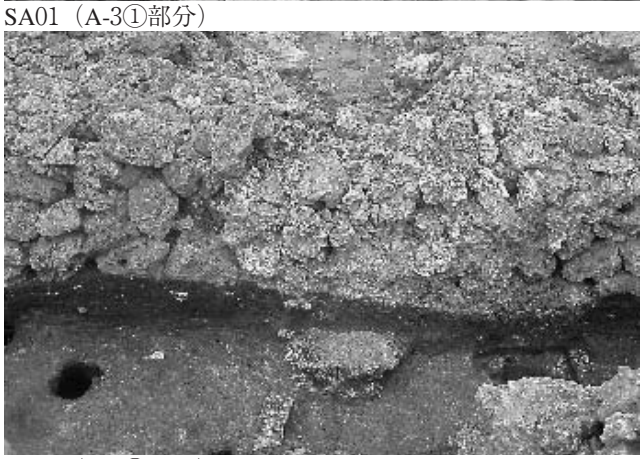
SA01、SR08（A-3①）



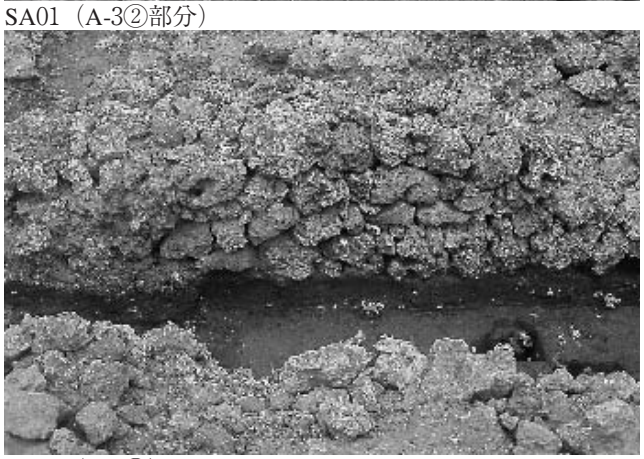
SA01（A-3①部分）



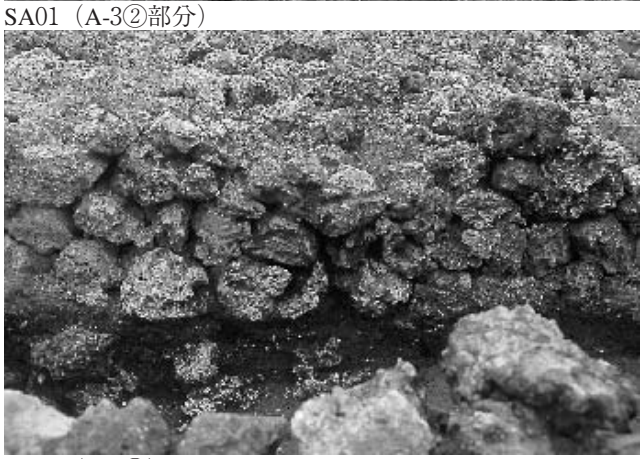
SA01（A-3②部分）



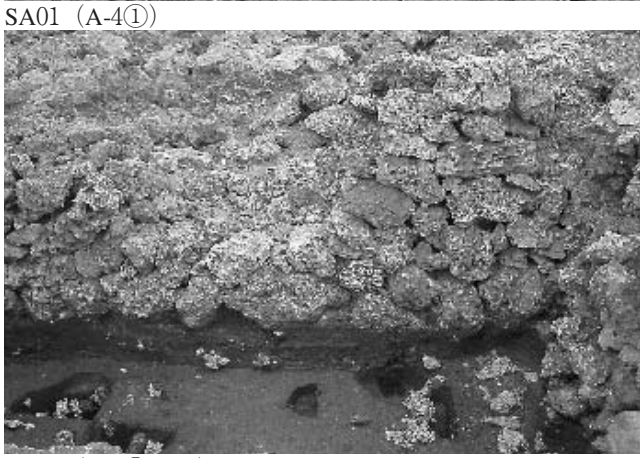
SA01（A-3②部分）



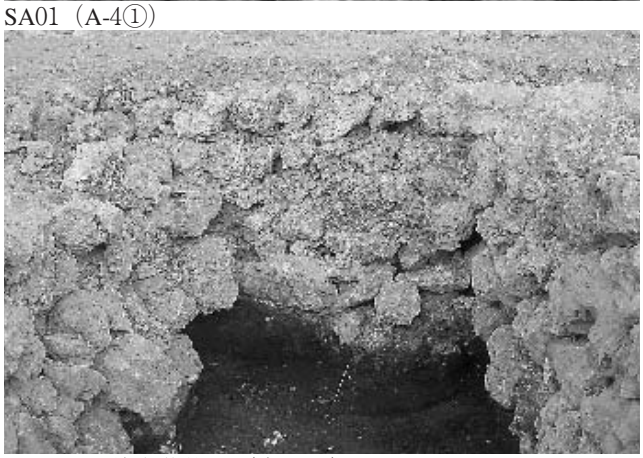
SA01（A-4①）



SA01（A-4①）



SA01（A-4①部分）

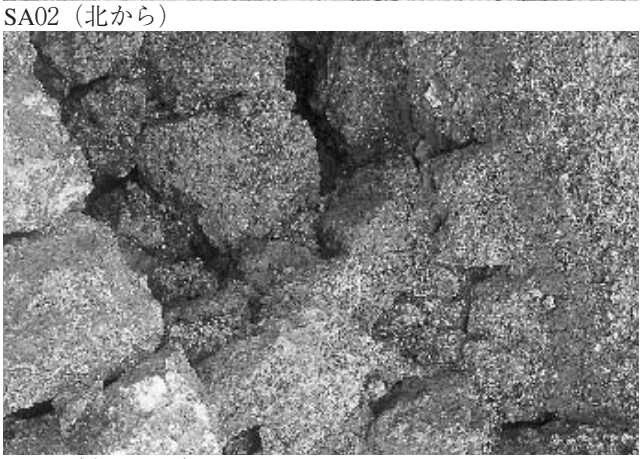


SA01面石前堆積状況（東から）

図版５　遺構検出状況（３）

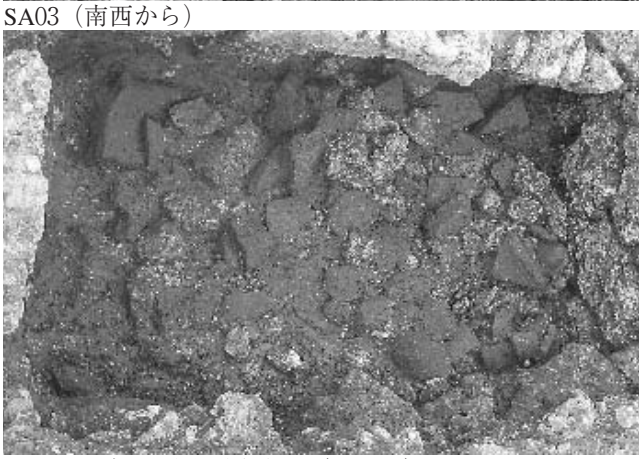
SA02（北から）

SA01、SR05接続部分（東から）

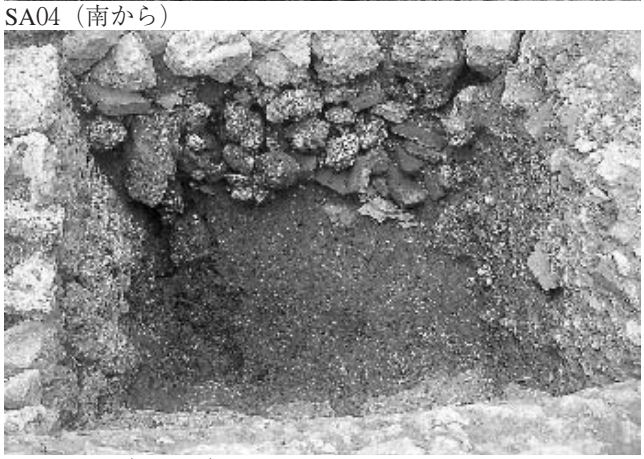


SA03（南西から）

SA04（南から）

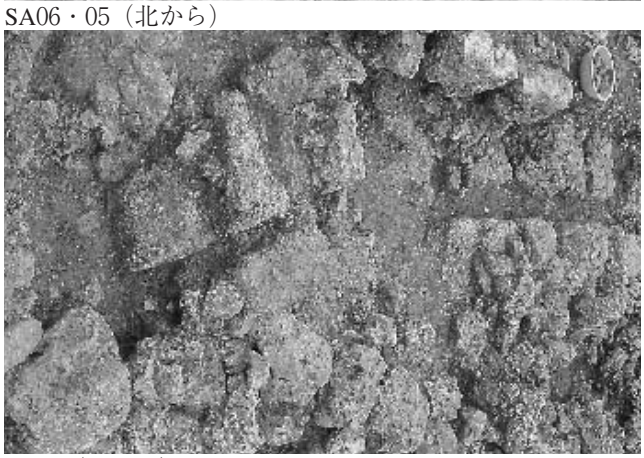


SA06・05根石近く瓦溜まり（北から）



SA06・05（北から）

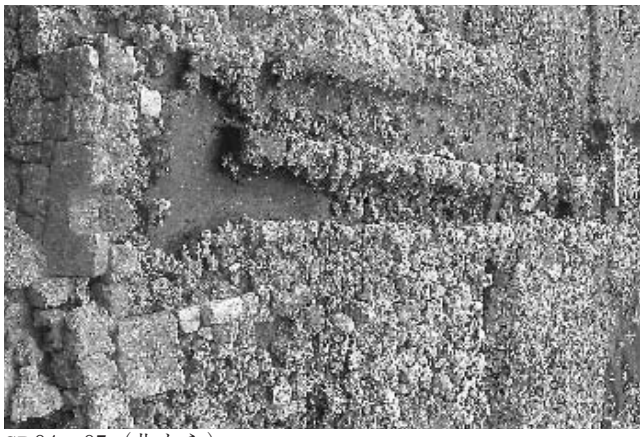
SA06下部ヒスイ釉皿出土状況（北から）



SD01（北から）

図版 6　遺構検出状況（ 4 ）

SR01南端（北西から）

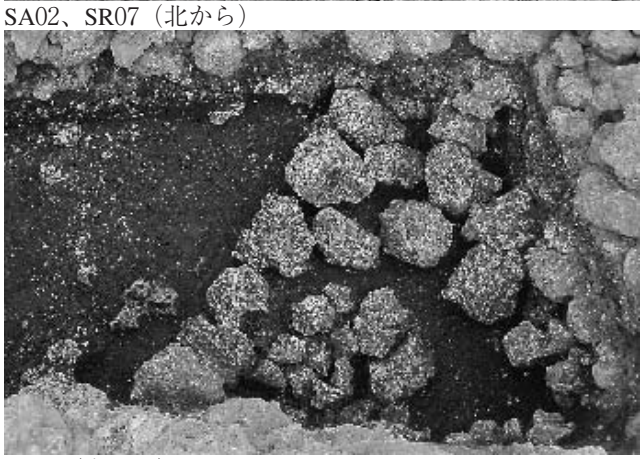


SR04・05（北から）

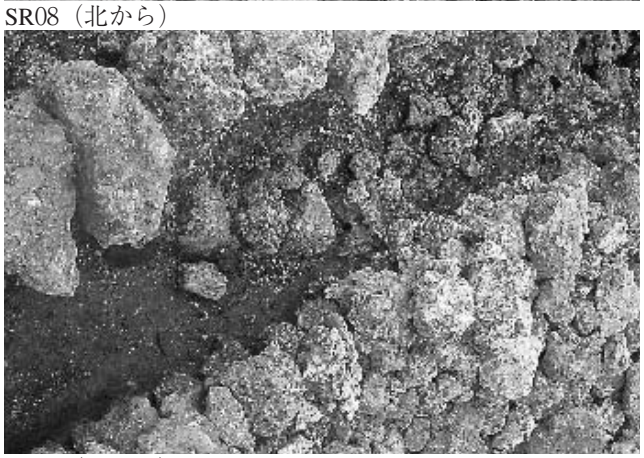
SR04・05（北東から）

SA02、SR07（北から）

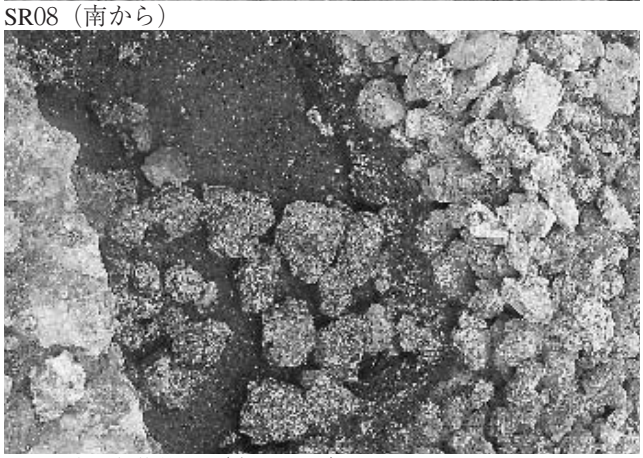
SR08（北から）



SR08（南から）



SR08（北から）

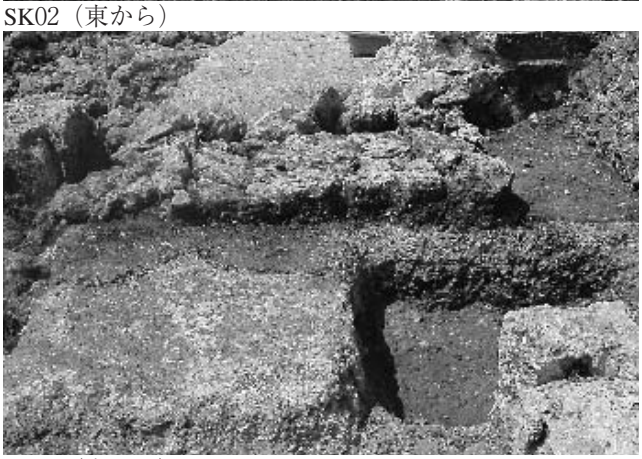


SR08栗石堆積状況（南西から）

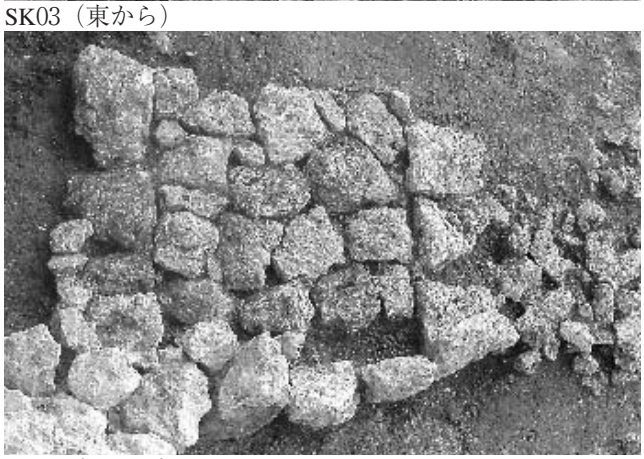
図版７　遺構検出状況（５）

SK02（東から）

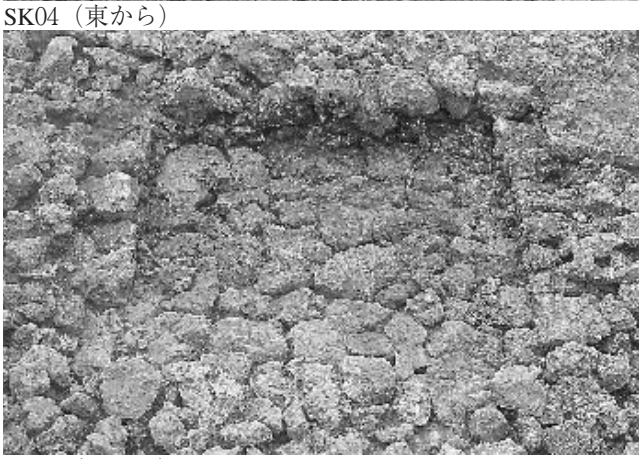
SK03（東から）



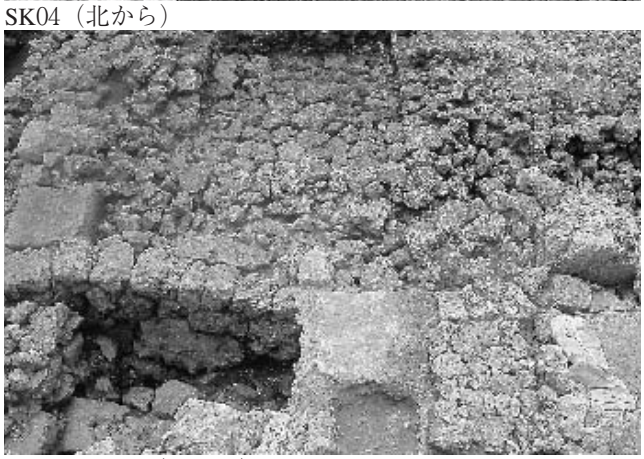
SK04（東から）



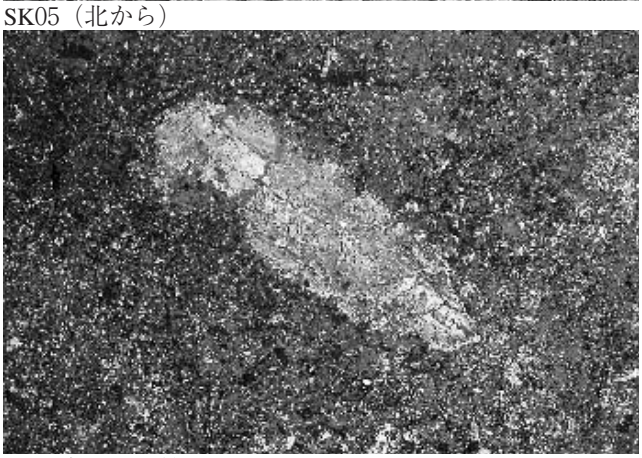
SK04（北から）



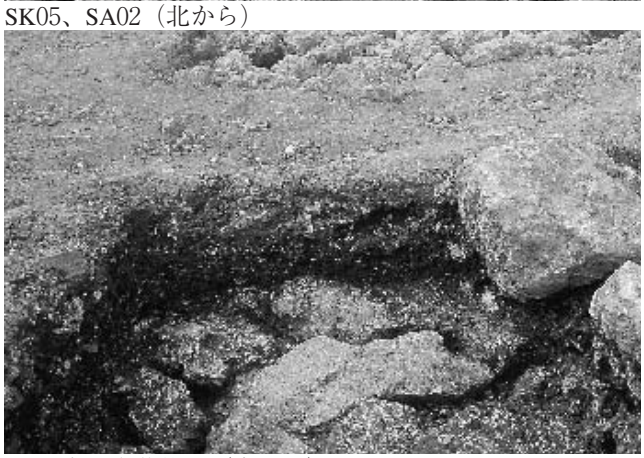
SK05（北から）



SK05、SA02（北から）



SK05内出土獣骨

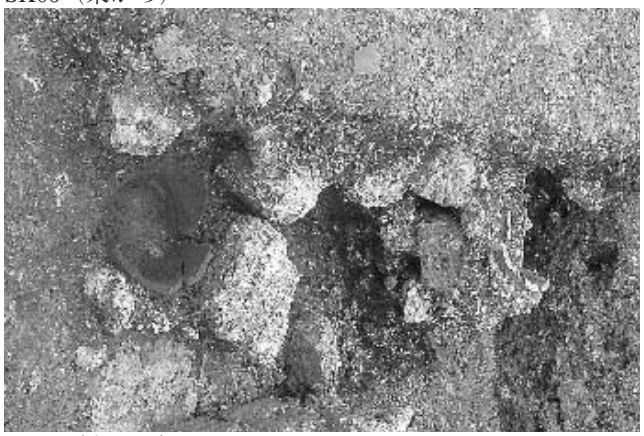


SK05炭層堆積状況（南から）

図版 8　遺構検出状況（ 6 ）

SK06（東から）

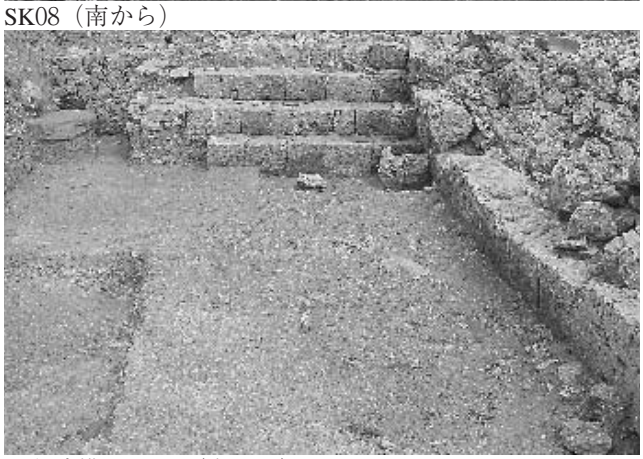
SK06（南から）



SK07（東から）

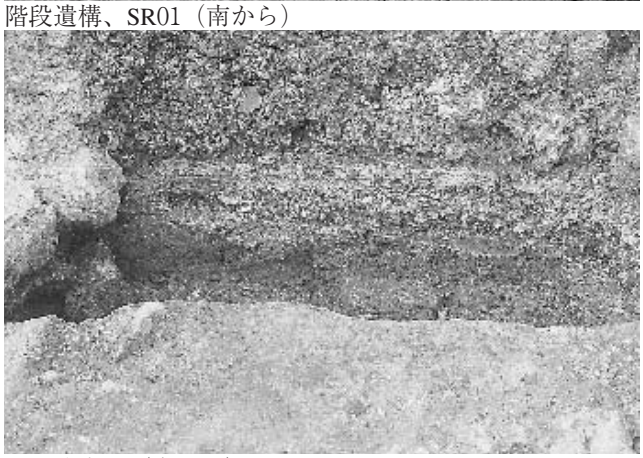
SK08（南から）

階段遺構（南西から）



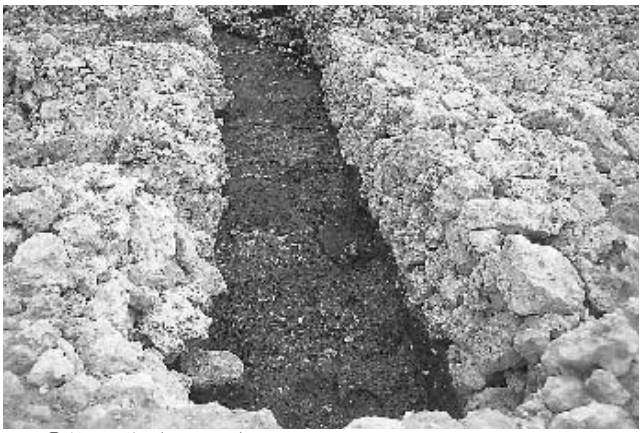
階段遺構、SR01（南から）

後之御庭堆積状況（北から）



北側造成層（南から）

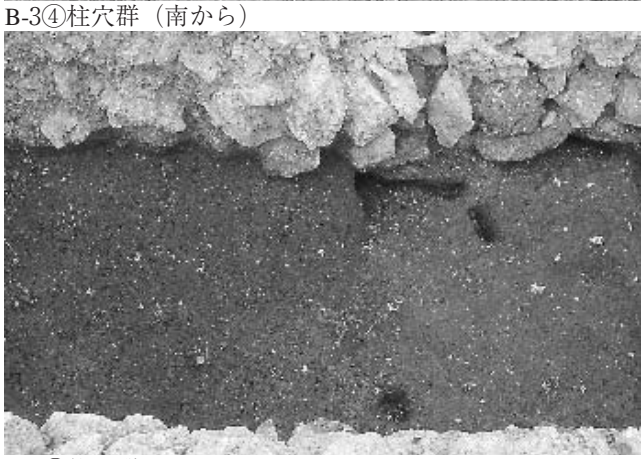
図版 9　遺構検出状況（ 7 ）



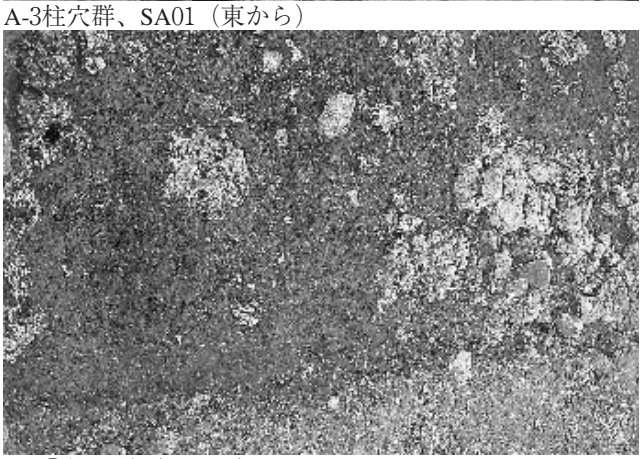
A-3①柱穴群（西から）

B-3④柱穴群（南から）

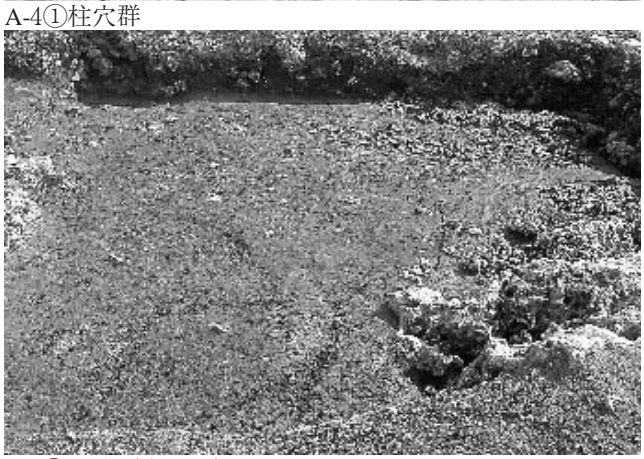
A-3柱穴群、SA01（東から）



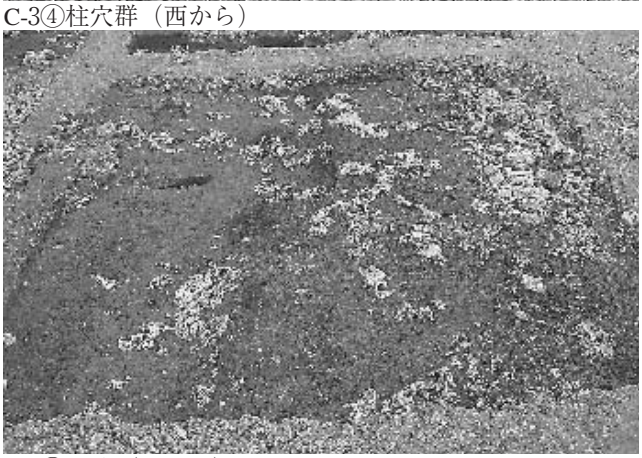
A-4①柱穴群



C-3④柱穴群（西から）



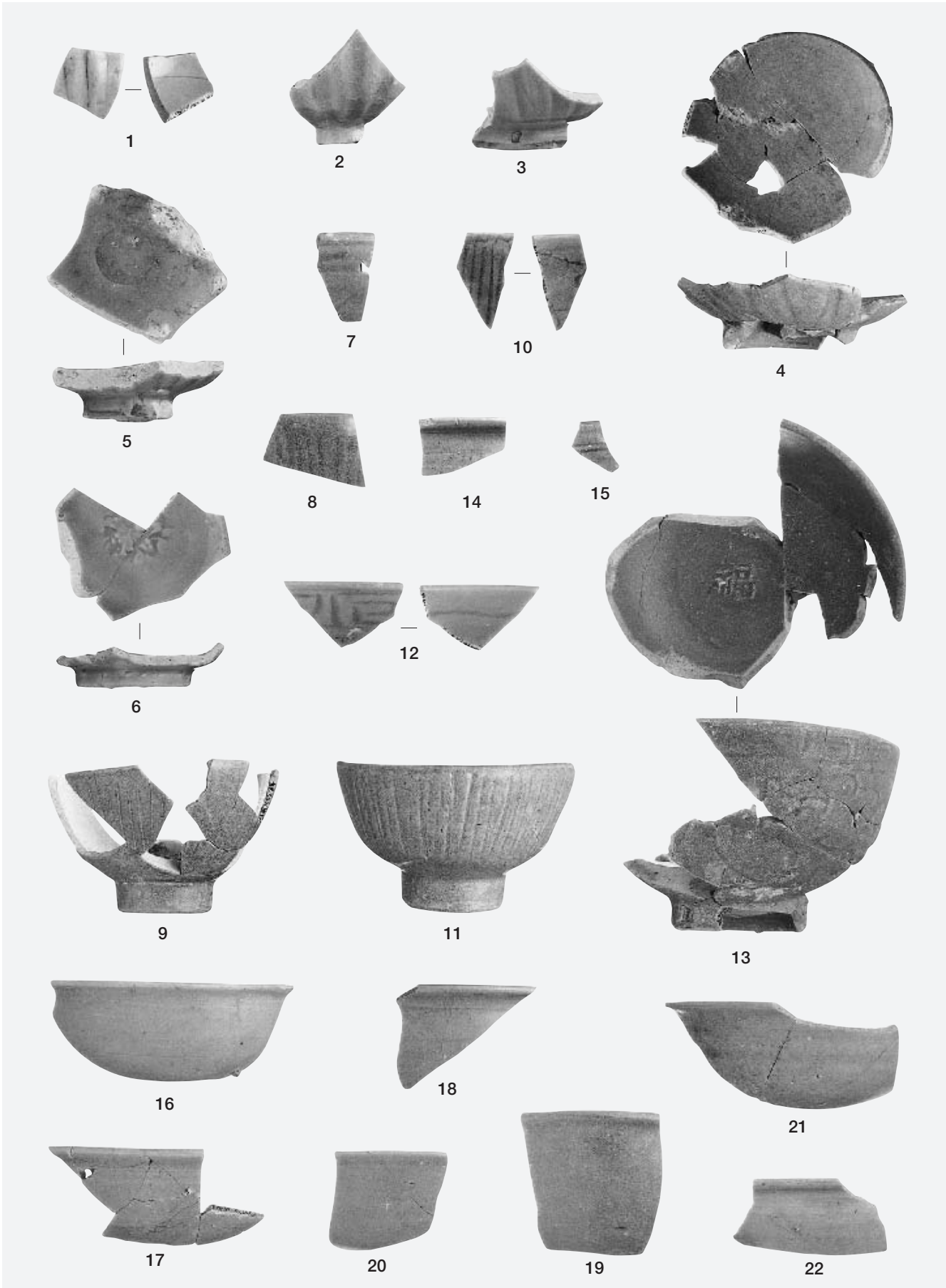
C-3②土壙（南から）



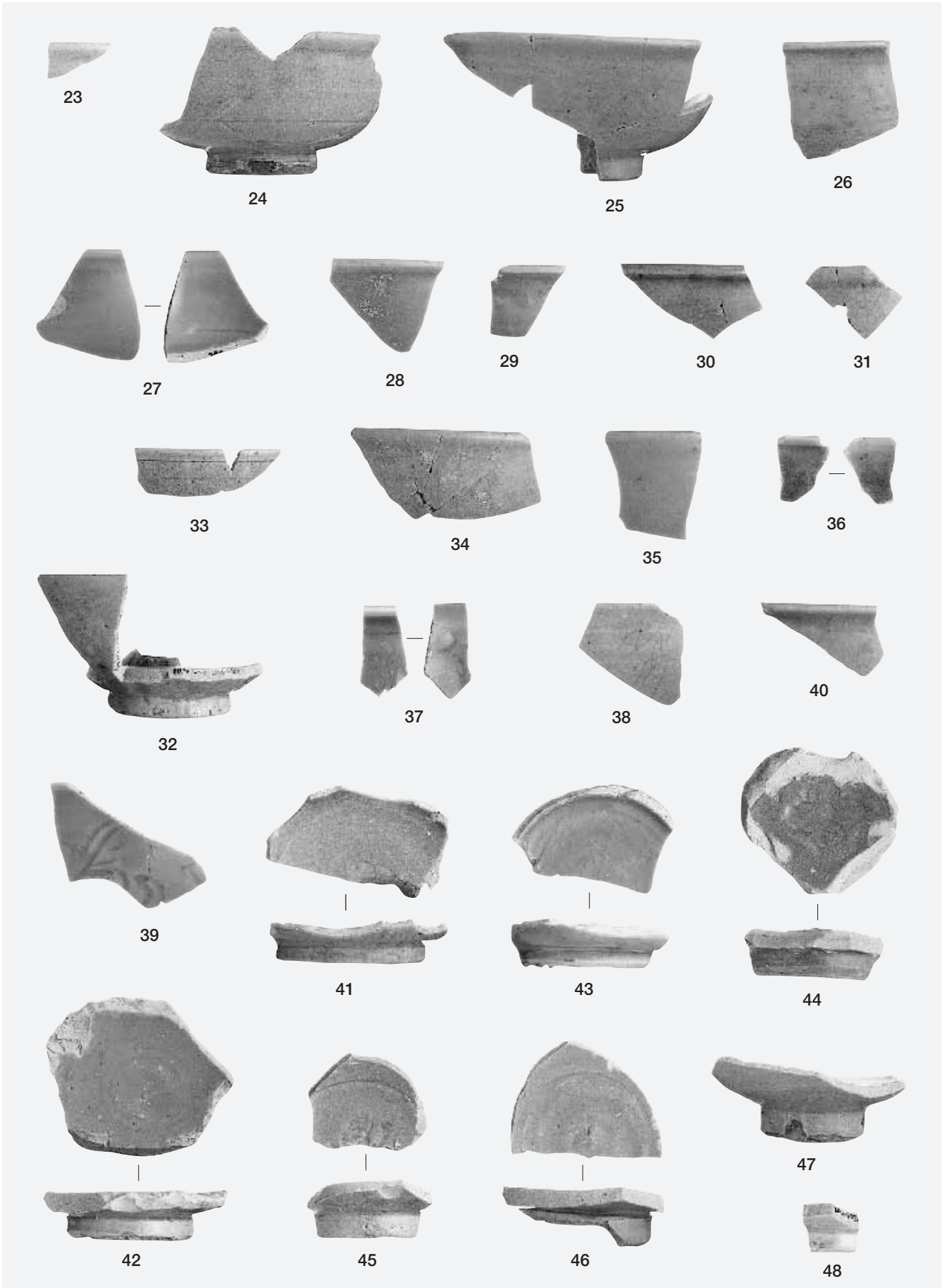
C-3④土壙（西から）

大和系瓦出土状況

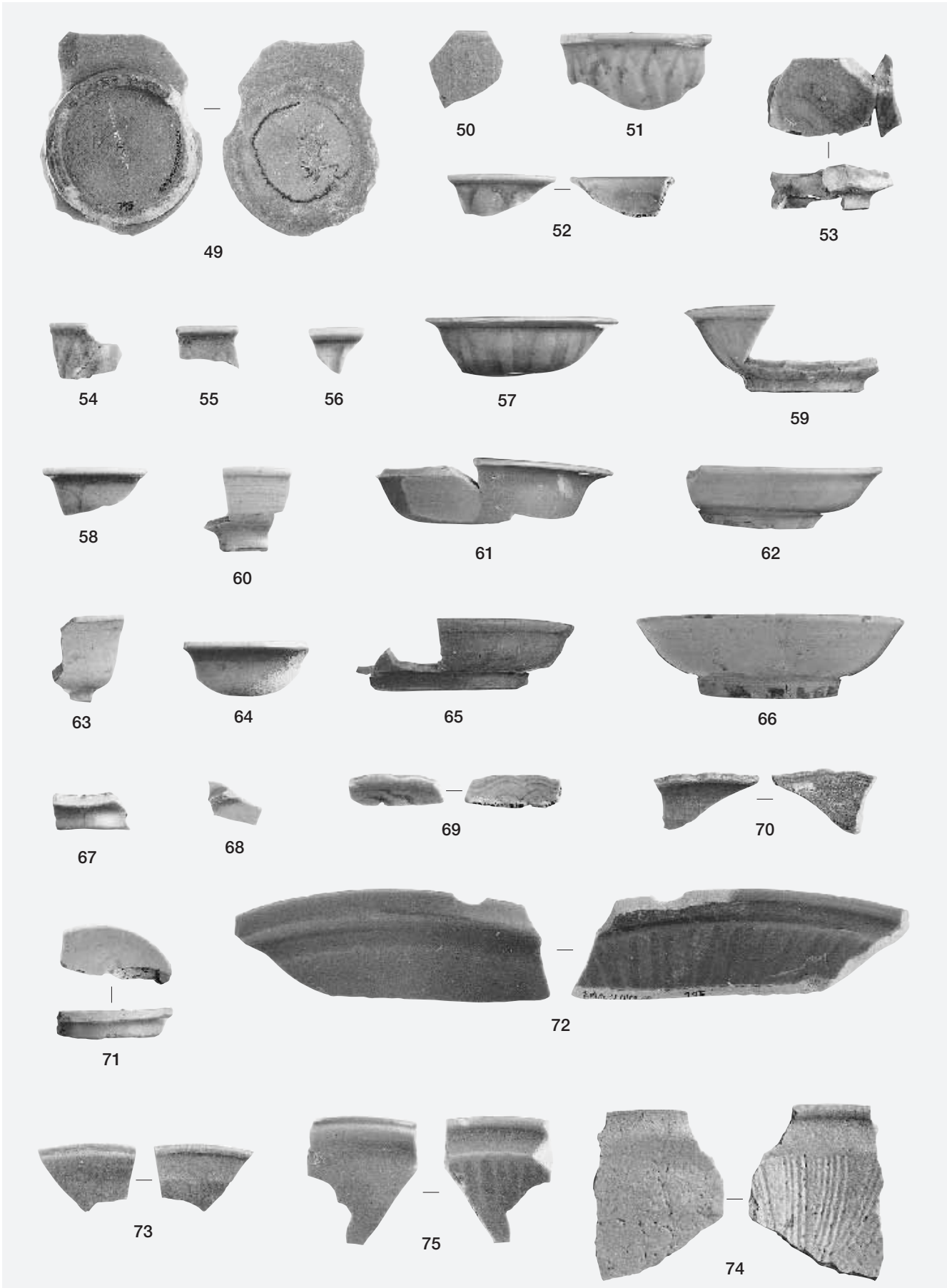
図版10　遺構検出状況（８）



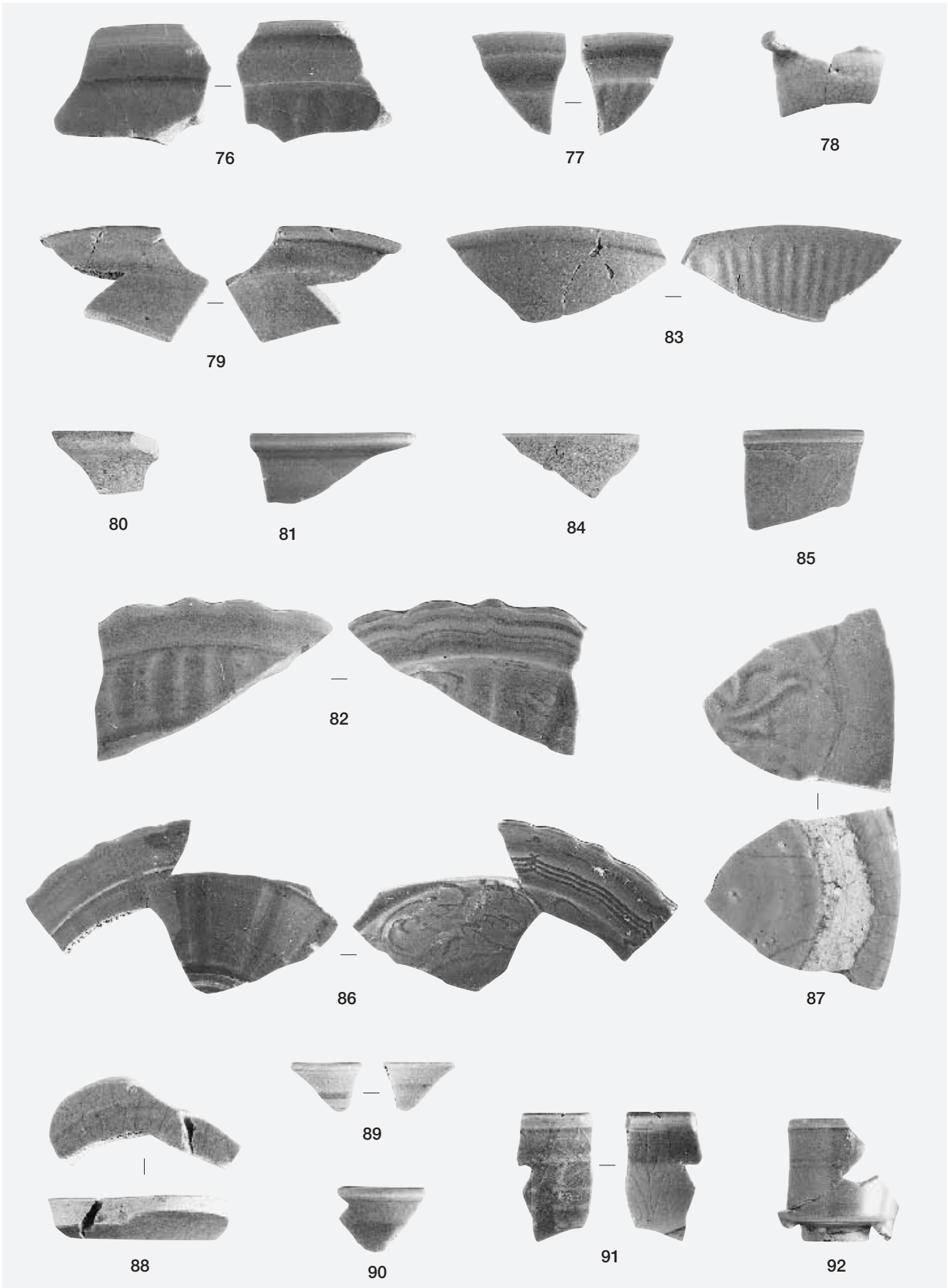
図版11　青磁（１）


23
24
25
26
27
28
29
30
31
33
34
35
36
32
37
38
40
39
41
43
44
42
45
46
47
48

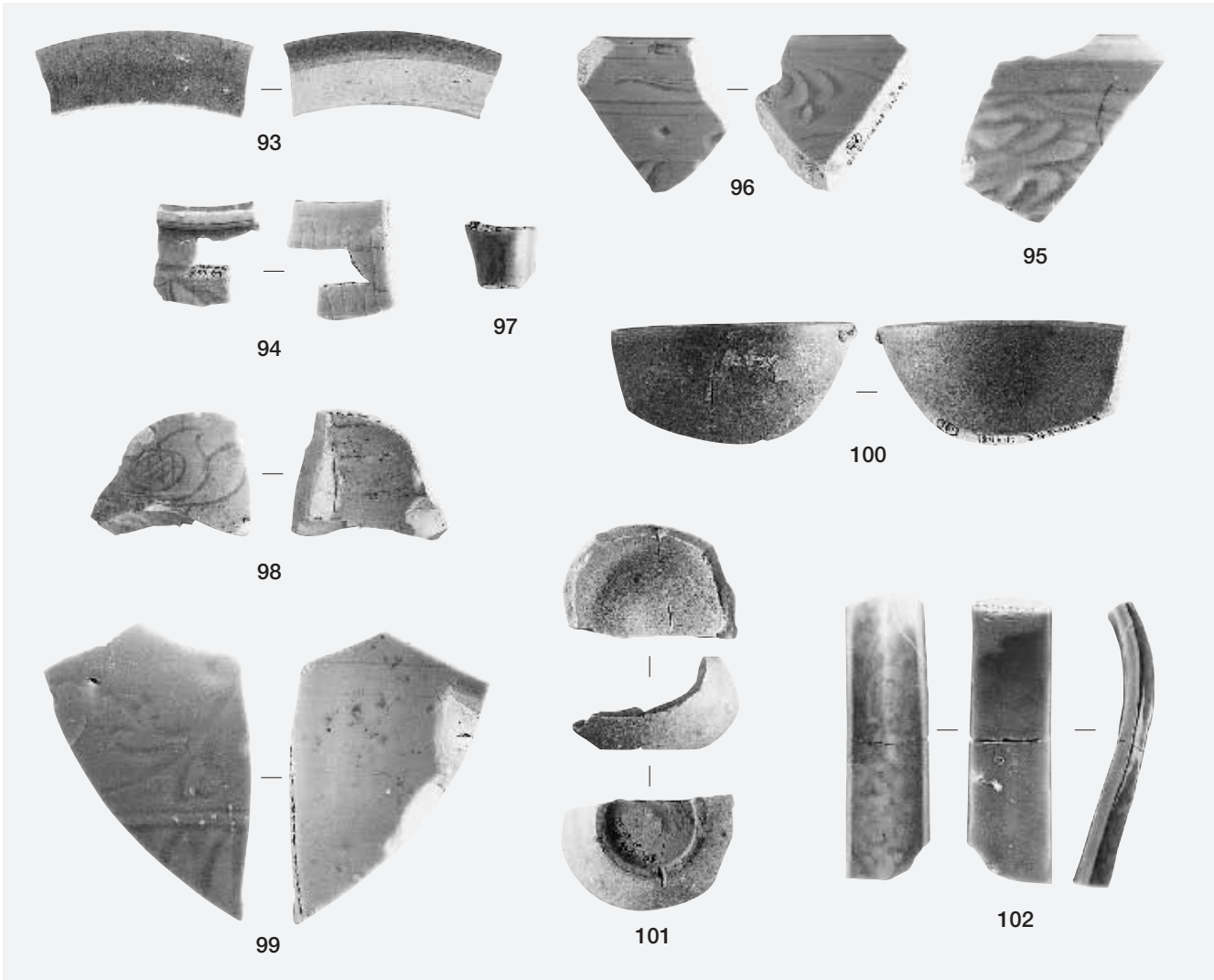
図版12　青磁（２）

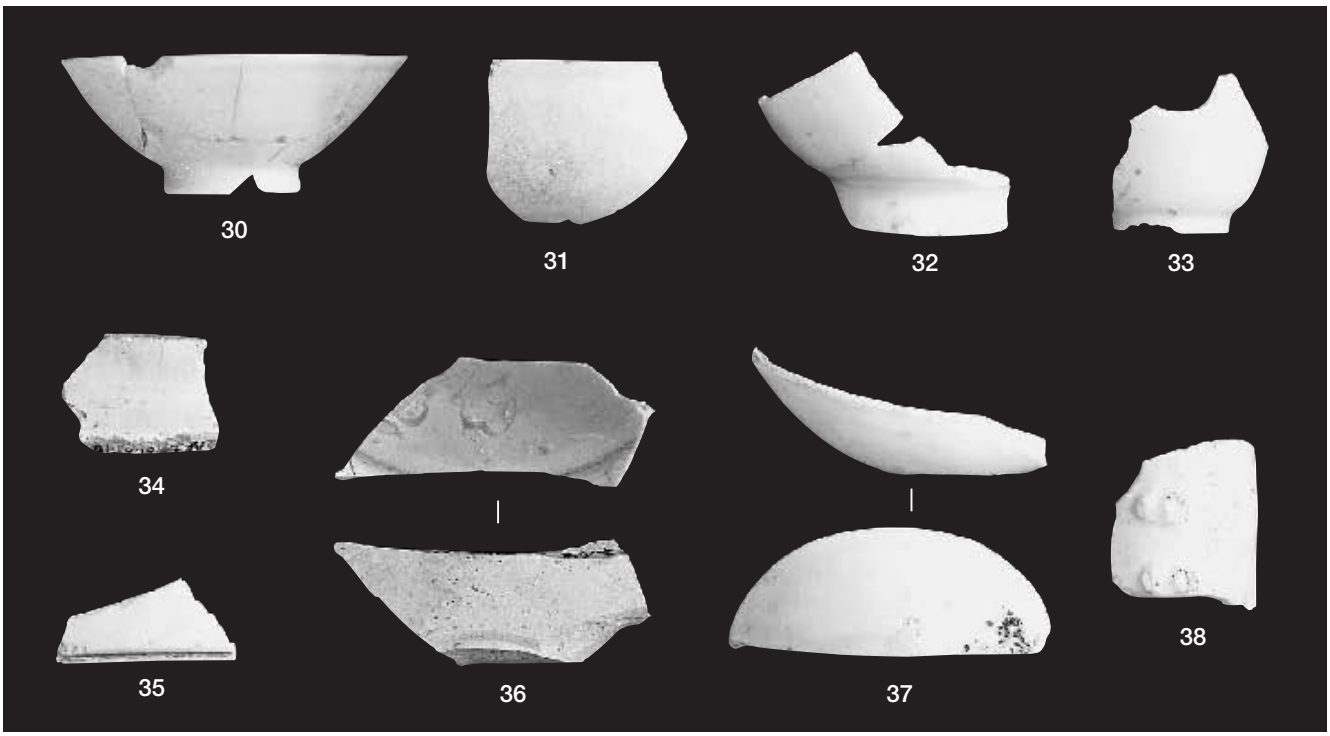

49
50
51
52
53
54
55
56
57
59
58
60
61
62
63
64
65
66
67
68
69
70
71
72
73
75
74

図版13　青磁（３）

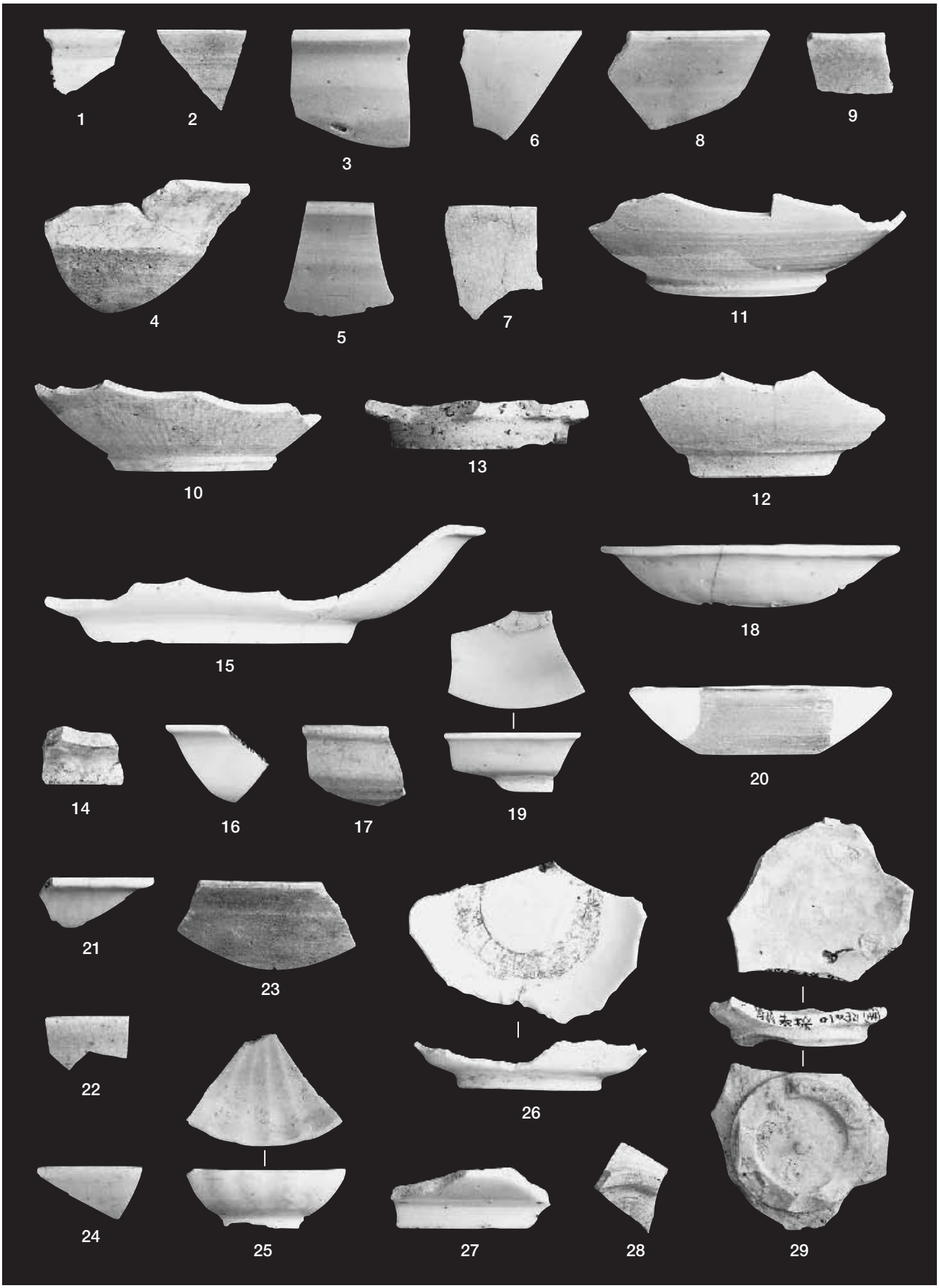


図版14　青磁（４）

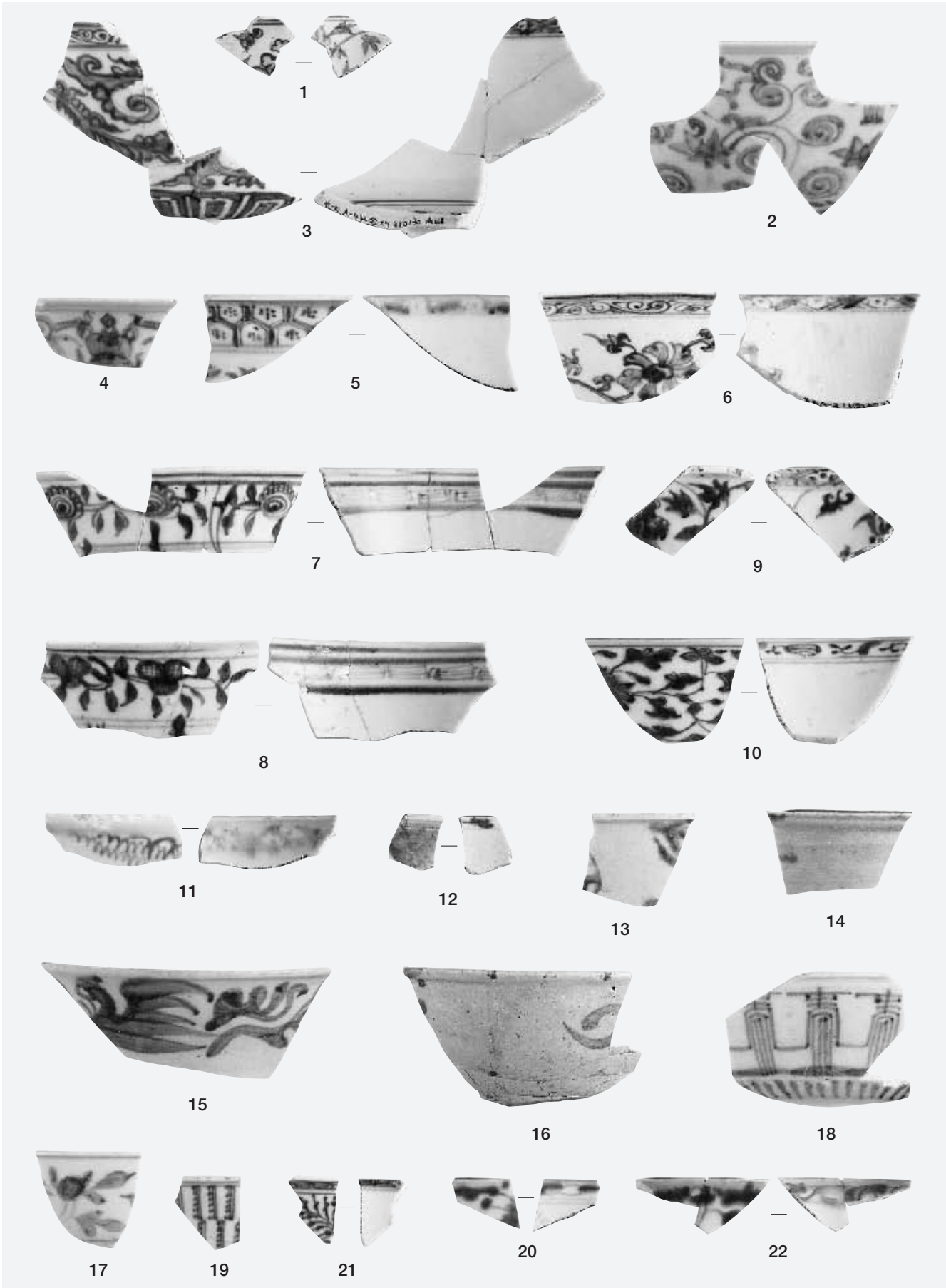




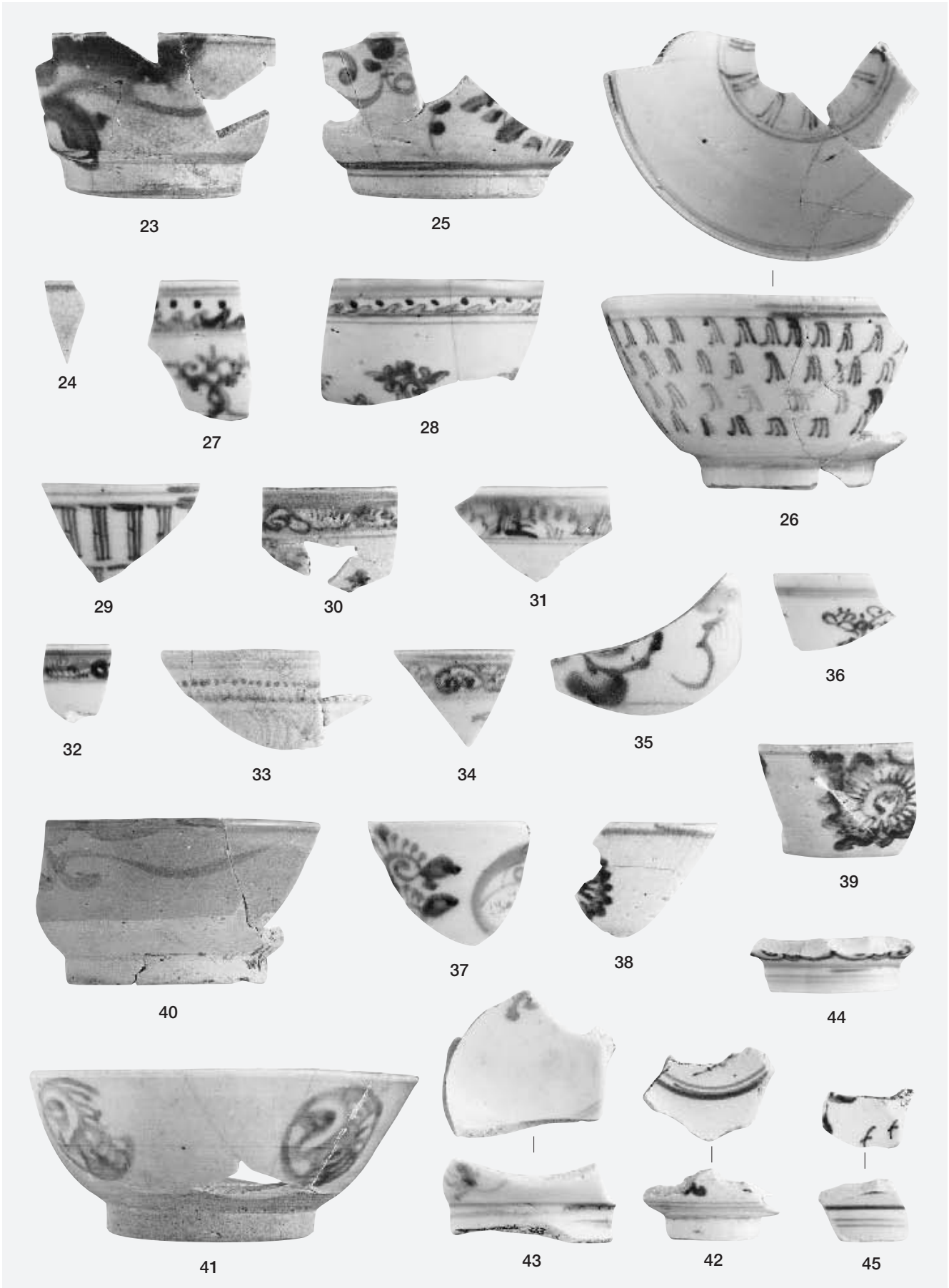
図版15　青磁（５）・白磁（２）



図版16　白磁（１）

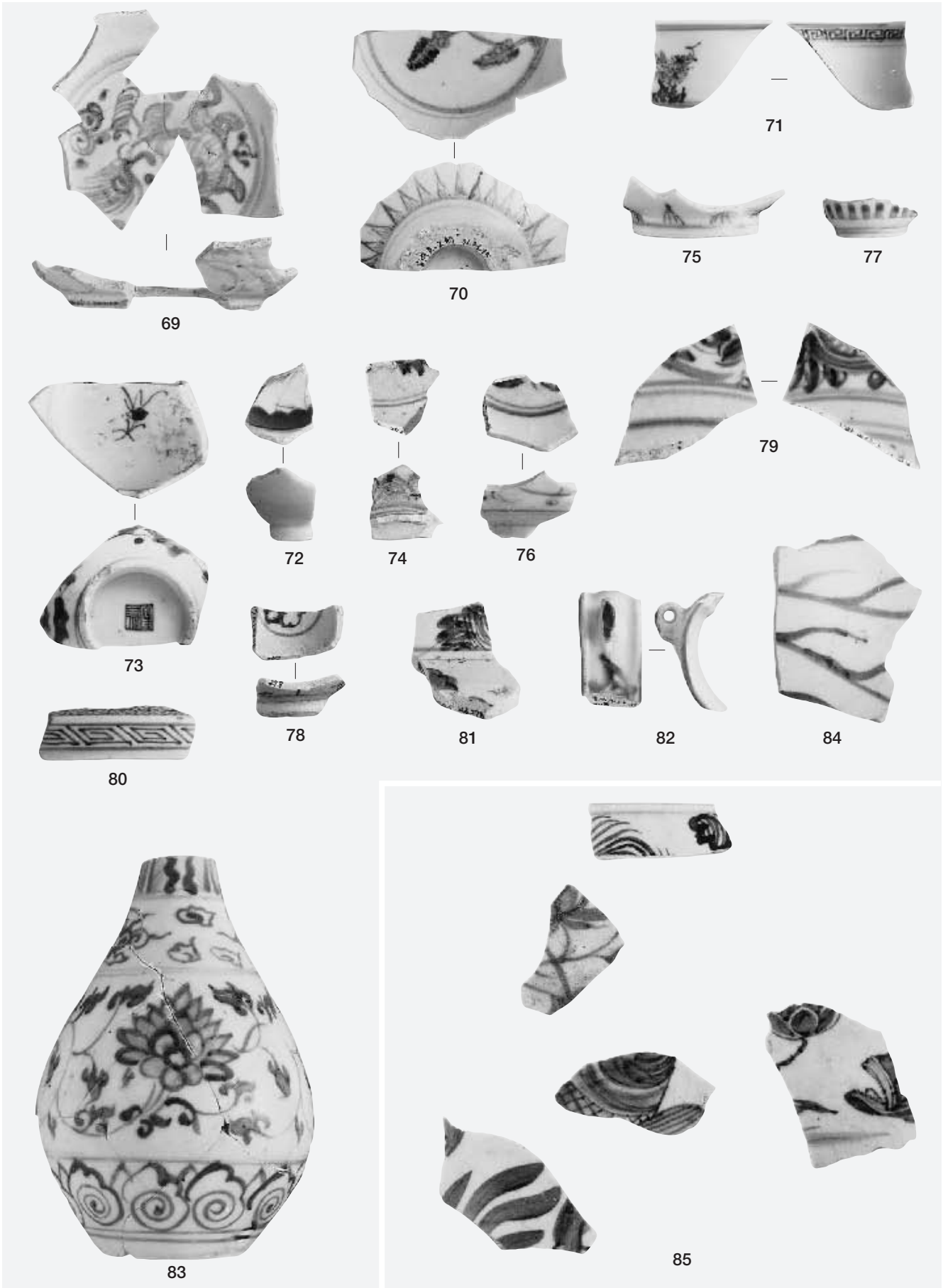


図版17　染付（１）



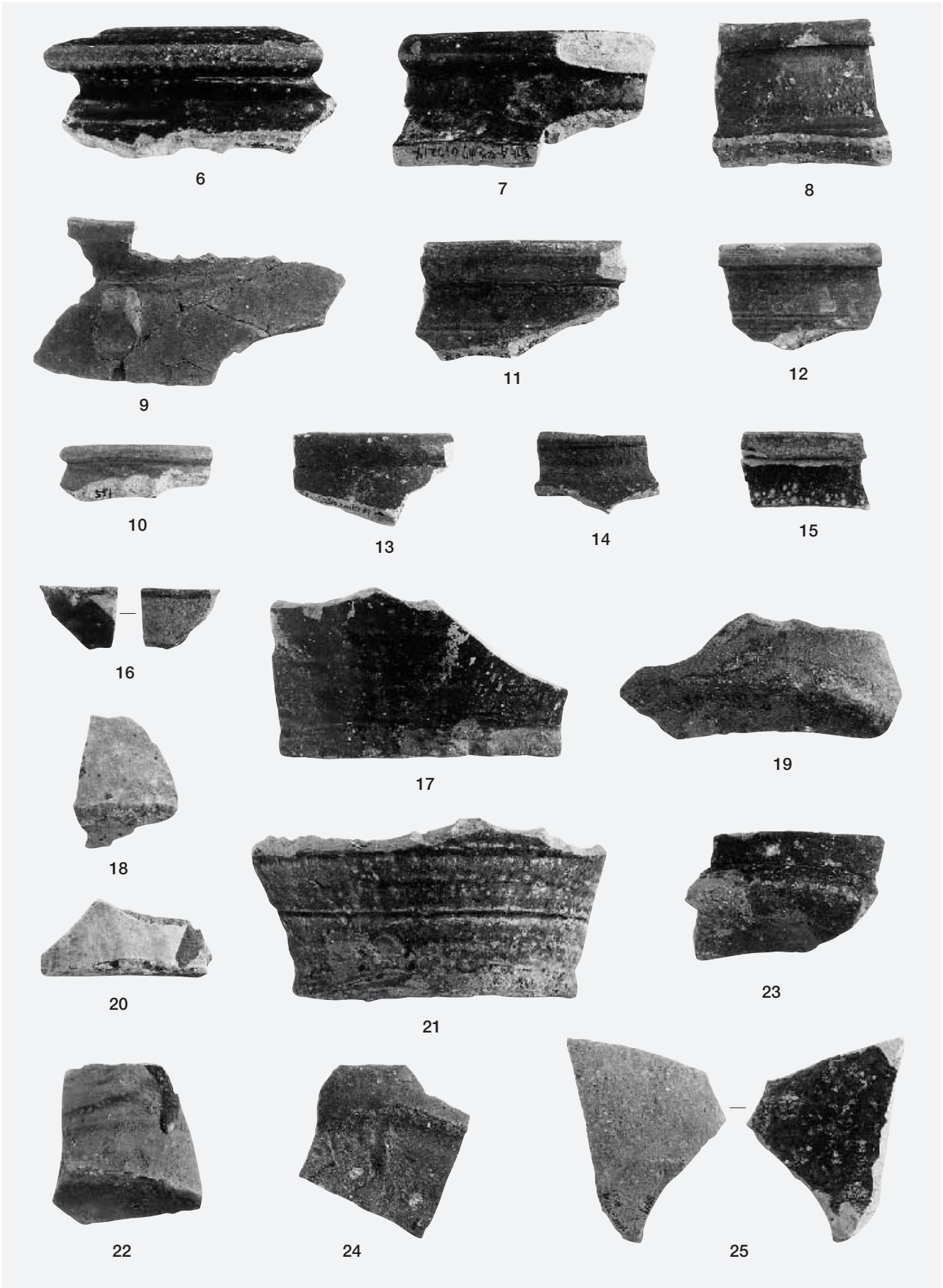
図版18　染付（２）

図版19　染付（３）

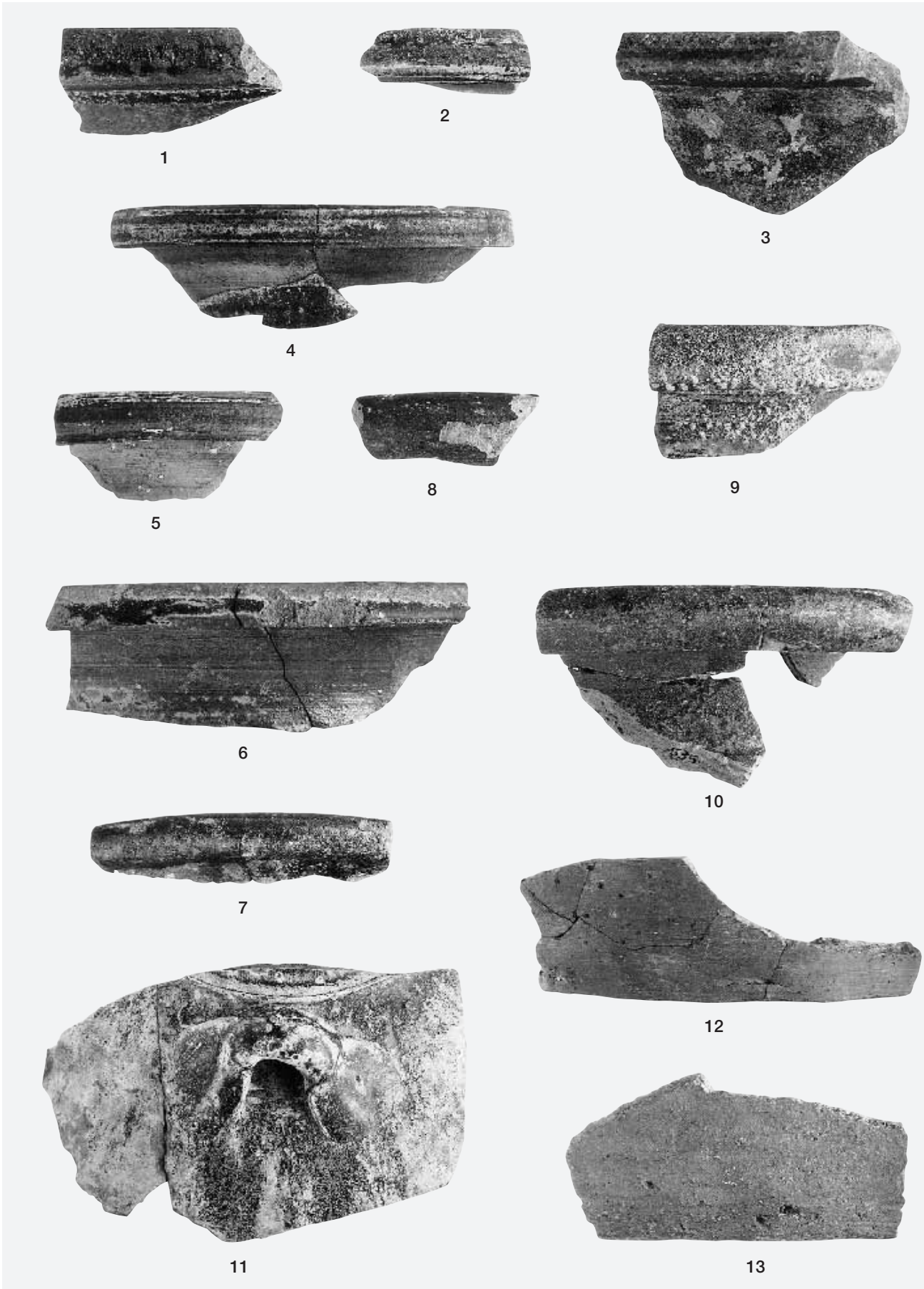


図版20　染付（４）

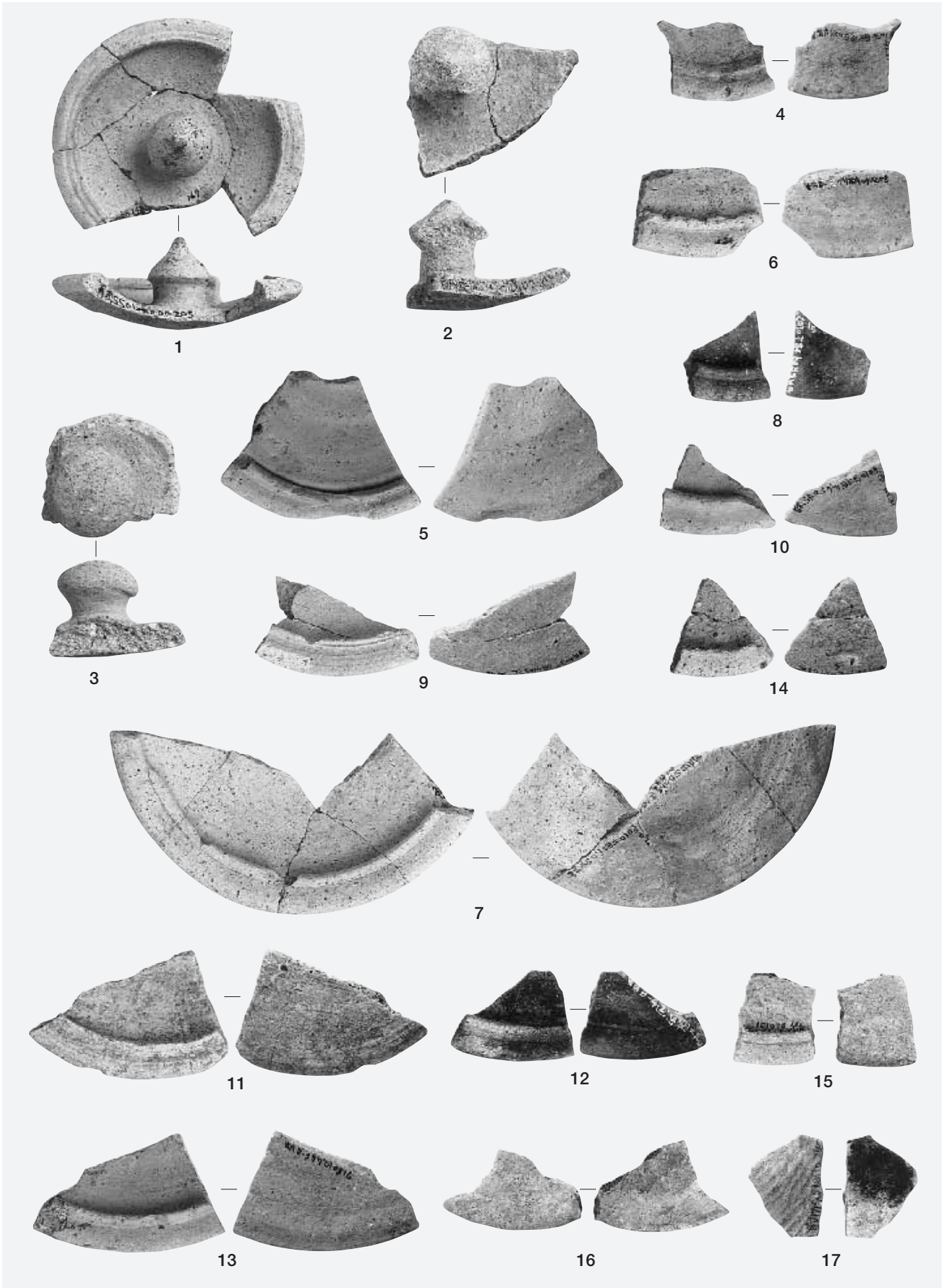
図版21　褐釉陶器（１）中国産



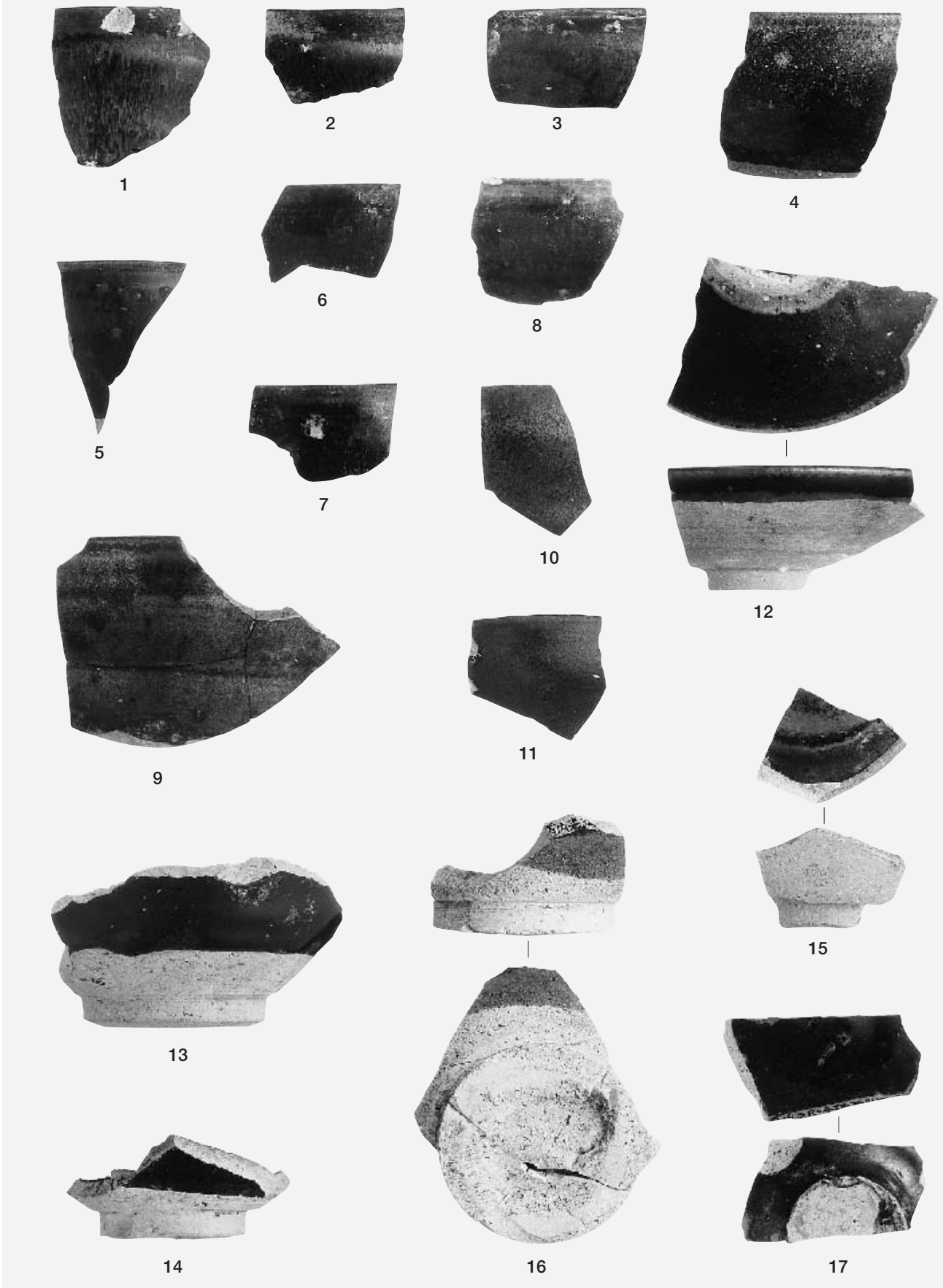
図版22　褐釉陶器（２）中国産



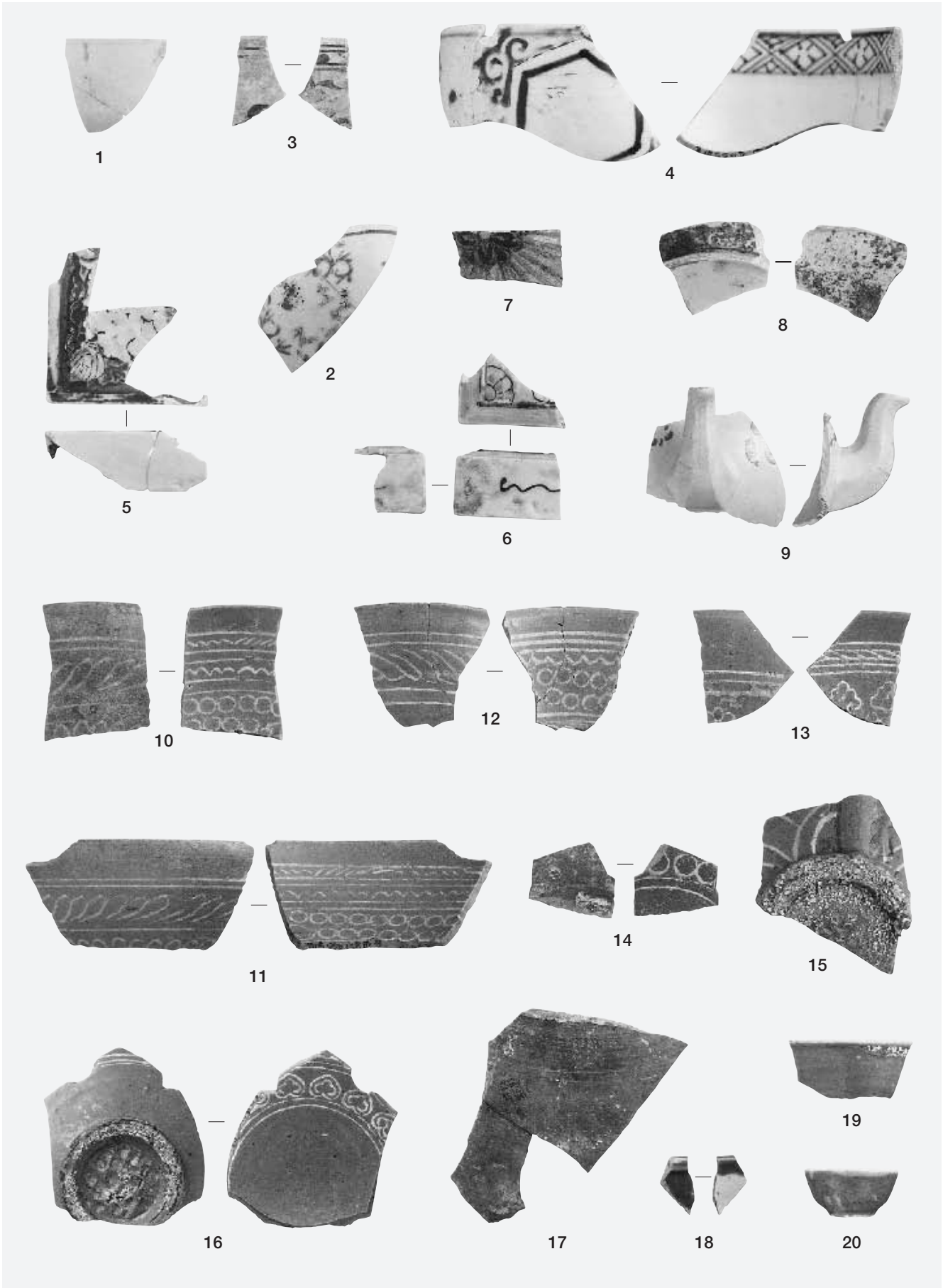
図版23　褐釉陶器（３）タイ産



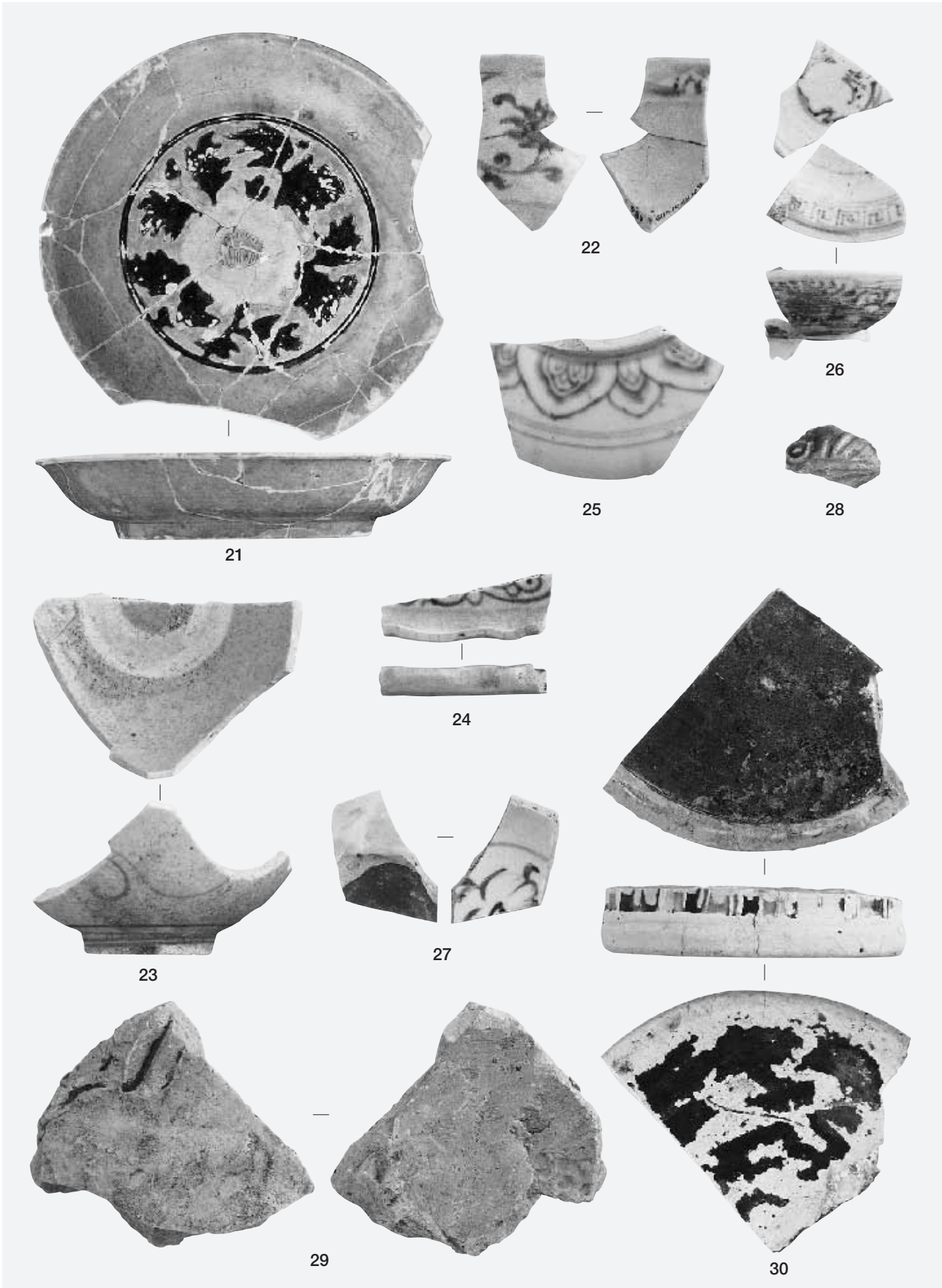
図版24　半練土器



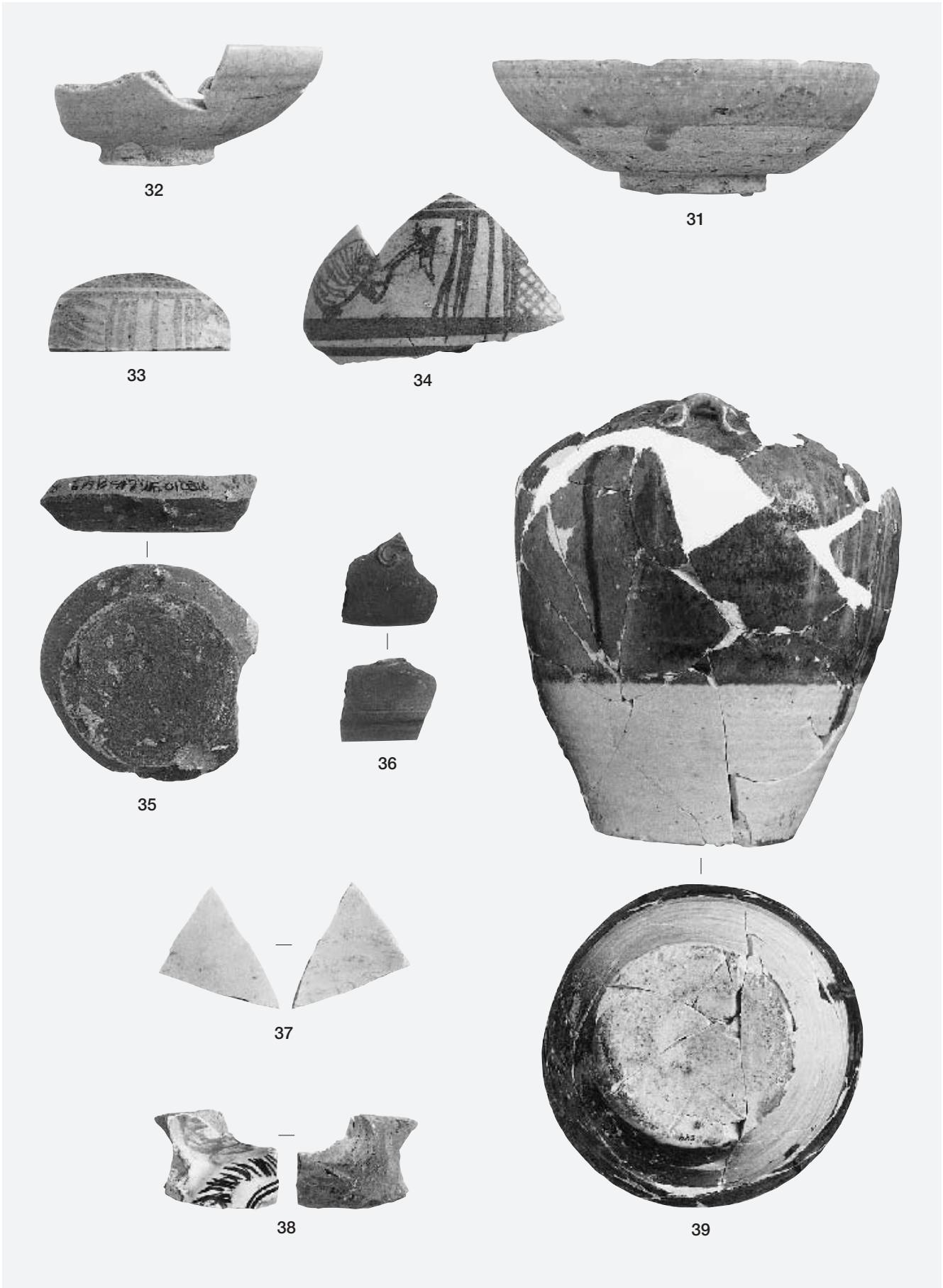
図版25　黒釉陶器



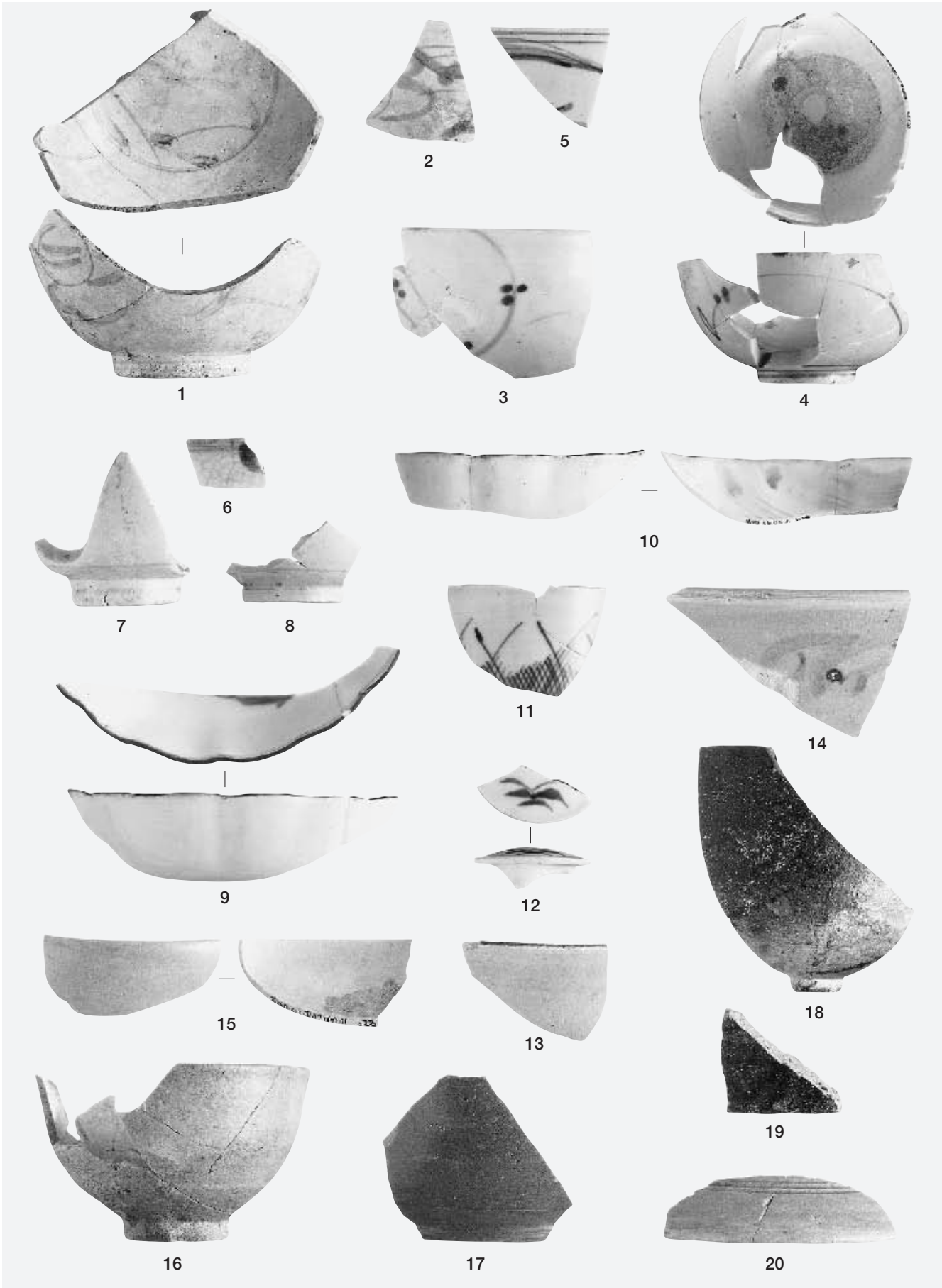
図版26　その他の輸入陶磁器（１）



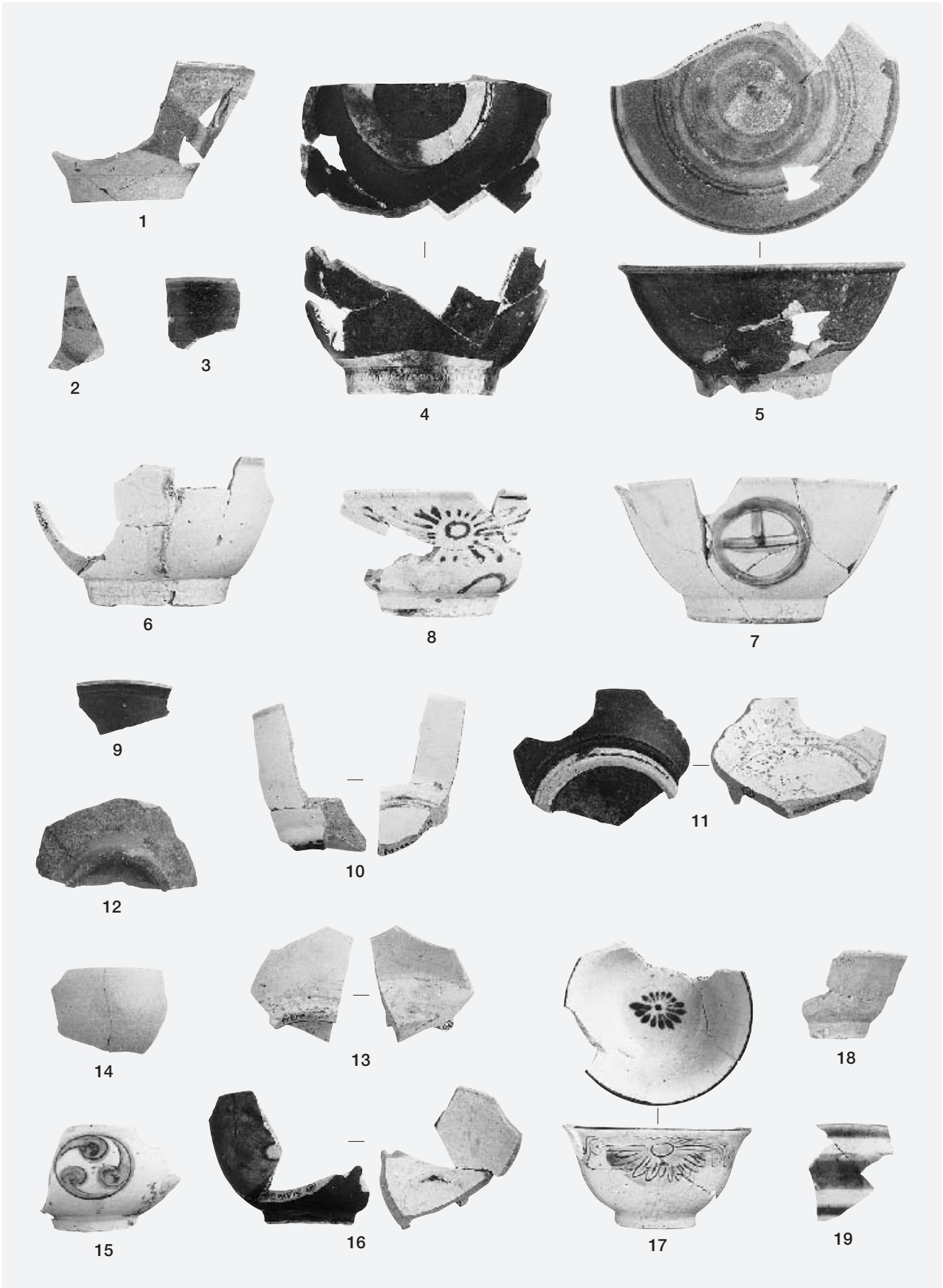
図版27　その他の輸入陶磁器（２）



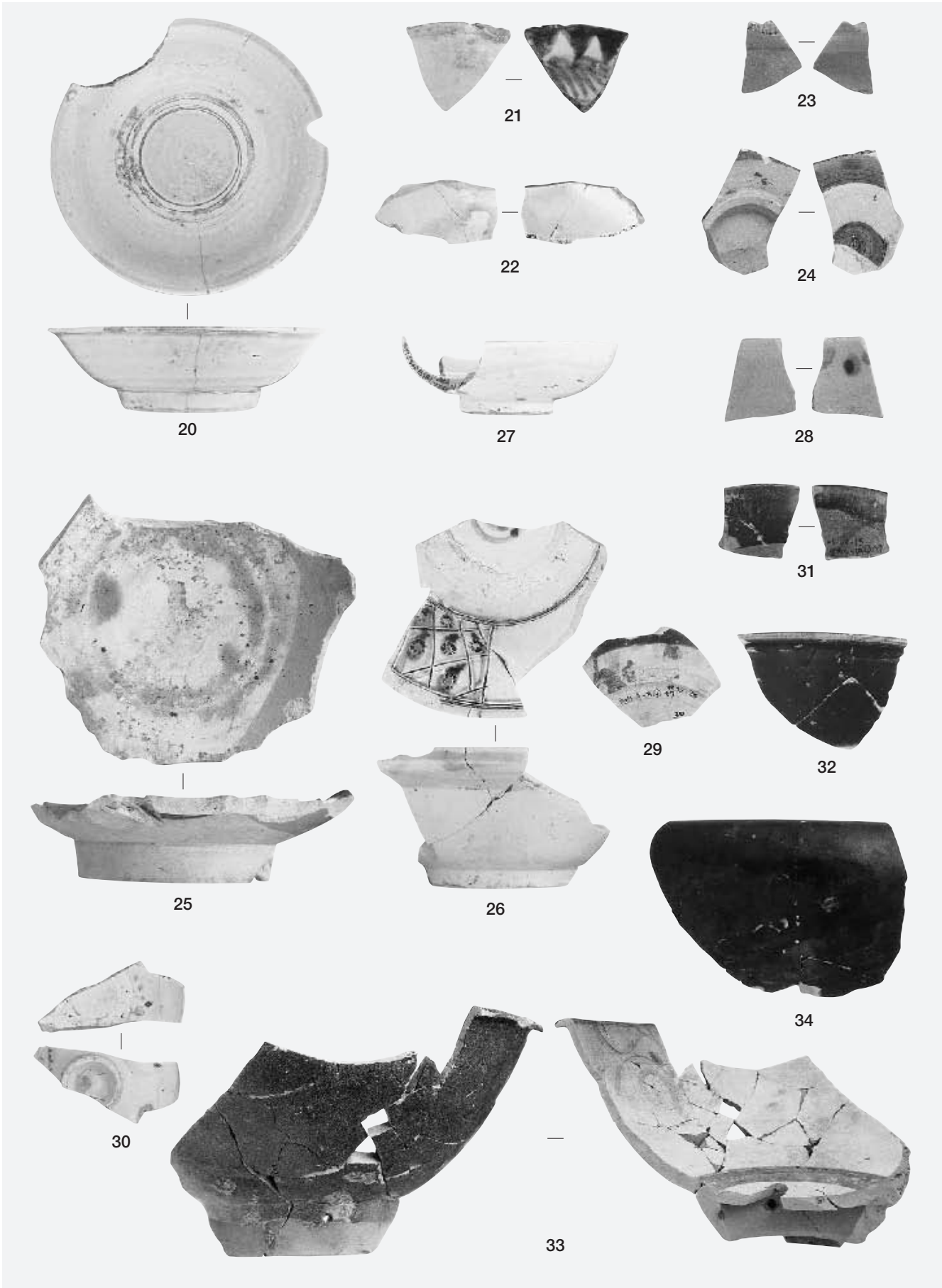
図版28　その他の輸入陶磁器（３）



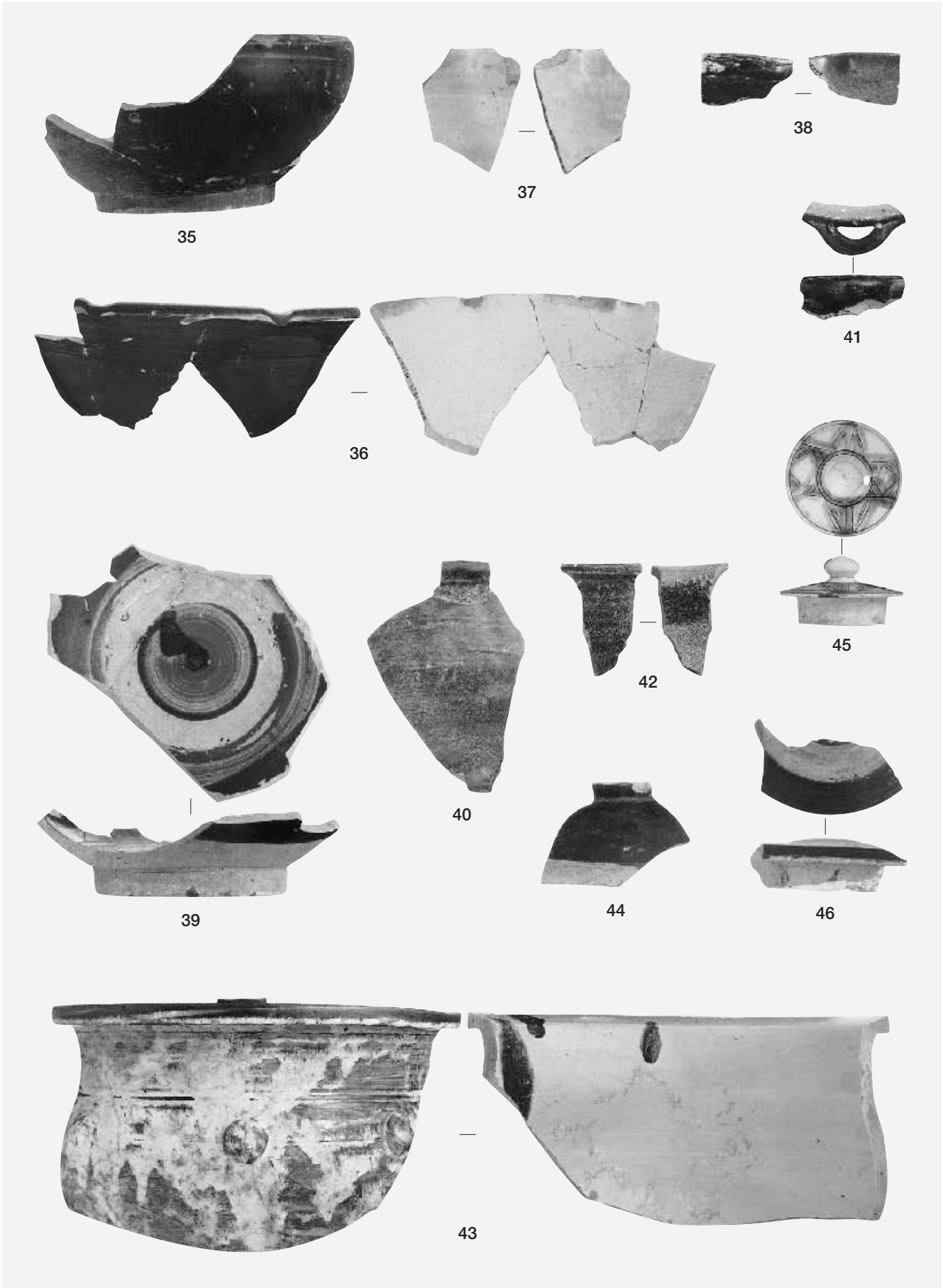
図版29　本土産陶磁器



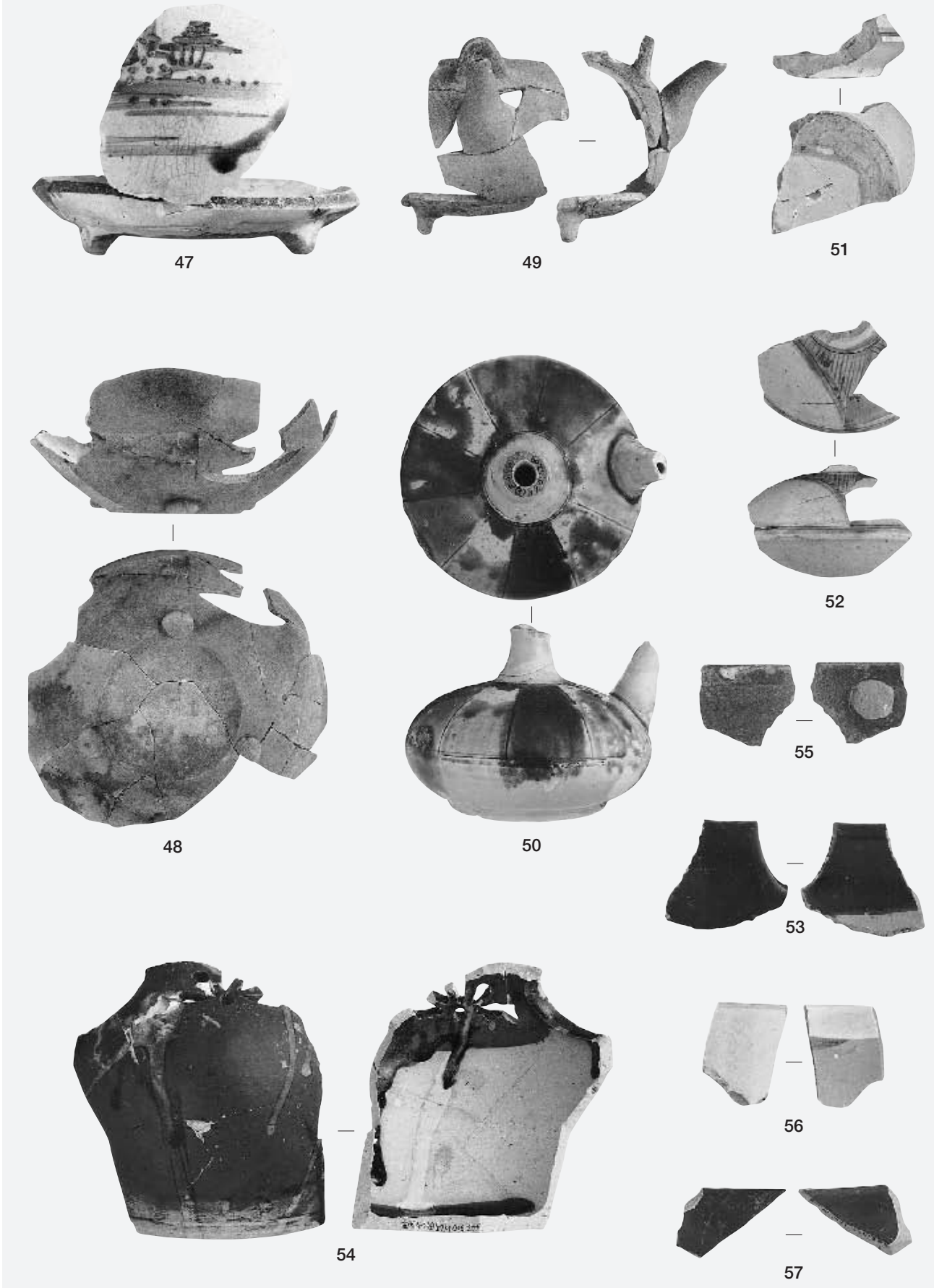
図版30　沖縄産施釉陶器（１）



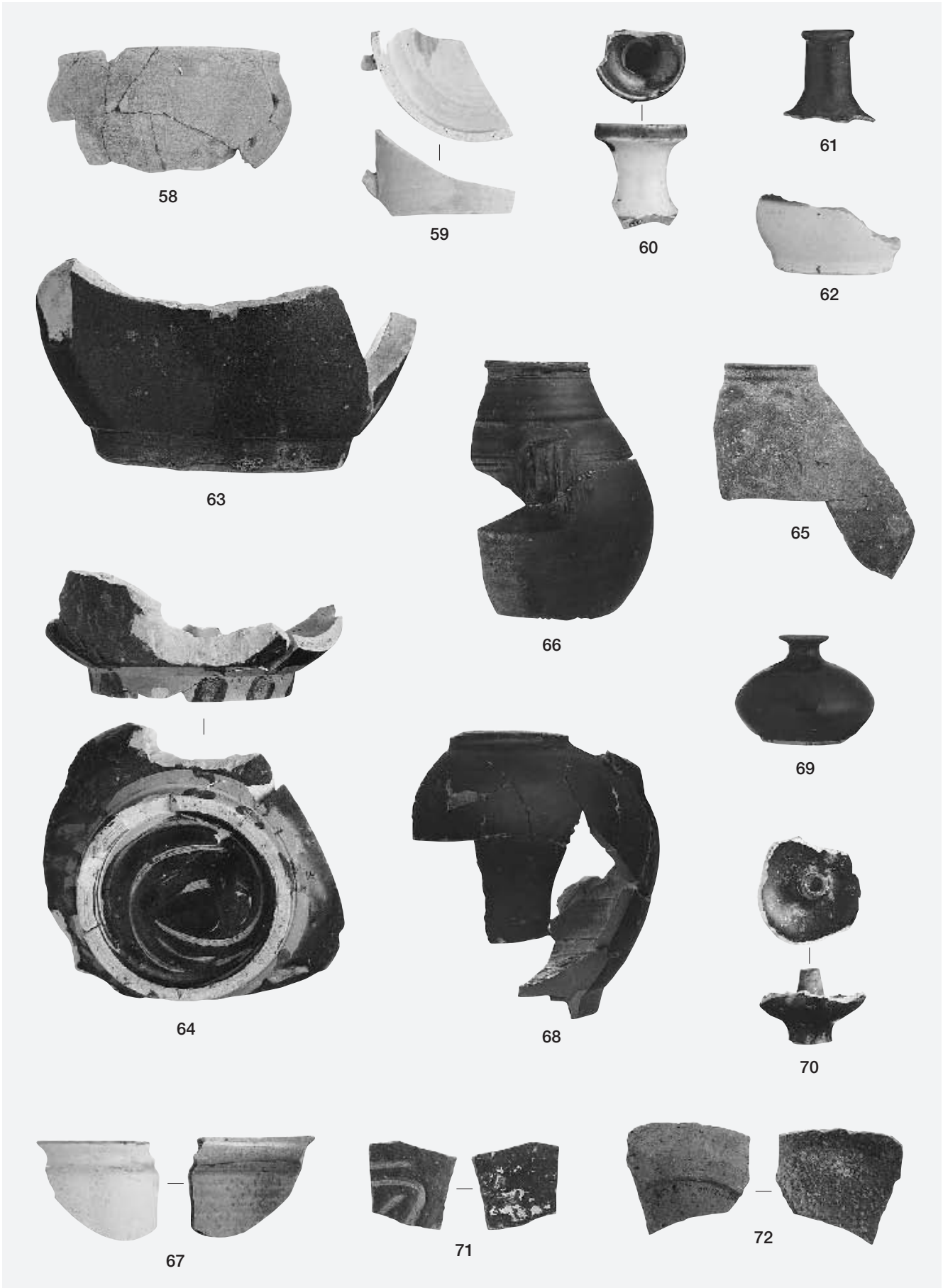
図版31　沖縄産施釉陶器（２）



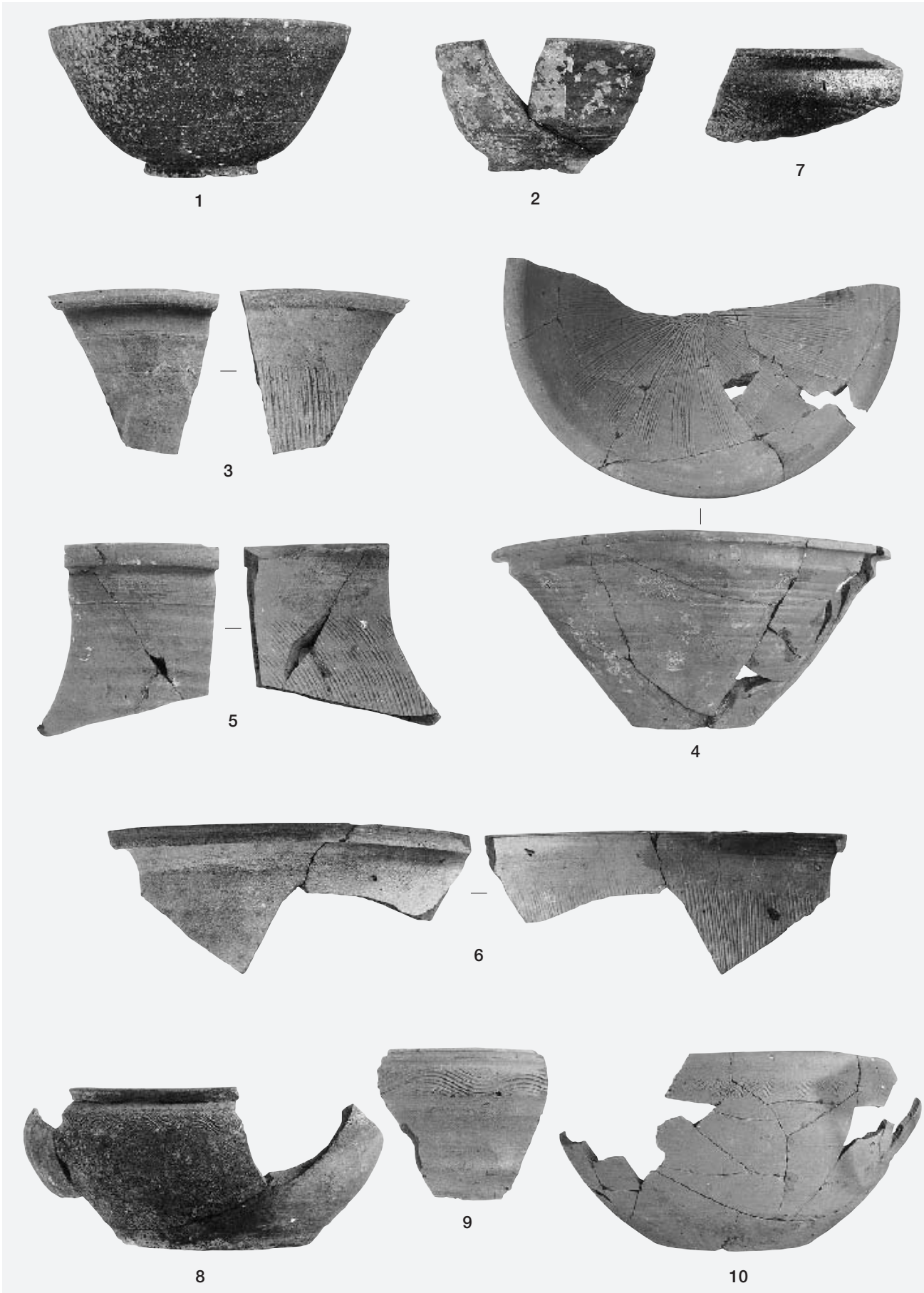
図版32　沖縄産施釉陶器（３）



図版33　沖縄産施釉陶器（４）



図版34　沖縄産施釉陶器（５）



図版35　沖縄産無釉陶器（１）

11

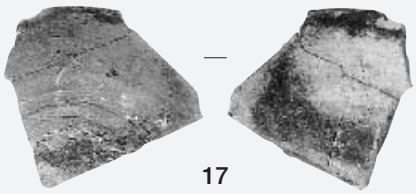
14

15

16

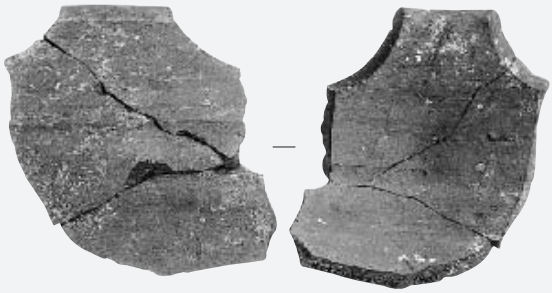
12

13



17

18



19

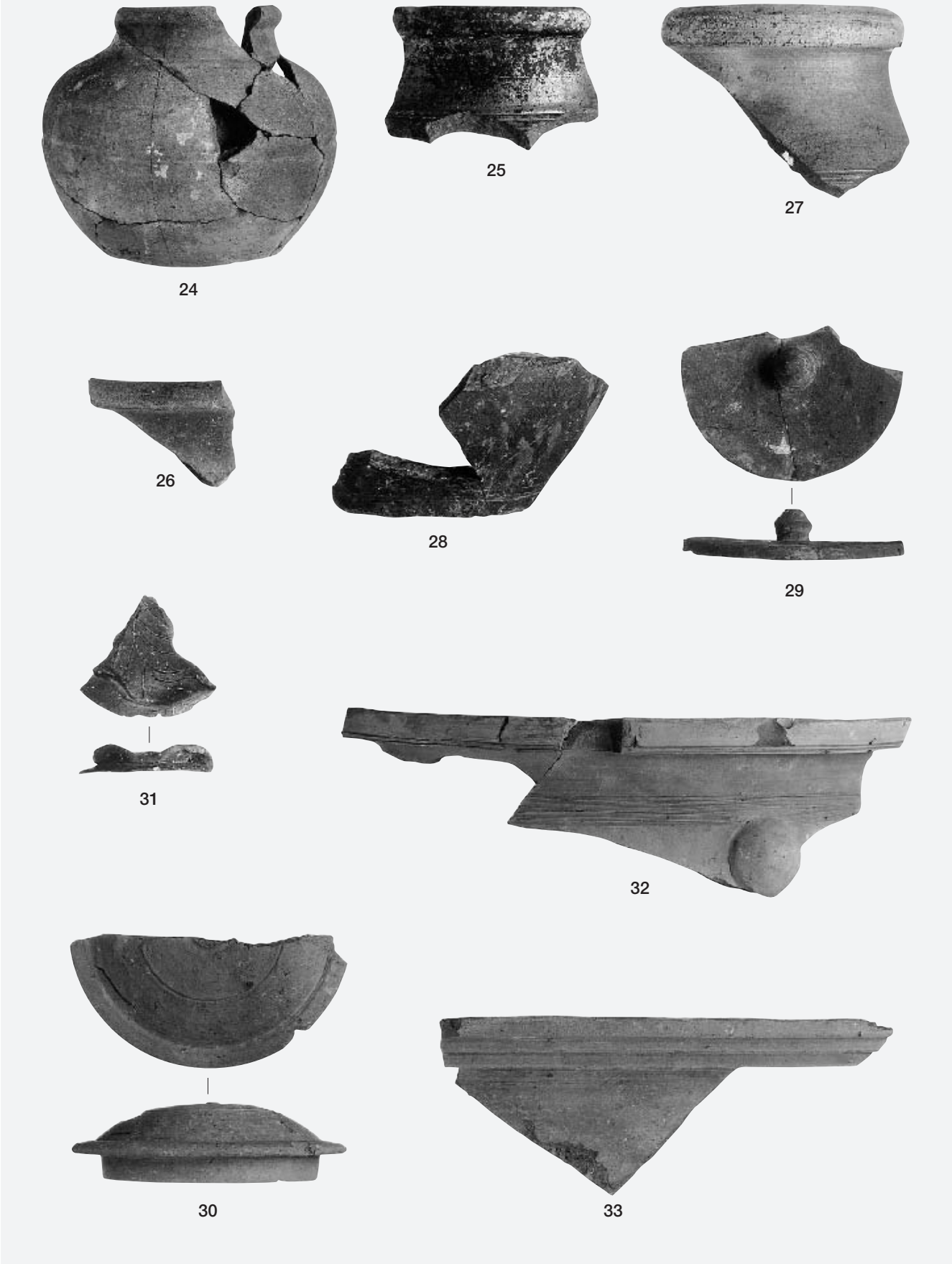
20

21

22

23

図版36　沖縄産無釉陶器（２）

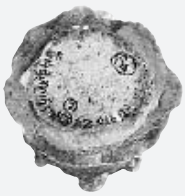


図版37　沖縄産無釉陶器（３）

34

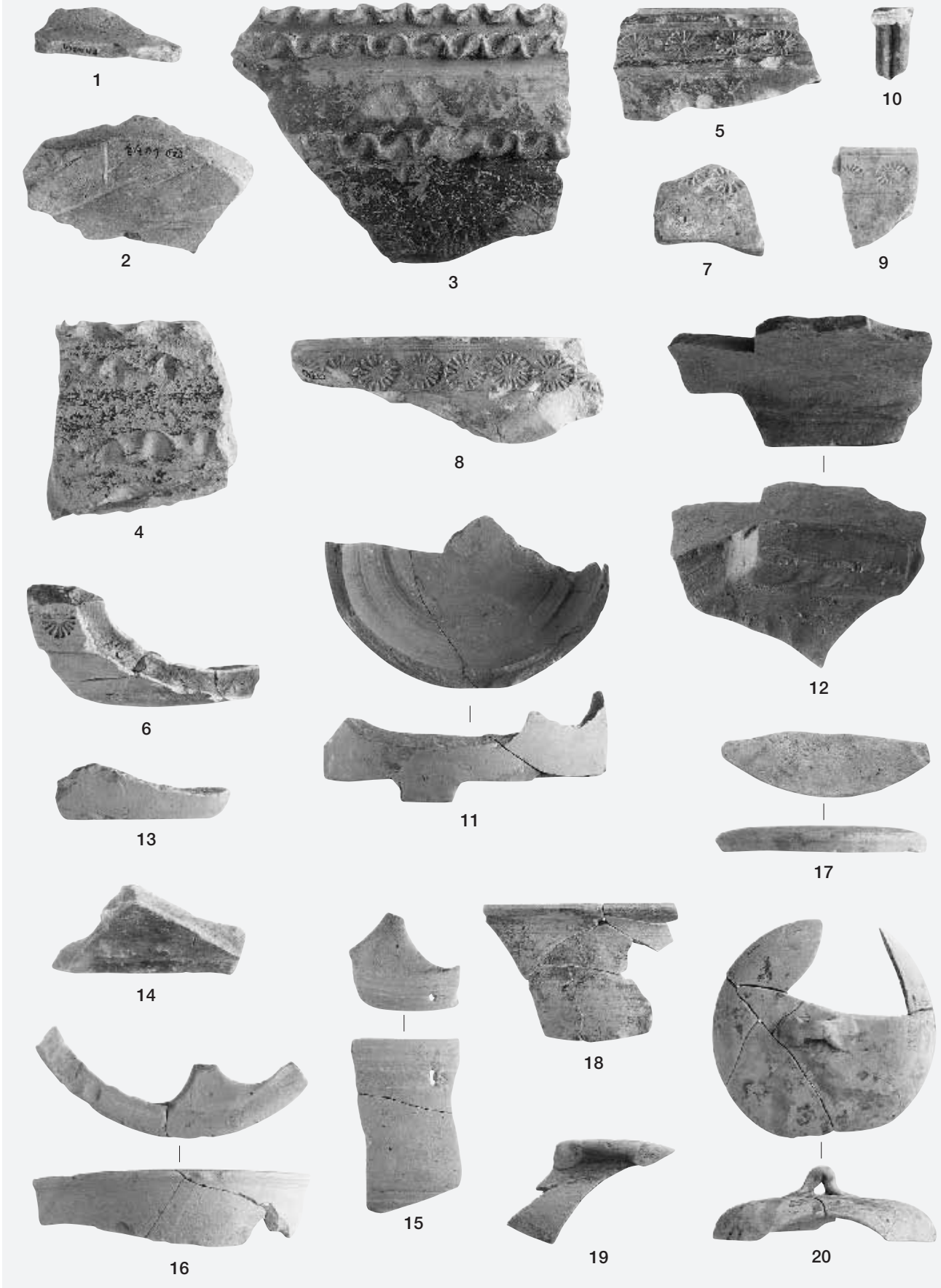
35

36

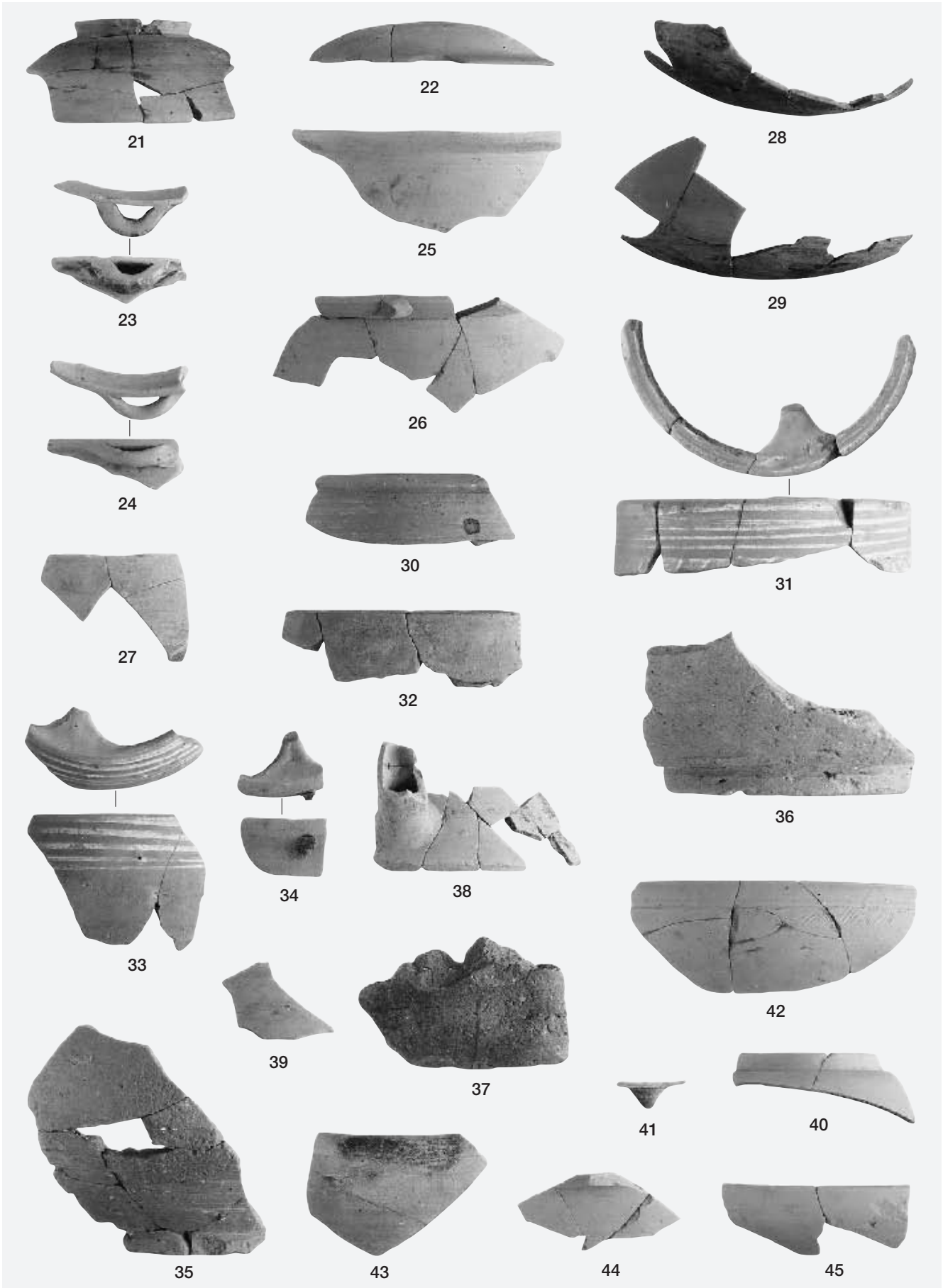


37

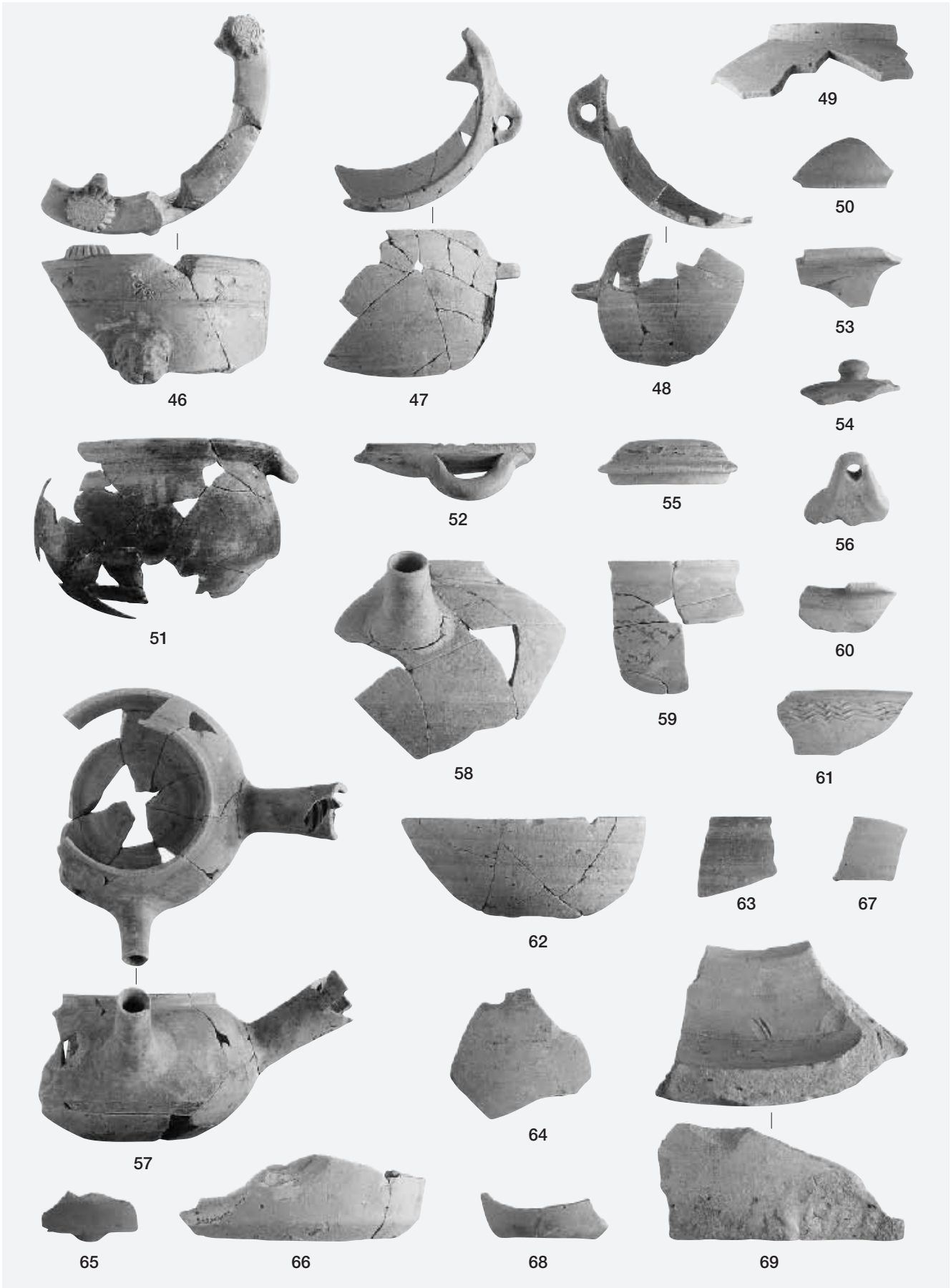
図版38　沖縄産無釉陶器（４）



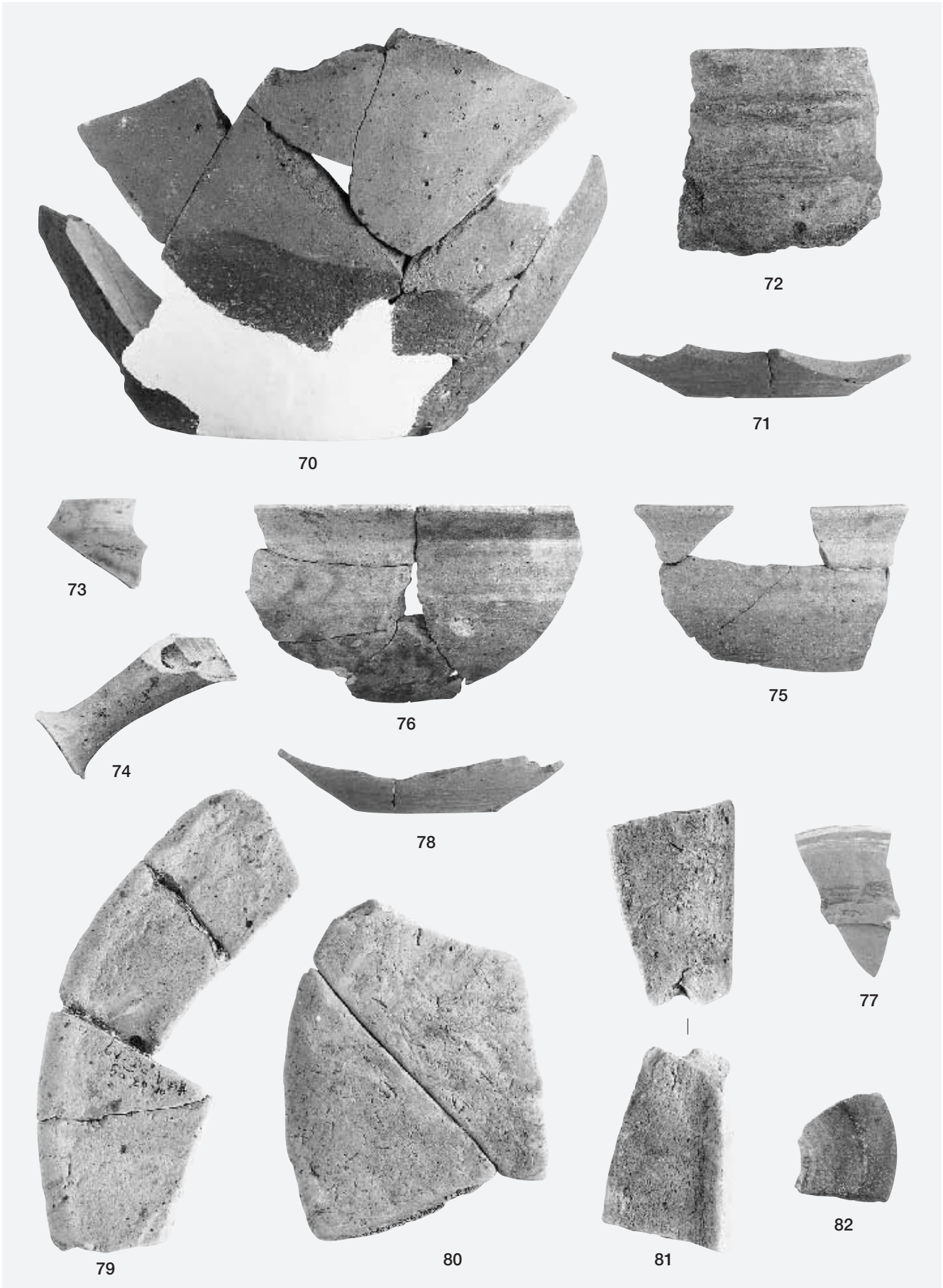
図版39　土器（１）


21
22
28
25
29
23
26
24
30
31
27
32
36
34
38
33
42
39
37
41
40
35
43
44
45

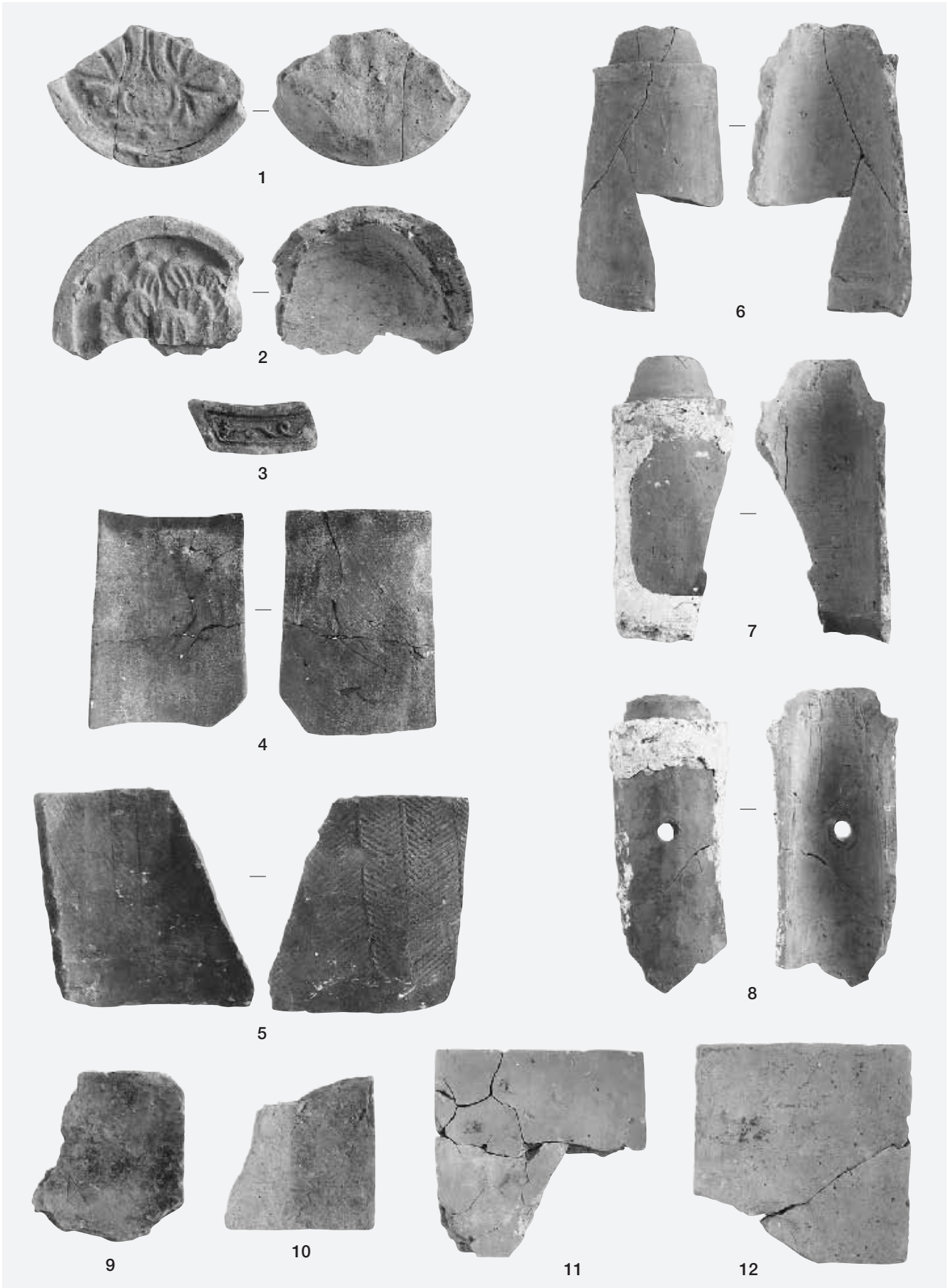
図版40　土器（２）



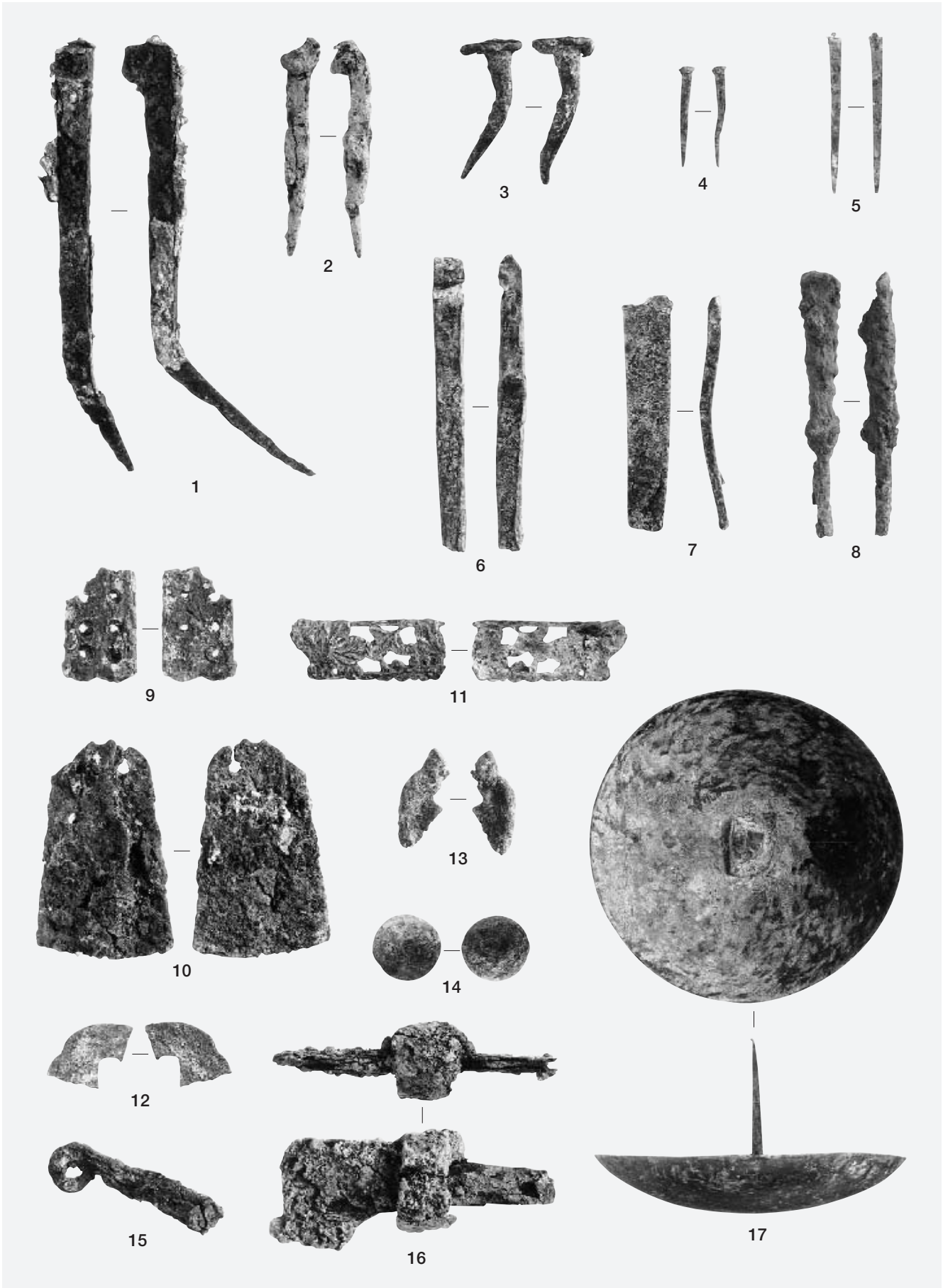
図版41　土器（３）



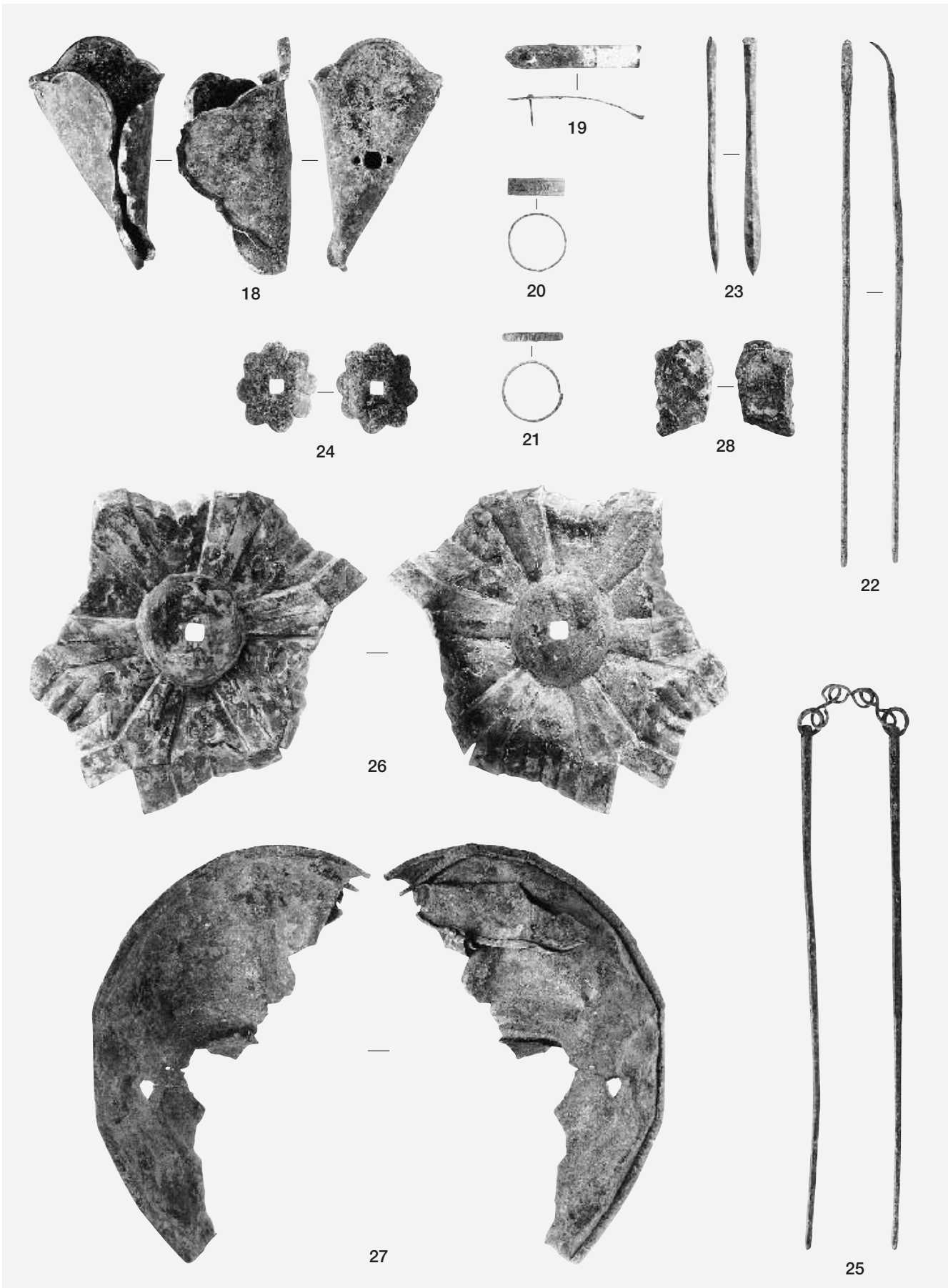
図版42　土器（４）



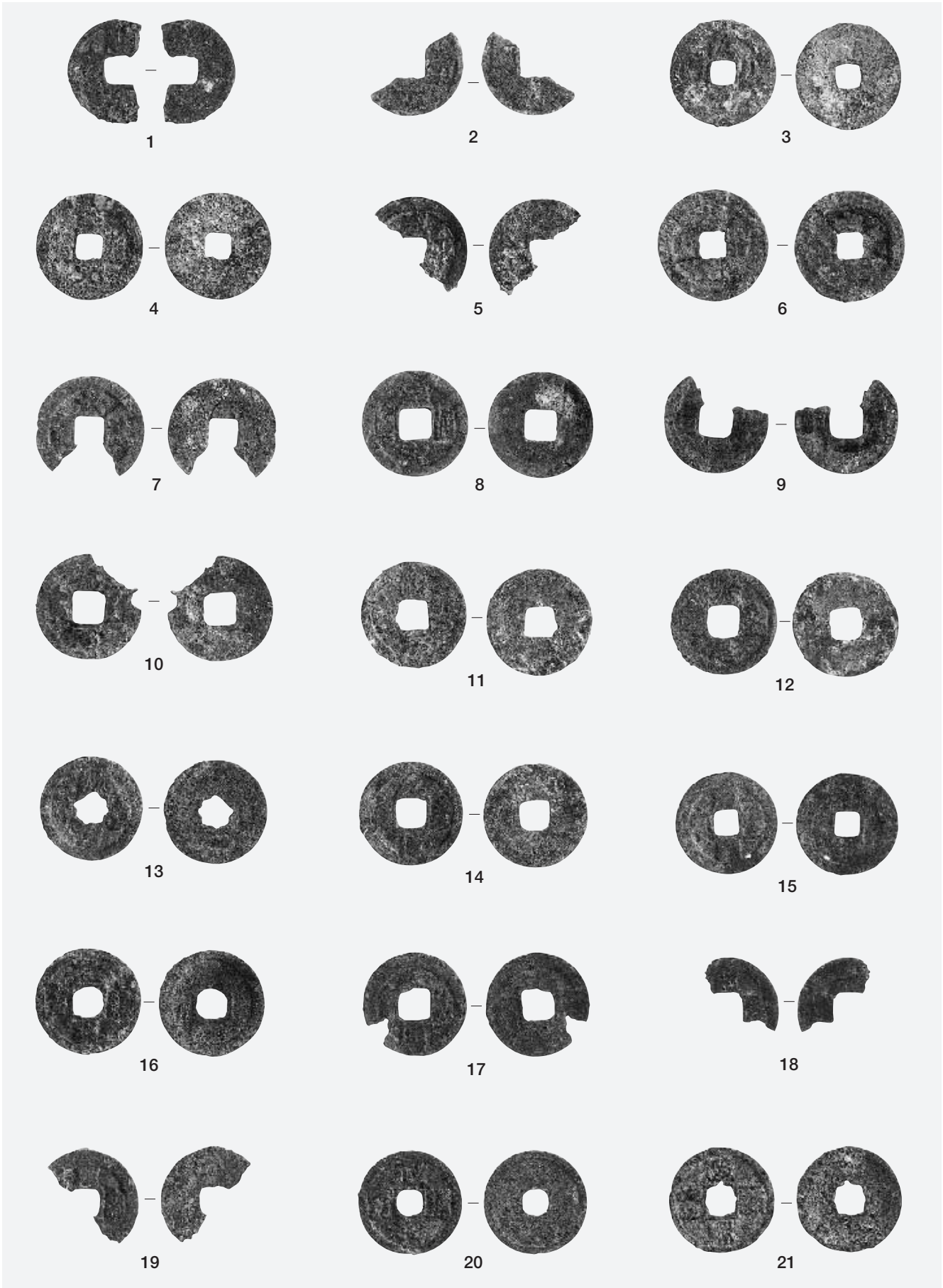
図版43　瓦・塼



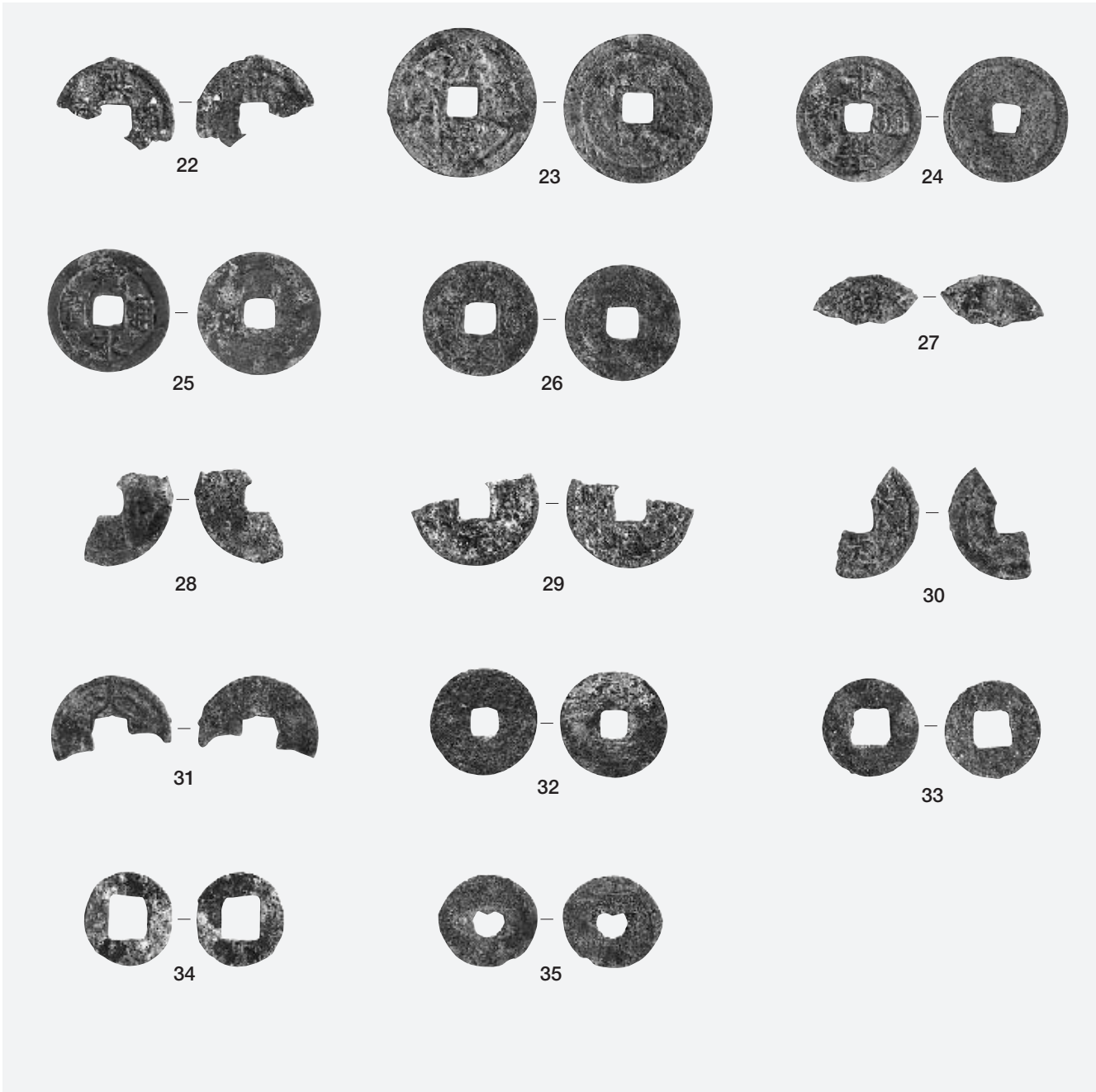
図版44　金属製品（１）



図版45　金属製品（２）

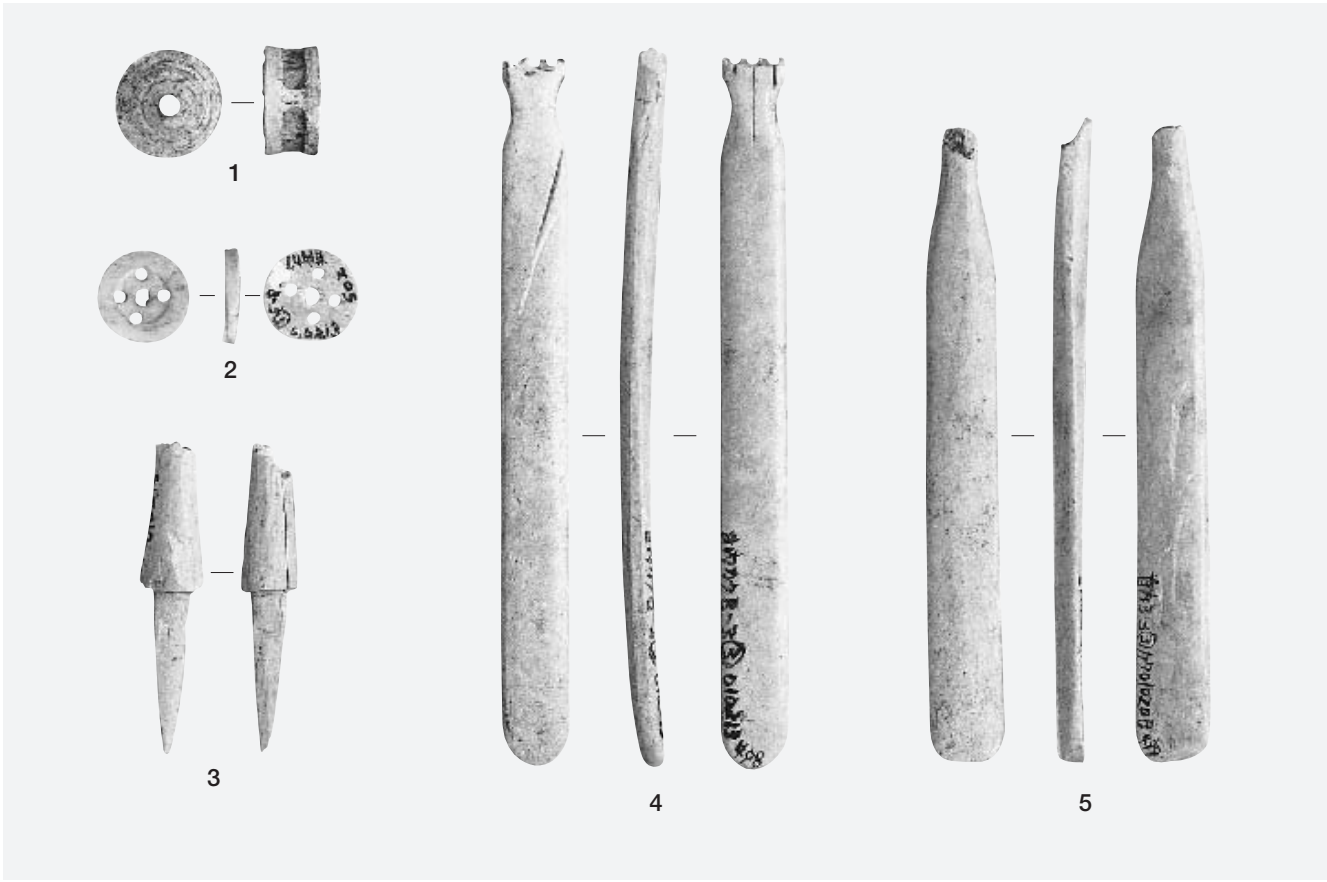


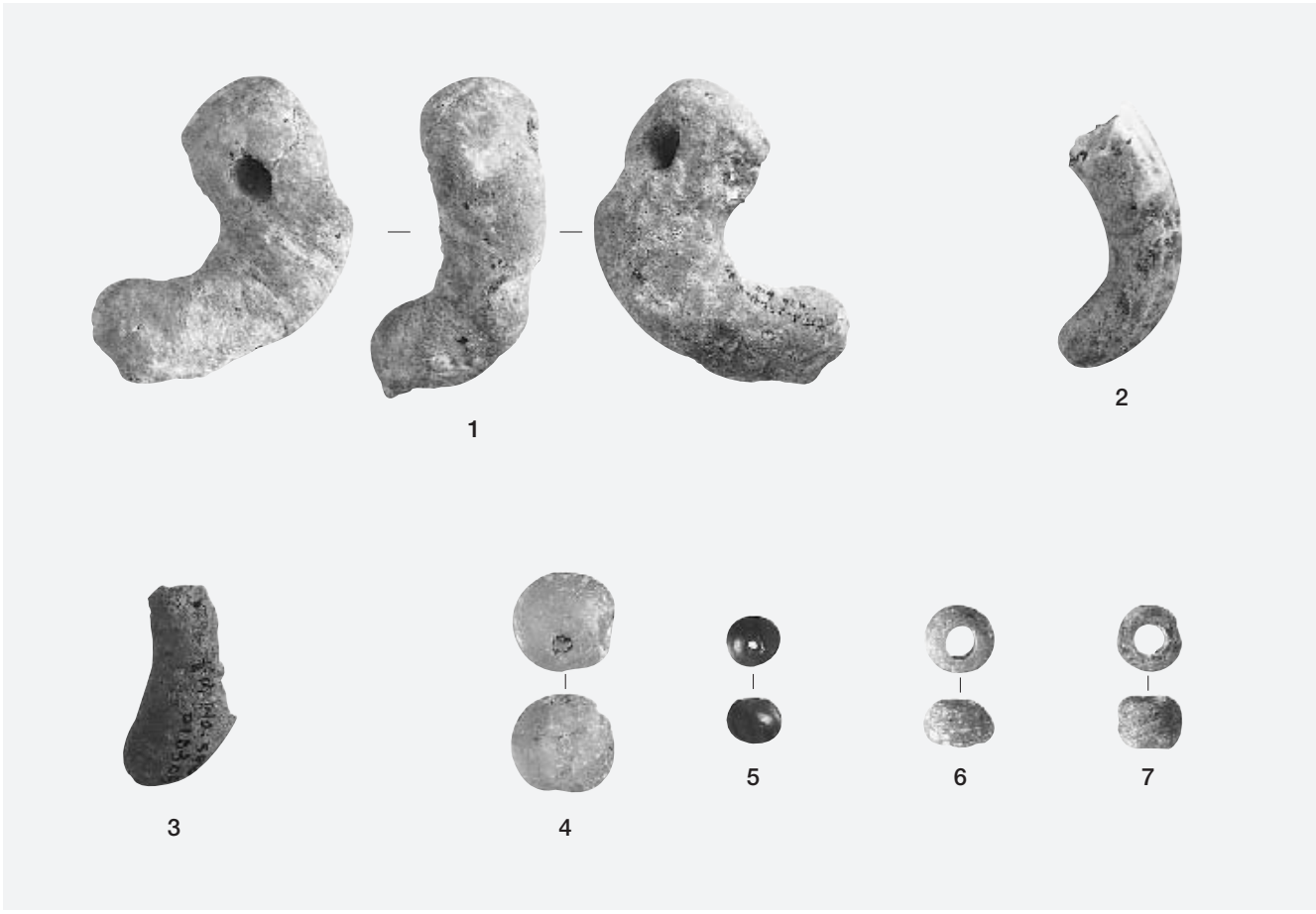
図版46　銭貨（１）



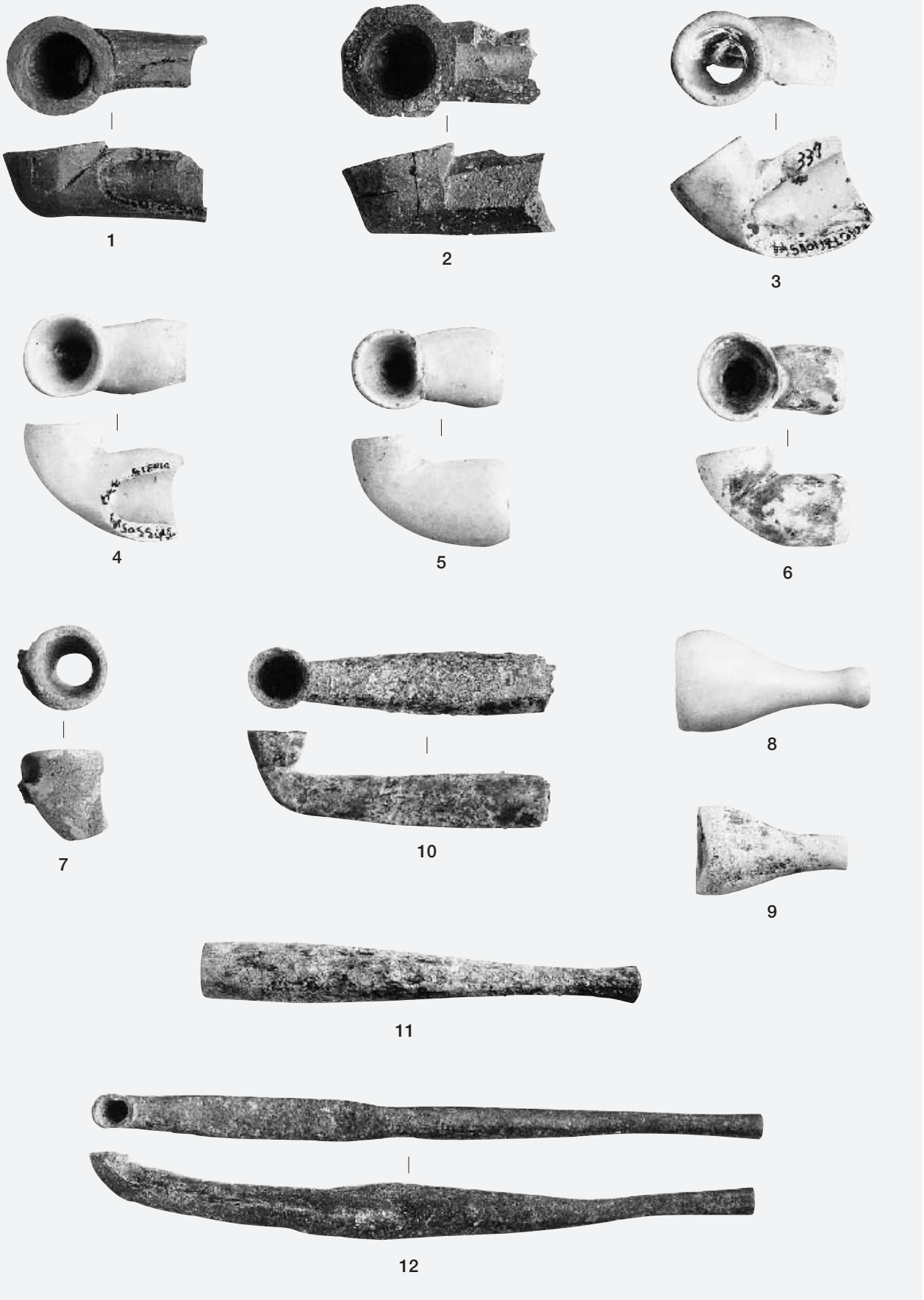
図版47　銭貨（２）・土製品

図版48　貝製品

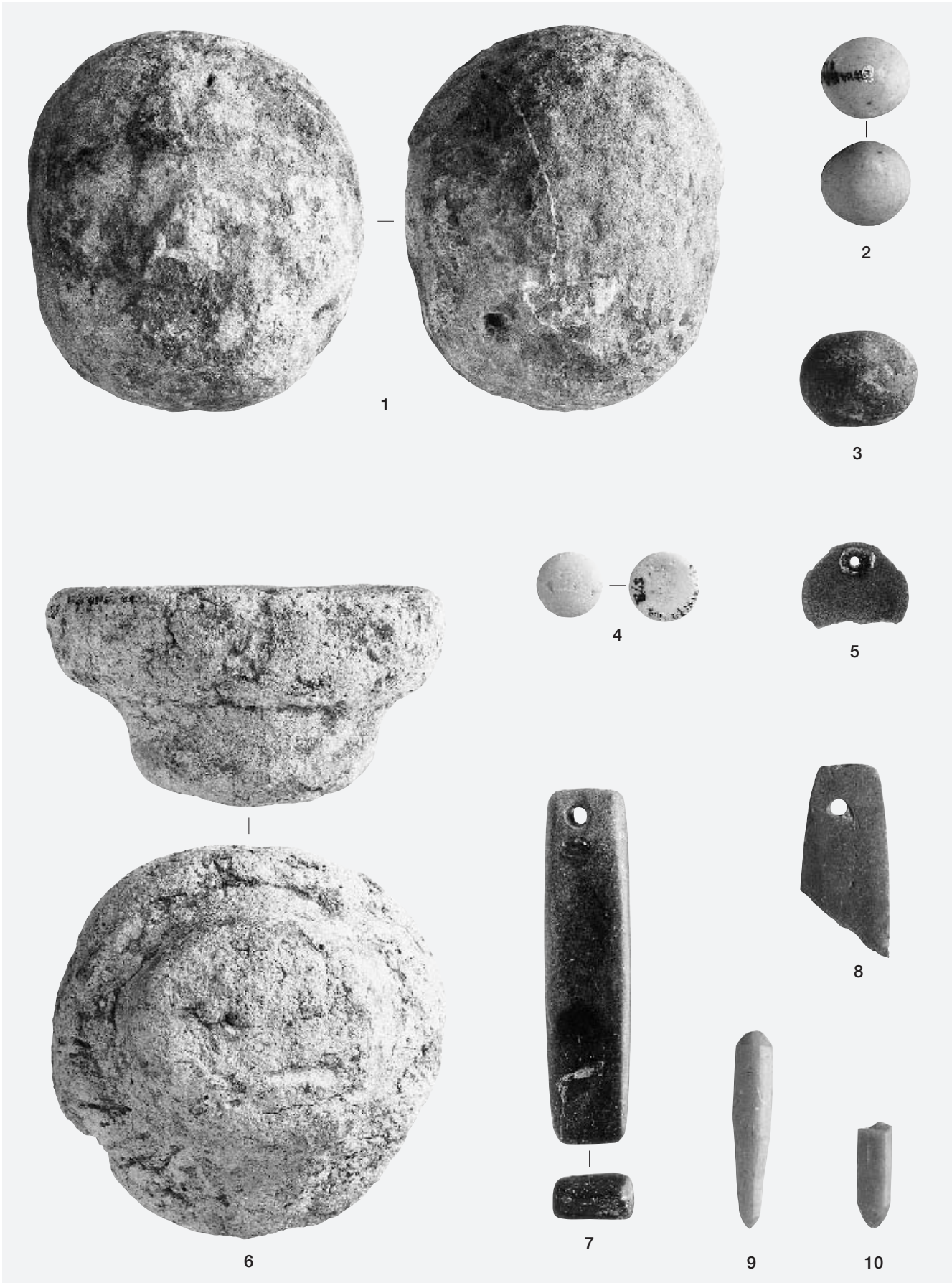




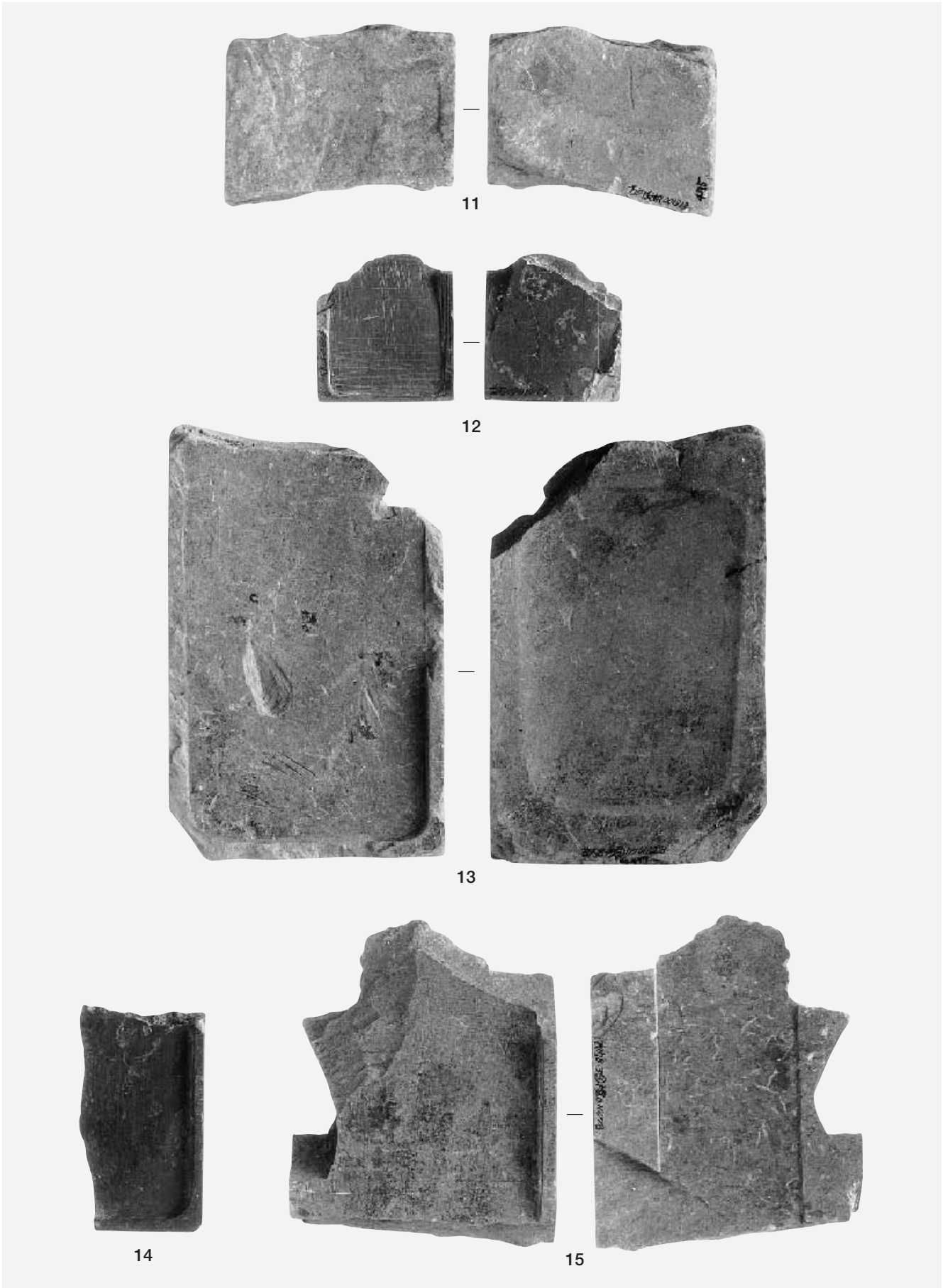
図版49　骨製品・玉製品



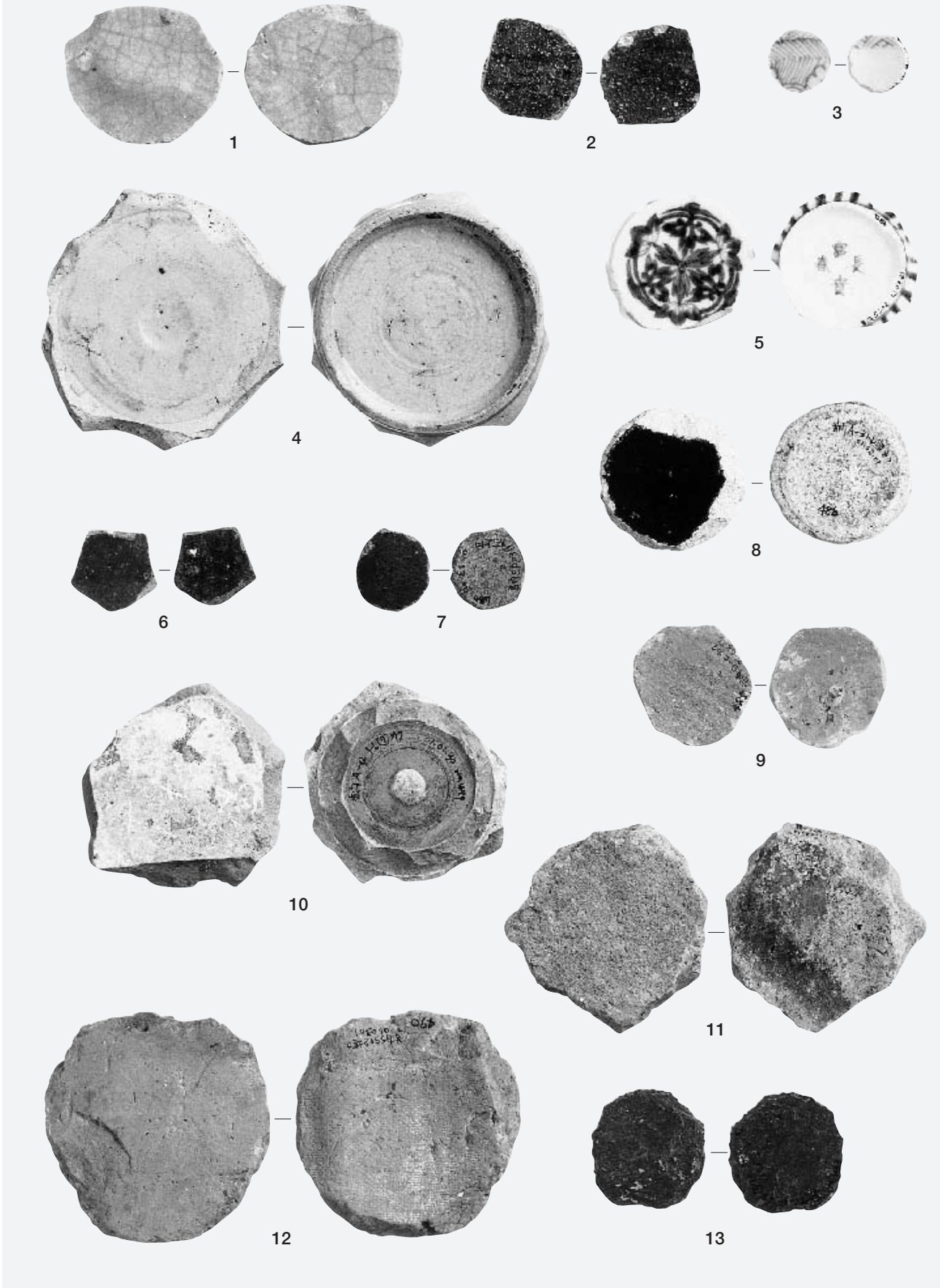
図版50　煙管



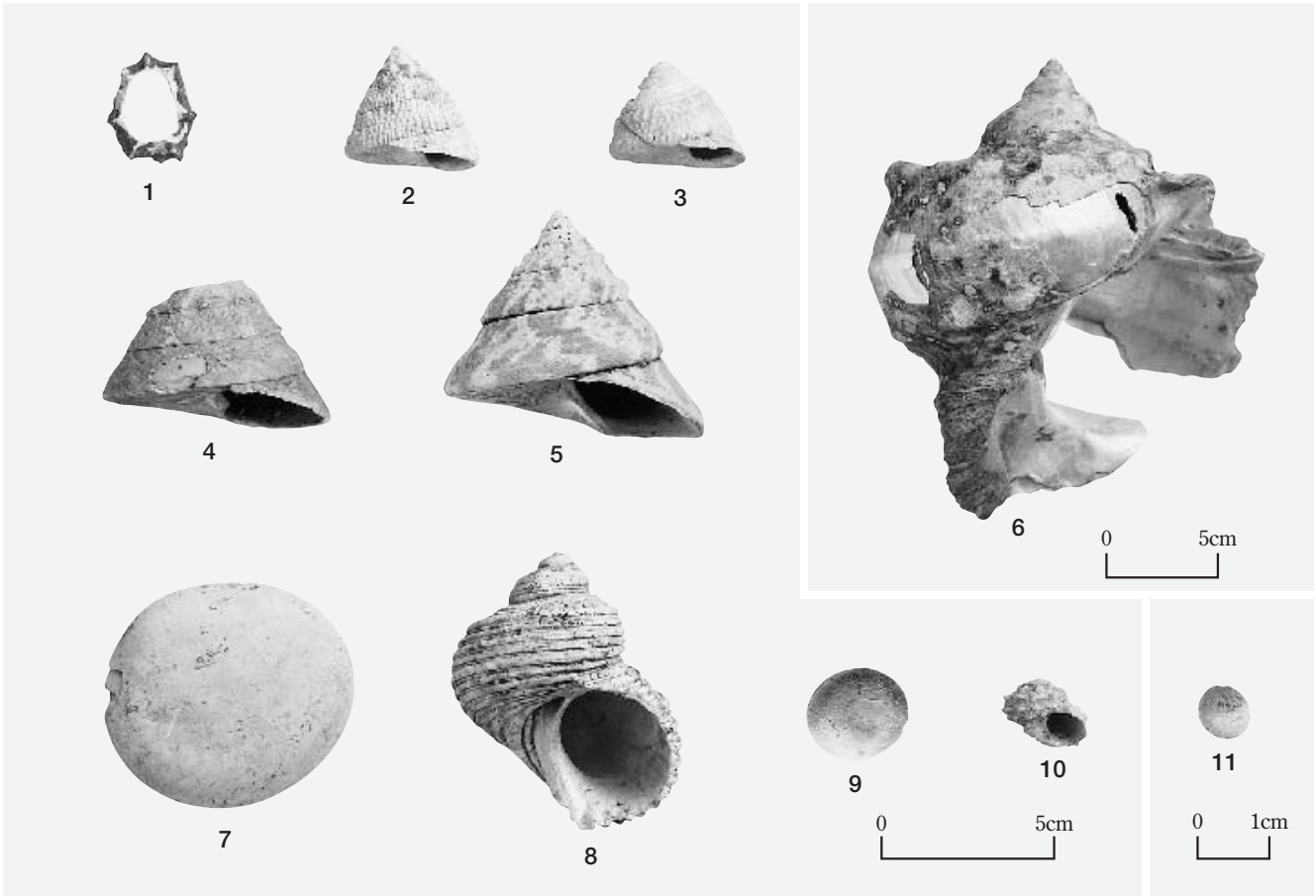
図版51　石製品（１）

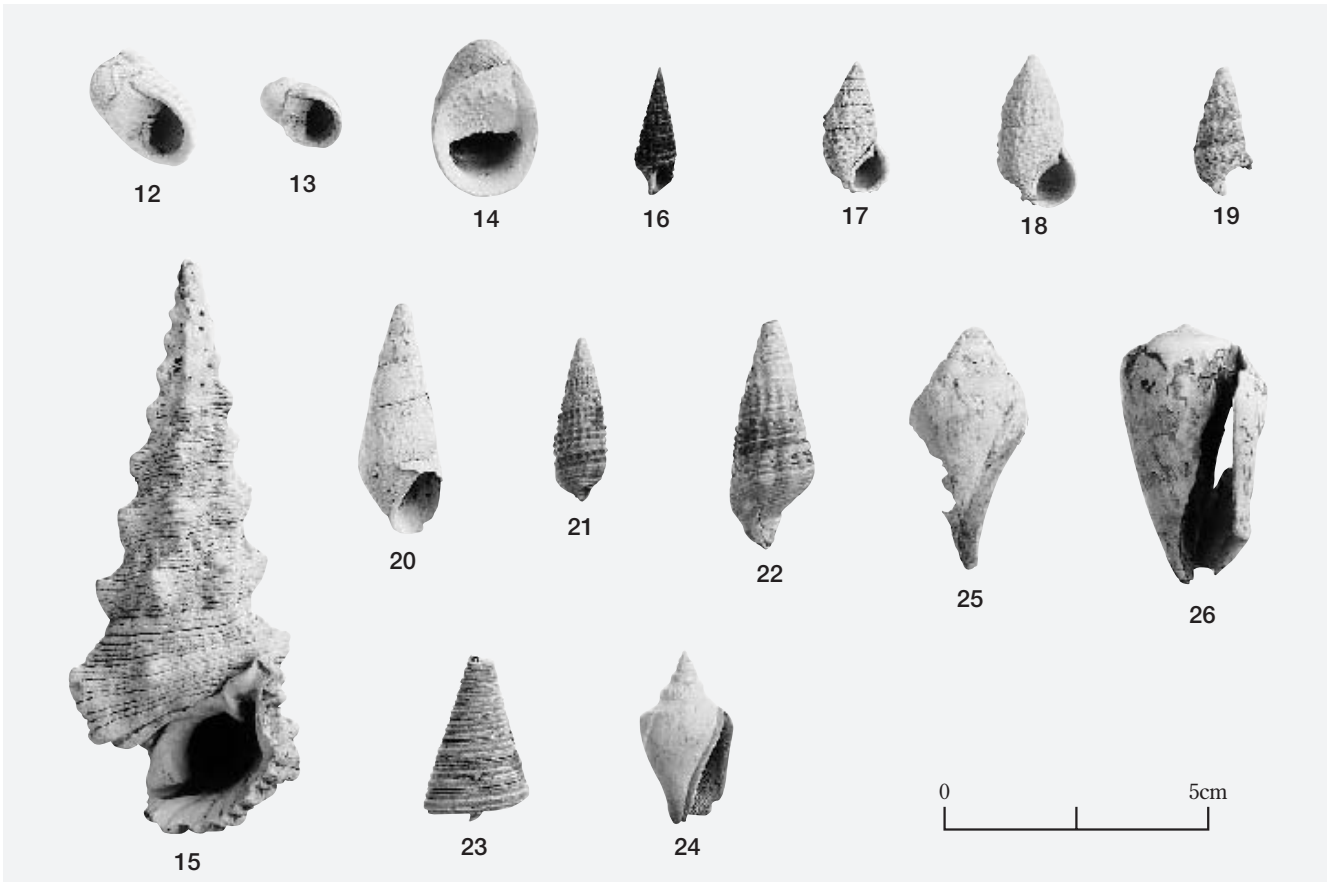


図版52　石製品（２）

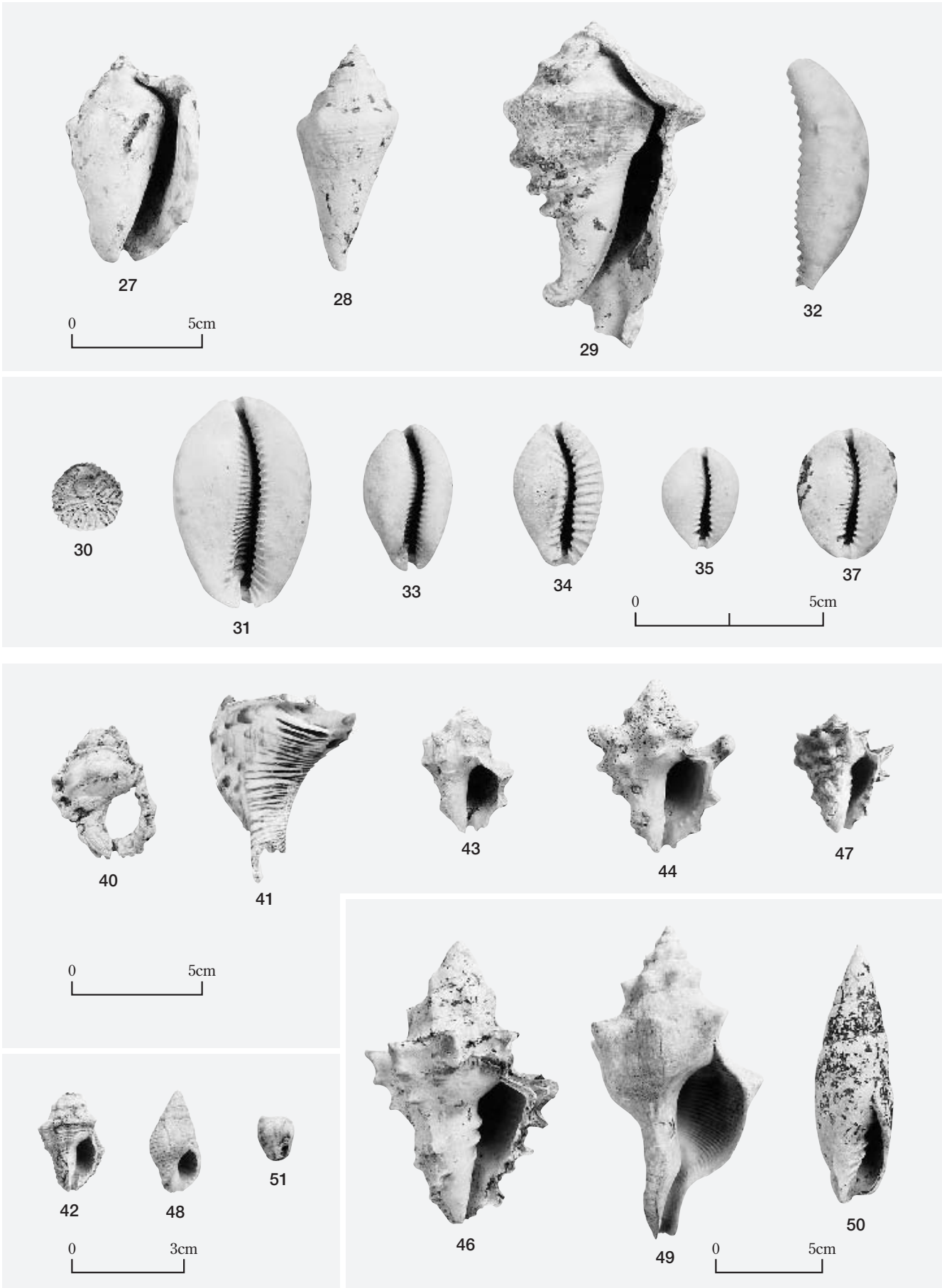


図版53　円盤状製品

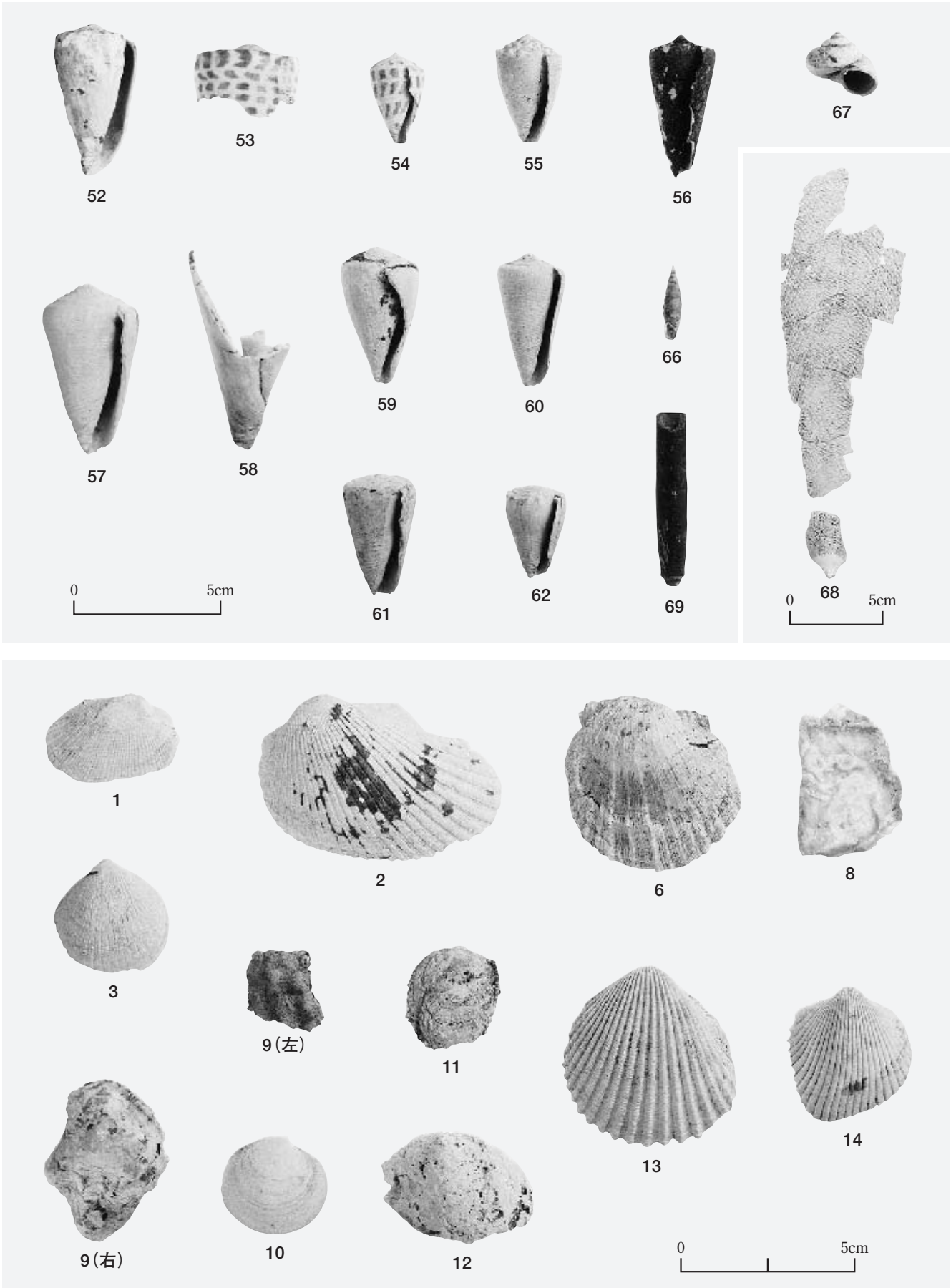




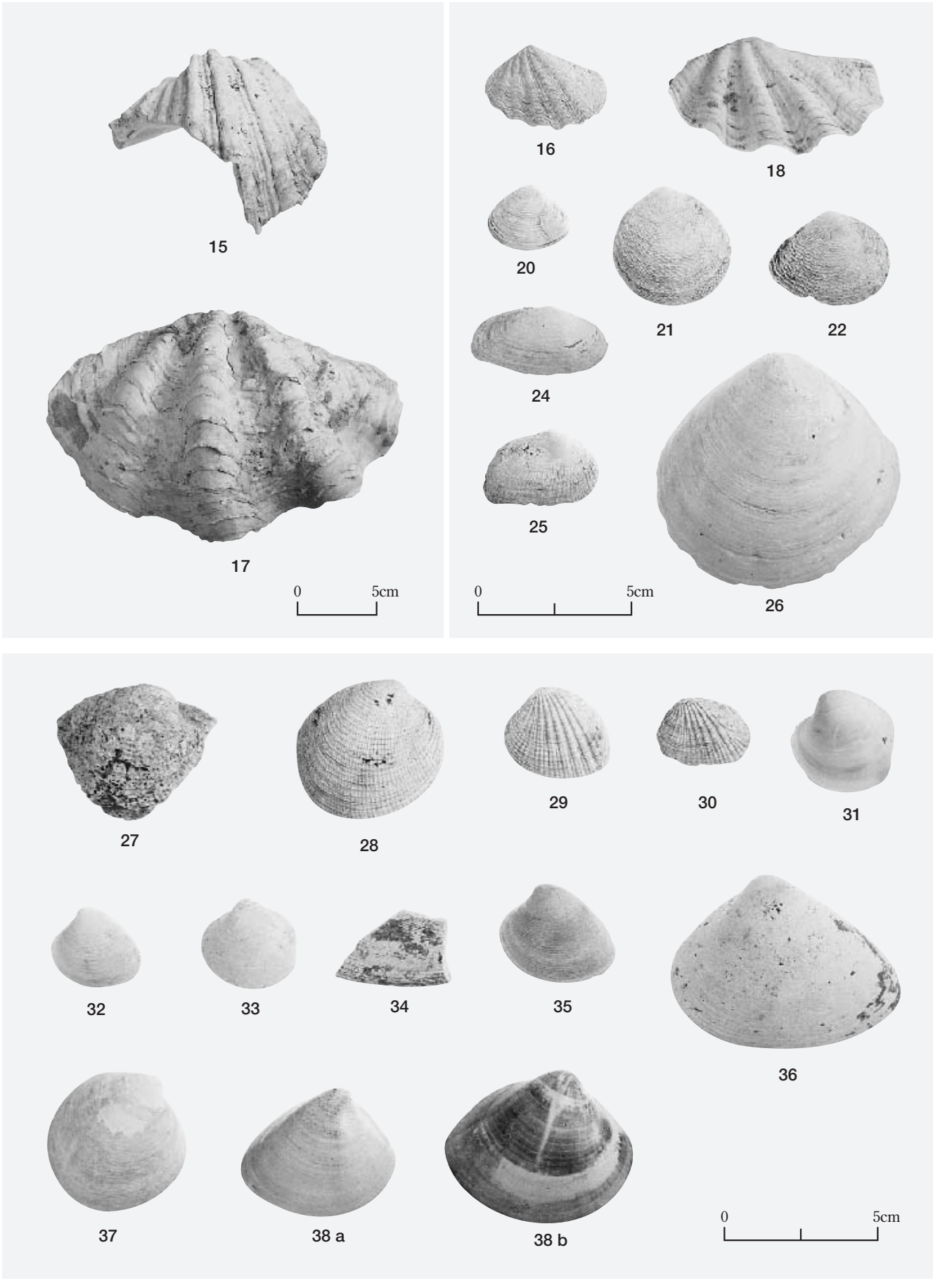
図版54　貝（１）巻貝（番号は表と一致）



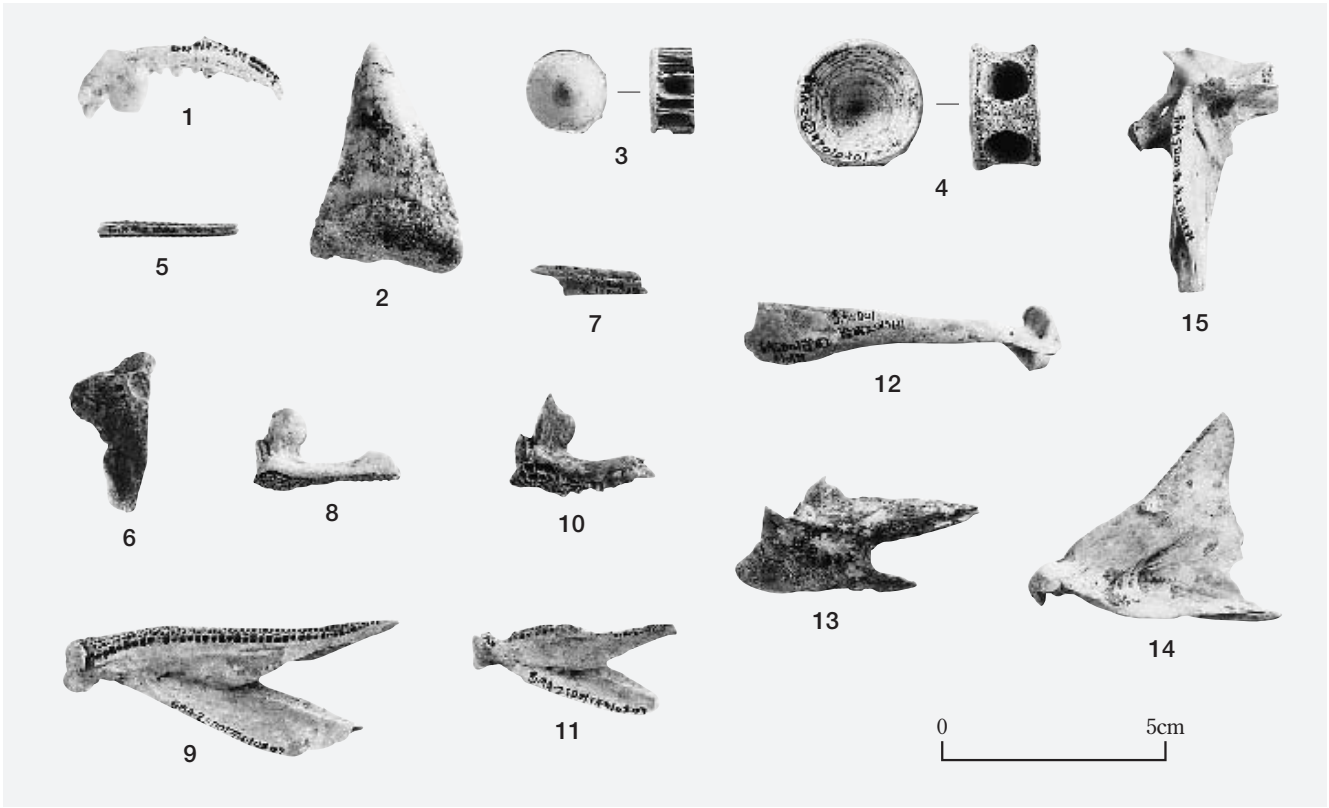
図版55　貝（２）巻貝（番号は表と一致）

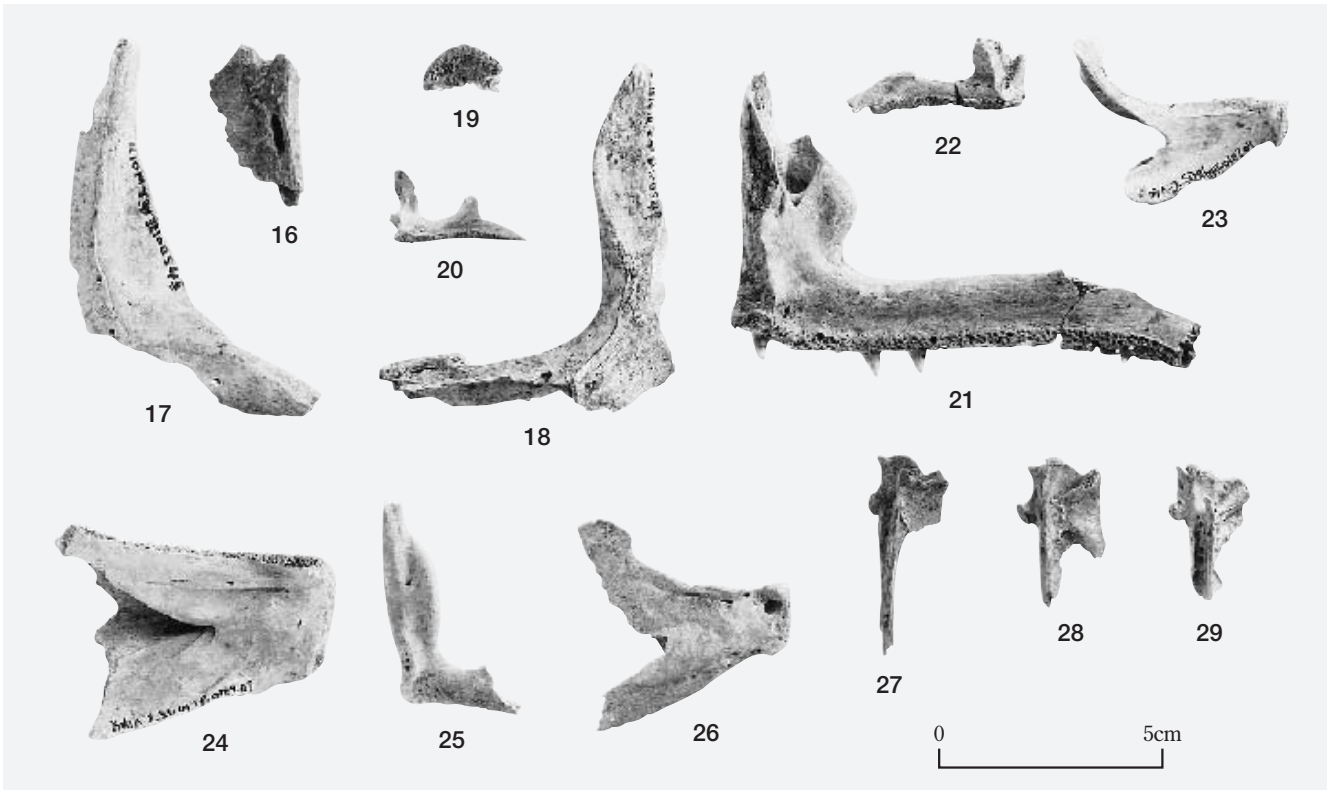


図版56　貝（3）上：巻貝　下：二枚貝（番号は表と一致）



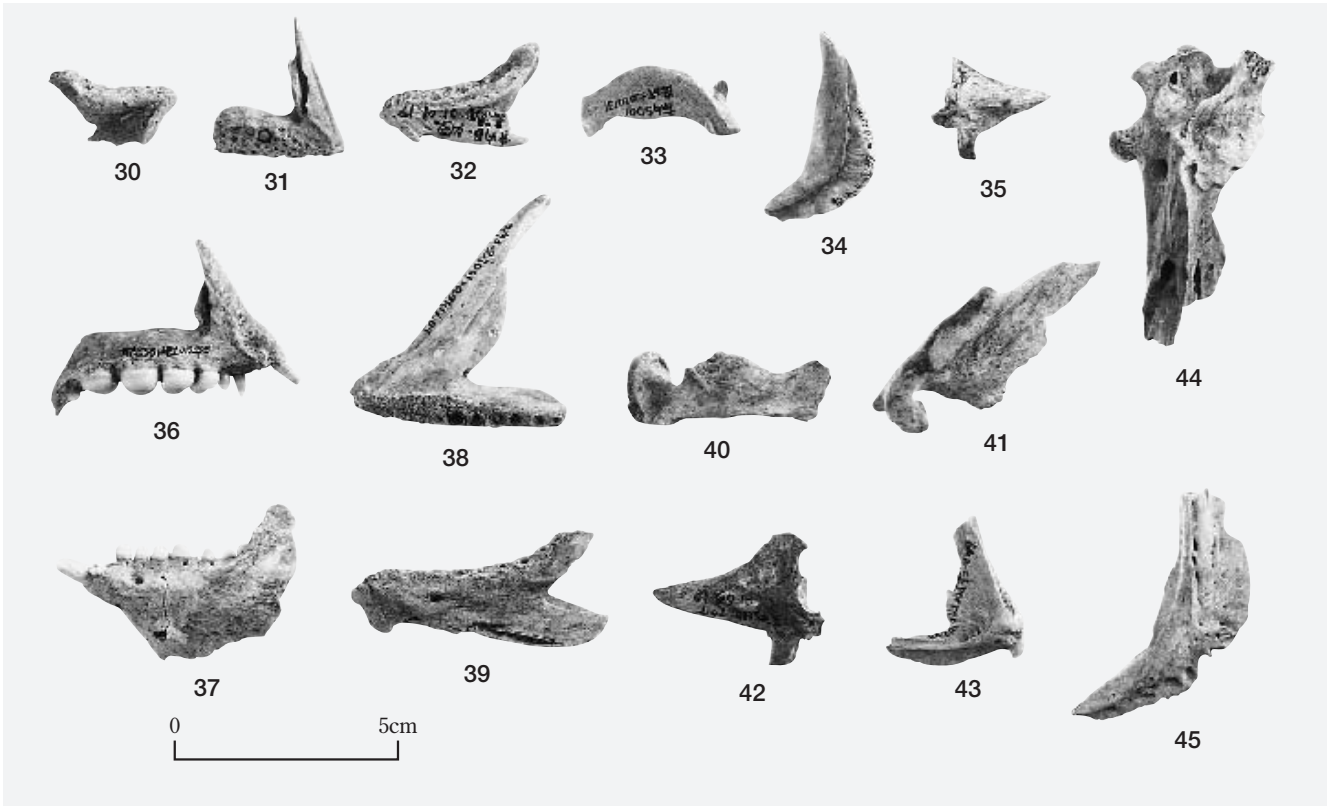
図版57　貝（４）二枚貝（番号は表と一致）

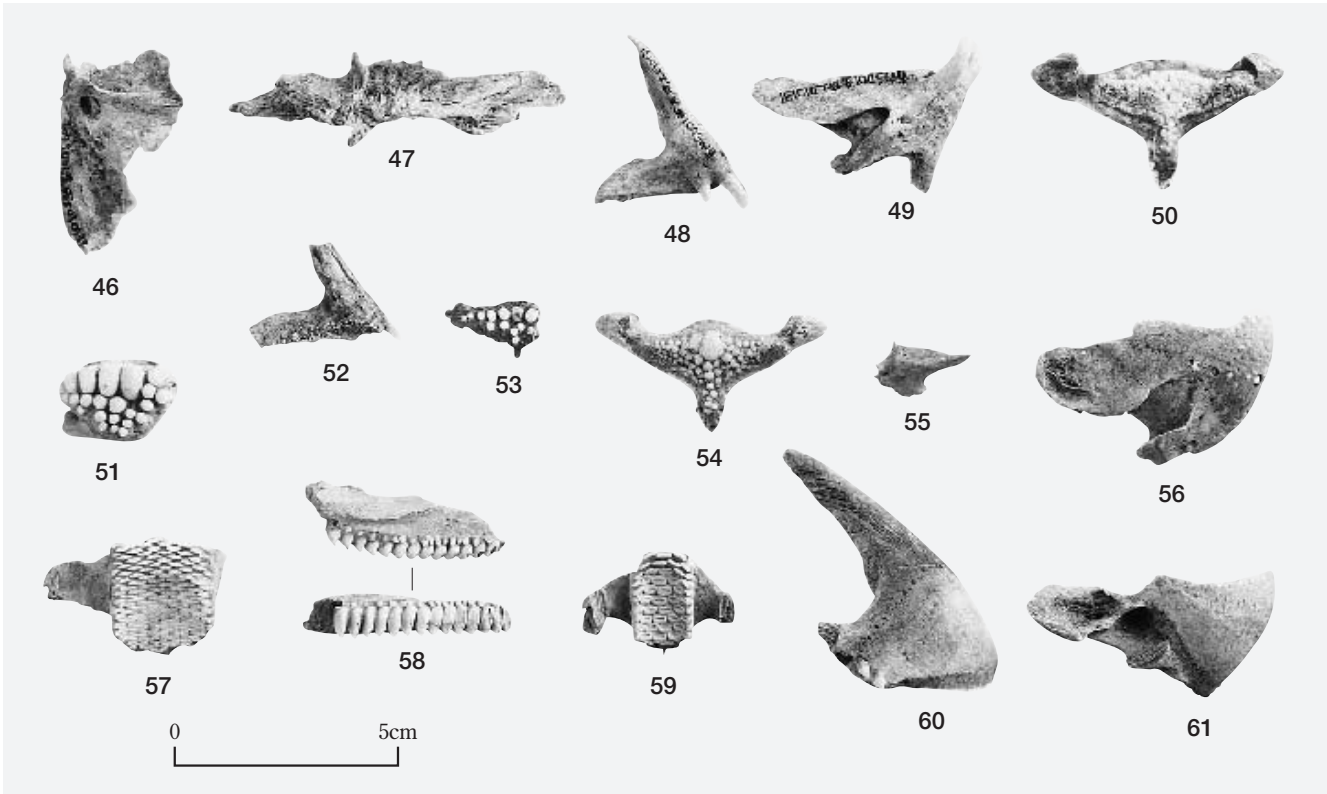




図版58　骨（1）

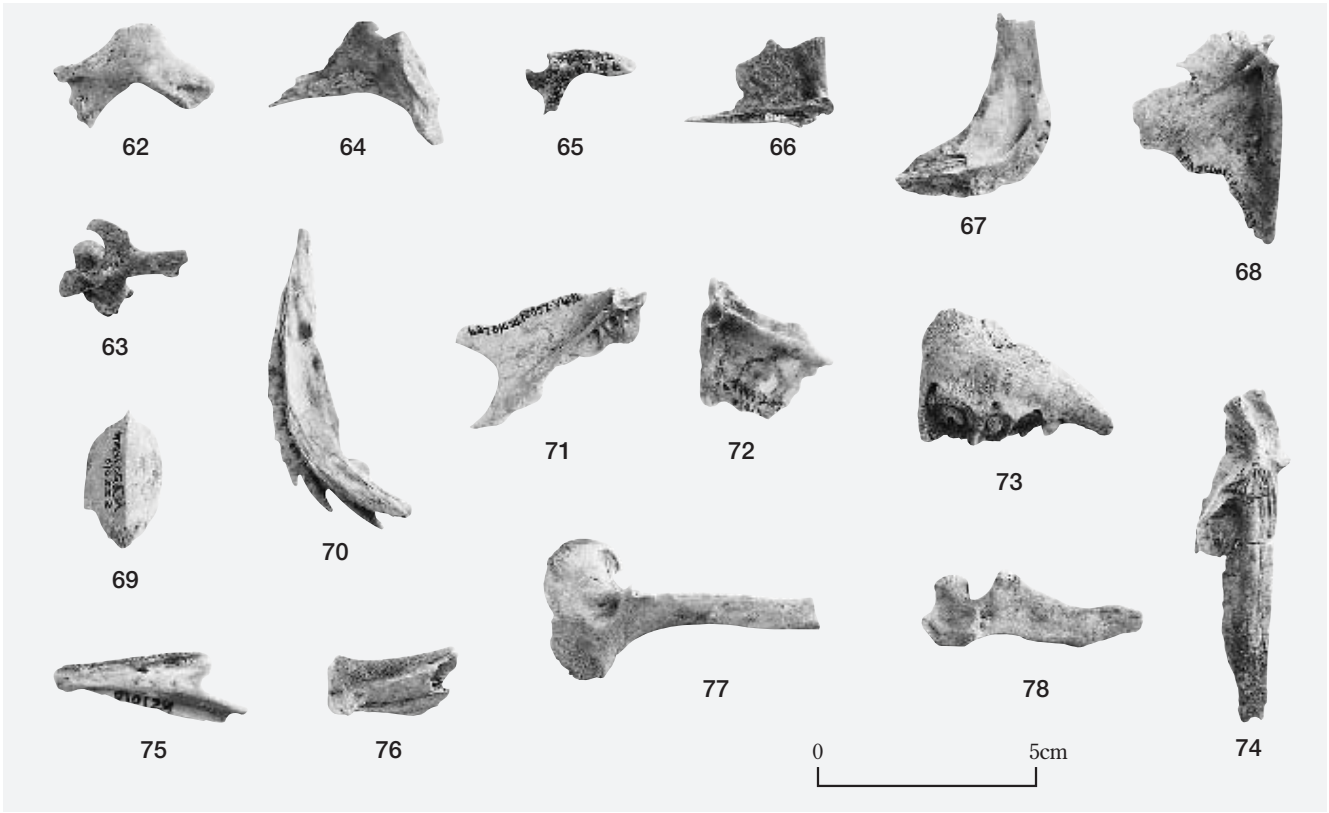
サカナ　上：ノコギリガサミ 1.右 可動指　**ホホジロサメ** 2.歯　**ネズミザメ** 3.脊椎骨　**メジロザメ** 4.脊椎骨
アカエイ科 5.尾　**ボラ類** 6.左 主鰓蓋骨　**ダツ** 7.左 歯骨　**ハタ科A** 8.右 前上顎骨 9.右 歯骨
ハタ科B 10.右 前上顎骨 11.右 歯骨　**ハタ科** 12.右 主上顎骨 13.右 角骨 14.左 方骨 15.右 舌顎
下：**ハタ科A** 16.右 前鰓蓋骨　**ハタ科B** 17.右 前鰓蓋骨　**ハタ科** 18.左 擬鎖骨 19.鋤骨
ブリ類 20.右 前上顎骨　**フエダイ科A** 21.右 前上顎骨 22.左 前上顎骨 23.左 歯骨
フエダイ科B 24.左 歯骨　**フエダイ科C** 25.右 前上顎骨 26.右 歯骨　**フエダイ類A** 27.右 舌顎
フエダイ類B 28.右 舌顎　**フエダイ類C** 29.右 舌顎

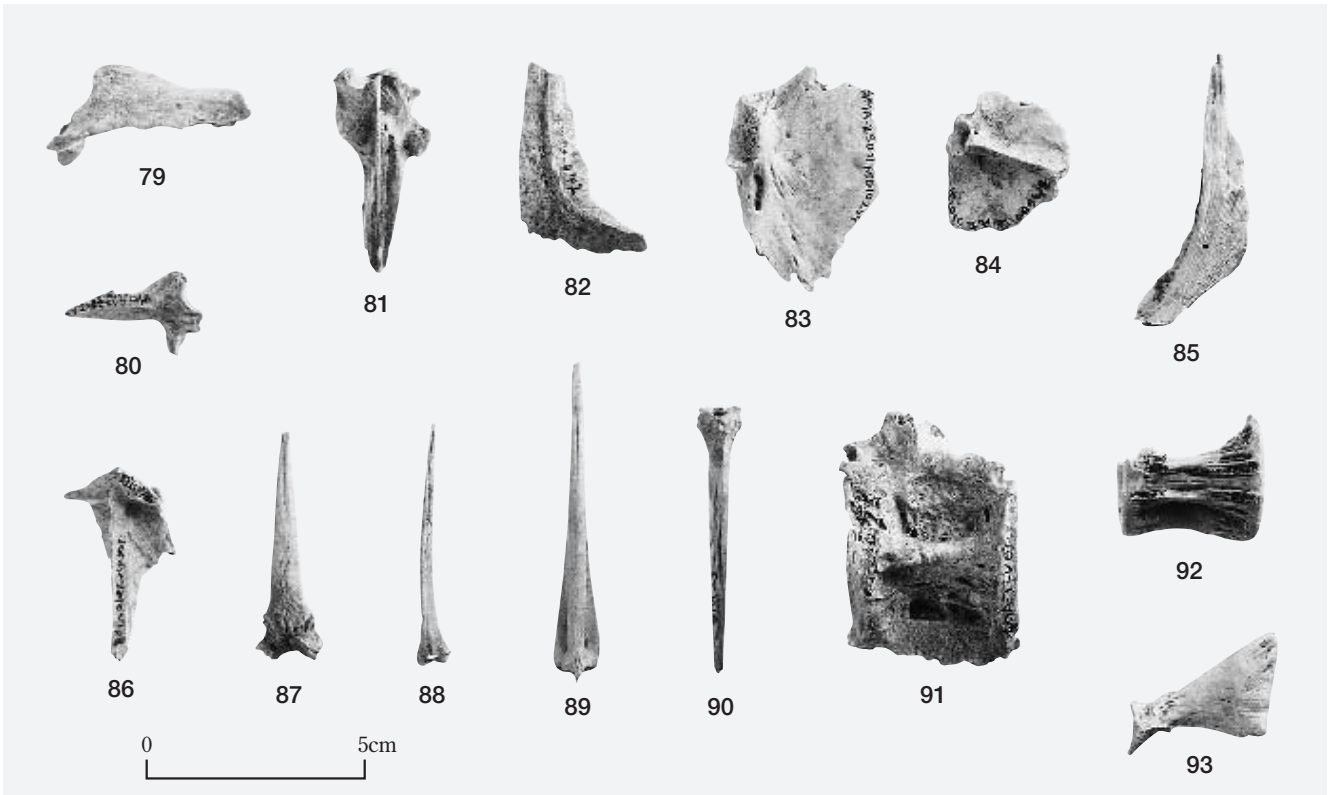




図版59　骨（2）

サカナ　**上**：**ヘダイ** 30.左 歯骨　**クロダイ** 31.左 前上顎骨 32.右 歯骨 33.右 主上顎骨　**タイワンダイ** 34.左 前鰓蓋骨
タイ類 35.右 角骨　**ヨロシマクロダイ** 36.左 前上顎骨 37.左 歯骨　**ハマフエフキ** 38.右 前上顎骨
39.右 歯骨 40.左 主上顎骨 41.左 口蓋 42.左 角骨 43.左 方骨 44.右 舌顎 45.左 前鰓蓋骨
下：**ハマフエフキ** 46.右 主鰓蓋骨 47.副楔骨　**コブダイ** 48.右 前上顎骨 49.右 歯骨 50.下咽頭骨
タキベラ 51.右 上咽頭骨　**カンムリベラ** 52.左 前上顎骨　**ベラ科A** 53.下咽頭骨　**ベラ科B** 54.下咽頭骨
ベラ類 55.右 角骨　**イロブダイ** 56.右 歯骨 57.下咽頭骨　**ナンヨウブダイ** 58.左 上咽頭骨
ナガブダイ 59.下咽頭骨　**ブダイ科** 60.右 前上顎骨 61.右 歯骨

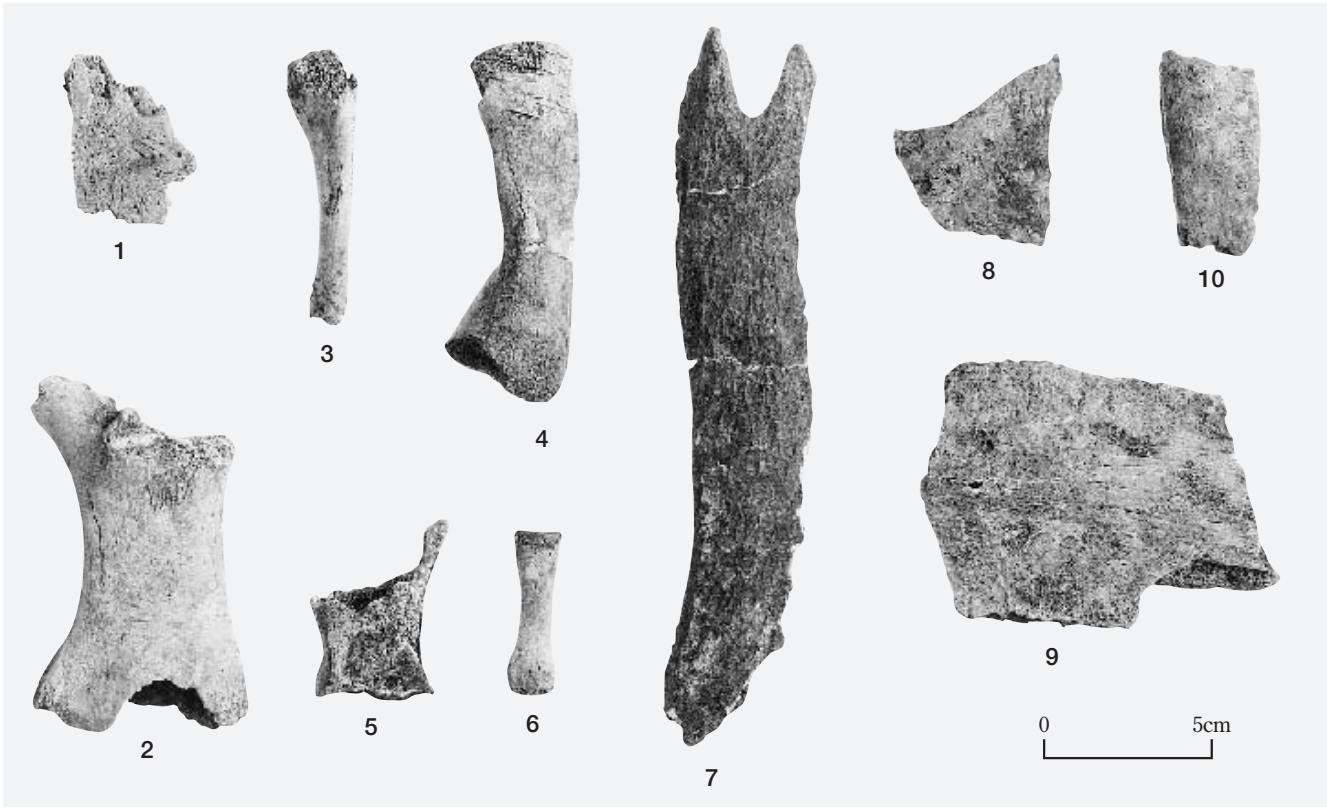


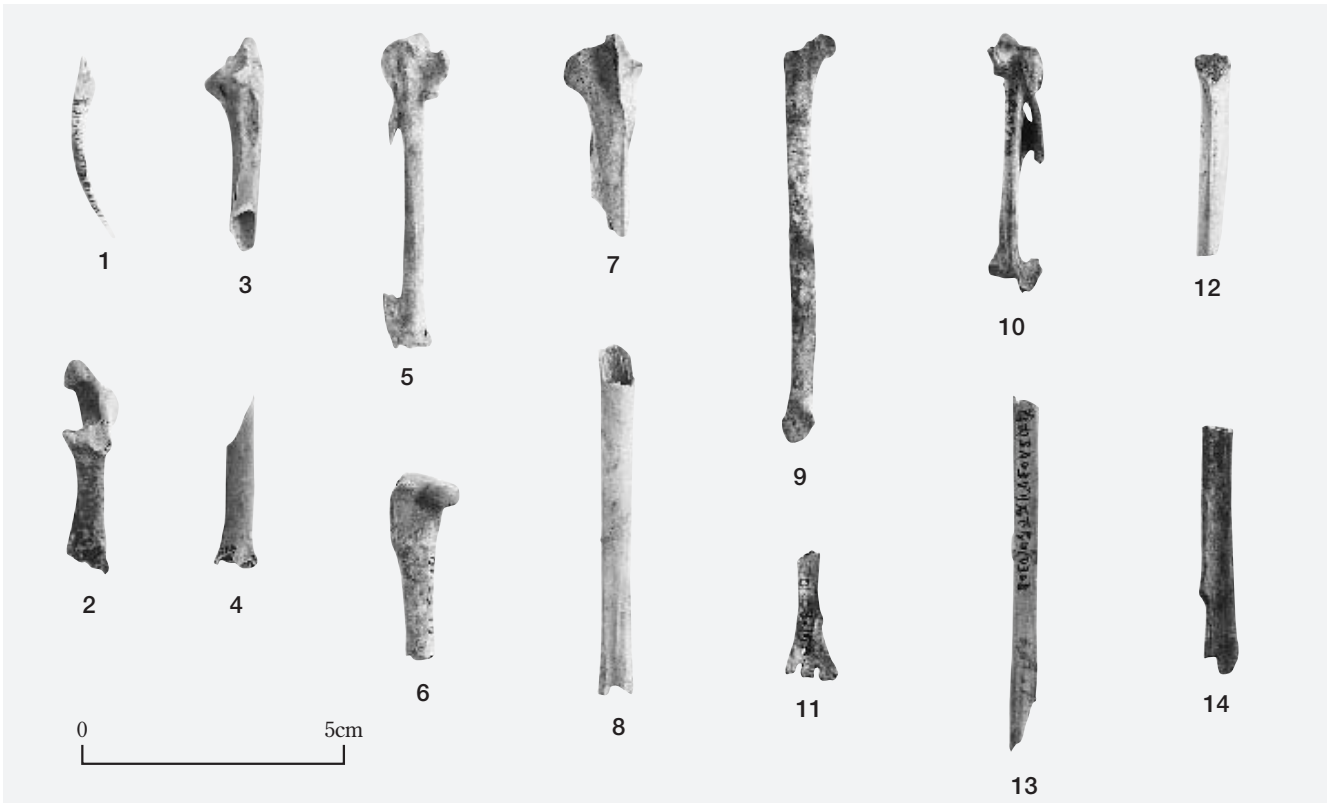


図版60　骨（3）

サカナ　**上**：**ブダイ科**A 62.左 主上顎骨　**ブダイ科**B 63.左 主上顎骨　**ブダイ科の一種** 64.右 口蓋 65.右 角骨 66.右 方骨 67.左 前鰓蓋骨 68.左 主鰓蓋骨　**ニダザイ科** 69.尾部鱗　**スズキ目** 70.右 前鰓蓋骨 **スズキ目**A 71.左 主鰓蓋骨　**スズキ目**B 72.右 主鰓蓋骨　**モンガラカワハギ科** 73.左 前上顎骨 74.左 舌顎　**種不明** 75.左 歯骨A 76.左 歯骨B 77.左 主上顎骨A 78.左 主上顎骨B

下：**種不明** 79.左 主上顎骨C 80.左 角骨 81.左 舌顎 82.右 前鰓蓋骨 83.右 主鰓蓋骨 84.右 主鰓蓋骨 85.左 擬鎖骨 86.鋤骨 87.88.背鰭棘 89.臀鰭血管間棘 90.第2臀鰭棘 91.92.脊椎骨 93.尾椎



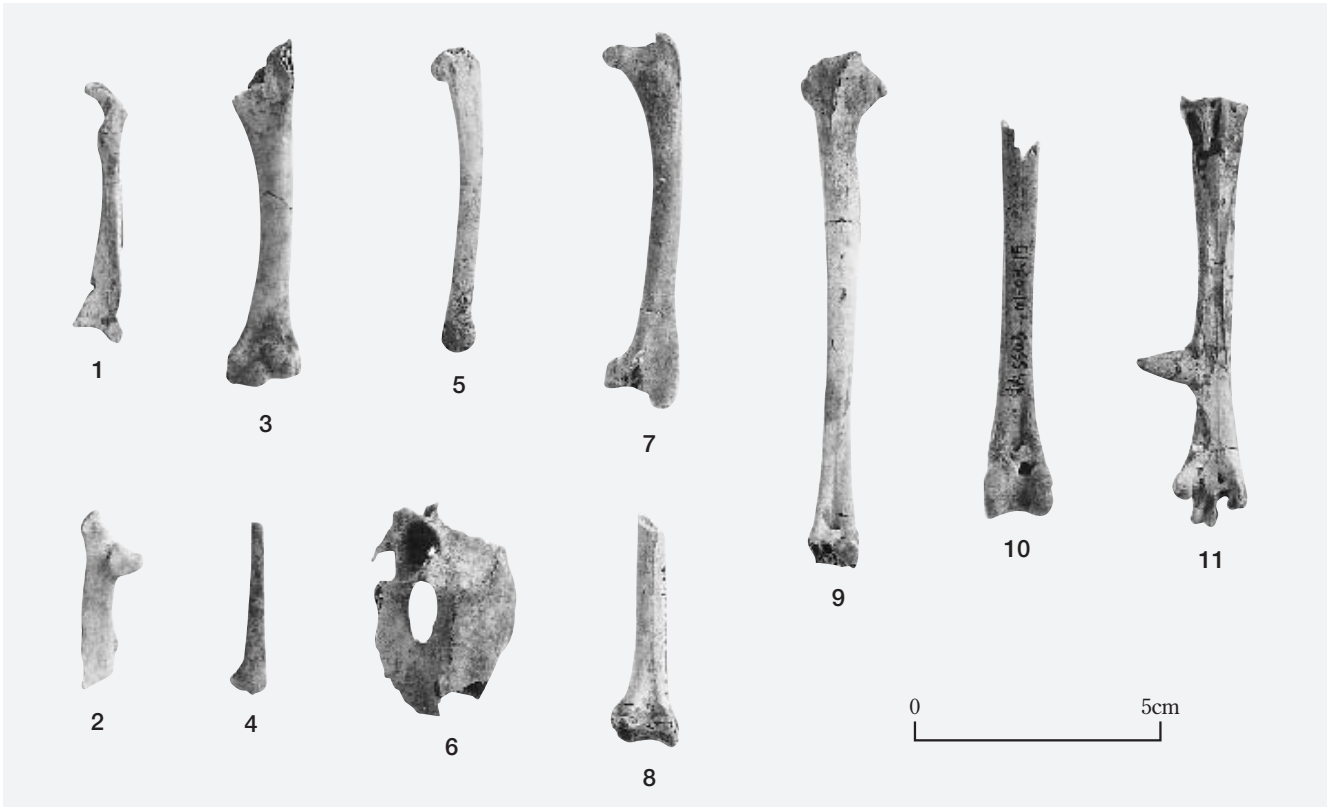


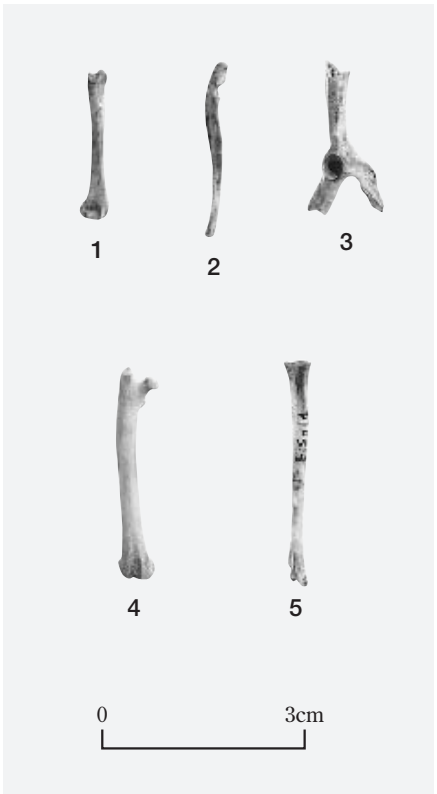
図版61　骨（4）

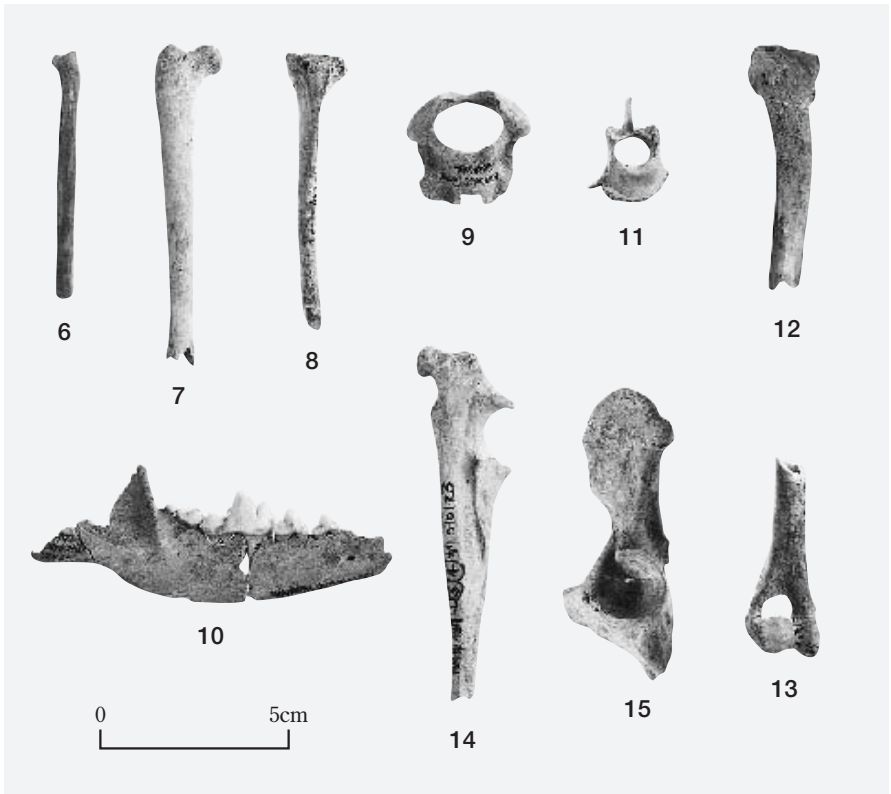
上：ウミガメ　1.右 頭頂骨　2.右 上腕骨　3.橈骨　4.左 尺骨 キズあり　5.左 大腿骨　6.指骨
7.剣状突起　8.腹甲板　9.助骨板　10.縁骨板

下：ハブ　1.歯　　**カモ類**　2.右 烏口骨　3.4.右 尺骨　5.左 中手骨　6.右 大腿骨　7.右 脛骨　8.左 脛骨

カラス　9.右 尺骨　10.右 中手骨　11.左 中足骨　　**トリ**　12.左 脛骨　13.右 脛骨　14.右 中足骨







図版62　骨（5）

上：ニワトリ　1.右 烏口骨　2.左 肩甲骨　3.左 上腕骨　4.右 橈骨　5.左 尺骨　6.左 寛骨　7.左 大腿骨
8.左 大腿骨 キズあり　9.左 脛骨　10.右 脛骨　11.右 中足骨♂

下：ネズミ　1.右 上腕骨　2.右 尺骨　3.右 寛骨　4.右 大腿骨　5.左 脛骨

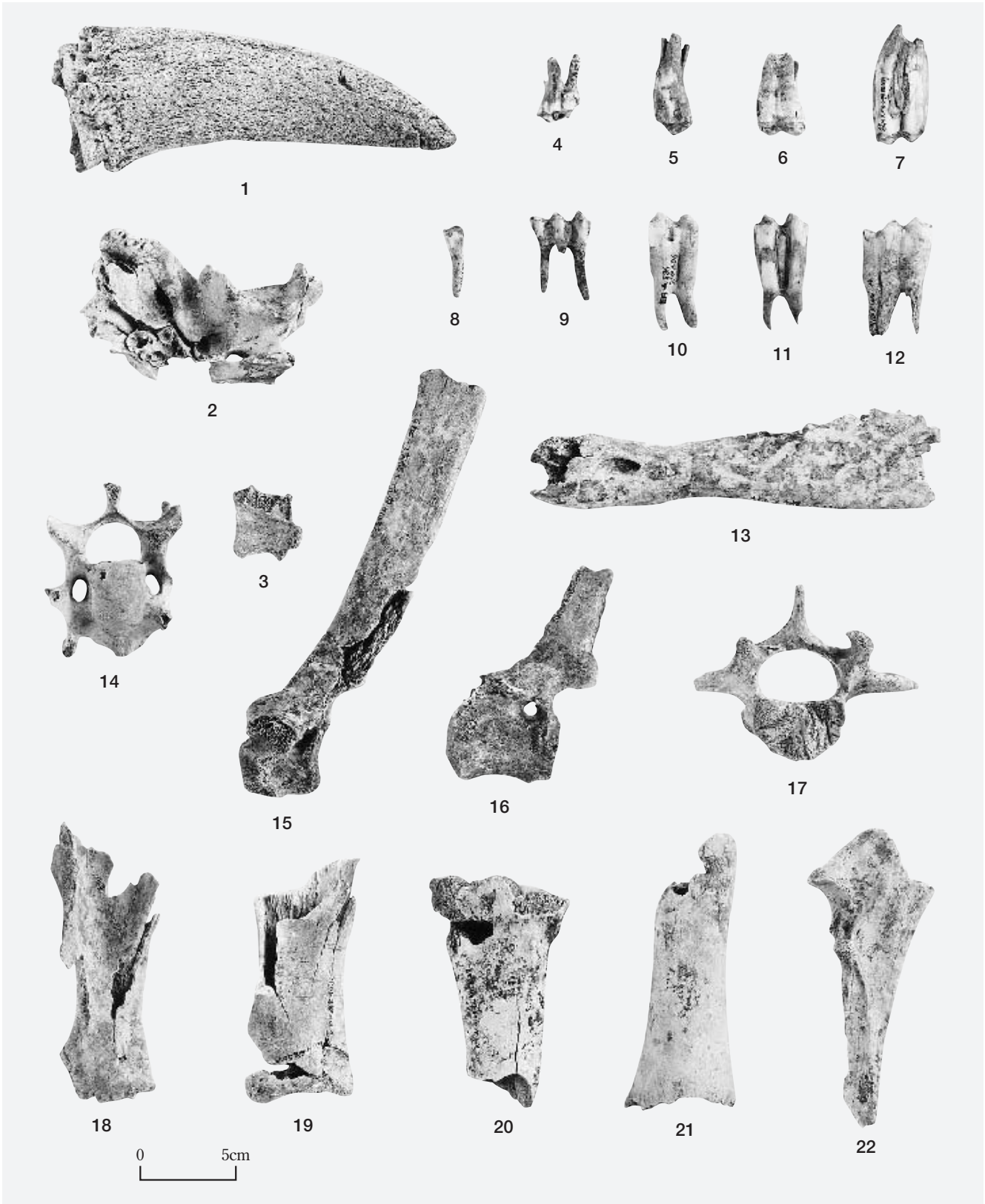
ネコ　6.左 橈骨　7.右 大腿骨　8.左 脛骨

イヌ　9.左右 後頭顆　10.右 下顎骨 $P_{3,4}M_{1,2,3}$　11.腰椎　12.13.右 上腕骨　14.右 尺骨　15.右 寛骨

図版63　骨（6）

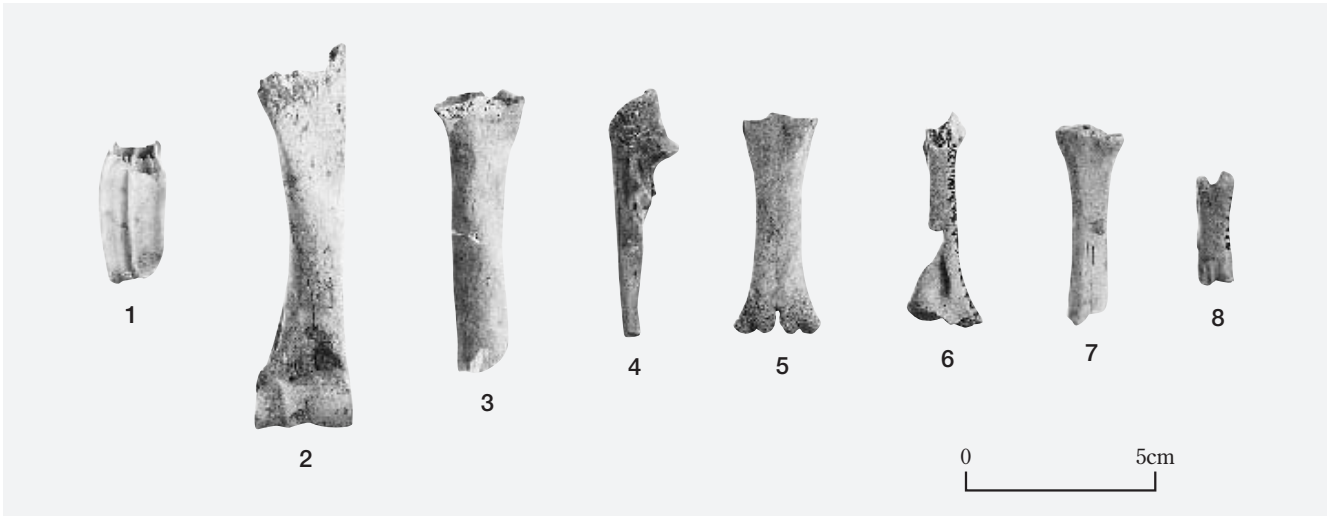
ジュゴン　1.腰椎　2.右 助骨　3.肩甲骨

ウマ　4.右 上顎骨 歯　5.左 下顎骨　6.腰椎 キズあり　7.仙骨　8.左 上腕骨　9.右 橈骨・尺骨　10.左 橈骨
11.右 寛骨 キズあり　12.左 大腿骨 キズあり　13.左 膝蓋骨　14.基節骨



図版64　骨（7）

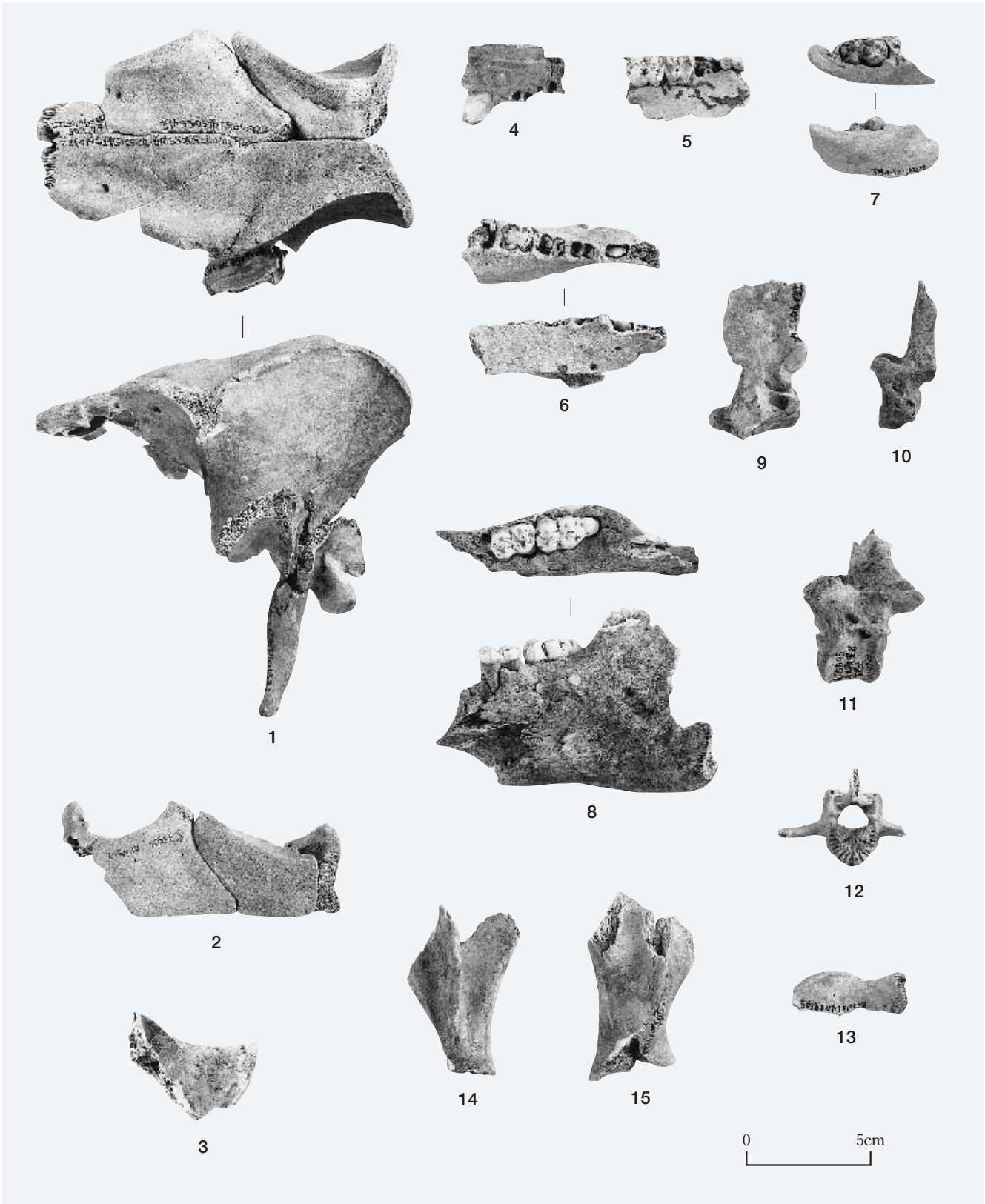
ウシ　1.右 角　2.右 側頭骨　3.左 側頭骨　4.右 上顎骨 dm^4　5.右 上顎骨 P^3　6.右 上顎骨 M^1　7.右 上顎骨 M^3　8.左 下顎骨 切歯骨　9.左 下顎骨 dm_4　10.左 下顎骨 M_1　11.左 下顎骨 M_2　12.右 下顎骨 M_3　13.左 下顎骨　14.頸椎　15.16.胸椎　17.腰椎　18.19.肩甲骨 キズあり　20.21.右 橈骨 キズあり　22.左 尺骨



図版65　骨（8）

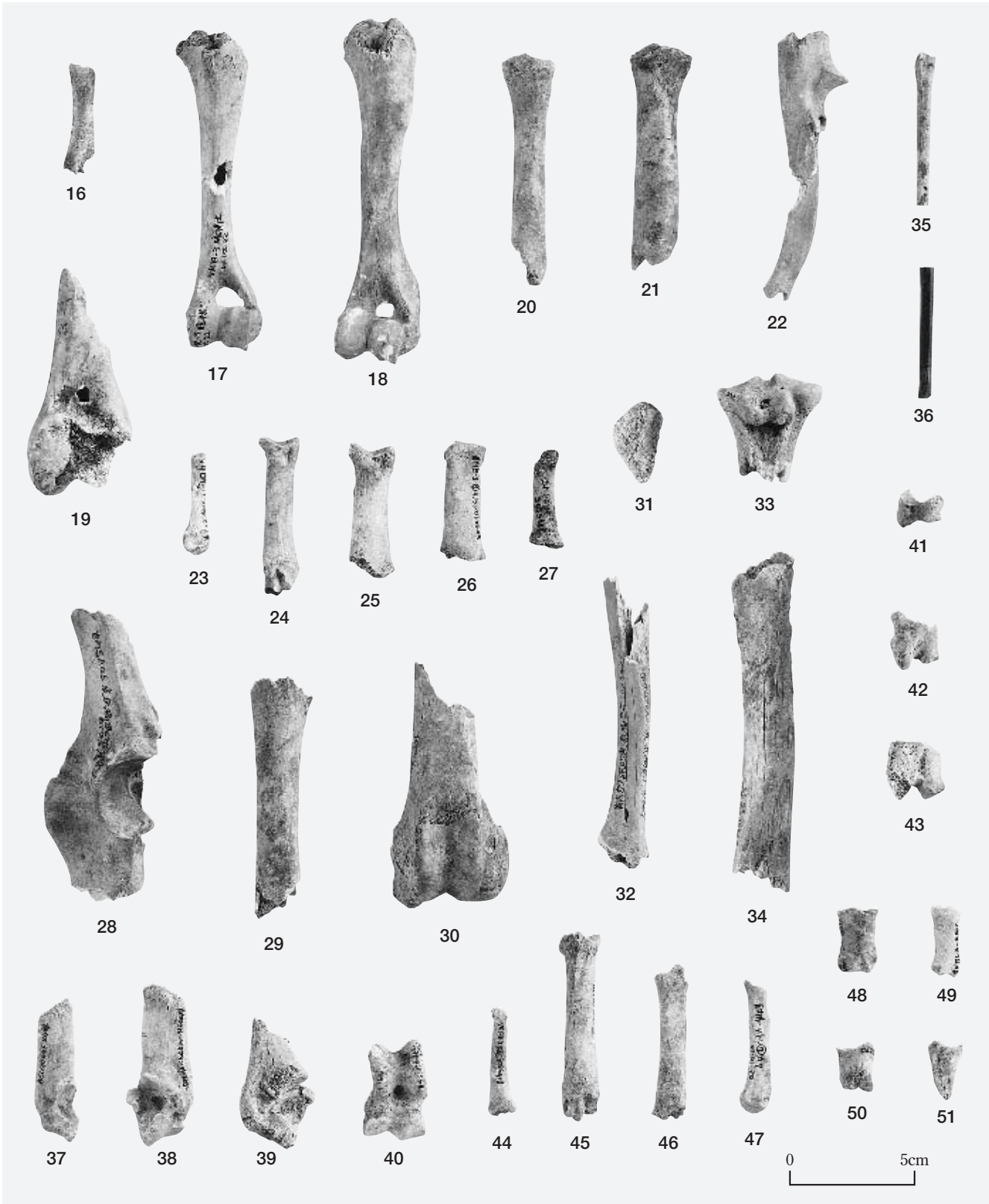
上：ウシ　23.右 橈側手根骨　24.右 中間手根骨　25.左 尺側手根骨　26.右 中手骨　27.左 寛骨
28.右 大腿骨 キズあり　29.左 脛骨　30.右 脛骨　31.右 果骨　32.右 踵骨　33.左 距骨 キズあり
34.右 第4足根骨　35.右 中足骨　36.左 基節骨　37.右 基節骨　38.左 中節骨　39.右 中節骨
40.右 末節骨

下：ヤギ　1.左 上顎骨 M^3　2.右 上腕骨　3.左 橈骨　4.右 尺骨　5.左 中手骨　6.右 寛骨　7.右 中足骨
8.左 基節骨



図版66　骨（9）

ブタ　1.左右 頭頂骨～前頭骨　2.右 頭頂骨～前頭骨　3.右 頬骨　4.右 上顎骨 犬歯 ♀
5.右 上顎骨 $dm^{2,4}$ $P^{(3)}$ M^{1}　6.右 下顎骨 $P_{(2)}$　7.左 下顎骨 M_{2}　8.左 下顎骨 $M_{2,3}$　9.軸椎　10.11.胸椎
12.腰椎　13.仙骨　14.左 肩甲骨　15.右 肩甲骨



図版67　骨（10）

ブタ　16.右 上腕骨(幼)　17.～19.左 上腕骨　20.右 橈骨　21.左 橈骨　22.右 尺骨　23.左 中手骨Ⅱ
24.25.右 中手骨Ⅲ　26.左 中手骨Ⅳ　27.左 中手骨Ⅴ　28.右 寛骨　29.左 大腿骨　30.左 大腿骨
31.左 膝蓋骨　32.右 脛骨　33.34.左 脛骨　35.右 腓骨　36.腓骨　37.39.左 踵骨　38.右 踵骨 キズあり
40.左 距骨 キズあり　41.左 中心足根骨　42.43.右 第4足根骨　44.右 中足骨Ⅱ　45.右 中足骨Ⅲ
46.右 中足骨Ⅳ　47.右 中足骨Ⅴ　48.49.右 基節骨　50.左 中節骨　51.右 末節骨

報 告 書 抄 録

ふりがな	しゅりじょうあと
書　　名	首里城跡
副 書 名	御内原地区発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第34集
編 著 者 名	山本正昭、岸本竹美、長濱健起、伊藤圭、山田浩久、宮平真由美、喜多亮輔
編 集 機 関	沖縄県立埋蔵文化財センター
所 在 地	〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原193－７　TEL 098－835－8751
発行年月日	平成18（2006）年３月27日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調 査 原 因
所収遺跡名	所 在 地	市町村	遺跡番号	° ′ ″	° ′ ″			
首里城跡	おきなわけんなはし 沖縄県那覇市 しゅりとうのくらちょう 首里当蔵町 ３丁目１番	472018		26° 12′	127° 43′	2000.8～ 2001.3	600m²	国営首里城公園整備

所収遺跡名	種　別	主 な 時 代	主な遺構	主 な 遺 物	特 記 事 項
首里城跡	城跡	グスク時代 ～ 近代	石積み 集石 階段跡	青磁 白磁 染付 褐釉陶器 半練土器 黒釉陶器 その他の輸入陶磁器 本土産陶磁器 沖縄産施釉陶器 沖縄産無釉陶器 土器 土製品 瓦 塼 金属製品 銭貨 貝製品 骨製品 玉製品 煙管 石製品 円盤状製品 木製品 貝類遺存体 動物遺存体	

沖縄県立埋蔵文化財センター調査報告書　第34集

首　里　城　跡

－御内原地区発掘調査報告書－

発　行　年　　平成18（2006）年３月27日
編集・発行　　沖縄県立埋蔵文化財センター
〒901-0125　沖縄県中頭郡西原町字上原193番地の７
TEL 098(835)8751
印　　刷　　株式会社　近　代　美　術
〒901-1111　沖縄県島尻郡南風原町字兼城206
TEL 098(889)4113

©沖縄県立埋蔵文化財センター　2006　Printed in Japan
許可なく本書の無断複製、転載、複写を禁ずる。